

茨城県教育財団文化財調査報告第222集

辰海道遺跡 1

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

（第3分冊）

平成16年3月

日本道路公団
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第222集

たつ かい どう
辰海道遺跡 1

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

（第3分冊）

平成16年3月

日本道路公団
財団法人 茨城県教育財団

目 次

— 第3分冊 —

(2) 鍛冶工房跡	967
(3) 方形竪穴遺構	973
(4) 掘立柱建物跡	978
(5) 土坑	1025
(6) 井戸跡	1036
(7) 溝跡	1052
4 中・近世の遺構と遺物	1066
(1) 地下式壙	1066
(2) 方形竪穴遺構	1067
(3) 土坑	1069
(4) 井戸跡	1070
(5) 溝跡	1074
(6) 道路跡	1086
5 その他の遺構と遺物	1088
(1) 竪穴住居跡	1088
(2) 方形竪穴遺構	1099
(3) 掘立柱建物跡	1101
(4) 柵跡	1102
(5) 土坑	1108
(6) 井戸跡	1207
(7) 溝跡	1219
(8) 道路跡	1220
(9) ピット群	1224
(10) 不明遺構	1253
(11) 遺構外出土遺物	1258
遺構一覧表	
第4節 まとめ	1326
付 章	

(2) 鍛冶工房跡

当遺跡からは調査区北部の南東部で、1棟の鍛冶工房跡が検出されている。

第1号鍛冶工房跡（第88号住居跡）（第728～731図）

位置 調査区北部南東のH14g1区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 東部を南北に走る第10号溝、北壁際で第463・650号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 耕作等による攪乱を受けているが、東西軸は4.4m、南北軸は3.8mが確認され、N-5°-Wを主軸とする方形または長方形と推定される。確認できた南壁での壁高は10～15cmであり、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、壁際を除いて中央部がよく踏み固められている。壁溝は認められない。

ピット 10か所。堅穴部には、明らかに主柱穴と考えられるものはない。P1～P5は深さが14～36cmで、P10の北側から南側にかけて囲むように位置しており、P10に関連するピットと考えられる。また、P6～P9は深さが14～52cmで、性格は不明である。P10は中央部やや南寄りに位置しており、平面形は径72cmほどの円形に近い。断面形は円筒形状で、深さは50cmほどである。調査の段階では「炉跡」として扱っていたが、炉跡に相当するような被熱面が確認されていない。土層断面の観察では、上層には鉄滓類や炉壁片などを多量に含み、羽口片も検出されている。特に、破碎面をもつ鉄滓や流動滓がぎっしりと詰め込まれている。中層から下層にかけては、ロームブロックをはじめ炭化粒子や砂質粘土、焼土などを含んでおり、しまりも弱いことから人為的に埋められたものと考えられる。さらに、P10の上面には取り囲むように炉壁片（スサ入り粘土）や鉄滓類が多量に出土している。P10の北50cmほどには径30cmほどのくぼみが検出されており、やや赤変硬化している様子が見て取れるが、詳細は不明である。

P10土層解説

- 1 黒褐色（しまり強） ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色（しまり弱） 砂粒多量、炭化物・焼土粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐色（しまり強） 砂粒中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 4 黒褐色（しまり普通） 炭化粒子中量、焼土粒子・砂粒少量
- 5 黒色（しまり弱） ロームブロック・炭化粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 6 褐色（しまり弱） ロームブロック中量、炭化粒子少量

覆土 3層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

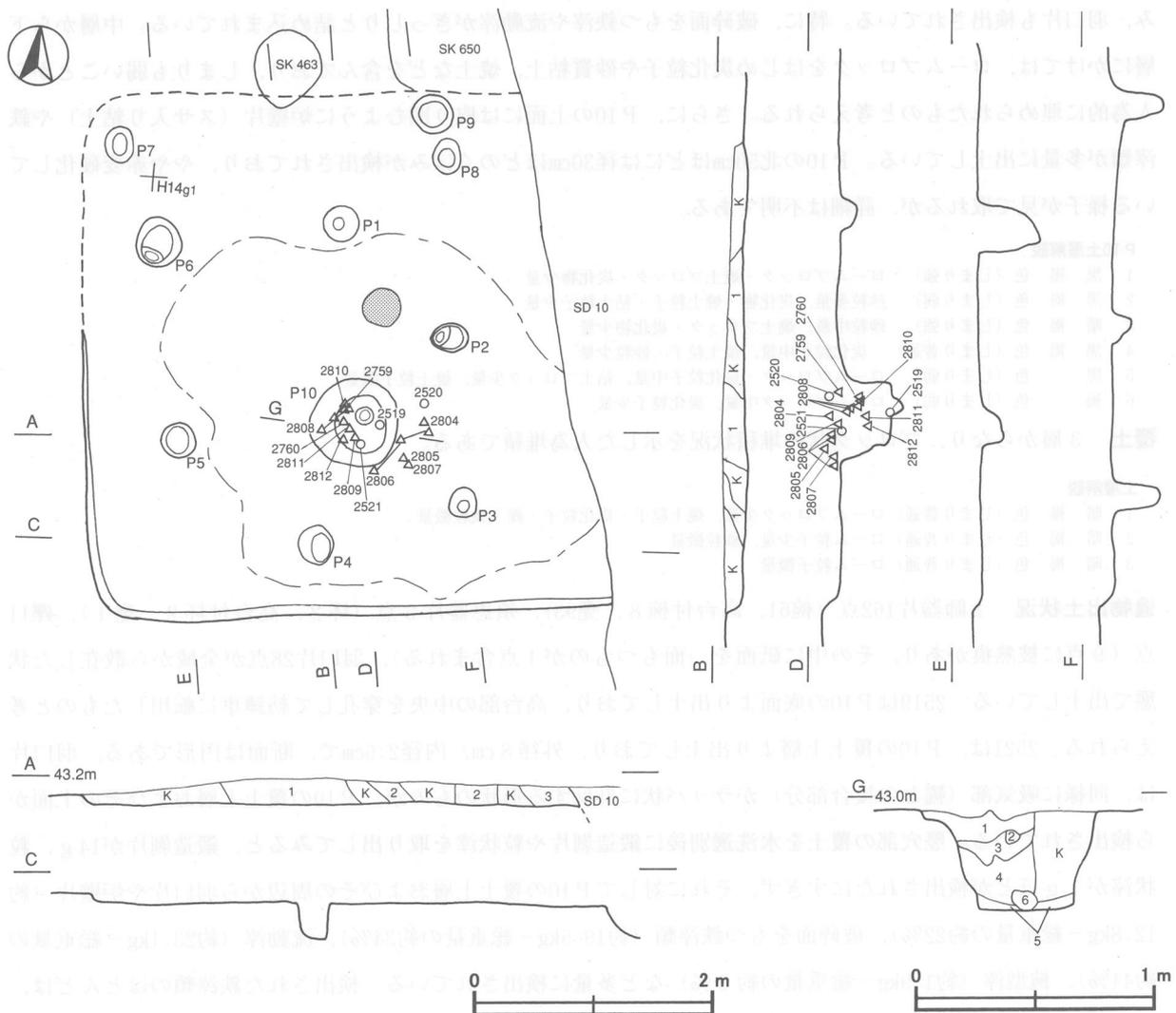
- 1 暗褐色（しまり普通） ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・礫・鉄粒微量
- 2 暗褐色（しまり普通） ローム粒子少量、鉄粒微量
- 3 暗褐色（しまり普通） ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片162点（椀61，高台付椀8，甕93），須恵器片5点（坏2，高台付坏2，甕1），礫11点（9点に被熱痕があり、その中に砥面を一面もつものが1点含まれる），羽口片28点が全域から散在した状態で出土している。2519はP10の底面より出土しており、高台部の中央を穿孔して紡錘車に転用したものと考えられる。2521は、P10の覆土上層より出土しており、外径8cm，内径2.6cmで、断面は円形である。羽口片は、同様に吸気部（轆との接合部分）がラッパ状に外反する形状のものが、P10の覆土上層およびその上面から検出されている。堅穴部の覆土を水洗選別後に鍛造剥片や粒状滓を取り出してみると、鍛造剥片が14g，粒状滓が1gほどが検出されたにすぎず、それに対してP10の覆土上層およびその周辺から羽口片や炉壁片（約12.8kg－総重量の約22%），破碎面をもつ鉄滓類（約19.5kg－総重量の約34%），流動滓（約23.1kg－総重量の約41%），椀型滓（約1.9kg－総重量の約3%）など多量に検出されている。検出された鉄滓類のほとんどは、人工的に小割りされたものと思われる鋭利な破碎面を有し、最大で17cm×10cmほどであり、小鉄滓が大部分を

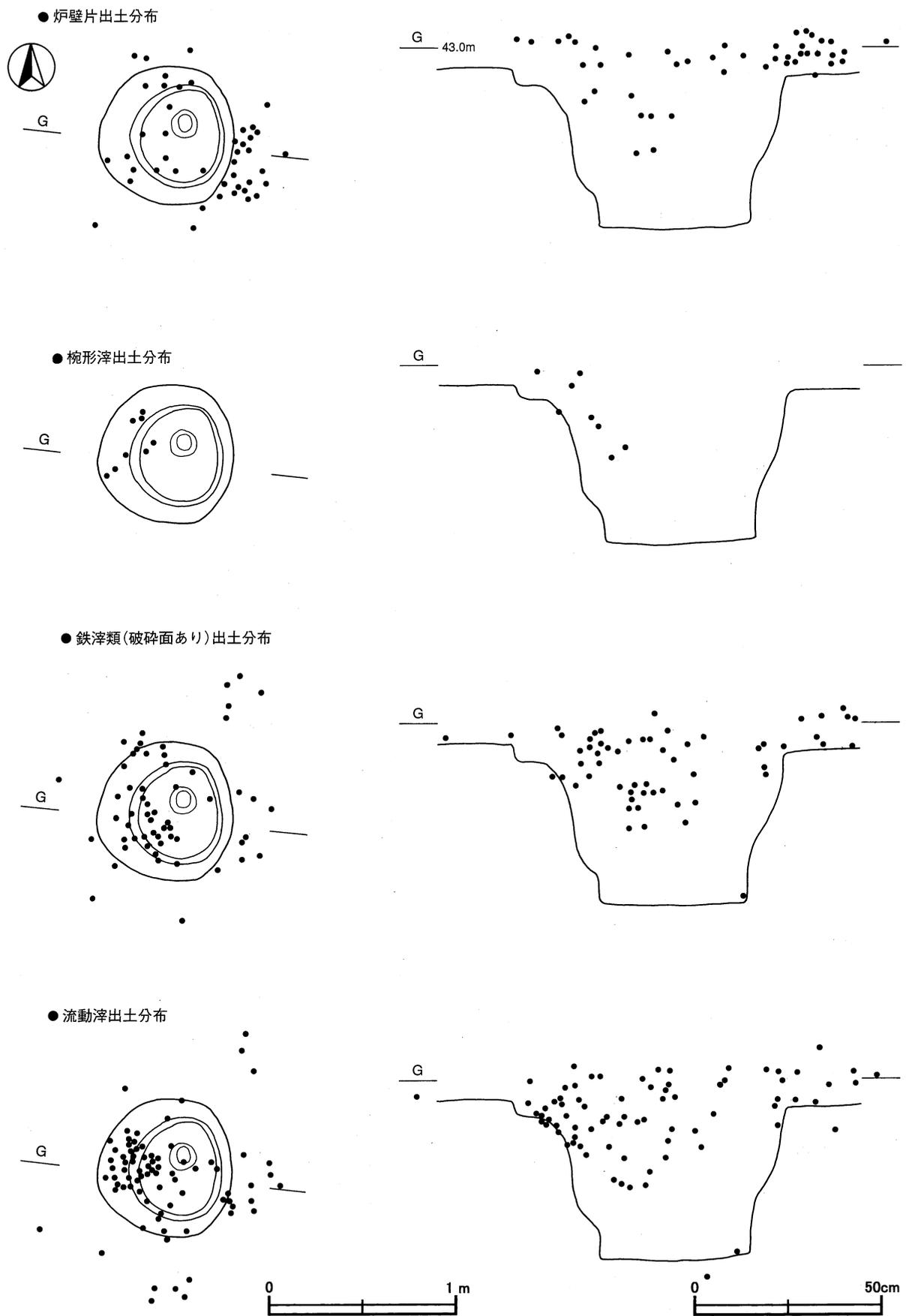
占める。また、製鉄に関連する炉跡から検出されるような砂鉄焼結塊が付着する炉壁片や、炉外流出滓、流出溝滓なども確認されている。なお、須恵器片は破断面が摩滅しており、混入したものである。

所見 出土土器がいずれも細片のため本跡の所属時期を特定することは困難であるが、出土土器の形状から、時期は11世紀前葉と考えられる。前述してきたように、本跡は鉄生産に関連する機能を有した遺構の可能性はあるが、以下に示す理由から明確な性格付けをするには検討の余地がある。

- ① 炉跡に相当するような、青灰色を呈する被熱面が未検出である。
- ② 椀形滓をはじめ、鍛造剥片や粒状滓の存在は鍛冶工程を示唆するものである。
- ③ P10上面や覆土中から、あらゆる種類の鉄滓をはじめ、炉壁片や羽口片、被熱痕の認められる礫片などが検出されており、意図的に投げ込んだことが想定される。
- ④ P10の土層観察からは、防湿・保温のための炉の地下構造とは捉えにくい。
- ⑤ P10の周辺および堅穴部の硬化面の広がりに合わせて、多数の鉄滓類が覆土下層から床面にかけて検出されている。
- ⑥ 製鉄に関連する遺構とした場合は、斜面部を削平して造成した平坦面上に立地するケースが多いが、本跡は微高地上の平坦部に立地している。
- ⑦ 製錬遺跡には、製鉄炉の他に木炭窯や小割り・選別する作業場を伴うことが多い。

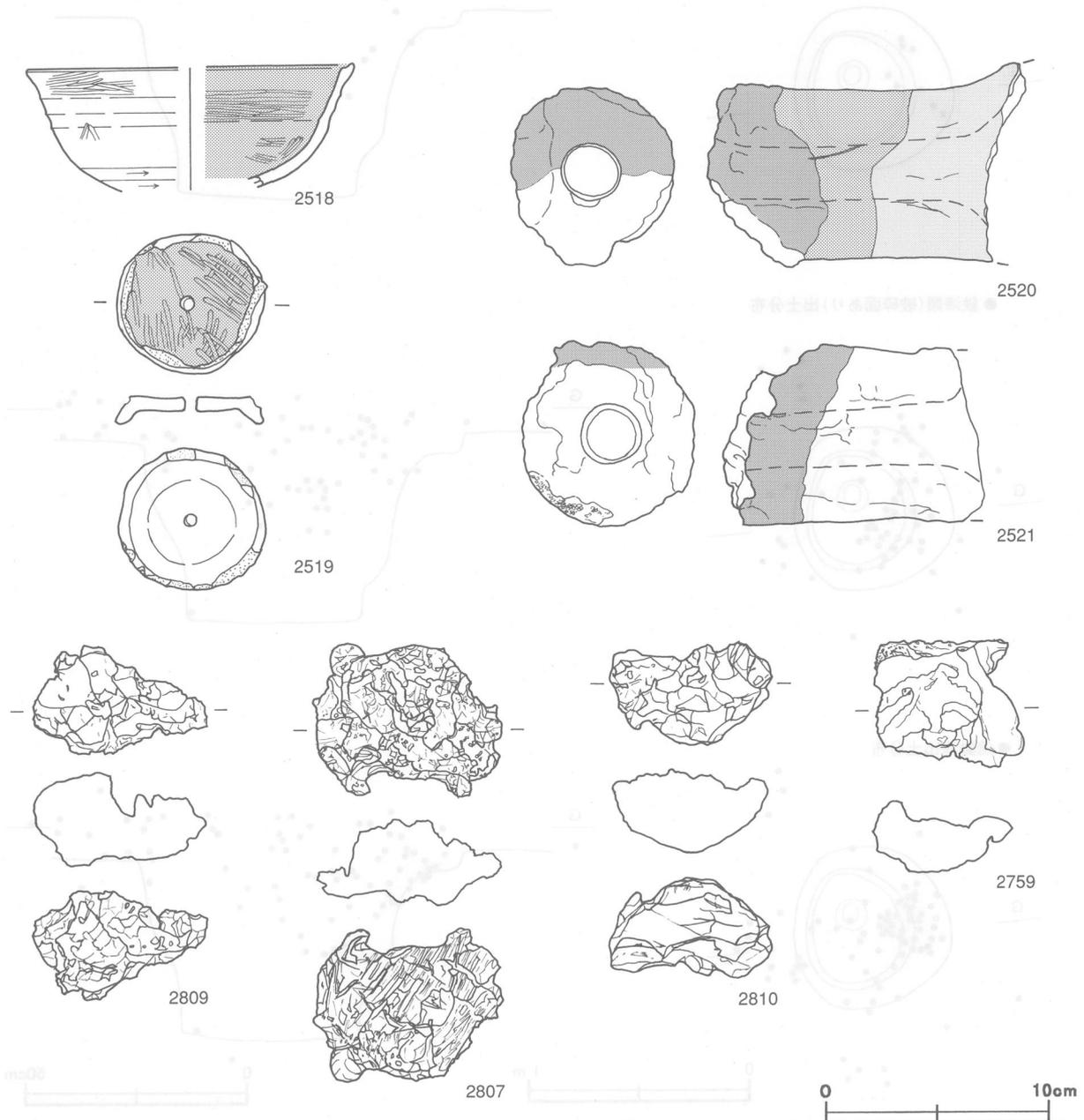


第728図 第1号鍛冶工房跡実測図

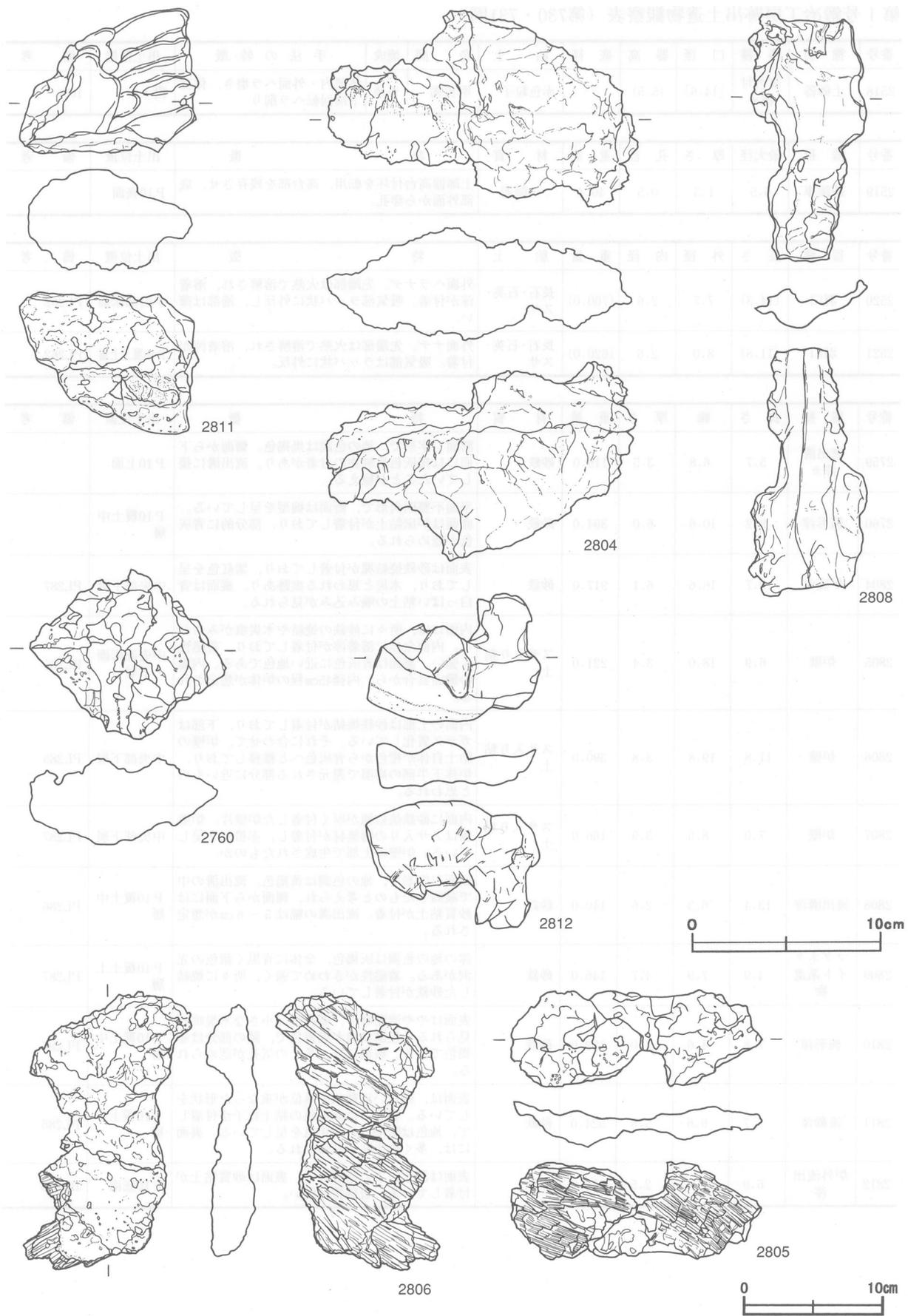


第729図 第1号鍛冶工房跡P10出土分布図

鋼を加熱・鍛打して製品化する操作に伴って生成する鍛造剥片や粒状滓が、極少量ではあるが覆土中より確認されており、椀形滓と併せて精錬鍛冶および鍛錬鍛冶の操業による遺物と判断される。それに対して、流動滓はもとより、流出溝滓や砂鉄焼結塊が付着している炉壁片、鉄塊系遺物や炉底滓などが検出されたことは、製錬（製鉄）の操業に伴う遺物であり、製錬から鍛冶にいたる遺物が混在していることになる。さらに、出土した鉄滓類のほとんどが破碎面を有するものであることは、本跡において意図的な操作がなされたか、あるいは持ち込まれたものであることを示している。覆土中から鍛造剥片や粒状滓が検出されたことは、鍛錬鍛冶工程の有力な物的証拠となる。以上のことから、本跡は当初鍛冶に関わる操作が行われた可能性がある。その後は、P10および竪穴部全体の遺物出土状況から判断すると、破碎面を有する多量の鉄滓類が確認されたことから、除滓のための小割り・選別をする作業場的な性格（P10は廃滓ピットとして）を想定できるが、その機能を停止した後は不要になった鉄滓類をはじめ、炉壁片や羽口片などを廃棄するために竪穴部全体が使用されたことが考えられる。



第730図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図(1)



第731図 第1号鍛冶工房跡出土実測図(2)

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表(第730・731図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2518	土師器	高台付 碗カ	[14.6]	(5.5)	—	赤色粒子	明黄褐	普通	体部内・外面ヘラ磨き、体部下端回転ヘラ削り	覆土中	10%

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2519	紡錘車	6.5	1.3	0.5	40.4	土師器	土師器高台付坏を転用、高台部を残存させ、底部外面から穿孔。	P10底面	

番号	器種	長さ	外径	内径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
2520	羽口	(14.3)	7.7	2.6	(760.0)	長石・石英・スサ	外面ヘラナデ。先端部は火熱で溶解され、溶着滓が付着。吸気部ラッパ状に外反し、端部は薄い。	中央部床面	PL262
2521	羽口	(11.8)	8.0	2.6	(620.0)	長石・石英・スサ	外面ナデ。先端部は火熱で溶解され、溶着滓が付着。吸気部はラッパ状に外反。	P10覆土上層	PL262

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2759	流出溝滓カ	5.7	6.8	3.5	119.0	砂鉄	断面U字形で、地の色調は黒褐色。側面から下面には褐灰色溶解物の付着があり、流出溝に接していたことが窺える。	P10上面	
2760	碗形滓	9.2	10.6	6.0	394.0	砂鉄	平面不整四角形で、断面は碗型を呈している。底面は炉床粘土が付着しており、部分的に青灰色が認められる。	P10覆土中層	
2804	炉底滓	10.7	16.6	6.1	917.0	砂鉄	表面は砂鉄焼結塊が付着しており、紫紅色を呈しており、木炭と思われる痕跡あり。裏面は青白っぽい粘土の噛み込みが見られる。	中央部下層	PL287
2805	炉壁	6.9	18.0	3.4	221.0	スサ入り粘土	内面には、所々に砂鉄の焼結や木炭痕がみられる。内面全体に溶着滓が付着しており、着磁性も強い。裏面は青灰色に近い地色である。内面の彎曲具合から、内径45cm程の炉体が想定される。	中央部床面・下層	PL285
2806	炉壁	11.8	19.8	3.8	390.0	スサ入り粘土	内面の上部は砂鉄焼結が付着しており、下部はガラス質化している。それに合わせて、炉壁の胎土自体が橙色から青灰色へと推移しており、炉体下半部の高温で還元される部分に近いものと思われる。	中央部下層	PL285
2807	炉壁	7.0	8.5	3.9	166.0	スサ入り粘土	内面に砂鉄焼結塊が厚く付着した炉壁片。炉壁側はスサ入りの構築材が付着し、赤橙色を呈している。炉壁の上部で生成されたものか。	中央部下層	PL287
2808	流出溝滓	13.4	6.3	2.6	140.0	砂鉄	断面U字形で、地の色調は黄褐色。流出溝の中で凝固したものと考えられ、側面から下面には砂質粘土が付着。流出溝の幅は5～6cmが想定される。	P10覆土中層	PL286
2809	マグネタイト系遺物	4.9	7.9	4.7	146.0	砂鉄	滓の地の色調は灰褐色、全体に青黒く銀色の光沢がある。着磁性がきわめて強く、所々に焼結した砂鉄が付着している。	P10覆土上層	PL287
2810	碗形滓	7.8	4.6	4.0	122.0	砂鉄	表面はやや流動状で、裏面には小さな木炭痕が見られる。色調は地が黒褐色で、錆の部分は赤褐色である。破面には、多くの気孔が認められる。	P10覆土中層	PL287
2811	流動滓	7.7	9.6	5.5	524.0	砂鉄	表面は、細長い流動状の単位が重なった形状をしている。裏面には赤褐色の粘土粒子が付着して、地色は暗褐色の酸化色を呈している。裏面には、多くの気孔が認められる。	P10覆土中層	PL286
2812	炉外流出滓	6.9	9.4	2.5	180.0	砂鉄	表面は酸化による紫紅色で、裏面は砂質粘土が付着している。着磁性は弱い。	P10底面	PL286

(3) 方形竪穴遺構

当遺跡からは12基検出されており、そのうち第2・3・7・9号方形竪穴遺構が当該期に該当する。以下、その概要について記述する。

第2号方形竪穴遺構 (第732図)

位置 調査区北部北東寄りのH14b6区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第79・82号住居跡を掘り込み、耕作による攪乱も受けている。

規模と形状 遺存している壁から、N-19°-Eを主軸とする東西軸3.8m、南北軸2.7mの長方形と推定される。壁は遺存している部分は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面や壁溝は検出されなかった。

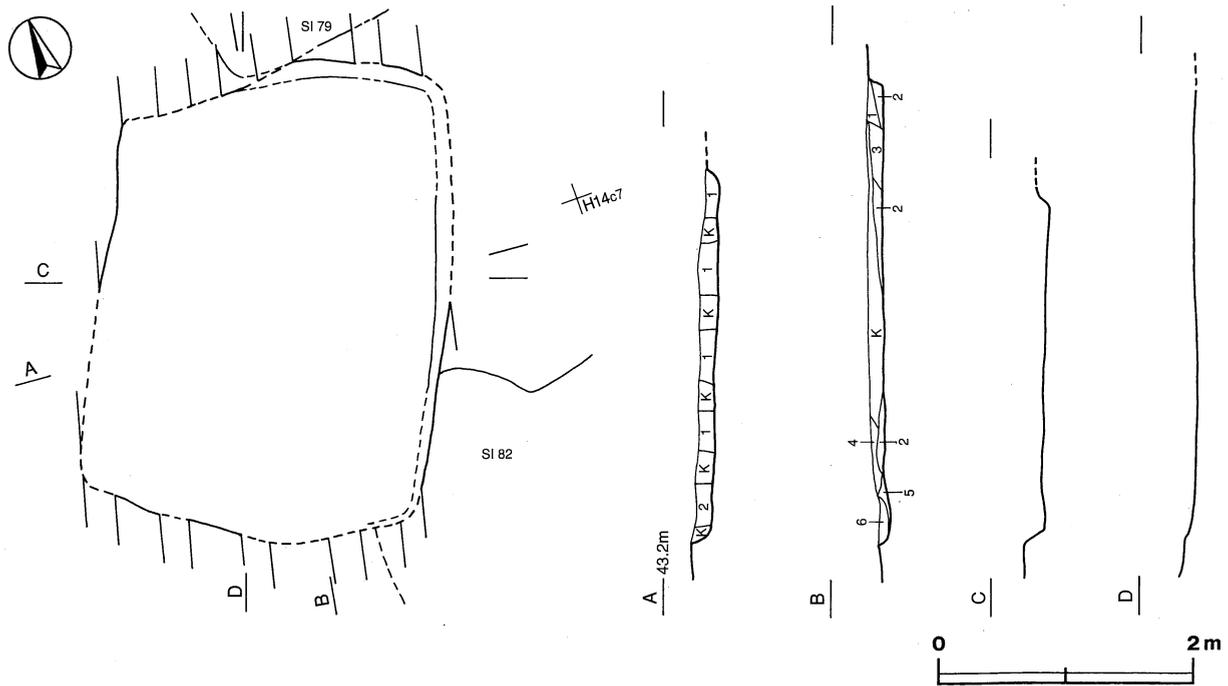
覆土 6層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック多量
- 6 明褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片91点(坏34, 甕55, 甌2), 須恵器片1点(坏), 礫片25点が出土している。これらの大部分は細片であり、図示できるものはない。

所見 本跡は大部分が攪乱を受け、住居全体の形状は把握できないが、出土した土器片の形状と6~7世紀代と比定される第82号住居跡を掘り込んでいることから、時期は8世紀以降と考えられる。



第732図 第2号方形竪穴遺構実測図

第3号方形竪穴遺構 (第733図)

位置 調査区北部北寄りのG13a4区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第181号住居跡を掘り込み、第169号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸3.5m、南北軸2.0mの長方形で、長軸方向はN-76°-Eである。壁高は30cmで、外傾しながら立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面や壁溝は認められない。

ピット 検出されなかった。

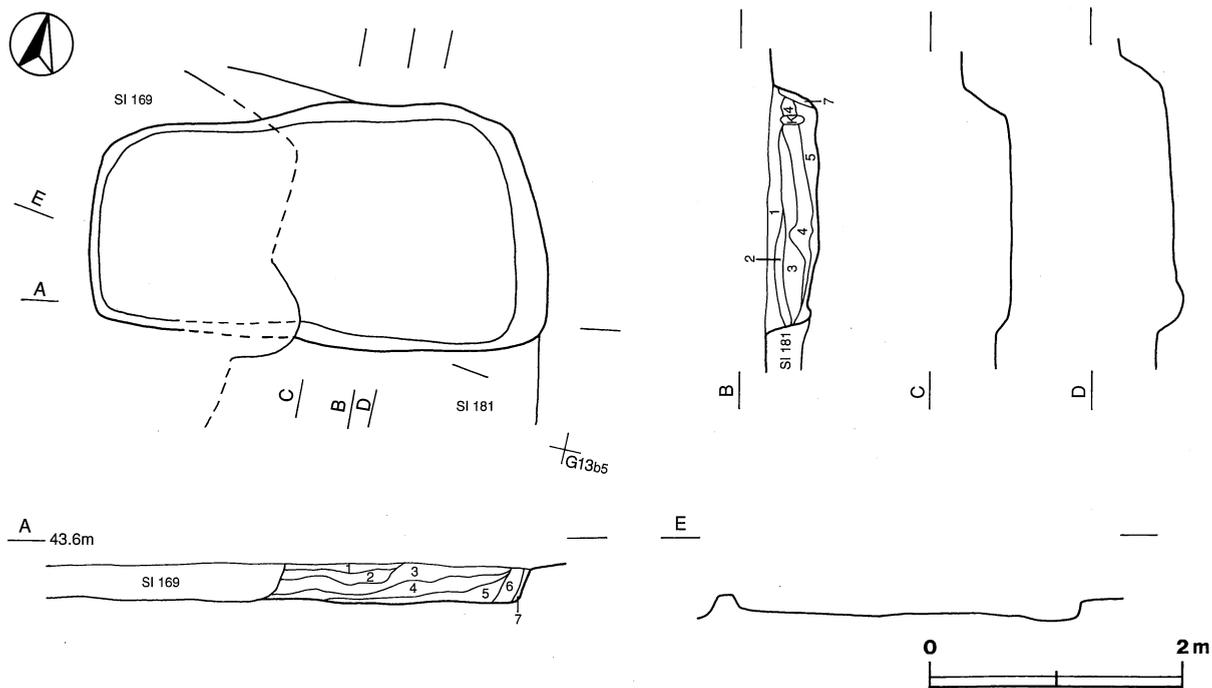
覆土 7層からなり、各層にブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 出土遺物は少なく、土師器片72点(坏19, 高坏1, 甕52), 礫片5点が出土している。出土した土師器片は細片であり、図示できるものはない。

所見 時期は7世紀代と比定される第181号住居跡を掘り込み、さらに10世紀後葉の第169号住居に掘り込まれていることや、須恵器の出土が見られないことから、10世紀中葉と考えられる。



第733図 第3号方形竪穴遺構実測図

第7号方形竪穴遺構 (第734図)

位置 調査区北部南東のH14g6 区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長軸4.5m、短軸3.7mの長方形で、主軸方向はN-48°-Eである。壁高は8~20cmであり、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、それほど硬化した部分は認められない。壁溝も確認されていない。

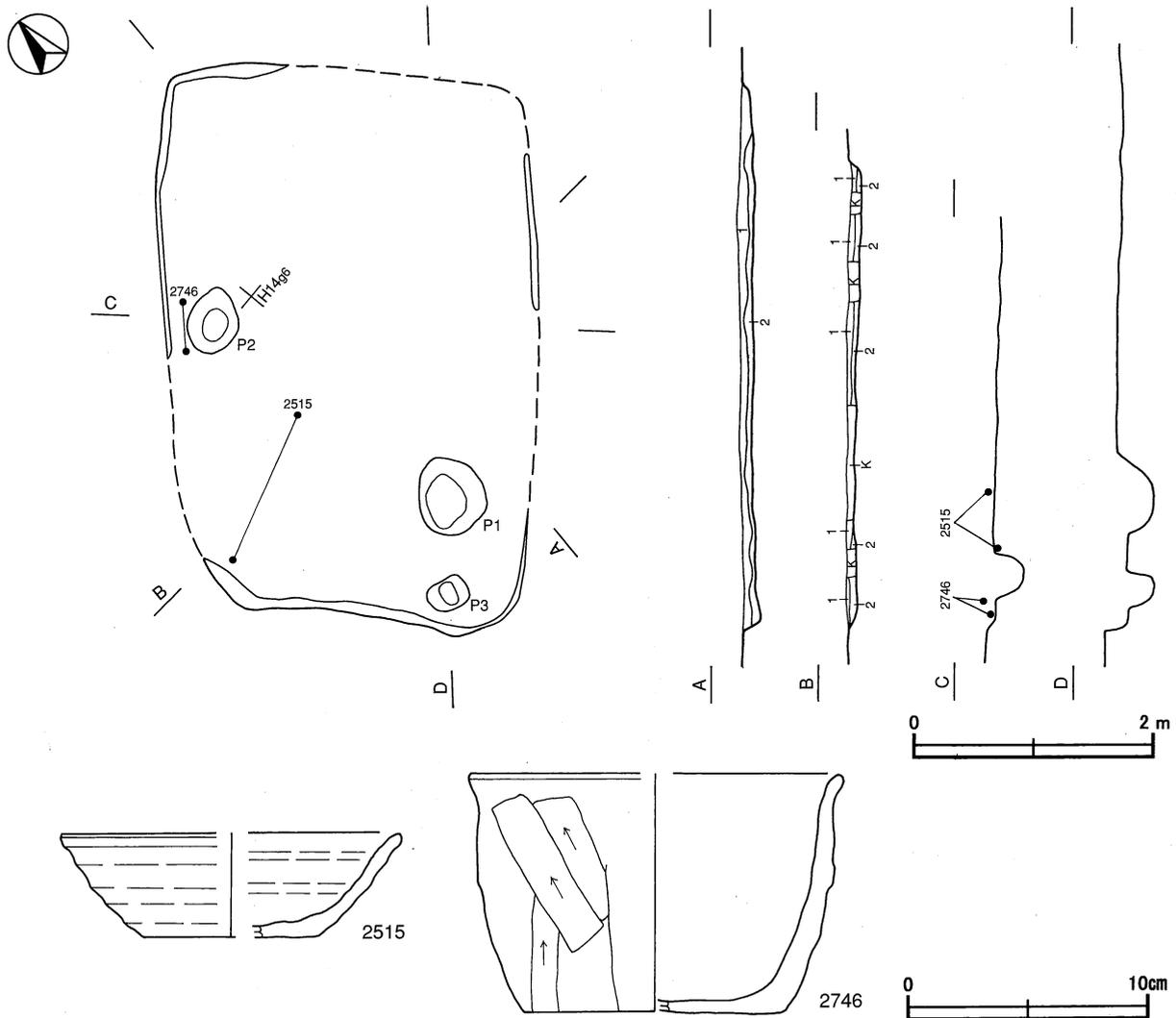
ピット 3か所。P1~P3は深さが24~30cmで柱穴の可能性があるが、位置が不揃いで詳細は不明である。

覆土 2層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片89点(碗9, 高台付碗1, 甕79), 須恵器片29点(甕), 鉄滓1点(破碎されており, 着磁性あり), 骨片1点が南西部覆土下層を中心に出土しており, 床面から確認された遺物は少ない。2515は, 西壁際の床面と中央部覆土下層から出土した破片が接合した土器である。また, 2746は西壁際覆土下層とP2付近から出土した破片が接合した土器であり, 本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。須恵器細片は破断面が摩滅しており, 混入したものである。なお, 覆土中から小動物ものと思われる骨片が出土しているが, 微



第734図 第7号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

細であり同定にはいたらなかった。

所見 本跡は攪乱を受けているため断定できないが、竈が確認されないことや同時期の住居跡と長軸がずれていることなどから、方形竪穴遺構としてとらえた。時期は、出土土器から10世紀後半以降と推定される。

第7号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第734図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2515	土師器	坏	[14.0]	4.2	[7.2]	石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部口クロ整形, 底部回転糸切り	中央部下層西壁際床面	30%
2746	土師器	鉢	[15.6]	9.8	[10.8]	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り	西部床面西壁際覆土中	35%

第9号方形竪穴遺構 (第735・736図)

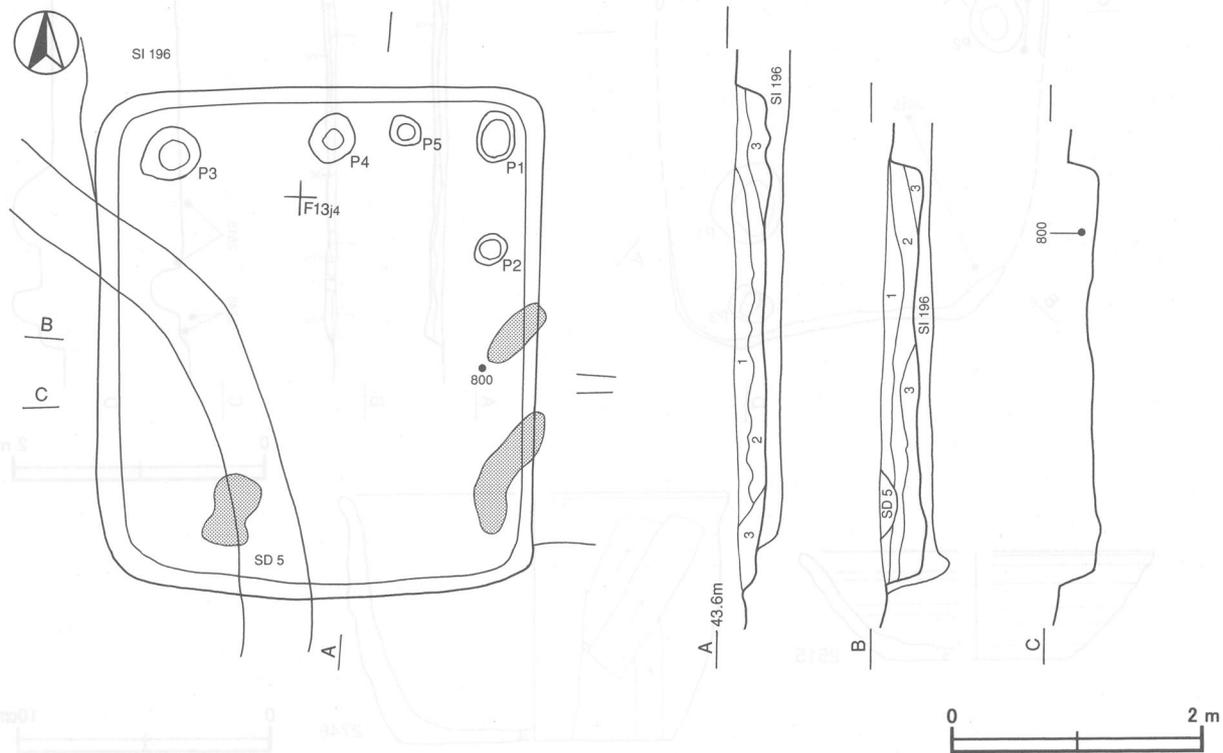
位置 調査区北部のF13j4区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第196号住居跡を掘り込み、第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸約4.0m、短軸約3.4mの長方形で、長軸方向はN-0°である。壁高は10~20cmで、やや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面や壁溝は認められない。東部と南西部に火熱を受けた痕跡が認められ、焼失したことが想定される。

ピット 5か所。P1~P4は深さ約25~50cmであるが、柱穴は明確ではない。P5は深さ約20cmで、性格は不明である。



第735図 第9号方形竪穴状遺構実測図

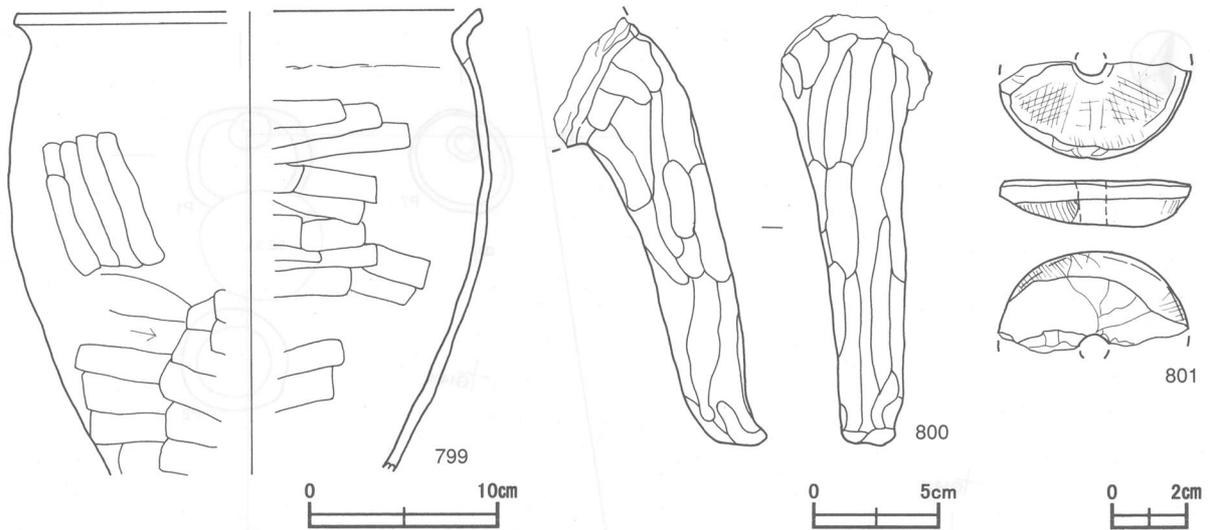
覆土 3層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片855点（坏225，高坏1，甕629），須恵器片63点（坏49，高台付坏3，蓋2，甕9），瓦片1点（平瓦），石製品1点（紡錘車），礫片48点がほぼ全域から散在した状態で出土している。800は東部の覆土下層，799・801はいずれも覆土中から出土しており，住居廃絶後に混入されたものと考えられる。

所見 本跡は5世紀末から6世紀初め頃に比定される第196号住居跡を掘り込んでおり，出土した土師器・須恵器片の形状から，時期は8世紀以降と考えられる。



第736図 第9号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第9号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第736図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
799	土師器	甕	[24.4]	(24.5)	-	雲母，石英	にぶい黄褐	普通	体部内外面ヘラナデ，口縁部横ナデ	覆土中	25%
800	土師器	三足鍋	-	(17.2)	-	雲母，石英	にぶい黄褐	普通	脚部外面ヘラナデ	東部下層	10%

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
801	紡錘車	5.0	(1.2)	0.8	(16.0)	滑石	上面に斜格子状の線刻による文様	覆土中	

(4) 掘立柱建物跡

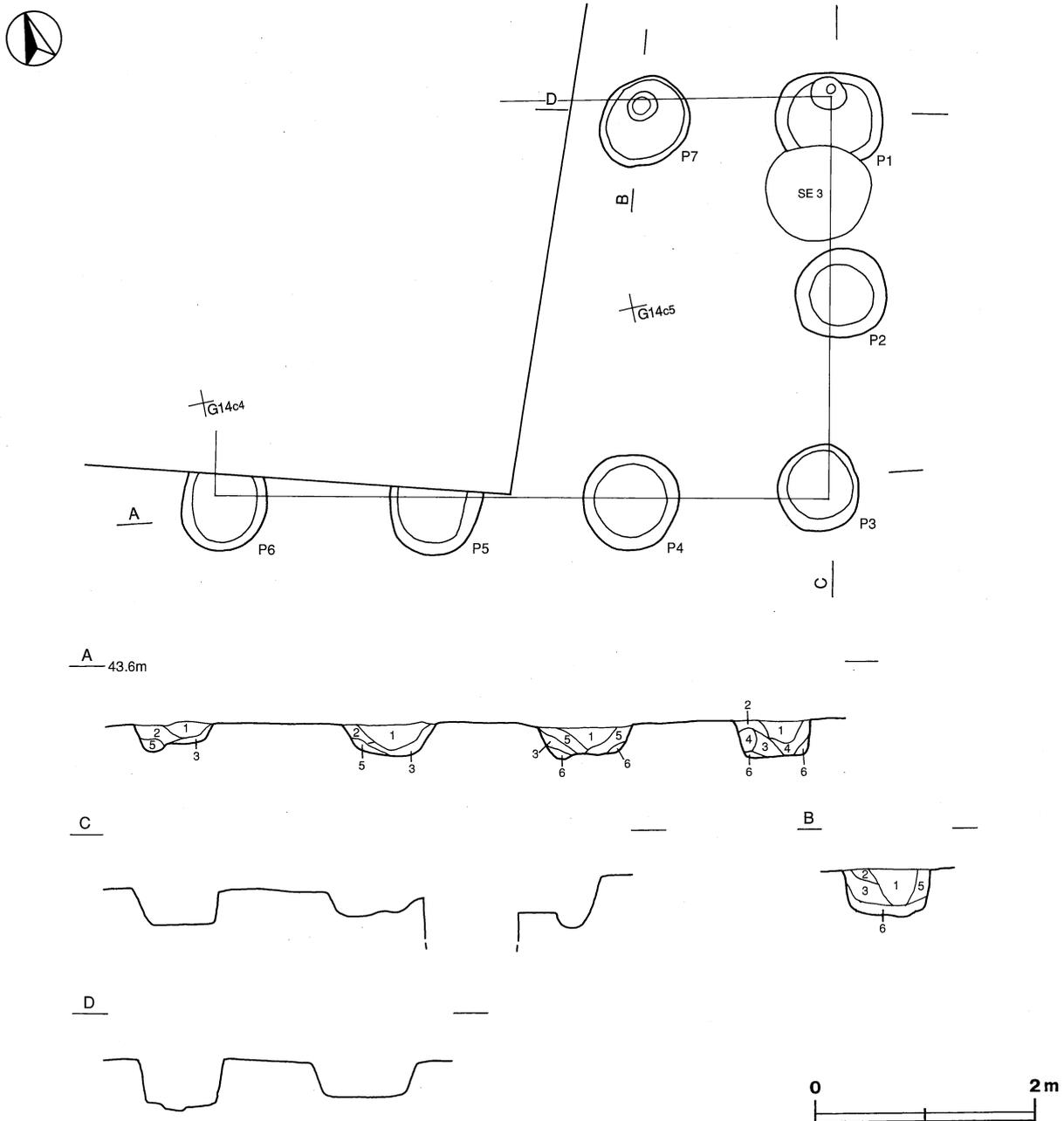
当遺跡では今回の調査で、29棟の掘立柱建物跡が検出されており、そのうち27棟が当該期に該当する。以下、その概要について記述する。

第4号掘立柱建物跡（第737図）

位置 調査区部のG14c5区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第36・37号住居跡を掘り込み、第3号井戸に掘り込まれている。

規模と構造 西部が調査区域外のため明確ではないが、桁行3間（平均5.5m）、梁間2間（平均3.7m）の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-55°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行約1.8m、梁間約1.9mで、面積は



第737図 第4号掘立柱建物跡実測図

約20.7㎡である。

柱穴 7か所 (P1～P7) で確認され、平面形が長径と短径ともに1.0mほどの楕円形または円形である。断面形は、逆台形状を呈し、深さは0.3～0.5mである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。柱材の寸法は不明である。

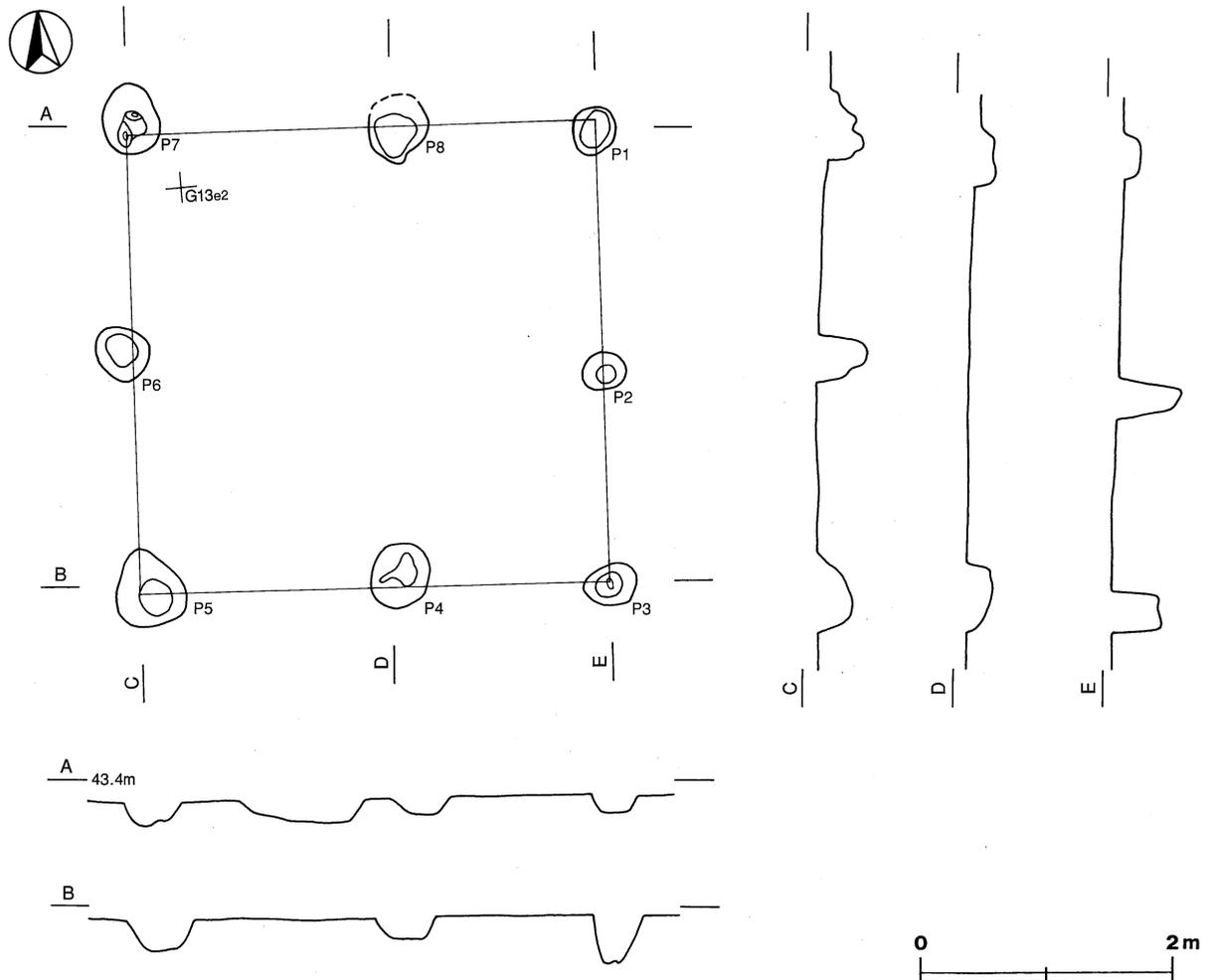
土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒色 ロームブロック微量 (締まり弱い)
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 黒色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 (締まり強い)

遺物出土状況 土師器片32点 (坏15, 甕13, 甗4), 須恵器片6点 (坏4, 甗2) が出土している。すべて細片で、混入したものと考えられる。

所見 柱穴の深さや規模, 柱間寸法に規則性が認められる。また, 本跡から南方へ約100mには, 同時期に比定される第9号掘立柱建物跡が位置しているが, 柱穴の規模や柱間寸法などが近似しており, 同集落内において同一の尺度を用い, 計画的に配置している様子がうかがえる。なお, 重複関係から見て, 時期は第9号掘立柱建物跡と同時期の9世紀後葉と考えられる。

第5号掘立柱建物跡 (第738図)



第738図 第5号掘立柱建物跡実測図

位置 調査区北部のG13e2区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第182号住居跡を掘り込んでいる。なお、重複している第158号土坑とは切り合いがなく、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間(平均3.7m)、梁間2間(平均3.6m)の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-94°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行2.1m・1.8m、梁間は約1.8mで、面積は約13.5㎡である。

柱穴 8か所(P1~P8)で、平面形が長径0.3~0.6m、短径0.3~0.5mの円形または不整形円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.1~0.5mである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片6点(坏2、甕4)が出土している。すべて細片で、混入したものと考えられる。

所見 柱穴の深さは不規則であるが、柱穴の規模と柱間寸法には規則性が認められる。なお、本跡が位置する調査区北部では、平安期の掘立柱建物跡の検出数は3棟と少ない。大半は調査区中央部に集中しており、時期はほとんどが9世紀代である。また、本跡の柱穴の形状は、他の掘立柱建物跡と比較すると異なり、規模も小さい。建物の性格については不明である。なお、隣接する3棟の掘立柱建物跡と比べて同時期の9世紀代とは比定できず、時期は10世紀以降と考えられる。

第6号掘立柱建物跡(第739・740図)

位置 調査区中央部のI13a1区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第327・329・330号住居跡を掘り込み、第37号掘立柱建物、第15号井戸、第564号土坑に掘り込まれている。なお、重複している第523・544号土坑とは切り合いがなく、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行5間(平均10.7m)、梁間2間(平均5.1m)の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-93°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.1m、梁間約2.6mで、面積は約55.0㎡である。

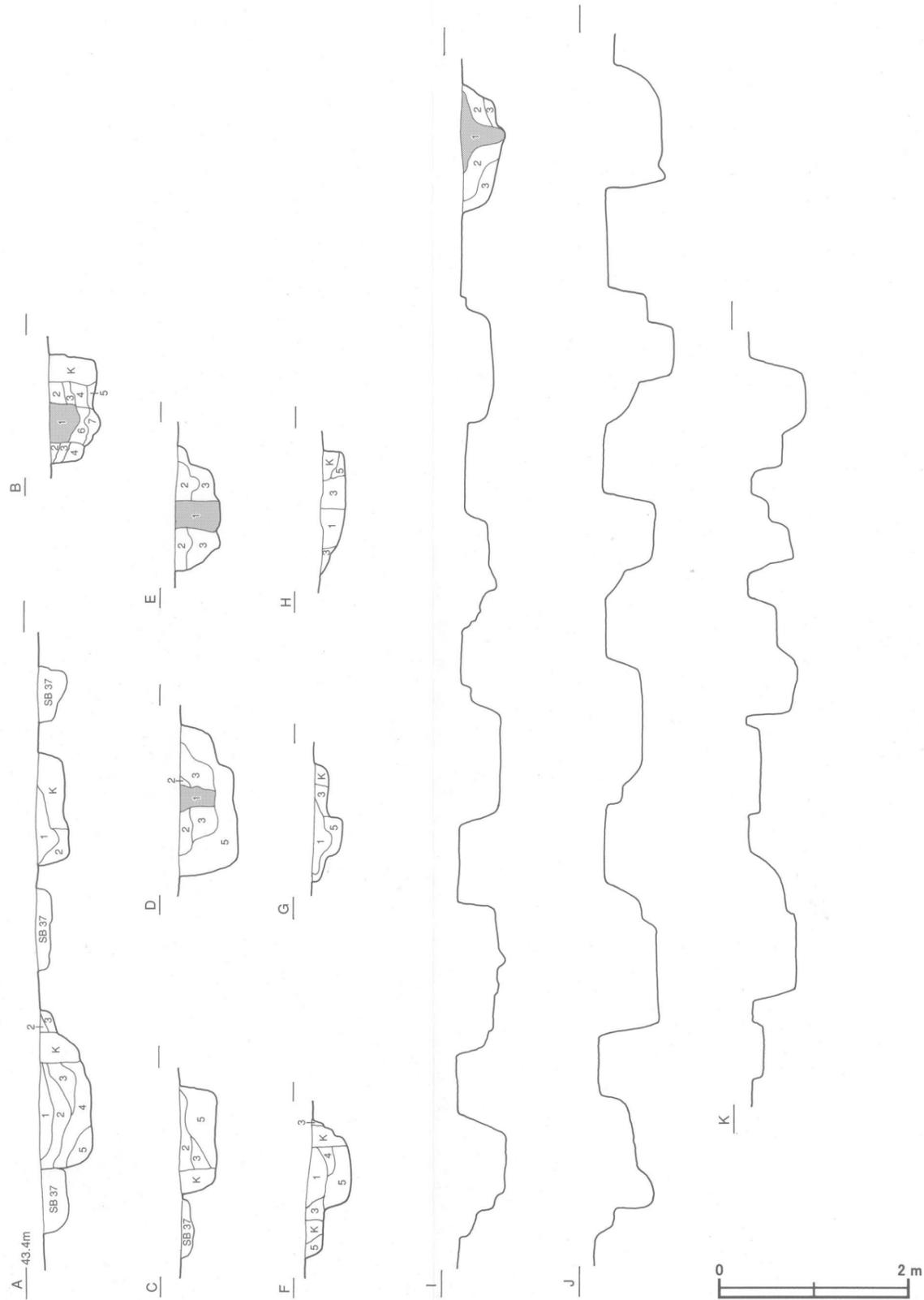
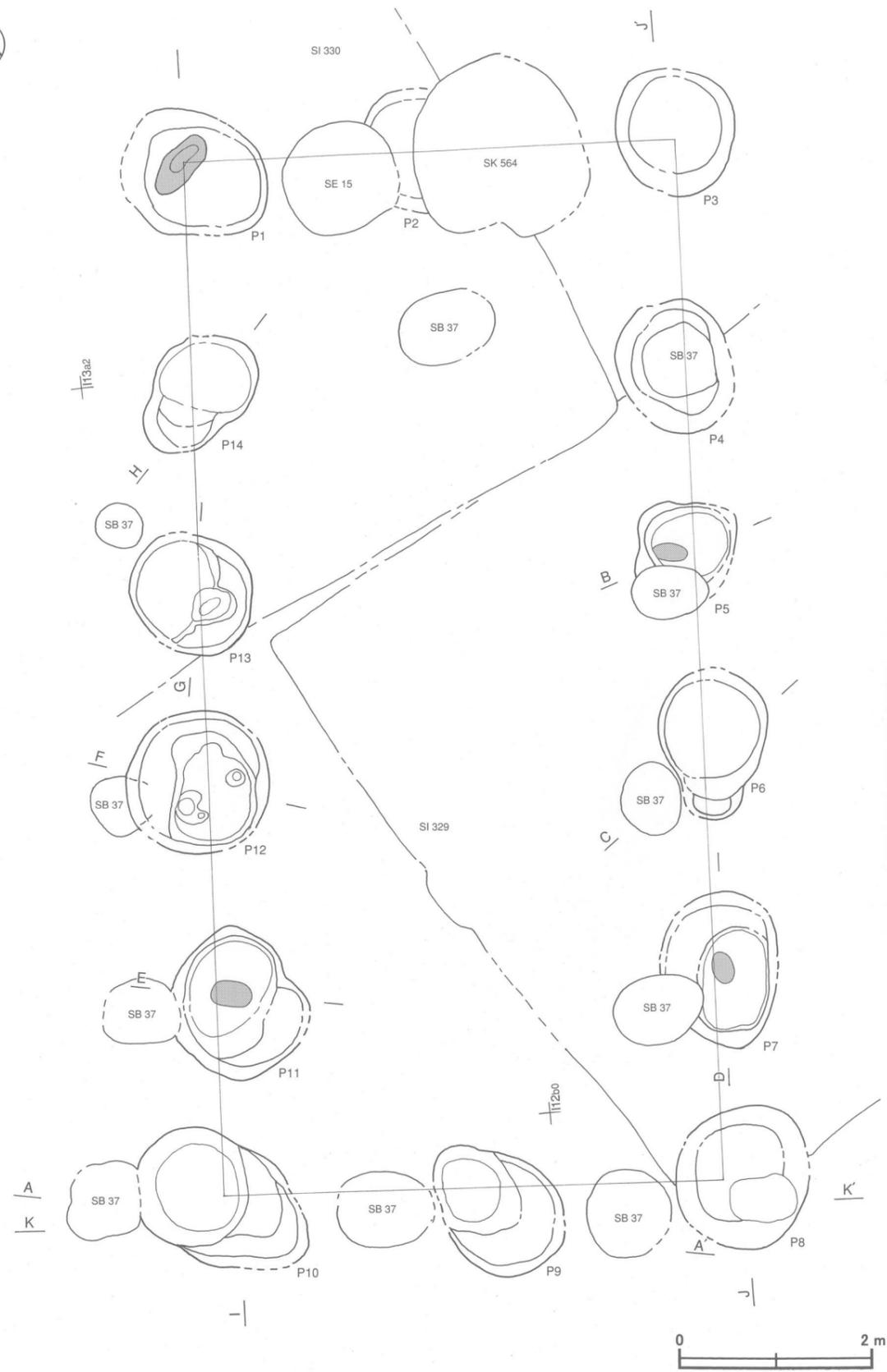
柱穴 14か所(P1~P14)で、平面形が長径1.0~1.9m、短径0.9~1.3mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状を呈し、深さは0.3~0.5mである。また、柱の抜き取り痕はP1・P5~P7・P11で認められ、その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径11~16cmと推定される。

土層解説(各柱穴共通)

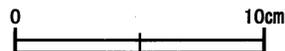
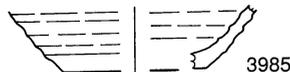
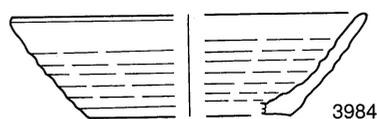
- 1 黒褐色 ロームブロック微量(締まり弱い)
- 2 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量(締まり強い)
- 4 褐色 ロームブロック中量(締まり強い)
- 5 褐色 ロームブロック・粘土粒子中量
- 6 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量(締まり弱い)
- 7 黒色 ロームブロック微量(締まり弱い)

遺物出土状況 土師器片43点(坏11、高台付坏1、甕31)、須恵器片3点(坏1、甕2)、礫片5点が覆土中から出土している。これらの遺物はすべて細片であり、埋土中に混入したものや、攪乱により混入したものと考えられ、図示した土器が相当する。3984はP2、3985はP12の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 柱穴の深さは若干不規則であるが、規模と柱間寸法には規則性が認められる。また、本跡は第37号掘立柱建物跡へと規模を縮小して建て替えが行われている。なお、当遺跡において、建て替えが行われた掘立柱建物跡は本跡を含めて3か所確認されているが、いずれも北西方向へと位置をずらして建て替えられている特徴が見られる。また、本跡から30m南東方向には4期の建て替えが行われた第9・16・23・24号掘立柱建物跡が位置しているが、第2期に当たる第24号掘立柱建物跡が本跡と同時期に機能していたと考えられ、桁行方向も近似している。第37号掘立柱建物跡との重複関係や、桁行方向の検討から、時期は9世紀中葉と考えられる。



第739图 6号掘立柱建物跡実測图



第740図 第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第740図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3984	須恵器	坏	[14.0]	(4.0)	[8.0]	長石・石英	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	P2覆土中	5%
3985	須恵器	坏	-	(2.6)	[5.6]	砂粒	黄灰	普通	体部内・外面ロクロナデ	P12覆土中	5%

第7号掘立柱建物跡 (第741・742図)

位置 調査区中央部のJ12c9区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第412・415号住居跡を掘り込み、第578・833号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間(平均7.5m)、梁間2間(平均4.7m)の側柱式の建物跡で、桁行方向がN-95°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行、梁間とも約2.5mで、面積は約35.3㎡である。

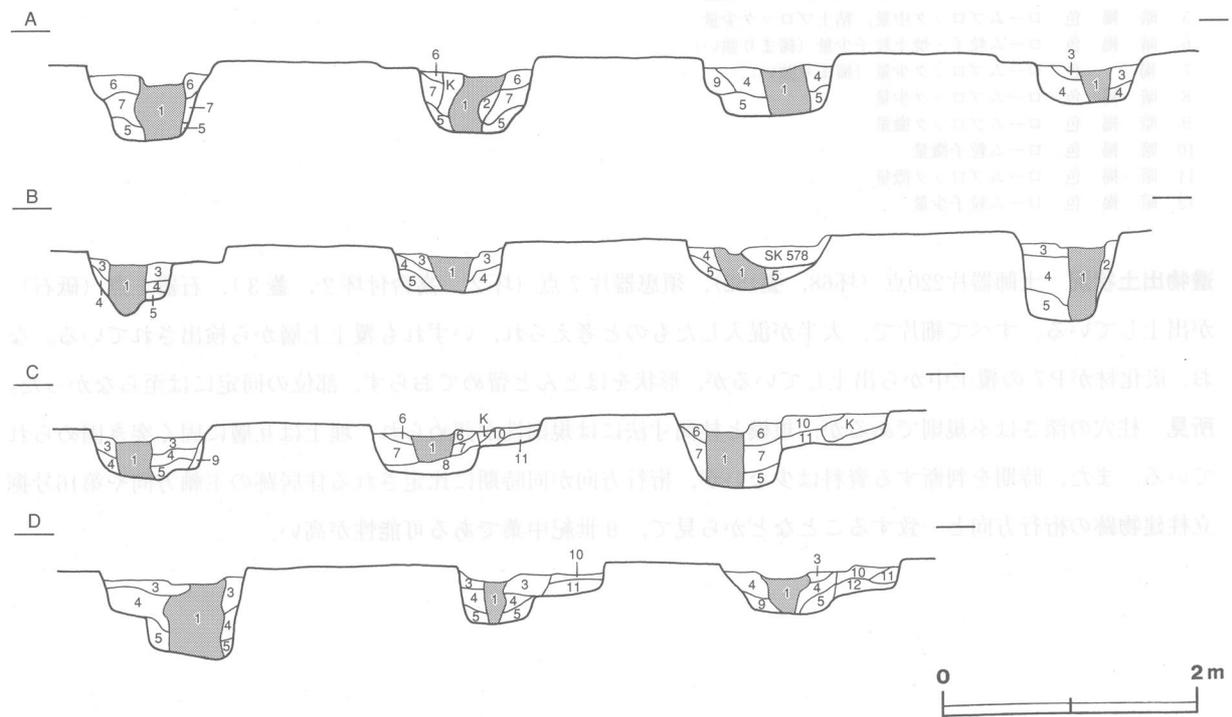
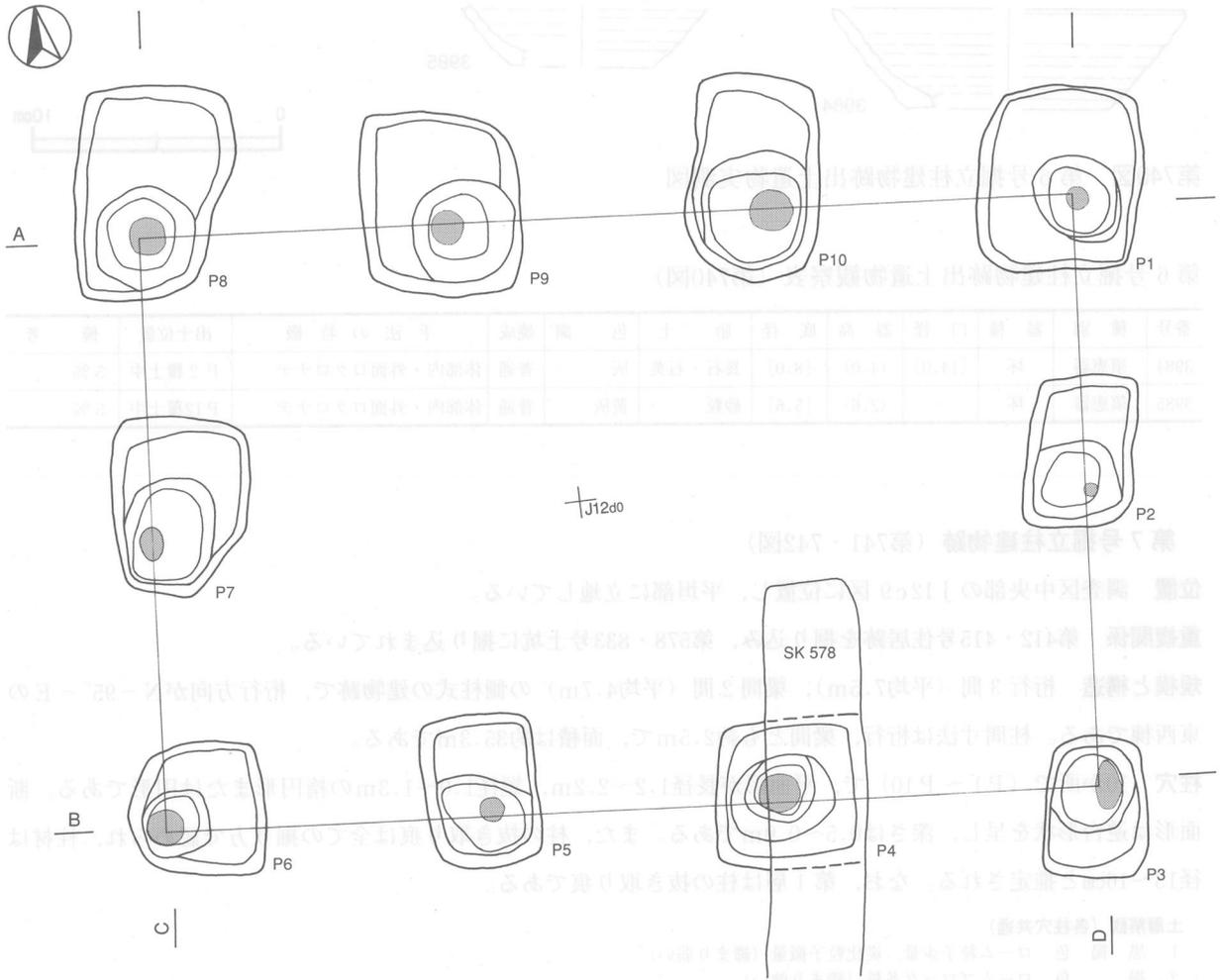
柱穴 10か所で(P1~P10)で、平面形が長径1.2~2.2m、短径1.0~1.3mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状を呈し、深さは0.5~0.9mである。また、柱の抜き取り痕は全ての掘り方で認められ、柱材は径13~16cmと推定される。なお、第1層は柱の抜き取り痕である。

土層解説 (各柱穴共通)

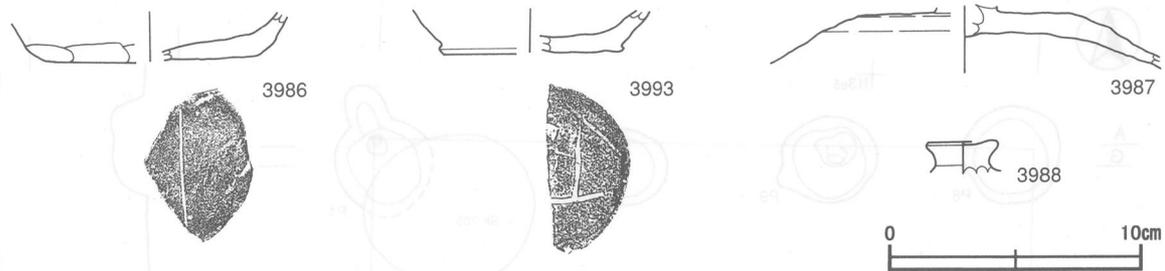
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 (締まり弱い)
- 2 褐色 ロームブロック多量 (締まり強い)
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック微量 (締まり強い)
- 4 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 (締まり強い)
- 7 褐色 ロームブロック少量 (締まり強い)
- 8 暗褐色 ロームブロック少量
- 9 暗褐色 ロームブロック微量
- 10 暗褐色 ローム粒子微量
- 11 暗褐色 ロームブロック微量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片220点(坏68, 甕152), 須恵器片7点(坏2, 高台付坏2, 蓋3), 石器1点(砥石)が出土している。すべて細片で、大半が混入したものと考えられ、いずれも覆土上層から検出されている。なお、炭化材がP7の覆土中から出土しているが、形状をほとんど留めておらず、部位の同定には至らなかった。

所見 柱穴の深さは不規則であるが、規模と柱間寸法には規則性が認められ、埋土は互層に固く突き固められている。また、時期を判断する資料は少ないが、桁行方向が同時期に比定される住居跡の主軸方向や第16号掘立柱建物跡の桁行方向と一致することなどから見て、9世紀中葉である可能性が高い。



第741図 第7号掘立柱建物跡実測図



第742図 第7号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第742図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3986	須恵器	坏	-	(1.8)	[8.4]	雲母・砂粒	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	P 4 覆土上層	10%
3993	須恵器	坏	-	(1.7)	[7.4]	長石・砂粒	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	P 10 覆土中	5%, 刻書 「□」
3987	須恵器	蓋	-	(2.6)	(0.2)	長石・雲母・石英	灰	普通	天上部外面回転ヘラ削り	P 3 覆土上層	25%
3988	須恵器	蓋	-	(1.2)	-	長石・砂粒	灰	普通	つまみ部頂部ナデ	P 7 覆土上層	5%

第8号掘立柱建物跡 (第743図)

位置 調査区北部の I 13e5 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第382号住居跡を掘り込み、第705・708号土坑に掘り込まれている。なお、重複している第722・723号土坑とは切り合いがなく、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間(平均5.1m)、梁間2間(平均4.0m)の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-90°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行約1.8m、梁間約2.1mで、面積は約20.4㎡である。

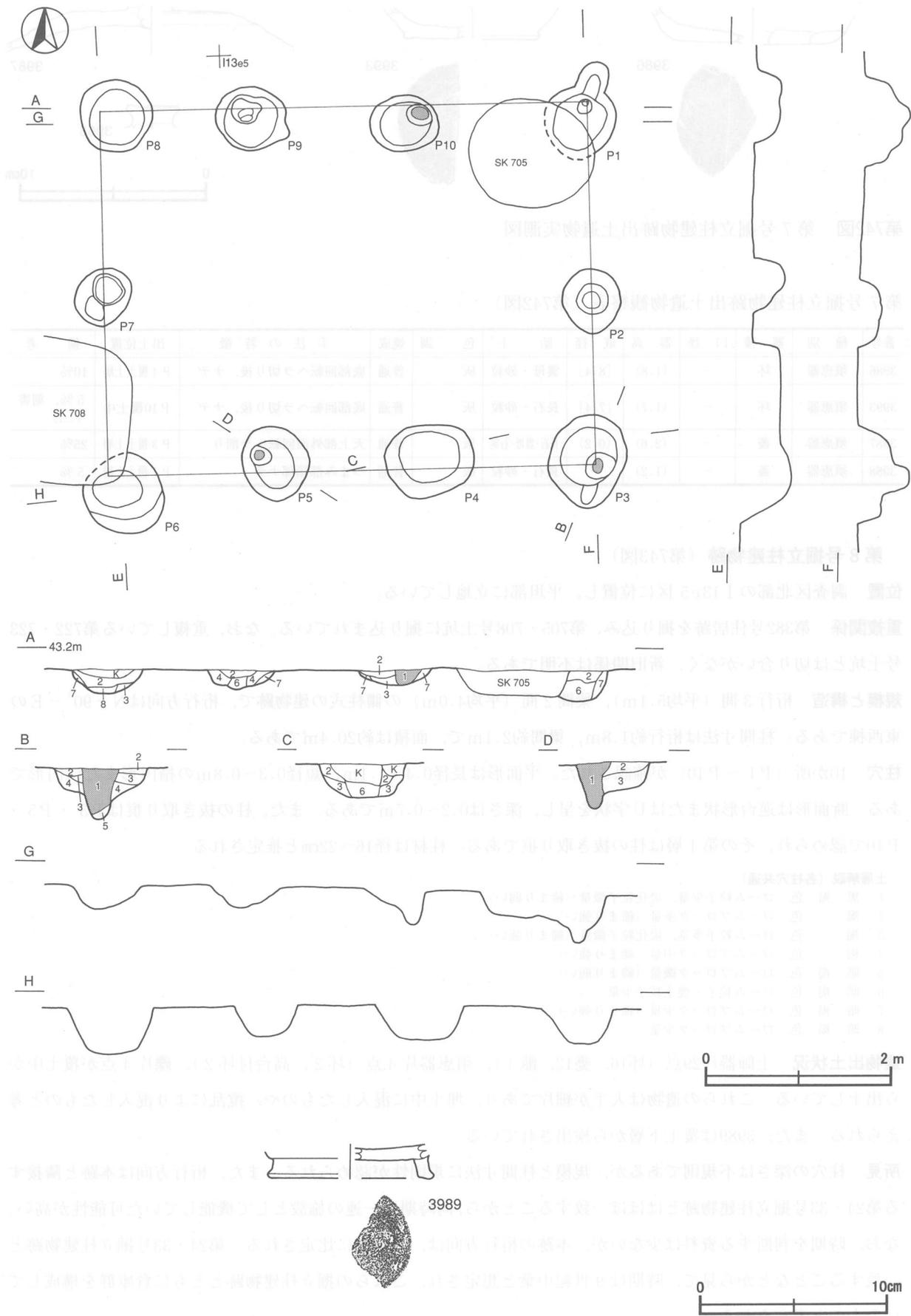
柱穴 10か所(P1~P10)が確認された。平面形は長径0.4~1.1m、短径0.3~0.8mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.2~0.7mである。また、柱の抜き取り痕はP3・P5・P10で認められ、その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径16~22cmと推定される。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 (締まり弱い)
- 2 褐色 ロームブロック多量 (締まり強い)
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量 (締まり強い)
- 4 褐色 ロームブロック中量 (締まり強い)
- 5 暗褐色 ロームブロック微量 (締まり弱い)
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量 (締まり強い)
- 8 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片29点(坏16, 甕12, 甗1), 須恵器片4点(坏2, 高台付坏2), 礫片4点が覆土中から出土している。これらの遺物は大半が細片であり、埋土中に混入したものや、攪乱により混入したものと考えられる。また、3989は覆土下層から検出されている。

所見 柱穴の深さは不規則であるが、規模と柱間寸法に規則性が認められる。また、桁行方向は本跡と隣接する第24・33号掘立柱建物跡とはほぼ一致することから、同時期に一連の施設として機能していた可能性が高い。なお、時期を判断する資料は少ないが、本跡の桁行方向は、同時期に比定される。第24・33号掘立柱建物跡と一致することなどから見て、時期は9世紀中葉と想定され、これらの掘立柱建物跡とともに倉庫群を構成していたものと考えられる。



第743図 第8号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

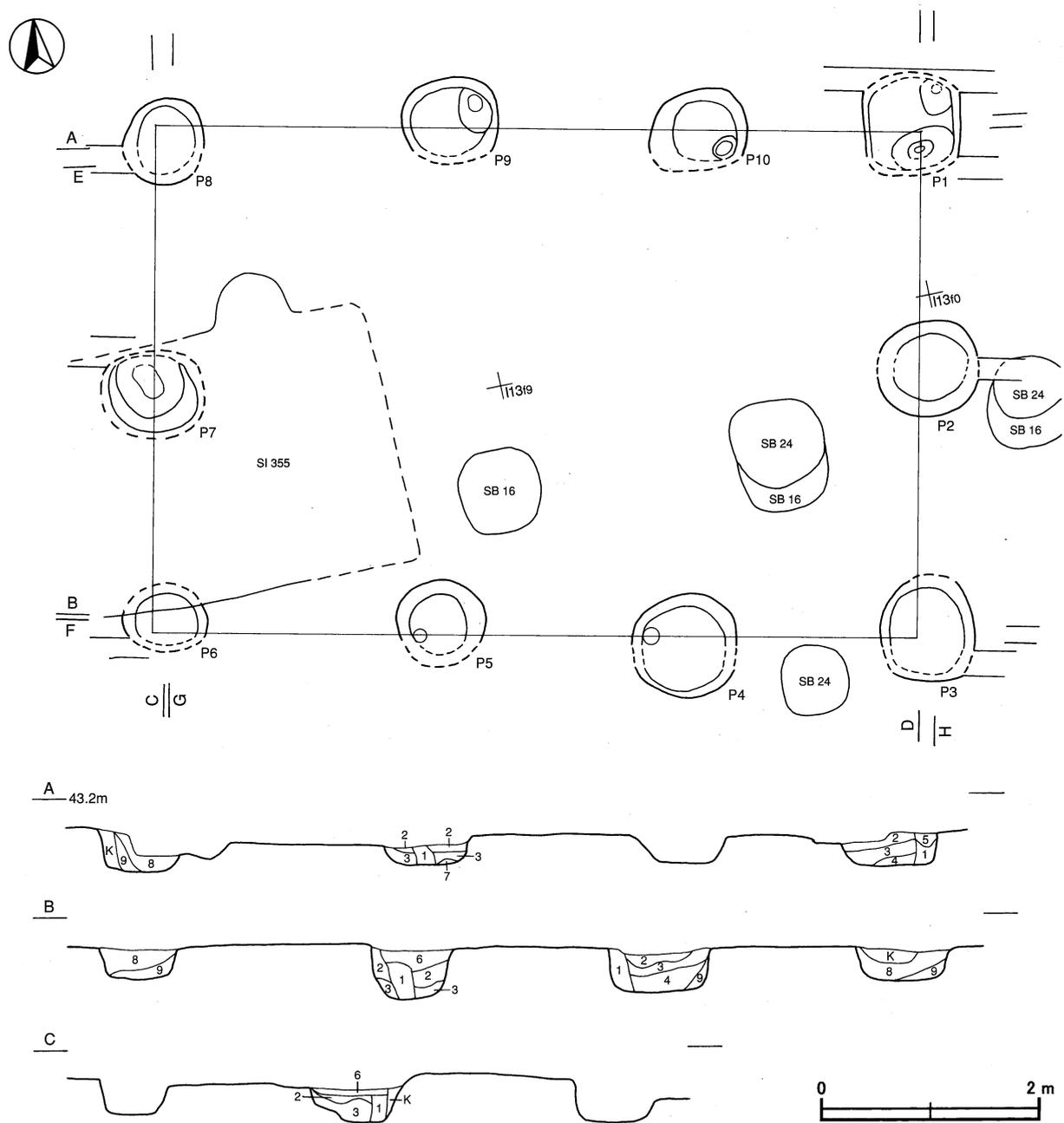
第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第743図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3989	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	[8.4]	雲母・砂粒	灰黄	普通	底部高台貼り付け後、ナデ	P5覆土下層	10%

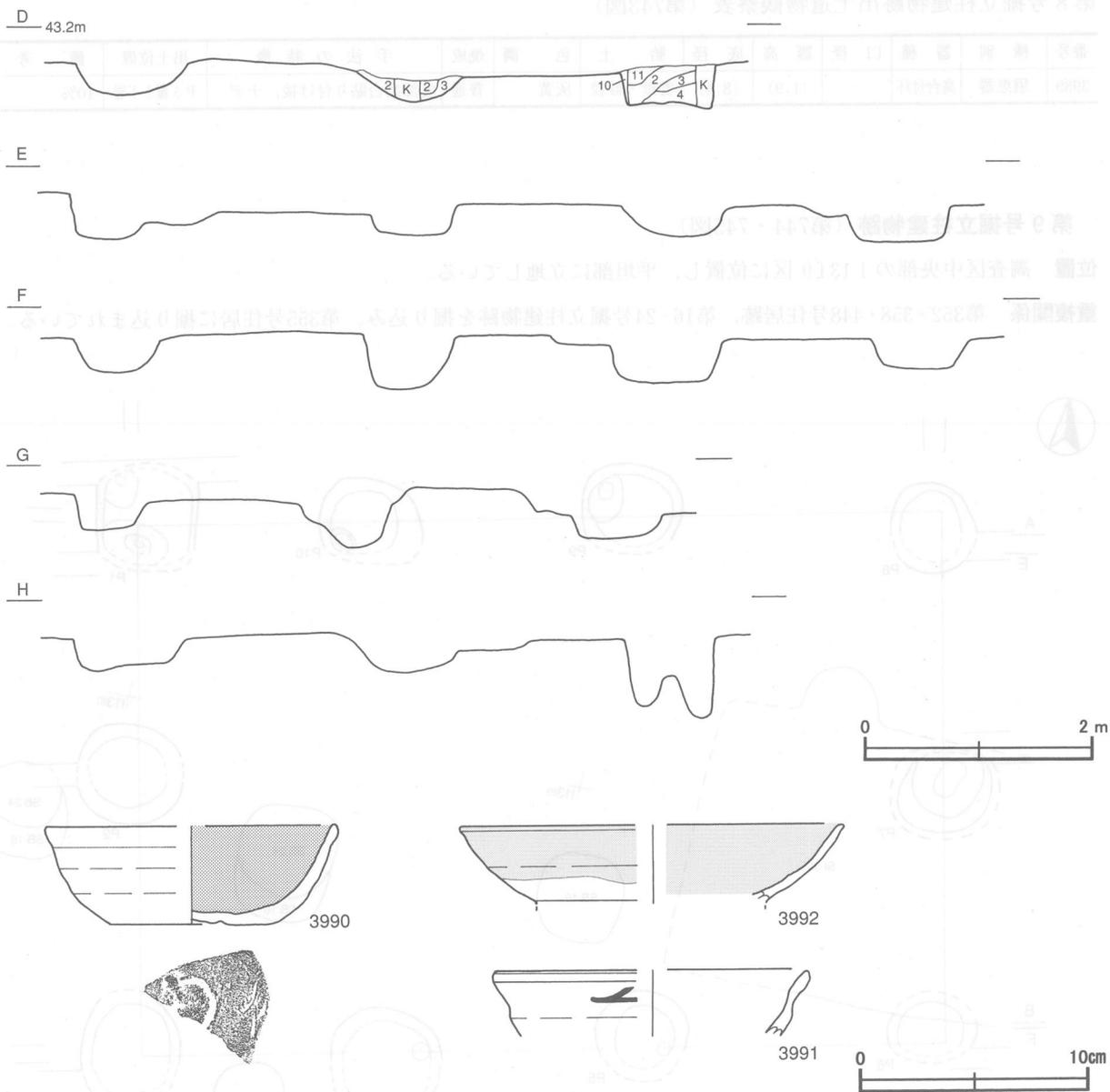
第9号掘立柱建物跡 (第744・745図)

位置 調査区中央部のI13f9区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第352・358・448号住居跡、第16・24号掘立柱建物跡を掘り込み、第355号住居に掘り込まれている。



第744図 第9号掘立柱建物跡実測図



第745図 第9号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

規模と構造 桁行3間(平均7.0m)、梁間2間(平均4.6m)の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-78°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行と梁間のいずれも約2.1~2.4mで、面積は約32.2㎡である。

柱穴 10か所(P1~P10)で、平面形は長径0.8~1.0m、短径0.7~0.8mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状を呈し、深さは0.3~0.7mである。

土層解説(各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量(縮まり弱い)
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量(縮まり弱い)
- 9 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量(縮まり弱い)
- 10 黒褐色 ロームブロック微量(縮まり弱い)
- 11 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量(縮まり弱い)

遺物出土状況 土師器片133点（坏41，高台付坏6，甕84，甑2），須恵器片11点（坏6，甕5），灰釉陶器片1点（椀），石器1点（砥石），礫片9点が出土している。これらの遺物はすべて細片であり，埋土中に混入したものや，後世の攪乱により混入したものと考えられる。3990はP1，3992はP2のいずれも覆土中から出土し，3991はP4の覆土上層から出土している。

所見 柱穴の規模，柱間寸法などに規則性が認められる。なお，本跡を含む4棟の掘立柱建物跡は，4期に渡って建て替えが行われているが，本跡が最終期である。第1期と比較すると，ほぼ同じ規模を維持しながら北西方向へと移動している。また，重複関係から，時期は9世紀後葉と考えられる。

第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第745図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3990	土師器	坏	[12.6]	4.4	6.8	長石・雲母・砂粒	にぶい黄褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	P1覆土中	15%
3991	土師器	坏	[13.6]	(2.9)	-	雲母・砂粒	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	P4覆土上層	5% 墨書「□」
3992	灰釉陶器	椀	[16.6]	(3.4)	-	緻密	灰白・黄灰	良好	体部内・外面ロクロナデ，釉浸け掛け	P2覆土中	5% 猿投産

第10号掘立柱建物跡（第746図）

位置 調査区西部のF8a0区に位置し，緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第523号住居跡を掘り込み，第522・524・525号住居，第1021・1086号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間（平均5.5m），梁間2間（平均4.3m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はN-81°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行約1.8m，梁間約2.1mで，面積は約23.6㎡である。

柱穴 柱穴は第522号住居に掘り込まれている2か所を除いて8か所（P1～P8）で確認され，平面形は長径0.5～1.1m，短径0.5～0.9mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し，深さは0.1～0.8mである。また，柱の抜き取り痕はP2～P6・P8で認められ，柱材は径15～26cmと推定される。なお，第1層は柱の抜き取り痕である。

土層解説（各柱穴共通）

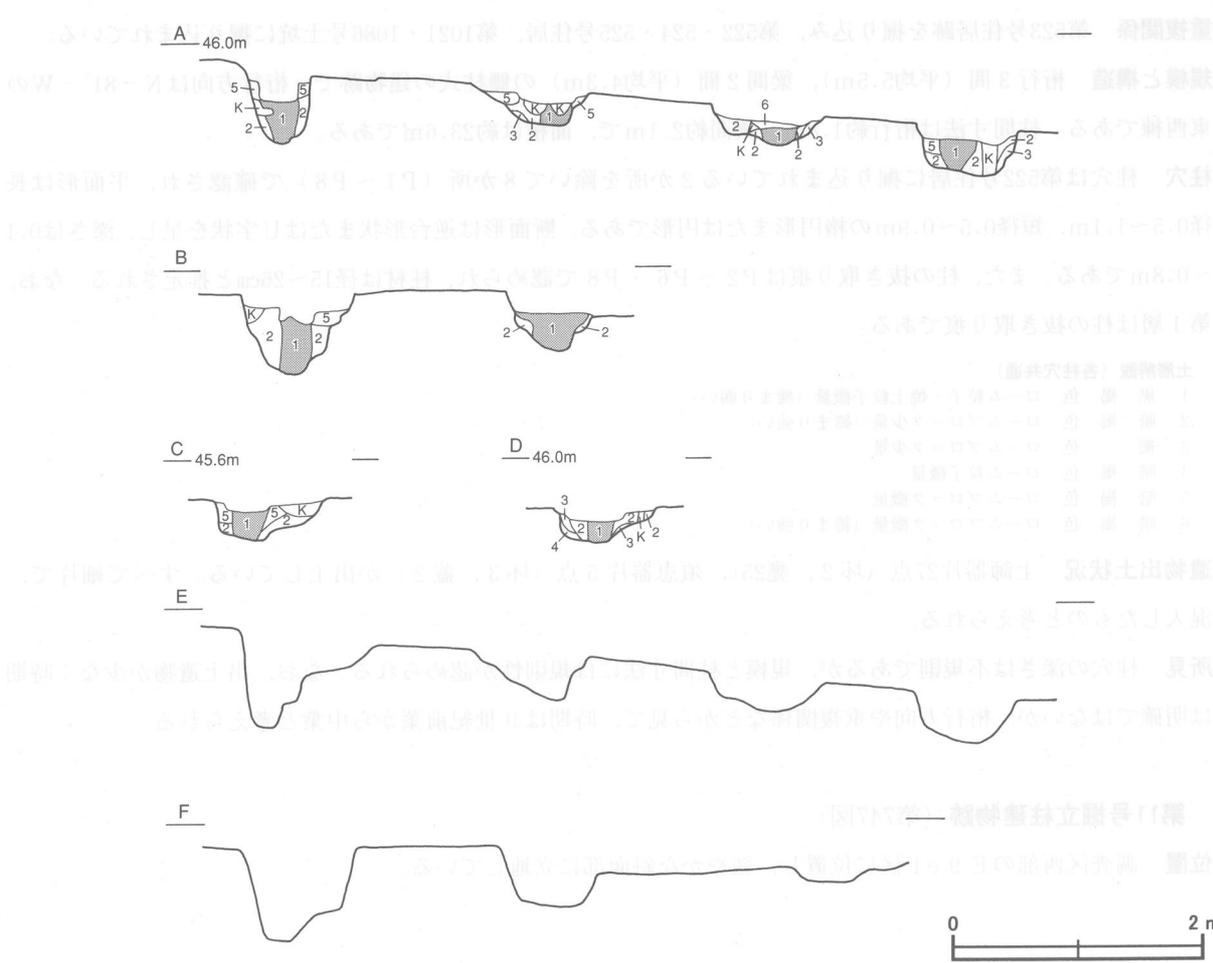
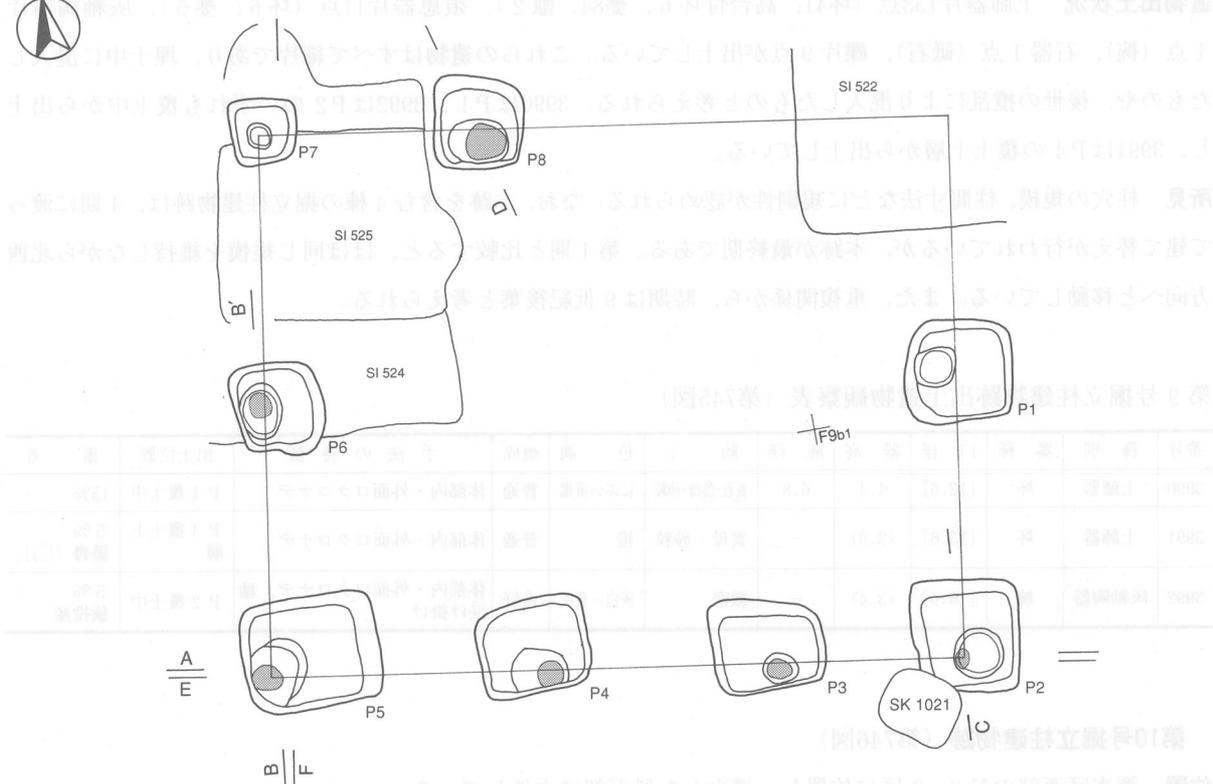
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量（締まり弱い）
- 2 暗褐色 ロームブロック少量（締まり強い）
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック微量（締まり強い）

遺物出土状況 土師器片27点（坏2，甕25），須恵器片5点（坏3，蓋2）が出土している。すべて細片で，混入したものと考えられる。

所見 柱穴の深さは不規則であるが，規模と柱間寸法には規則性が認められる。なお，出土遺物が少なく時期は明確ではないが，桁行方向や重複関係などから見て，時期は9世紀前葉から中葉と考えられる。

第11号掘立柱建物跡（第747図）

位置 調査区西部のE9e1区に位置し，緩やかな斜面部に立地している。



第746図 第10号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第491・492号住居跡を掘り込み、第4号道路、第28号溝、第1087・1332号土坑に掘り込まれている。なお、重複している第1039・1040号土坑とは切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間（平均7.4m）、梁間2間（平均4.8m）の側柱式の建物跡で、桁行方向は、N-87°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行、梁間とも約2.5mで、面積は約35.5㎡である。

柱穴 10か所（P1～P10）で、平面形が長径0.3～0.6m、短径0.3～0.4mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.5～0.9mである。また、柱の抜き取り痕はすべての柱穴で認められ、その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径16～22cmと推定される。

土層解説（各柱穴共通）

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量（締まり弱い）
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量（締まり強い）
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ロームブロック少量（締まり強い）
- 6 暗 褐 色 ロームブロック少量（締まり強い）
- 7 暗 褐 色 ロームブロック少量（締まり強い）
- 8 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 9 褐 色 ロームブロック少量
- 10 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片60点（坏24、高台付坏3、甕33）、須恵器片5点（坏2、蓋2、甕1）、礫片3点が、覆土中から出土している。すべて細片で、混入したものと考えられる。

所見 同様の平面形状を持つ第12号掘立柱建物跡とは柱筋を揃えて並列するように建てられており、同時期に機能していたものと推測される。しかし、柱穴の規模と柱間寸法には規則性が認められるものの、柱間寸法や規模が、当該期の掘立柱建物跡とは異なっている。以上から、他の掘立柱建物跡とは異なる用途で使用されたものと推測されるが、詳細については不明である。また、桁行方向や重複関係などから見て、時期は10世紀前半と考えられる。

第12号掘立柱建物跡（第748図）

位置 調査区西部のE9c1区に位置し、緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第489号住居跡を掘り込み、第485号住居、第1047・1048号土坑に掘り込まれている。なお、隣接している第13号掘立柱建物跡、第1035・1045・1089・1323・1329号土坑とは切り合いがなく新旧関係は不明である。

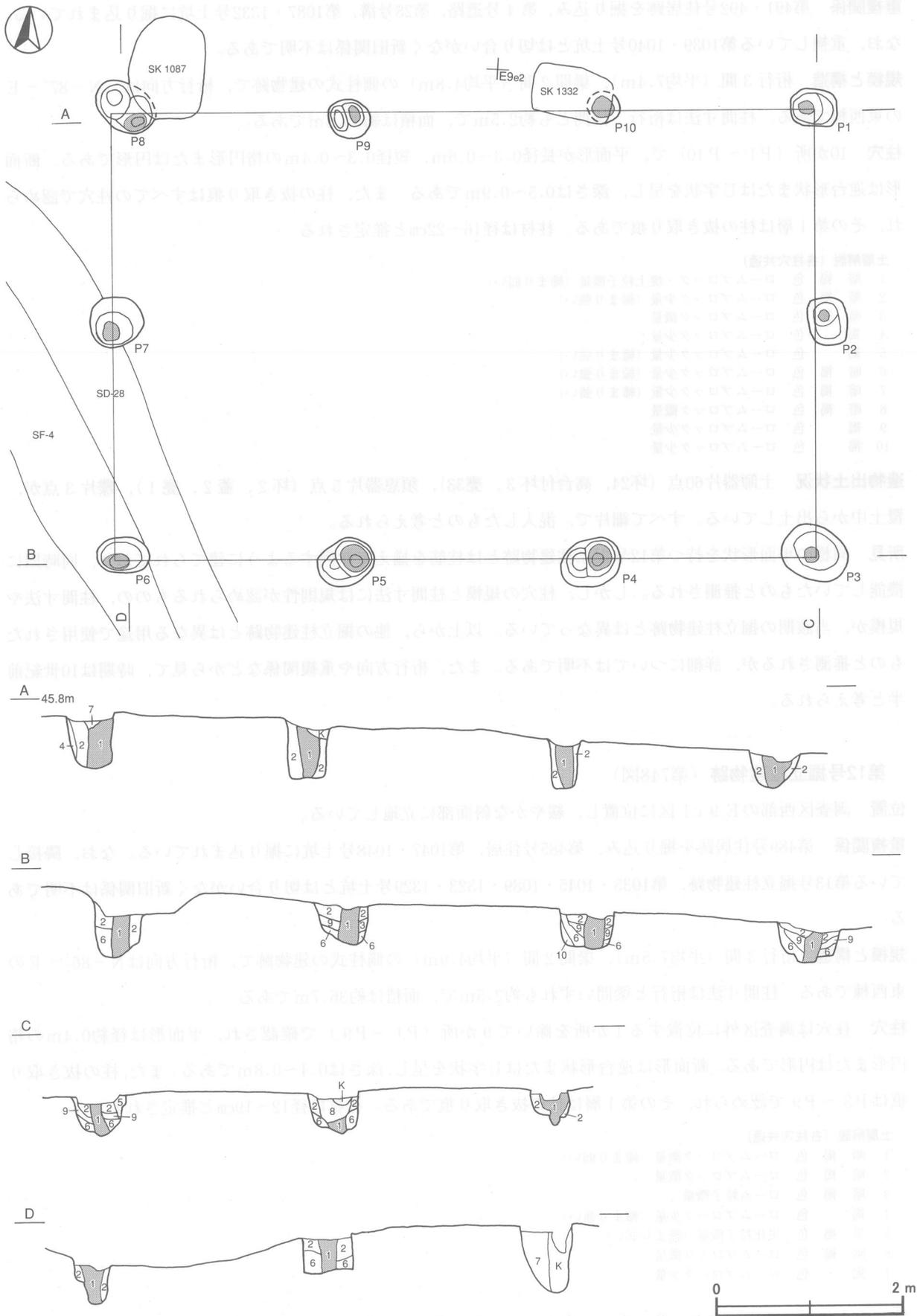
規模と構造 桁行3間（平均7.5m）、梁間2間（平均4.9m）の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-86°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行と梁間いずれも約2.5mで、面積は約36.7㎡である。

柱穴 柱穴は調査区外に位置する1か所を除いて9か所（P1～P9）で確認され、平面形は径約0.4mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.4～0.8mである。また、柱の抜き取り痕はP3～P9で認められ、その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径12～19cmと推定される。

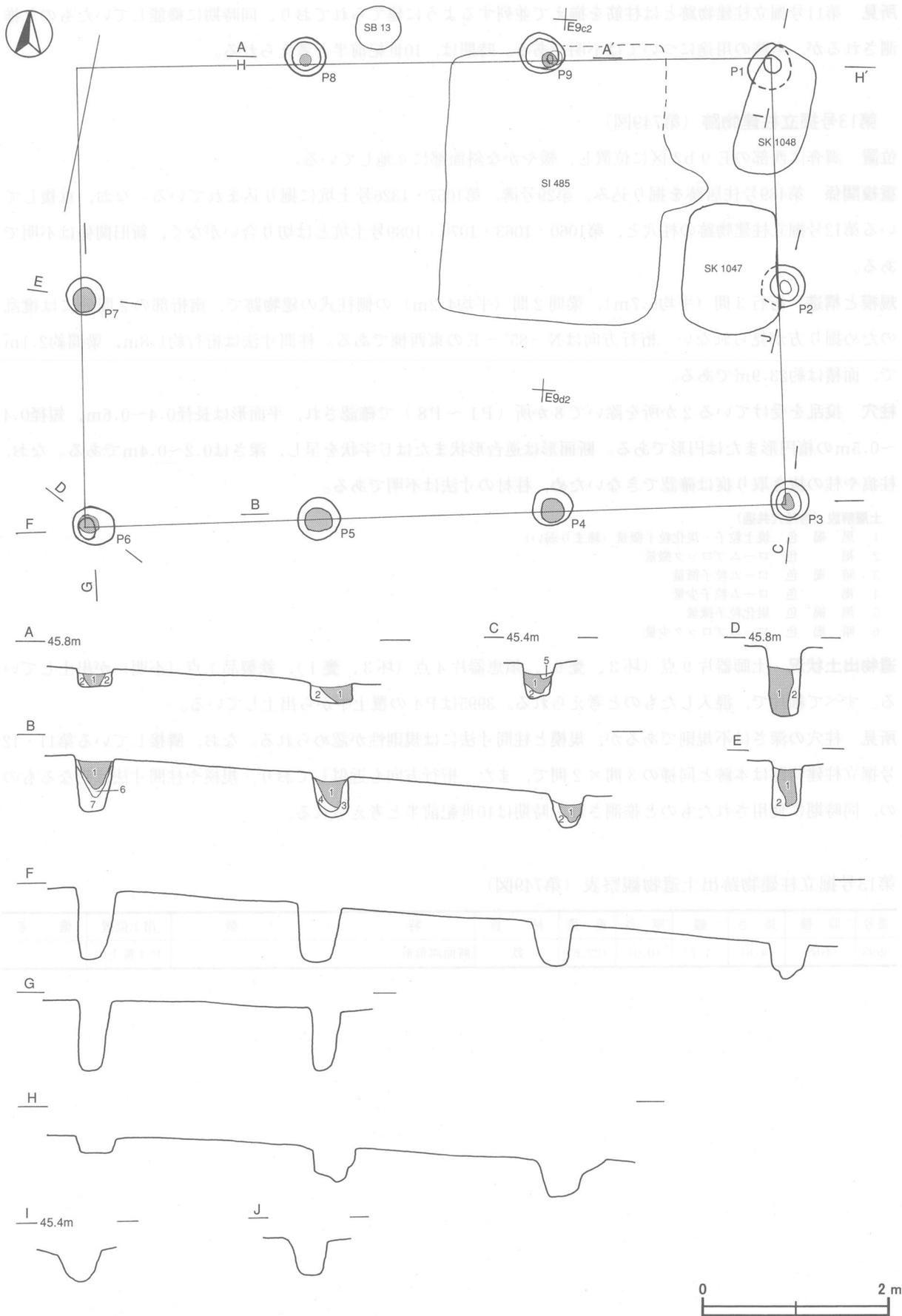
土層解説（各柱穴共通）

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量（締まり弱い）
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量（締まり強い）
- 5 黒 褐 色 炭化粒子微量（締まり弱い）
- 6 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 7 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 礫片1点が、覆土中から出土している。混入したものと考えられる。



第747図 第11号掘立柱建物跡実測図



第748図 第12号掘立柱建物跡実測図

所見 第11号掘立柱建物跡とは柱筋を揃えて並列するように建てられており、同時期に機能していたものと推測されるが、本跡の用途については不明である。時期は、10世紀前半と考えられる。

第13号掘立柱建物跡（第749図）

位置 調査区西部のE9b2区に位置し、緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第489号住居跡を掘り込み、第29号溝、第1057・1326号土坑に掘り込まれている。なお、重複している第12号掘立柱建物跡の柱穴と、第1060・1063・1070・1089号土坑とは切り合いがなく、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間（平均5.7m）、梁間2間（平均4.2m）の側柱式の建物跡で、南桁部の2間分には攪乱のため掘り方が見られない。桁行方向はN-85°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行約1.8m、梁間約2.1mで、面積は約23.9㎡である。

柱穴 攪乱を受けている2か所を除いて8か所（P1～P8）で確認され、平面形は長径0.4～0.6m、短径0.4～0.5mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.2～0.4mである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できないため、柱材の寸法は不明である。

土層解説（各柱穴共通）

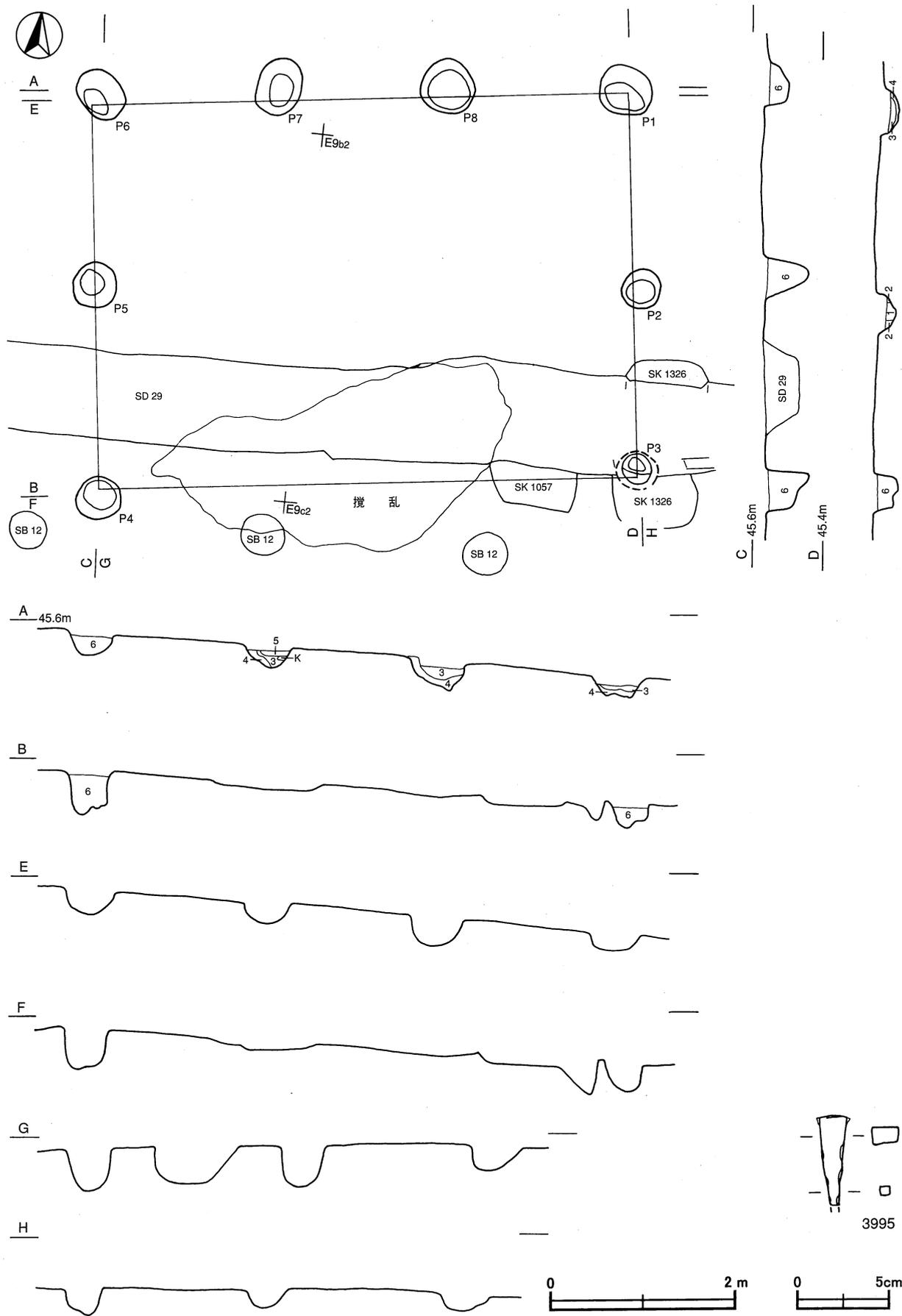
- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量（締まり弱い）
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片9点（坏3，甕6）、須恵器片4点（坏3，甕1）、鉄製品1点（不明）が出土している。すべて細片で、混入したものと考えられる。3995はP4の覆土中から出土している。

所見 柱穴の深さは不規則であるが、規模と柱間寸法には規則性が認められる。なお、隣接している第11・12号掘立柱建物跡は本跡と同様の3間×2間で、また、桁行方向も近似しており、規模や柱間寸法は異なるものの、同時期に使用されたものと推測され、時期は10世紀前半と考えられる。

第13号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第749図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3995	不明	(4.8)	(1.7)	(0.9)	(22.6)	鉄	断面四角形	P4覆土中	



第749图 第13号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第14号掘立柱建物跡 (第750図)

位置 調査区南部のK12e1 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第1237・1238号土坑を掘り込み、第436・437号住居、第876・1190号土坑に掘り込まれている。なお、重複している第874号土坑とは切り合いがなく、新旧関係は不明である。

規模と構造 大半が調査区域外に延びているため、確認できたのは2間だけで、柱間寸法は約2.1mであり、棟方向は不明である。

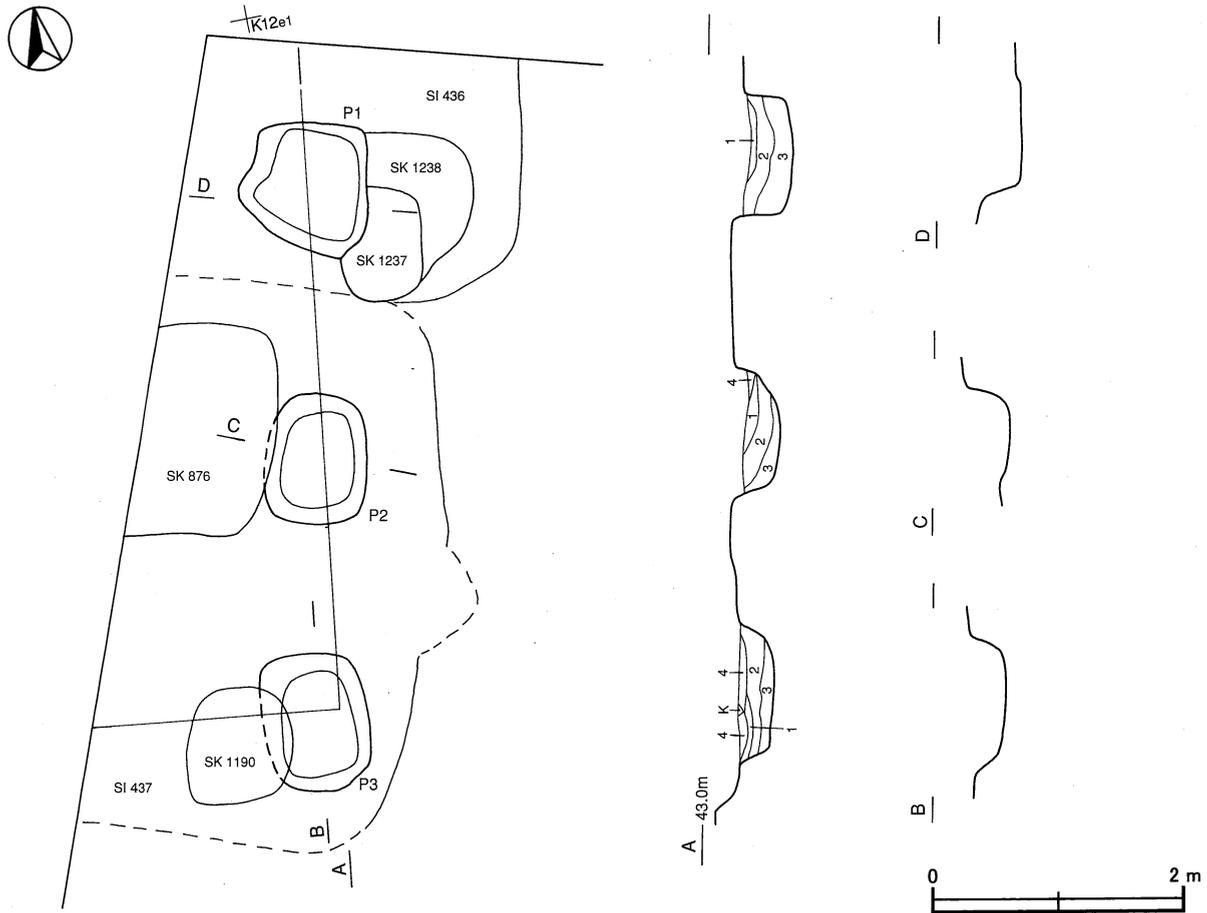
柱穴 掘り方は3か所 (P1～P3) だけが確認でき、平面形が長径1.0～1.1m、短径約0.8mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状を呈し、深さは0.3～0.6mである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかったため、柱材の寸法は不明である。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック微量 (締まり強い)
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量 (締まり強い)
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片70点(坏33, 高台付坏3, 甕31, 甑3), 須恵器片3点(坏), 鉄滓1点, 礫片1点が、覆土中から出土している。大半が細片で、混入したものである。

所見 大半が調査区域外に延びているため、規模や構造については判然としませんが、柱穴の深さや掘り方の規模、柱間寸法には規則性が認められる。また、四面庇を有する第20号掘立柱建物跡や南側に庇を有する第39号



第750図 第14号掘立柱建物跡実測図

掘立柱建物跡とは、桁行方向が近似しており、官衙の様相が強い。当時、本跡が位置する調査区南部から当遺跡の西側にかけては、第20号掘立柱建物跡を中心に計画的に配置された建物群が存在していたものと考えられ、時期は9世紀中葉前後と考えられる。

第16号掘立柱建物跡（第751・752図）

位置 調査区中央部のI13f9区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第350・352・358・449号住居跡、第23・24号掘立柱建物跡、第703号土坑を掘り込み、第9号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間（平均7.2m）、梁間2間（平均4.9m）の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-87°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行、梁間とも約2.4mで、面積は約35.3㎡である。

柱穴 10か所（P1～P10）で、平面形が長径0.7～1.0m、短径0.6～0.9mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状を呈し、深さは0.1～0.5mである。また、柱の抜き取り痕はP5～P7・P9・P10で認められ、その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径16～22cmと推定される。

土層解説（各柱穴共通）

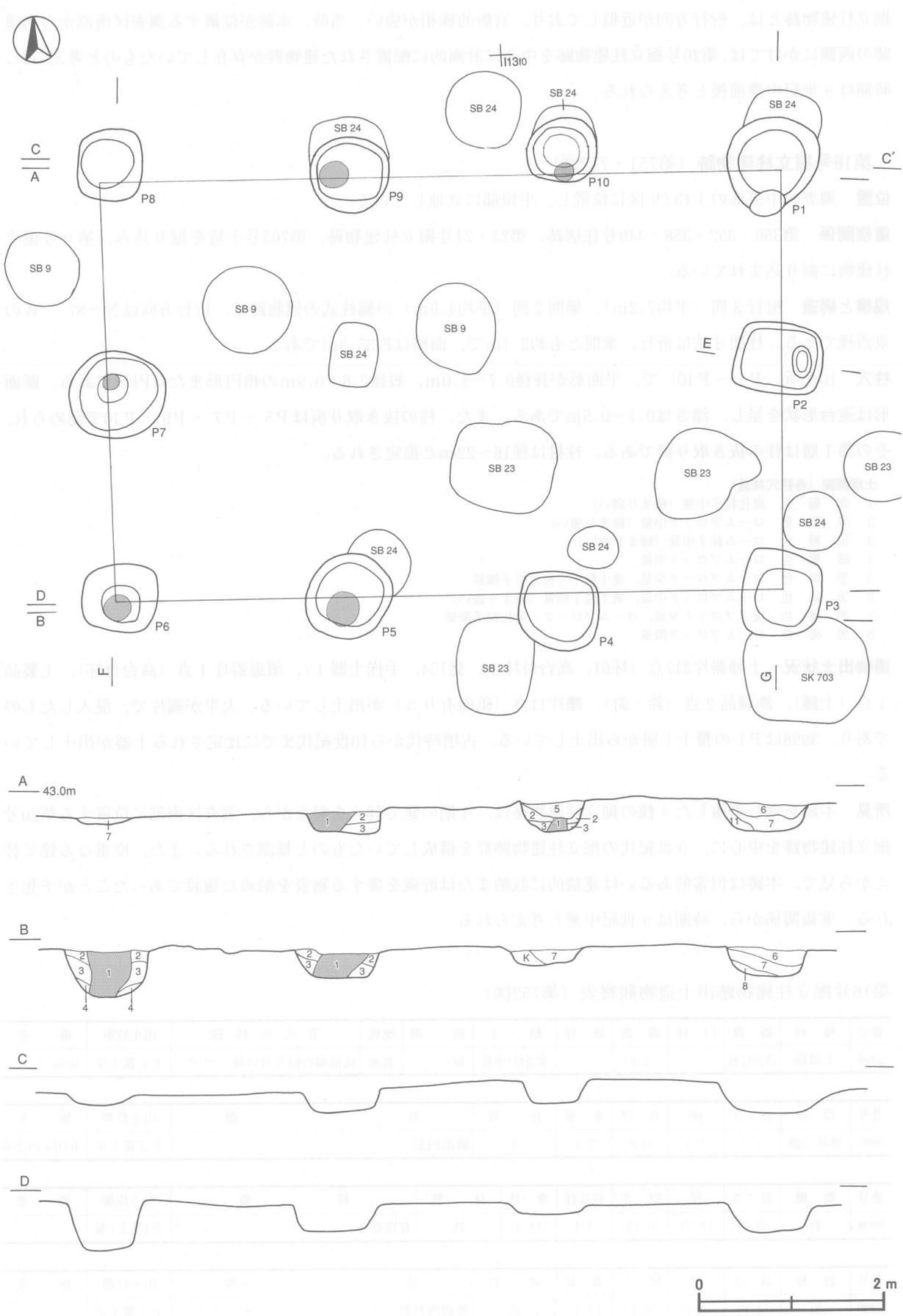
- 1 黒褐色 炭化粒子中量（締まり弱い）
- 2 黒褐色 ロームブロック中量（締まり強い）
- 3 黒褐色 ローム粒子中量（締まり強い）
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量（締まり強い）
- 7 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片217点（坏61、高台付坏1、甕154、手捏土器1）、須恵器片1点（高台付坏）、土製品1点（土錘）、鉄製品2点（鈴・釘）、礫片11点（砥面有り3）が出土している。大半が細片で、混入したものであり、3998はP1の覆土上層から出土している。古墳時代から10世紀代までに比定される土器が出土している。

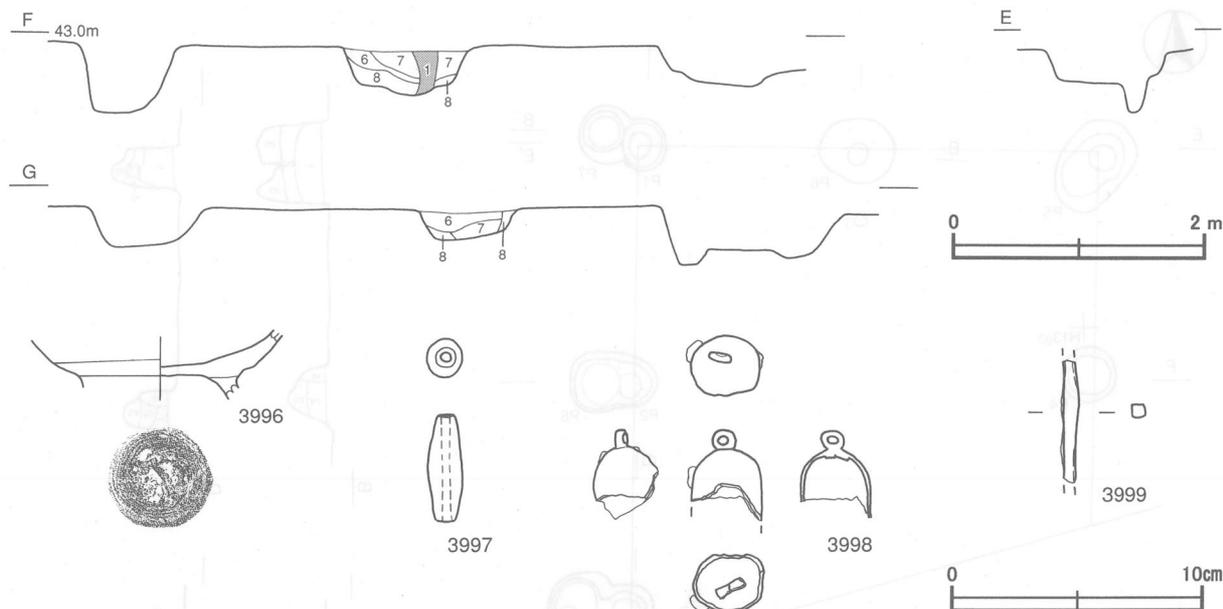
所見 本跡を含む重複した4棟の掘立柱建物跡は、4期の建て替えを経ながら、調査区南部に位置する第20号掘立柱建物跡を中心に、9世紀代の掘立柱建物跡群を構成していたものと推測される。また、度重なる建て替えから見て、本跡は恒常的あるいは連続的に収納または貯蔵を要する物資を納めた施設であったことが予想される。重複関係から、時期は9世紀中葉と考えられる。

第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第752図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3996	土師器	高台付椀	-	(2.8)	-	金雲母・砂粒	橙	普通	底部高台貼り付け後、ナデ	P7覆土中	30%
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3997	管状土錘	4.3	1.4	0.3	7.1	土	断面円形		P3覆土中	100% PL260	
番号	器種	長さ	径	厚さ	鈕孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考
3998	鈴	(3.5)	(2.7)	(0.15)	0.4	(11.4)	鉄	有鈕有丸		P1覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3999	釘	(4.9)	(0.7)	(0.5)	(3.2)	鉄	断面四角形		P7覆土中		



第751図 第16号掘立柱建物跡実測図



第752図 第16号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第17号掘立柱建物跡 (第753図)

位置 調査区北部のH13g3区に位置し、平坦部に立地している。

規模と構造 南部が調査区域外のため、調査できたのは桁行・梁間ともに2間(平均3.7m)だけであるが、側柱式の建物跡で、桁行方向はN-0°の南北棟と推定される。柱間寸法は約1.8m、面積は約13.5㎡である。

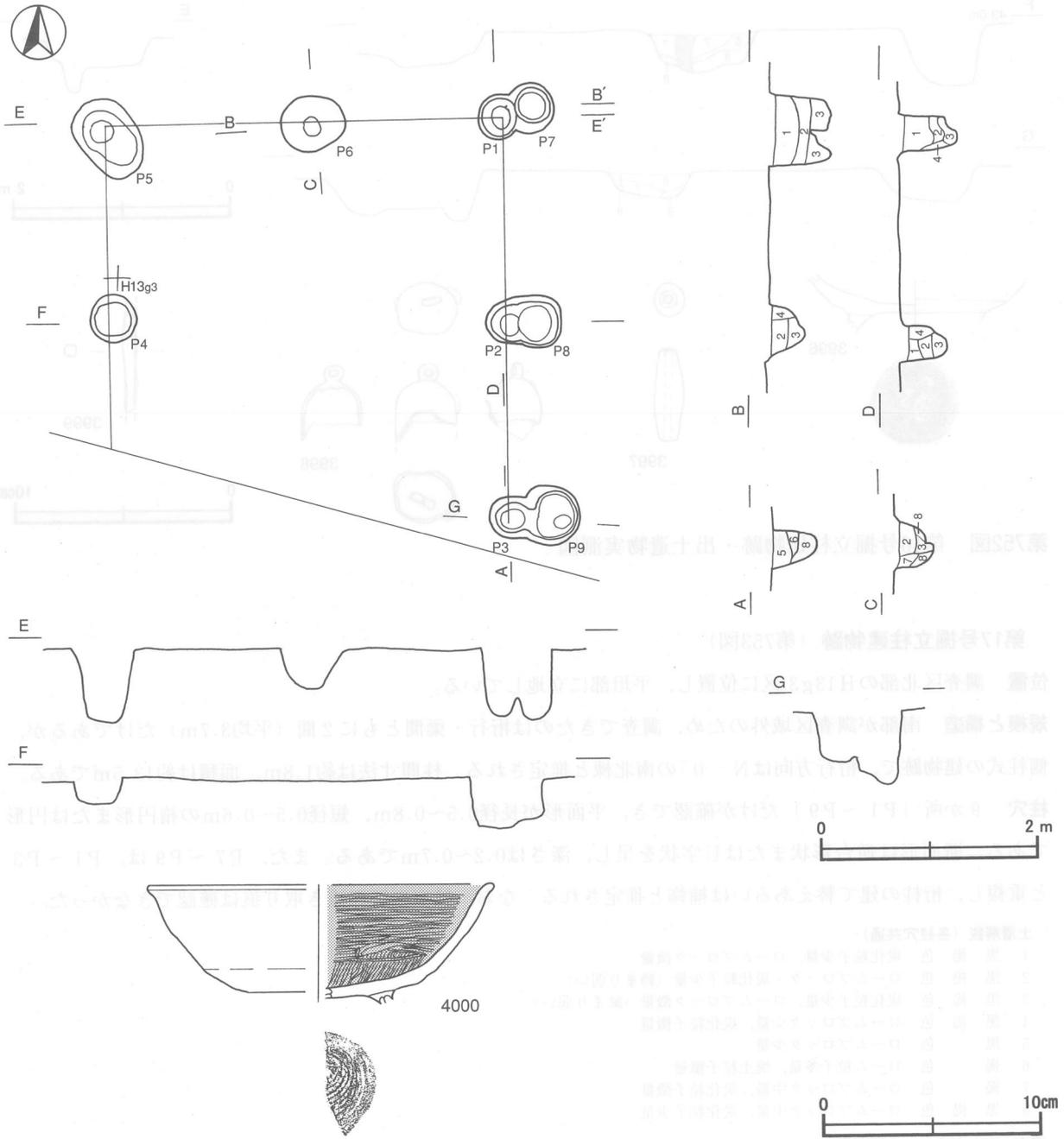
柱穴 9か所(P1~P9)だけが確認でき、平面形が長径0.5~0.8m、短径0.5~0.6mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.2~0.7mである。また、P7~P9は、P1~P3と重複し、桁柱の建て替えあるいは補修と推定される。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | | |
|---|-----|--------------------------|
| 1 | 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量(締まり弱い) |
| 3 | 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量(締まり弱い) |
| 4 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 | 黒色 | ロームブロック少量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 7 | 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 8 | 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片46点(坏9, 高台付坏6, 甕31), 須恵器片4点(坏), 礫片1点が、覆土中から出土している。これらはすべて細片であり、埋土中に混入したものや、攪乱により混入したものと考えられ、図示した土器が相当する。なお、4000はP5の覆土中層から検出されており、埋土中に混入されたものと考えられる。

所見 他の遺構と重複していないため、時期は明確ではないが、埋土中に混入した遺物が10世紀時代に比定されるものであることや、周辺に当該期に比定される住居跡が多数確認されていることから、10世紀代の可能性が高い。なお、P7~P9は、土層観察から見て対応するP1~P3の柱の基礎部分の根腐れなどによる老朽化に際し、新たに建て替えられたものと推測される。



第753図 第17号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第17号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第753図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4000	土師器	高台付碗	[15.6]	(5.4)	-	長石・雲母・砂粒	黒	普通	体部内面ヘラ磨き	P 5 覆土中	40%

第18号掘立柱建物跡 (第754・755図)

位置 調査区中央部のK12d8区に位置し、平坦部に立地している。

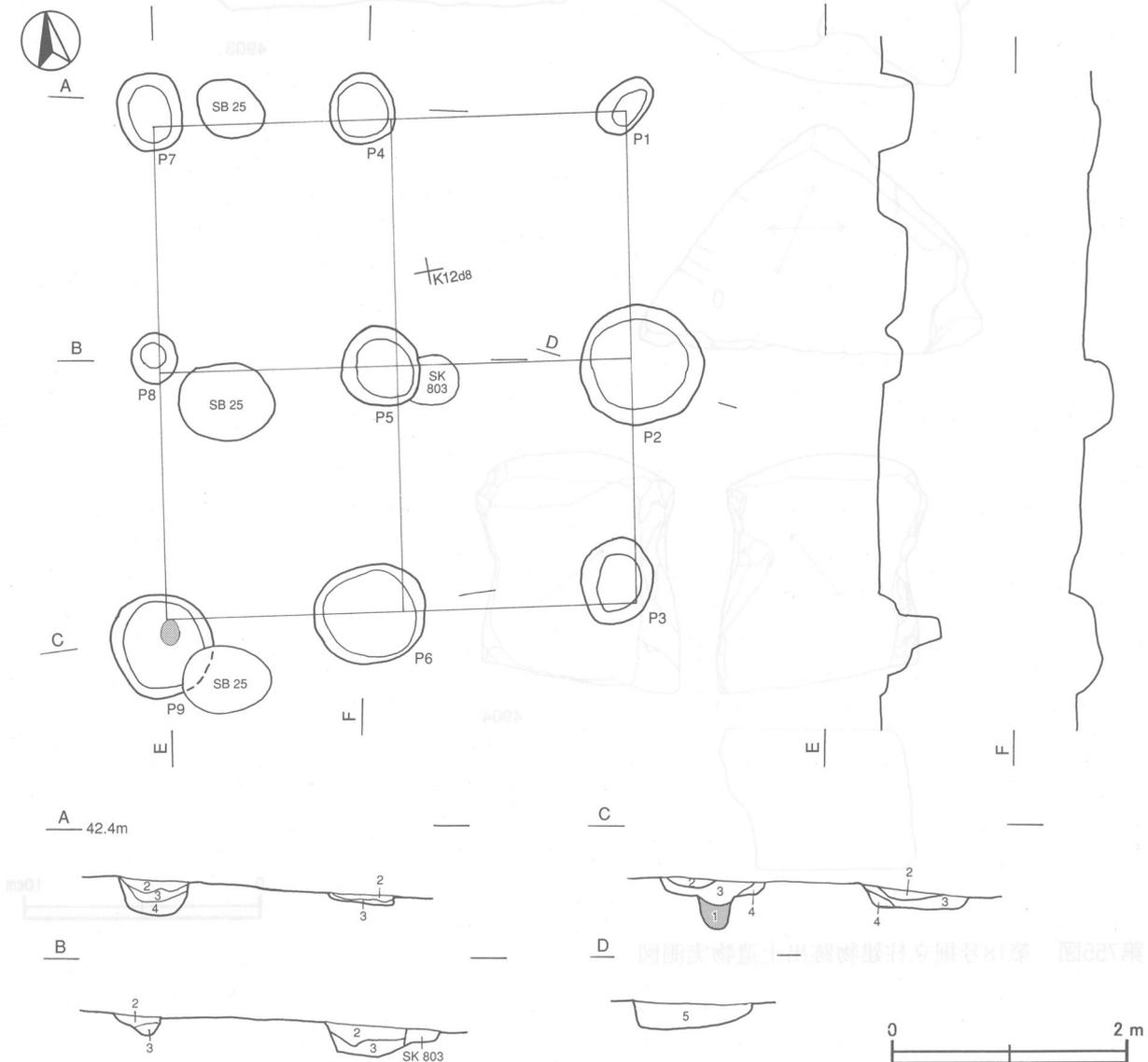
重複関係 第803号土坑を掘り込み、第25号掘立柱建物に掘り込まれている。なお、重複している第801・813・867・869号土坑とは切り合いがないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間(平均4.2m)、梁間2間(平均4.0m)の総柱式の建物跡で、桁行方向は、N-10°-Eの南北棟である。柱間寸法は桁行、梁間とも2.1mで、面積は約16.8㎡である。

柱穴 9か所(P1~P9)で、平面形が長径0.4~1.1m、短径0.4~1.0mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.1~0.5mである。柱の抜き取り痕はP9で認められ、その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径16cmほどと推定される。

土層解説 (各柱穴共通)

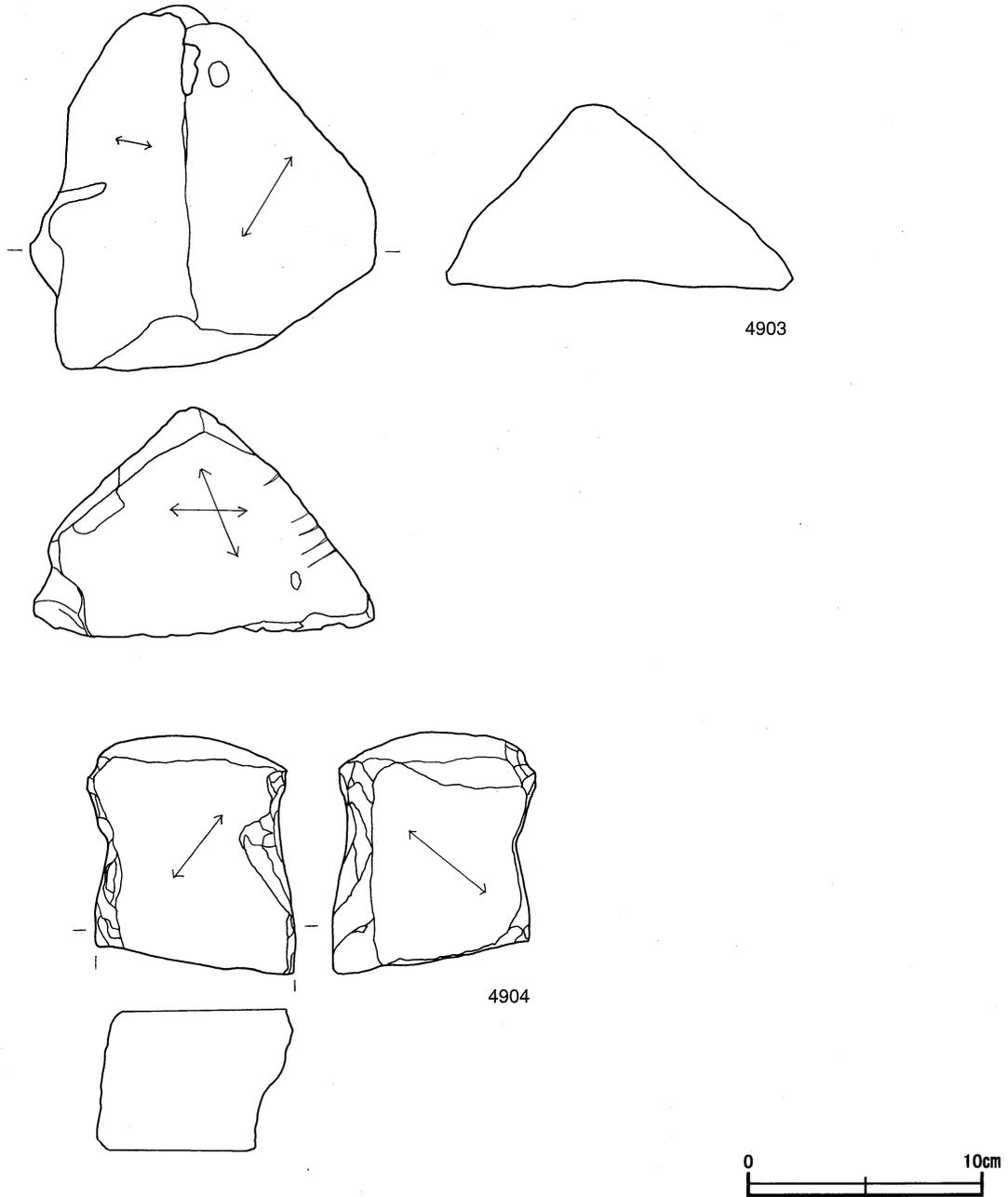
- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・鹿沼パミス微量 (縮まり弱い)
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量 (縮まり弱い)
- 5 黒色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量



第754図 第18号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片57点(坏30, 高台付坏3, 甕24), 須恵器片3点(坏2, 甕1), 鉄滓1点, 礫8点(被熱痕有り2)が出土している。これらの遺物は, 埋土中に混入したものや, 攪乱により混入したものと考えられ, 図示した土器が相当する。

所見 本跡を含む, 重複している3棟の掘立柱建物跡は, 3期に渡って連続して建て替えが行われているが, 本跡が第1期と考えられ, 本跡以降, 北西方向へと移動している。また, 重複関係と桁行方向から見て, 時期は9世紀前葉と考えられる。



第755図 第18号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第18号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第755図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4903	砥石	(20.0)	(19.4)	(10.6)	(4030.0)	凝灰岩	砥面3面	P2 覆土中	PL268
4904	砥石	(10.3)	(8.8)	6.0	(970.0)	凝灰岩	砥面2面	P2 覆土中層	PL269

第19号掘立柱建物跡 (第756図)

位置 調査区中央部のK12c6区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第25号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間(平均4.5m)、梁間2間(平均3.8m)の総柱式の建物跡で、桁行方向はN-10°-Eの南北棟である。柱間寸法は桁行約2.4m、梁間約2.1mで、面積は約17.1㎡である。

柱穴 8か所(P1~P8)で、平面形が長径0.6~1.1m、短径0.6~0.9mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状を呈し、深さは0.2~0.6mである。柱の抜き取り痕はP3で認められ、その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径18cm以内と推定される。

土層解説 (各柱穴共通)

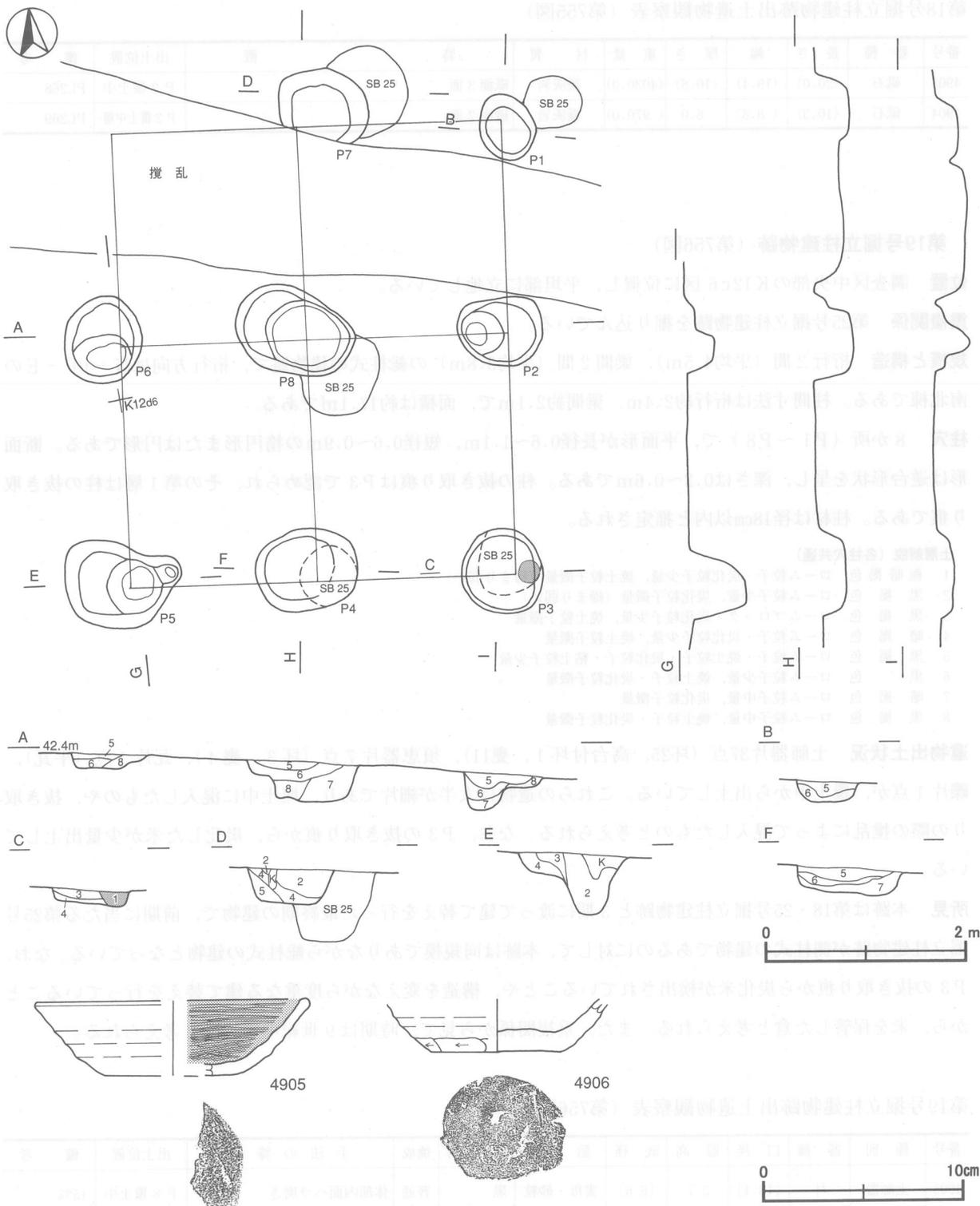
- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量(締まり弱い)
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量(締まり弱い)
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片37点(坏25, 高台付坏1, 甕11), 須恵器片7点(坏3, 甕4), 瓦片1点(平瓦), 礫片1点が、覆土中から出土している。これらの遺物は大半が細片であり、埋土中に混入したものや、抜き取りの際の攪乱によって混入したものと考えられる。なお、P3の抜き取り痕から、炭化した米が少量出土している。

所見 本跡は第18・25号掘立柱建物跡と3期に渡って建て替えを行った最終期の建物で、前期に当たる第25号掘立柱建物跡が側柱式の建物であるのに対して、本跡は同規模でありながら総柱式の建物となっている。なお、P3の抜き取り痕から炭化米が検出されていることや、構造を変えながら度重なる建て替えを行っていることから、米を保管した倉と考えられる。また、重複関係から見て、時期は9世紀中葉以降と考えられる。

第19号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第756図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4905	土師器	坏	[13.4]	3.7	[6.6]	雲母・砂粒	黒	普通	体部内面へラ磨き	P8 覆土中	15%
4906	須恵器	坏	-	(2.6)	6.4	雲母・石英	におい黄橙	普通	底部回転へラ切り後、ナデ	P7 覆土中	25%



第756図 第19号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第20号掘立柱建物跡（第757～759図）

位置 調査区部のK11j9区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第452・458号住居跡，第948・955・956・990号土坑を掘り込み，第450・451号住居，第910・924・1102・1111・1131・1216・1241号土坑に掘り込まれている。なお，第926・930・939・946・947・949・991・1227・1292号土坑とは切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と構造 身舎は桁行3間(平均7.3m)、梁間2間(平均4.2m)で、四面庇(平均約12.0m×8.4m)を有する建物跡である。また、桁行方向はN-86°-Wの東西棟である。面積は約30.6㎡で、四面庇を含めた面積は約100.8㎡である。

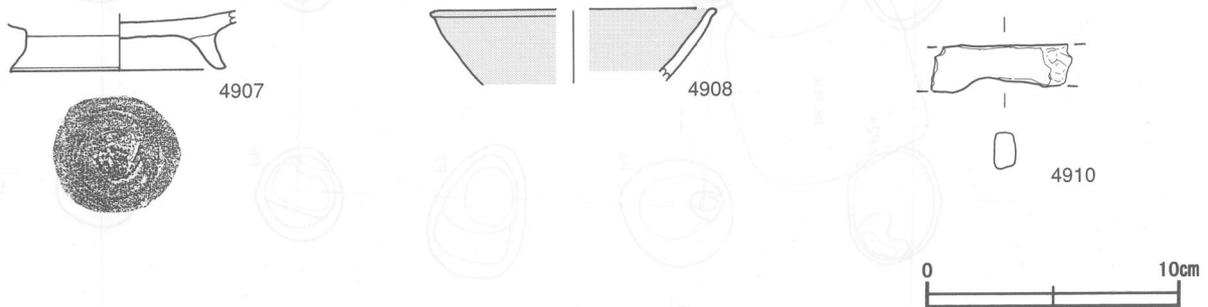
柱穴 27か所(P1~P27)で、平面形が長径0.7~1.5m、短径0.6~1.0mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.2~0.5mである。また、柱の抜き取り痕はP5で認められ、その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径14cm以内と推定される。

土層解説(各柱穴共通)

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量(締め弱い)
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片466点(坏204, 高台付坏14, 甕246, 甑2), 須恵器片26点(坏13, 高台付坏2, 甕10, 長頸瓶1), 石器3点(砥石), 鉄製品1点(不明), 鉄滓2点, 礫片19点(砥面有り3)が出土している。これらの遺物はすべて細片であり、埋土中に混入したものや、攪乱により混入したものと考えられ、図示した遺物が相当する。

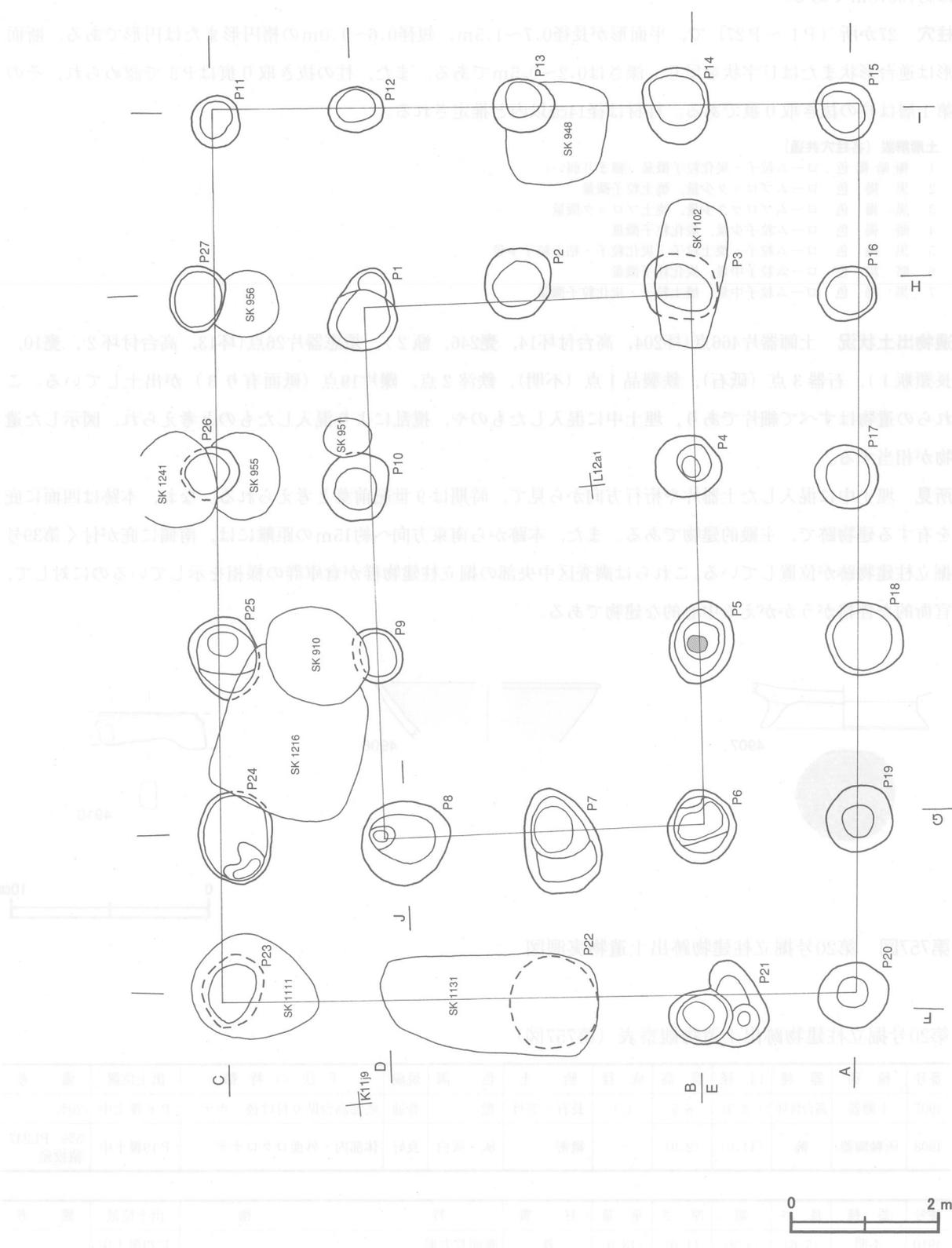
所見 埋土中に混入した土器片や桁行方向から見て、時期は9世紀前葉と考えられる。なお、本跡は四面に庇を有する建物跡で、主殿の建物である。また、本跡から南東方向へ約15mの距離には、南側に庇が付く第39号掘立柱建物跡が位置している。これらは調査区中央部の掘立柱建物群が倉庫群の様相を示しているのに対して、官衙的な性格がうかがえる中心的な建物である。



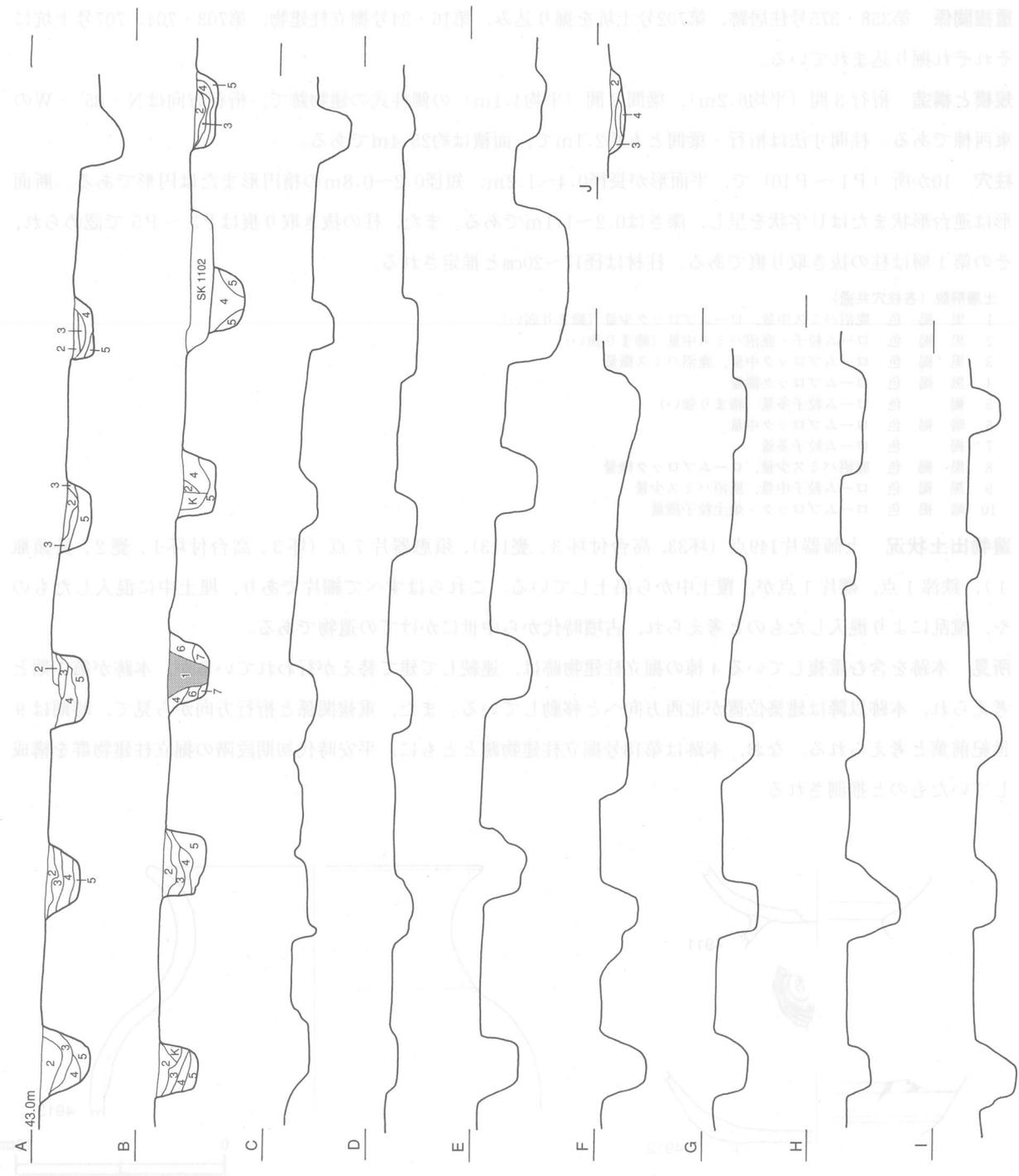
第757図 第20号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第20号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第757図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4907	土師器	高台付坏	(2.3)	8.5	1.1	長石・雲母	橙	普通	底部高台貼り付け後, ナデ	P 6 覆土中	20%
4908	灰釉陶器	椀	[11.0]	(2.9)	-	緻密	灰・灰白	良好	体部内・外面ロクロナデ	P 19 覆土中	5% PL247 猿投産
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
4910	不明	(5.6)	(1.9)	(1.0)	(18.9)	鉄	断面長方形		P 23 覆土中		



第758図 第20号掘立柱建物跡実測図(1)



第759図 第20号掘立柱建物跡実測図(2)

第23号掘立柱建物跡（第760・761図）

位置 調査区中央部のI13g0区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第358・375号住居跡，第702号土坑を掘り込み，第16・24号掘立柱建物，第703・704・707号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間（平均6.2m），梁間2間（平均4.1m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はN-85°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行・梁間とも約2.1mで，面積は約25.4㎡である。

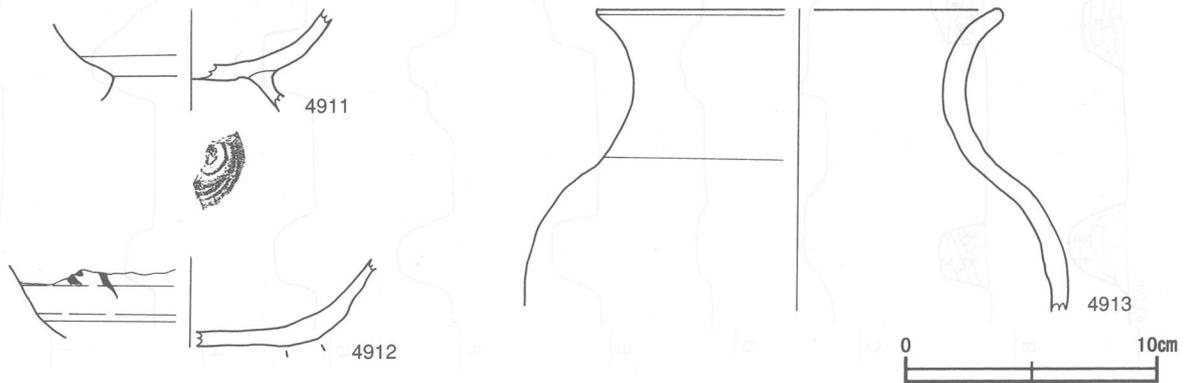
柱穴 10か所（P1～P10）で，平面形が長径0.4～1.2m，短径0.2～0.8mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し，深さは0.2～1.1mである。また，柱の抜き取り痕はP3～P5で認められ，その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径17～20cmと推定される。

土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 鹿沼パミス中量，ロームブロック少量（締まり弱い）
- 2 黒褐色 ローム粒子・鹿沼パミス中量（締まり強い）
- 3 黒褐色 ロームブロック中量，鹿沼パミス微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量（締まり強い）
- 6 暗褐色 ロームブロック中量
- 7 褐色 ローム粒子多量
- 8 黒褐色 鹿沼パミス少量，ロームブロック微量
- 9 黒褐色 ローム粒子中量，鹿沼パミス少量
- 10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片149点（坏33，高台付坏3，甕113），須恵器片7点（坏3，高台付坏1，甕2，長頸瓶1），鉄滓1点，礫片1点，覆土中から出土している。これらはすべて細片であり，埋土中に混入したものや，攪乱により混入したものと考えられ，古墳時代から中世にかけての遺物である。

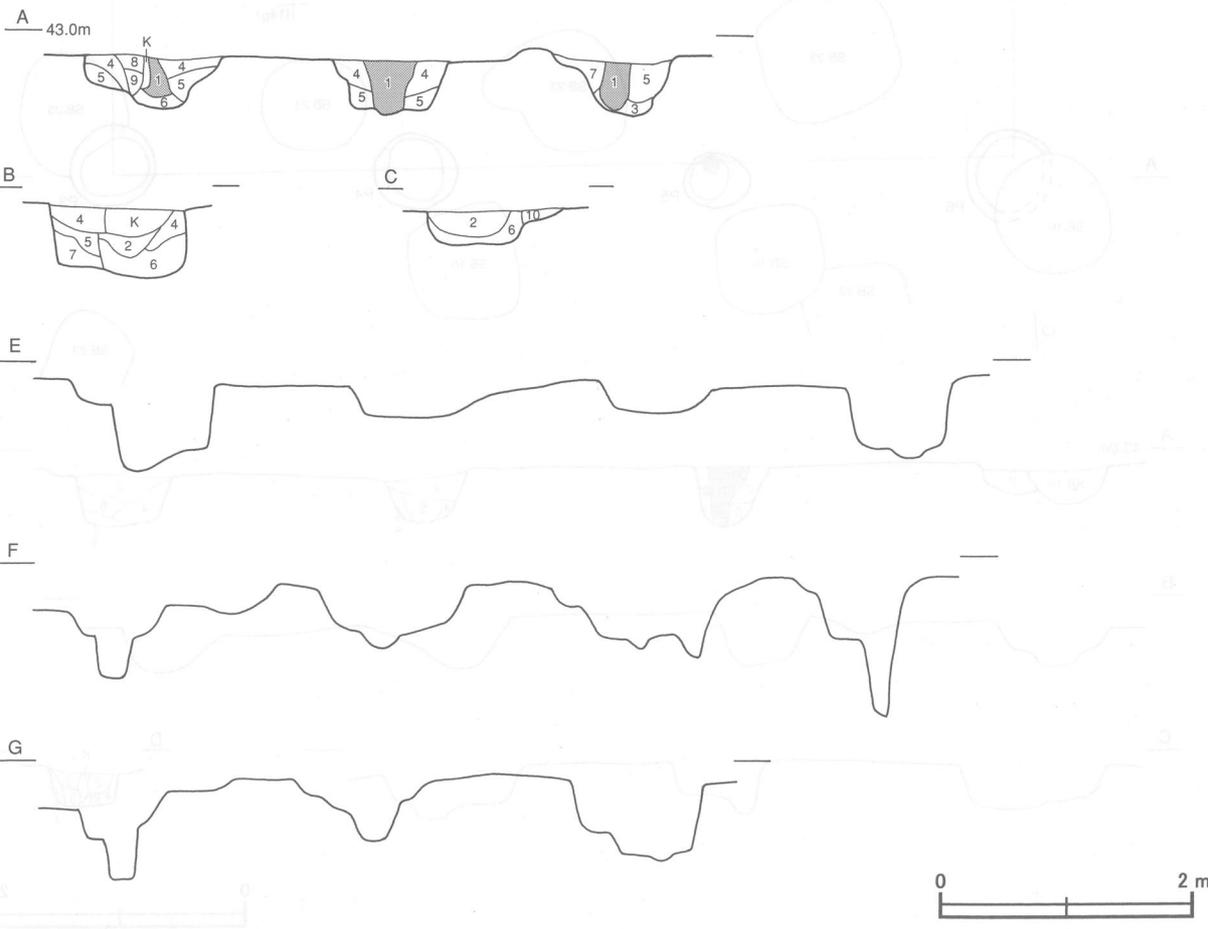
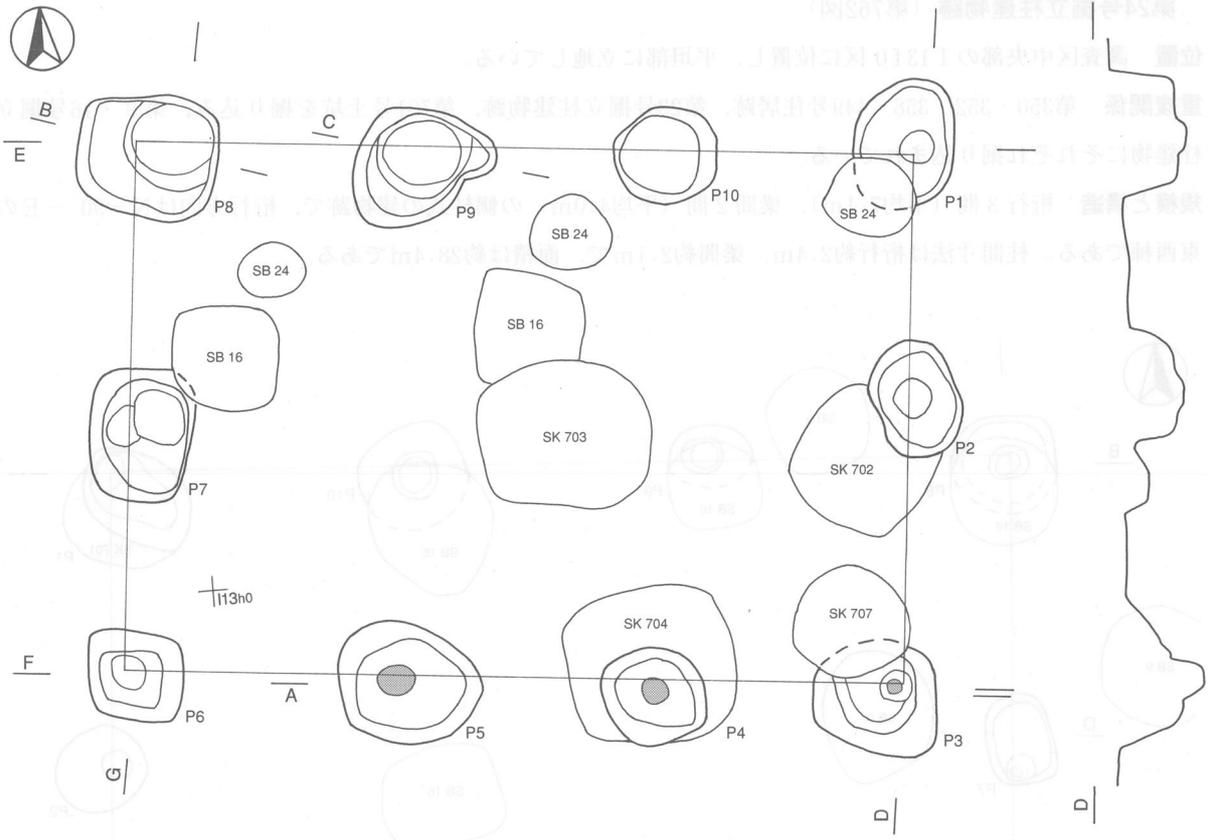
所見 本跡を含む重複している4棟の掘立柱建物跡は，連続して建て替えが行われているが，本跡が第1期と考えられ，本跡以降は建築位置が北西方向へと移動している。また，重複関係と桁行方向から見て，時期は9世紀前葉と考えられる。なお，本跡は第18号掘立柱建物跡とともに，平安時代初期段階の掘立柱建物群を構成していたものと推測される。



第760図 第23号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4911	土師器	高台付碗	-	(4.0)	-	金雲母・砂粒	明褐	普通	底部回転糸切り離し	P4 覆土中	10%
4912	土師器	高台付坏	-	(3.6)	-	長石・雲母・石英	にぶい黄褐	普通	底部高台貼り付け後，ナデ	P4 覆土中	10%，体部墨書「□」
4913	土師器	小形甕	[17.0]	(12.0)	-	長石・雲母・石英	赤褐	普通	口唇部指ナデ，体部外面ナデ	P5 覆土中	15%



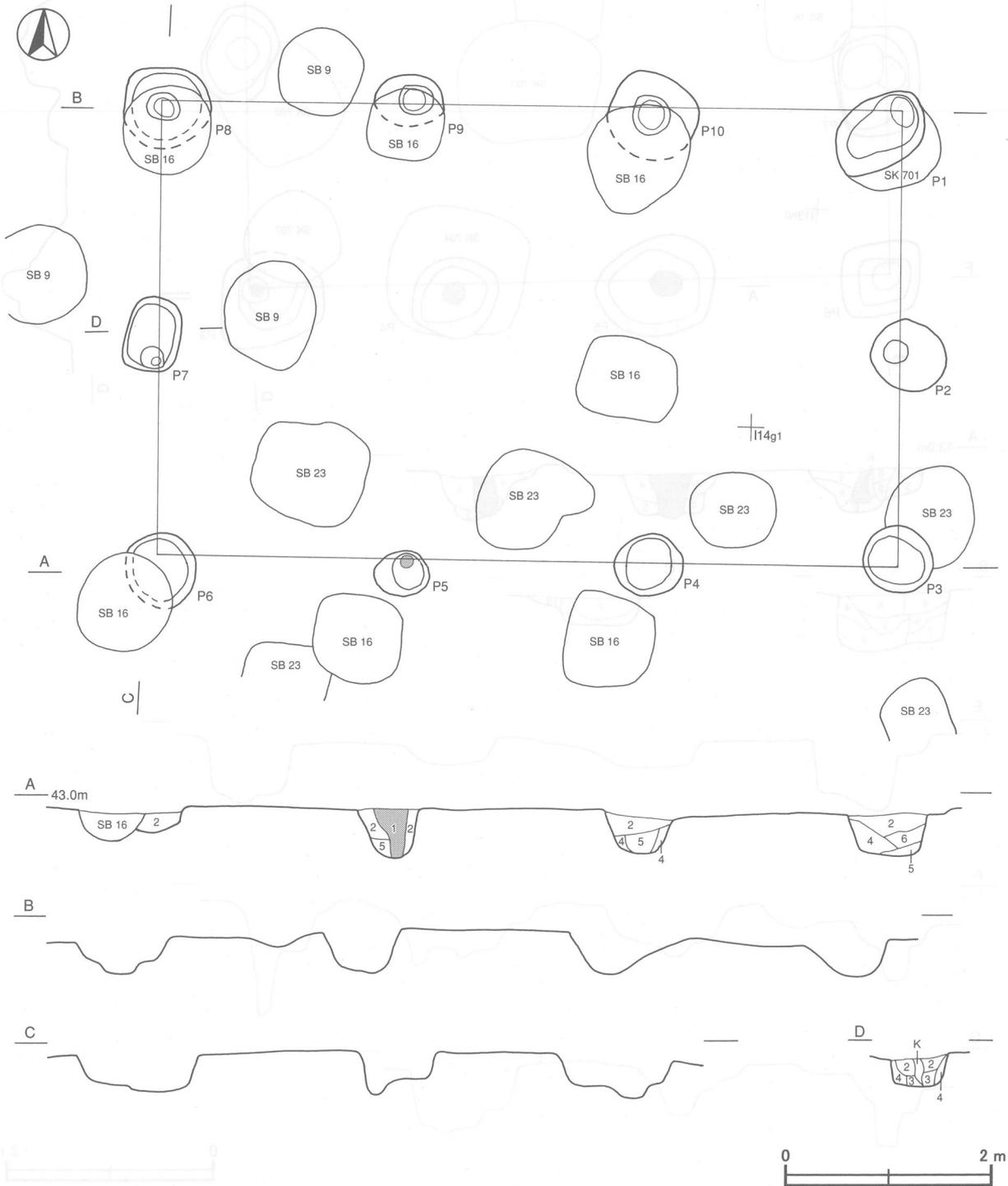
第761図 第23号掘立柱建物跡実測図

第24号掘立柱建物跡 (第762図)

位置 調査区中央部の I13f0 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第350・352・358・449号住居跡，第23号掘立柱建物跡，第701号土坑を掘り込み，第9・16号掘立柱建物にそれぞれ掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間（平均7.1m），梁間2間（平均4.0m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はN-90°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.4m，梁間約2.1mで，面積は約28.4㎡である。



第762図 第24号掘立柱建物跡実測図

柱穴 10か所（P1～10）で、平面形が長径0.6～0.9m、短径0.5～0.6mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.3～0.4mである。また、柱の抜き取り痕はP5で認められ、その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径14～22cmと推定される。

- 土層解説（各柱穴共通）** 各層とも締まりは弱い
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
 - 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 - 3 黒褐色 ロームブロック微量
 - 4 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
 - 5 黒褐色 ローム粒子微量
 - 6 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片59点（坏10、甕48、ミニチュア土器1）、須恵器片2点（坏）、緑釉陶器片1点（皿）、礫片1点が、覆土中から出土している。これらの遺物はすべて細片であり、埋土中に混入したものや、攪乱により混入したものと考えられる。

所見 掘り方の深さや規模は不規則であるが、柱間寸法には規則性が認められる。なお、本跡は第23号掘立柱建物跡を建て替えたもので、以後、第16・9号掘立柱建物跡へと建て替えが行われている。また、重複関係と桁行方向から見て、時期は9世紀中葉と考えられる。

第25号掘立柱建物跡（第763図）

位置 調査区中央部のK12c7区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第18号掘立柱建物跡を掘り込み、第19号掘立柱建物、第827号土坑にそれぞれ掘り込まれている。なお、重複している第597号土坑とは切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間（平均4.4m）、梁間2間（平均4.0m）の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-10°-Eの南北棟である。柱間寸法は桁行約2.4m、梁間約2.1mで、面積は約17.6㎡である。

柱穴 8か所（P1～P8）で、平面形が長径と短径ともに0.5～0.9mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.1～0.7mである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認されていない。

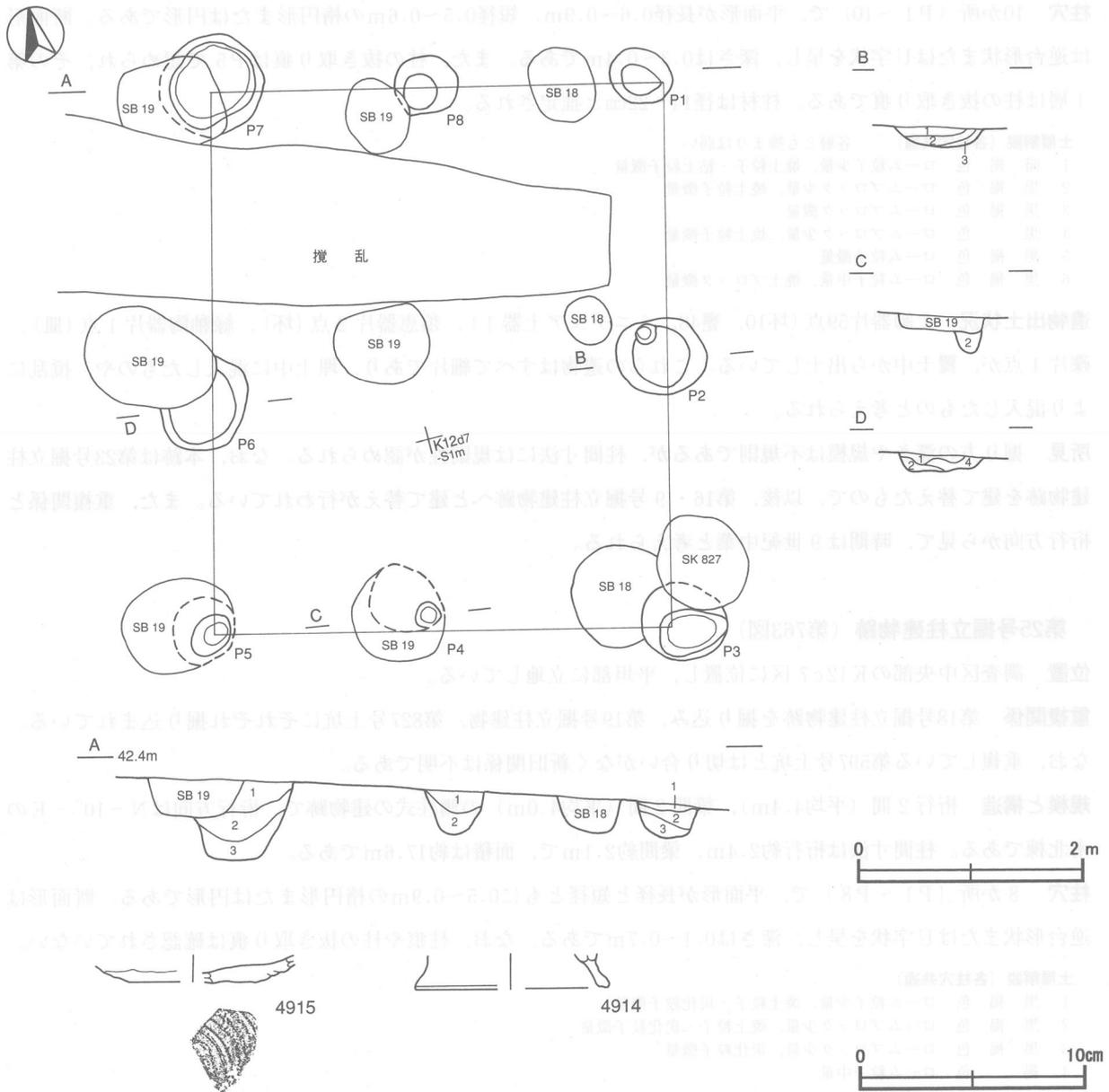
- 土層解説（各柱穴共通）**
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 - 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 - 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 - 4 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片76点（坏28、高台付坏4、甕44）、須恵器片6点（坏4、甕2）、土製品1点（支脚）、鉄滓8点、礫片1点が、覆土中から出土している。これらの遺物はすべて細片であり、埋土中に混入したものや、後世の攪乱により混入したものと考えられ、図示した土器が相当する。

所見 本跡は第18号掘立柱建物跡が建て替えられたもので、さらに、本跡は第19号掘立柱建物跡へと建て替えられている。なお、第19号掘立柱建物跡の柱穴からは炭化米が検出されており、本跡も、倉として機能していたことが想定される。また、重複関係と桁行方向から見て、時期は9世紀中葉と考えられる。

第25号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第763図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4914	土師器	高台付椀	-	(1.5)	[8.6]	長石・雲母・石英	明赤褐	普通	底部高台貼り付け後、ナデ	P7覆土中	5%
4915	土師器	小皿	-	(1.2)	[5.8]	金雲母	橙	普通	底部回転糸切り離し	P7覆土中	5%



第763図 第25号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

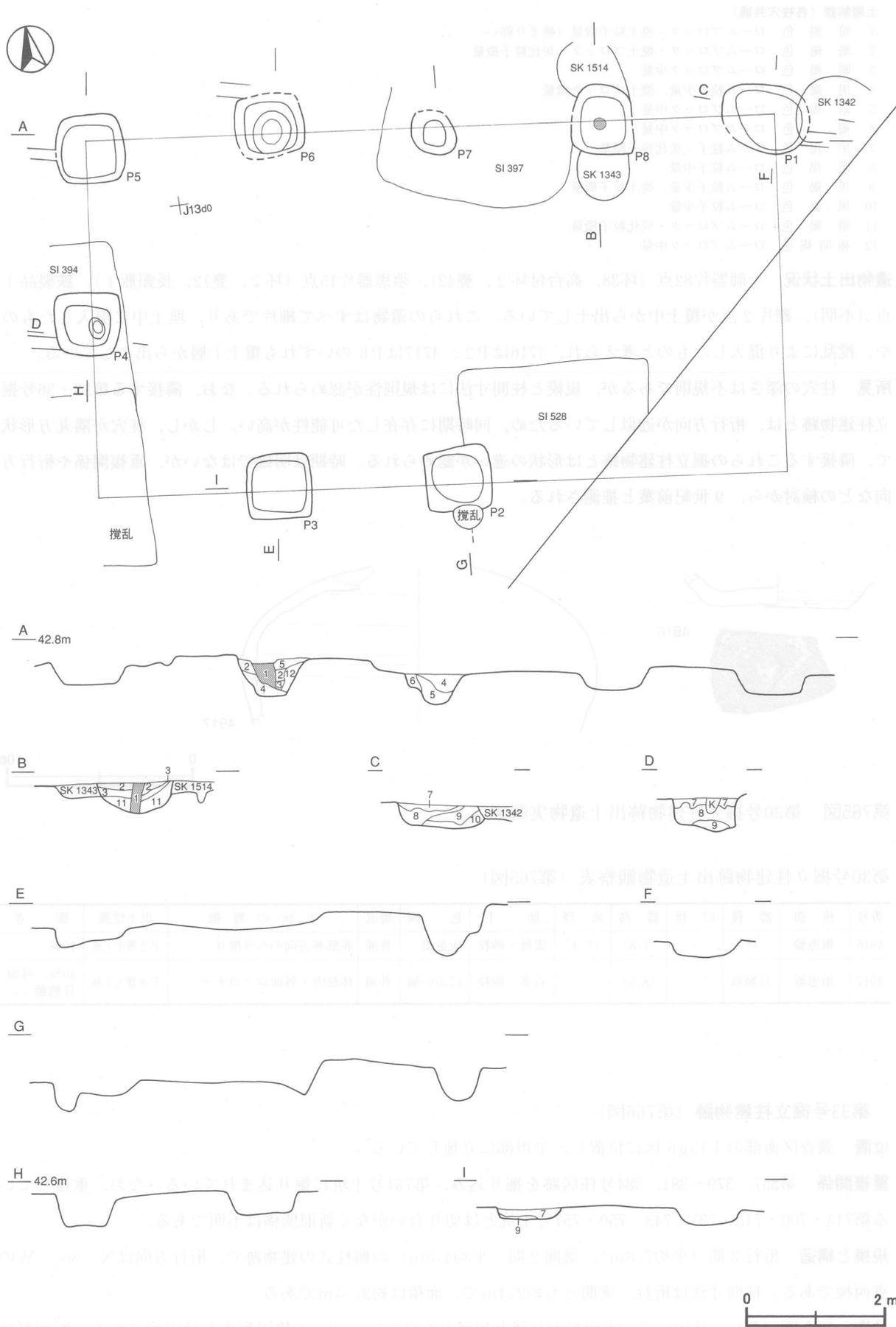
第30号掘立柱建物跡 (第764・765図)

位置 調査区中央部の J 13d0 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第383・393・398・399号住居跡，第1343・1514号土坑を掘り込み，第394・396・397・456・528号住居，第1342号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と構造 南東部が調査区域外のため，南桁行3間(6.7m)，北桁行方向4間(9.8m)，梁間2間(平均4.8m)だけが確認された。また，側柱式の建物跡で，桁行方向はN-84°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行，梁間とも2.1mで，面積は約32.2㎡である。

柱穴 確認されたのは8か所(P1~P8)で，平面形が長径0.6~1.1m，短径0.6~0.9mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し，深さは0.1~0.5mである。また，柱の抜き取り痕はP8で認められ，その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径18cm以内と推定される。



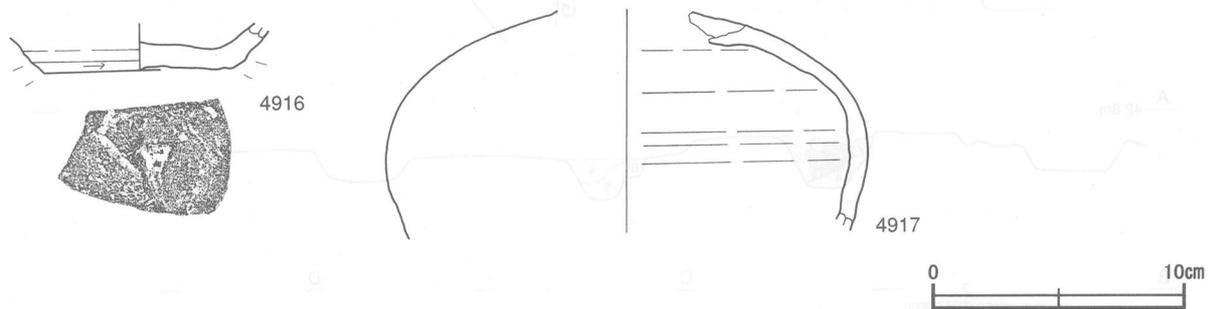
第764図 第30号掘立柱建物跡実測図

土層解説（各柱穴共通）

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量（締まり弱い）
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，焼土ブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 10 黒褐色 ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 12 極暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片82点（坏38，高台付坏2，甕42），須恵器片15点（坏2，甕12，長頸瓶1），鉄製品1点（不明），礫片2点が覆土中から出土している。これらの遺物はすべて細片であり，埋土中に混入したものや，攪乱により混入したものと考えられ，4716はP2，4717はP8のいずれも覆土上層から出土している。

所見 柱穴の深さは不規則であるが，規模と柱間寸法には規則性が認められる。なお，隣接する第33・36号掘立柱建物跡とは，桁行方向が近似しているため，同時期に存在した可能性が高い。しかし，柱穴が隅丸形状で，隣接するこれらの掘立柱建物跡とは形状の違いが認められる。時期は明確ではないが，重複関係や桁行方向などの検討から，9世紀前葉と推測される。



第765図 第30号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第30号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第765図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4916	須恵器	坏	-	(1.8)	[7.4]	雲母・砂粒	灰黄褐	普通	底部多方向のヘラ削り	P2覆土上層	10%
4917	須恵器	長頸瓶	-	(8.8)	-	石英・砂粒	にぶい褐	普通	体部内・外面ロクロナデ	P8覆土上層	40%，外面自然釉

第33号掘立柱建物跡（第766図）

位置 調査区南部のI13g6区に位置し，平坦部に立地している。

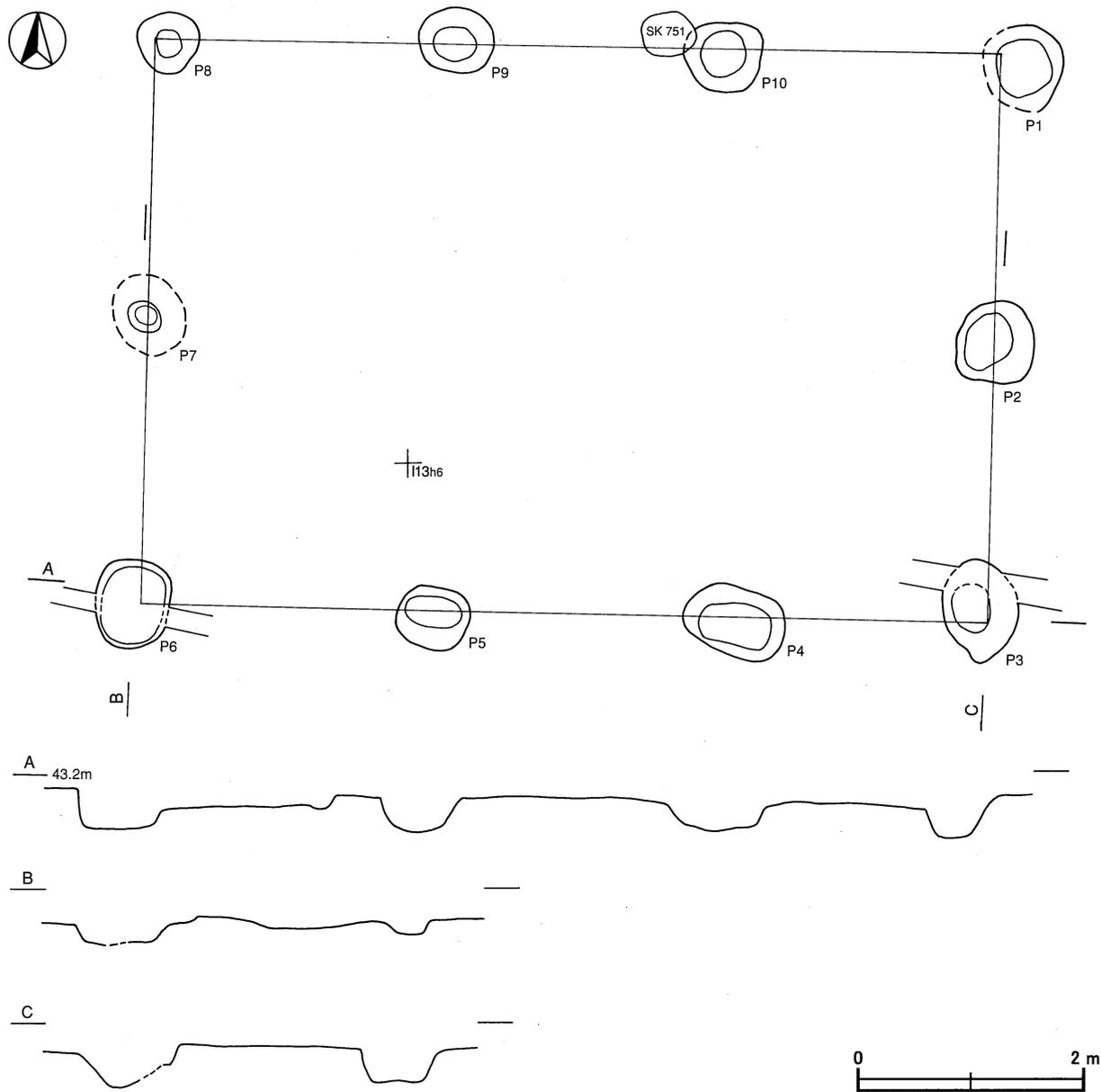
重複関係 第357，379～381，384号住居跡を掘り込み，第751号土坑に掘り込まれている。なお，重複している第714・700・715・731・743・750・757号土坑とは切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間（平均7.8m），梁間2間（平均4.8m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はN-85°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行，梁間とも約2.4mで，面積は約37.4㎡である。

柱穴 10か所（P1～P10）で，平面形が長径と短径ともに0.5～0.9mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し，深さは0.1～0.7mである。なお，柱痕や柱の抜き取り痕は確認できない。

遺物出土状況 土師器片58点（坏8，甕50），須恵器片5点（坏2，甕3），礫片2点が覆土中から出土している。これらの遺物はすべて細片であり，埋土中に混入したものや，攪乱により混入したものと考えられる。

所見 柱穴の規模と柱間寸法には規則性が認められる。なお，東方向へ10mの距離に位置する第23号掘立柱建物跡とは柱筋が揃っており，計画的に配置された可能性が高いが，規模や柱間の寸法に違いが見られる。なお，時期については重複関係や桁行方向の検討から9世紀前葉と推測される。



第766図 第33号掘立柱建物跡実測図

第35号掘立柱建物跡（第767・768図）

位置 調査区部の I 14c1 区に位置し，平坦部に立地している。

重複関係 第533号住居跡，第653号土坑を掘り込み，第656号土坑に掘り込まれている。なお，重複している第786号土坑とは切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と構造 北部は第1号濠跡と重複しているため，桁行3間（平均7.8m），梁間1間（2.4m）だけが確認

されたが、本来は桁行3間、梁間2間で、N-88°-Wの東西棟と想定される。柱間寸法は桁行、梁間ともに約2.4mである。

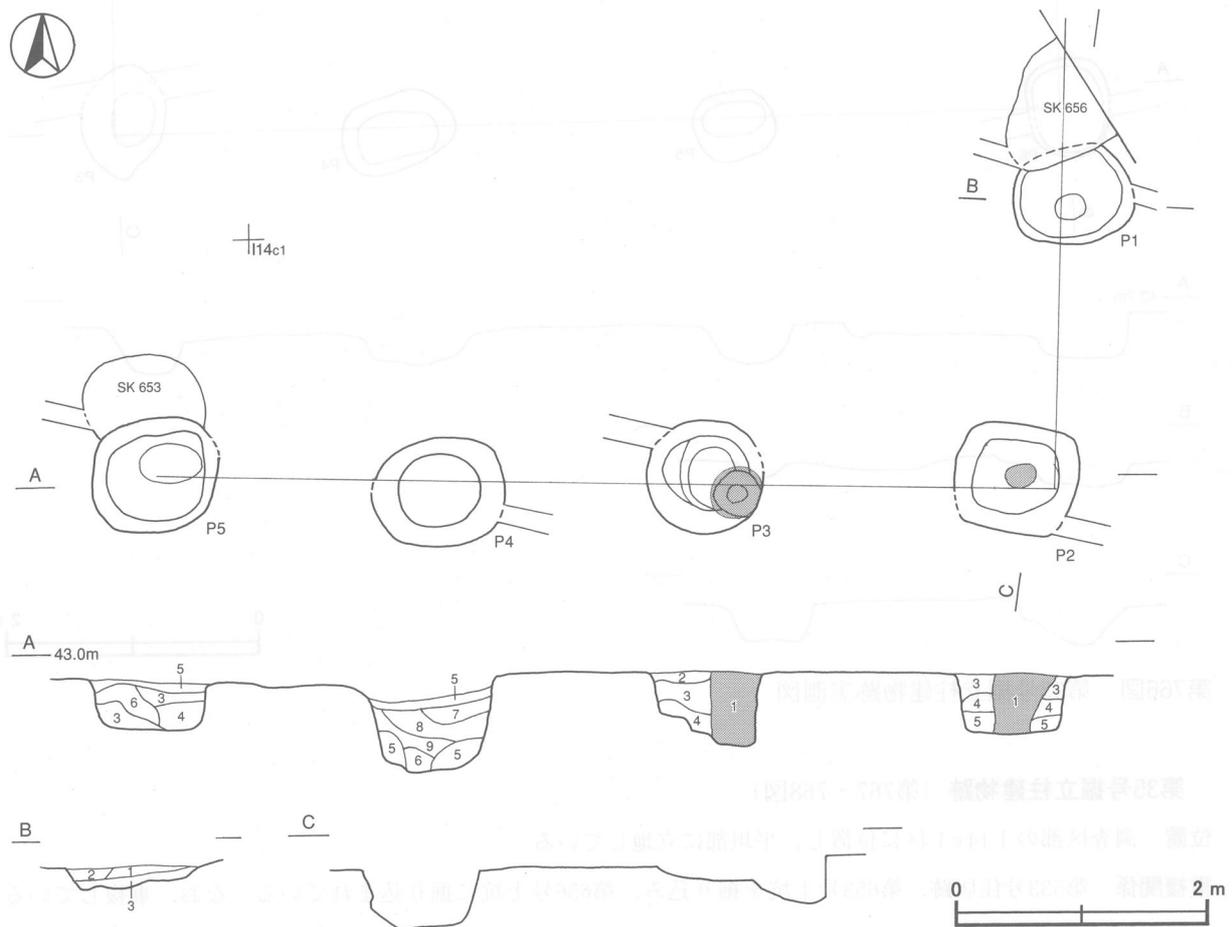
柱穴 5か所（P1～P5）が確認され、平面形が径0.9～1.0mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、深さは0.1～0.4mである。また、柱の抜き取り痕はP2・P3で認められ、その第1層は柱の抜き取り痕である。柱材は径18～27cmと推定される。

土層解説（各柱穴共通）

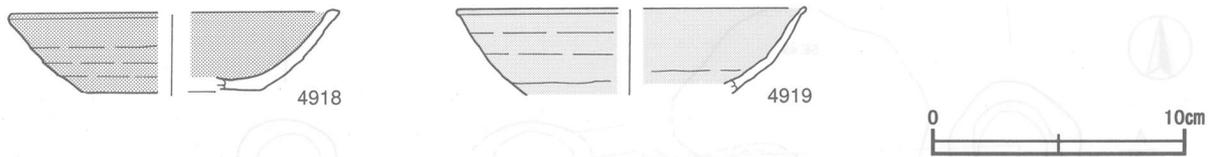
- 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量（締まり弱い）
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量，粘土ブロック少量（締まり強い）
- 4 黒褐色 ロームブロック少量（締まり強い）
- 5 黒褐色 ロームブロック中量（締まり強い）
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量
- 9 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片65点（坏13，甕52），須恵器片5点（坏3，甕2），礫片4点が覆土中から出土している。これらの遺物はすべて細片であり、埋土中に混入したものや、攪乱により混入したものと考えられる。

所見 柱穴の深さは不規則であるが、規模と柱間寸法には規則性が認められる。なお、遺物が少なく、時期は明確ではないが、第16号掘立柱建物跡と桁行方向が近似しており、同時期に一連の施設として機能していた可能性が高く、9世紀中葉と推測される。



第767図 第35号掘立柱建物跡実測図



第768図 第35号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第35号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第768図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4918	土師器	坏	[12.6]	3.2	[7.0]	雲母・石英	黒	普通	体部内・外面ロクロナデ	P 1 覆土中	90%
4919	灰釉陶器	碗	[13.6]	(3.4)	-	緻密	オリーブ灰	良好	体部内・外面ロクロナデ	P 3 覆土中	5%, 猿投産

第36号掘立柱建物跡（第769図）

位置 調査区部の J13a0 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第374号住居跡を掘り込み、第371号住居、第49号井戸にそれぞれ掘り込まれている。重複している第1542・1543号土坑とは切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間（平均6.0m）、梁間1間（平均3.5m）の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-82°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.1m、梁間約3.5mで、面積は約22.8㎡である。

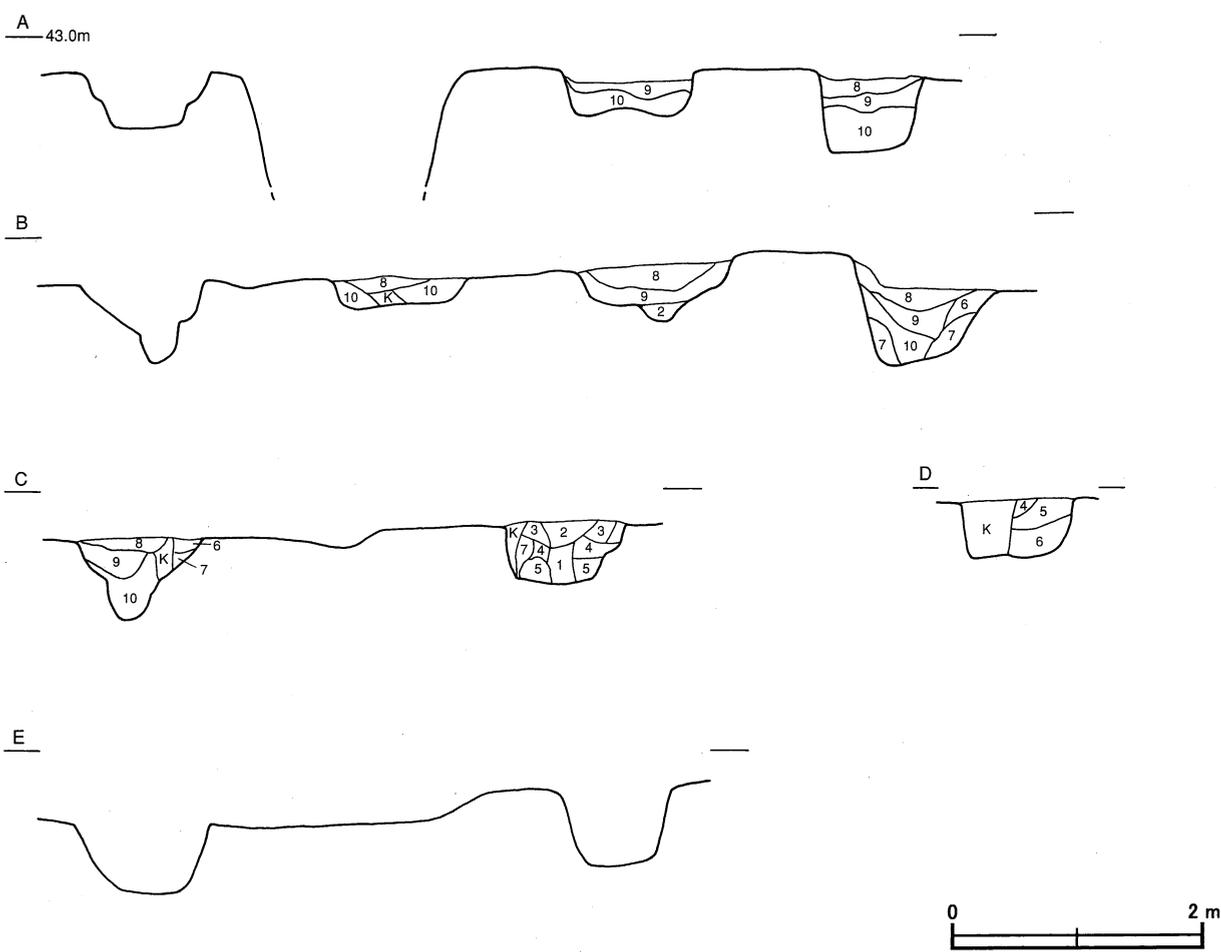
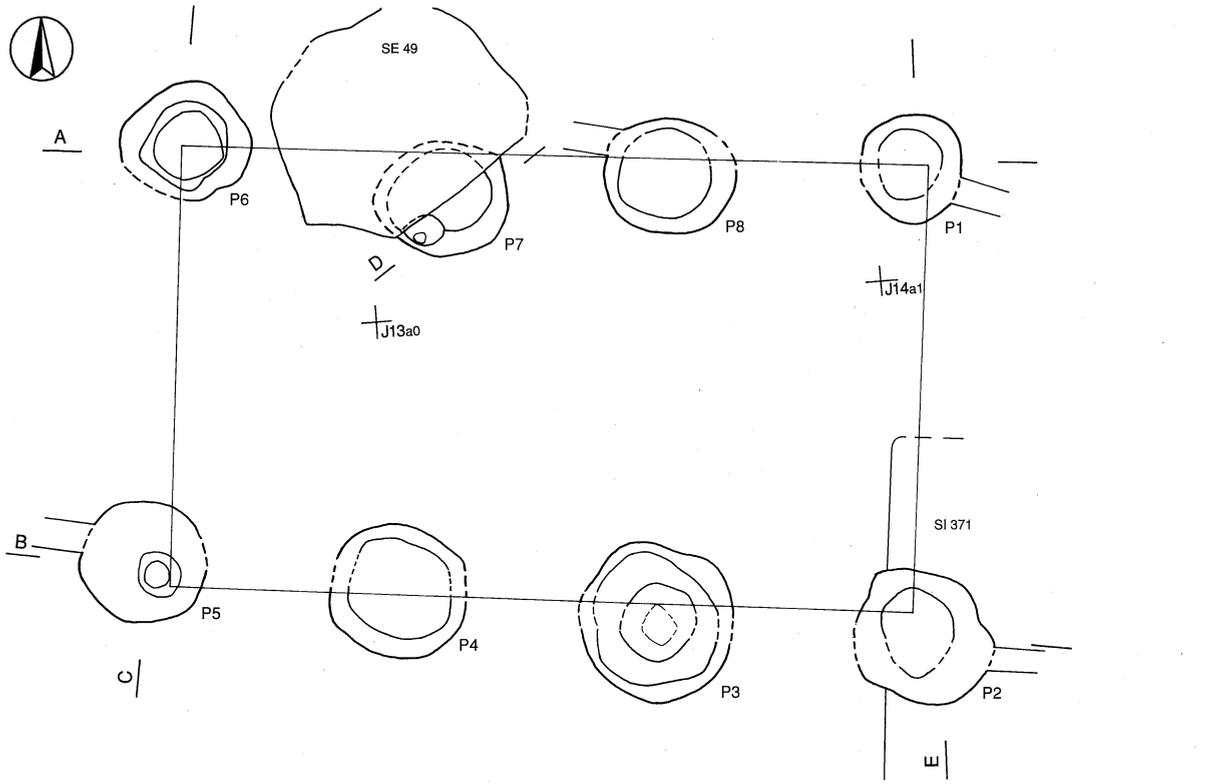
柱穴 8か所（P1～P8）で、平面形が長径約1.2m、短径約0.8mの楕円形または円形である。断面形はU字状を呈し、深さは0.5～0.6mである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量（締まり強い）
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量（締まり強い）
- 4 黒褐色 ロームブロック少量（締まり強い）
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミス少量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 8 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量、焼土粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片25点（坏7、甕18）、須恵器片3点（坏1、甕2）、礫片1点、が、覆土中から出土している。これらの遺物はすべて細片であり、埋土中に混入したものや、攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡は桁柱が平行していることや、柱の抜き取り痕が見られること、第23号掘立柱建物跡と梁間方向の柱筋が揃っていることなどから、掘立柱建物跡と判断した。なお、時期は明確ではないが、隣接する掘立柱建物跡との配置などから見て、9世紀中葉と推測される。



第769图 第36号掘立柱建筑物迹实测图

第37号掘立柱建物跡（第770・771図）

位置 調査区中央部のI13a1区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第327・329・330号住居跡，第6号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。なお，重複している第512・519・523・544号土坑とは切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間（平均8.9m），梁間2間（平均5.4m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はN-83°-Wの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.1m，梁間約2.7mで，面積は約48.1㎡である。

柱穴 掘り方は攪乱を受けて不明な1か所を除いて11か所（P1～P11）で確認され，平面形は長径0.8～0.9m，短径0.6～0.7mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状を呈し，深さは0.1～0.7mである。なお，柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説（各柱穴共通）

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片39点（坏8，甕31），須恵器片2点（坏，甕），鉄製品1点（不明），礫片2点が，覆土中から出土している。これらの遺物はすべて細片であり，埋土中に混入したものや，攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡は，規模を縮小しつつ，北西方向へと位置をずらして第6号掘立柱建物跡を建て替えている。また，本跡から南東方向に30mの距離には4期の建て替えが行われた第9・16・23・24号掘立柱建物跡が位置しているが，最終期に当たる第9号掘立柱建物跡は本跡と桁行方向が近似しており，同時期に機能していたと考えられる。重複関係や，桁行方向の検討などから，時期は9世紀後葉と考えられる。

第39号掘立柱建物跡（第772・773図）

位置 調査区南部のL12d6区に位置し，平坦部に立地している。

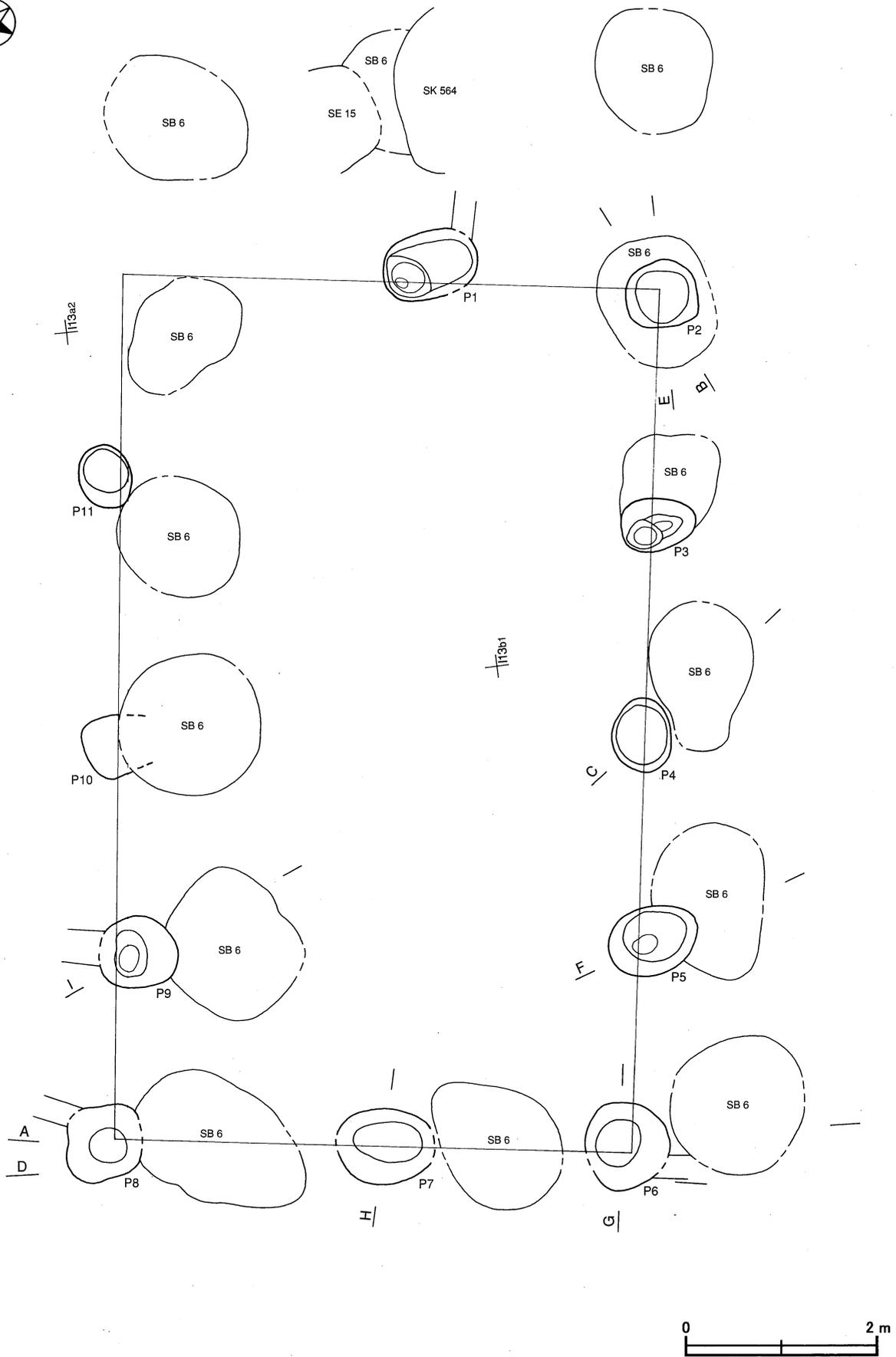
重複関係 第30・32号溝に掘り込まれている。なお，重複している第1150・1151号土坑とは切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と構造 東部が調査区域外のため，身舎は桁行3間（平均7.4m）以上，梁間2間（平均4.5m）だけが確認され，桁行方向はN-7°-Eの東西棟と推定される。また，南側に庇を有している。柱間寸法は桁行，梁間とも2.4mで側柱式の建物跡と想定され，面積は約33.3㎡である。庇部と身舎との柱間は2.4m，庇の柱間は2.1～2.4mで，庇の西から3間が他より30cmほど狭くなっている。

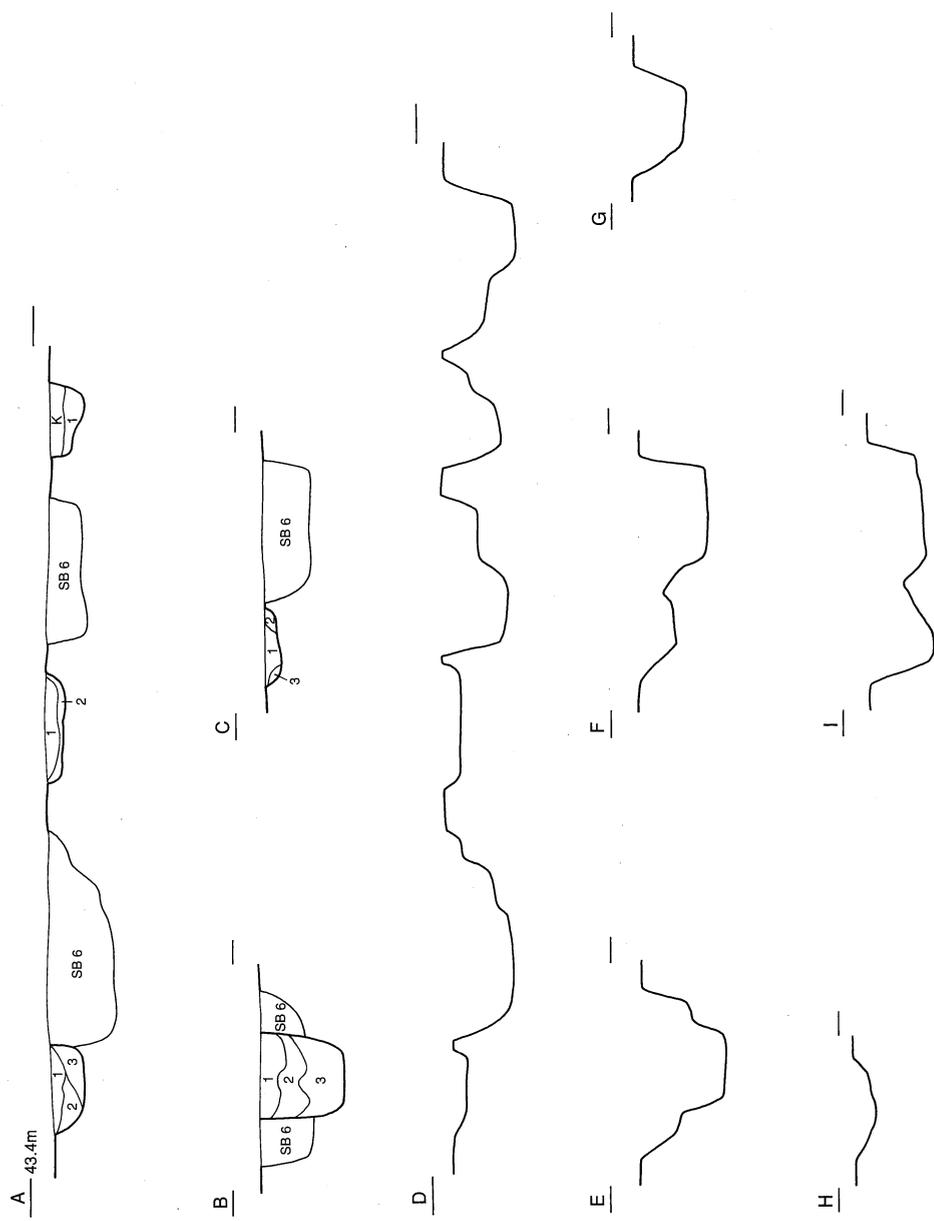
柱穴 11か所（P1～P11）で確認され，平面形が長径1.1～1.3m，短径0.6～0.9mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状を呈し，深さは0.1～0.4mである。庇部のP8～11には，建て替えの痕跡が認められる。なお，柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片83点（坏24，高台付坏1，甕58），須恵器片6点（坏2，高台付坏1，甕3），礫片4点が，覆土中から出土している。これらの遺物はすべて細片であり，埋土中に混入したものや，攪乱により混入したものと考えられる。

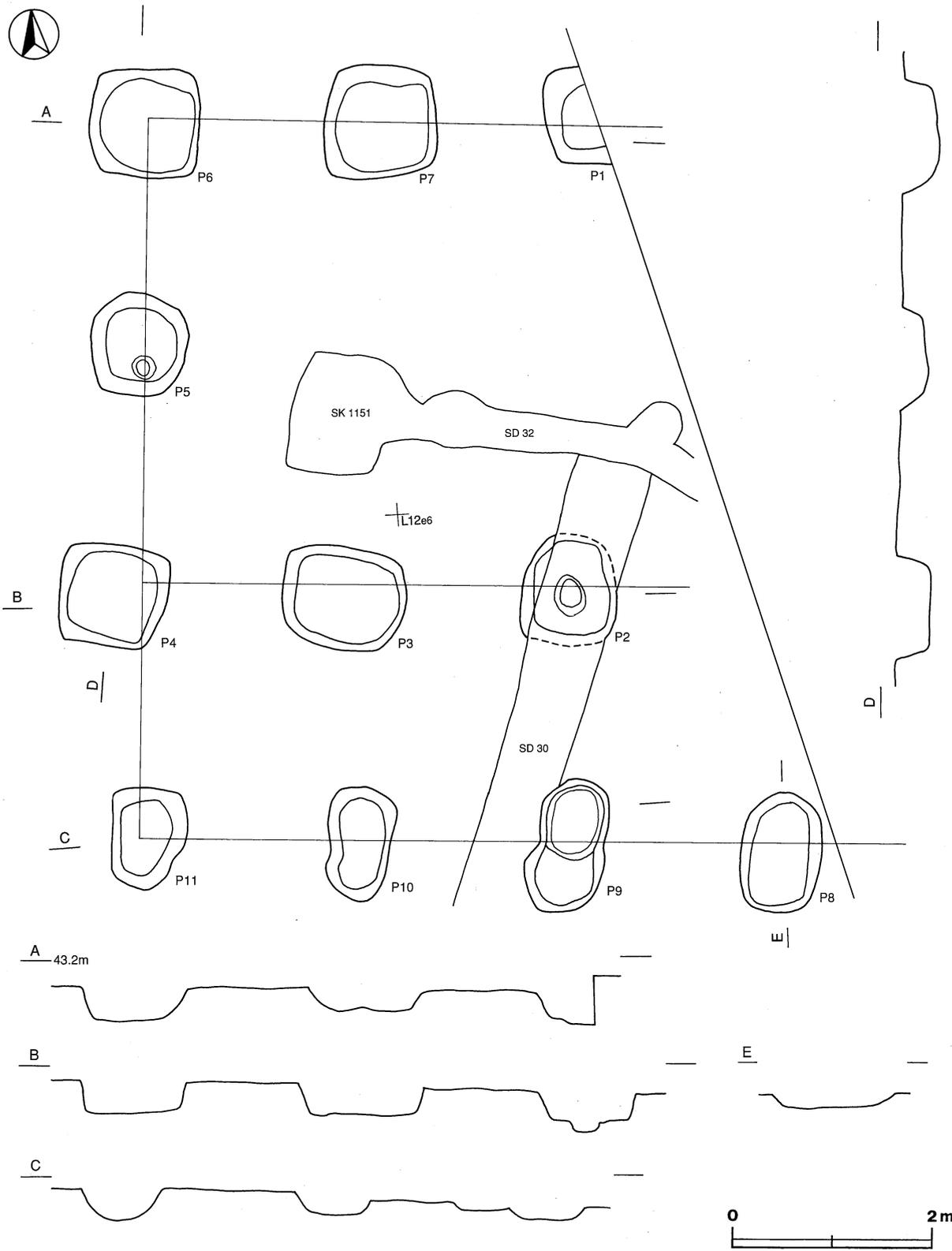
所見 本跡は南側に庇を有する建物跡であるが，本跡から北西方向へ約15mの距離には，四面庇を有して，本跡と桁行方向が近似している第20号掘立柱建物跡が位置している。いずれも調査区中央部の掘立柱建物群と同時期であるため，当集落内の官衙的な性格を有した建物のひとつと考えられる。また，桁行方向の検討などから，第20号掘立柱建物跡と同時期の9世紀前葉か，あるいはその前後と推測される。



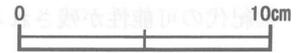
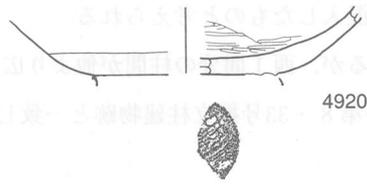
第770图 第37号掘立柱建物跡実測図(1)



第771图 第37号掘立柱建物跡実測図(2)



第772图 第39号掘立柱建物迹实测图



第773図 第39号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第39号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第773図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4920	土師器	高台付坏	-	(2.6)	[7.4]	長石・金雲母	明褐	普通	底部高台貼り付け後、ナデ	P 1 覆土中	10%

第40号掘立柱建物跡 (第774図)

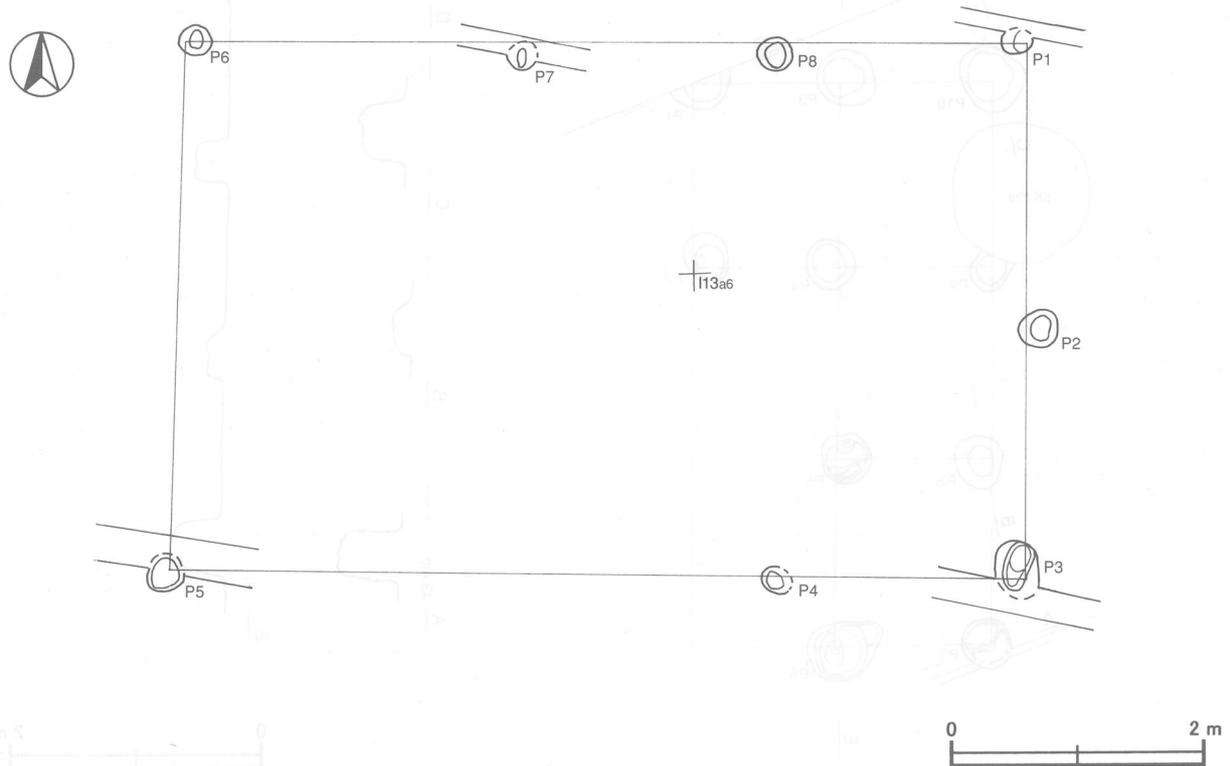
位置 調査区中央部の I 13a5 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第338号住居跡、第513号土坑とは重複しているが、切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間(平均6.5m)、梁間2間(平均4.2m)の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-85°-Wの東西棟である。耕作による攪乱のため西梁間と南桁行部とで各1か所の掘り方が検出されていないが、柱間寸法は桁行約2.1m、西側1間が2.7m、梁間約2.1mで、面積は約27.3㎡である。

柱穴 8か所(P1~P8)で、平面形が長径0.2~0.7m、短径0.2~0.6mの楕円形または円形である。なお、深さは0.3~0.6mであるが、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片3点(坏1, 甕2), 礫片1点が、覆土中から出土している。これらの遺物はすべて



第774図 第40号掘立柱建物跡実測図

細片であり、埋土中に混入したものや、攪乱により混入したものと考えられる。

所見 柱穴の規模と柱間寸法には規則性が認められるが、西1間分の柱間が他より広く、性格等については不明である。また、時期も明確ではないが、桁行方向が第8・33号掘立柱建物跡と一致していることから見て、9世紀代の可能性が残される。

第41号掘立柱建物跡（第775図）

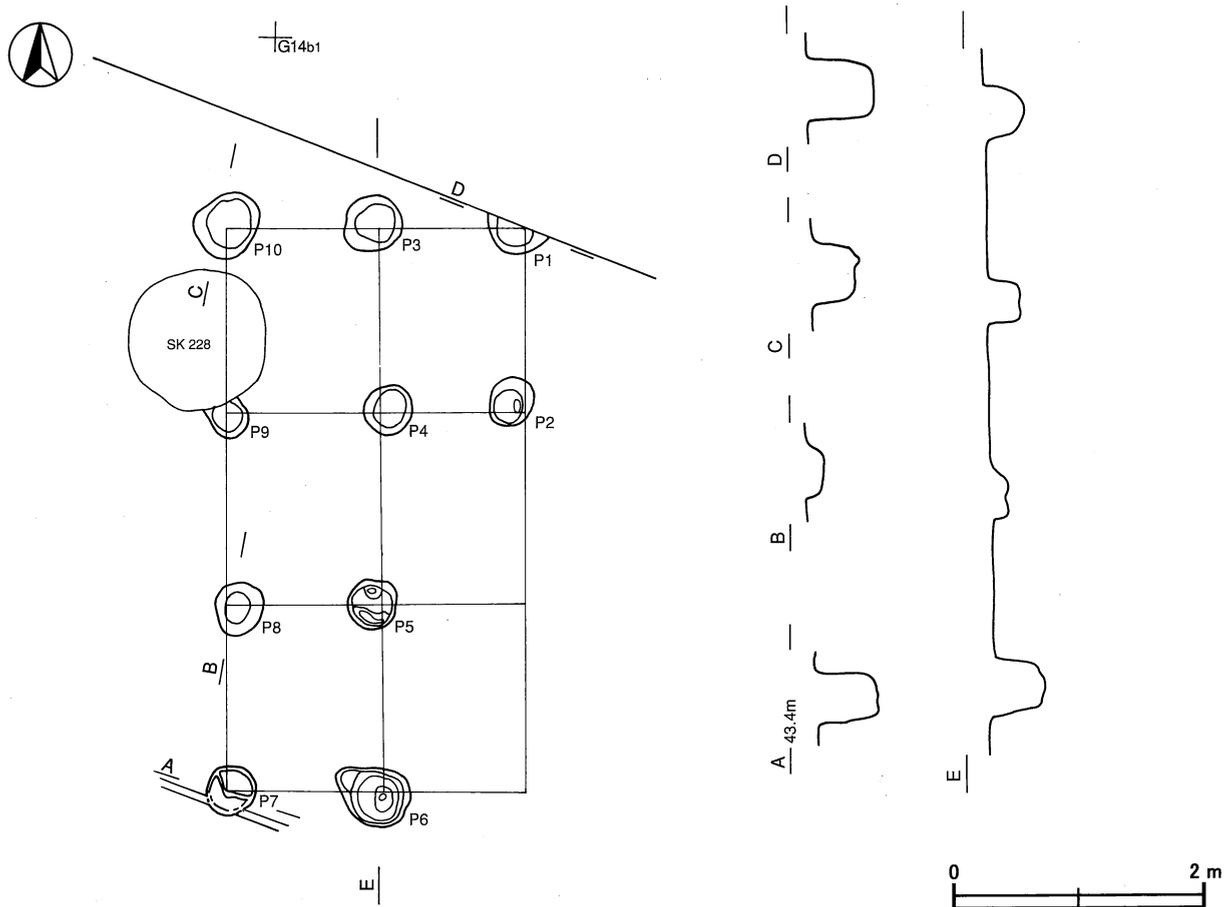
位置 調査区北部のG14b1区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第97号住居跡を掘り込み、第228号土坑に掘り込まれている。なお、重複している第116・117号土坑とは切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と構造 西桁行3間（4.7m）、東桁行1間（1.6m）、北梁間2間（2.8m）、南梁間1間（1.6m）の総柱式の建物跡で、桁行方向はN-4°-Wの南北棟である。東桁行部で2か所の掘り方が検出されていないが、柱間寸法は桁行約1.5m、梁間約1.1mで、面積は推定約13.2㎡である。

柱穴 10か所（P1～P10）で、平面形が径0.3～0.5mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し、柱の深さは0.3～0.5mであるが、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片9点（坏6，碗1，甕2），須恵器片1点（坏），礫片1点が、P3・9・13の覆土中から出土している。これらの遺物はすべて細片であり、埋土中に混入したものや、攪乱により混入したものと考えられる。



第775図 第41号掘立柱建物跡実測図

所見 柱穴の規模と柱間寸法には規則性が認められるが、2か所の柱穴が確認されておらず、また性格等についても不明である。また、時期も明確ではないが、重複関係や遺物から平安時代以降と推測される。

(5) 土坑

当遺跡では、今回の調査で1071基の土坑が検出されており、そのうち、奈良・平安時代に属すると考えられる土坑は172基である。ここでは、これらの土坑の中で、遺構形態に特徴のある土坑や注目される遺物が出土した土坑11基について、その概要を記述する。また、それ以外の土坑については実測図と土層解説を記載し、位置や規模等については一覧表で示す。

第66号土坑（第776図）

位置 調査区北部のF14h6区に位置し、平坦面に立地している。

重複関係 第33号土坑に掘り込まれている。

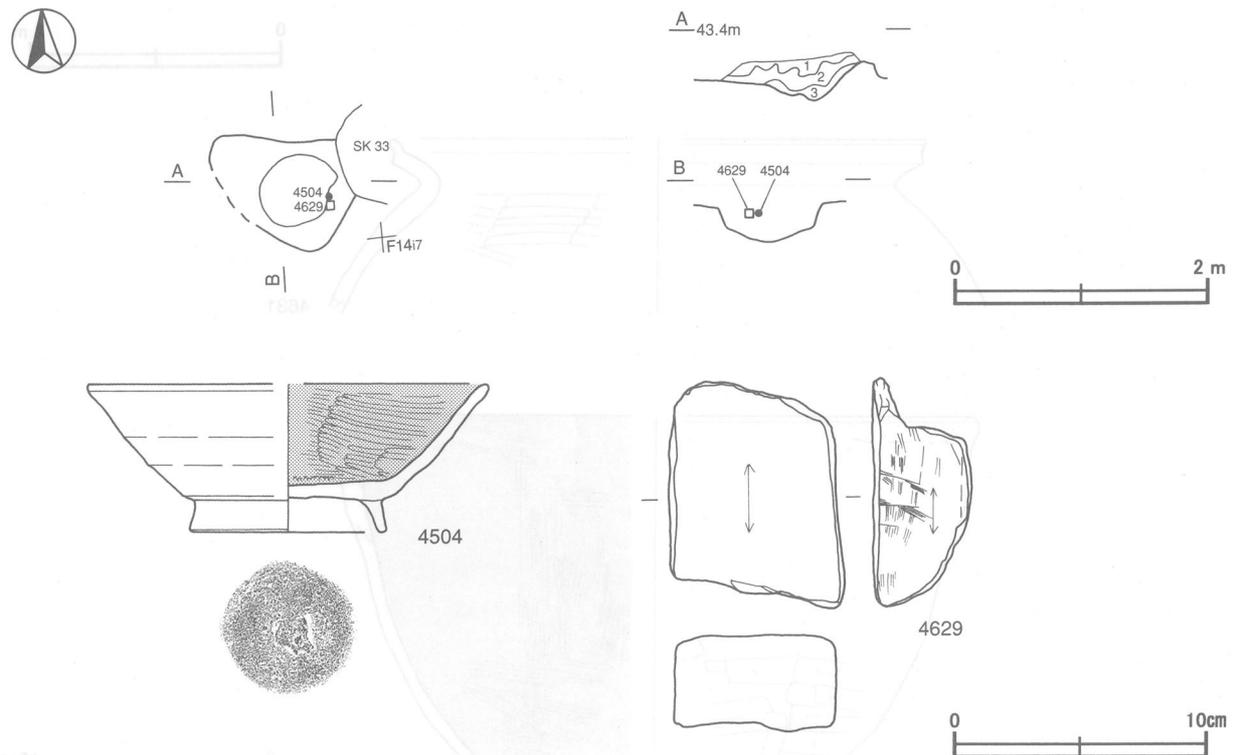
規模と形状 長径1.2m、短径0.9mの不整形で、長径方向はN-58°-Wである。底面は皿状にくぼみ、深さは約30cmで、壁はやや外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなり、ロームブロックを含んだ人為的な堆積状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片15点（坏5，高台付坏1，甕9），石器1点（砥石）が出土している。4504・4629はいずれも東部の覆土中層から出土している。4629の砥石は、端部が丸味を帯びた状態であるため、欠損後にも



第776図 第66号土坑・出土遺物実測図

砥石として再使用されたものと考えられる。
 所見 時期は、出土土器の形状から10世紀前半と考えられるが、性格は不明である。

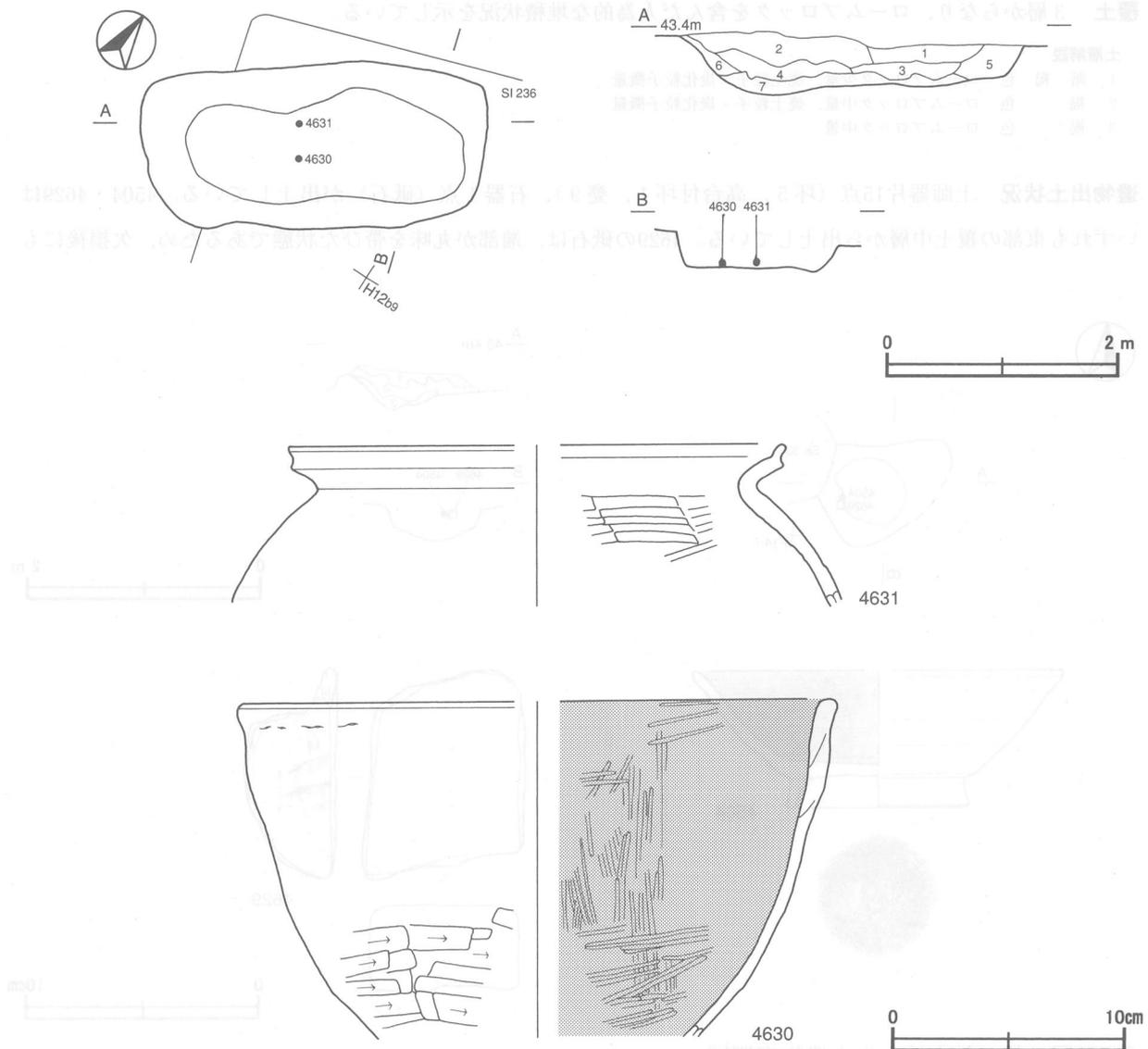
第66号土坑出土遺物観察表 (第776図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4504	土師器	高台付 坏	[15.6]	5.9	7.3	雲母・長石・石 英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼 り付け	東部中層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4629	砥石	9.1	6.9	4.0	333	凝灰岩	砥面は2面、他の1面に被熱痕あり、端部が丸 みを帯びているため、欠損後にも砥石に使用	東部中層	

第113号土坑 (第777図)

位置 調査区北部のH12c8区に位置し、平坦面に立地している。



第777図 第113号土坑・出土遺物実測図

重複関係 第236号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.0m、短軸1.4mほどの長方形を呈し、長軸方向はN-55°-Wである。深さは約50cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層からなり、ブロック状の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片77点（坏29、高台付坏4、甕41、鉢3）、須恵器片7点（坏1、甕6）が散在する状態で出土している。底面から出土している4630は、当遺跡において数少ない器種の一つである。

所見 時期は出土土器の形状から9世紀後葉と考えられ、遺構の形状や土層の堆積状況からみて墓塚の可能性はある。

第113号土坑出土遺物観察表（第777図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4630	土師器	鉢	[25.0]	(14.5)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き	中央部底面	20%
4631	土師器	甕	[21.0]	(6.9)	-	雲母・長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、内面ヘラナデ	中央部下層	10%

第138号土坑（第778図）

位置 調査区北部のG12f5区に位置し、平坦面に立地している。

規模と形状 径50cmほどの円形を呈し、深さは約20cmである。底面はほぼ平坦な円形で、壁は外傾して立ち上がっている。

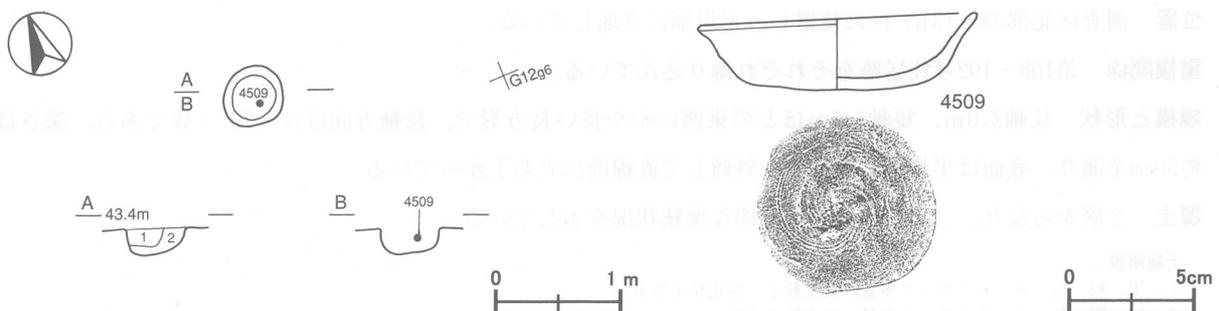
覆土 2層からなり、ブロック状の人為的な堆積状況を示している。

土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師器片2点（坏1、甕1）が覆土中から出土している。完形の4509は南部の覆土下層からほぼ正位の状態で出土しており、埋め戻しの段階で遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器の形状から10世紀後半と考えられるが、性格は不明である。



第778図 第138号土坑・出土遺物実測図

第138号土坑出土遺物観察表（第778図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4509	土師器	坏	10.8	3.1	-	雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り，体部ロクロナデ	中央部下層	100% PL238

第159号土坑（第779図）

位置 調査区北部のH12a2に位置し，平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.5m，短径1.2mほどの楕円形で，長軸方向はN-50°-Wである。深さは約50cmである。

底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

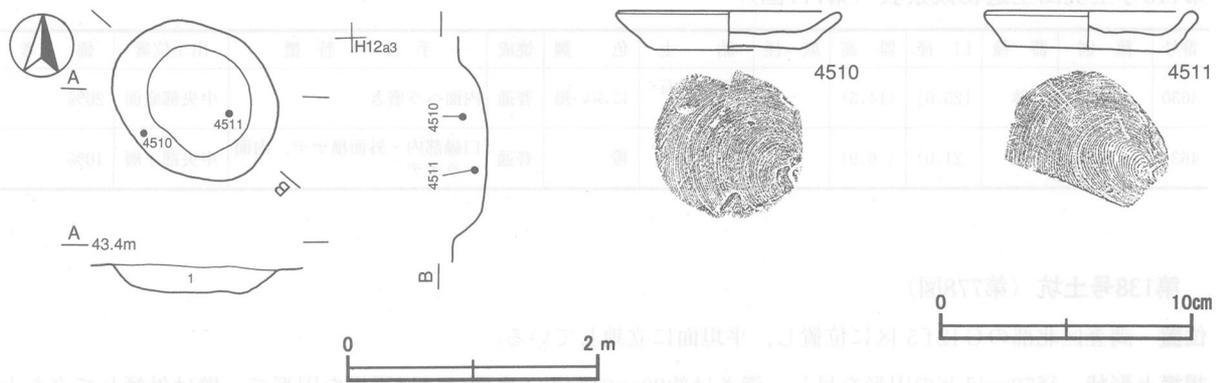
覆土 1層からなり，ロームブロックや焼土を含む人為的な堆積状況を示している。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片27点（坏6，小皿6，甕15）が出土している。4510は南西部の覆土中層，4511は中央部の覆土下層から出土し，いずれも埋め戻しの段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から10世紀後半以降と考えられる。



第779図 第159号土坑・出土遺物実測図

第159号土坑出土遺物観察表（第779図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4510	土師器	小皿	8.5	1.5	5.8	雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り，体部ロクロナデ	南西部中層	80% PL238
4511	土師器	小皿	8.2	1.6	6.4	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り，体部ロクロナデ	中央部下層	60%

第212号土坑（第780図）

位置 調査区北部のG13b7区に位置し，平坦部に立地している。

重複関係 第108・192号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.0m，短軸1.7mほどの東西にやや長い長方形で，長軸方向はN-76°-Wである。深さは約50cmを測り，底面は平坦で，壁はやや外傾して直線的に立ち上がっている。

覆土 2層からなり，ブロック状の人為的な堆積状況を示している。

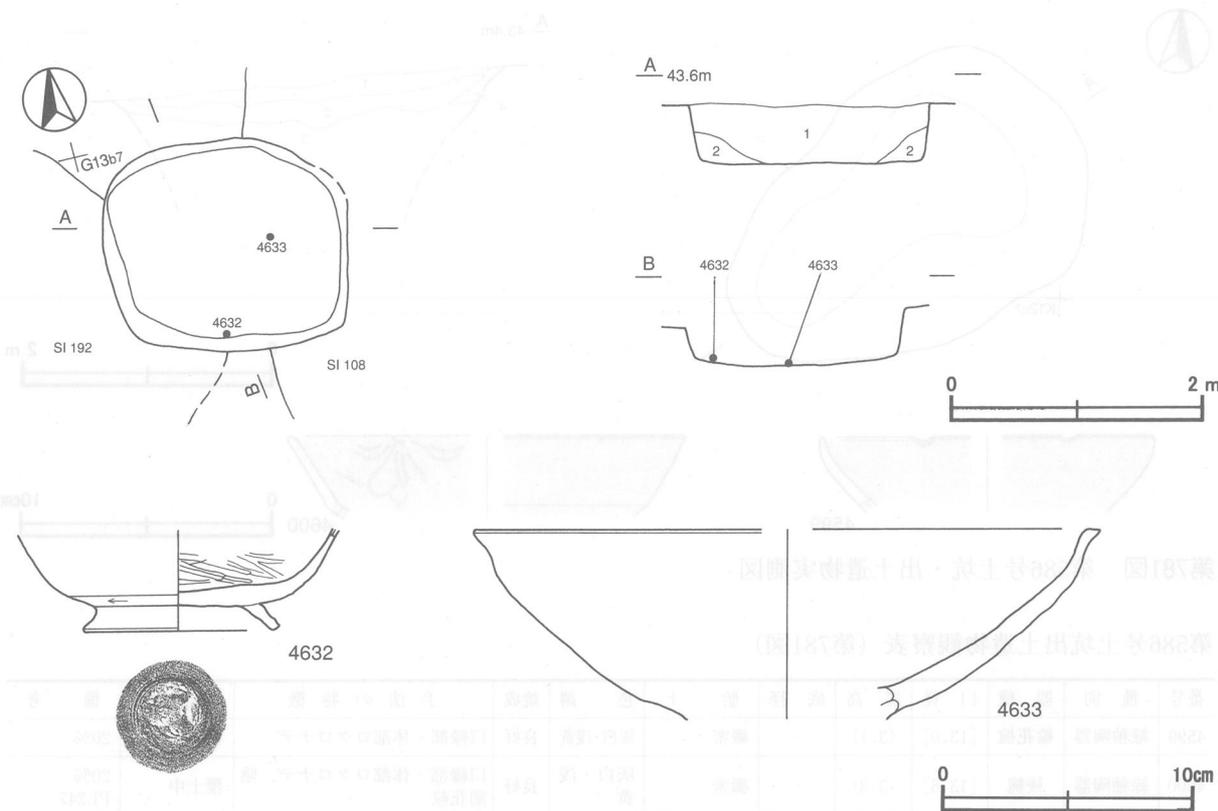
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック多量，焼土粒子中量

遺物出土状況 土師器片224点（坏52，高台付椀2，高坏9，甕161），須恵器片5点（坏4，甕1）が散在した状態で出土している。4632・4633は本跡を埋め戻す段階で混入したものである。

所見 本跡から出土した土器の大半が10世紀前半のもので，時期は10世紀後半以降と考えられるが，性格は不明である。



第780図 第212号土坑・出土遺物実測図

第212号土坑出土遺物観察表（第780図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4632	土師器	高台付椀	-	(3.9)	7.4	雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け，体部下端回転ヘラ削り	南部下層	50%
4633	土師器	高坏	[24.8]	(7.6)	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ，口縁部横ナデ	中央部床面	40%

第586号土坑（第781図）

位置 調査区中央部のK12b7に位置し，緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 長径3.0m，短径2.1mほどの楕円形で，長径方向はN-48°-Wである。確認面から漏斗状に掘り込まれ，深さ0.8mほど掘り下げた時点で湧水したため以後の調査を断念した。

覆土 4層からなり，ロームブロックや焼土を含んだ人為堆積である。

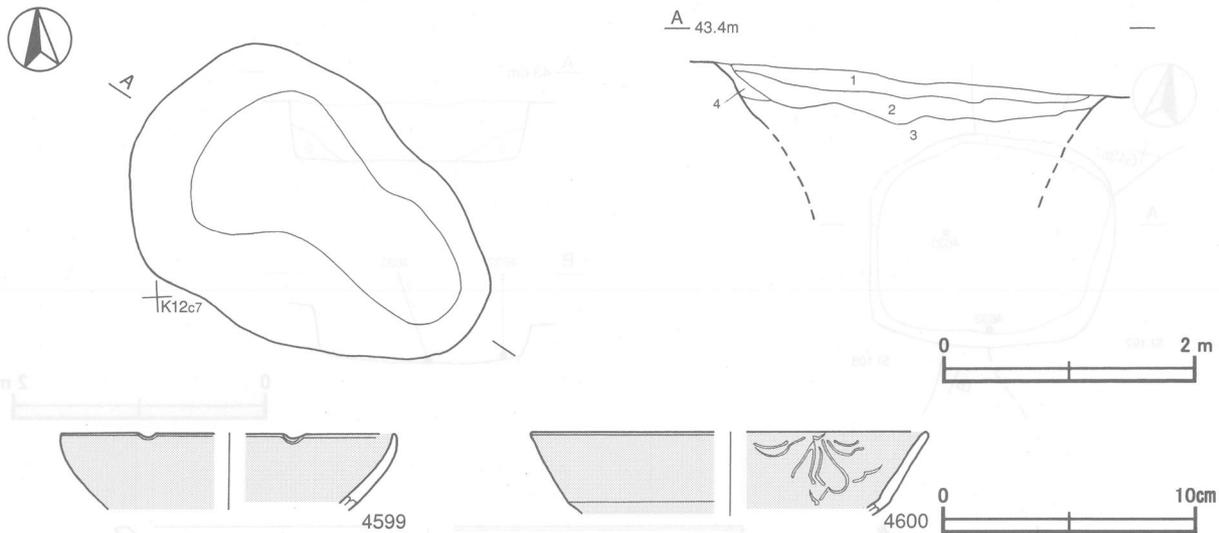
土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片83点（坏22，高台付坏2，甕59），須恵器片8点（坏3，甕5），緑釉陶器片4点（椀），

灰釉陶器片 2 点 (椀 1 , 短頸壺 1) , 鉄滓 16 点 , 礫片 1 点 が出土している。4600 は覆土中からの出土であり , 埋め戻しの段階で投棄されたものと考えられる。

所見 本跡は形状から井戸の可能性も考えられる。出土土器から , 時期は 10 世紀後半以降と考えられる。



第781図 第586号土坑・出土遺物実測図

第586号土坑出土遺物観察表 (第781図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4599	緑釉陶器	輪花椀	[13.0]	(3.1)	-	緻密	灰白・浅黄	良好	口縁部・体部ロクロナデ	覆土中	20%
4600	緑釉陶器	稜椀	[13.6]	(3.3)	-	緻密	灰白・浅黄	良好	口縁部・体部ロクロナデ, 陰刻花紋	覆土中	20% PL247

第745号土坑 (第782図)

位置 調査区中央部の I 13f7 に位置し , 平坦部に立地している。

重複関係 第357号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.1m ほどのほぼ円形で , 長径方向は $N-0^{\circ}$ である。深さは約 40cm である。底面はほぼ平坦で , 壁はやや外傾して直線的に立ち上がっている。

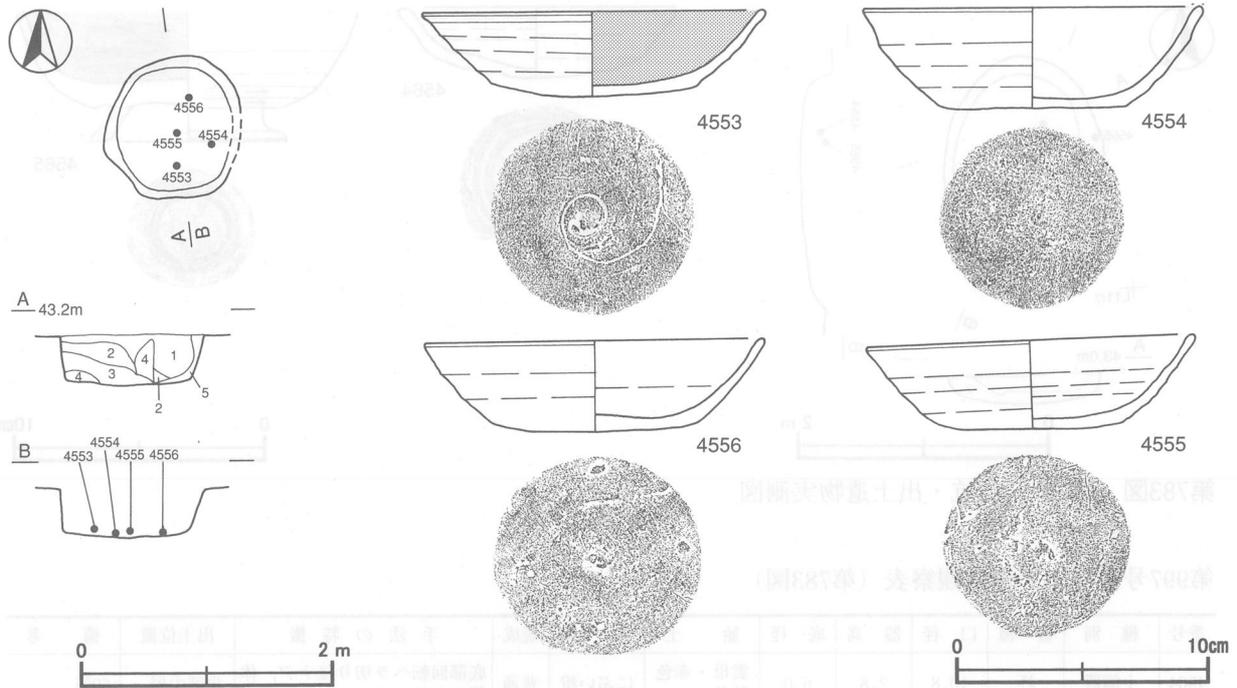
覆土 5 層からなり , ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量 , 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量 , 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 169 点 (坏 131 , 高台付坏 3 , 甕 35) , 須恵器片 1 点 (坏) が出土している。4553・4554・4555・4556 はいずれも覆土下層からの出土であり , 埋め戻しの段階で遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は , 出土土器から 10 世紀前半と考えられる。図示した土師器坏はいずれも 8 割近い残存率で , 大きさや技法も近似していることから , 当初から遺棄することを想定していたものと考えられる。



第782図 第745号土坑・出土遺物実測図

第745号土坑出土遺物観察表 (第782図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4553	土師器	坏	13.4	3.2	8.0	雲母・長石	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	南部下層	80% PL238
4554	土師器	坏	13.2	4.0	7.4	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ, 体部ロクロナデ	東部下層	80% PL240
4555	土師器	坏	12.8	3.7	7.2	長石・石英	灰褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ, 体部ロクロナデ	中央部下層	70% PL239
4556	土師器	坏	13.2	3.6	8.0	雲母・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部ロクロナデ	北部下層	70%

第997号土坑 (第783図)

位置 調査区南部のL11e7に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.9m, 短径1.3mほどの楕円形で、長径方向はN-24°-Wである。深さは約20cmである。底面はほぼ平坦であるが、北部から南部に向かってなだらかに傾斜している。また、壁は外傾して緩やかに立ち上がっている。

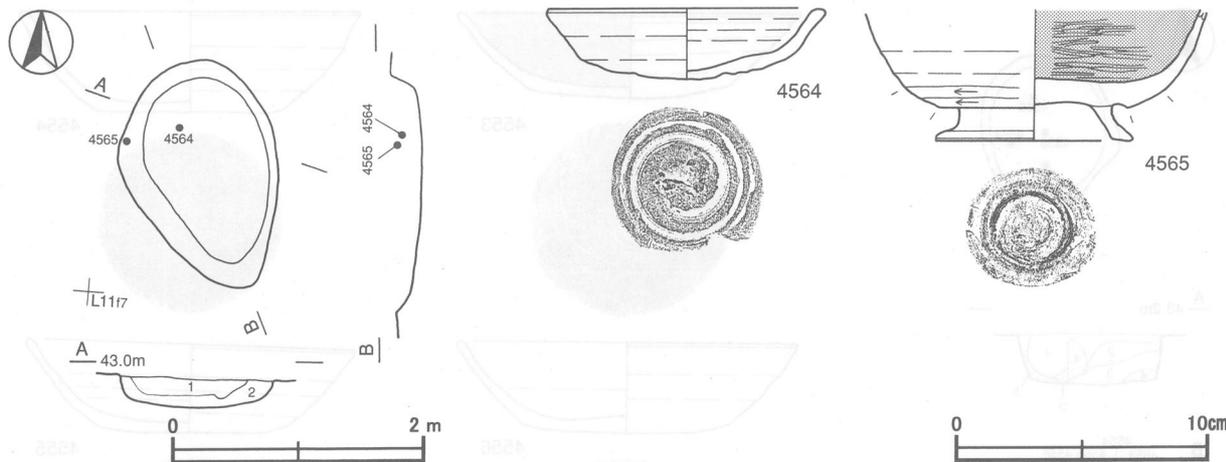
覆土 2層からなり、ロームブロックや焼土を含んだ人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片48点 (坏11, 高台付坏1, 小皿4, 甕32), 須恵器片4点 (坏2, 甕2), 鉄滓2点が出土している。4564・4565はいずれも覆土中層からの出土であり、埋め戻しの段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は出土土器から10世紀後半と考えられる。近接する遺構からは鉄滓類が多数検出されており、当遺跡南部には鉄生産に関わる遺構の存在が想定できる。



第783図 第997号土坑・出土遺物実測図

第997号土坑出土遺物観察表（第783図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4564	土師器	坏	10.8	2.8	6.0	雲母・赤色 粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ，体 部ロクロナデ	北部中層	60%
4565	土師器	高台付 坏	-	(5.2)	7.7	石英・赤色 粒子	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り 付け，体部下端回転ヘラ削り	西部中層	30%

第1120号土坑（第784図）

位置 調査区南部のL12f4区に位置し，南東への緩斜面部に立地している。

重複関係 第31号溝跡を掘り込み，第893・894号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.6m，短径2.1mほどの楕円形を呈し，深さは約23cmで，主軸方向はN-8°-Wである。底面は皿状を呈している。壁は外傾して立ち上がっている。また，本跡の南部には長径約1.0m，短径約0.7m，厚さ約15cmの不整形な焼土の範囲が見られる。

覆土 3層からなり，人為的な堆積状況を示している。

土層解説

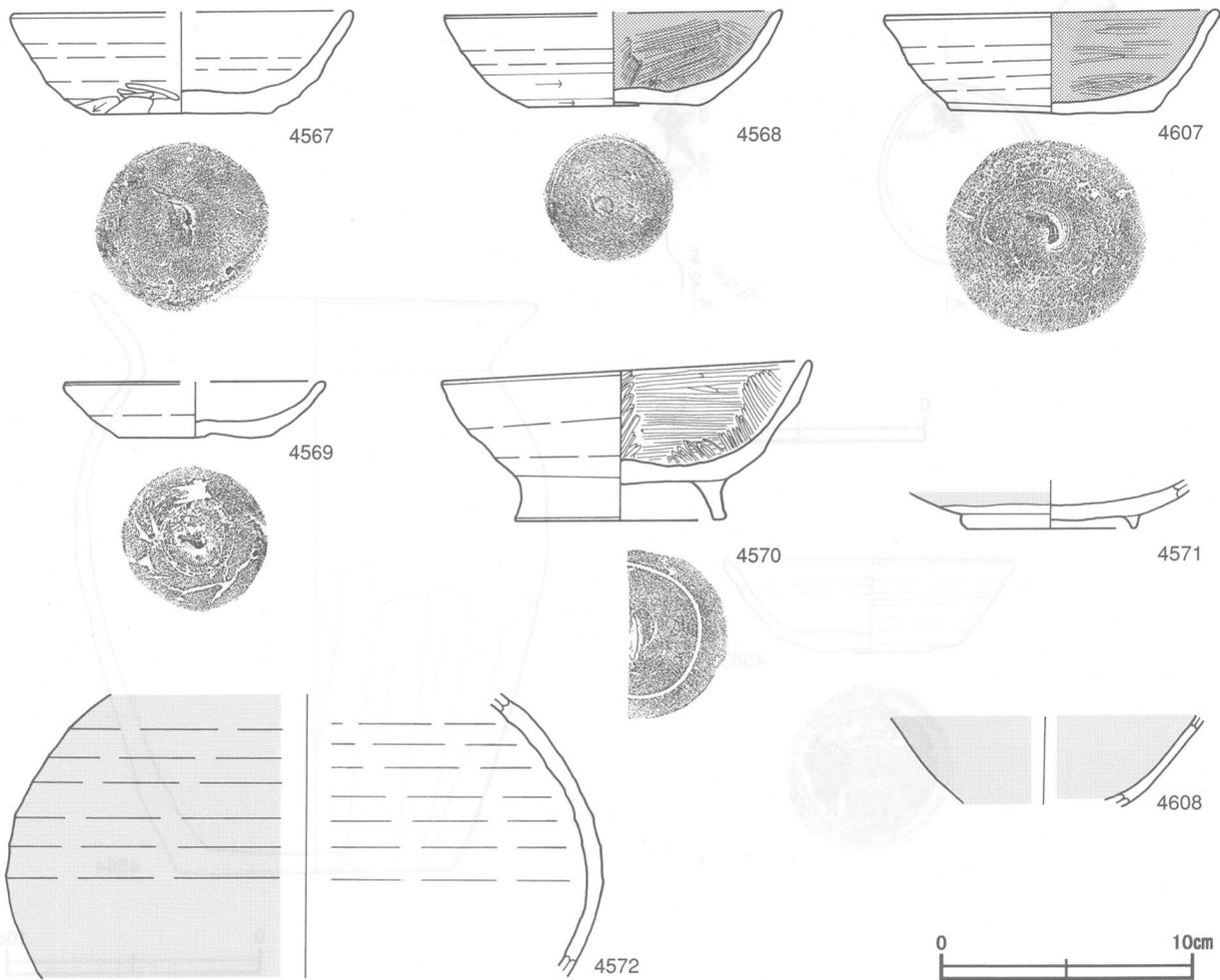
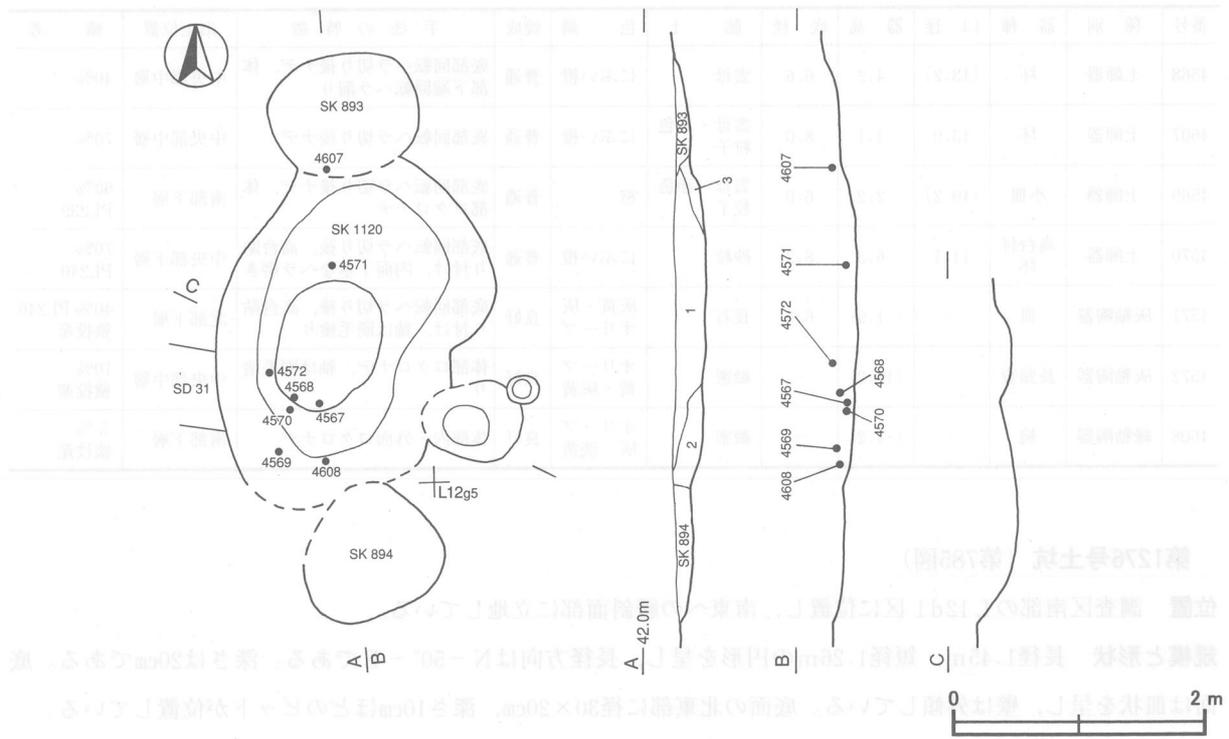
- 1 黒色 粘土小ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片576点（坏413，高台付坏17，甕146），須恵器片2点（甕），灰釉陶器片4点（碗2，皿1，長頸壺1），緑釉陶器片4点（碗），鉄滓3点（着磁性あり），碟片1点（被熱痕あり）が散在した状態で出土している。4571・4607は1層中，そのほかはほとんどが焼土中およびその上面から出土している。この焼土は本跡内で火を燃やしたことが想定され，焼土部分から出土した土器はこの焼土と密接に関連するものと考えられる。

所見 本跡南部の焼土は，祭祀的な行為の際に火が燃やされた痕跡であり，土師器坏・高台付坏や灰釉陶器，さらに緑釉陶器は火を燃やした祭祀行為の際に使用され，その後に遺棄あるいは投棄されたものと考えられる。その時期は10世紀前葉と考えられるが，祭祀の内容については不明である。

第1120号土坑出土遺物観察表（第784図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4567	土師器	坏	13.4	4.0	7.0	雲母	にぶい黄 橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ，体 部ロクロナデ	中央部下層	50%



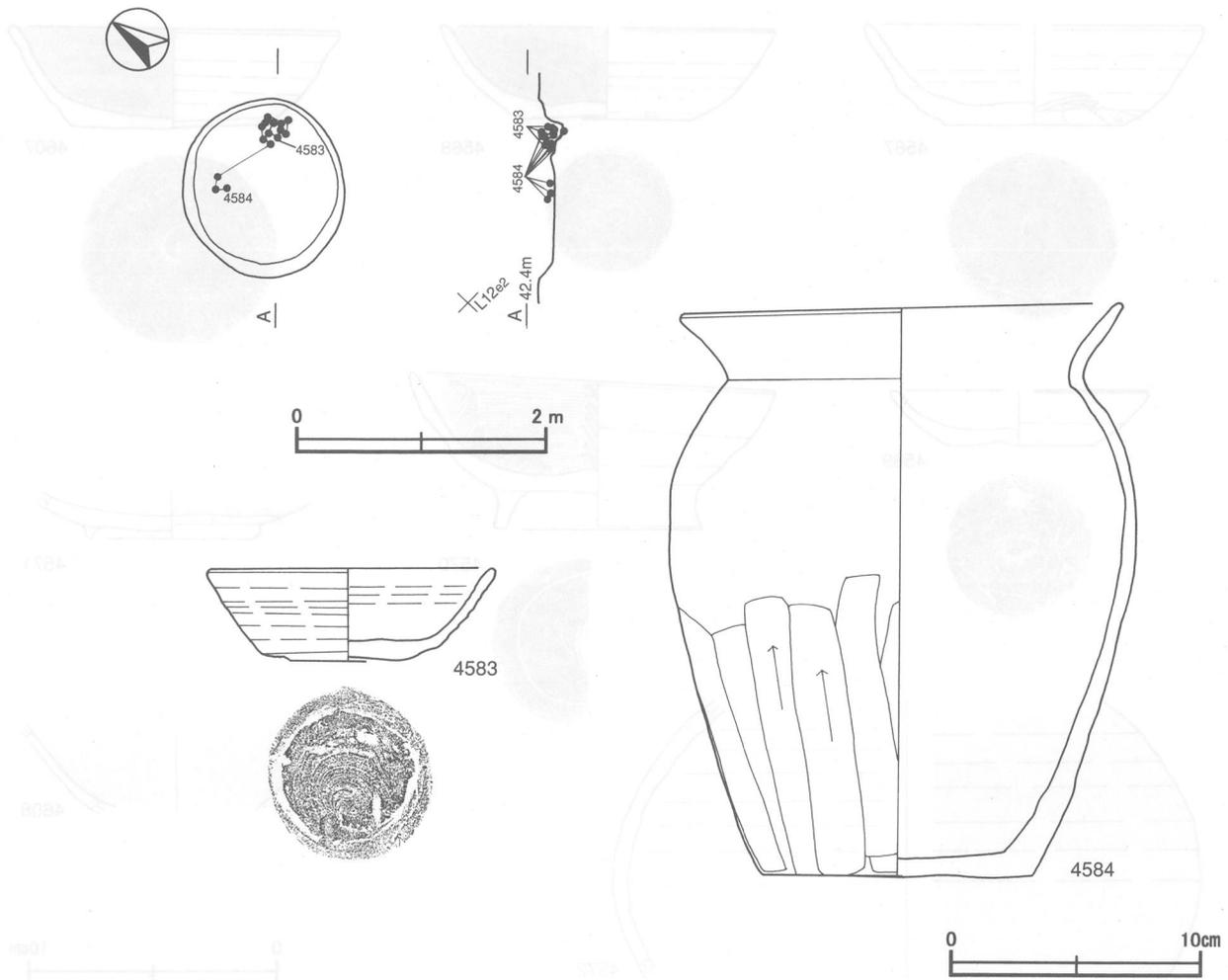
第784図 第1120号土坑・出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4568	土師器	坏	[13.2]	4.2	6.6	雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ, 体部下端回転ヘラ削り	中央部中層	40%
4607	土師器	坏	13.0	4.1	8.0	雲母・赤色 粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	中央部中層	70%
4569	土師器	小皿	[10.2]	2.2	6.0	雲母・赤色 粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ, 体部ロクロナデ	南部下層	60% PL239
4570	土師器	高台付 坏	14.1	6.3	8.2	砂粒	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け, 内面丁寧なヘラ磨き	中央部下層	70% PL240
4571	灰釉陶器	皿	-	(1.9)	6.6	長石	灰黄・灰 オリーブ	良好	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け, 釉は刷毛塗り	北部下層	40% PL246 猿投産
4572	灰釉陶器	長頸壺	-	(11.2)	-	緻密	オリーブ 黄・灰黄	良好	体部ロクロナデ, 釉は刷毛塗り	中央部中層	10% 猿投産
4608	緑釉陶器	椀	-	(4.2)	-	緻密	オリーブ 灰・淡黄	良好	体部内・外面ロクロナデ	南部下層	5% 猿投産

第1276号土坑 (第785図)

位置 調査区南部のL12d1区に位置し, 南東への緩斜面部に立地している。

規模と形状 長径1.45m, 短径1.26mの円形を呈し, 長径方向はN-50°-Eである。深さは20cmである。底面は皿状を呈し, 壁は外傾している。底面の北東部に径30×20cm, 深さ10cmほどのピットが位置している。



第785図 第1276号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片103点（坏32，甕71）が出土している。北東部に位置するピット周辺から土器片の出土が多く、4583・4584ともピット周辺の覆土から出土している。

所見 北東部に位置するピット周辺から出土した土器から，時期は10世紀後半以降と考えられる。

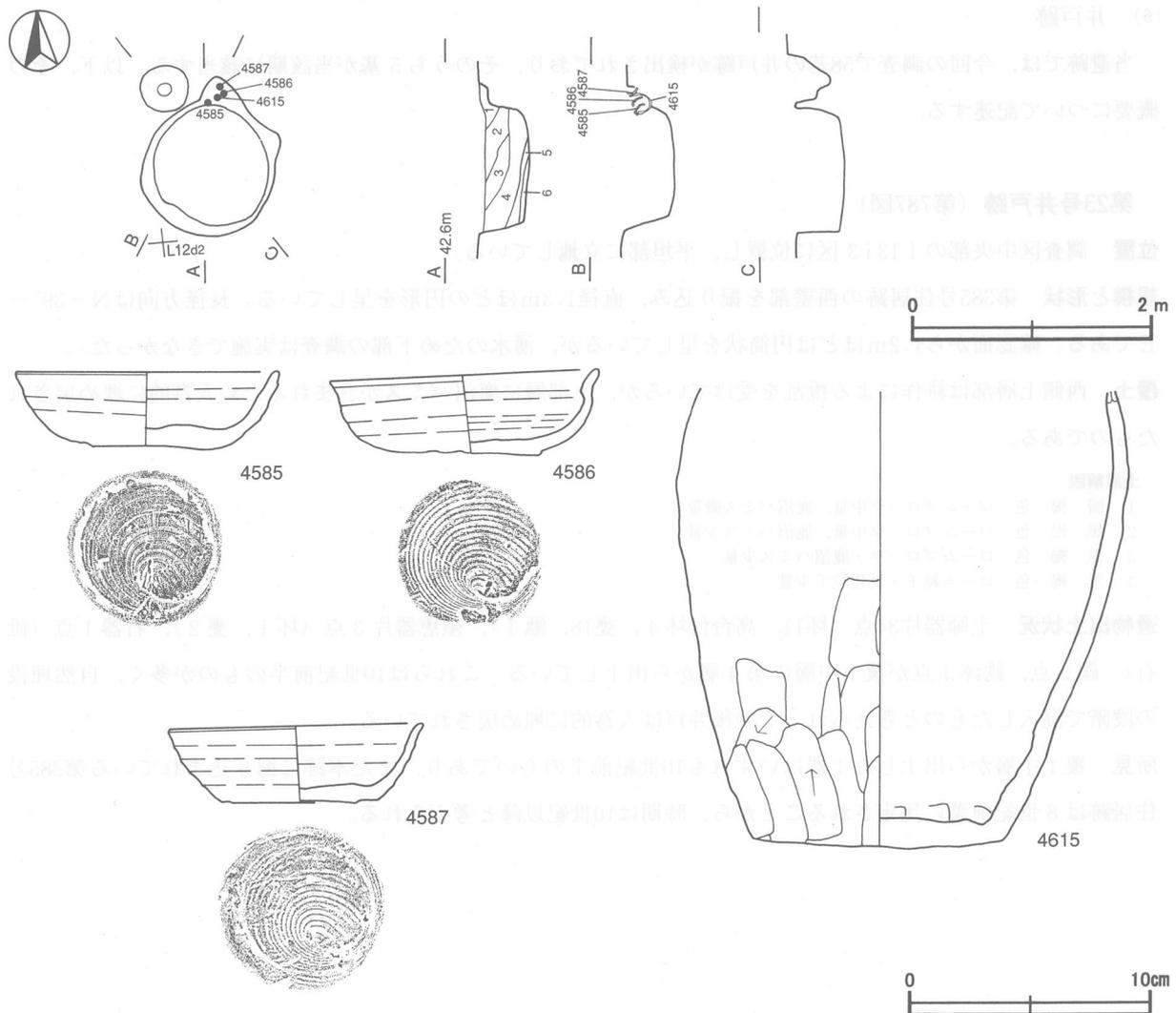
第1276号土坑出土遺物観察表（第785図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4583	土師器	坏	11.3	3.7	6.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り，体部クロクロナデ	北東部下層	80% PL240
4584	土師器	甕	17.4	23.1	10.7	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ削り，口縁部横ナデ	北部下層	50%

第1277号土坑（第786図）

位置 調査区南部のL12c2区に位置し，南東への緩斜面部に立地している。

規模と形状 長径1.1mほどのほぼ円形を呈しているが，北壁部に部分的な張り出しを有している。長径方向はN-0°である。壁高は40cmほどであり，底面はほぼ平坦で，外傾して立ち上がっている。北側には直径40cmほどのピットが隣接している。



第786図 第1277号土坑・出土遺物実測図

覆土 6層からなり、北側へ流れ込むような人為的堆積状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片22点（坏8，甕14）が出土している。北壁の張り出し部からは、4585～4587，4615が出土し、別遺構の可能性も想定されるが、本跡に伴うものとして扱った。

所見 本跡北壁の張り出し部から出土した土器から、時期は10世紀後半以降と考えられる。

第1277号土坑出土遺物観察表（第786図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4585	土師器	坏	11.0	3.3	5.3	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り，体部ロクロナデ	北部下層	100% PL241
4586	土師器	坏	11.2	3.7	5.9	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り，体部ロクロナデ	北部下層	80% PL241
4587	土師器	坏	10.4	3.2	6.5	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り，体部ロクロナデ	北部下層	80% PL241
4617	土師器	甕	-	(20.1)	10.2	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部下半ヘラ削り，内面ヘラナデ	北部下層	40%

(6) 井戸跡

当遺跡では、今回の調査で58基の井戸跡が検出されており、そのうち5基が当該期に該当する。以下、その概要について記述する。

第23号井戸跡（第787図）

位置 調査区中央部のI13i3区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 第385号住居跡の西壁部を掘り込み、直径1.3mほどの円形を呈している。長径方向はN-39°-Eである。確認面から1.2mほどは円筒状を呈しているが、湧水のため下部の調査は実施できなかった。

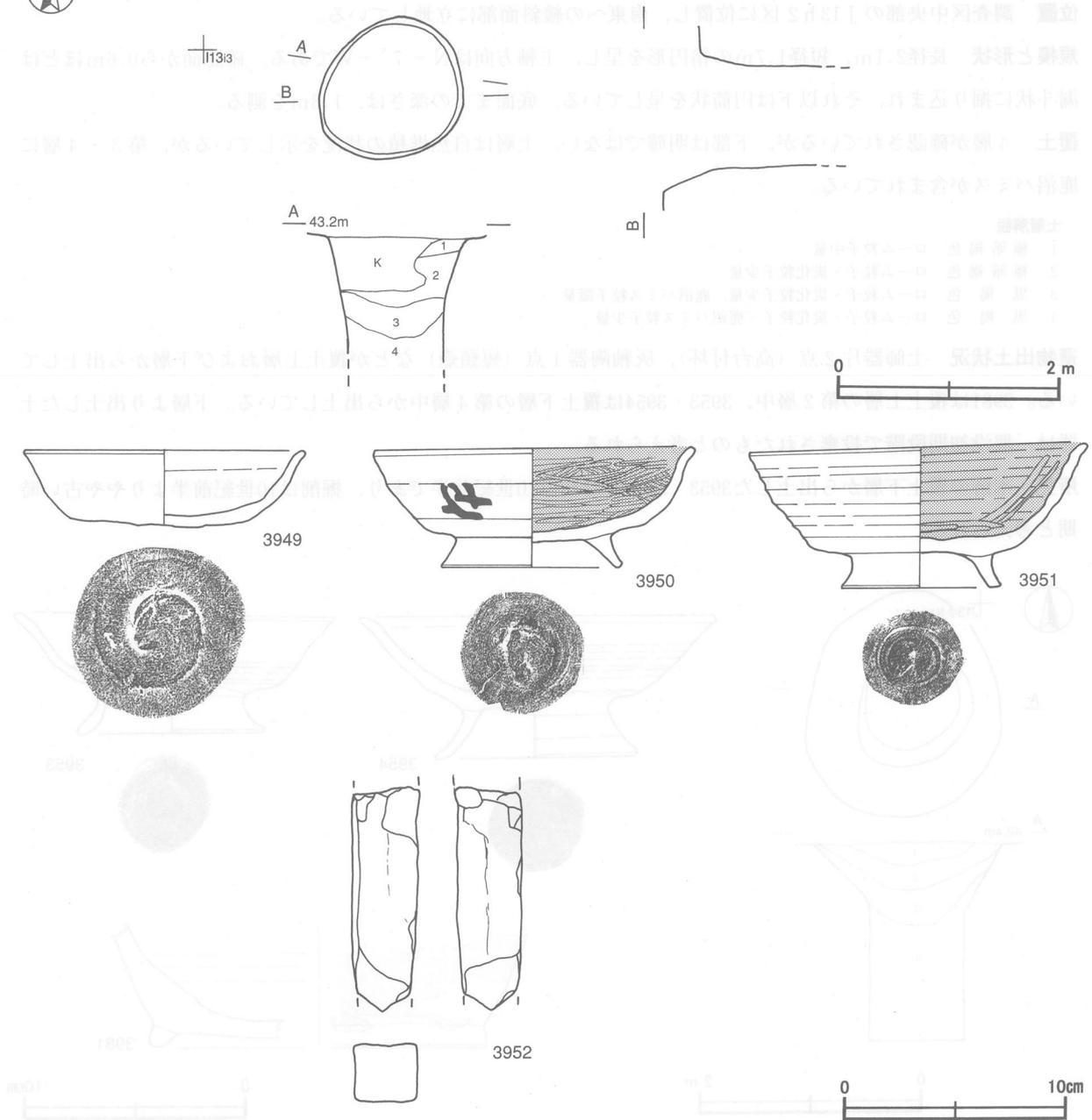
覆土 西側上層部は耕作による攪乱を受けているが、上部層に鹿沼パミスが含まれるため人為的に埋め戻されたものである。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量，鹿沼パミス微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量，鹿沼パミス少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片34点（坏11，高台付坏4，甕18，甗1），須恵器片3点（坏1，甕2），石器1点（砥石），礫3点，鉄滓1点が覆土中層の第4層から出土している。これらは10世紀前半のものが多く、自然埋没の段階で混入したものと考えられ、その後井戸は人為的に埋め戻されている。

所見 覆土中層から出土した土器はいずれも10世紀前半のものであり、また本跡に掘り込まれている第385号住居跡は8世紀前葉に比定されることから、時期は10世紀以降と考えられる。



第787図 第23号井戸跡・出土遺物実測図

第23号井戸跡出土遺物観察表 (第787図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3949	土師器	坏	12.6	3.4	8.0	金雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り, 体内内・外面ロクロナデ	覆土中層	90% PL241
3950	土師器	高台付坏	14.3	5.5	8.0	金雲母・長石・石英	橙	普通	回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土中層	100% PL242 外面「庄」の墨書
3951	土師器	高台付坏	15.0	6.5	7.3	金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	回転ヘラ切り後高台貼り付け, 体部下端回転ヘラ削り	覆土中層	70%

番号	種別	長さ	最大幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3952	砥石	(10.9)	2.9	2.5	(151.9)	チャート	砥面2面, 両端部欠損	覆土中層	

第24号井戸跡 (第788図)

位置 調査区中央部の J13h2 区に位置し、南東への緩斜面部に立地している。

規模と形状 長径2.1m、短径1.7mの楕円形を呈し、主軸方向はN-7°-Wである。確認面から0.6mほどは漏斗状に掘り込まれ、それ以下は円筒状を呈している。底面までの深さは、1.8mを測る。

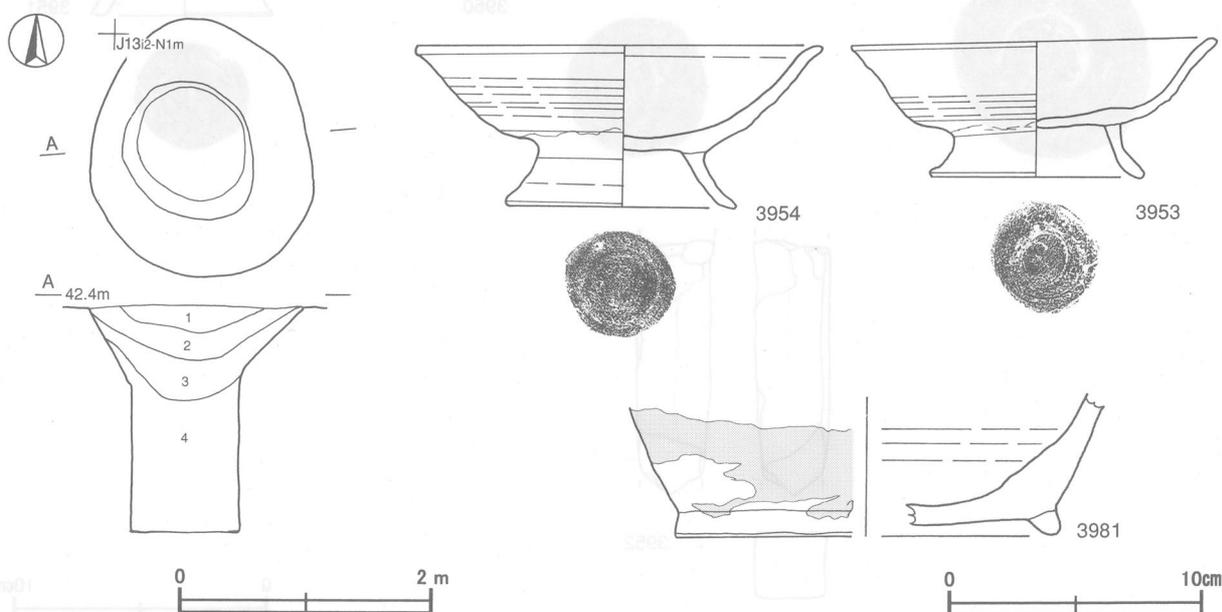
覆土 4層が確認されているが、下部は明確ではない。上層は自然堆積の状況を示しているが、第3・4層に鹿沼パミスが含まれている。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、鹿沼パミス粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量

遺物出土状況 土師器片2点(高台付坏), 灰釉陶器1点(短頸壺)などが覆土上層および下層から出土している。3981は覆土上層の第2層中, 3953・3954は覆土下層の第4層中から出土している。下層より出土した土器は、埋没初期段階で投棄されたものと考えられる。

所見 本跡の覆土下層から出土した3953・3954の時期は10世紀前半であり、掘削は10世紀前半よりやや古い時期と考えられる。



第788図 第24号井戸跡・出土遺物実測図

第24号井戸跡出土遺物観察表 (第788図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3953	土師器	高台付坏	14.3	5.6	8.5	金雲母・赤色粒子	赤褐	普通	回転ヘラ切り後、高台貼り付け、体部ロクロナデ	覆土下層	95% PL242
3954	土師器	高台付坏	16.9	6.4	9.1	砂粒	褐	普通	回転ヘラ切り後、高台貼り付け、体部ロクロナデ	覆土下層	80% PL241
3981	灰釉陶器	短頸壺カ	-	(5.6)	[15.2]	砂粒	灰オリーブ	普通	体部下端回転ヘラ削り、底部外面黄緑色の釉付着	覆土上層	10% 猿投産

第30号井戸跡 (第789図)

位置 調査区西部の E9d4 区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.5m、短径1.3mのほぼ円形で、長径方向はN-25°-Wである。確認面から1.4mほどで湧水のため下部の調査はできなかったが、掘り込みは円筒状である。

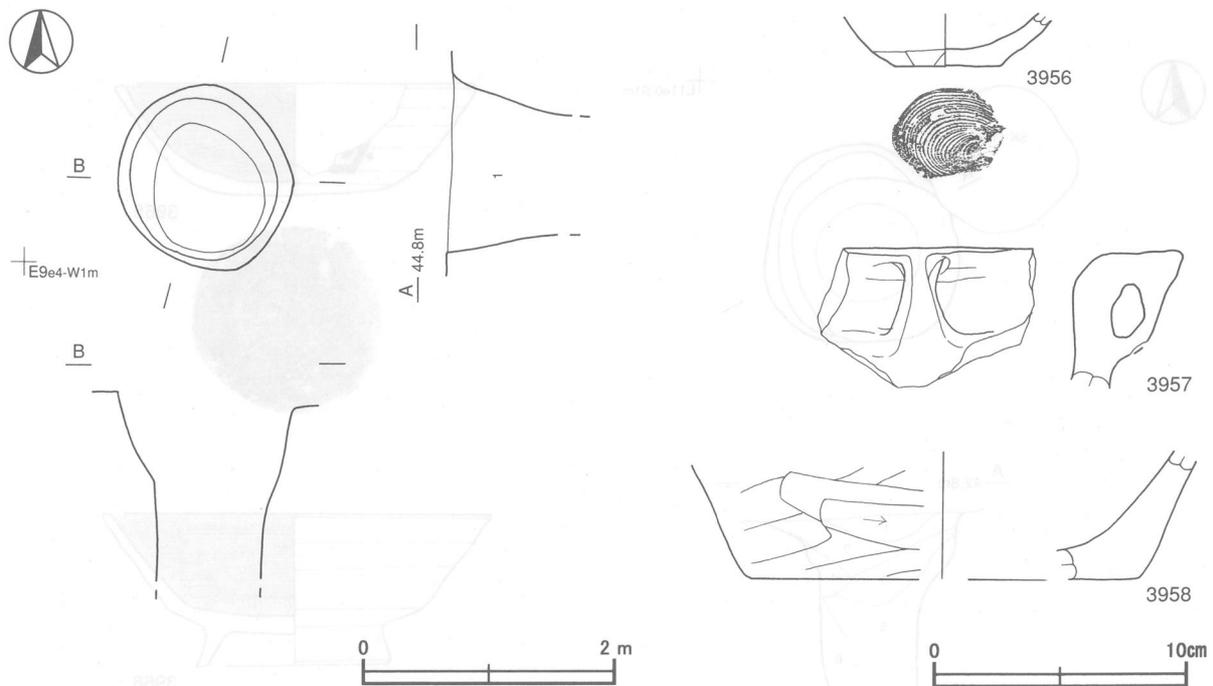
覆土 1層だけ確認したが、下部については不明であり、鹿沼パミスを含んだ人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 鹿沼パミス粒子少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片15点(坏4, 甕11), 須恵器片6点(坏1, 甕4, 蓋1), 土師質土器36点(内耳鍋, 礮3点, 鉄滓1点が覆土上層から出土しているが、細片が多い。また、3956・3958は埋没段階で投棄されたものと考えられる。

所見 本跡は第2号道路跡を掘り込んでいるが、人為的に埋め戻されている。時期については、覆土上層から中世の土師質土器が出土していることから、9~10世紀頃に掘り込まれたものと考えられる。



第789図 第30号井戸跡・出土遺物実測図

第30号井戸跡出土遺物観察表 (第789図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3956	土師質土器	小皿	-	(2.1)	4.0	雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り, 体部ロクロナデ	覆土中	40%
3957	土師質土器	内耳土器	-	(5.0)	-	金雲母・長石・石英	明赤褐	普通	ナデ	覆土中	5% 外面煤付着
3958	土師質土器	内耳土器	-	(5.2)	[15.3]	金雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部下端・底部ヘラナデ	覆土上層	5% 3957と同一個体カ

第36号井戸跡 (第790図)

位置 調査区南部のL11e9区に位置し、緩やかな東傾斜部に立地している。

規模と形状 北西部を第1117号土坑に掘り込まれている。直径1.6mほどの円形状を呈し、長径方向はN-2°-Eである。確認面からの深さは2.2mである。

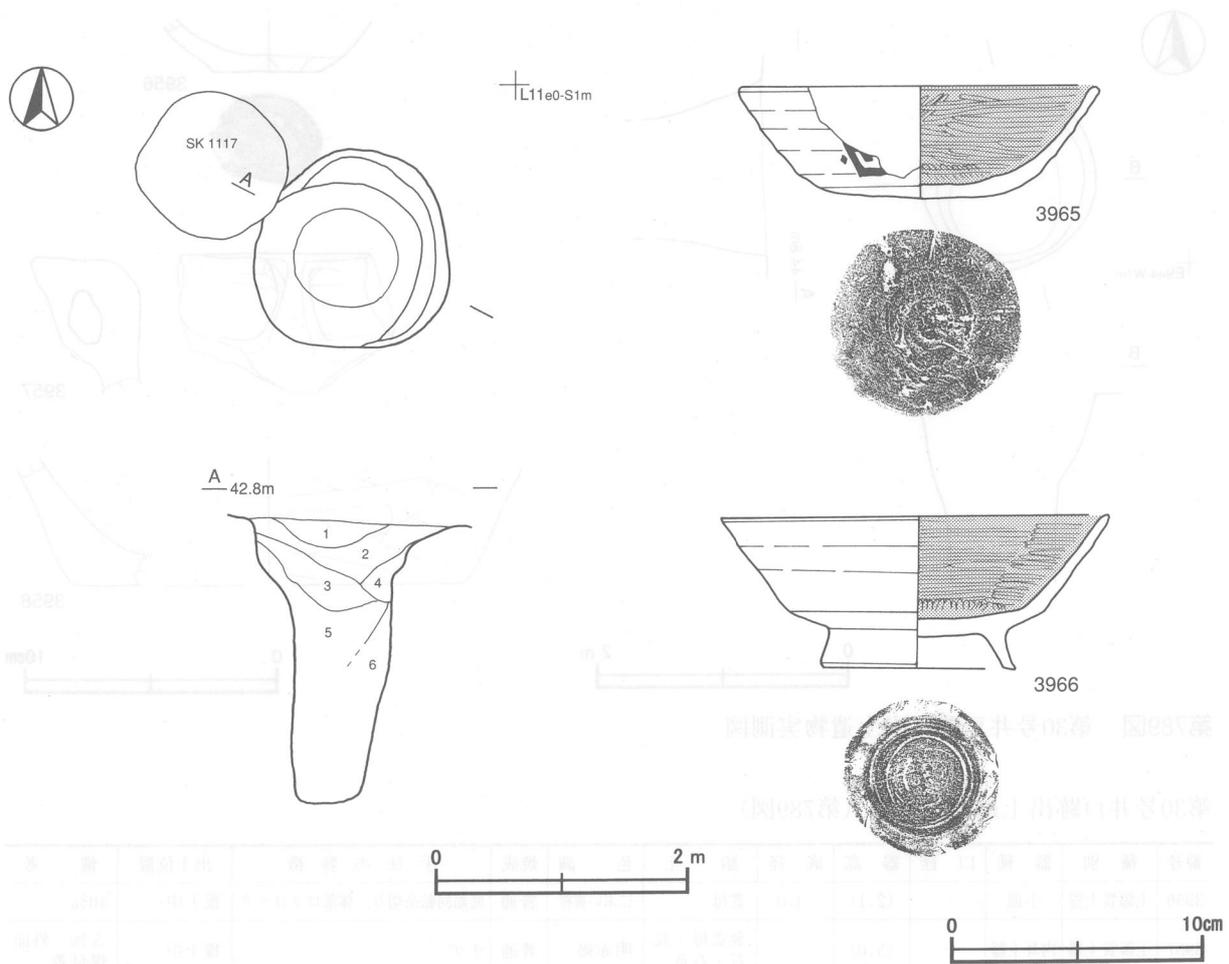
覆土 6層からなり、上層部に鹿沼パミスを含む土層が見られ、下層にはローム小ブロックを含む層が堆積している。これらは、人為的な堆積状況を示している。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 鹿沼パミス・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量
- 5 黒色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片20点（坏7，高台付坏1，甕12），須恵器片3点（坏1，甕2），陶器片1点（甕）が出土している。3965・3966は覆土中層から出土し、3965の体部外面には「庄カ」の墨書が見られる。

所見 上層の2～3層の埋め戻された層から出土した土器は9世紀後半であり、掘削時期は9世紀後半以前と考えられる。また、当遺跡からは「庄」の文字が墨書されている土器片が数多く検出されており、在地の有力者による荘園経営がなされていたことが想定される。



第790図 第36号井戸跡・出土遺物実測図

第36号井戸跡出土遺物観察表（第790図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3965	土師器	坏	14	5.4	7.9	金雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層	60% 外面墨書「庄カ」
3966	土師器	高台付坏	15.3	16.1	7.7	金雲母・長石・石英	橙	普通	回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層	90% PL242

第40号井戸跡 (第791図)

位置 調査区中央部の J13e5 区に位置し、平坦部に立地している。

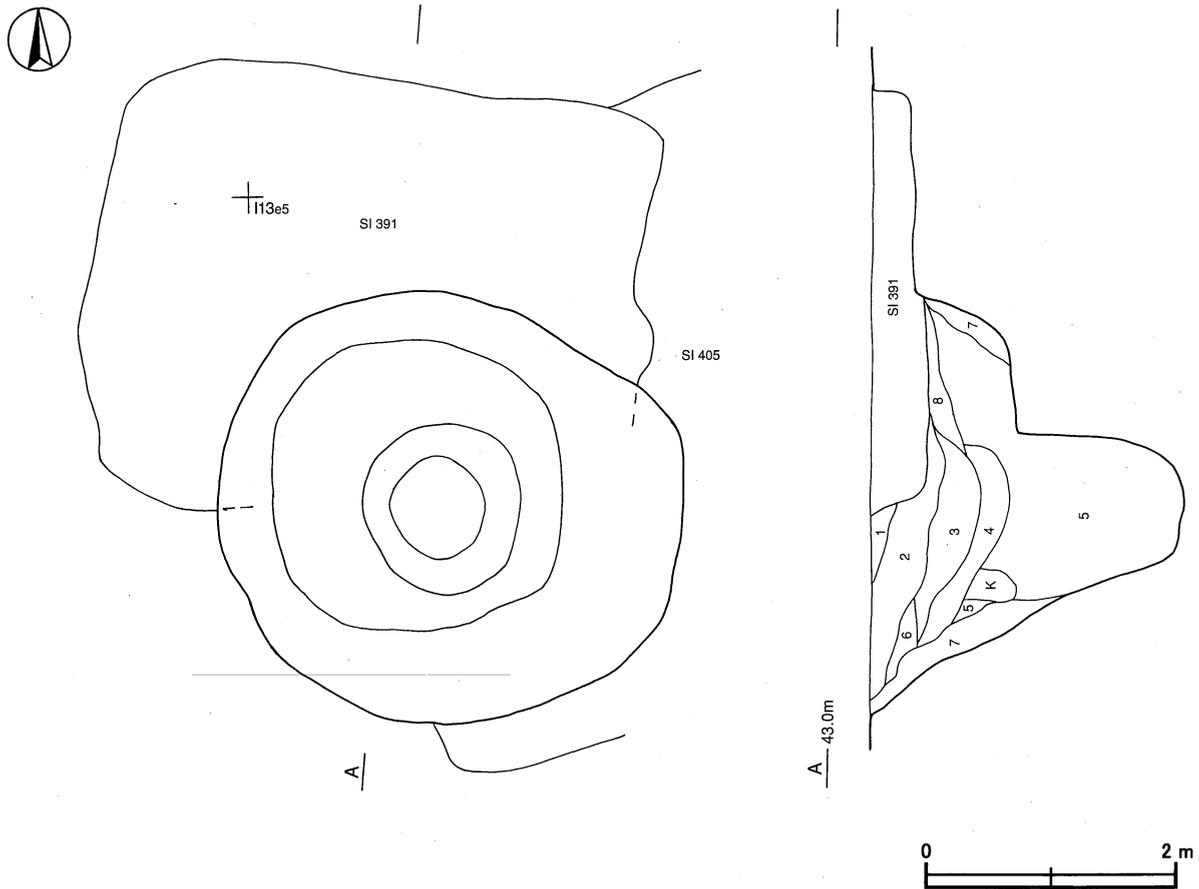
規模と形状 第405号住居跡西側部を掘り込み、北側を第391号住居に掘り込まれている。本跡は二段掘り込みの状況を示しており、上部は長径3.7m、短径3.4mの楕円形を呈し、長径方向はN-85°-Wである。確認面から1.2mほどでほぼ平坦な床面をもち、さらに中央部を径1.2mほどの円形に掘り込まれている。本来、本跡は円筒状の掘り込みに木製の井戸枠があったものと考えられ、上部の方形の掘り込みは井戸枠を埋め込んだ後に埋め戻されていたものと考えられる。確認面から底部までの深さは2.5mほどである。

覆土 8層からなる。下部は湧水のため不鮮明であるが、上部の掘り込み部分の木製井戸枠を壊して内部に投棄し、さらに埋め戻した状況が想定できる。

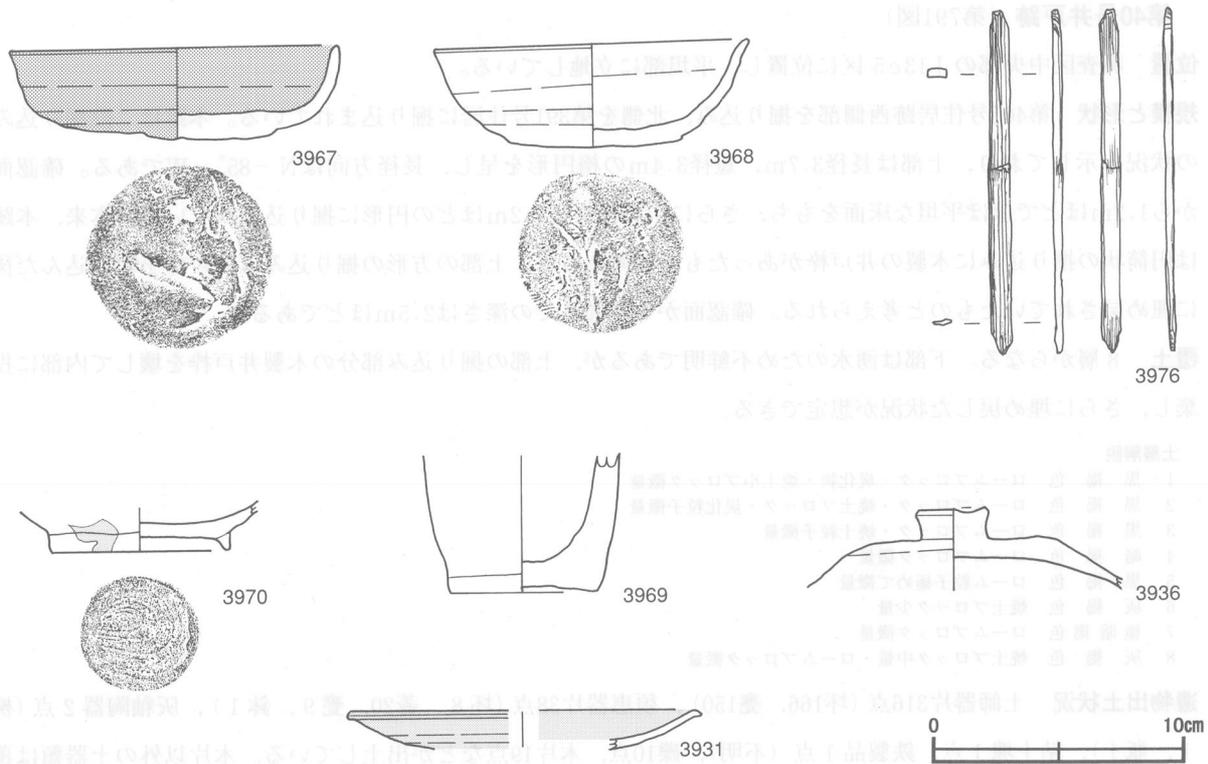
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土小ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子極めて微量
- 6 灰褐色 焼土ブロック少量
- 7 極暗褐色 ロームブロック微量
- 8 灰褐色 焼土ブロック中量・ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片316点(坏166, 甕150), 須恵器片38点(坏8, 蓋20, 甕9, 鉢1), 灰釉陶器2点(碗1, 瓶1), 粘土塊1点, 鉄製品1点(不明), 礫10点, 木片19点などが出土している。木片以外の土器類は覆土上層の2~3層中から出土したものが多く、投棄されたものである。また、木材は覆土下層から底面にかけて



第791図 第40号井戸跡実測図



第792図 第40号井戸跡出土遺物実測図(1)

て出土しており、本跡廃絶後に井戸枠が破壊されて投棄されたものと考えられる。

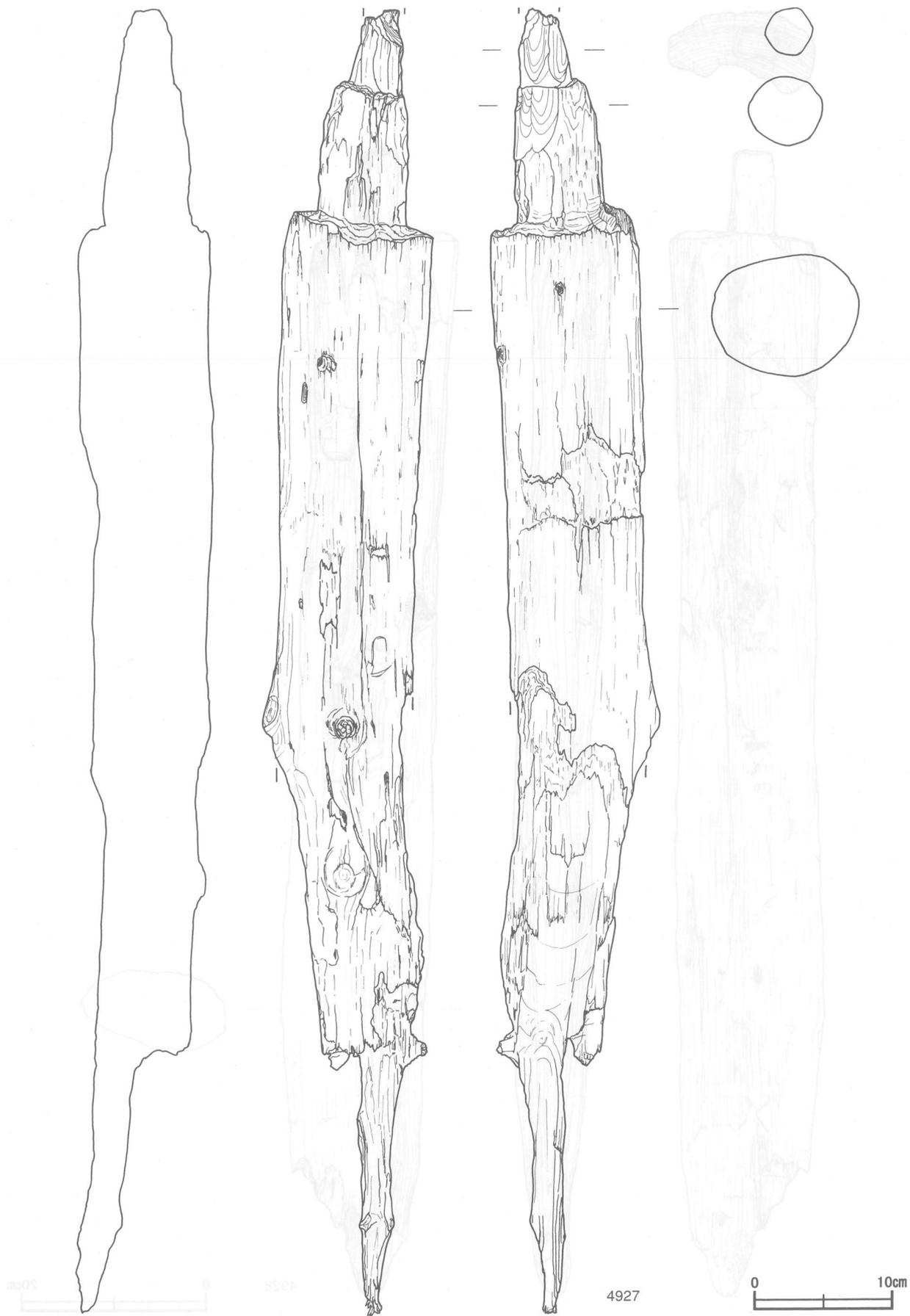
所見 本跡の覆土上層に9世紀中葉に比定される第391号住居跡の床が貼床されており、時期はそれよりも古い。しかし、廃絶後間もなく埋め戻されて第391号住居跡が構築されたとも考えられる。

第40号井戸跡出土遺物観察表 (第792図)

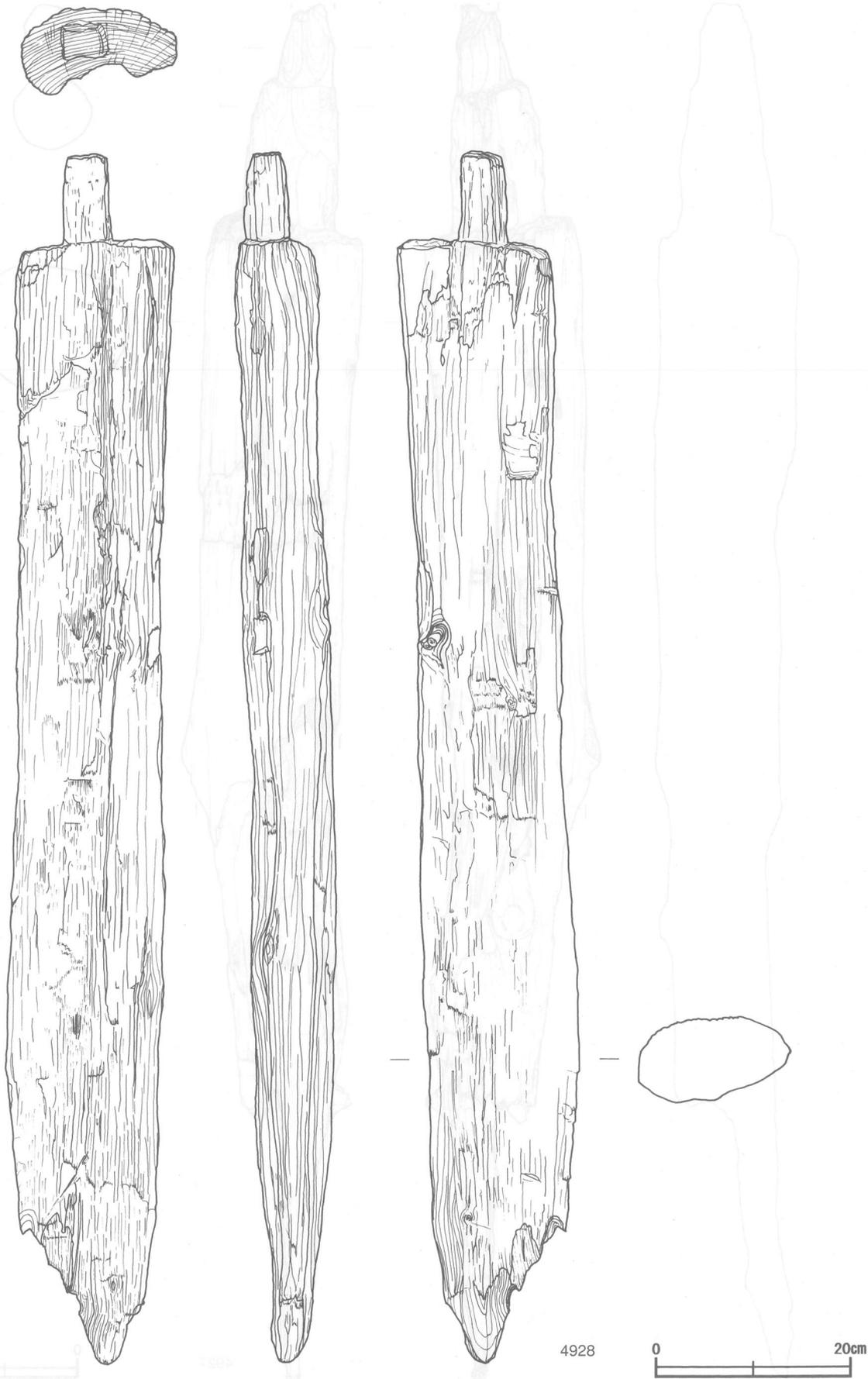
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3967	土師器	坏	12.9	3.7	7.8	雲母・長石・赤色粒子	黒褐	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	80% PL241
3968	土師器	坏	12.4	4.1	7.0	金雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	70%
3936	須恵器	蓋	-	(3.3)	-	雲母・長石・赤色粒子	灰	普通	天井部外面回転ヘラ削り	覆土上層	70%
3969	須恵器	鉢類カ	-	(5.4)	5.8	雲母・長石・赤色粒子	オリーブ黒	普通	体部ロクロナデ	覆土中	30%
3970	灰釉陶器	椀	-	(1.7)	7.0	長石・砂粒	灰黄、黄緑釉	普通	底部回転糸切り後、高台貼り付け、ナデ	覆土中層	30% 猿投産
3931	灰釉陶器	皿	[13.6]	(1.5)	-	緻密	灰白	良好	体部ロクロナデ、釉は内・外面刷毛塗り	覆土上層	5%

番号	種別	器種	長さ	幅・径	厚さ	特徴	出土位置	備考
3976	木製品	木札カ	13.6	0.8	0.3	先端部を鋒状に尖らせている。加工痕あり。	覆土中	PL278

番号	種別	器種	長さ	幅・径	厚さ	特徴	出土位置	備考
4927	木製品	丸太材	(92.6)	12.0	-	加工痕あり、一方にほぞを設けている、井戸枠の一部	覆土下層	PL275
4928	木製品	半丸太材	(125.2)	15.5	8.2	加工痕あり、一方にほぞを設けている、井戸枠の一部	覆土下層	PL275
4929	木製品	半丸太材	(84.0)	16.0	8.0	加工痕あり、一方を段状に相欠きほぞ組み状の加工を施している、井戸枠の一部	覆土下層	PL276
4930	木製品	板材	(27.0)	13.2	4.4	加工痕あり、相欠きほぞ組み状の加工を施している、井戸枠の一部	覆土下層	



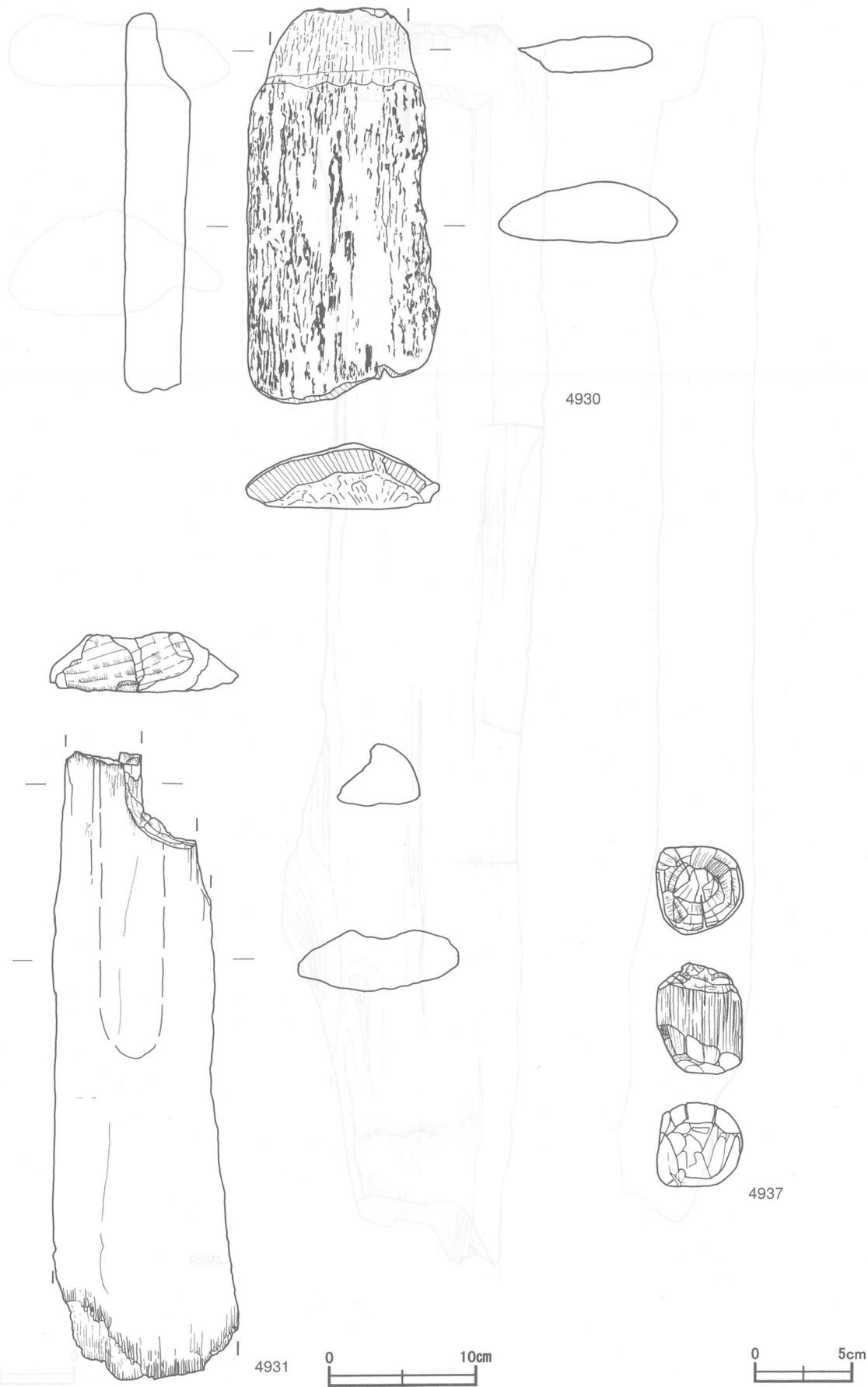
第793图 第40号井戸跡出土遺物実測図(2)



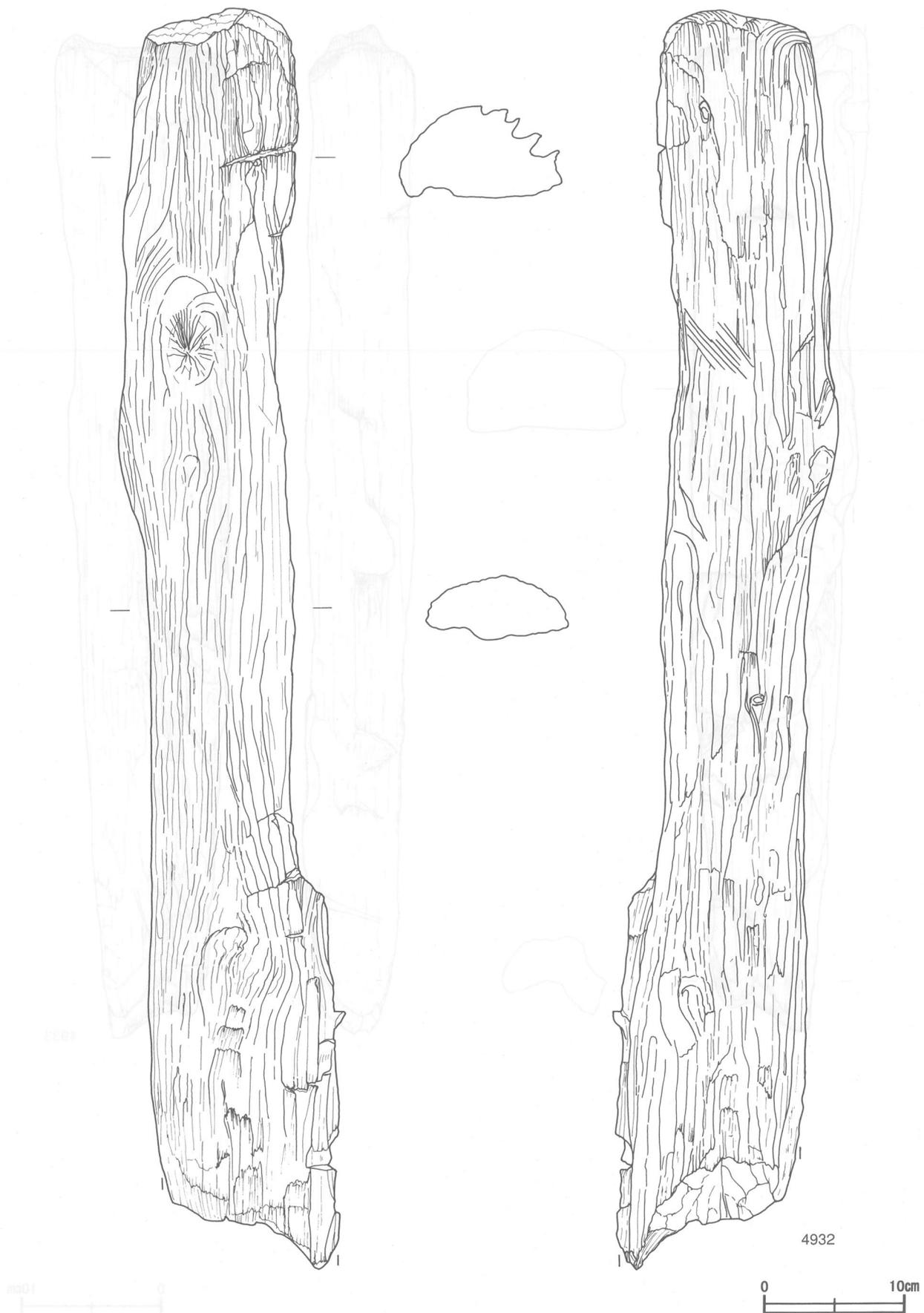
第794図 第40号井戸跡出土遺物実測図(3)



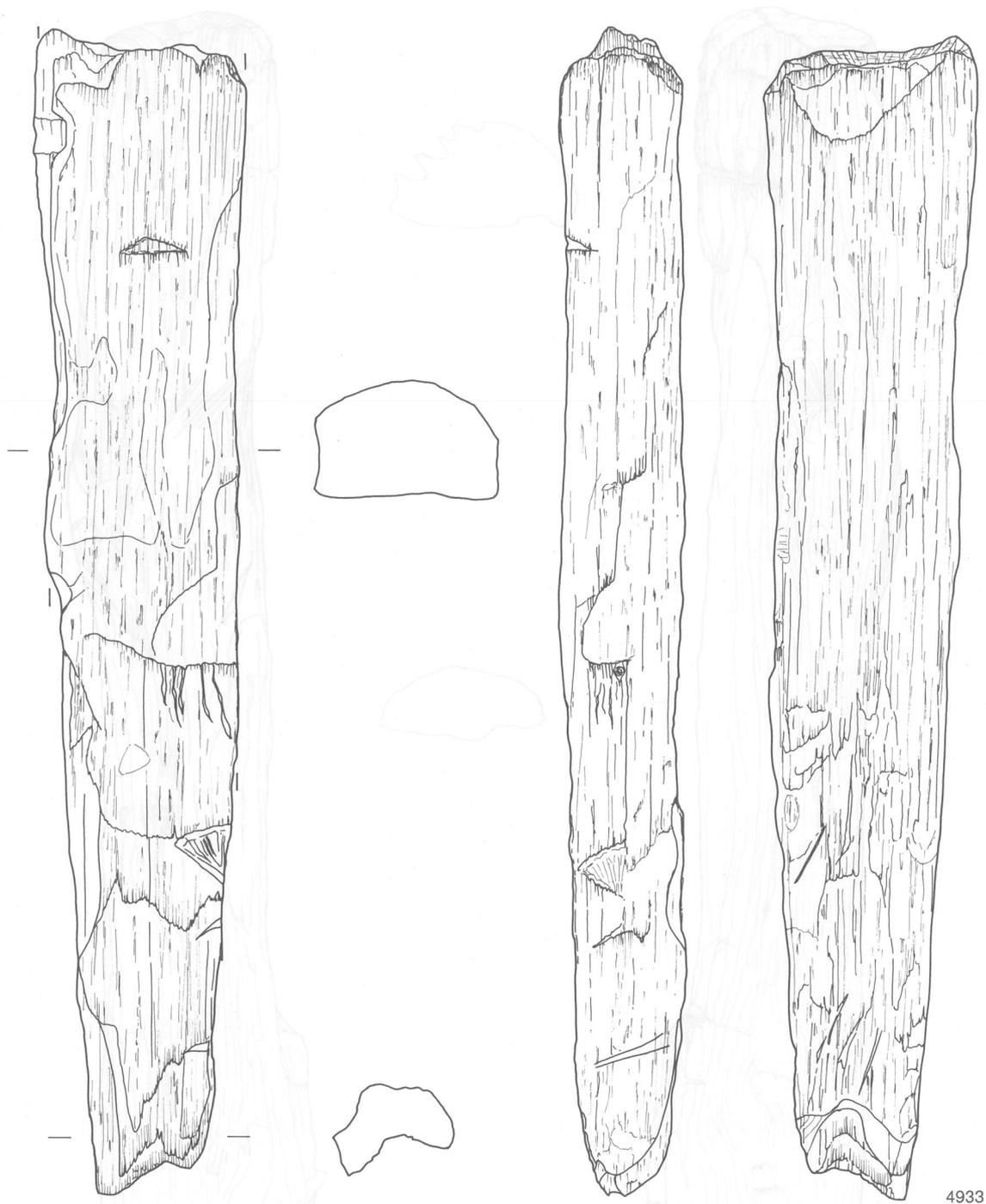
第795図 第40号井戸跡出土遺物実測図(4)



第796图 第40号井戸跡出土遺物実測図(5)



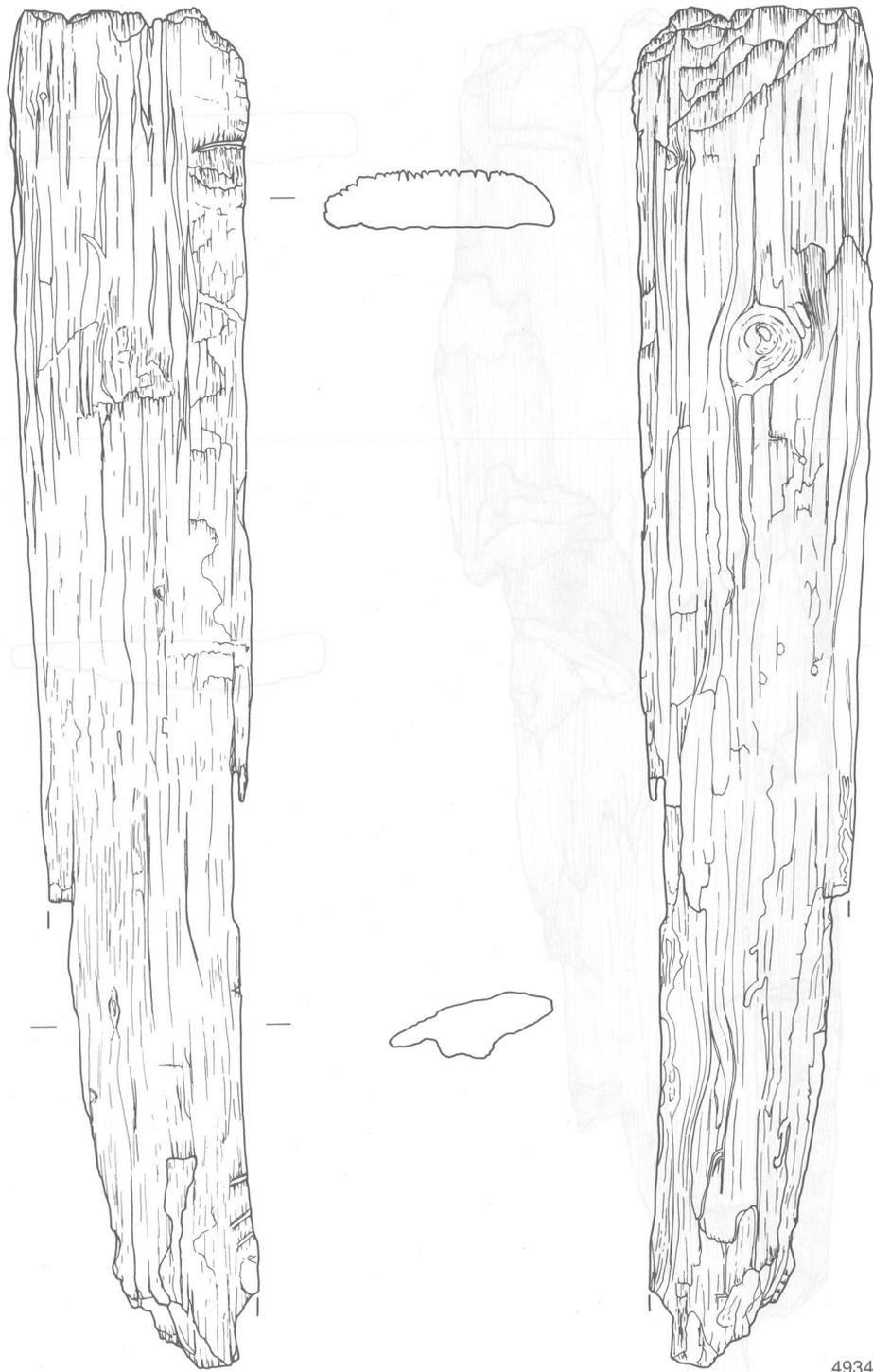
第797図 第40号井戸跡出土遺物実測図(6)



4933



第798図 第40号井戸跡出土遺物実測図(7)



4934



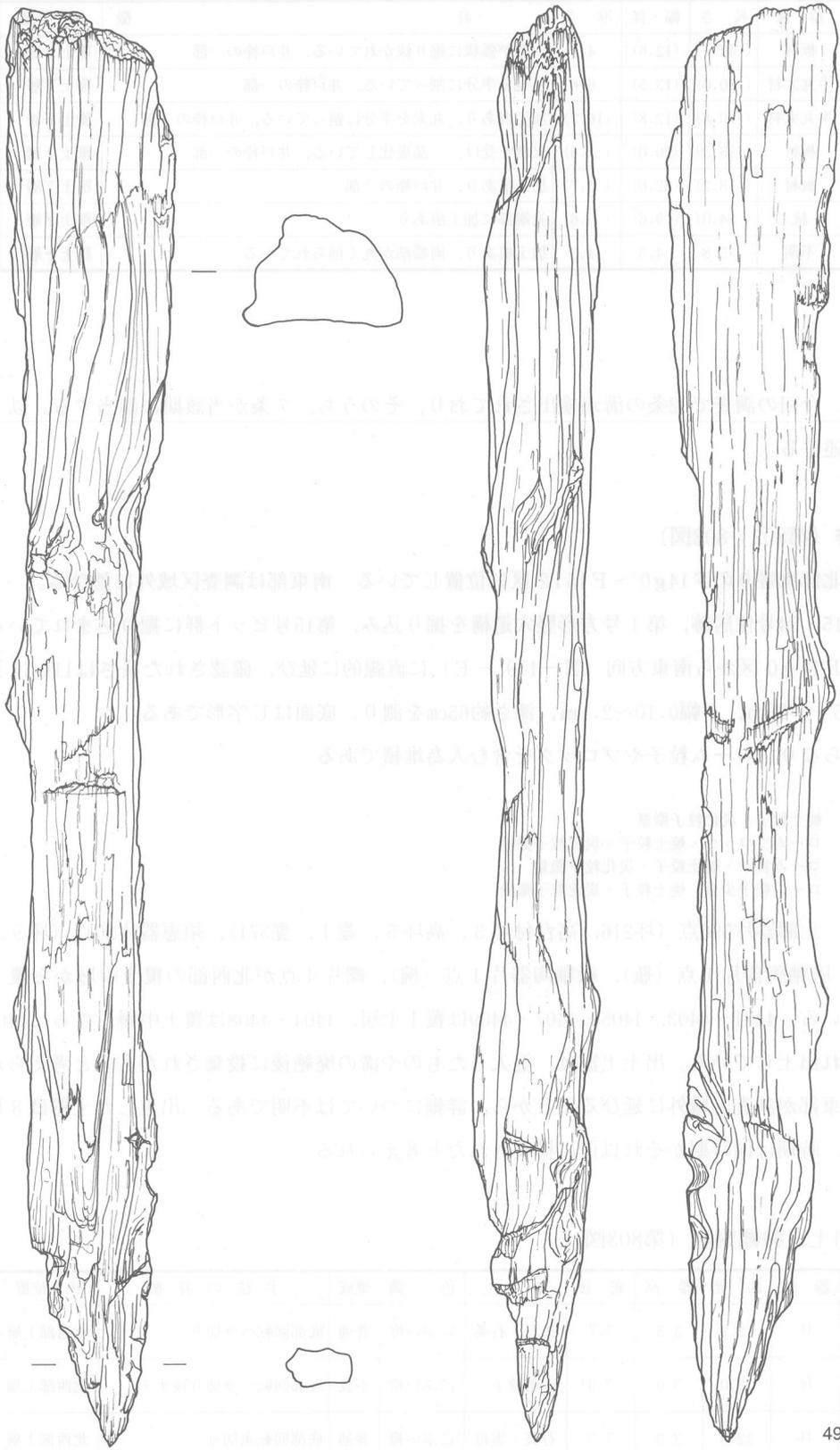
第799図 第40号井戸跡出土遺物実測図(8)



4935



第800図 第40号井戸跡出土遺物実測図(9)



4936



第801図 第40号井戸跡出土遺物実測図(10)

番号	種別	器種	長さ	幅・径	厚さ	特徴	出土位置	備考
4931	木製品	板材	(42.7)	(12.6)	4.2	一方が弧状に掘り抜かれている, 井戸枠の一部	覆土下層	
4932	木製品	半丸太材	(90.0)	(13.5)	6.6	丸太を半分に分けている, 井戸枠の一部	覆土下層	PL276
4933	木製品	半丸太材	(70.8)	(12.8)	(16.2)	加工痕あり, 丸太を半分に分けている, 井戸枠の一部	覆土下層	PL276
4934	木製品	板材	(115.3)	(20.0)	(4.6)	火熱を受け, 一部炭化している, 井戸枠の一部	覆土下層	PL277
4935	木製品	板材	(78.2)	(22.0)	(2.7)	加工痕あり, 井戸枠の一部	覆土下層	PL277
4936	木製品	杭	(84.0)	(9.6)	(5.6)	先端部に加工痕あり	覆土下層	PL277
4937	木製品	不明	5.8	4.3	4.3	加工痕あり, 両端部が丸く削られている	覆土下層	

(7) 溝跡

当遺跡では, 今回の調査で32条の溝が検出されており, そのうち, 7条が当該期に該当する。以下, その概要について記述する。

第3号溝跡 (第802・803図)

位置 調査区北部東寄りのF14g0～F15i2区に位置している。南東部は調査区域外に延びる。

重複関係 第15・54号住居跡, 第1号方形竪穴遺構を掘り込み, 第15号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 F14g0区から南東方向(N-110°-E)に直線的に延び, 確認された長さは11mほどである。

規模は上幅0.5～3.23m, 下幅0.10～2.1m, 深さ約65cmを測り, 底面はU字形である。

覆土 4層からなり, ローム粒子やブロックを含む人為堆積である。

土層解説

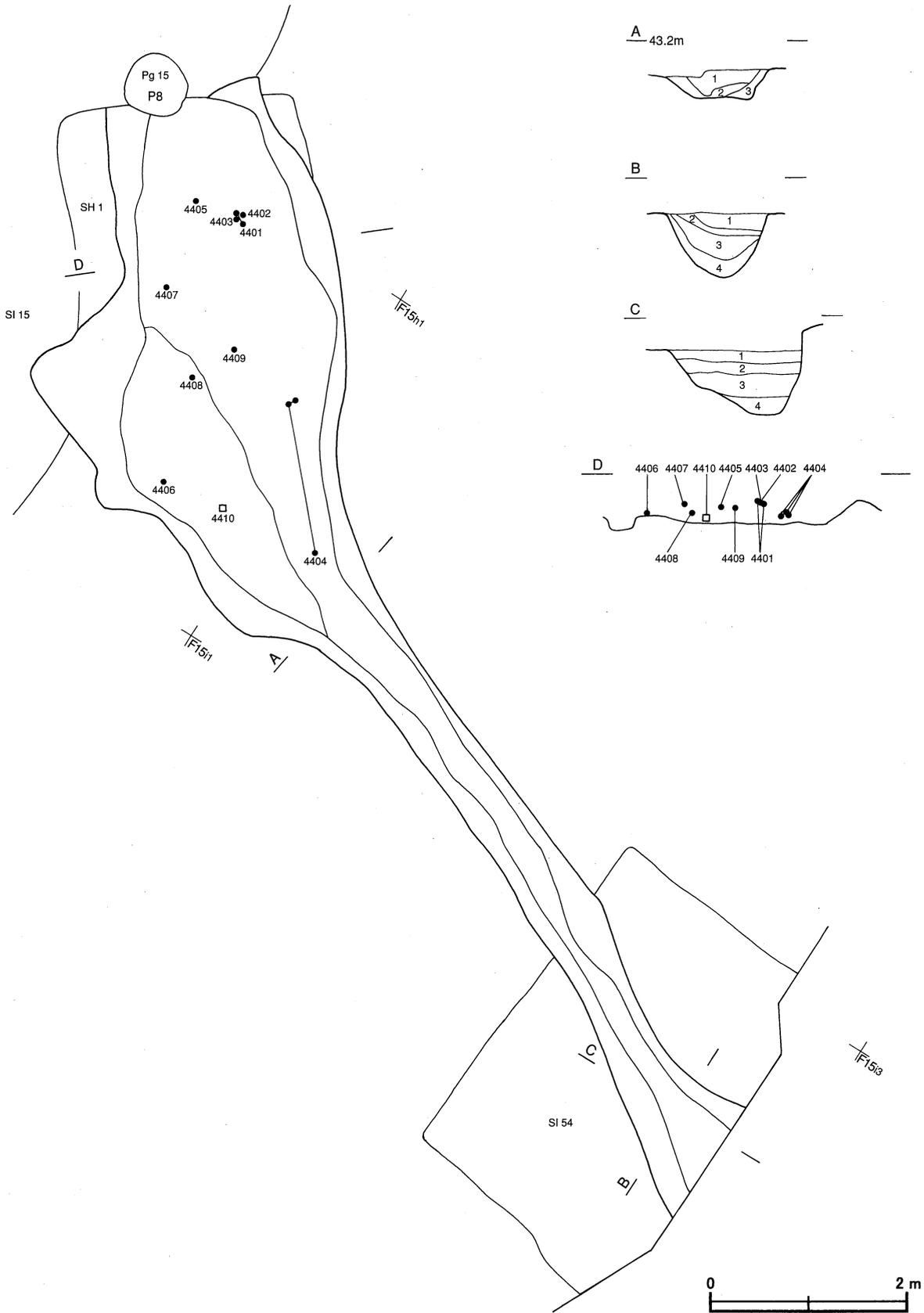
- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片596点(坏216, 高台付坏3, 高坏5, 蓋1, 甕371), 須恵器片20点(坏9, 高坏1, 蓋2, 甕8), 灰釉陶器片1点(瓶), 緑釉陶器片1点(碗), 礫片4点が北西部の覆土中層から覆土上層を中心に出土している。4401～4403, 4405・4407・4409は覆土上層, 4404・4408は覆土中層, さらに4406は覆土下層からそれぞれ出土している。出土土器は, 混入したものや溝の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

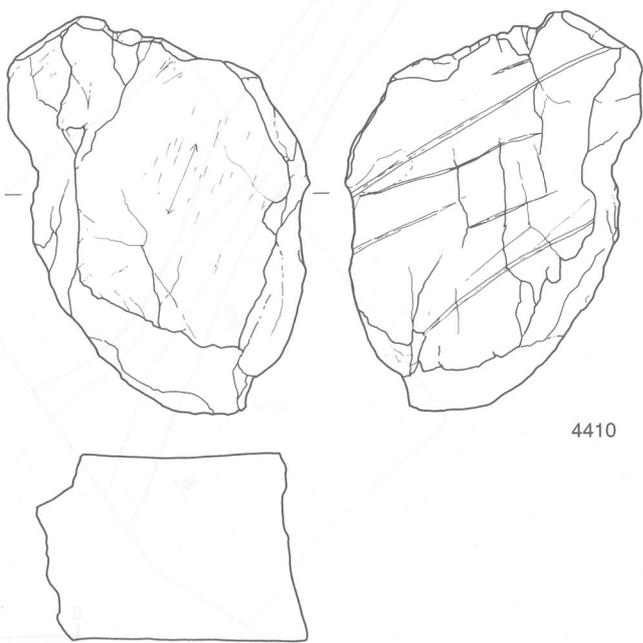
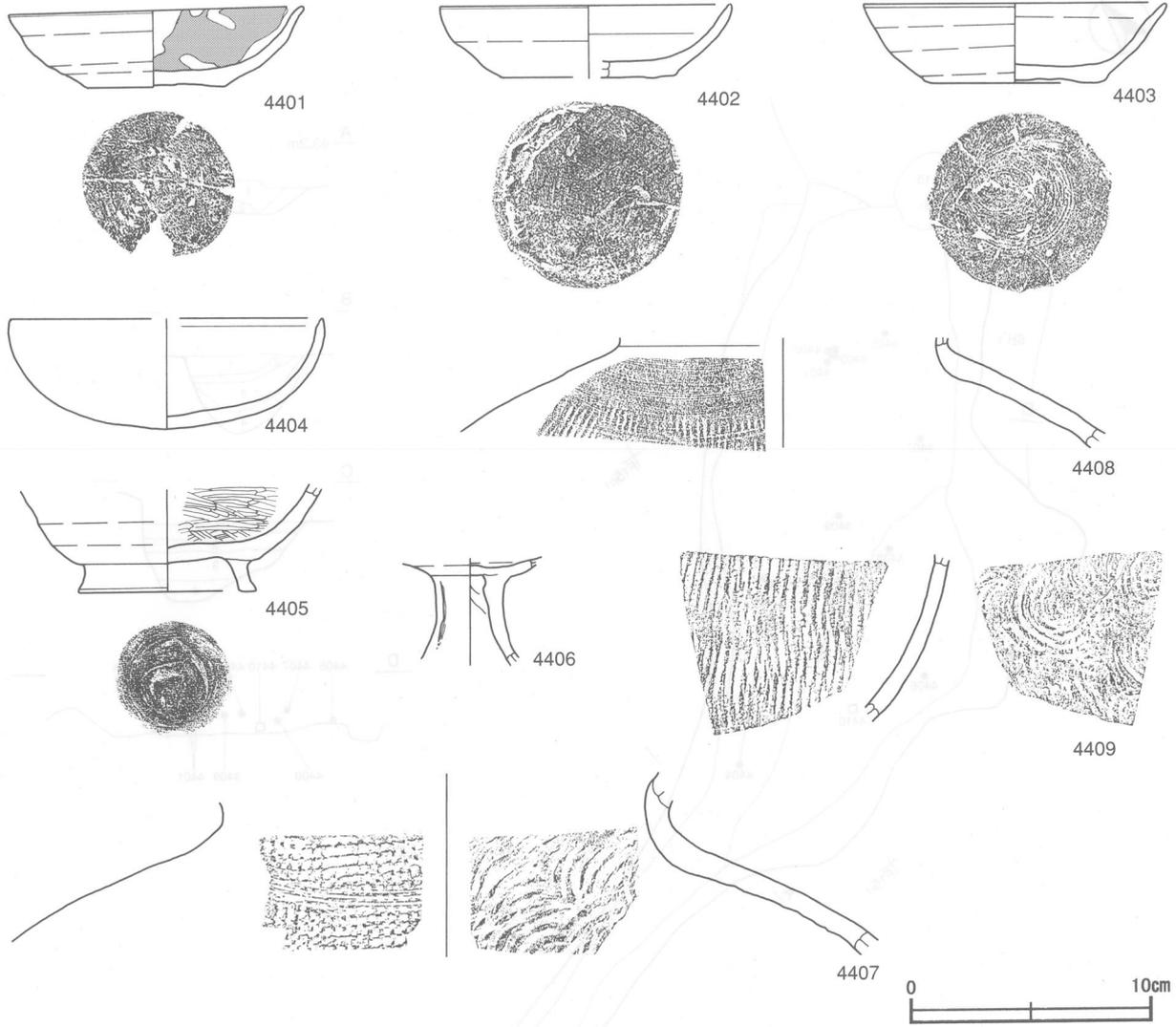
所見 本跡は東部が調査区域外に延びることから, 詳細については不明である。出土した土器は8世紀から9世紀代であり, 時期は同時期かそれ以前に構築されたと考えられる。

第3号溝跡出土遺物観察表 (第803図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4401	土師器	坏	12.2	3.3	5.7	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	北西部上層	70% 内面油煙付着
4402	土師器	坏	12.0	3.0	[7.3]	赤色粒子	にぶい橙	不良	底部回転ヘラ切り後ナデ	北西部上層	80% PL243
4403	土師器	坏	12.5	3.3	7.3	石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	北西部上層	90% PL242
4404	土師器	坏	[13.0]	4.5	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	北西部中層	20%
4405	土師器	高台付坏	-	(3.2)	7.4	石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り, 高台貼り付け	北西部上層	60%
4406	須恵器	高坏	-	(4.5)	-	長石	灰	普通	ロクロナデ	北西部下層	5% 自然釉
4407	須恵器	甕	-	(6.6)	-	長石	灰黄褐	普通	外面格子状の叩き, 内面同心円状の当て具痕	北西部上層	5%



第802图 第3号沟迹实测图



第803図 第3号溝跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4408	須恵器	甕	-	(4.5)	-	長石	黄灰	普通	体部外面平行叩き	北西部中層	5%
4409	須恵器	甕	-	(7.0)	-	長石	褐灰	普通	外面平行叩き、内面同心円状の当て具痕	北西部上層	5% PL256

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4410	砥石	(21.4)	(15.9)	(14.8)	(4810)	砂岩	砥面2面、その他は破断面	北東部下層	

第4A号溝跡 (第804・805図)

位置 調査区中央部のJ12e7～J13i7区に位置し、北には第7号掘立柱建物跡、南には第19・25号掘立柱建物跡が確認されている。

重複関係 第411・500・508号住居跡、第1号濠跡、第216号土坑を掘り込み、第4B号溝、第830号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 J12e7区から東方向(N-100°-E)に直線的に延びる。確認された長さは42mほどである。規模は上幅0.73～1.5m、下幅0.33～1.43m、深さ約32cmを測り、底面が皿状を呈し、壁面は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層され、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

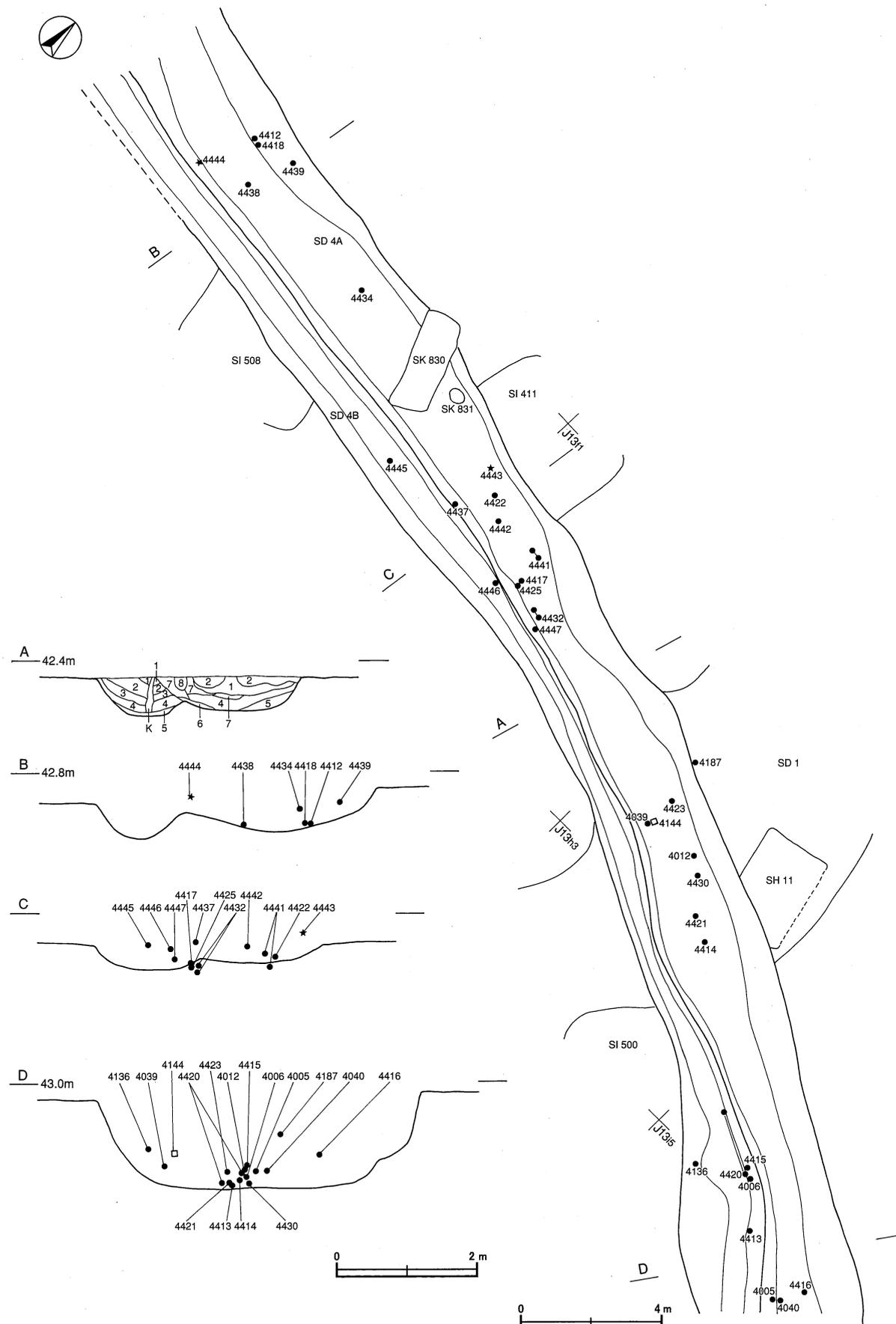
- 1 褐色 ロームブロック少量・鹿沼バミス微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、鹿沼バミス少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・鹿沼バミス中量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物・鹿沼バミス少量

遺物出土状況 土師器片251点(坏90, 高台付坏6, 高坏1, 甕154), 須恵器片9点(坏1, 甕8), 灰釉陶器片5点(碗2, 瓶3), 礫片7点が東部や中央部の覆土下層を中心に出土している。4006・4413・4415・4420は東部の覆土下層, 4136は東部の覆土中層から出土している。また, 4445・4446は中央部上層, 4448は覆土中から出土し, 4445の外面には「庄南」, 4448は「庄」と墨書されており, 溝の埋没中に投棄されたものと考えられる。

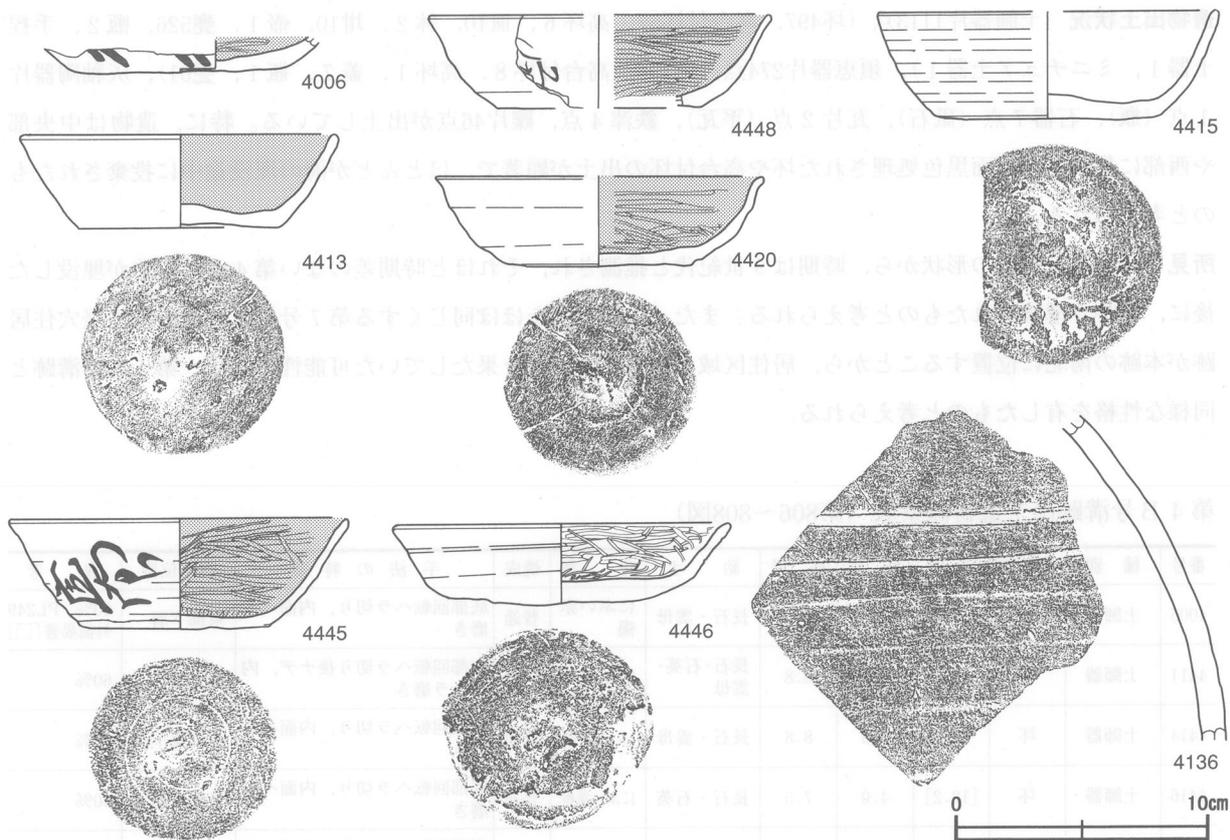
所見 本跡の東部下層から出土した土器の形状から, 時期は9世紀代と推測される。本跡の南北両側には主軸方向を同一にする掘立柱建物跡が存在することから, これらの施設を区画する機能を果たしていた可能性が高い。

第4A号溝跡出土遺物観察表 (第805図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4006	土師器	坏	-	(1.3)	[8.8]	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	東部下層	20% 墨書「□」
4413	土師器	坏	12.6	3.7	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	東部下層	70%
4415	土師器	坏	[13.6]	4.3	8.9	長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	東部下層	50%
4420	土師器	坏	[13.0]	3.6	7.3	石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り、内面ヘラ磨き	東部下層	70%
4445	土師器	坏	13.4	4.5	7.1	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ、内面ヘラ磨き	中央部上層	70% PL249 墨書「庄南」
4446	土師器	坏	13.4	3.3	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ、内面ヘラ磨き	中央部上層	60%



第804图 第4 A·B号沟迹实测图



第805図 第4 A号溝跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4448	土師器	坏	[13.4]	3.7	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	30% 墨書「庄」カ
4136	須恵器	甕	-	(13.0)	-	長石	暗灰	普通	体部ロクロナデ	東部中層	5% PL257

第4 B号溝跡 (第804・806~808図)

位置 調査区中央部のJ12e7~J13i7区に位置し、北には第7号掘立柱建物跡、南には第19・25号掘立柱建物跡が確認されている。

重複関係 第411・500・508号住居跡、第1号濠跡、第4 A号溝跡、第216号土坑を掘り込み、第830号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 J12e7区から東方向(N-100°-E)に直線的に延びる。確認された長さは42mほどである。規模は上幅2.0~3.0m、下幅0.7~2.1m、深さ約30cmを測り、底面が皿状を呈し、壁面は外傾して立ち上がる。

覆土 9層に分層され、ロームブロックや粒子を含む人為堆積である。

土層解説

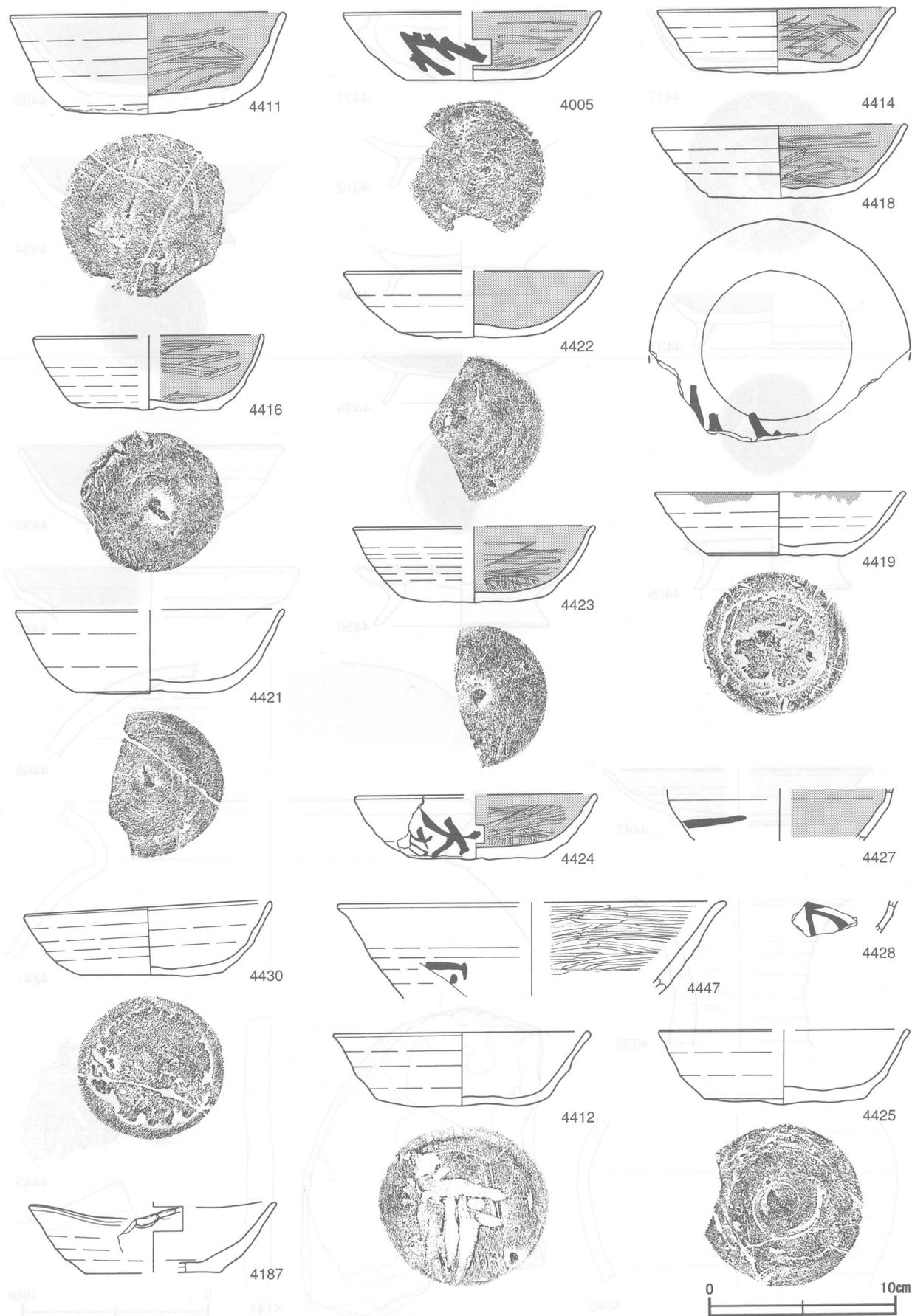
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
- 4 極暗褐色 鹿沼パミス中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・鹿沼パミス少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック・鹿沼パミス中量
- 8 褐色 ロームブロック・鹿沼パミス中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1113点（坏497，高台付坏57，高坏6，皿10，鉢2，罎10，壺1，甕526，甑2，手握土器1，ミニチュア土器1），須恵器片274点（坏196，高台付坏8，高坏1，蓋7，瓶1，甕61），灰釉陶器片1点（瓶），石器7点（砥石），瓦片2点（平瓦），鉄滓4点，礫片46点が出土している。特に，遺物は中央部や西部に集中し，内面黒色処理された坏や高台付坏の出土が顕著で，ほとんどが溝の埋没途中に投棄されたものと考えられる。

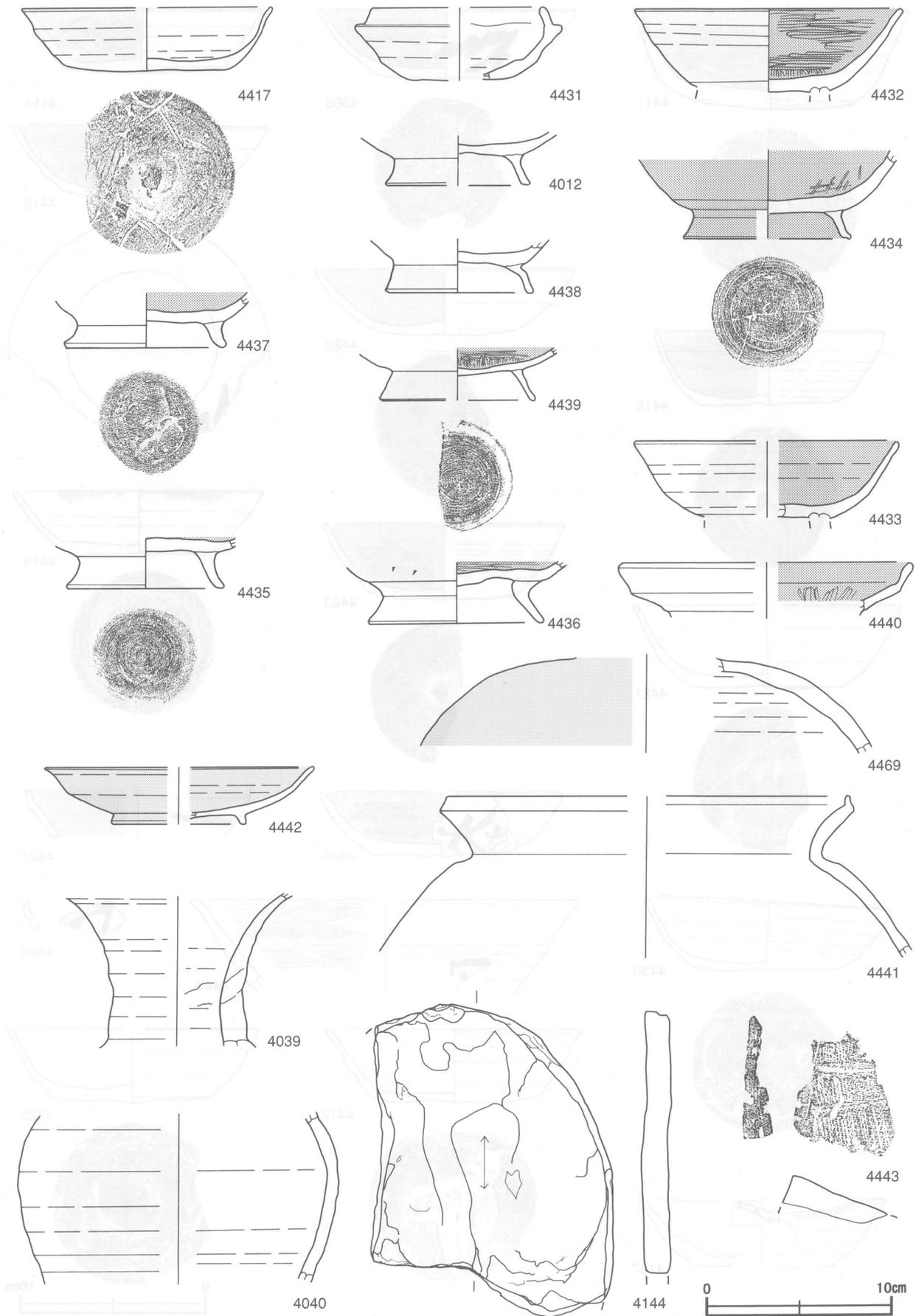
所見 出土した土器の形状から，時期は9世紀代と推測され，それほど時期差のない第4A号溝跡が埋没した後に，本跡が構築されたものと考えられる。また，主軸方向をほぼ同じくする第7号掘立柱建物跡や竪穴住居跡が本跡の南北に位置することから，居住区域を区画する機能を果たしていた可能性が高く，第4A号溝跡と同様な性格を有したものと考えられる。

第4B号溝跡出土遺物観察表（第806～808図）

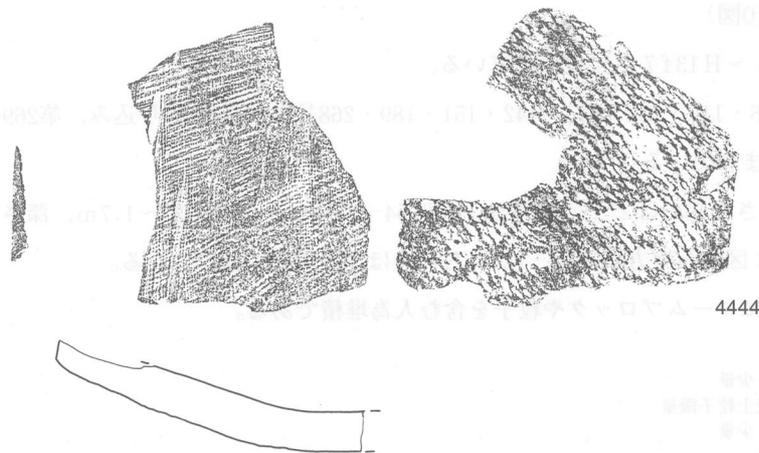
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4005	土師器	坏	[13.8]	3.7	7.0	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ切り，内面ヘラ磨き	東部下層	60% PL249 外面墨書「□」
4411	土師器	坏	14.7	5.5	8.8	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ，内面ヘラ磨き	覆土中	60%
4414	土師器	坏	12.8	3.5	8.8	長石・雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り，内面ヘラ磨き	中央部下層	70%
4416	土師器	坏	[12.2]	4.0	7.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り，内面ヘラ磨き	東部中層	60%
4418	土師器	坏	13.4	4.1	8.0	長石	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り，内面ヘラ磨き	西部下層	70% 外面墨書「□□」
4421	土師器	坏	[14.4]	4.5	7.8	長石・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り	中央部下層	30%
4422	土師器	坏	[14.0]	3.6	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	中央部下層	40%
4423	土師器	坏	[13.0]	4.1	7.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り，内面ヘラ磨き	中央部下層	40%
4425	土師器	坏	[13.1]	4.1	8.5	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り	中央部下層	60%
4430	土師器	坏	13.1	4.1	7.6	長石・雲母	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	中央部下層	70%
4447	土師器	坏	[20.8]	(5.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	中央部中層	10% 外面墨書「□」
4419	土師器	坏	13.5	3.5	7.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	70% 口縁端部油煙付着
4424	土師器	坏	[12.7]	3.5	7.5	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り，内面ヘラ磨き	覆土中	60% PL250 外面墨書「大□」
4427	土師器	坏	-	(2.8)	-	長石・雲母	灰黄褐	普通	体部外面ロクロ整形	覆土中	5% 外面墨書「□」
4428	土師器	坏	-	(1.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5% 外面墨書「□」
4187	土師器	坏	[13.0]	3.8	7.2	長石	暗灰	普通	口縁部に注口有り	中央部中層	20% 灯明皿カ
4412	須恵器	坏	13.9	4.0	9.0	長石・石英・角礫	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後雑なナデ	西部底面	90% PL243
4417	土師器	坏	[13.4]	3.4	8.6	長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り	中央部下層	60%
4431	須恵器	坏	[9.0]	4.0	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形，下端回転ヘラ削り	覆土中	5%



第806图 第4 B号沟迹遗物出土遗物实测图(1)



第807图 第4 B号沟迹遺物出土遺物実測図(2)



第808図 第4B号溝跡遺物出土遺物実測図(3)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4012	土師器	高台付 坏	-	(2.9)	[7.8]	雲母・赤色 粒子	にぶい赤 褐	普通	底部回転ヘラ切り, 高台貼り 付け	中央部下層	30%
4432	土師器	高台付 坏	14.4	(4.5)	-	雲母	にぶい黄 橙	普通	底部回転ヘラ切り, 高台貼り 付け	中央部下層	50%
4434	土師器	高台付 坏	-	(4.8)	[9.0]	長石・石英・ 雲母	黒褐	普通	底部回転ヘラ切り, 高台貼り 付け	西部中層	40%
4437	土師器	高台付 坏	-	(3.0)	8.7	長石・赤色 粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り, 高台貼り 付け	中央部上層	20%
4438	土師器	高台付 坏	-	(2.8)	8.0	長石・角礫	にぶい黄 橙	普通	底部回転ヘラ切り, 高台貼り 付け	西部下層	5%
4439	土師器	高台付 坏	-	(2.8)	[8.4]	雲母・赤色 粒子	にぶい赤 褐	普通	高台貼り付け後ロクロナデ	西部中層	20%
4433	土師器	高台付 坏	[14.2]	(4.1)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り, 高台貼り 付け	覆土中	20%
4435	土師器	高台付 坏	-	(2.8)	8.4	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	高台貼り付け後ロクロナデ	覆土中	20%
4436	土師器	高台付 坏	-	(3.3)	[9.4]	雲母	にぶい褐	普通	高台貼り付け後ロクロナデ	覆土中	5% 墨書「□」
4440	土師器	盤	[15.8]	(2.9)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5%
4040	須恵器	長頸瓶	-	(9.1)	-	長石・雲母	黄灰	普通	ロクロ整形	東部下層	10%
4039	須恵器	長頸瓶	-	(8.3)	-	長石・雲母	黄灰	普通	頸部ロクロ整形	中央部下層	5%
4441	土師器	甕	[21.6]	(8.7)	-	長石・雲母	にぶい赤 褐	普通	口縁部横ナデ	中央部下層	5%
4469	灰釉陶器	瓶	-	(5.1)	-	長石	灰	普通	ロクロ整形, 外面施釉	覆土中	5%
4442	緑釉陶器	皿	[14.4]	3.1	[7.0]	緻密	暗灰黄	普通	内・外面施釉	中央部下層	30% PL246

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4144	砥石	(16.8)	(14.4)	1.7	(567)	泥岩	砥面1面, 片側欠損	中央部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
4443	平瓦	(7.9)	(14.4)	(1.7)	(61.0)	凸面摩滅のため不明, 凹面布目痕	中央部上層	
4444	平瓦	(15.8)	(14.4)	(2.2)	(619.0)	凸面縄目叩き, 凹面糸切り痕	西部上層	

第8号溝跡 (第809・810図)

位置 調査区北部のG13f8～H13f7区に位置している。

重複関係 第116・117・118・119・138・141・142・151・189・268号住居跡を掘り込み、第269号住居、第15号溝、第11号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長さは40mほどで、規模は上幅0.54～1.72m、下幅0.32～1.7m、深さ18～24cmである。底面は平坦で、G13f8区から南方向(N-12°-E)へほぼ直線的に延びている。

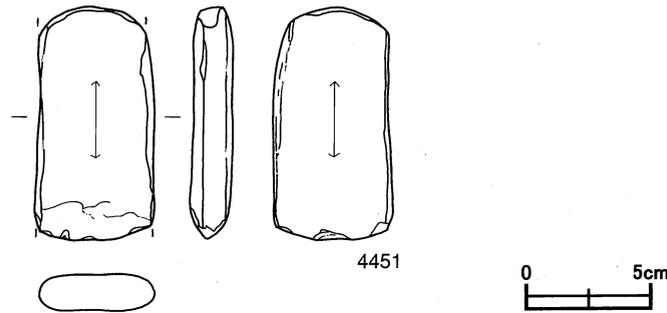
覆土 8層からなり、各層にロームブロックや粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量
- 7 褐色 ロームブロック多量
- 8 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片347点(坏92, 高坏10, 甕245), 須恵器片18点(坏7, 瓶3, 甕8), 常滑陶器片1点(甕), 石器1点(砥石), 礫片1点が出土している。4451は中央部のH13a8区の覆土中層から出土しているが、本跡の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

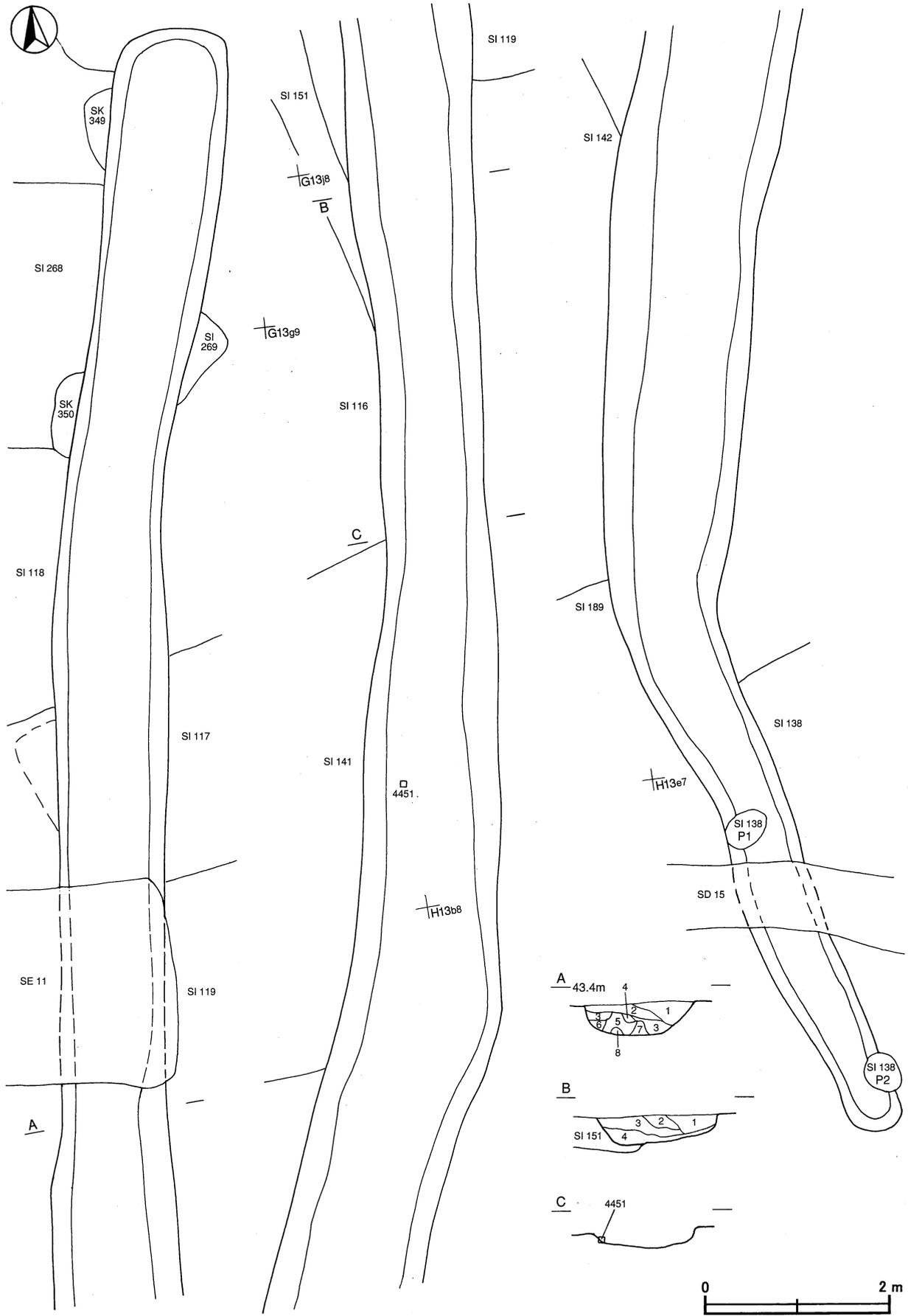
所見 出土土器片は流れ込みや住居跡を掘り込んだ際に混入したものと考えられる。時期は第269号住居跡との重複関係から9世紀後葉以降と考えられる。また、主軸方向をほぼ同じにする第72号住居跡とは同時期と考えられ、居住区域を区画する機能を果たしていたものと想定される。



第809図 第8号溝跡出土遺物実測図

第8号溝跡出土遺物観察表 (第809図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4451	砥石	(9.3)	4.4	1.7	(107)	凝灰岩	砥面2面	中央部中層	PL269



第810図 第8号溝跡実測図

第13号溝跡 (第811図)

位置 調査区中央部の J13d1 ~ J13e1 区に位置している。

重複関係 第411・412号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できた長さは7.0m, 規模は上幅0.58~0.66m, 下幅0.29~0.6m, 深さ20~22cmである。断面形は浅いU字状を呈し, J13d1区から南方向(N-12°-E)へ直線的に延びている。

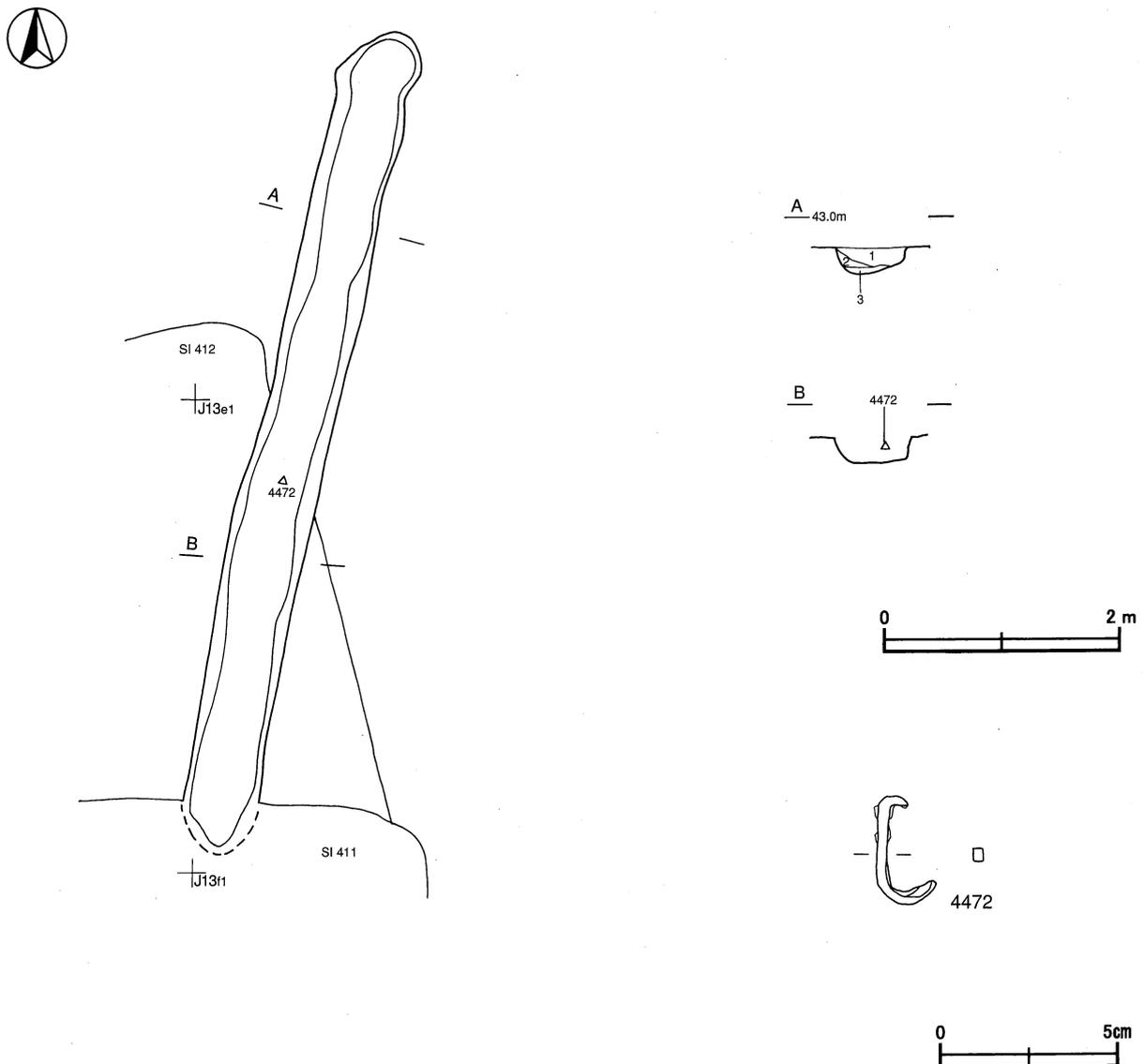
覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片65点(坏12, 高台付坏3, 甕50), 須恵器片2点(坏), 鉄製品1点(釘), 礫片1点が出土している。4472は中央部の覆土中層から出土しており, 本跡の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 土器片は流れ込みや住居跡を掘り込んだ際に混入したものと考えられる。時期は10世紀後半と比定される第411号住居跡を掘り込んでいるので, それ以降と考えられる。性格については不明である。



第811図 第13号溝跡・出土遺物実測図

第13号溝跡出土遺物観察表 (第811図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4472	釘	4.6	0.3	0.4	2.56	鉄	脚部屈曲, 頭部は叩かれ, 潰れている	中央部中層	

第18号溝跡 (第812図)

位置 調査区北部のH14d6～H14d7区に位置している。

重複関係 第82号住居跡, 第626号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できた長さは3.5m, 規模は上幅1.75～0.84m, 下幅0.13～0.22m, 深さ22～36cmである。

断面形は浅いU字状を呈し, H14d6区から南東方向へわずかに弧を描くように延びている。

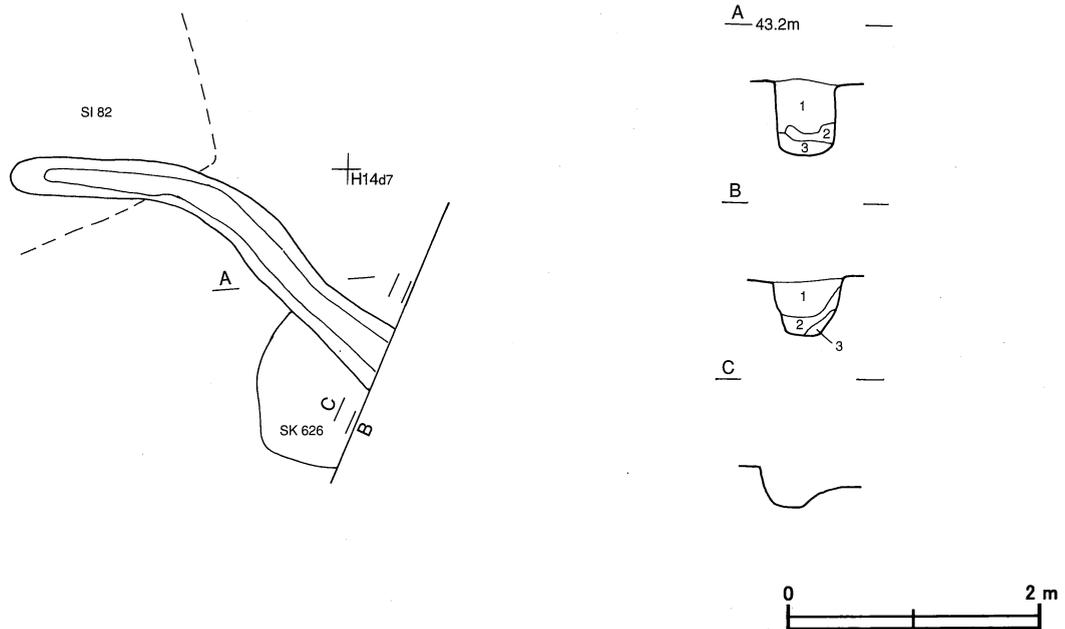
覆土 3層からなる。ロームブロックや粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 鹿沼パミス中量, ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片39点 (坏7, 高台付坏7, 甕25), 須恵器片2点 (坏1, 甕1), 礫片2点が出土している。

所見 本跡は東部が調査区域外に延びているため, 詳細な性格については不明である。時期は古墳時代後期に比定される第82号住居跡を掘り込んでいることから, それ以降と考えられる。



第812図 第18号溝跡実測図

第20号溝跡 (第813図)

位置 調査区北部のH12a6区に位置している。

重複関係 第417号土坑を掘り込み, 第16号溝に掘り込まれている。

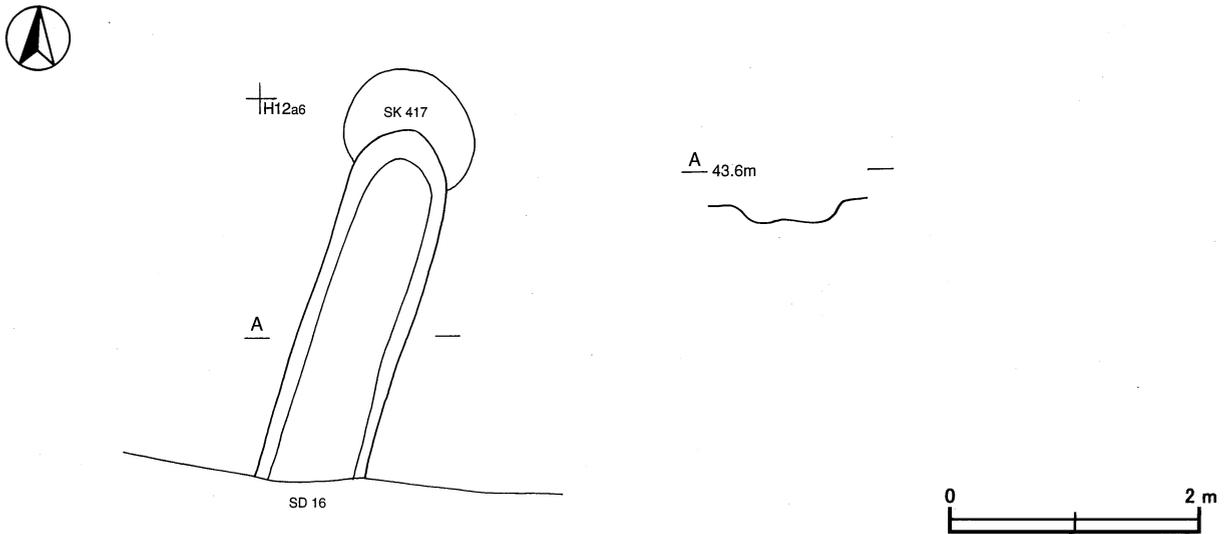
規模と形状 確認できた長さは2.8m, 規模は上幅0.84m, 下幅0.69m, 深さ5cmである。掘り込みは浅く,

H12a6 区から南西方向 (N-23°-E) へ直線的に延びている。

覆土 遺存していない。

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期は中世と考えられる第16号溝跡に掘り込まれていることから、それ以前と考えられる。詳細な性格は不明である。



第813図 第20号溝跡実測図

4 中・近世の遺構と遺物

今回の調査で、地下式墳1基、方形竪穴遺構1軒、土坑75基、墓壇50基、井戸跡3基、溝跡6条、道路跡2条を確認した。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

(1) 地下式墳

第1号地下式墳 (第814図)

位置 調査区中央部のI12f9区に位置し、平坦部に立地している。主軸方向はN-110°-Eである。

重複関係 第315号住居跡を掘り込んでいる。

竪坑 上面は長軸1.1m、短軸0.8mの楕円形を呈し、確認面からの深さは0.7mで、底面は主室に向かってスロープ状に傾斜している。

主室 平面形は長軸2.1m、短軸1.3mの隅丸長方形で、確認面から底面までの深さは0.7mである。主室の天井部は両奥壁の一部がわずかに遺存しているが、その他はほぼ完全に崩落している。底面は平坦で、壁はほぼ直立して立ち上がり、主室の横断面形はかまぼこ状を呈している。

覆土 8層からなる。第8層はロームブロックを主体とした層で、天井部が崩落したものである。

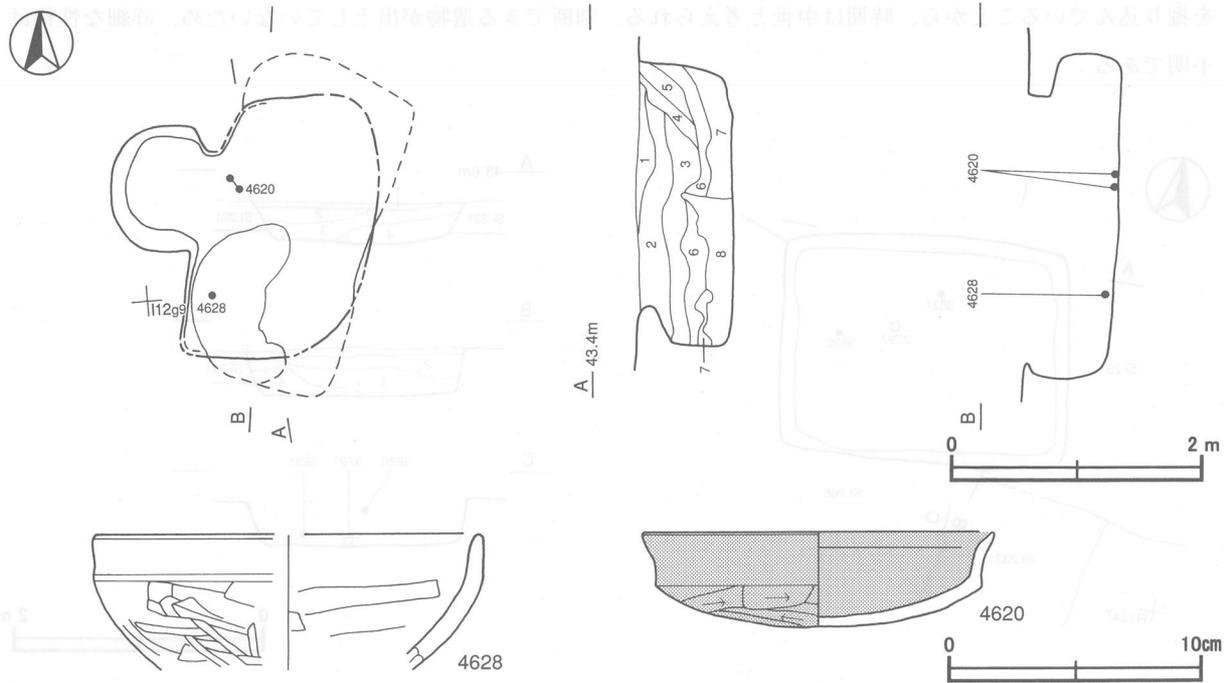
土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

- 7 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片135点(坏32, 甕103), 須恵器片2点(坏1, 甕1)などが出土しているが, いずれも混入したものである。

所見 本跡は第315号住居跡のほぼ中央部を掘り込んでいるため, 天井部崩落と共に重複関係にある古墳時代の土師器が混入している。検出された遺物が天井崩落後のもので, 明確な時期は不明であるが, 遺構の形態から判断して中世以降と考えられる。



第814図 第1号地下式竈・出土遺物実測図

第1号地下式竈出土遺物観察表(第814図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4620	土師器	坏	14.0	3.8	-	雲母, 長石, 石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	中央部床面	65% PL243
4628	土師器	坏	[15.2]	(5.4)	-	石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	南部下層	20%

(2) 方形竪穴遺構

第8号方形竪穴遺構(第815図)

位置 調査区北部のG12j7区に位置し, 平坦部に立地している。

重複関係 第231・233・266号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.3m, 短軸1.8mの長方形で, 長軸方向はN-95°-Eである。壁高は28~34cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 硬化面や壁溝は認められない。

ピット 検出されなかった。

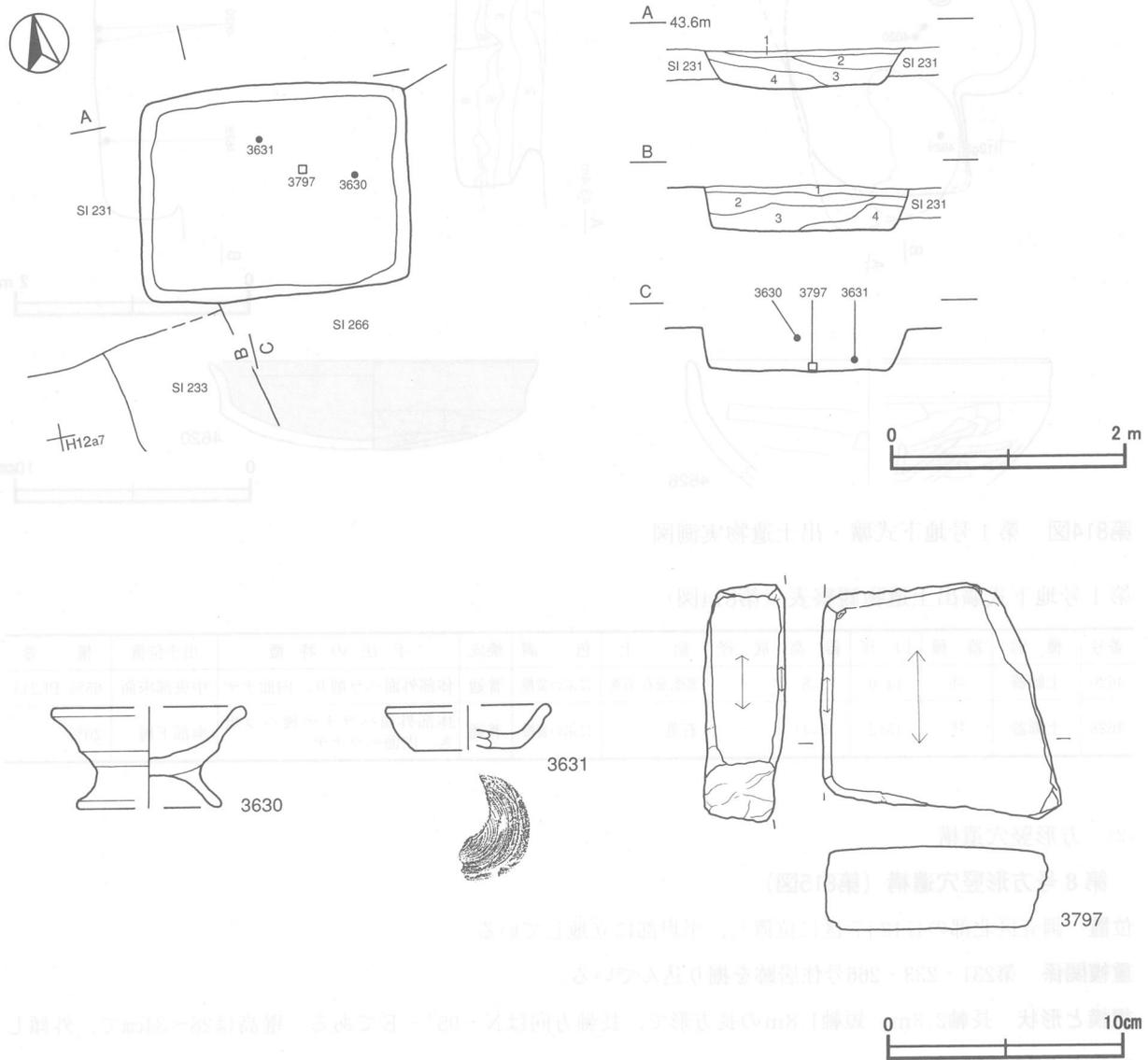
覆土 4層からなり, 各層にロームブロックや焼土を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片10点(坏2, 高台付坏4, 皿2, 甕2), 石器1点(砥石)が出土している。3630は東部の覆土上層, 3631・3797は中央部の覆土下層・床面から出土しており, 3630は住居廃絶後の埋め戻しの段階で投棄されたものと考えられる。

所見 本跡では, 壁溝, 竈及びピットが確認されなかった。床も特に踏み固められた範囲も見られないことから, 居住を目的とした住居とは別の方形堅穴遺構と考えられる。10世紀後半以降と比定される第266号住居跡を掘り込んでいることから, 時期は中世と考えられる。判断できる遺物が出土していないため, 詳細な性格は不明である。



第815図 第8号方形堅穴遺構・出土遺物実測図

第8号方形竖穴遺構出土遺物観察表 (第815図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3630	土師器	高台付坏	[8.0]	4.2	[6.0]	長石	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	東部上層	30%
3631	土師器	小皿	[6.8]	1.9	[4.4]	雲母	灰黄褐	普通	底部回転糸切り	中央部下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3797	砥石	10.1	10.0	3.2	589	砂岩	砥面2面, その他は破断面, 被熱痕有り	中央部床面	

(3) 土坑

今回の調査では1071基の土坑が検出されているが、性格が明らかなものの多くは中世以降の墓墳であり、それ以外のものは性格のみならず、時期についても不明なものが多い。その中で、墓墳の可能性が高く、形態が円形と長方形のものを1基ずつ取り上げてその概要を記述する。また、調査区の南部および西部に位置する円形や方形を基調とする土坑群は、人為的に埋め戻された痕跡があり、墓墳群の可能性が考えられる。それらの土坑について実測図と土層解説を記載し、位置や規模等については一括して一覧表で示す。

第816号土坑 (第816図)

位置 調査区南部のK12d4区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.2m、短径0.96mの楕円形を呈し、長径方向はN-19°-Wで、深さは21cmほどである。東部の底面に径30cm、深さ20cmほどのピットを有している。

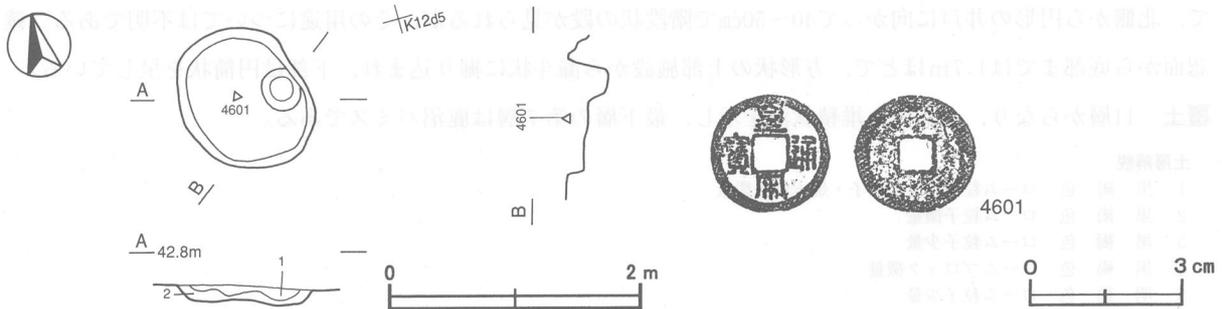
覆土 2層からなり、人為的な堆積状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片10点 (坏4, 高台付坏1, 甕5), 須恵器片1点 (蓋), 鉄滓2点 (着磁性あり), 古銭1点 (皇宋通寶) が覆土中から出土している。

所見 覆土中層から出土した古銭「皇宋通寶」は北宋銭の一つで、中世の出土銭の中で最も多く渡来したものである。時期は、中世以降と考えられ、遺構の形状と埋め戻された堆積状況から墓墳の可能性がある。また、本跡より南には規模や形状が類似する土坑群が存在している。



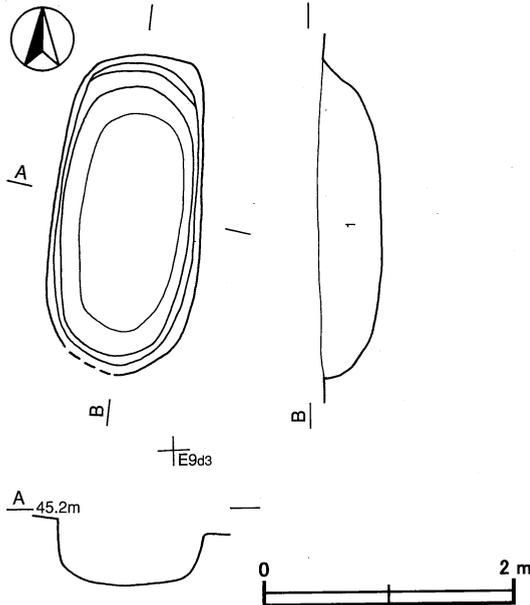
第816図 第816号土坑・出土遺物実測図

第816号土坑出土遺物観察表（第816図）

番号	銭名	径	厚さ	孔径	重量	初鑄年	特 徴	出土位置	備 考
4601	皇宋通寶	2.4	0.1	0.7	3.2	1038年	北宋銭，円体方孔の無背銭	覆土中層	PL284

第1050号土坑（第817図）

位置 調査区西部のE9c2区に位置し，緩やかな斜面部に立地している。



重複関係 第1049・1051号土坑をそれぞれ掘り込んでい
る。

規模と形状 長軸2.6m，短軸1.2mほどの南北に長い長方
形で，長軸方向はN-8°-Eである。深さは約50cmを測
り，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 1層からなり，ロームブロックを含んだ人為堆積で
ある。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・人骨粉少量

遺物出土状況 土師器片16点（坏3，甕13），須恵器片1
点（甕）が覆土中から出土しており，埋め戻しの段階で混
入したものと考えられる。

所見 本跡に伴う遺物が少ないために時期の特定が困難で
あるが，近隣に位置する同じような形状の遺構から中世以
降の土器が出土していることから，時期は中世以降と考えられる。遺構の形状と埋め戻された堆積状況や，覆
土に骨粉が含まれていることなどから墓塚の可能性はある。

第817図 第1050号土坑実測図

(4) 井戸跡

第29号井戸跡（第818図）

位置 調査区西部のF9g2区に位置し，平坦部に立地している。

規模と形状 南は調査区域外のため全体を把握できなかったが，上部は長軸2.9m，短軸は1.8mだけが検出さ
れた。方形状を呈し，中央に直径1.0mほどの円形の掘り込みがある。上部の掘り込みは確認面から25cmほど
で，北側から円形の井戸に向かって40~50cmで階段状の段が見られるが，その用途については不明である。確
認面から底部までは1.7mほどで，方形状の上部施設から漏斗状に掘り込まれ，下部は円筒状を呈している。

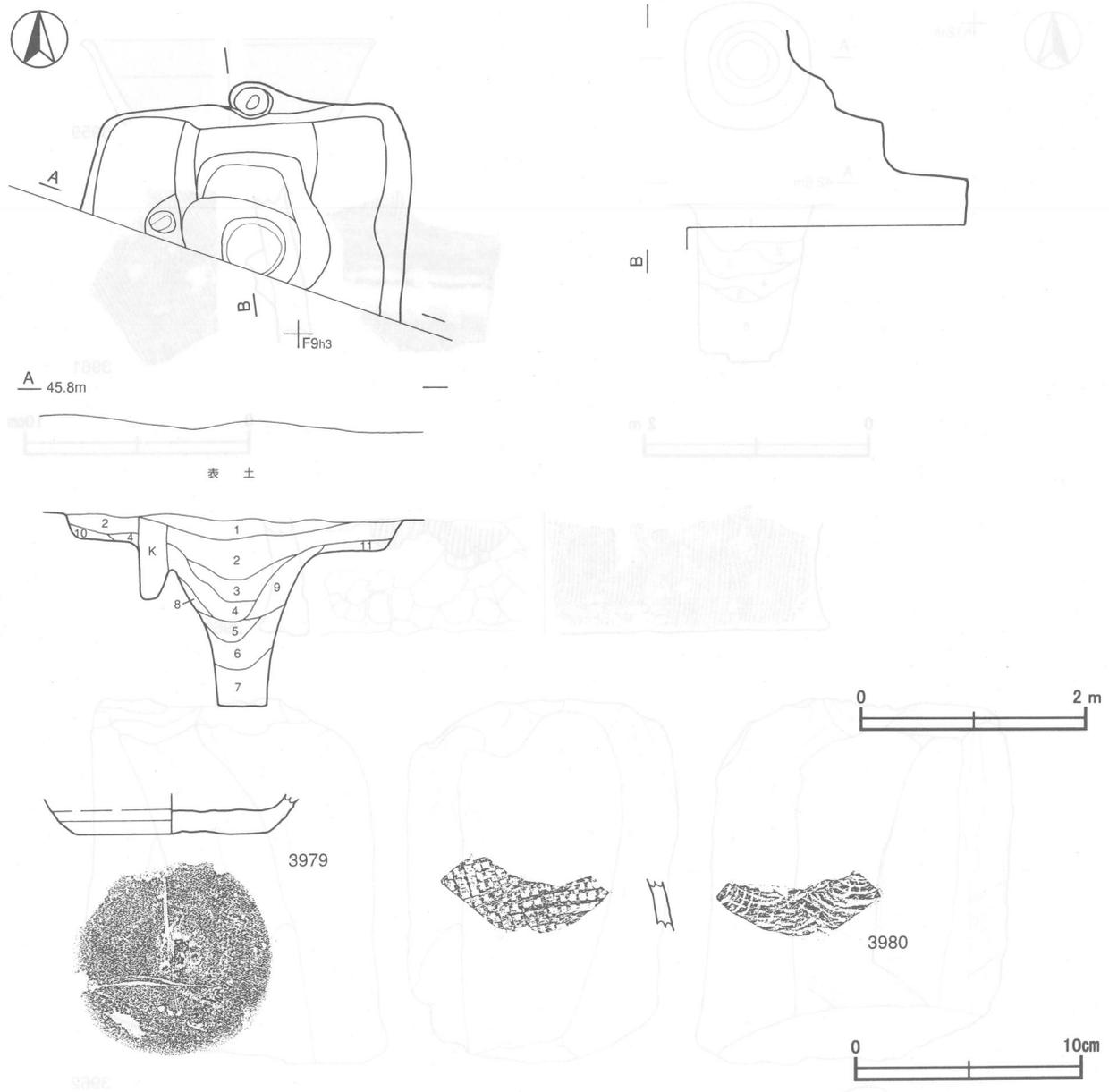
覆土 11層からなり，人為的な堆積状況を示し，最下層の第7層は鹿沼パミスである。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 明褐色 ローム粒子少量
- 6 明褐色 ローム粒子微量
- 7 明黄褐色 鹿沼パミス中量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ローム粒子微量（粘性普通）
- 10 黒褐色 ローム粒子少量（粘性普通，しまり弱い）
- 11 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片2点(甕), 須恵器片8点(坏6, 甕2)が覆土中から出土している。いずれも混入したものである。

所見 本跡から出土した土器のほとんどは細片であり, 時期を明確にすることはできないが, 本跡の北側に中世の墓塚が隣接していることから中世と想定される。



第818図 第29号井戸跡・出土遺物実測図

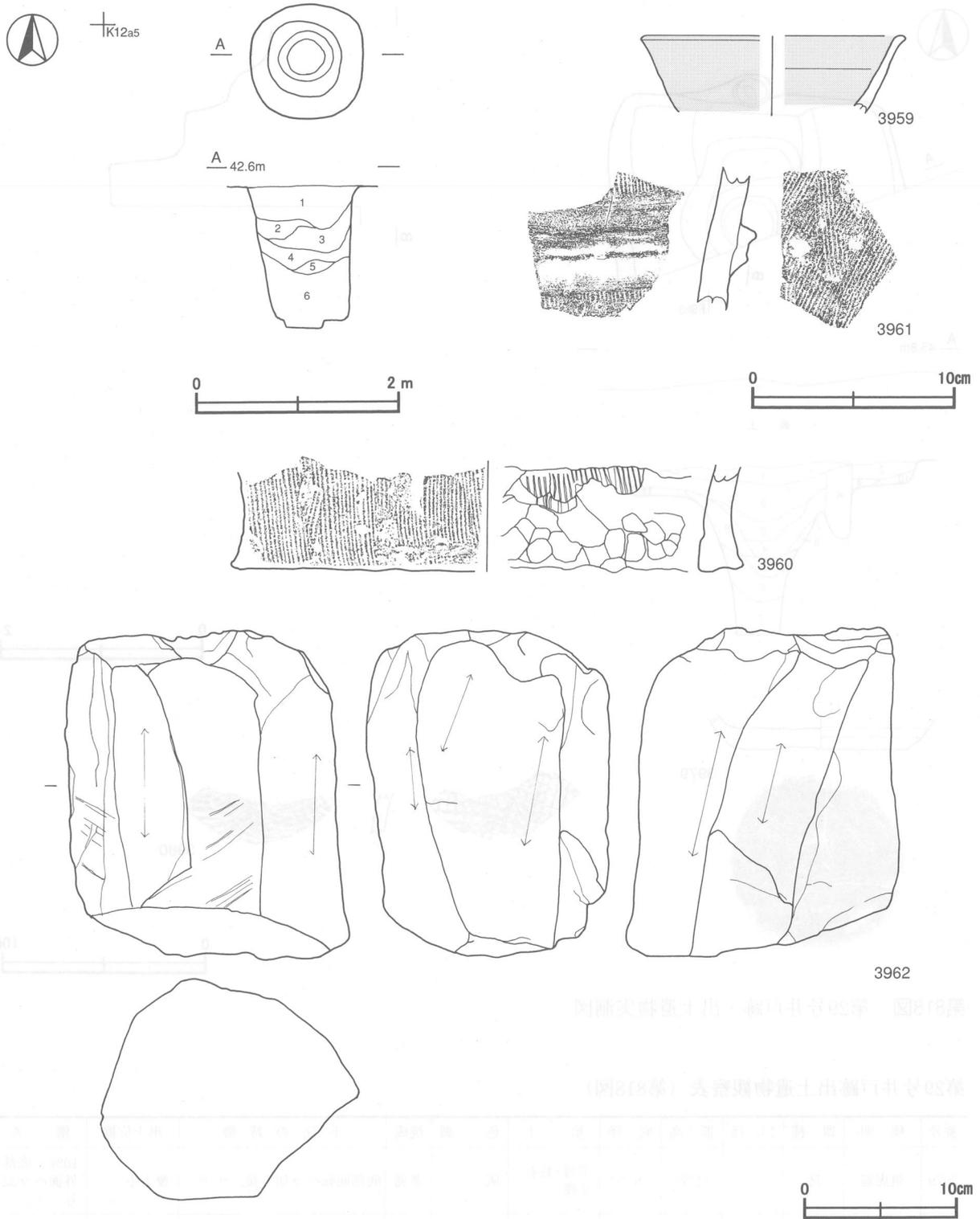
第29号井戸跡出土遺物観察表 (第818図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3979	須恵器	坏	-	(1.7)	8.3	雲母・長石・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後, ナデ	覆土中	10% 底部外面ヘラ記号「×」
3980	須恵器	甕	-	(3.5)	-	砂粒	灰	普通	外面格子目叩き, 内面同心円状の当て具痕	覆土中	5%

第32号井戸跡 (第819図)

位置 調査区中央部のK12a5 区に位置し、南東への緩斜面部に立地している。

規模と形状 径1.1mほどの円形を呈し、確認面から1.3mほど円筒状に掘り込まれ、底面中央部の直径40cmほどがさらに10cmほど掘り下げられている。



第819図 第32号井戸跡・出土遺物実測図

覆土 6層からなり、人為的な埋め戻しの状況を示している。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・鹿沼バミス少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・鹿沼バミス微量
- 3 極 暗 褐 色 鹿沼バミス少量、炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子・鹿沼バミス少量、炭化粒子・焼土粒子微量
- 5 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 6 黒 色 ローム粒子・鹿沼バミス微量

遺物出土状況 土師器片57点(坏25, 高台付坏2, 甕30), 須恵器片4点(壺), 埴輪片2点(円筒埴輪), 土師質土器片1点(羽釜), 陶磁器片1点(白磁碗), 石器1点(砥石), 礫12点, 鉄滓1点が出土している。底面中央部の円形の落ち込み部には3959のほか拳大以上の石などが出土し、本跡使用中に投棄されたものと考えられる。また, 1層中には円筒埴輪片が出土しており, 埋め戻しの段階で混入したものと考えられるが, 周辺部に埴輪を有する古墳の存在か, あるいは埴輪窯跡の存在が想定できる。

所見 本跡は底部が2段に掘り込まれた形状を呈し, 使用中に投棄されたと考えられる3959や石が底面から出土している。時期は中世(15~16世紀頃)と考えられる。

第32号井戸跡出土遺物観察表(第819図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3959	磁器	白磁碗	[12.6]	(3.9)	-	白色粒子・気泡	灰白	良好	透明釉, 釉層薄い	底面	5%

番号	種別	器種	器高	底径	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3960	埴輪	円筒埴輪	(6.9)	[33.6]	4.1	雲母・長石・石英・小礫	明赤褐	普通	内面7本1単位・外面11本1単位の外ハケ目	覆土上層	
3961	埴輪	円筒埴輪	(7.2)	-	1.4	雲母・長石・石英・小礫	明赤褐	普通	外面ハケ目	覆土中	

番号	種別	長さ	最大幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3962	砥石	21.7	18.8	14.5	7910.0	砂岩	砥面5面	底面	

第50号井戸跡(第820図)

位置 調査区北部のH12a2区に位置し, 第15号溝に隣接した平坦部に立地している。

規模と形状 径1.1m内外の円形状を呈し, 確認面から1.7mほど円筒状に掘り込まれているが, 湧水のため底面までは掘り下げていない。

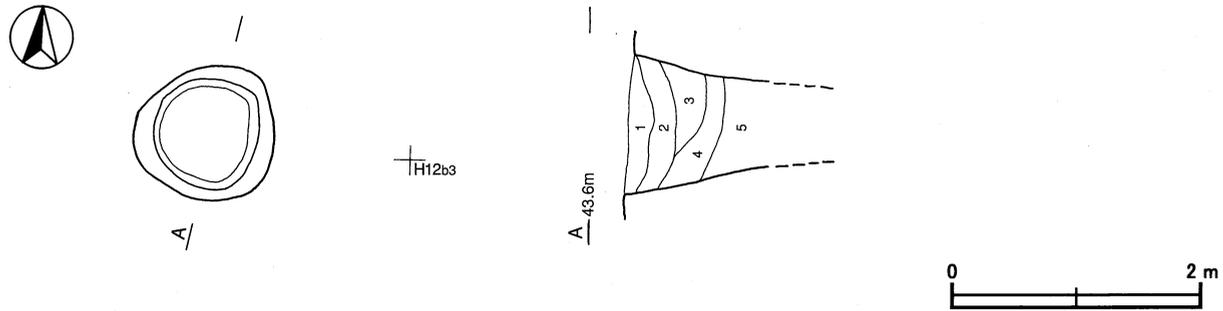
覆土 確認面から1.0mほどまでの5層まで観察できたが, 以下は不明である。人為的な堆積状況を示している。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック中量, 鹿沼バミス少量, 炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片22点(坏6, 高台付坏1, 甕15), 須恵器片5点(蓋1, 甕4), 鉄製品2点(不明), 礫片20点以上が出土している。確認面から1.4mほどに長さ20~40cmの礫が出土しており, 本跡を廃棄する段階で投棄されたものと考えられ, その後埋め戻されている。また, 鉄製品や土器片はいずれも細片で覆土上層から出土しており, 混入と考えられる。

所見 時期については判定資料がないために不明である。本跡の北側にある中世の墓域と推測される地区からは「寛永通寶」が表面採集されており, 墓域との関連性が想定される。



第820図 第50号井戸跡実測図

(5) 溝跡

第10号溝跡 (第821・822図)

位置 調査区北部のH13b0～H14i2区に位置している。

重複関係 第87・93・121・126号住居跡, 第1号鍛冶工房跡, 第612・650号土坑をそれぞれ掘り込み, 第12号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長さは32m, 規模は上幅0.86～2.26m, 下幅0.14～0.6m, 深さ70～110cmである。断面形は葉研状を呈し, H13b0区から南東方向(N-8°-W)へ直線的に延びている。

覆土 6層からなり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

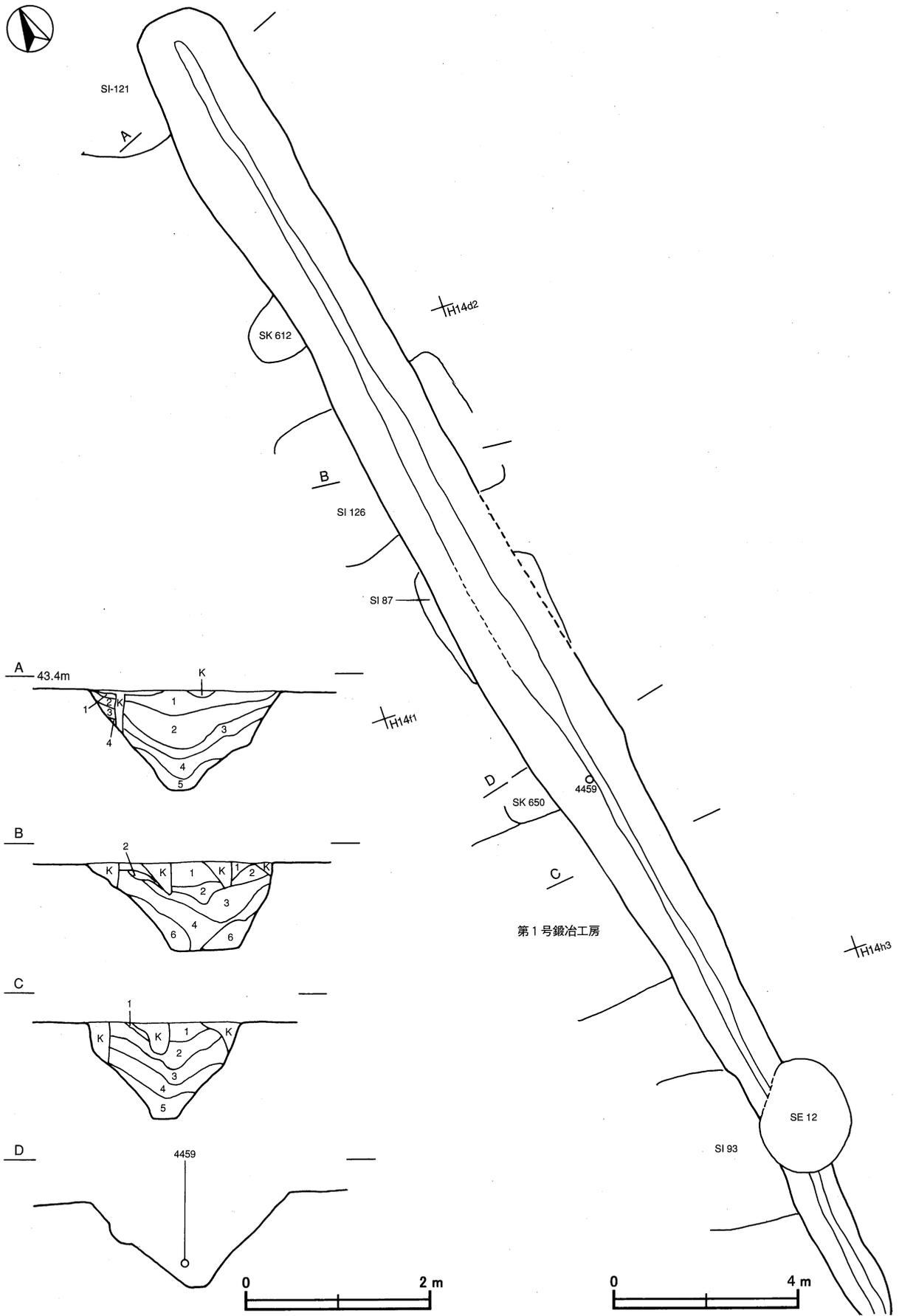
- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片4点(広口壺), 土師器片494点(坏116, 高台付坏6, 高坏12, 埴4, 甕356), 須恵器片23点(坏9, 高台付坏1, 高坏1, 甕12), 常滑陶器片7点(甕), 土製品1点(羽口), 石器2点(砥石), 鉄滓18点, 礫片1点が出土しているが, 出土遺物は廃絶後投棄されたものや溝を構築する際に混入したものである。4459は中央部の覆土下層から出土しており, 第1号鍛冶工房跡を掘り込んだ際に混入したものである。

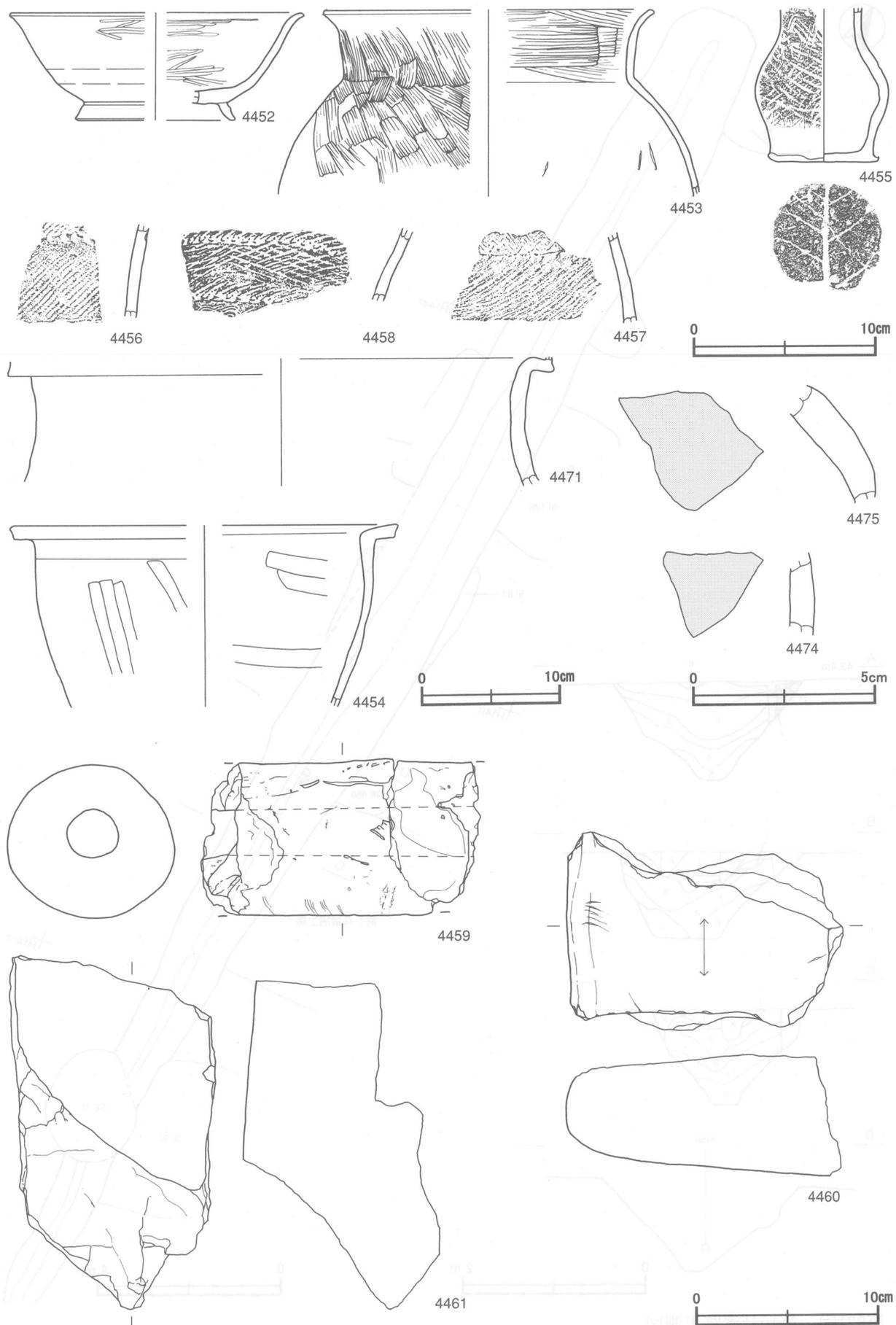
所見 時期は10世紀後半と比定される第1号鍛冶工房跡を掘り込んでいたので, それ以降と考えられる。また, 東部には中世の墓墳群が位置することから, それらを区画する機能を果たしていたものと想定される。

第10号溝跡出土遺物観察表 (第822図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4452	土師器	高台付椀	[15.6]	5.9	[8.6]	長石・雲母	橙	普通	内面ヘラ磨き, 高台貼り付け後ナデ	覆土中	20%
4454	土師器	甌	[27.5]	(13.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラナデ	覆土中	5%
4453	土師器	甕	[17.6]	(10.2)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面・口縁部ハケ目調整	覆土中	10%
4455	弥生土器	広口壺	-	(8.5)	5.8	雲母	にぶい橙	普通	頸部櫛歯状工具による波状文, 外面附加条の縄文, 底面木葉痕	覆土中	80% PL245
4456	弥生土器	広口壺	-	(5.1)	-	雲母	明赤褐	普通	外面附加条一種の縄文	覆土中	5% PL255



第821図 第10号溝跡実測図



第822图 第10号溝跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4457	弥生土器	広口壺	-	(4.9)	-	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部櫛歯状工具による波状文, 外面附加条一種の縄文	覆土中	5% PL255
4458	弥生土器	広口壺	-	(4.3)	-	雲母	にぶい赤褐	普通	外面附加条一種の縄文	覆土中	5% PL255
4471	陶器	甕	-	(9.4)	-	長石・赤色粒子	褐灰	普通	ロクロナデ, 自然釉	覆土中	10% 常滑5型式
4474	陶器	碗	-	2.3	-	砂粒	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ, 外面施釉	覆土中	
4475	陶器	瓶	-	(3.2)	-	砂粒	にぶい橙	普通	内・外面施釉	覆土中	

番号	器種	長さ	最大径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
4459	羽口	(15.1)	9	2.7	(975)	長石・石英	ナデ	中央部下層	PL262

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4460	砥石	(15.1)	(10.3)	(6.3)	(1520)	砂岩	砥面1面, 全体に煤付着	南東部床面	
4461	砥石	(19.2)	(11.2)	(10.8)	(2500.0)	砂岩	砥面1面, 被熱痕	南部床面	

第15号溝跡 (第823～826図)

位置 調査区北部のH12a2～H13e8区に位置している。

重複関係 第138・189・215・240・241・244・247・248・259・294・295号住居跡, 第8号溝跡を掘り込み, 第168・257・258・259・289・461・444・445・446・628号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長さは70m, 規模は上幅0.4～1.1m, 下幅0.2～0.8m, 深さ4～16cmである。断面形は浅い皿状を呈し, H12a2区から東方向(N-102°-E)へほぼ直線的に延びている。

覆土 2層からなり, ロームブロックや粒子を含む人為堆積である。

土層解説

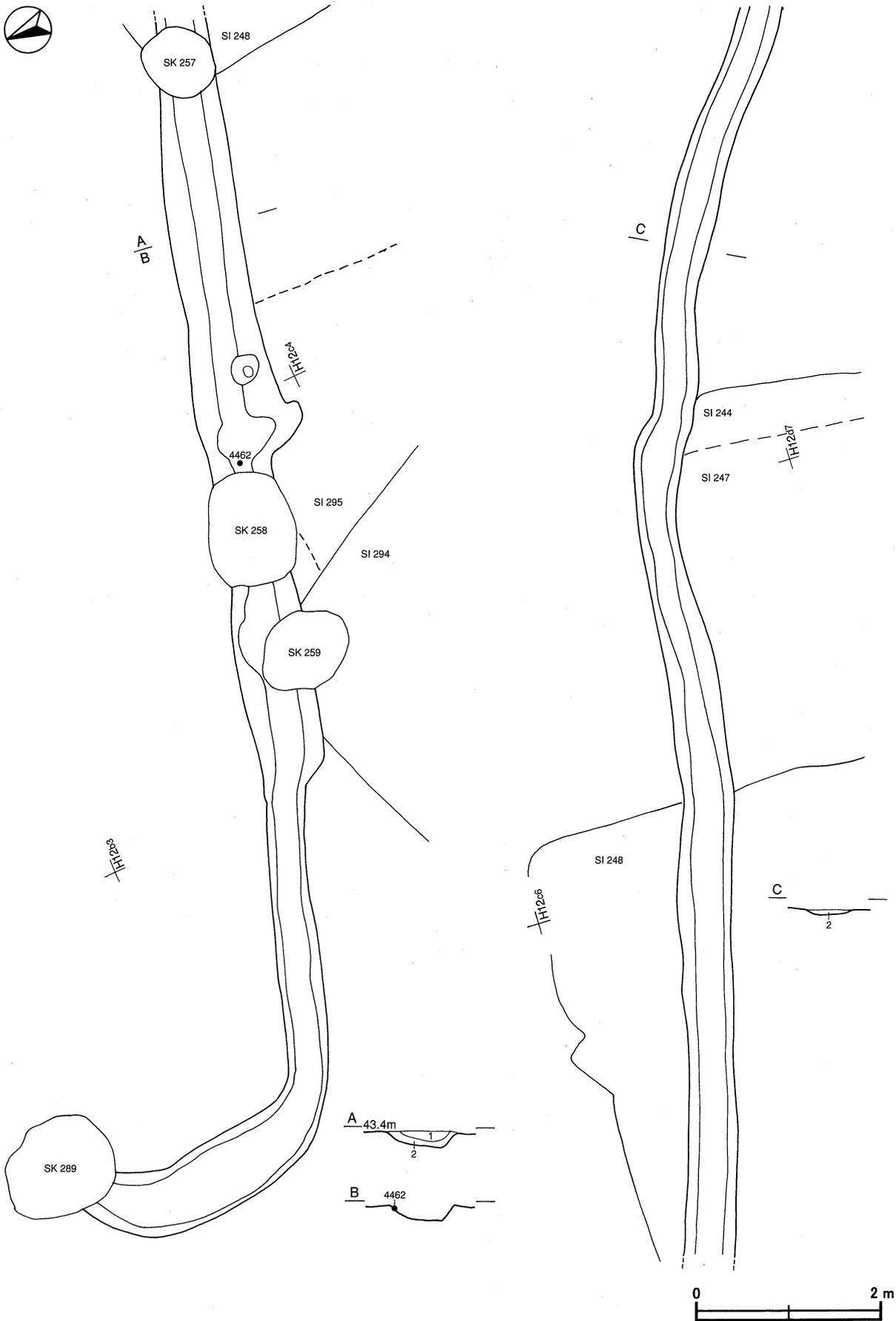
- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片48点(坏13, 高台付坏2, 高坏2, 埴2, 甕28, 甗1)が出土している。4462はH12b3区の覆土中層から出土しており, 本跡の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

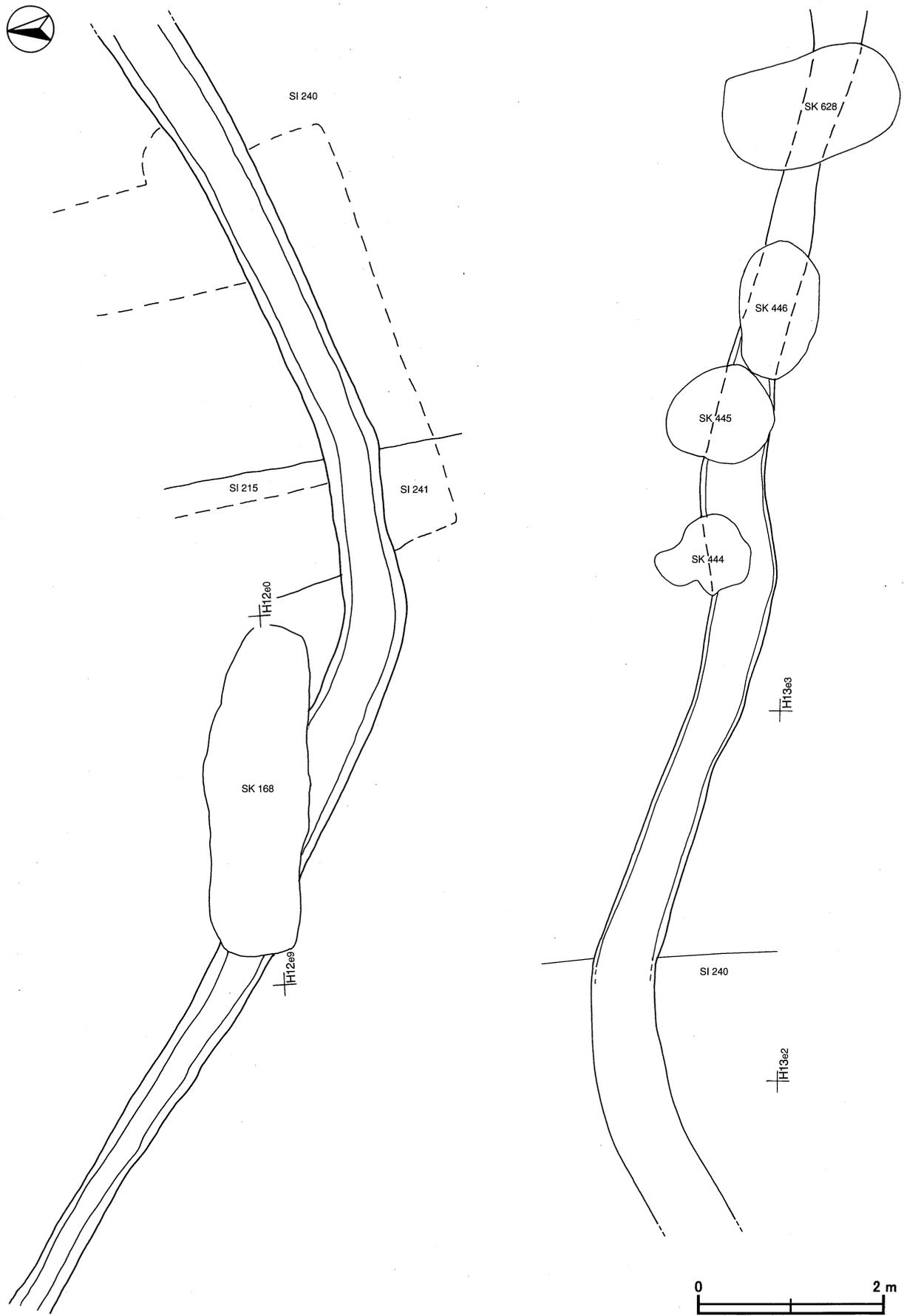
所見 本跡は中央部がやや蛇行しており, 10世紀後半に比定される第215号住居跡を掘り込んでいるため, 時期はそれ以降と考えられる。詳細な用途については不明である。

第15号溝跡出土遺物観察表 (第826図)

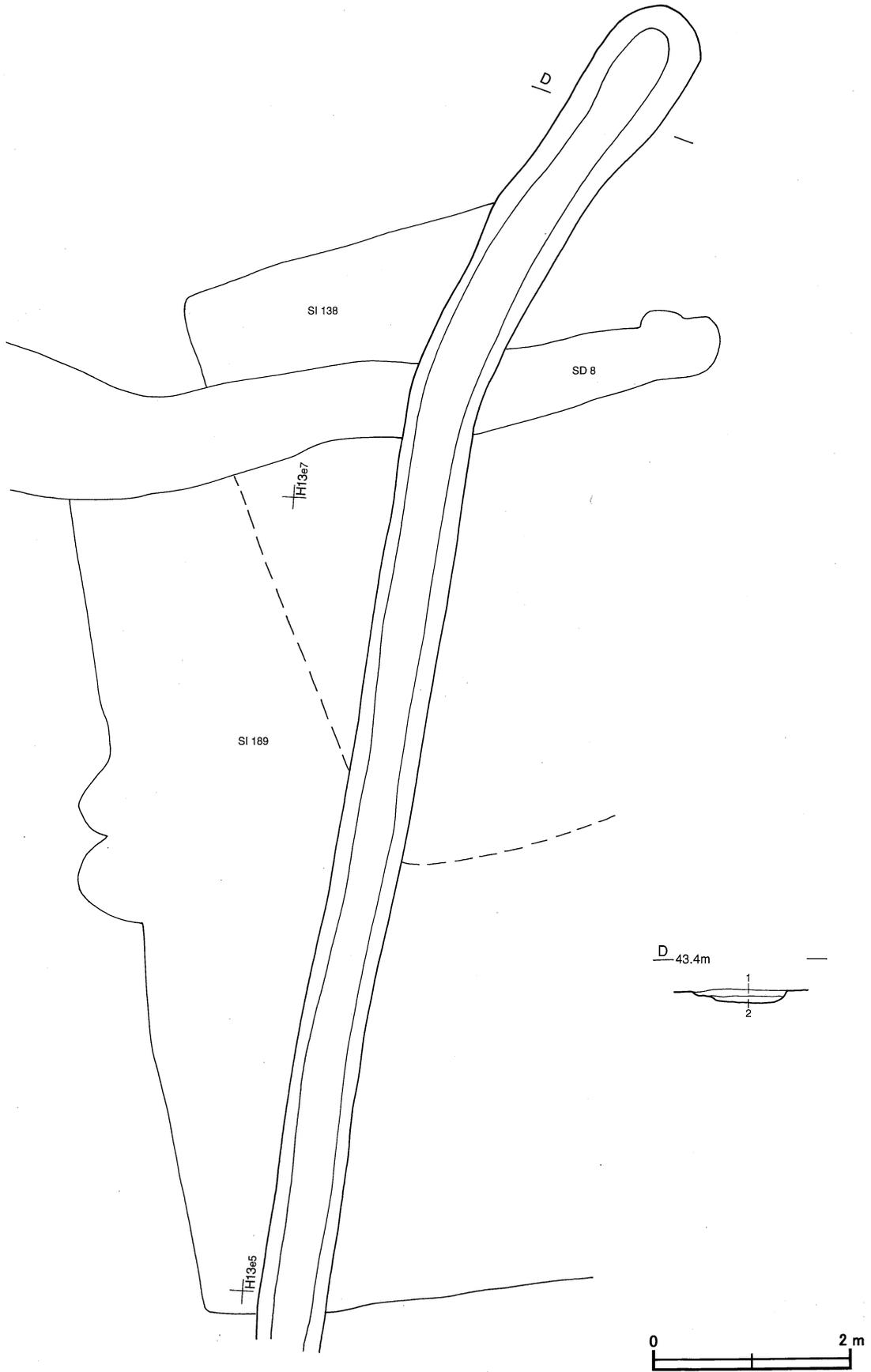
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4462	土師器	甕	[16.2]	(10.9)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ	西部上層	10% 被熱痕有り



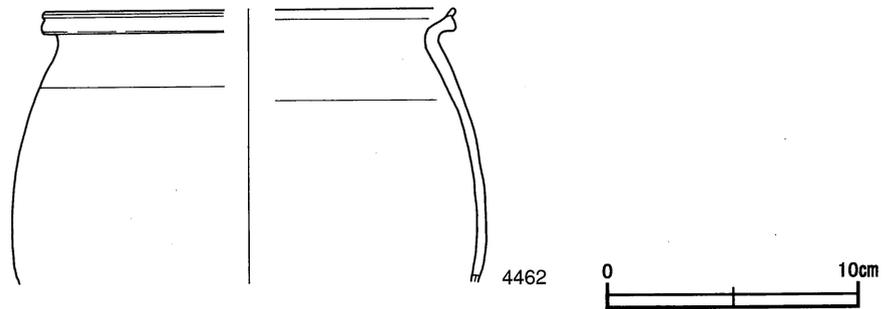
第823図 第15号溝跡実測図(1)



第824図 第15号溝跡実測図(2)



第825図 第15号溝跡実測図(3)



第826図 第15号溝跡出土遺物実測図

第16号溝跡 (第827図)

位置 調査区北部のH12a2～H12a7区に位置している。

重複関係 第263号住居跡，第20号溝跡を掘り込み，第289・411・412号土坑，第5号柵にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長さは20m，規模は上幅0.7～1.1m，下幅0.4～0.5m，深さ8～18cmである。断面形は皿状を呈し，H12a2区から東方向(N-100°-E)へ直線的に延びている。

覆土 4層からなり，ロームブロックや粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片63点(坏17，高台付坏2，高坏3，甕40，甗1)，須恵器片3点(坏2，甕1)，鉄製品1点(鏃)，礫片3点が出土している。4463は覆土中から出土しており，本跡廃絶後に投棄されたものである。

所見 本跡は墓壙の集中区域に位置しており，その用途は墓域を区画するために構築された可能性が高い。時期は中世から近世と推測される。

第16号溝跡出土遺物観察表 (第827図)

番号	器種	全長	鏃身幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4463	鏃	(9.8)	1.7	0.9	(27.5)	鉄	鏃身三角形，基部欠損	覆土中	PL280

第27号溝跡 (第828図)

位置 調査区西部西寄りのE8e0～E9h1区に位置し，緩やかな斜面部に立地している。

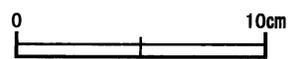
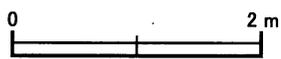
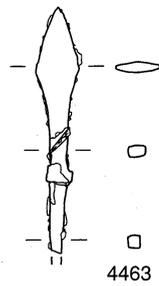
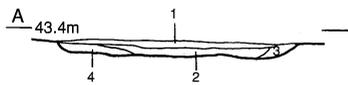
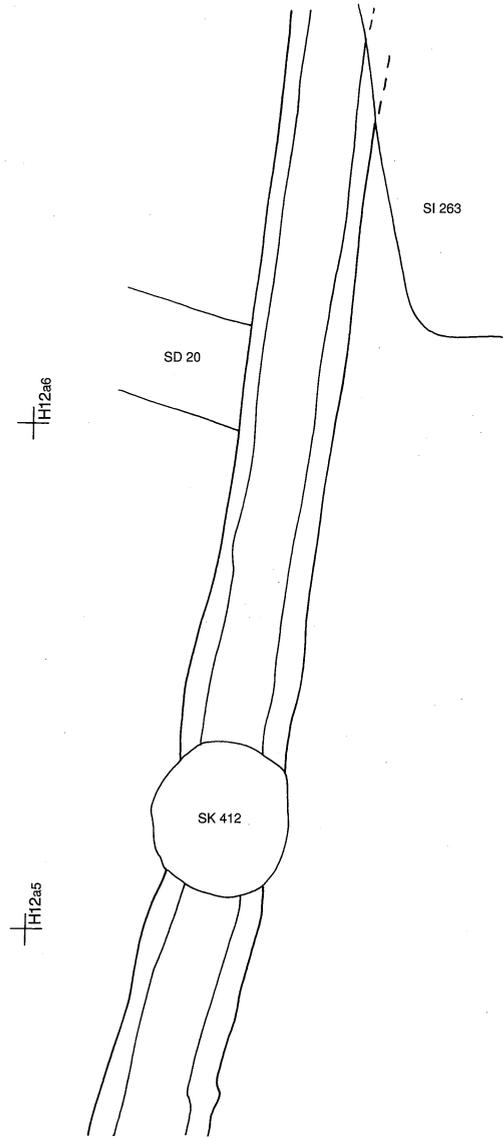
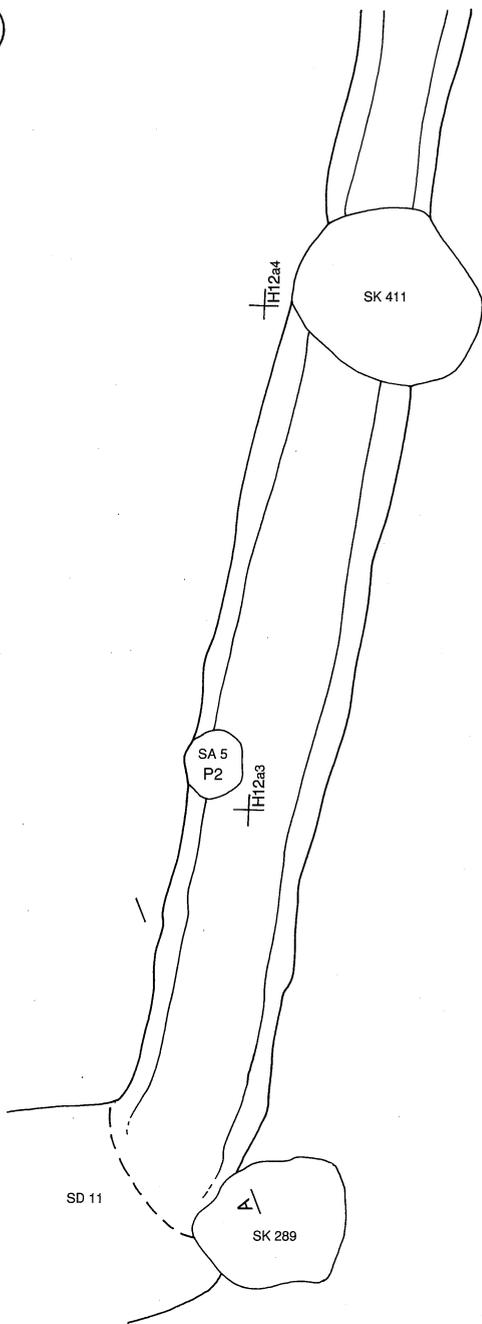
規模と形状 E8e0区から北西(N-37°-W)に向かって緩やかに曲がりながら西端部の調査区域外(E8e0区)に延びている。南側は耕作などの攪乱のため遺存状態が悪く，確認された規模は長さ約10.4mで，上幅0.46～0.68m，下幅0.27～0.48m，深さ約9cmである。断面は緩やかなU字状を呈している。

覆土 単一層からなる。

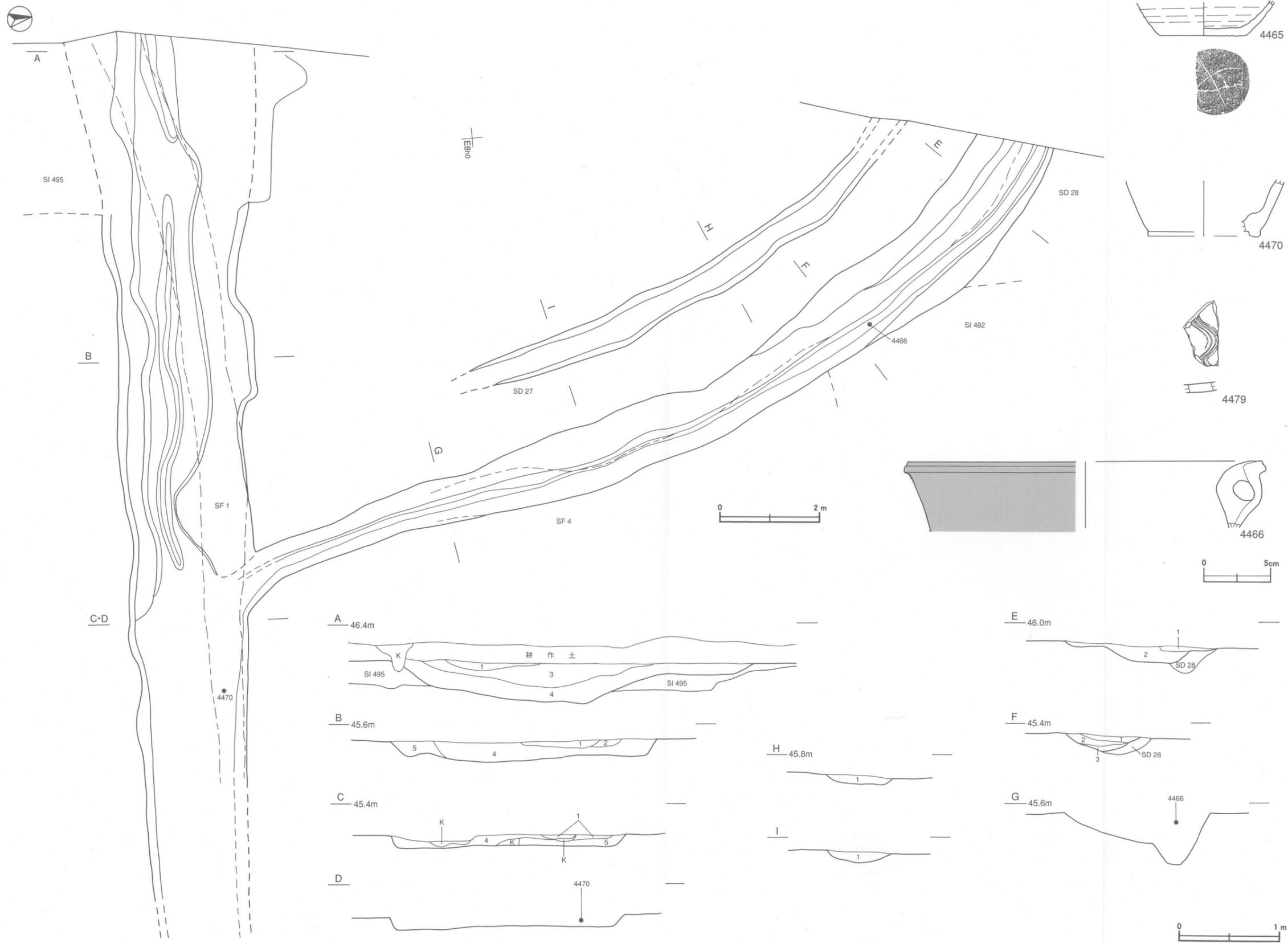
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点(甕)が出土しているが，細片で破断面が摩滅しており，混入したものである。



第827图 第16号溝跡・出土遺物実測図



第828図 第27・28号溝跡，第1・4号道路跡・出土遺物実測図

所見 時期は、伴出遺物がないため不明であるが、中世に比定されている第28号溝跡に並行しているため、中世の可能性が高い。

第28号溝跡 (第828図)

位置 調査区西部西寄りのE 8 e0 ~ E 9 h1 区に位置し、緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第4号掘立柱建物跡を掘り込み、第4号道路に掘り込まれている。

規模と形状 E 9 h1 区から北北西 (N-14°-W) に向かって約6.7mほど延び、そこから (E 9 f1 区) から北西 (N-41°-W) に緩やかに曲がり、西端部の調査区域外まで7.5mほど延びている。南側は第4号道路に掘り込まれているため、確認された規模は長さ約14.2mである。溝の上幅については、第4号道路跡に掘り込まれているため45cmしか現存していない。

覆土 単一層からなる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片65点 (坏24, 高台付坏2, 甕39), 須恵器片7点 (坏5, 蓋2), 土師質土器片2点 (小皿1, 内耳鍋1) が出土しているが、細片で破断面が摩滅しており、混入したものである。

所見 伴出遺物が少ないため時期は不明であるが、16世紀代に比定されている第4号道路跡に掘り込まれていることや、出土した土師質土器片などから16世紀以前と考えられる。

第29号溝跡 (第829・830図)

位置 調査区西部のE 9 b0 ~ E 9 b3 区に位置している。

重複関係 第489号住居跡, 第1057・1324・1325・1326号土坑を掘り込み、第13号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長さは10m, 規模は上幅1.0~1.2m, 下幅0.4~0.8m, 深さ50cmである。断面形はU字状を呈し、E 9 b0 区から東方向 (N-85°-E) へ直線的に延びている。

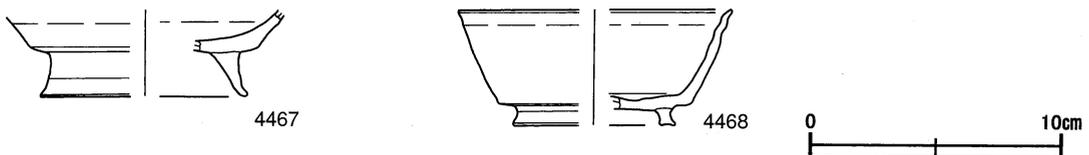
覆土 3層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

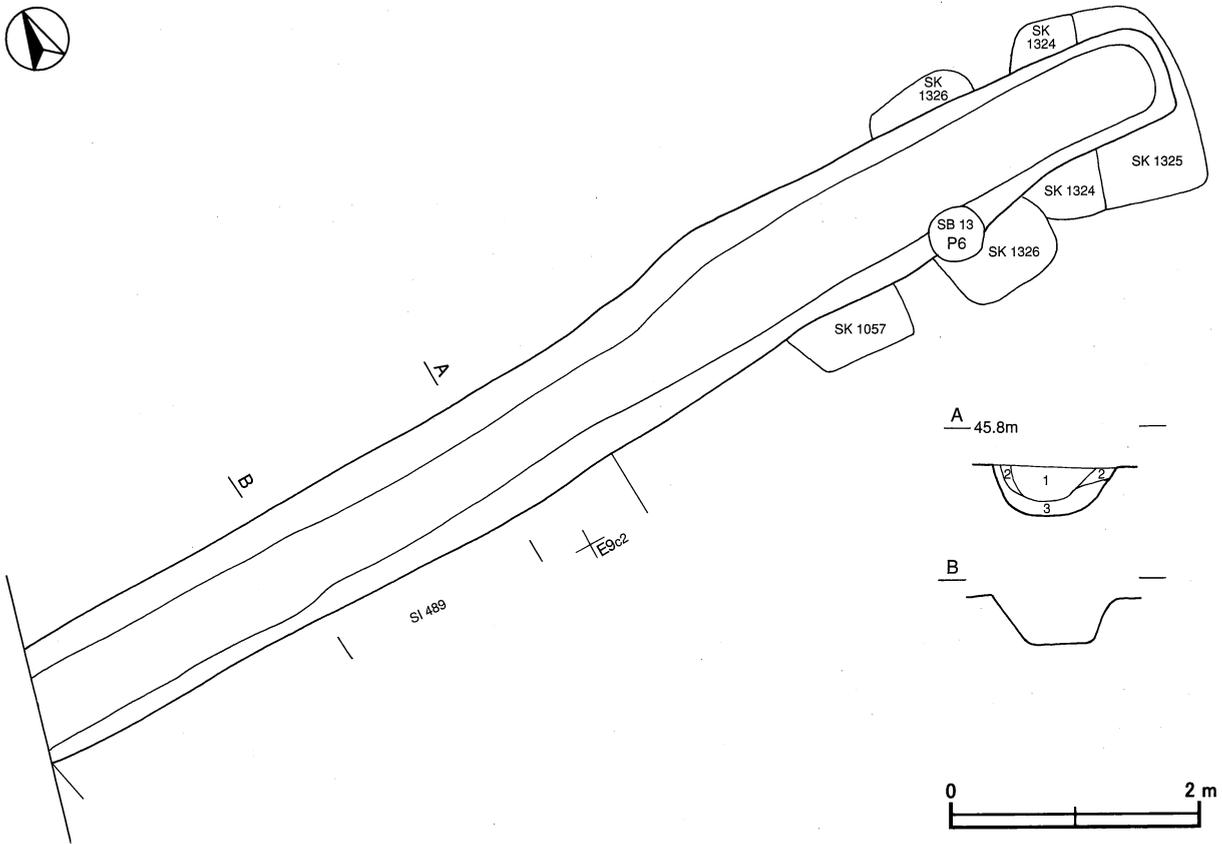
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片75点 (坏21, 高台付坏3, 椀2, 甕49), 須恵器片12点 (坏5, 高台付坏2, 甕5) 土師質土器片1点 (内耳鍋), 鉄滓1点が出土している。4467, 4468は覆土中から出土しており、本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見 時期及び性格は不明であるが、墓壇の集中区域の北側に位置していることから、その用途は墓域を区画するために構築された可能性が高い。



第829図 第29号溝跡出土遺物実測図



第830図 第29号溝跡実測図

第29号溝跡出土遺物観察表 (第829図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4467	土師器	高台付坏	-	(3.4)	[8.2]	石英・雲母	にぶい橙	普通	高台貼り付け後ナデ	覆土中	10%
4468	須恵器	高台付坏	[10.8]	4.6	[6.4]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土中	30%

(6) 道路跡

当遺跡では、今回の調査で、4条の道路跡が検出されており、そのうち2条が当該期に該当する。以下、概要について記述する。

第1号道路跡 (第828図)

位置 調査区西部西寄りのE 8 i 0 ~ E 9 i 3 区に位置し、緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第495号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西端部の調査区域外 (E 8 i 0 区) から東方向 (N-88°-E) に直線的に伸びており、東側は耕作などのため遺存状態が悪く、確認された規模は、長さ17m、上幅2.3~3.6m、下幅1.8~2.5mである。路面は斜面部を切り通し状に掘り込んでから構築されており、深さ11~40cmで、断面は弧状を呈している。

覆土 5層からなる。第1・2層は硬化した層であり、含有物の砂粒は、傾斜面の上部からの流入によって混じったものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・砂粒微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片138点(坏34, 高台付坏1, 甕99, 高坏4), 須恵器片21点(坏9, 高台付坏1, 甕7, 蓋4), 土師質土器7点(内耳鍋), 灰釉陶器片1点, 陶器片1点(皿)が全域から散在した状態で出土しているが, ほとんどが細片で破断面が摩滅している。そのうち図示できたものは3点で, 4479・4465は覆土中, 4470は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は, 緩やかに傾斜した斜面部を切り通し状に掘り込んで構築したものである。土層観察から硬化面は覆土上層に幅約0.7~1m, 深さ8cm程度確認できる。本跡の明確な時期は不明であるが, 出土した陶器片などの形状から, 16世紀代に機能していたものと考えられる。また, 本跡の両側は墓域であり, 墓域と関連して構築されたものと考えられる。

第1号道路跡遺物観察表(第828図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4465	須恵器	坏	-	(2.6)	3.3	雲母	灰白	普通	体部ロクロ整形	覆土中	40% 底部刻書「×」
4470	灰釉陶器	瓶	-	(4.2)	[8.4]	緻密	灰	良好	高台貼り付け後, ロクロナデ, 角高台	南部下層	5% 猿投産
4479	陶器	稜花皿	-	(0.9)	-	緻密	灰白	良好	刻文, 内外面灰釉	覆土中	5% 瀬戸・美濃系

第4号道路跡(第828図)

位置 調査区西部西寄りのE8e0~E9h2区に位置し, 緩やかな斜面部に立地している。

重複関係 第492号住居跡, 第11号掘立柱建物跡, 第28号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 第1号道路跡(E9i2区)から北北西(N-14°-W)に9.5mほど延び, さらに北西方向(N-41°-W)に緩やかに曲がって, 西端部の調査区域外に向かい7.5mほど延びている。西部は調査区域外に延び, 南部は第1号道路跡に合流しているため, 確認された規模は, 長さ約17mで, 上幅0.75~1.5m, 下幅約0.5m, 断面は緩やかな弧状をしている。また, 深さ15cmほどで, 第28号溝跡を掘り込んで構築されている。

覆土 本跡は3層からなる。第1・2層とも硬化層で, 流入した覆土が踏み硬められたものである。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・砂粒微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片51点(坏11, 高台付坏1, 甕39), 須恵器片6点(高台付坏1, 甕3, 蓋2), 土師質土器片1点(内耳鍋)が全域から散在した状態で出土しており, ほとんどが細片で破断面が摩滅している。そのうち図示できたものは1点で, 4466は北部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の東側には硬化面が確認でき, 東側を路面として主に使用していたものとみられる。また, 土層観察から, 第28号溝跡が埋没した後に, 道路として利用していることが確認できた。本跡の時期は, 16世紀代に比定されている第1号道路跡に南東部(E9i2区)で硬化面が合流していることから, 同時期に機能していたものと考えられる。また, 本跡の両側は墓域となっていないが, 路面との重複がないことから, 墓域と関連して構築されたものと考えられる。

第4号道路遺物観察表(第828図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4466	土師質土器	内耳鍋	[26.8]	(5.0)	-	長石・石英	濃い赤褐色	普通	内外面ナデ	北部下層	5% 外面煤付着

5 その他の遺構と遺物

今回の調査では弥生時代から中・近世の遺構のほか、年代が明らかでない遺構として竪穴住居跡12軒、方形竪穴遺構2軒、掘立柱建物跡1棟、土坑741基、井戸跡10基、道路跡1条、溝跡16条、ピット群32か所、柵跡5列、不明遺構5基が調査されている。以下これらの遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第289号住居跡（第831図）

位置 調査区北部のG12j1区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第282・286号土坑、第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出された状態で検出され、壁の立ち上がりは確認できなかったが、暗褐色を呈した床面の広がりから判断した。南北軸は約4.2m、東西軸は東部を第11号溝に掘り込まれ、西部が調査区域外に延びているため、約2.3mだけが確認でき、平面形については判然としない。炉と竈は、確認されていない。

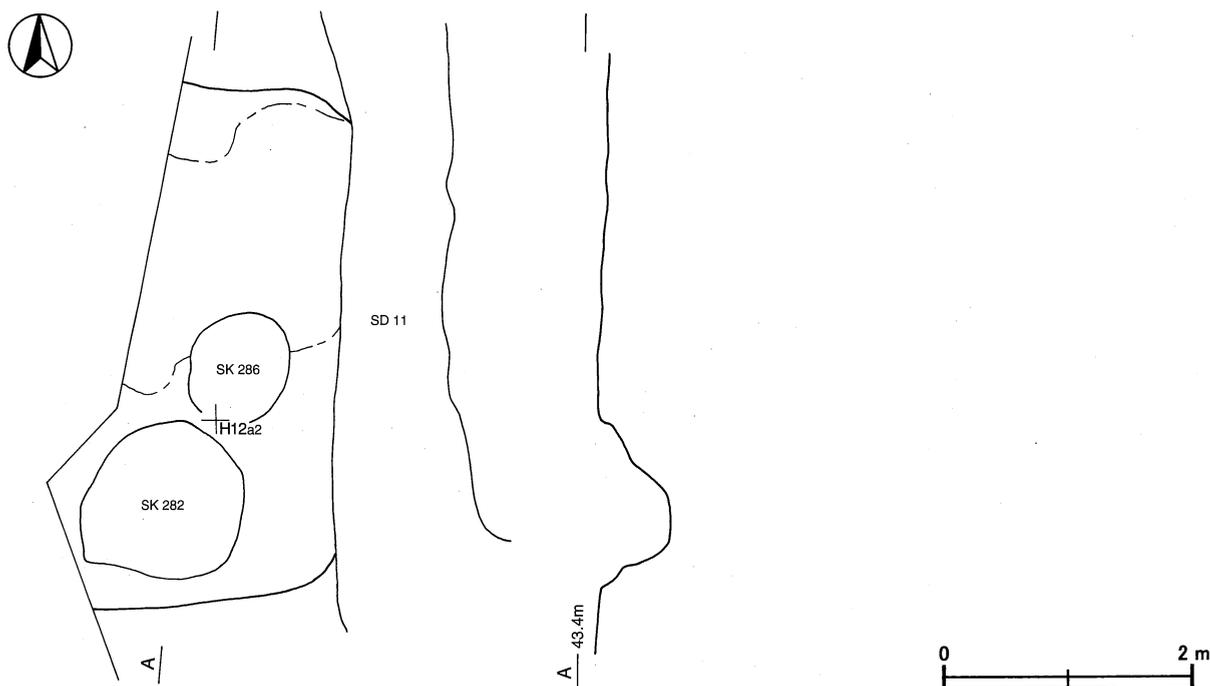
床 ほぼ平坦で、北部がよく踏み固められている。壁溝は認められない。

ピット 認められない。

覆土 確認されていない。

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡は東部を重複で掘り込まれ、西側が調査区域外のため、遺構の形態は判然としない。また、出土遺物もなく、本跡を掘り込んでいる第11号溝跡も時期不明のため、時期を明確にすることは困難である。



第831図 第289号住居跡実測図

第335号住居跡 (第832図)

位置 調査区中央部の I 13a4 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第514・534・572号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 床面の一部が削平された状態で検出されたため、規模及び平面形状は明確ではないが、遺存する床面の範囲から、 $N-10^{\circ}-W$ を主軸とする長軸約3.2m、短軸約3.0mの方形と推定される。

床 遺存する床から判断して、ほぼ平坦であったと推測される。また、壁溝は検出されていない。

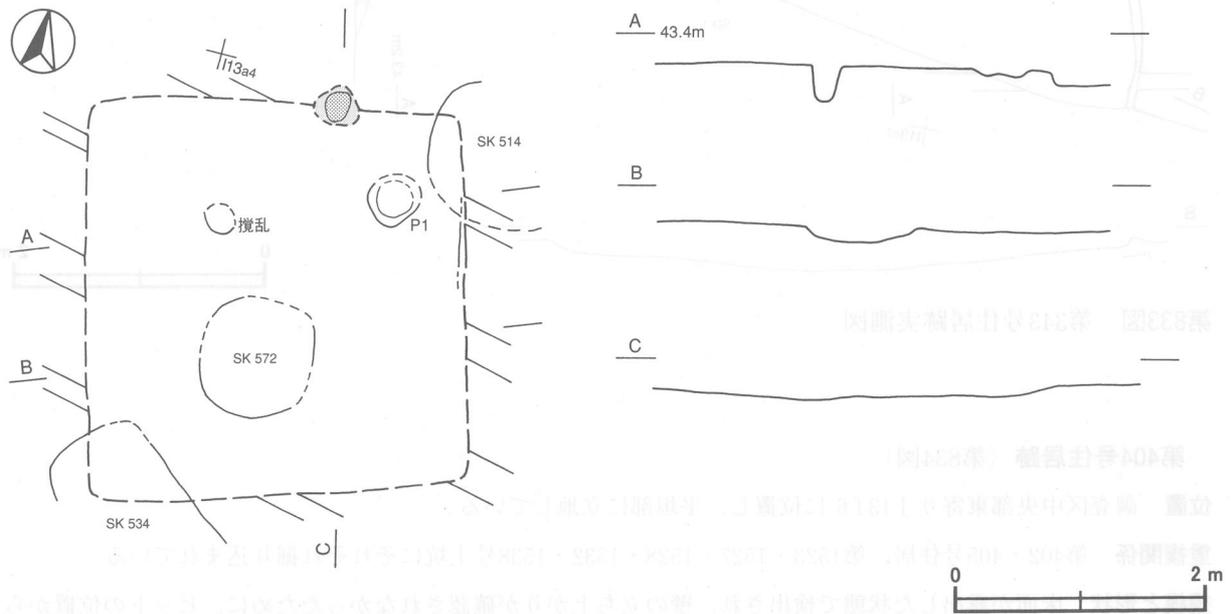
竈 北壁中央部のやや東寄りに砂質粘土で構築されていたと推測されるが、すでに竈の大半が削平されており、検出できたのは浅い皿状を呈した火床面だけである。

ピット 1か所。形状から柱穴と判断したが、対応する柱穴はなく、詳細は不明である。

覆土 堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片50点(坏12, 高台付坏2, 甕36), 須恵器片1点(甕), 礫片3点(被熱痕有り)が、床面と覆土中から出土している。これらは大半が細片で、投棄されたり、混入したものと考えられる。

所見 竈を有し、また住居跡の主軸が北方向よりやや北西に傾く住居形態から、古墳時代後期の可能性も考えられるが、本跡に伴う遺物が出土していないことから、時期は不明である。



第832図 第335号住居跡実測図

第343号住居跡 (第833図)

位置 調査区中央部の I 13b7 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第1号濠に掘り込まれている。

規模と形状 遺存部が少ないため規模及び平面形状は明確ではないが、確認できた範囲は南北軸約2.1m、東西軸約4.5mで、遺存した壁から $N-24^{\circ}-E$ を主軸とする方形あるいは長方形と推定される。

床 遺存している部分はほぼ平坦で、それほど硬化した部分は認められず、壁溝も確認されていない。

炉 確認されていない。

ピット 確認されていない。

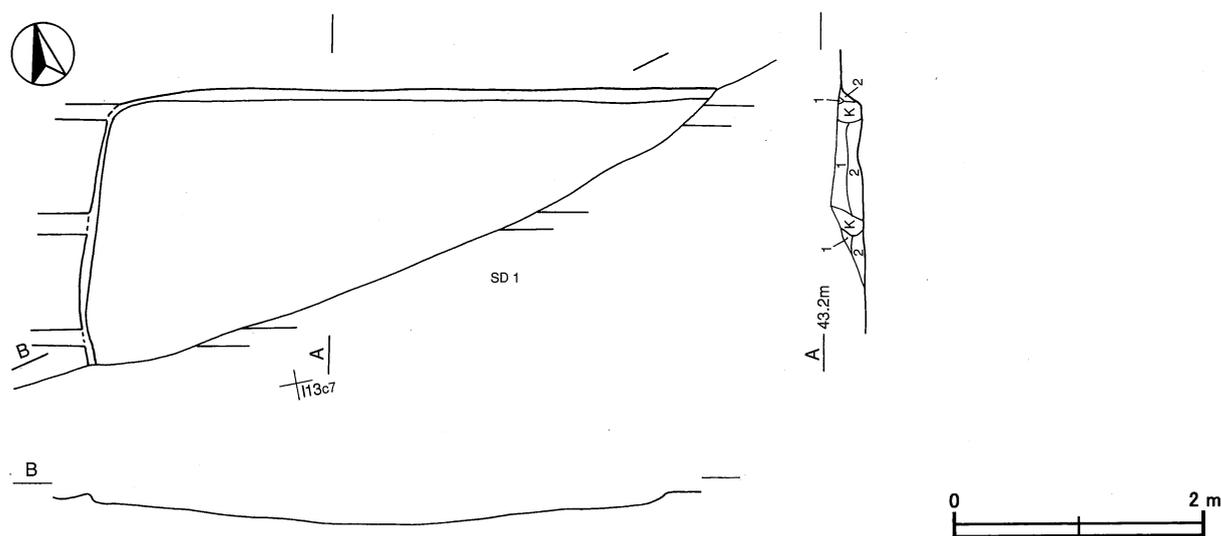
覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片30点（坏9，甕21），須恵器片4点（甕），灰釉陶器片1点（手付瓶），石器1点（砥石），鉄滓1点，礫片4点（被熱痕有り）が，床面と覆土下層から散在した状態で出土している。伴出遺物はなく，大半が攪乱部付近から出土しているが，ほとんどが投棄されたり混入したものと考えられる。

所見 大半が重複を受けており，伴出遺物も出土していないため時期は不明であるが，重複関係から第1号濠跡よりも古い遺構と断定できる。



第833図 第343号住居跡実測図

第404号住居跡（第834図）

位置 調査区中央部東寄り J 13 f 6 に位置し，平坦部に立地している。

重複関係 第402・405号住居，第1523・1527・1528・1532・1538号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 床面が露出した状態で検出され，壁の立ち上がりが確認されなかったために，ピットの位置から判断して，N-6°-Eを主軸とする一辺が約4.0mの方形と推定される。

床 ほぼ平坦で，硬化面や壁溝は認められない。

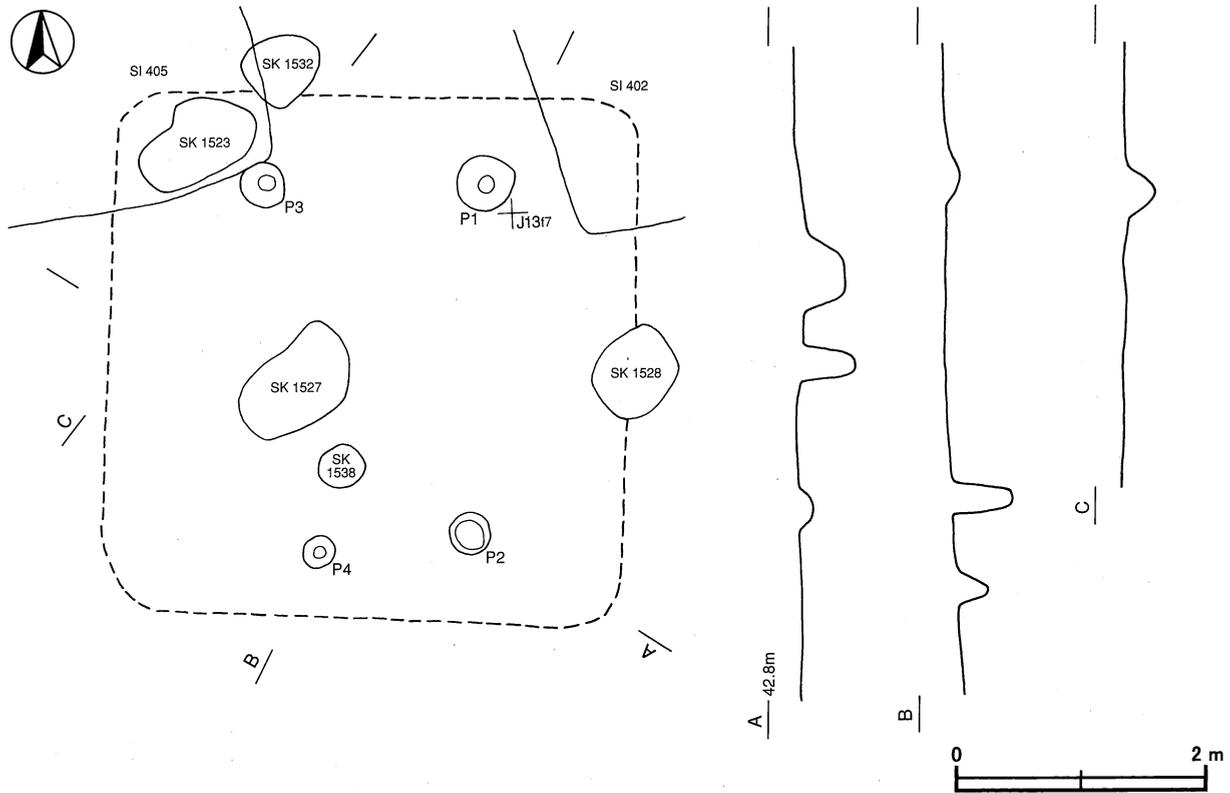
竈 遺存していない。

ピット 4か所。支柱穴はP1～P3が相当し，深さは10～22cmである。P4は深さ26cmで，南壁際の中央に位置することから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 検出されなかった。

遺物出土状況 出土遺物は少なく，土師器片4点（坏2，甕1，手捏土器1）が出土している。

所見 時期は6世紀後半に比定される第402号住居跡に掘り込まれているが，出土遺物も細片で住居形態も判然としないことから，時期を明確にすることは困難である。



第834図 第404号住居跡実測図

第476号住居跡（第835図）

位置 調査区南部のL11g9区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第880号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、東西軸5.2m、南北軸は2.7mが確認されただけである。北壁の方向から判断して、ほぼ北方向を主軸とする方形または長方形と推定される。北壁の壁高は10cm前後で、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、北壁際から中央部にかけてよく踏み固められている。また、壁溝は確認された壁際を巡っている。

竈 北壁からは、検出されていない。

ピット 4か所。P1・P2が配置と形状から支柱穴に相当し、深さは40cm・44cmである。P3は深さが23cmであるが、性格は不明である。また、P4も深さが33cmであるが、いずれも性格は不明である。

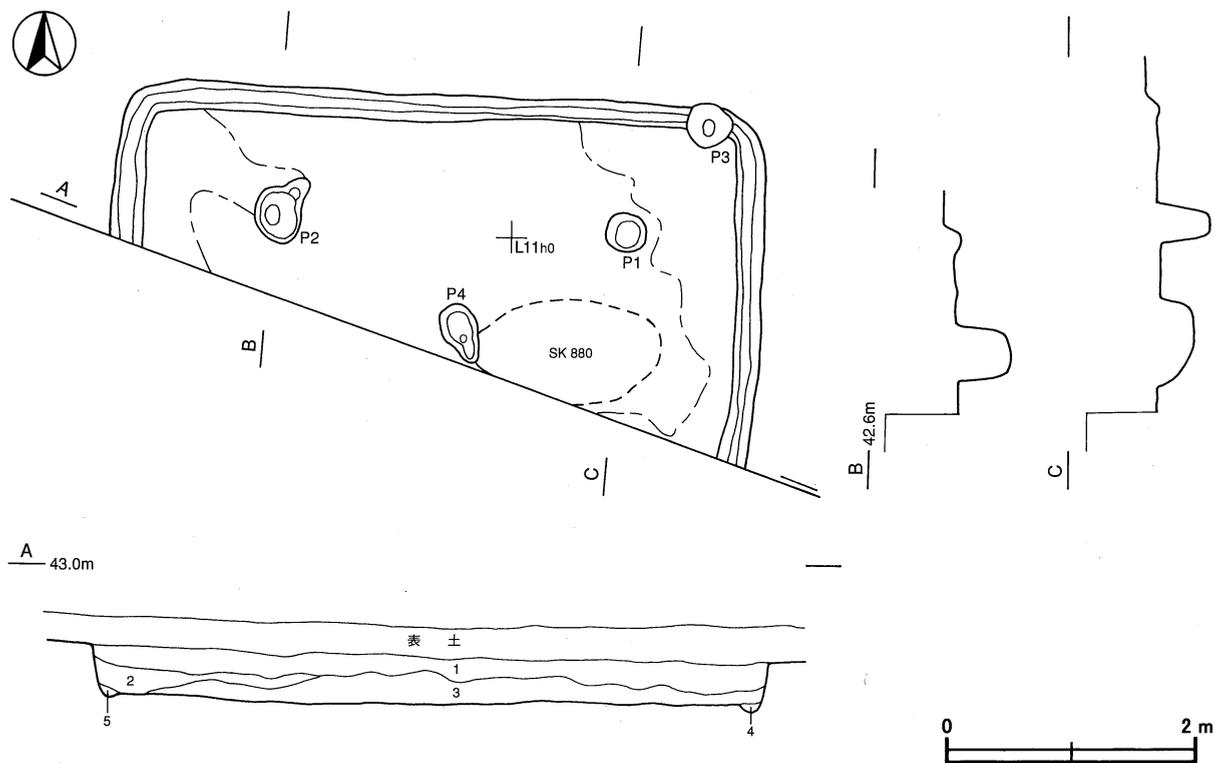
覆土 5層からなり、ロームブロックや焼土を含んだ不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点(坏)、須恵器片1点(高台付坏)は覆土中から出土しており、いずれも細片である。

所見 本跡は南側部分が調査区域外に延びているため、全体の形状を把握することはできなかったが、当遺跡の集落が調査区域外に広がる可能性を示している。出土した土器片の形状は7世紀後半以降と考えられるが、出土土器は混入したものであるため、時期判断は困難である。



第835図 第476号住居跡実測図

第480号住居跡（第836図）

位置 調査区南部のL11g7区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第481号住居、第2号道路、第872号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は約5.8mで、南部が調査区域外に延びているため、南北軸は約1.7mだけ確認できたが、形状は不明である。壁高は57cmで、ほぼ直立して立ち上がっている。

床 遺存している部分はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。なお、壁溝は東壁際を除いて確認されており、本来は周回していたと考えられる。

竈 検出されていない。

ピット 2か所。いずれも支柱穴で、深さ23～29cmである。

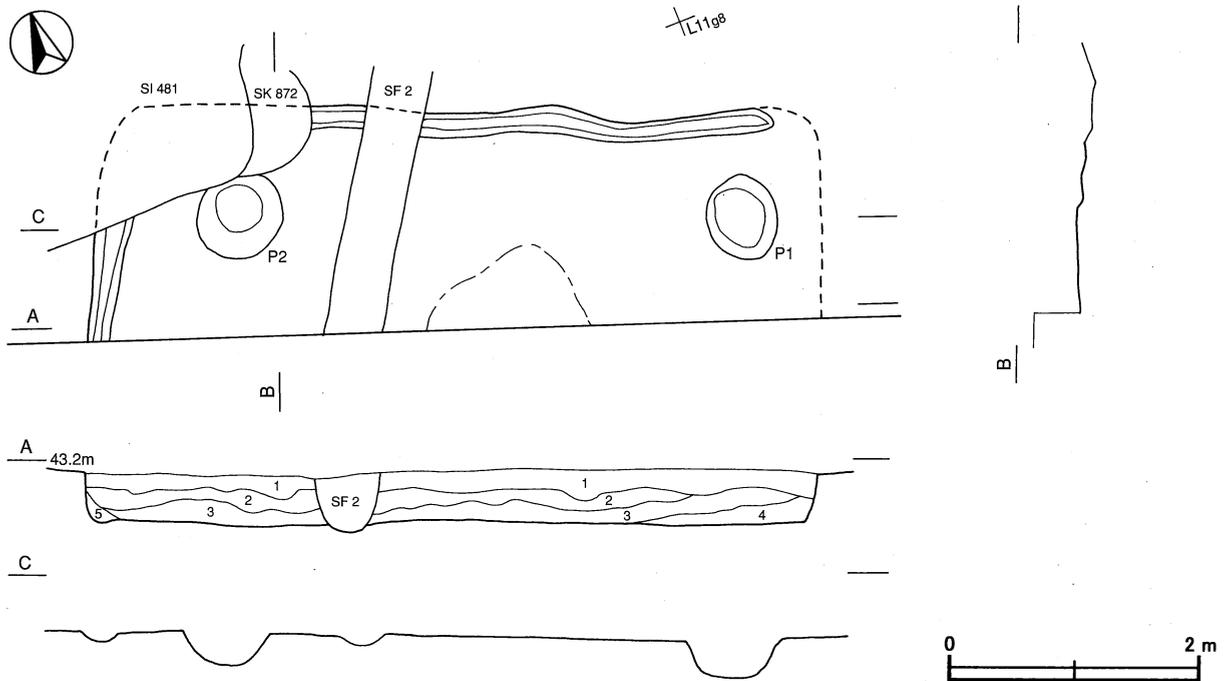
覆土 7層からなり、ロームブロックや焼土を含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------|
| 1 | 黒色 | 焼土ブロック微量 |
| 2 | 黒色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 | 黒色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 | 黒色 | 砂質粘土少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 6 | 黒色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 7 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片21点（坏10，甕11），須恵器片4点（坏2，甕2），鉄製品3点（不明），礫片2点が、全域の覆土中から出土している。大半が細片で、本跡に伴う遺物は少ないと考えられ、ほとんどが投棄されたり、住居廃絶後の埋め戻しの段階で混入したものである。

所見 本跡は伴出遺物が少なく、住居跡形態も明らかではないため、時期は不明である。



第836図 第480号住居跡実測図

第500号住居跡 (第837図)

位置 調査区中央部の J 13 i 5 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第 1 号濠跡を掘り込み、第 4 B 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南側部分は調査区域外に延びており、床面まで削平された状態で検出されたため、東西軸3.2m、南北軸は2.4mだけが確認された。壁の立ち上がりは確認されなかったため、竈の位置方向から判断して主軸方向は N - 38° - W と推定される。

床 硬化面のほとんどが削平されており、壁溝も認められない。

竈 北壁に付設されており、火床部や煙道の一部だけが確認されている。火床部およびその周囲の床面から粘土粒子や砂粒が検出されていて、竈材の一部が流出したものと考えられる。

竈土層解説

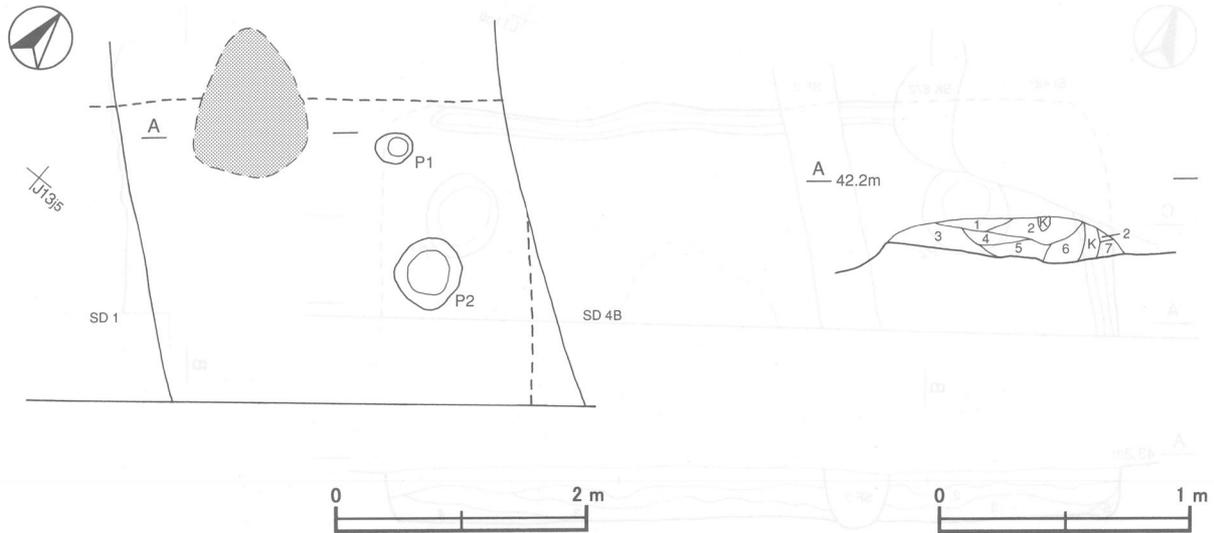
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 4 にぶい赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
- 6 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 にぶい赤褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 2か所。P1・P2は深さが20cm・14cmであるが、性格は不明である。

覆土 検出されなかった。

遺物出土状況 鉄滓1点(着磁性あり)のみが検出されている。

所見 時期は重複関係から6世紀中葉から8世紀代と推測されるが、出土土器がないため時期を特定することは困難である。



第837図 第500号住居跡実測図

第506号住居跡 (第838図)

位置 調査区中央部西寄りの I 12 j 1 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第511号土坑に掘り込まれている。

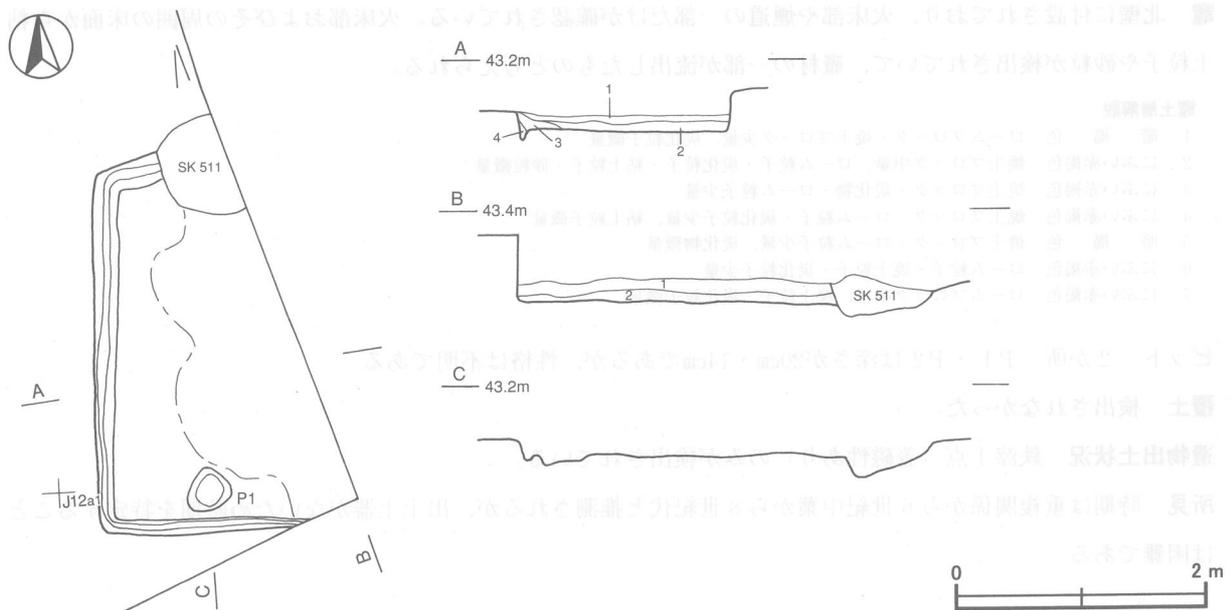
規模と形状 北東部が調査区域外に延びるため、南北軸約3.0m、東西軸は約2.0mだけが確認できた。遺存している南・西壁や硬化面の広がりから、N-3°-Eを主軸とする方形または長方形と推定される。壁高は15cmで外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められていると考えられる。壁溝は確認された壁際を巡っている。

竈 調査区域外に位置すると考えられる。

ピット 1か所。深さは5cmと浅く、性格は不明である。

覆土 4層からなり、各層にロームブロックや焼土を含んだ人為堆積である。



第838図 第506号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 3 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片55点(坏10, 椀1, 甕44)が出土しただけである。出土した土師器片の大部分は、破断面が摩滅しており、住居廃絶後の埋土とともに混入したものと考えられる。なお、細片のため図示できるものはない。

所見 本跡は北東部が調査区域外に延びると考えられ、住居全体の様相は把握できず、出土遺物も少ないため時期決定は困難である。

第509号住居跡(第839図)

位置 調査区西部のF 8 d0 区に位置し、緩やかな斜面部に立地している。

規模と形状 長軸約3.1m, 短軸約2.6mの長方形で、主軸方向はN-98°-Eである。壁高は約25cmで、ほぼ直立して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全域がよく踏み固められている。壁溝は北壁と南壁で確認されている。

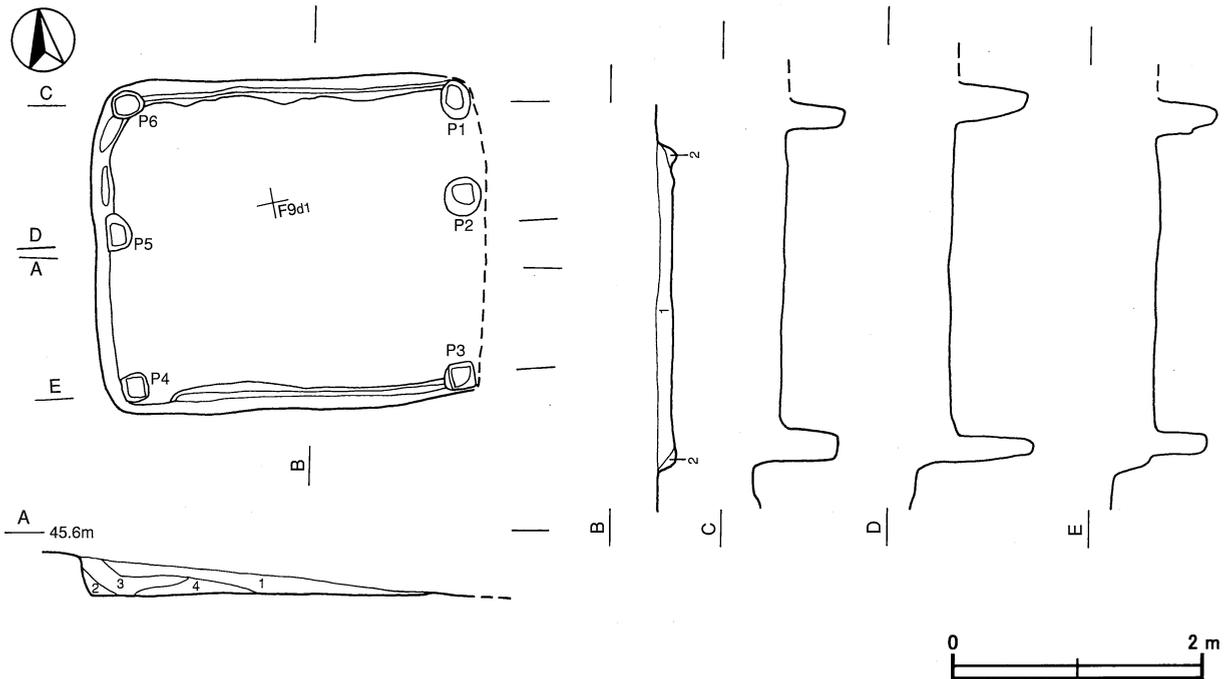
竈 検出されていない。

ピット 6か所。いずれも支柱穴で、深さ40~68cmである。

覆土 4層からなり、ロームブロック主体の人為堆積である。第2層は壁溝部の層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量



第839図 第509号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片62点（坏18，高台付坏5，甕38，甑1），須恵器片6点（坏5，甕1），礫片1点が，主に覆土中から出土している。大半が細片で，埋土中に混入していたものや，住居廃絶後間もなく投棄したものと推測される。

所見 伴う遺物は少なく，いずれも平安時代の所産であるが，出土状況から時期判断は困難である。

第511号住居跡（第840図）

位置 調査区南部のK12f4区に位置し，平坦部に立地している。

重複関係 第512号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸約2.2m，短軸約1.8mの長方形で，主軸方向はN-5°-Eである。壁高は約12cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であるが，それほど硬化した部分は認められず，壁溝も確認されていない。

竈 検出されていない。

ピット 4か所。支柱穴はP1～P4が相当し，深さ24～46cmで，いずれも各コーナー部に位置している。

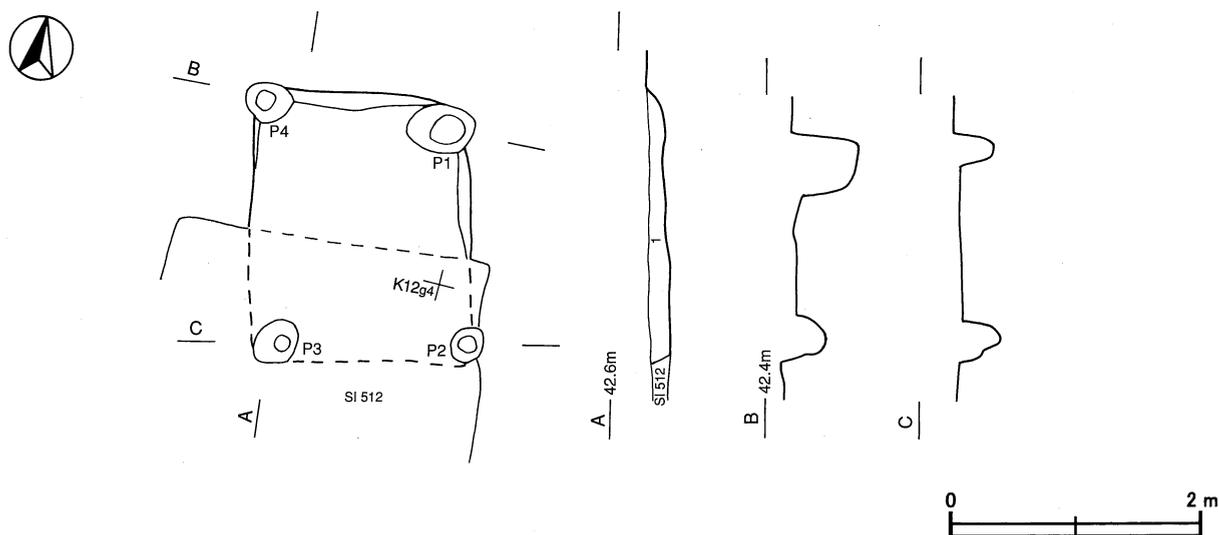
覆土 単一層で，ロームブロックを主体とした人為堆積である。

土層解説

1. 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片63点（坏45，高台付坏5，甕13），須恵器片3点（坏1，高台付坏1，甕1）が主に北部の覆土中から出土している。これらは大半が細片で，投棄されたり，住居廃絶後の埋め戻す段階で埋土に混入したものである。

所見 投棄された土師器は10世紀後半以降の所産と考えられるが，出土状況から時期判断は困難である。なお，当遺跡において，支柱穴が各コーナー部に位置する住居形態は，本跡と第509号住居跡の2軒だけである。また，竈が付設されていないことや，床面にあまり硬化した部分が認められないことなどから見て，居住施設以外の倉庫等の収納施設の可能性がある。



第840図 第511号住居跡実測図

第512号住居跡 (第841図)

位置 調査区南部のK12g4区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第511号住居跡、第1282・1285号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸約3.4m、短軸約2.6mの長方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は約15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 遺存している部分はほぼ平坦であるが、それほど硬化した部分は認められず、壁溝も確認されていない。

竈・炉 検出されていない。

ピット 1か所。深さ44cmで、土層観察から柱穴と判断したが、詳細は不明である。

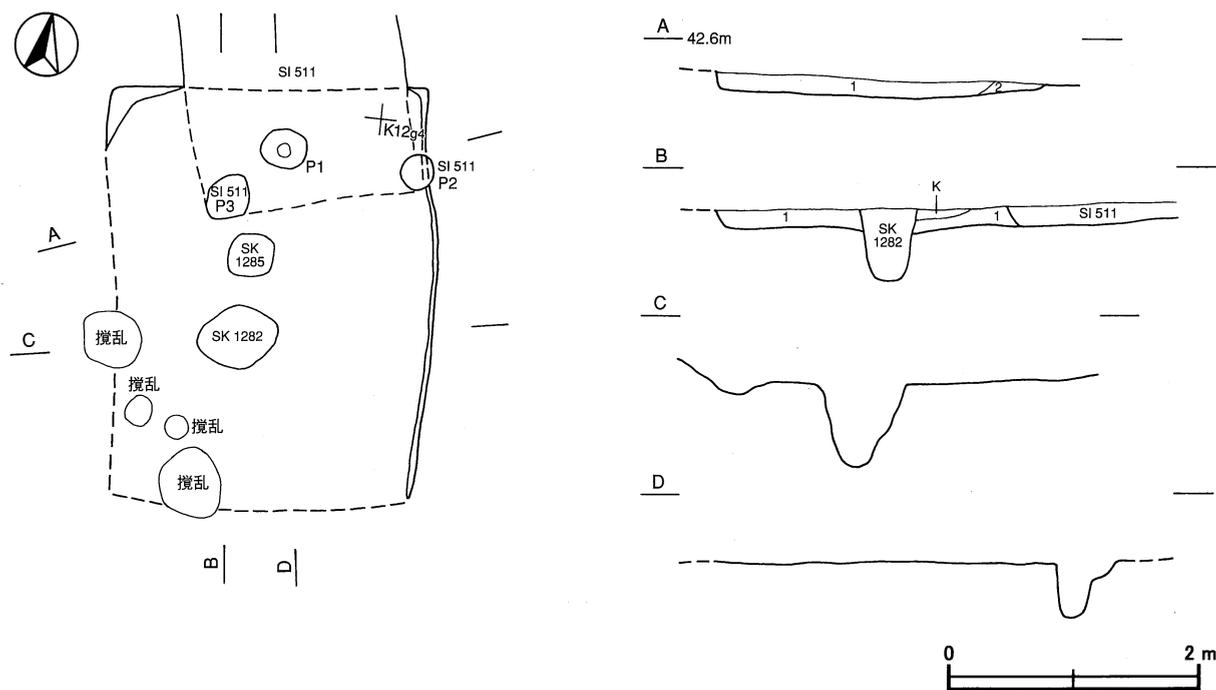
覆土 2層からなり、ロームブロックを含んだ人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片88点(坏24, 小皿12, 高台付坏4, 甕48), 須恵器片8点(坏5, 甕3), 緑釉陶器片1点(皿), 鉄滓1点, 礫片7点が北西部の床面と覆土中から出土している。これらは大半が細片で、投棄されたり、住居廃絶後の埋め戻す段階で埋土に混入したものである。北西部の覆土中から検出された土器片が相当する。

所見 投棄された土師器片は、隣接する第453・466号住居跡から検出された土師器片と同様の様相を示すものであり、時期は10世紀後半の可能性もあるが、出土状況から時期判断は困難である。



第841図 第512号住居跡実測図

第530号住居跡（第842図）

位置 調査区北部の北端のF13j4区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第193・196号住居跡をそれぞれ掘り込み、第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.6m、短軸2.5mのほぼ方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は最も残りの良い西壁で40cmを測り、ほぼ直立している。また、東壁際から中央部床面に向かって東半分は、緩やかに傾斜したスロープ状を呈している。

床 西半分はほぼ平坦で、中央部から東壁際にかけての東半分はスロープ状を呈している。壁際を除いて、全体的に硬化した部分が認められる。東壁際から中央部床面にかけては、床面まで掘り込んだ後にローム土や鹿沼土を用いてスロープ状に構築されている。壁溝は確認されていない。

ピット 1か所。P1は南西コーナー部壁際に位置し、深さが22cmである。いずれも形状から柱穴の可能性はあるが、詳細は不明である。

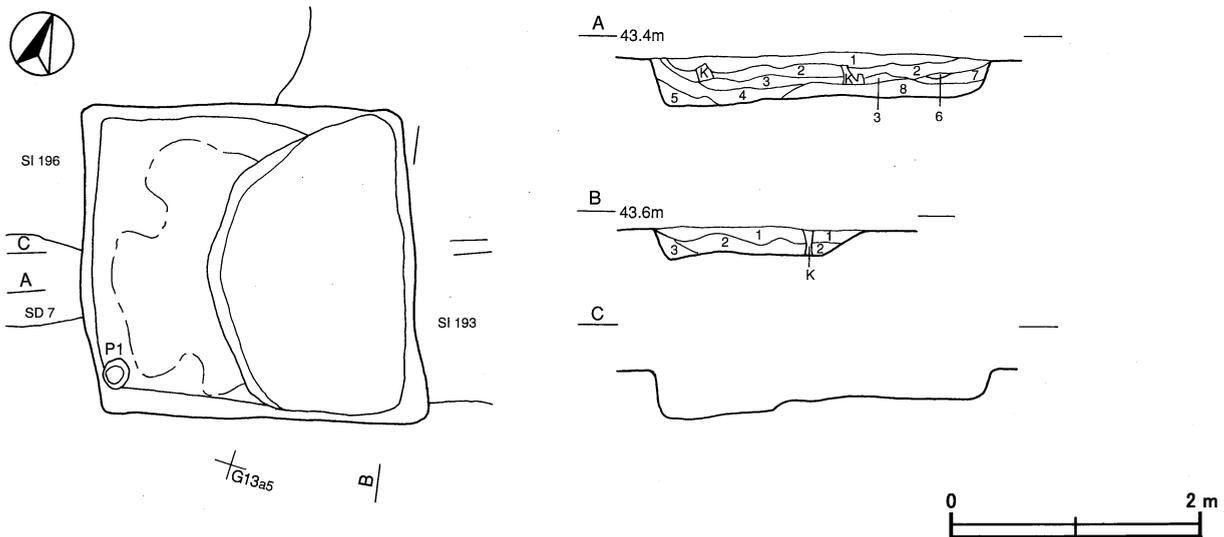
覆土 8層からなり、ロームブロックを多量に含んだブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。なお、第6～8層はスロープ面を構築した層である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子中量、鹿沼バミス微量
- 7 褐色 ローム粒子多量、黒色ブロック中量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量、鹿沼バミス少量

遺物出土状況 土師器片312点（坏59，甕253），須恵器片16点（坏9，高台付坏1，蓋1，甕5）がほぼ全域から散在した状態で出土している。これらの土器はいずれも細片で破断面が摩滅していることから、本跡廃絶後に埋め戻す段階で混入したものである。

所見 本跡からは竈が確認されないことや同時期の住居跡と主軸方向がずれていること、スロープ状の特異な遺構形態など、住居跡ではなく、方形竪穴遺構の可能性も考えられる。本跡の時期は出土土器片から平安時代以降の所産と推定されるが、判断できる遺物が出土していないため、詳細は不明である。



第842図 第530号住居跡実測図

(2) 方形竪穴遺構

当遺跡では、今回の調査で12軒の方形竪穴遺構が検出されており、そのうち、時期が明確でない2軒について、その概要を記述する。

第1号方形竪穴遺構 (第843図)

位置 調査区北部北東寄りのF14h0区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第15号住居跡を掘り込み、第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は2.4mで、第3号溝に掘り込まれているため、南北軸は2.2m、方形または長方形と推定される。主軸方向はN-38°-Wであり、壁高は7cm前後と低い。

床 本跡の大部分は第3号溝跡に掘り込まれ、床は北西コーナー部と北東コーナー部が残るだけであり、硬化面は確認できなかった。また、壁溝は認められない。

竈 検出されていない。

ピット 2か所。P1・P2は深さが10cm・22cmであるが、性格は不明である。P1は第3号溝の底面から検出された。

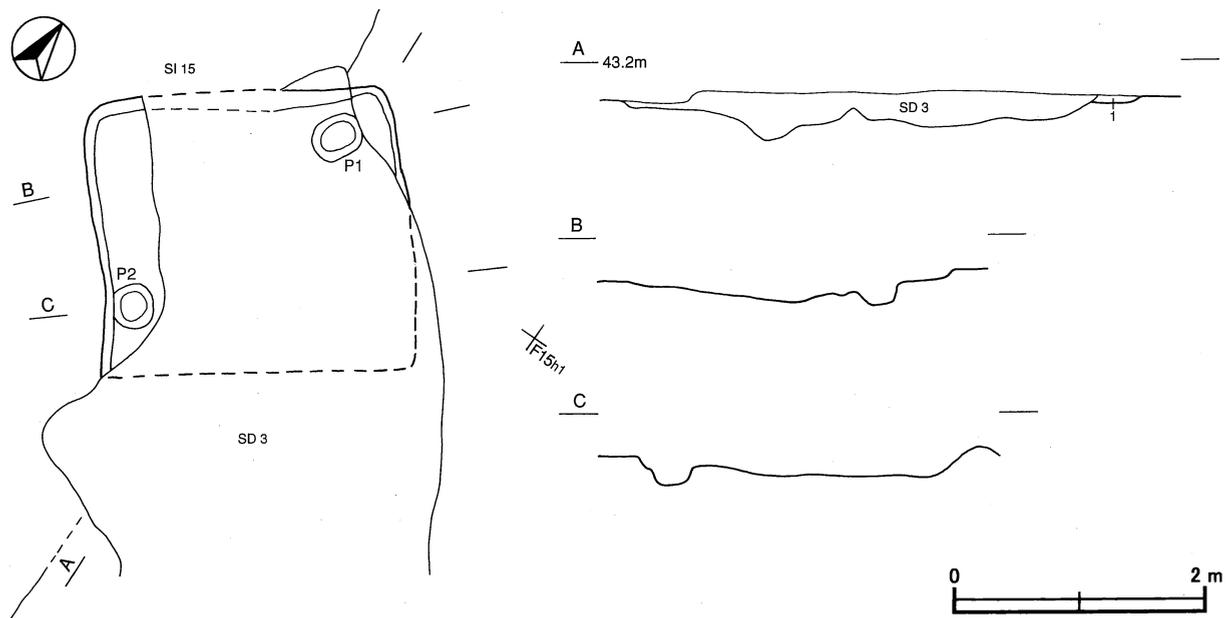
覆土 単一層で、第3号溝跡にほとんどが掘り込まれているため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 出土していない。

所見 第3号溝に本跡の大部分が掘り込まれているため、本来の形状を把握することはできなかったが、ピットの位置から本跡の形状を想定した。本跡は5世紀代の住居跡の上層に構築され、10世紀代の溝に掘り込まれているが、出土遺物がなく、時期を明確にすることはできない。



第843図 第1号方形竪穴遺構実測図

第6号方形竪穴遺構（第844図）

位置 調査区中央部のJ12e9区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 一辺が約2.0mの方形で、主軸方向はN-11°-Eである。壁高は10cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面や壁溝は認められない。

ピット 検出されなかった。

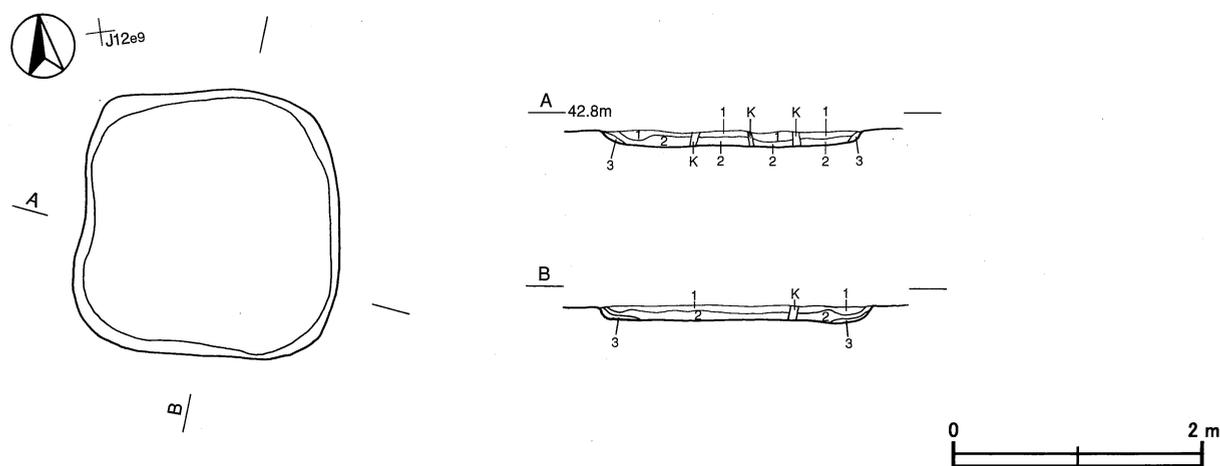
覆土 3層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片22点（坏10，甕12），須恵器片3点（坏）が出土しただけである。大半は細片で，図示できたものはない。

所見 本跡は他の遺構との重複もなく，ほとんどの遺物が細片であるため，時期を明確にすることは困難である。



第844図 第6号方形竪穴遺構実測図

(3) 掘立柱建物跡

当遺跡では，今回の調査で29棟の掘立柱建物跡が検出されており，そのうち，時期が明確でない1棟について，その概要を記述する。

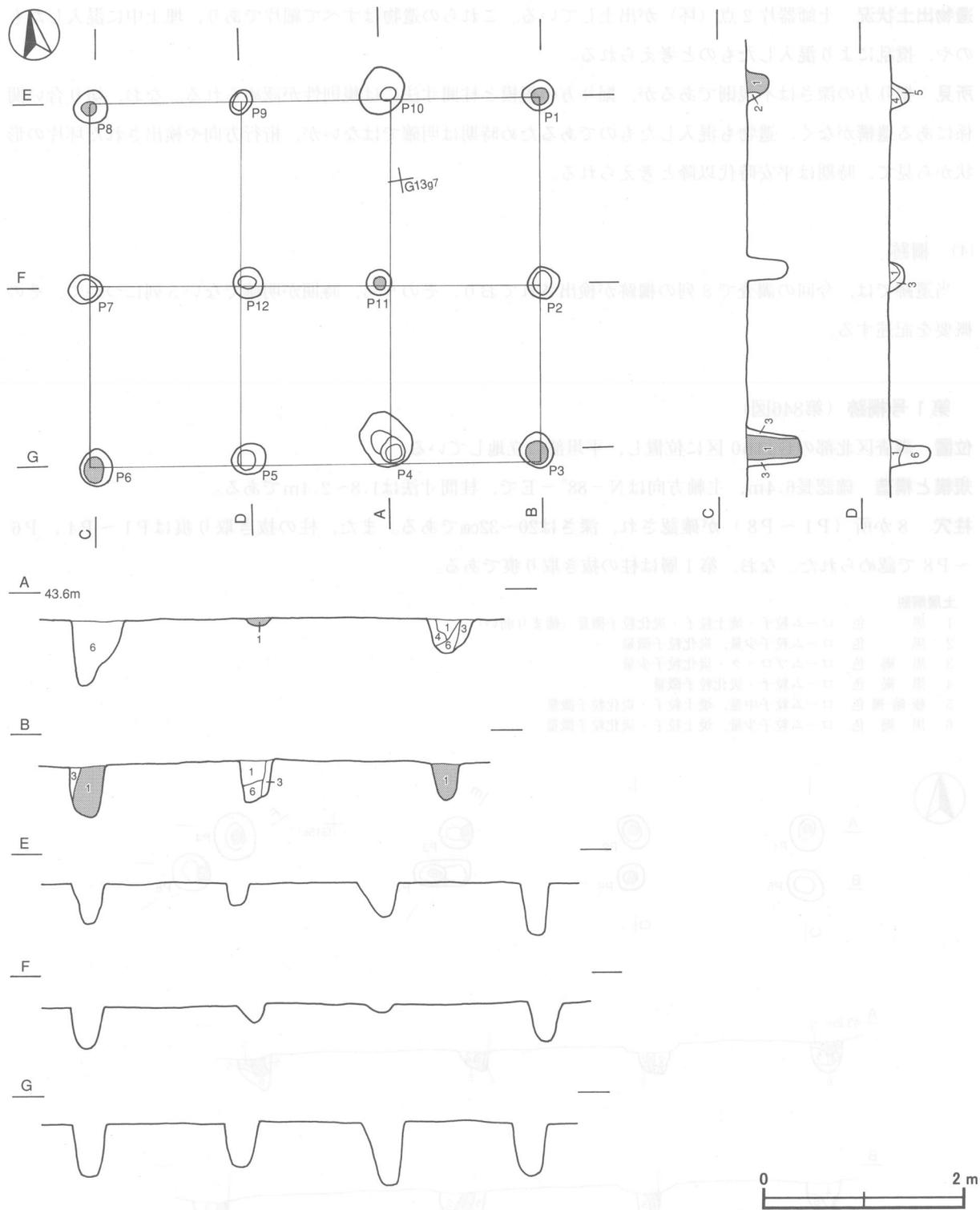
第3号掘立柱建物跡（第845図）

位置 調査区北部のG13g6区に位置し，平坦部に立地している。

重複関係 第281号土坑と重複しているが，切り合いがないことから，新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間（平均4.4m），梁間2間（平均3.5m）の総柱式の建物跡で，桁行方向はN-98°-Eの東西棟である。柱間寸法は桁行約1.5m，梁間約1.8mで，面積は約15.5㎡である。

柱穴 12か所（P1～P12）で，平面形が長径0.2～0.5m，短径0.1～0.4mの楕円形または円形である。断面形は逆台形状またはU字状を呈し，深さは0.2～0.6mである。また，柱の抜き取り痕はP1・P3・P6・P8で認められ，柱材は径16～23cmと推定される。なお，第1層は柱の抜き取り痕である。



第845図 第3号掘立柱建物跡実測図

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒色 ロームブロック微量 (締まり弱い)
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量 (締まり強い)
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒色 ローム粒子少量
- 6 黒色 ロームブロック少量 (締まり弱い)

遺物出土状況 土師器片2点(坏)が出土している。これらの遺物はすべて細片であり、埋土中に混入したものや、攪乱により混入したものと考えられる。

所見 掘り方の深さは不規則であるが、掘り方の規模と柱間寸法には規則性が認められる。なお、切り合い関係にある遺構がなく、遺物も混入したものであるため時期は明確ではないが、桁行方向や検出された坏片の形状から見て、時期は平安時代以降と考えられる。

(4) 柵跡

当遺跡では、今回の調査で8列の柵跡が検出されており、そのうち、時期が明確でない5列について、その概要を記述する。

第1号柵跡(第846図)

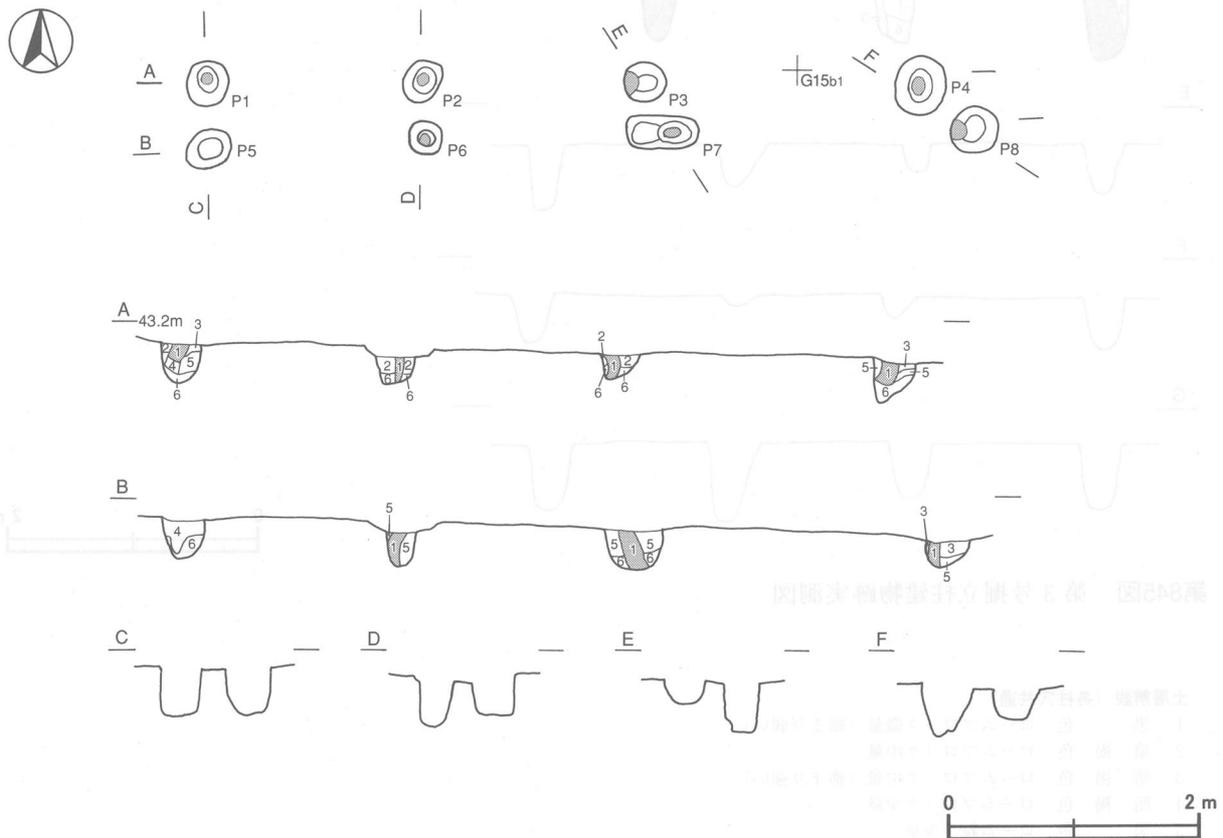
位置 調査区北部のG14b0区に位置し、平坦部に立地している。

規模と構造 確認長6.4m、主軸方向はN-88°-Eで、柱間寸法は1.8~2.4mである。

柱穴 8か所(P1~P8)が確認され、深さは20~32cmである。また、柱の抜き取り痕はP1~P4、P6~P8で認められた。なお、第1層は柱の抜き取り痕である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量(縮まり弱い)
- 2 黒色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量



第846図 第1号柵跡実測図

遺物出土状況 土師器片16点（坏3，甕13），須恵器片1点（坏），土製品1点（不明），礫片2点が出土しているが，大半は細片で，混入したものと考えられる。

所見 本跡は，P1～P4とP5～P8とが対峙しており，築地塀の可能性はあるが，判然とはしない。また，重複関係がなく，周辺には軸方向が一致する遺構もないため，時期は不明である。

第2号柵跡（第847図）

位置 調査区南部のL11e0区に位置し，平坦部に立地している。

規模と構造 長さ11.2m，列方向はN-85°-Eで，柱間寸法は2.0～2.2mである。

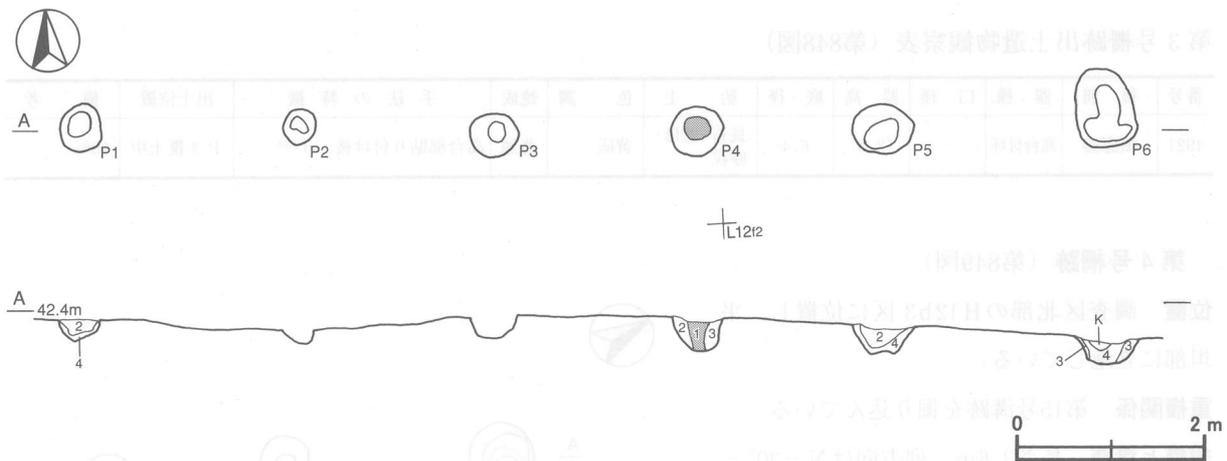
柱穴 6か所（P1～P6）が確認され，深さは22～30cmである。また，柱の抜き取り痕はP4で認められた。なお，第1層は柱の抜き取り痕である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物出土状況 検出されていない。

所見 掘り方の深さや規模，柱間寸法には規則性が認められる。また，第3号柵跡とは，6mの幅を持って平行に並んでおり，同時期に構築されたものと考えられるが，機能等については不明である。なお，遺物は検出されていないが，第3号柵跡との関連から，9世紀代に廃絶された可能性が高いが，詳細については不明である。



第847図 第2号柵跡実測図

第3号柵跡（第848図）

位置 調査区南部のL11g0区に位置し，平坦部に立地している。

規模と構造 長さ11.0m，列方向はN-5°-Wで，柱間寸法は1.8～2.6mである。

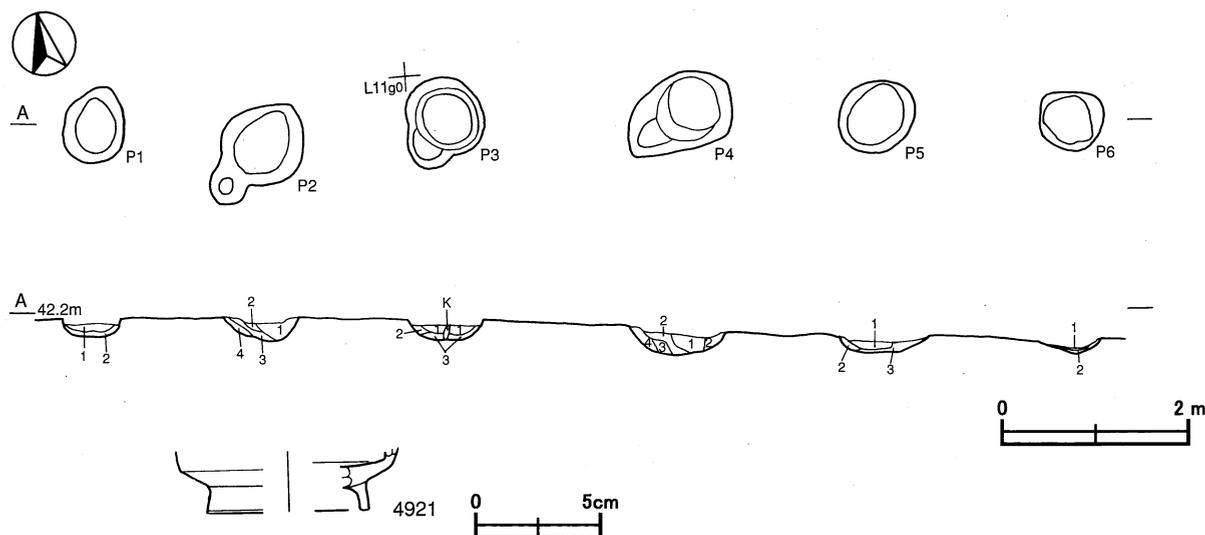
柱穴 6か所（P1～P6）が確認され，深さは10～22cmである。なお，柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミス少量，ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片13点（坏3，甕10），須恵器片4点（坏2，高台付坏1，甕1），礫片1点が出土している。4921はP2の覆土中から検出された。なお，大半は細片で，混入したものと考えられる。

所見 掘り方の深さや規模に規則性が認められる。なお，第2号柵跡とは同時期に構築されたものと考えられる。時期は，遺物から見て，9世紀代に廃絶された可能性が高いが，詳細については不明である。



第848図 第3号柵跡・出土遺物実測図

第3号柵跡出土遺物観察表（第848図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4921	須恵器	高台付坏	-	(2.5)	6.4	長石・雲母・砂粒	黄灰	普通	高台部貼り付け後，ナデ	P2覆土中	10%

第4号柵跡（第849図）

位置 調査区北部のH12b3区に位置し，平坦部に立地している。

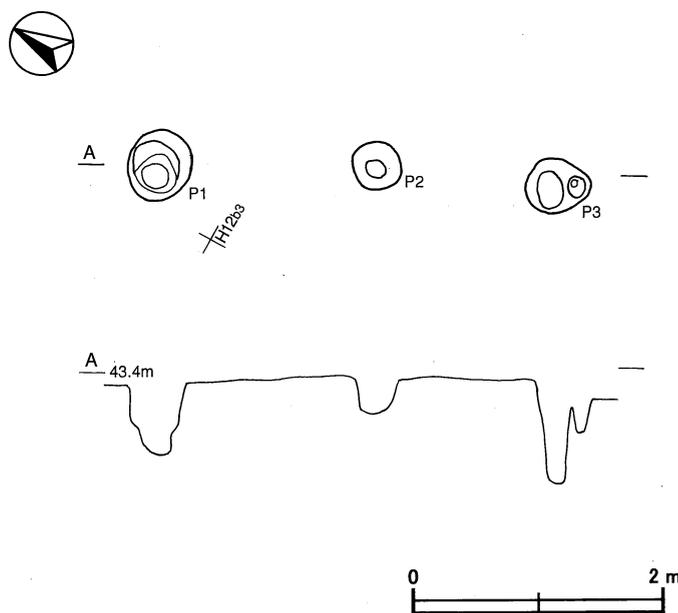
重複関係 第15号溝跡を掘り込んでいる。

規模と構造 長さ3.6m，列方向はN-30°-Wで，柱間寸法は1.4~1.8mである。

柱穴 3か所（P1~P3）が確認され，深さは26~78cmである。なお，柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

遺物出土状況 検出されていない。

所見 P1・P3の掘り方の深さは，P2に比べ深くなっており，規模も若干大きくなっている。また，第5号柵跡とは，約70cmの幅を持って平行に並んでおり，何らかの関連があると思われるが，詳細な性格は不明である。



第849図 第4号柵跡実測図

なお、第15号溝跡を掘り込んでいることから、時期は近世以降と考えられる。

第5号柵跡 (第850図)

位置 調査区北部のH12a3区に位置し、平坦部に立地している。

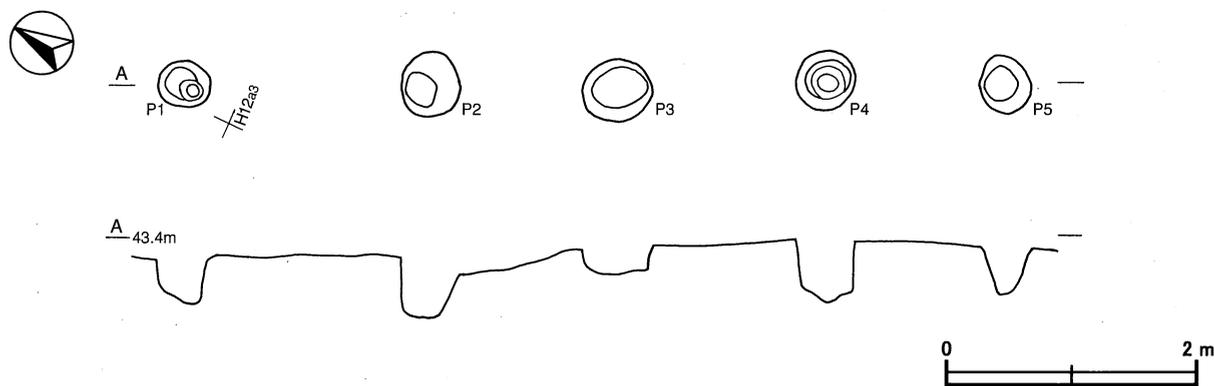
重複関係 第16号溝跡を掘り込んでいる。

規模と構造 長さ6.9m、列方向はN-30°-Wで、柱間寸法は1.4~1.8mである。

柱穴 5か所 (P1~P5) が確認され、深さは11~48cmである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片9点 (坏1, 甕8) が出土しているが、大半は細片で、混入したものと考えられる。

所見 掘り方の規模と柱間寸法には規則性が認められる。なお、第4号柵跡とは、約70cmの幅を持って平行に並んでおり、何らかの関連があると思われるが、詳細な性格は不明である。また、時期は重複関係から見て、近世以降と考えられる。



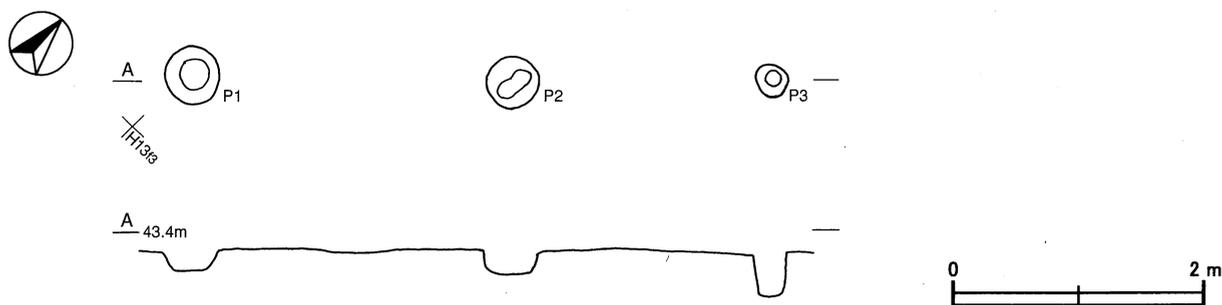
第850図 第5号柵跡実測図

第6号柵跡 (第851図)

位置 調査区北部のH13e3区に位置し、平坦部に立地している。

規模と構造 長さ4.9m、列方向はN-48°-Eで、柱間寸法は2.0~2.6mである。

柱穴 3か所 (P1~P3) が確認され、深さは12~30cmである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。



第851図 第6号柵跡実測図

遺物出土状況 検出されていない。

所見 掘り方の規模や深さは不規則であるが、柱間寸法には規則性が認められる。また、時期や性格については不明である。

第12号柵跡 (第852図)

位置 調査区中央部の J13a6 区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第443号住居跡を掘り込み、第1525号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 長さ約10.2m、主軸方向はN-10°-Wで、柱間寸法は2.7~3.3mである。

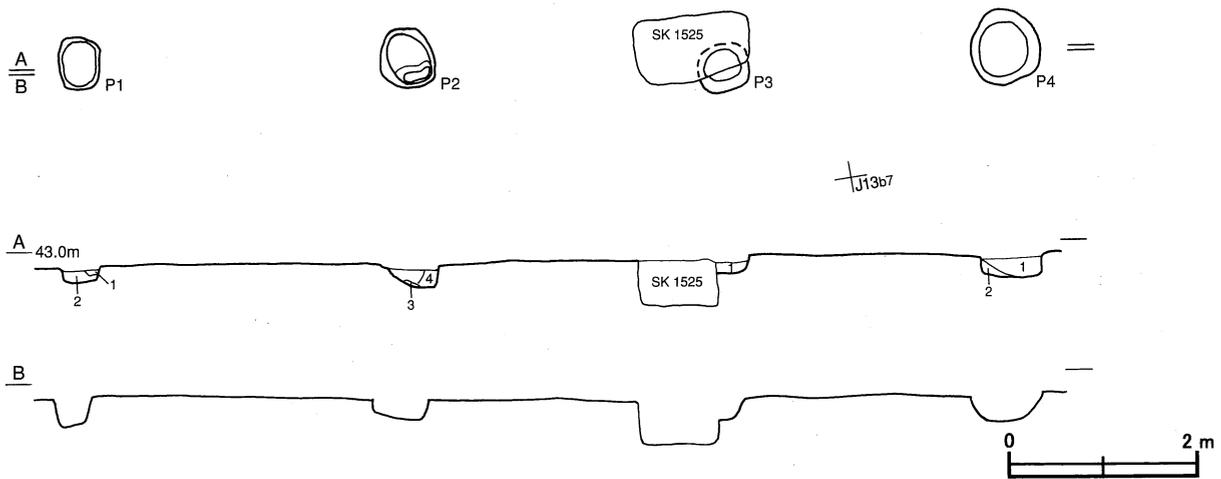
柱穴 4か所 (P1~P4) が確認され、深さは14~26cmである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片11点 (坏2, 甕9), 須恵器片2点 (坏) が出土している。出土土器はすべてが細片で、さらに混入したものと考えられる。

所見 柱穴の規模や柱間寸法などに規則性が認められるが、詳細な性格は不明である。また、時期は明らかではないが、混入した遺物の大半は9世紀代の様相を示し、当該期に廃絶された可能性が高い。



第852図 第12号柵跡実測図

第13号柵跡 (第853図)

位置 調査区中央部の J 13 f 5 区に位置し、平坦部に立地している。

規模と構造 長さ4.9m, 列方向はN-90°で、柱間寸法は約2.1mである。

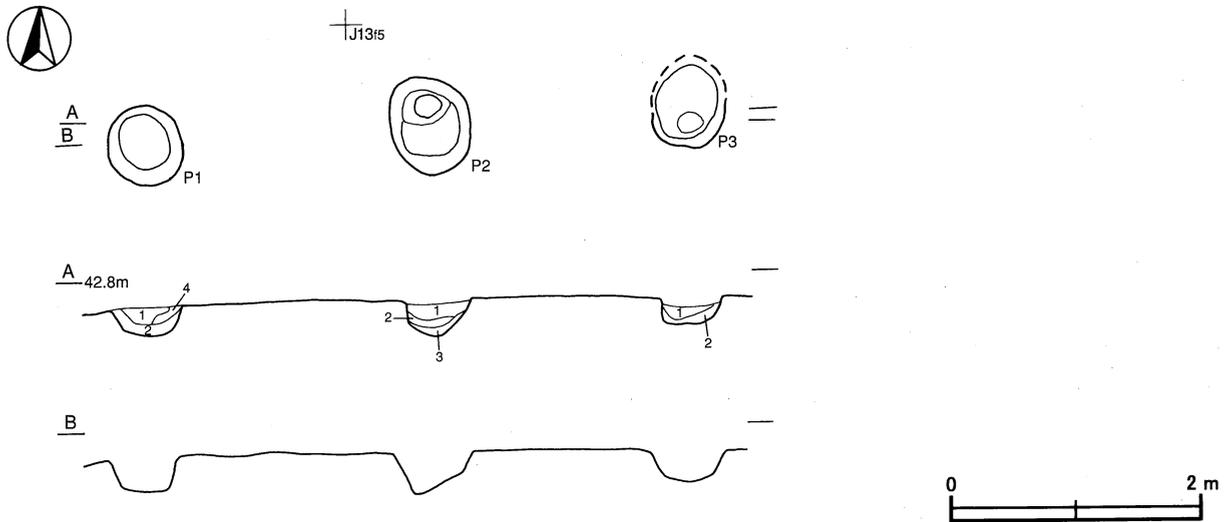
柱穴 3か所 (P1 ~ P3) が確認され、深さは18~36cmである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片26点 (坏7, 椀3, 甕16) が出土している。大半が細片で、混入したものと考えられる。

所見 柱穴の規模や柱間寸法には規則性が認められる。また、本跡は第1号堀跡と重複している可能性もあるが、確認できなかった。なお、時期や性格等については不明である。



第853図 第13号柵跡実測図

(5) 土坑

当調査区から検出された土坑は、遺物が少ないために、時期や性格が不明なものが多い。その中で、特徴的な土坑1基についてその概要を記述する。また、注目される遺物が出土したものについてはその実測図を掲載する。そして、墓壙群の円形や方形を基調とする墓壙の可能性のある土坑も含めて、その実測図と土層解説を記載し、位置や規模などについては一括して一覧表に示す。

第1136号土坑（第854図）

位置 調査区南部のL12f3区に位置し、南東への緩斜面部に立地している。

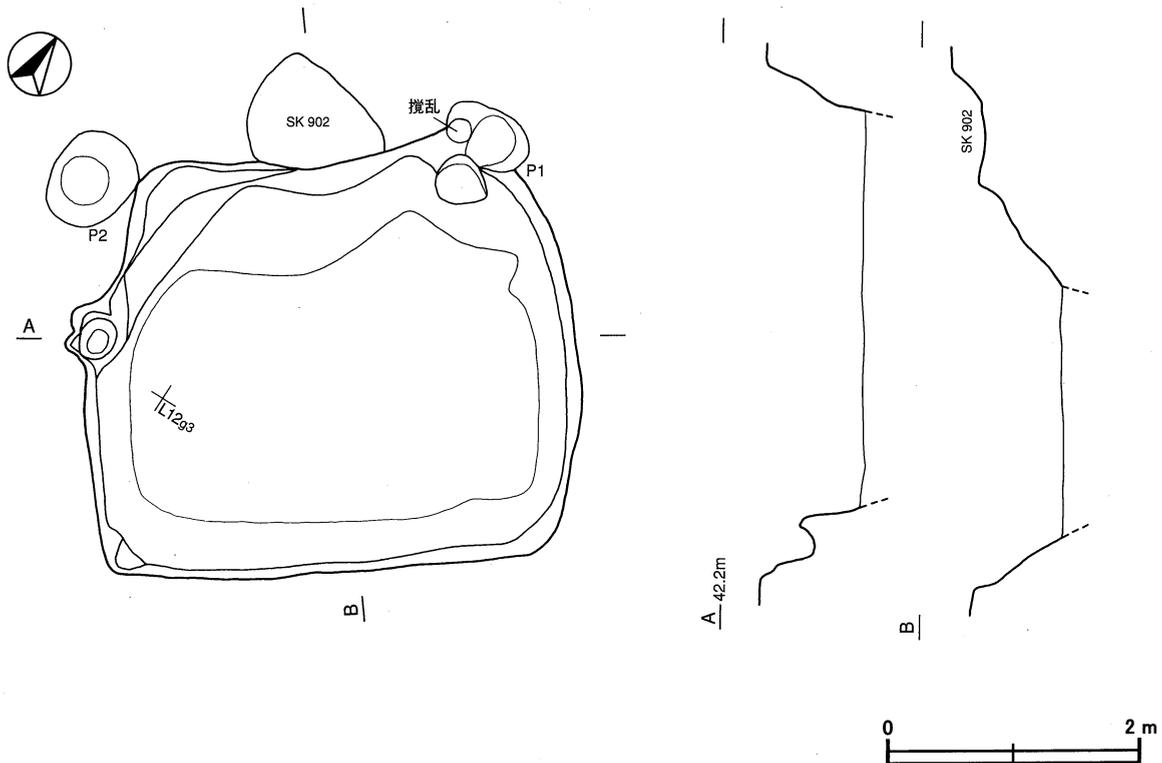
重複関係 第902号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.9m、短軸3.2mほどの長方形を呈し、長軸方向はN-55°-Eである。確認面から0.8mで湧水のため、それ以下の調査は実施していない。壁は確認面から深さ0.7mまでが漏斗状の緩やかな傾斜で掘り込まれている。

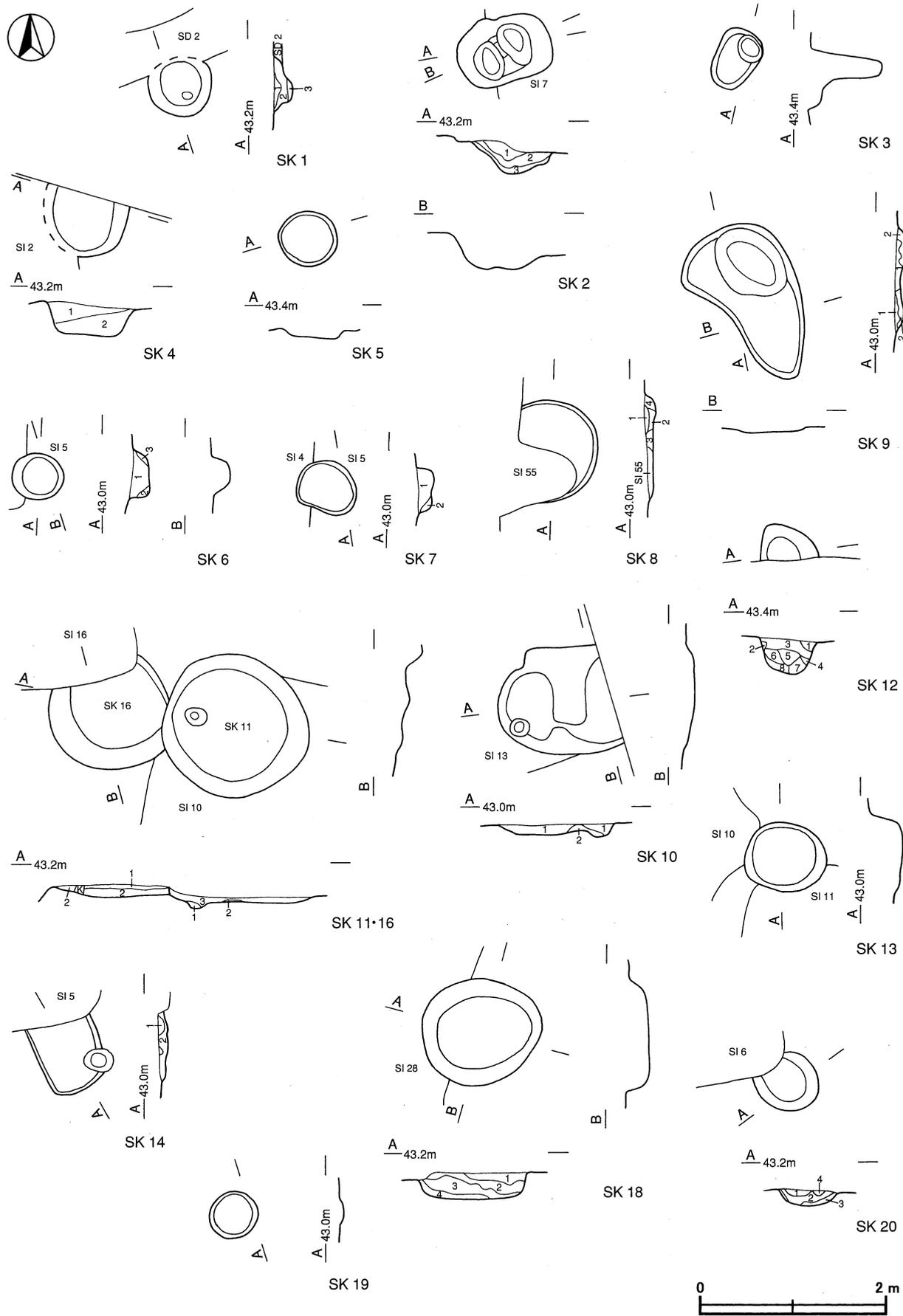
覆土 土層断面図は作成していないが、確認した部分は人為的な堆積状況を示している。

遺物出土状況 土師器片2点（甕）、礫1点（被熱痕あり）が出土している。

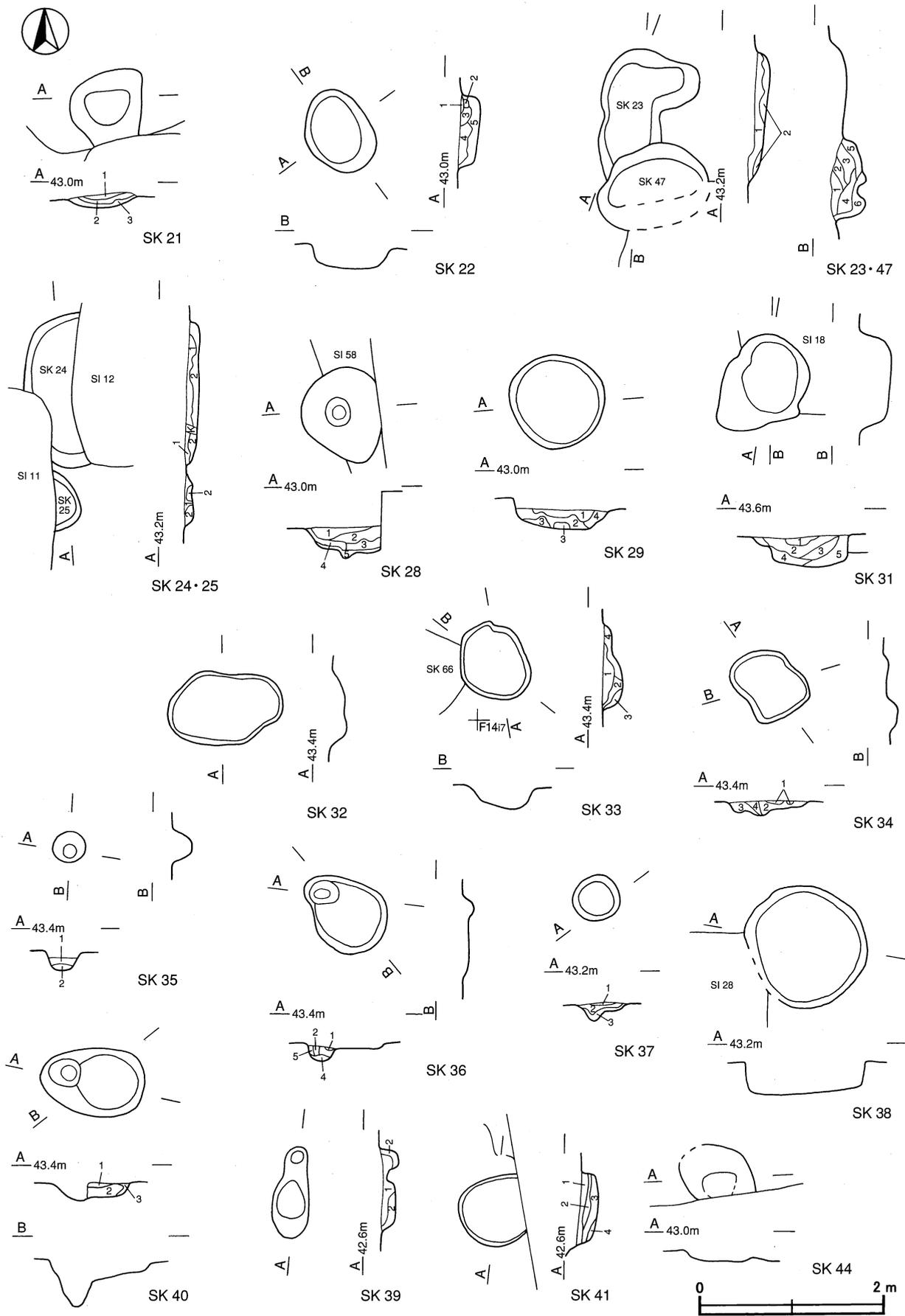
所見 湧水のため全体の調査を実施することができなかったが、10世紀後半の第472号住居跡を掘り込んでいる以外、時期判断は困難である。また、井戸の可能性も想定できる。



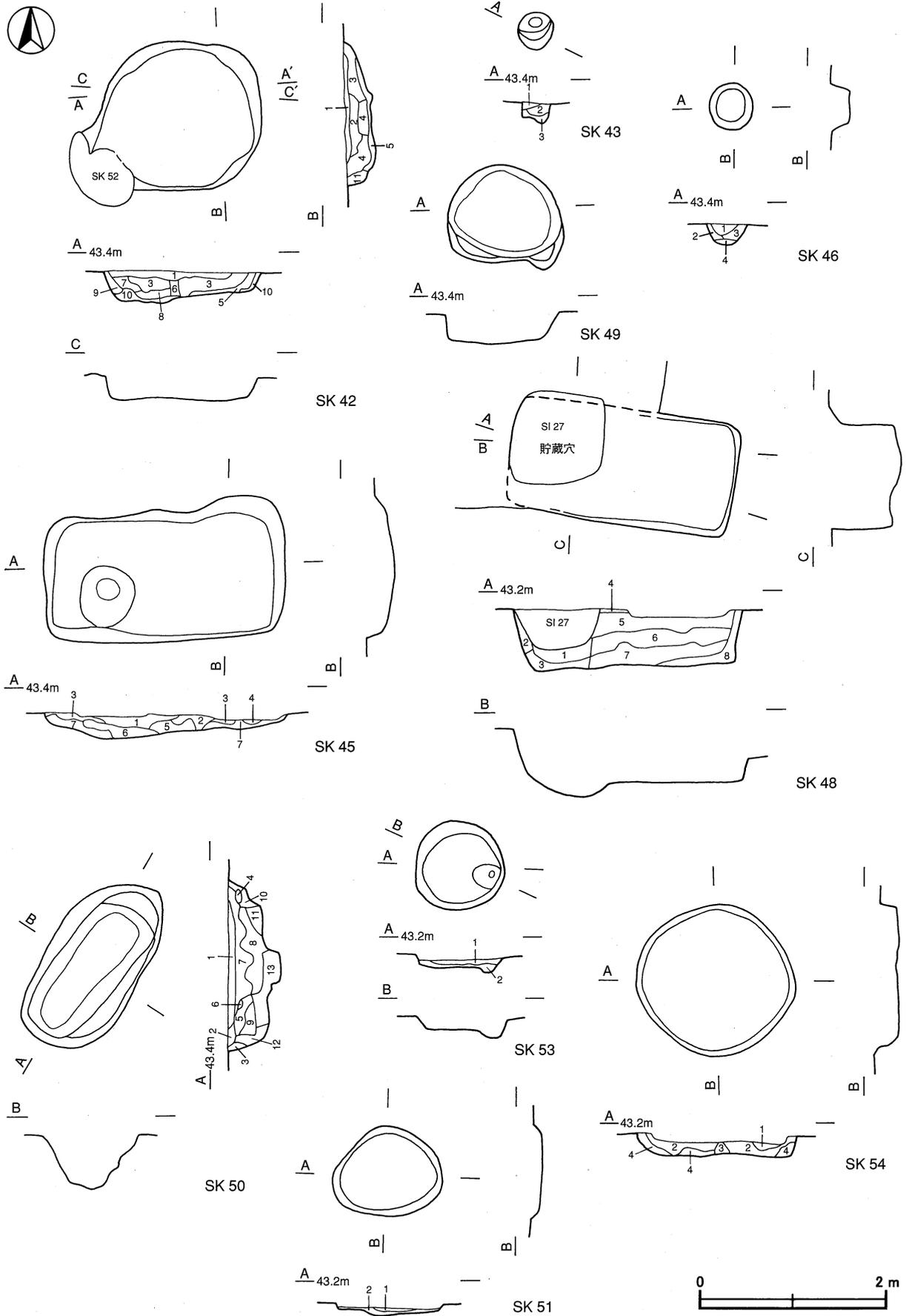
第854図 第1136号土坑実測図



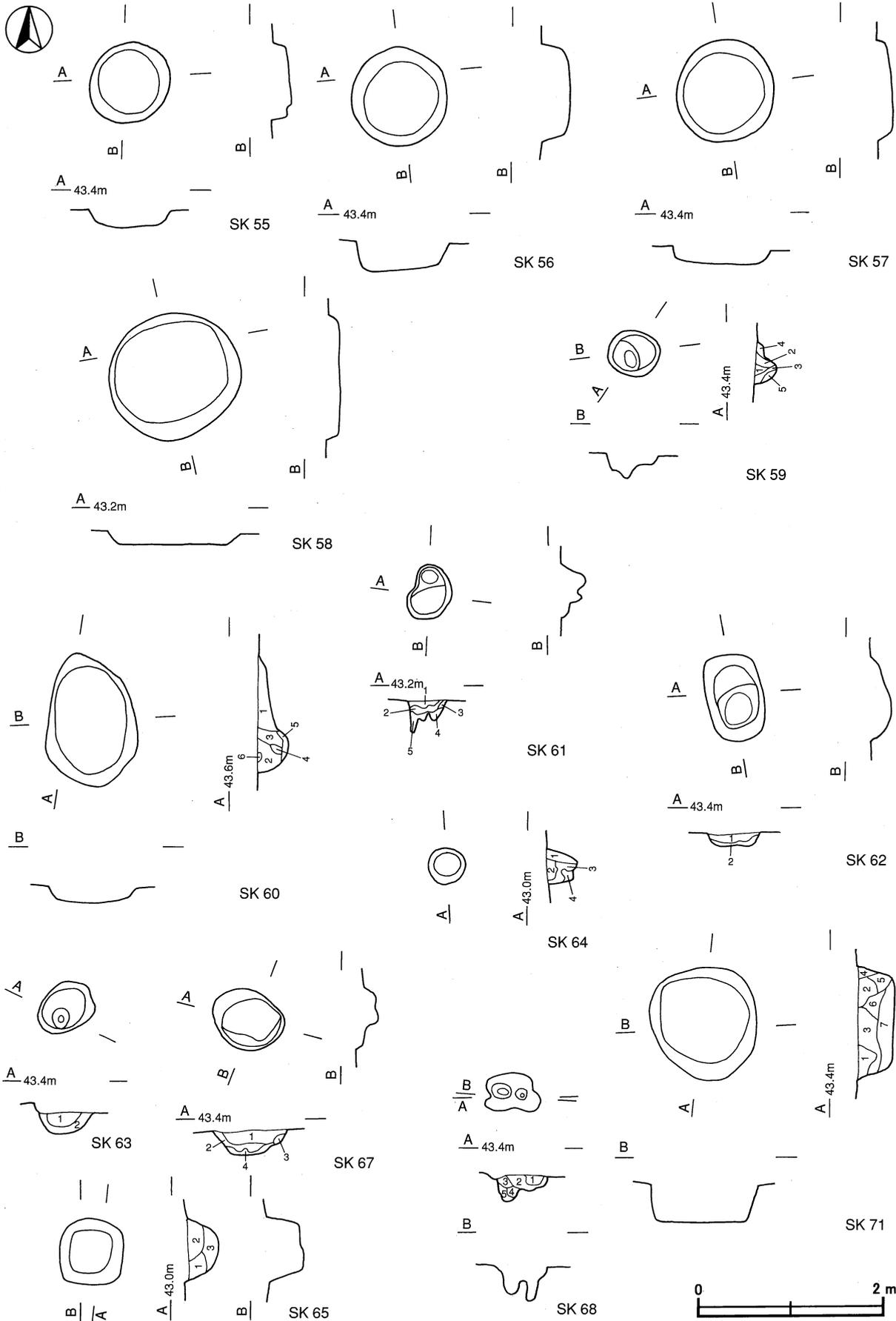
第855図 その他の土坑実測図(1)



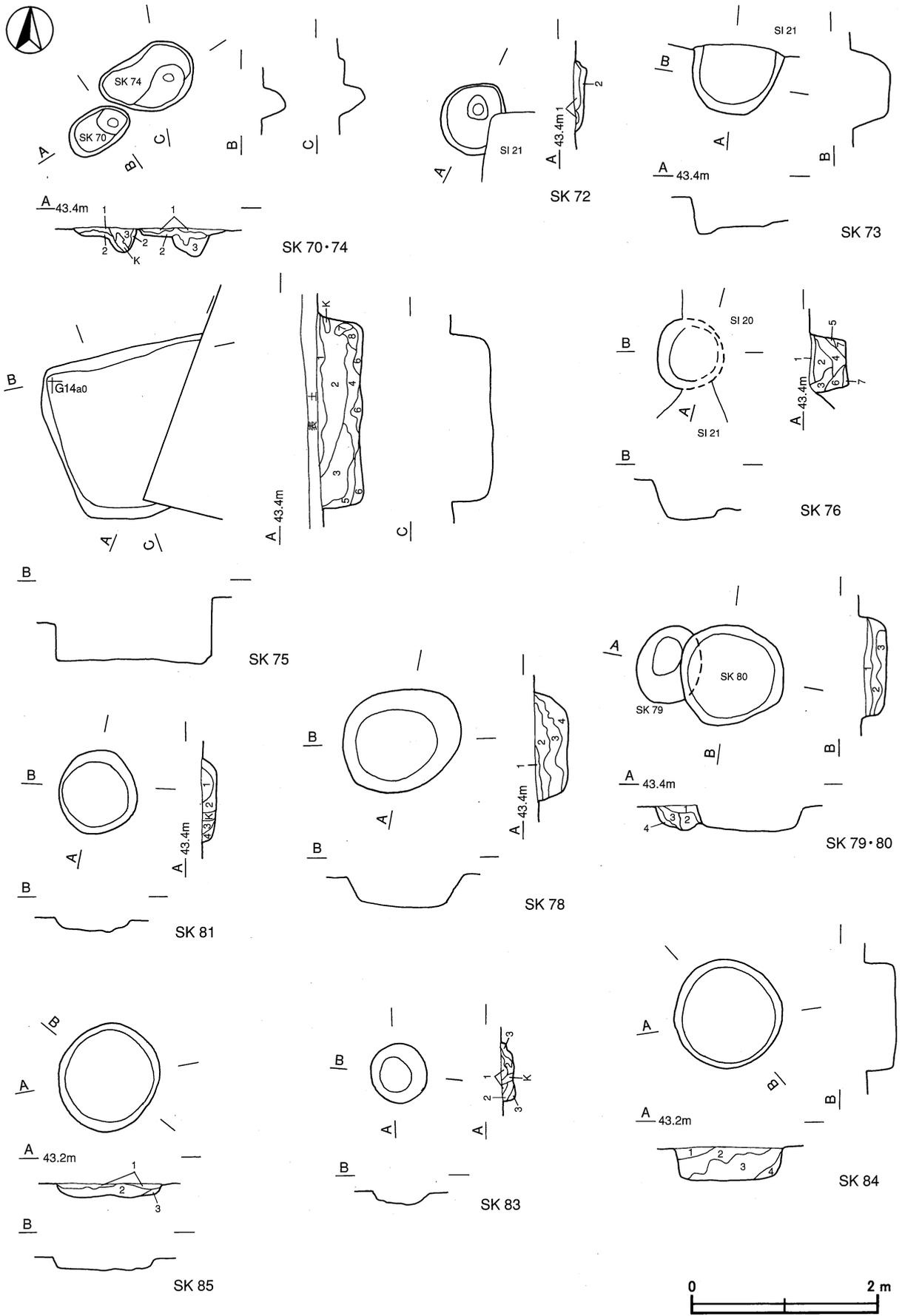
第856図 その他の土坑実測図(2)



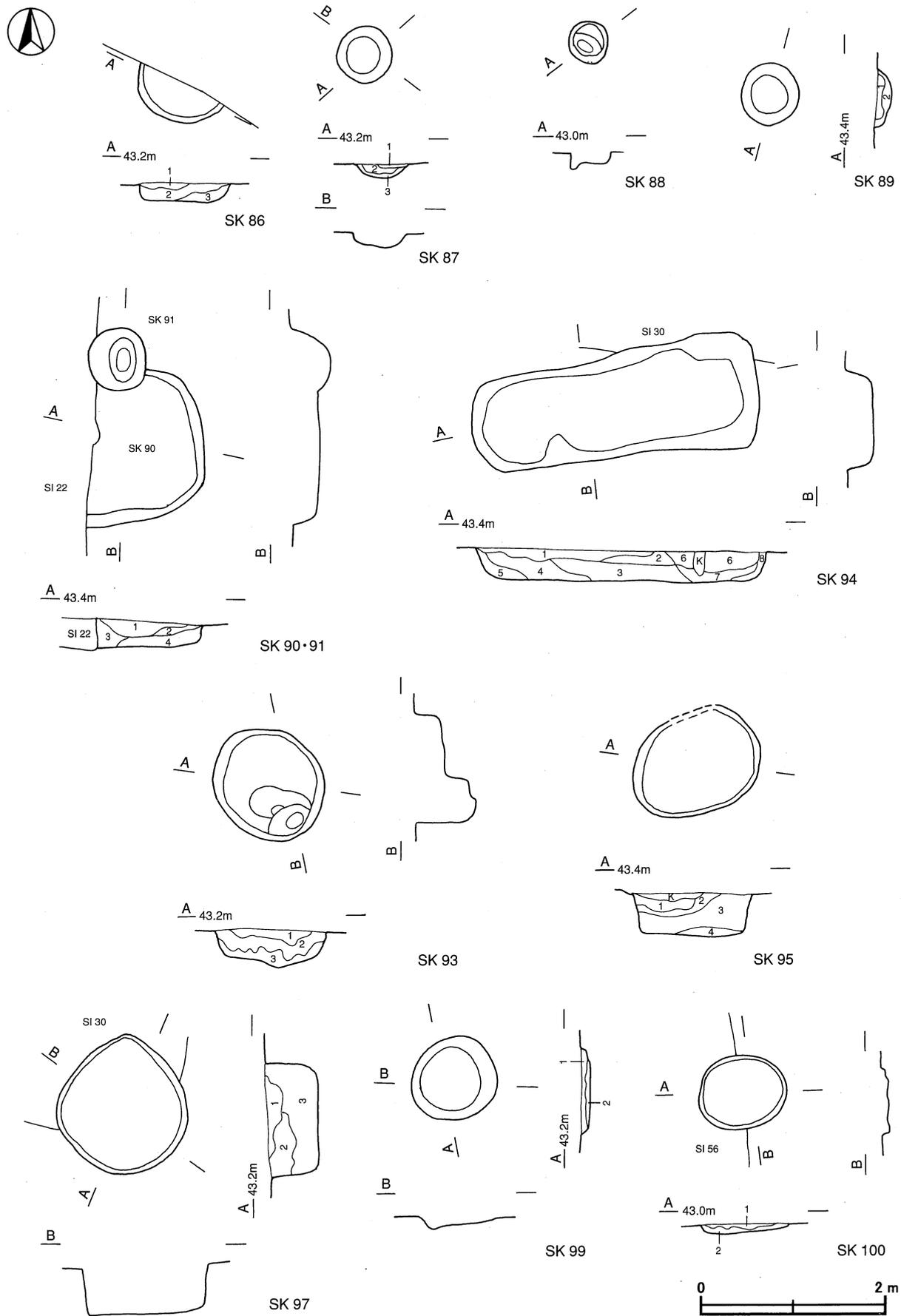
第857図 その他の土坑実測図(3)



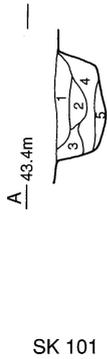
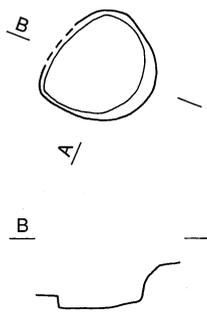
第858図 その他の土坑実測図(4)



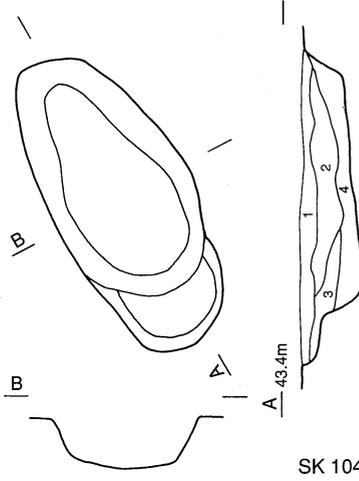
第859図 その他の土坑実測図(5)



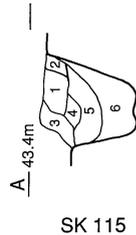
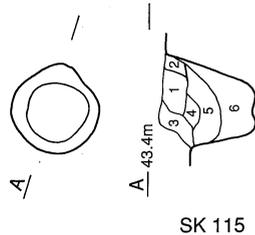
第860図 その他の土坑実測図(6)



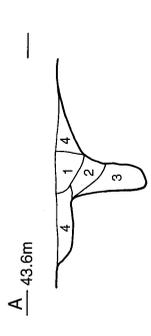
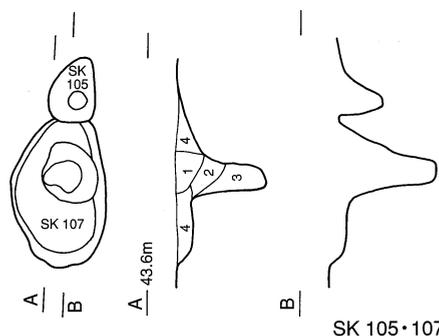
SK 101



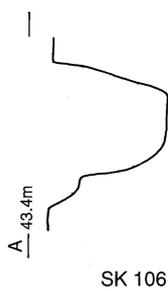
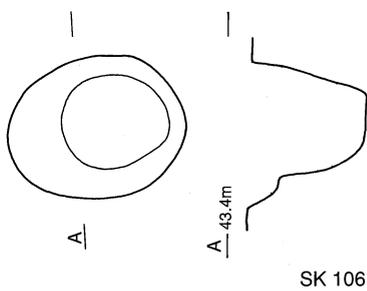
SK 104



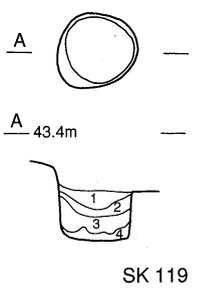
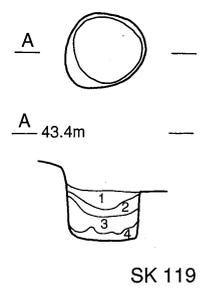
SK 115



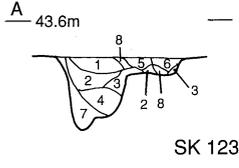
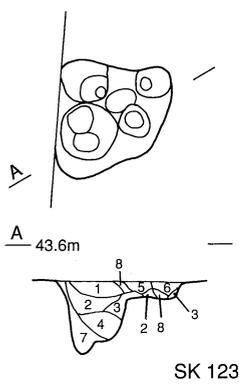
SK 105・107



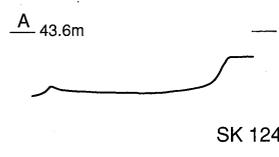
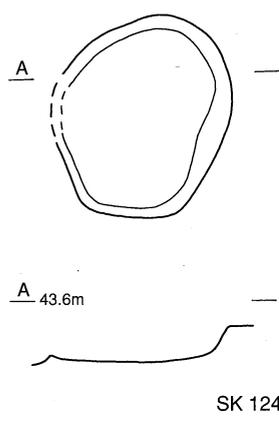
SK 106



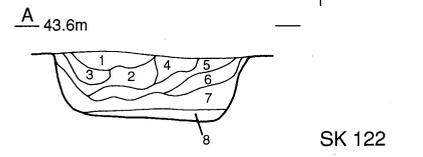
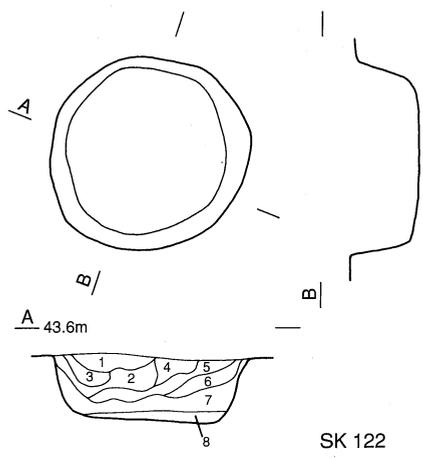
SK 119



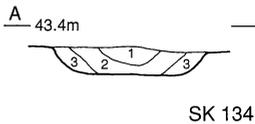
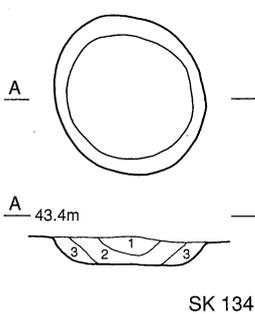
SK 123



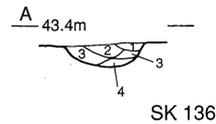
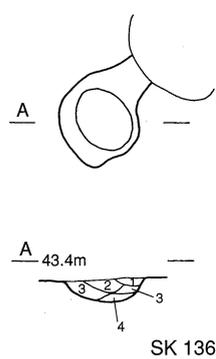
SK 124



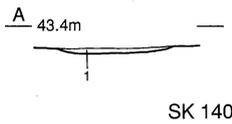
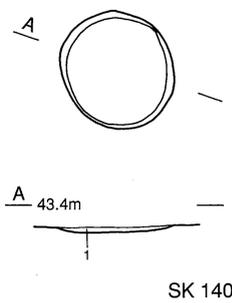
SK 122



SK 134



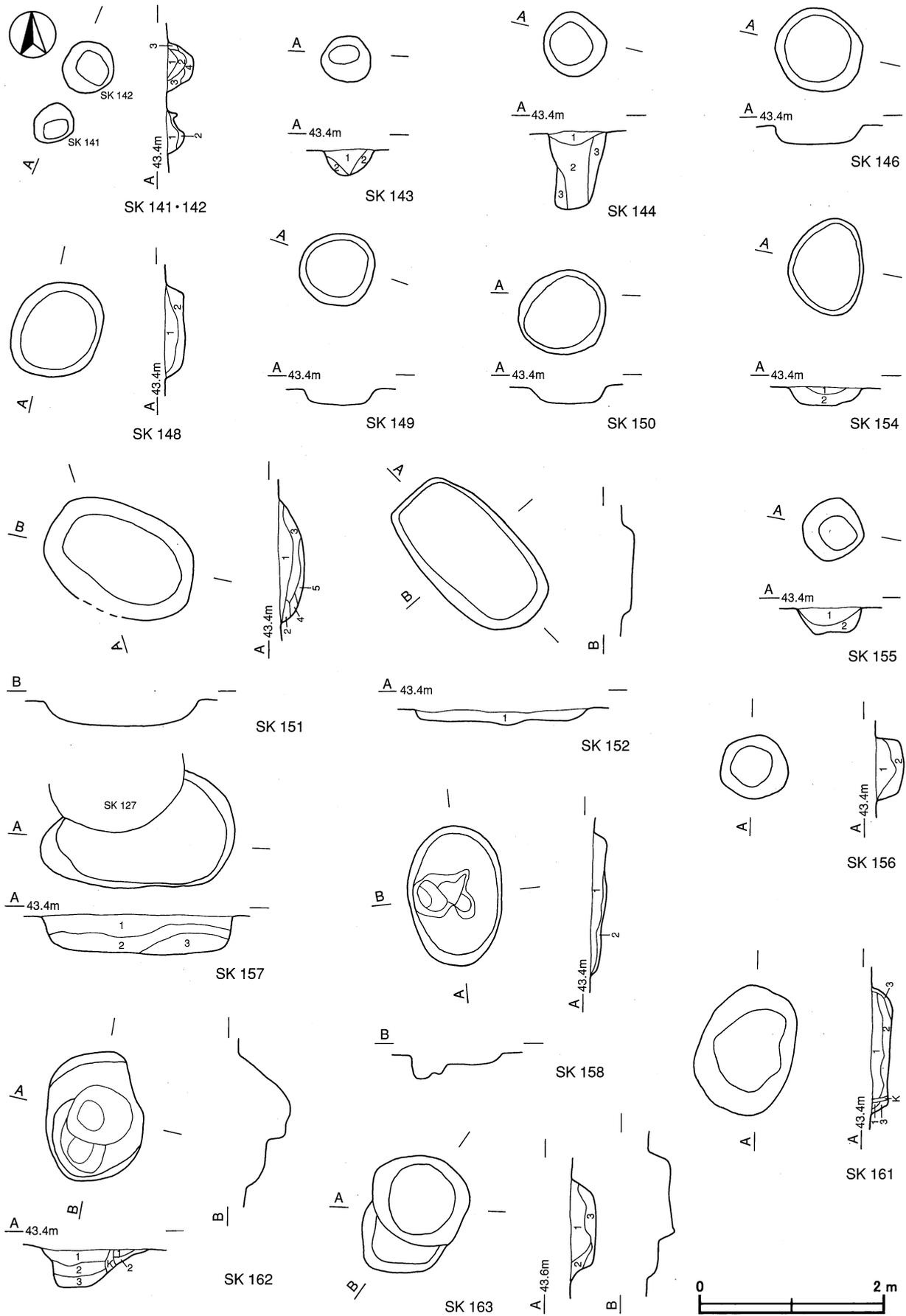
SK 136



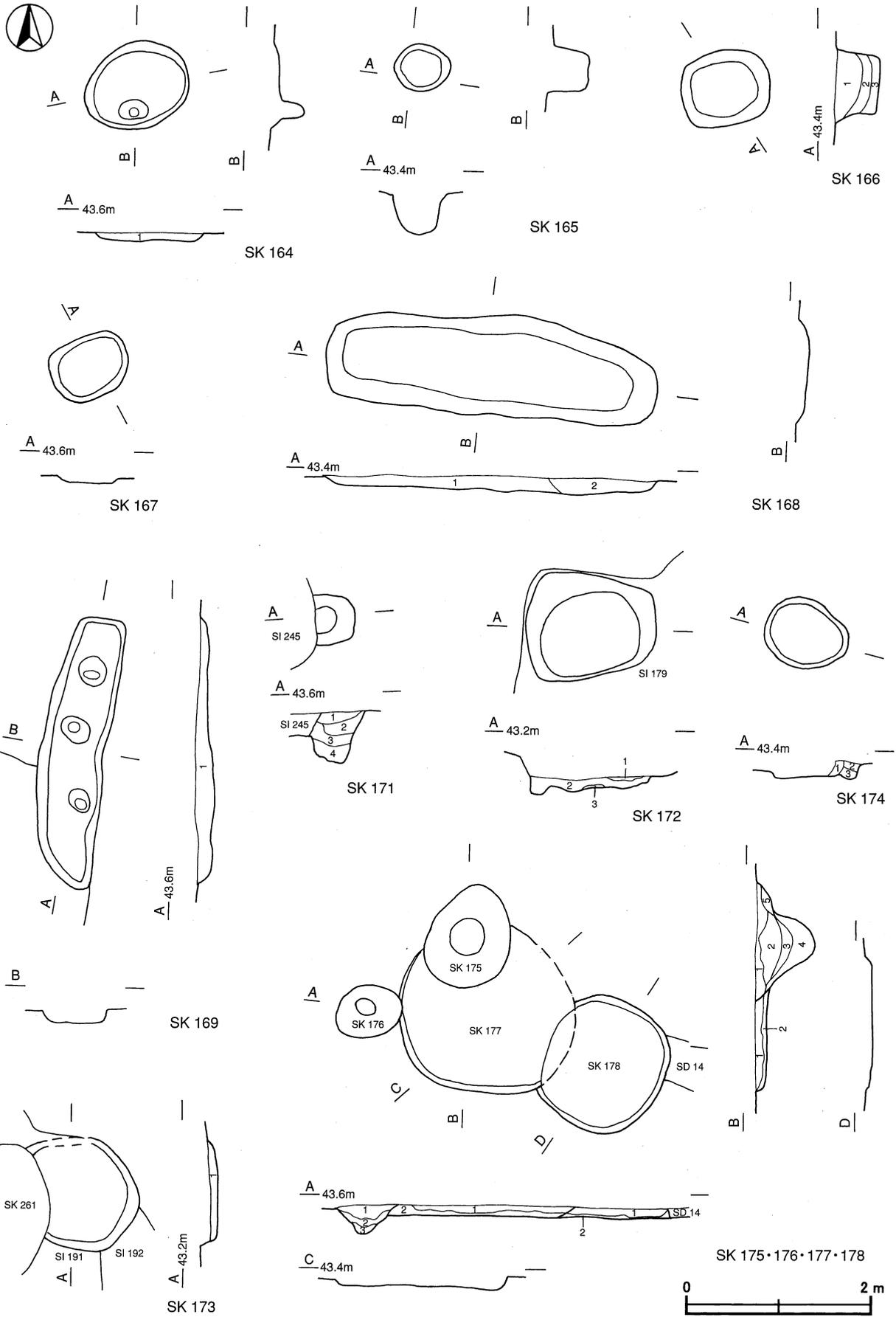
SK 140



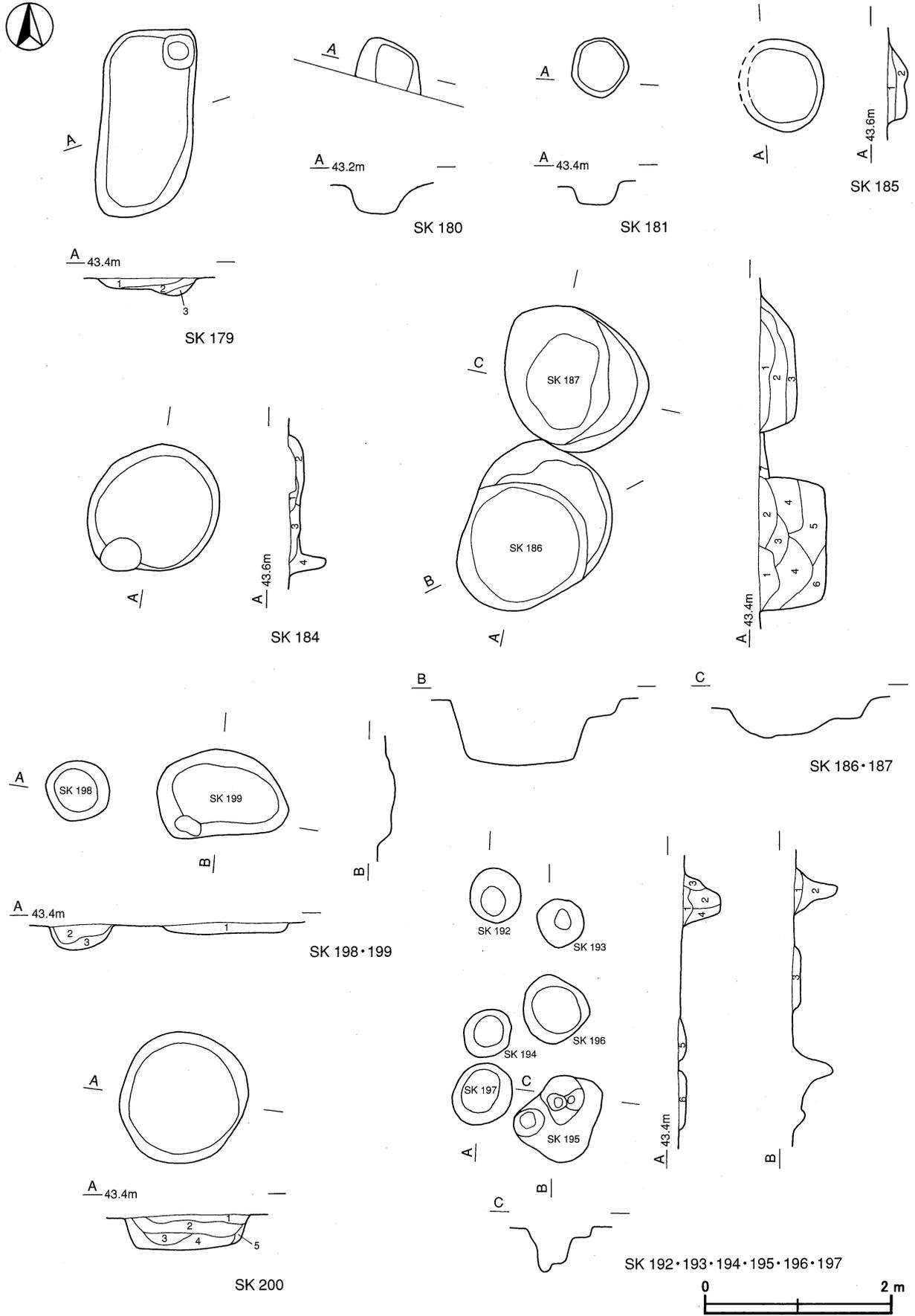
第861図 その他の土坑実測図(7)



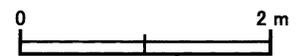
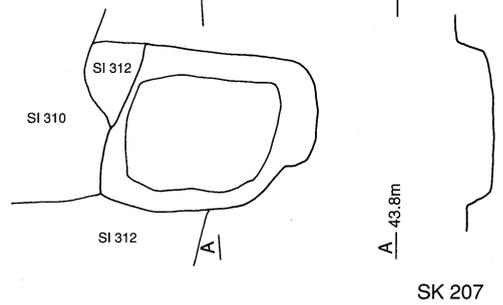
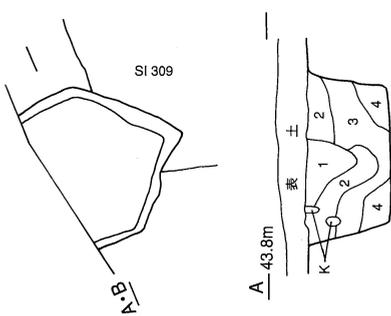
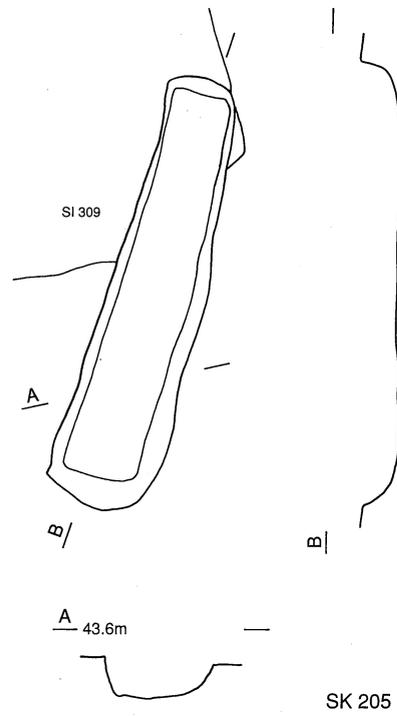
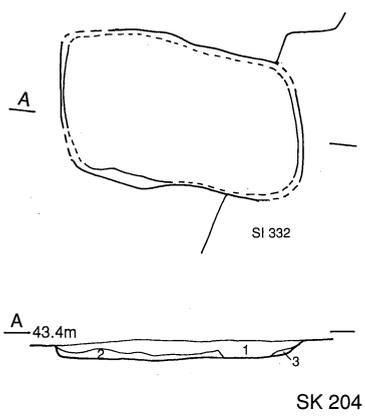
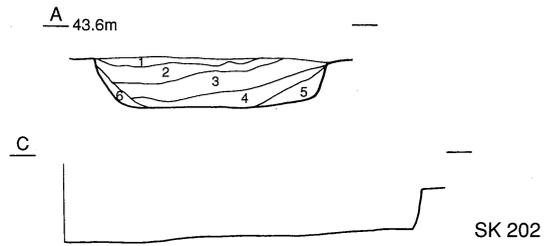
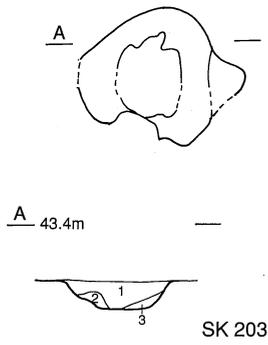
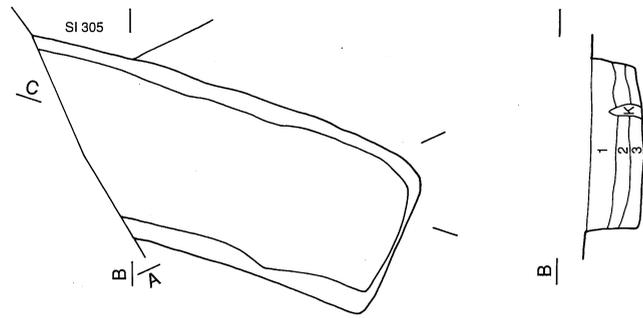
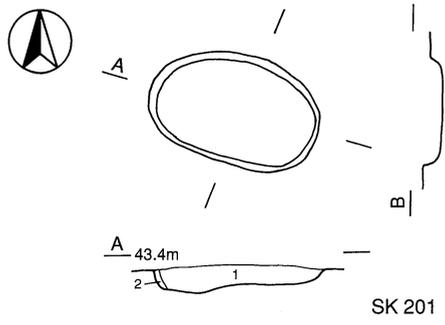
第862図 その他の土坑実測図(8)



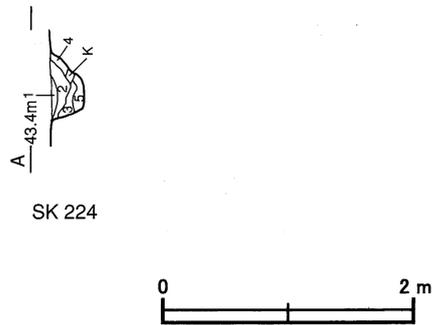
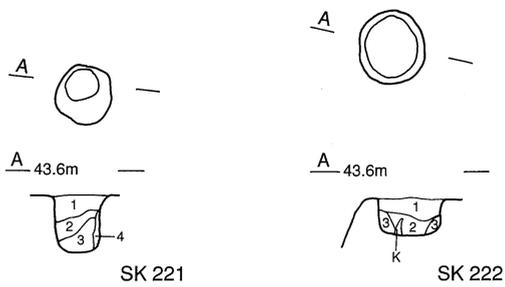
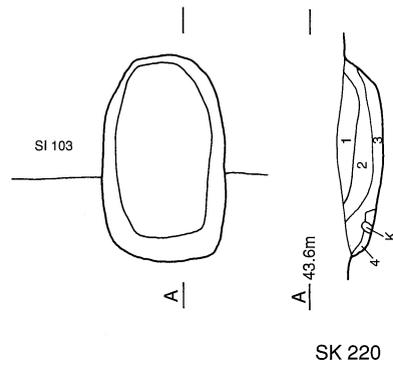
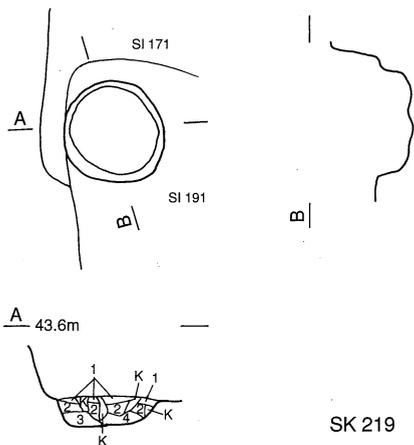
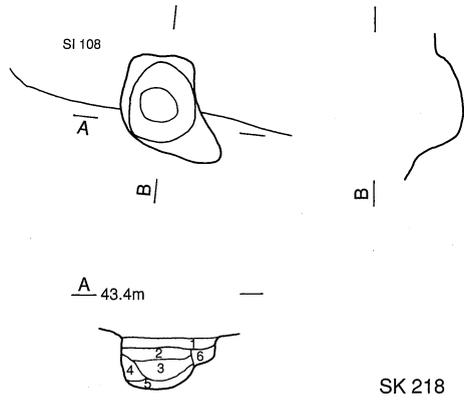
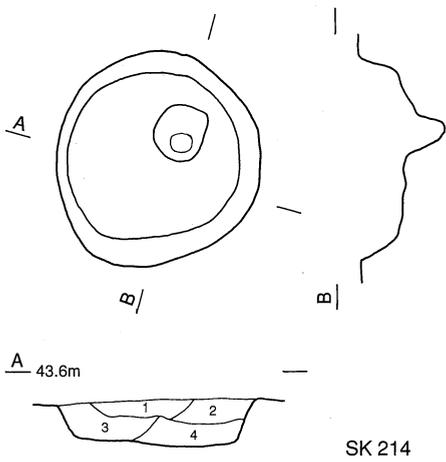
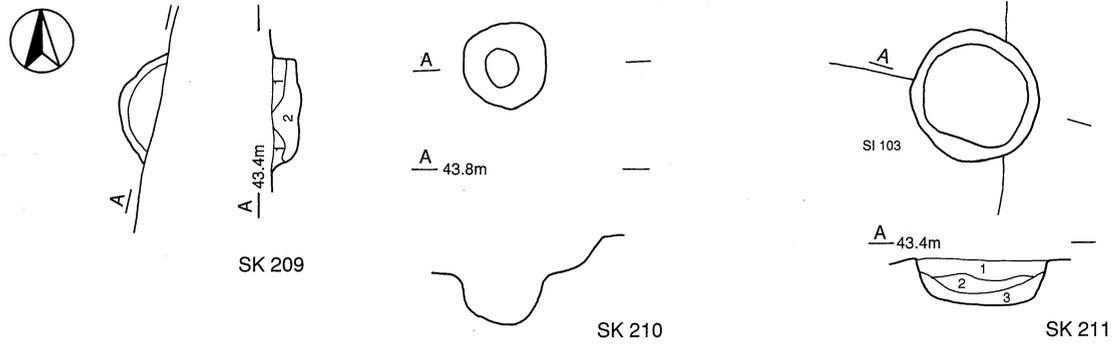
第863図 その他の土坑実測図(9)



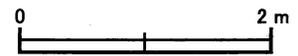
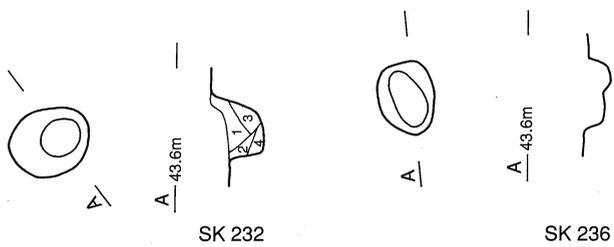
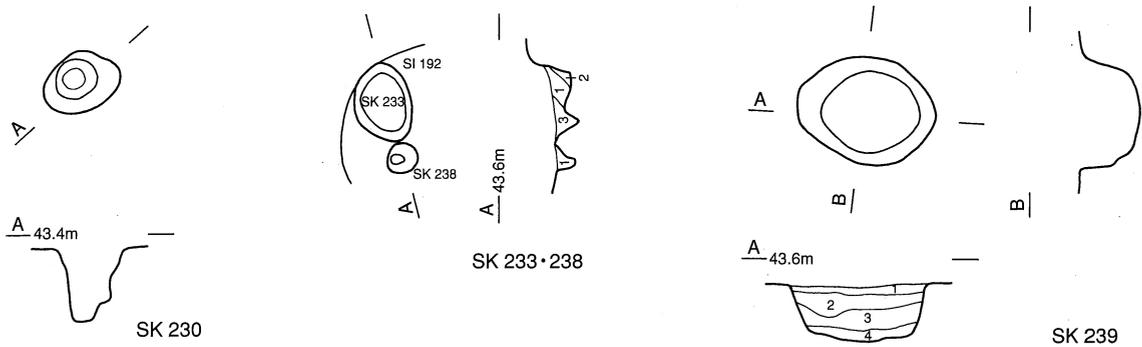
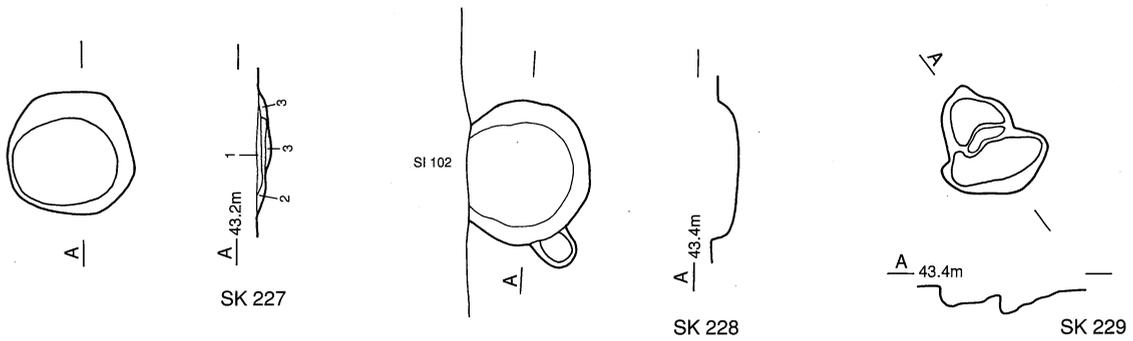
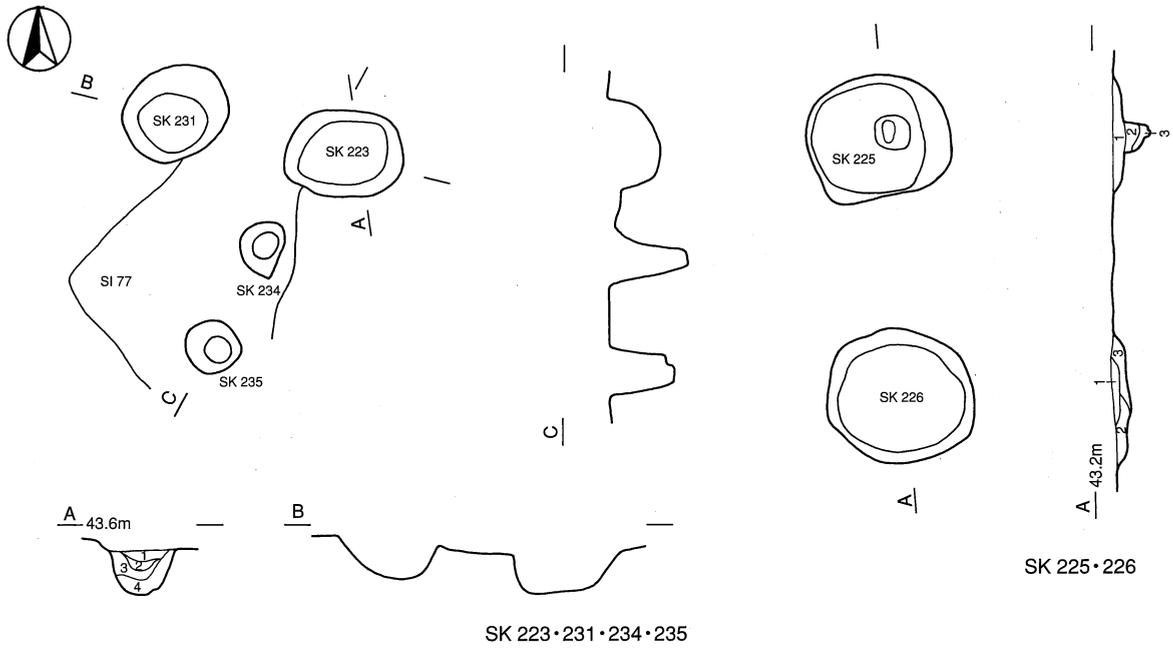
第864図 その他の土坑実測図(10)



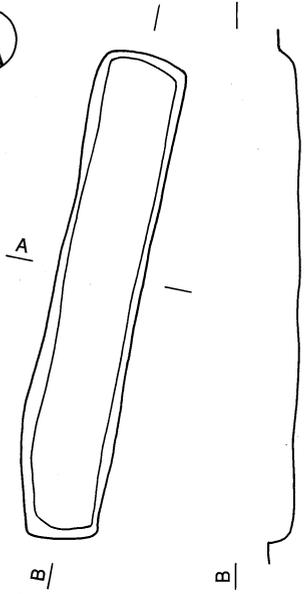
第865図 その他の土坑実測図(11)



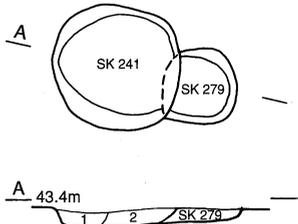
第866図 その他の土坑実測図(12)



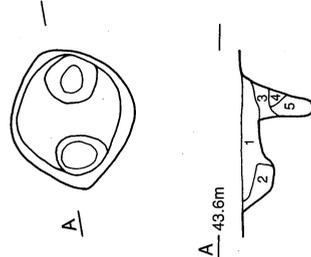
第867図 その他の土坑実測図(13)



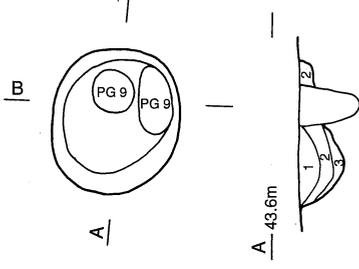
SK 240



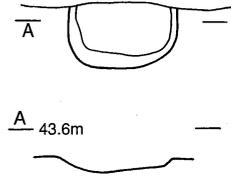
SK 241・279



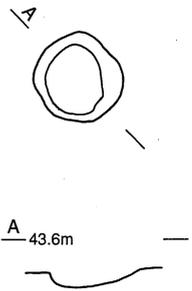
SK 242



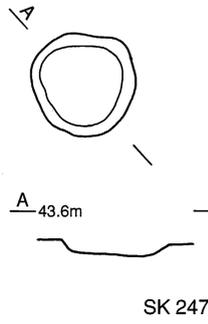
SK 243



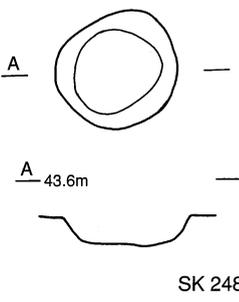
SK 245



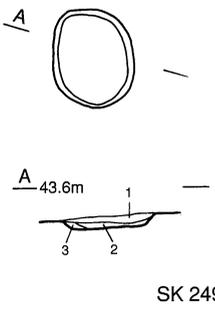
SK 246



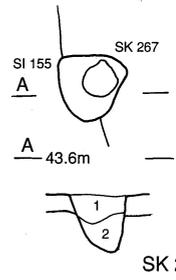
SK 247



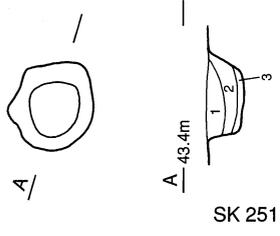
SK 248



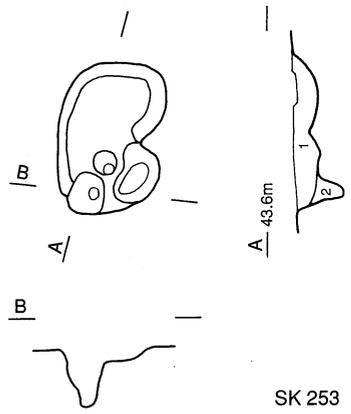
SK 249



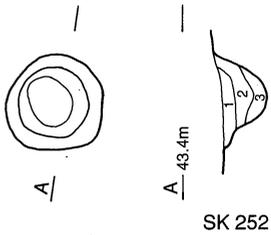
SK 250



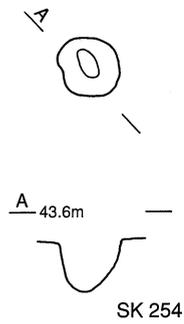
SK 251



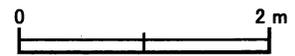
SK 253



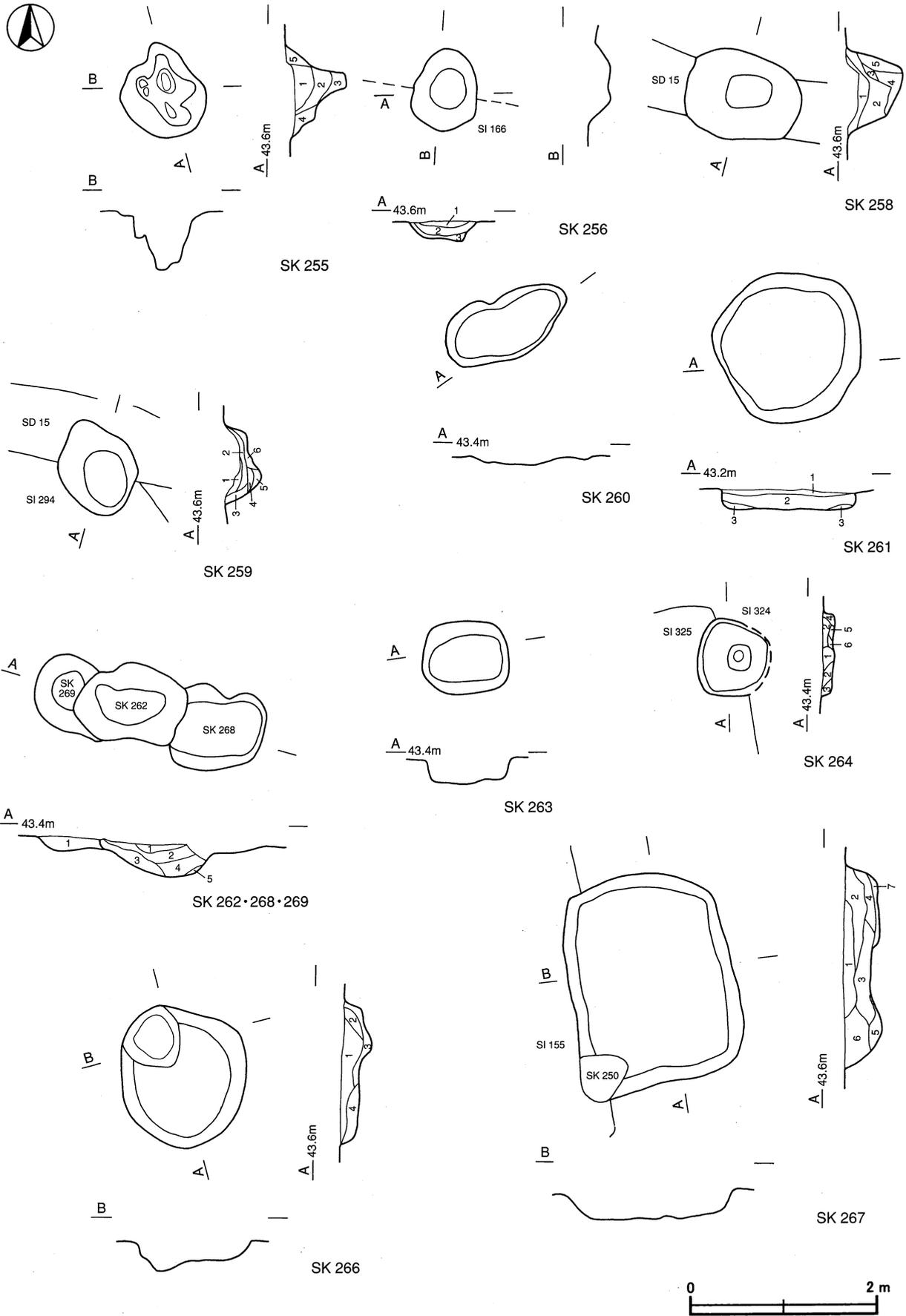
SK 252



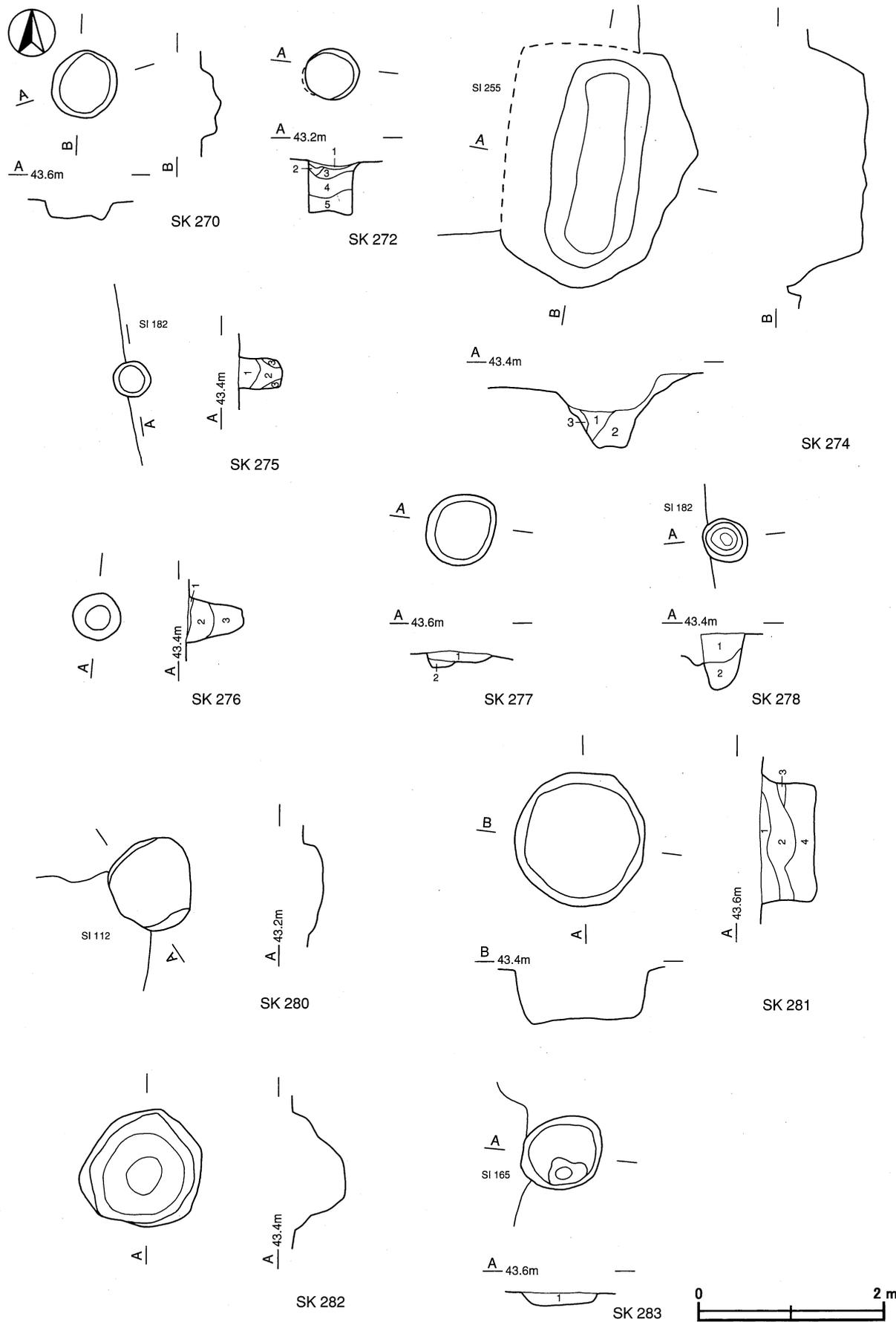
SK 254



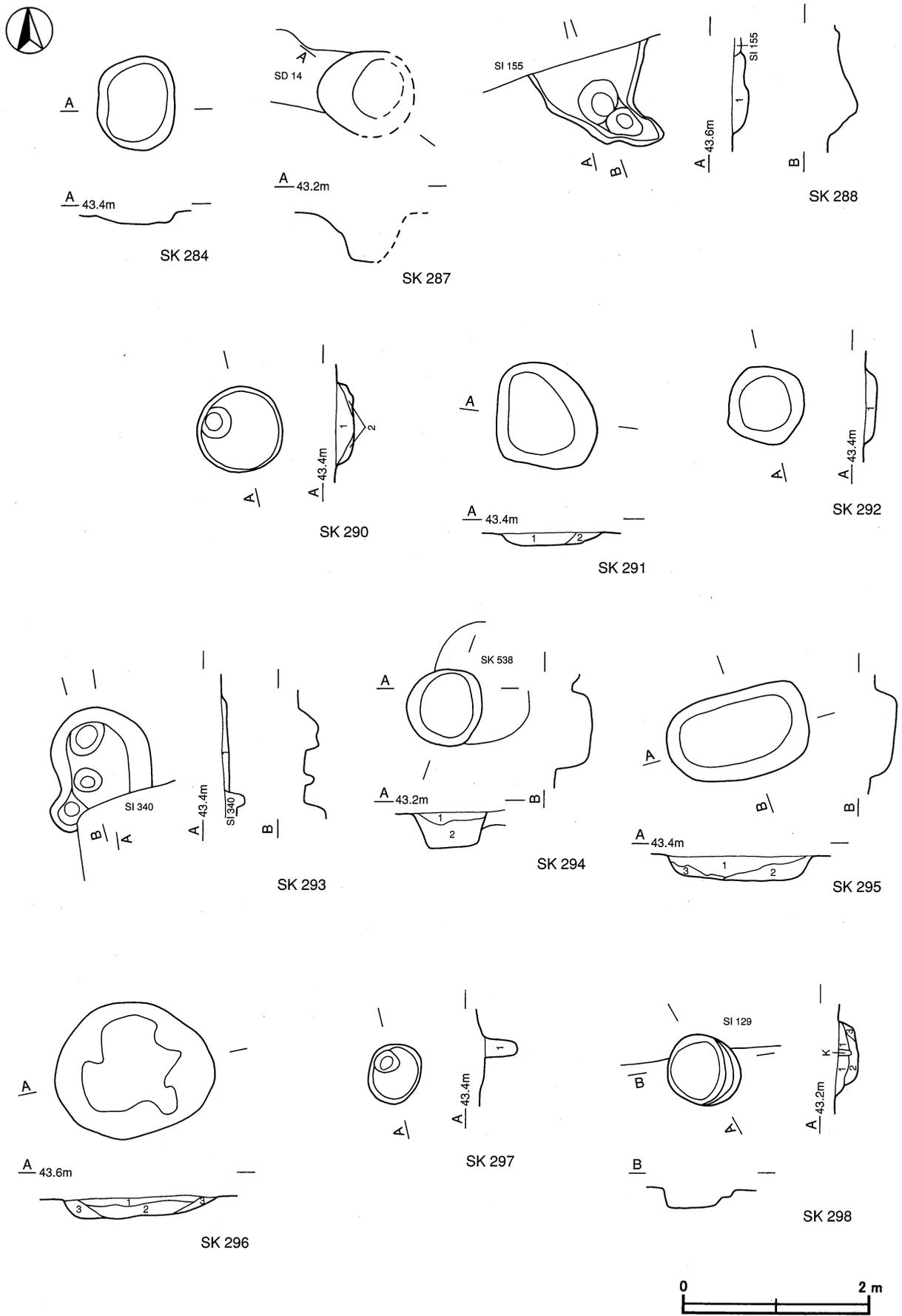
第868図 その他の土坑実測図(14)



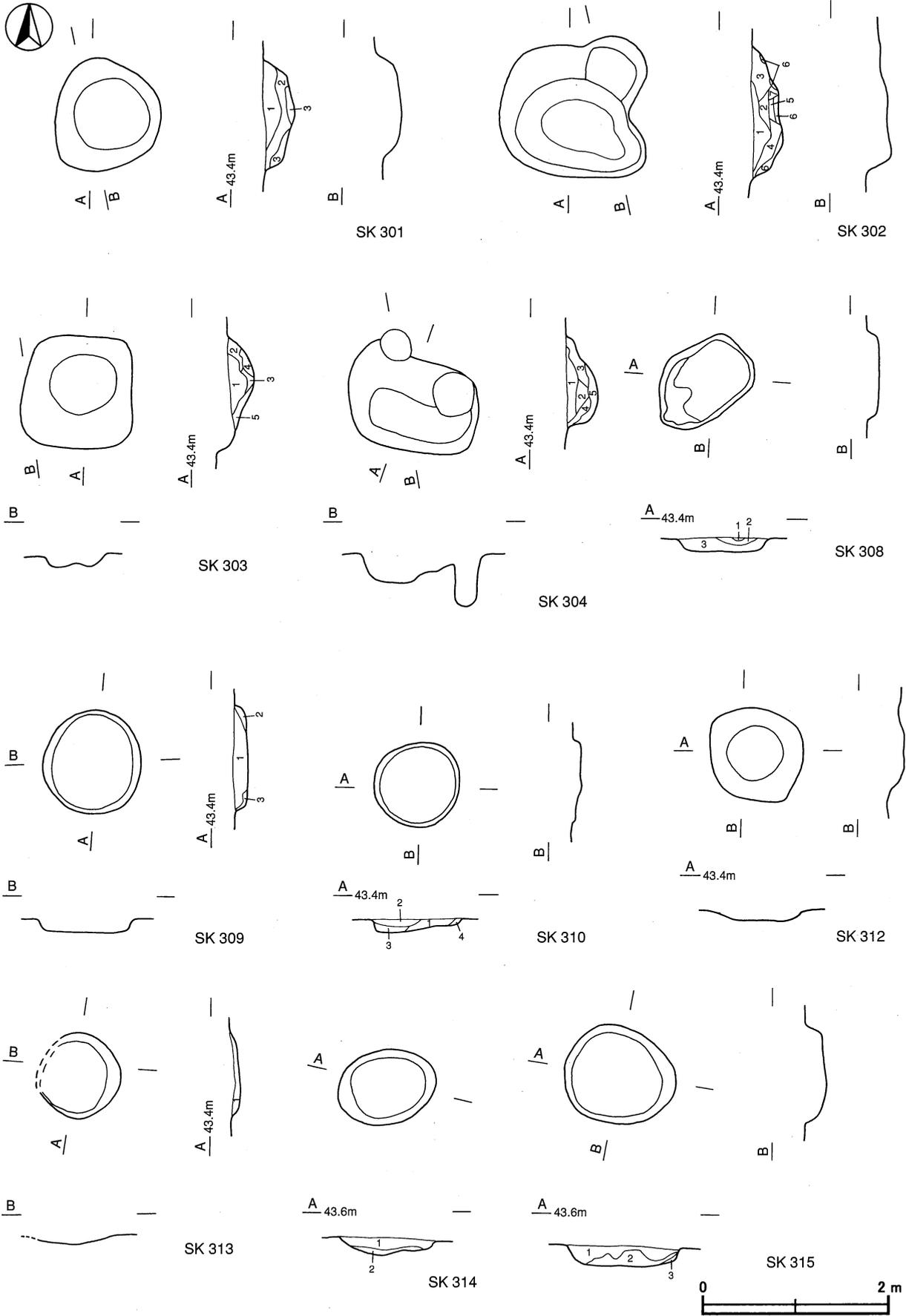
第869図 その他の土坑実測図(15)



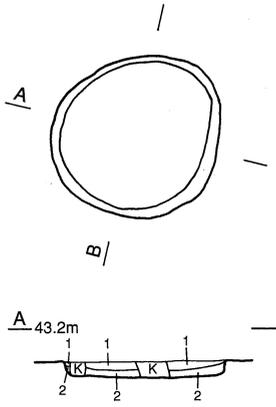
第870図 その他の土坑実測図(16)



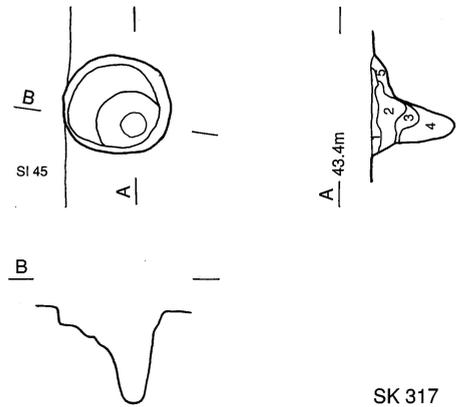
第871図 その他の土坑実測図(17)



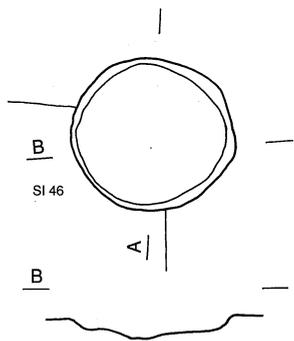
第872図 その他の土坑実測図(18)



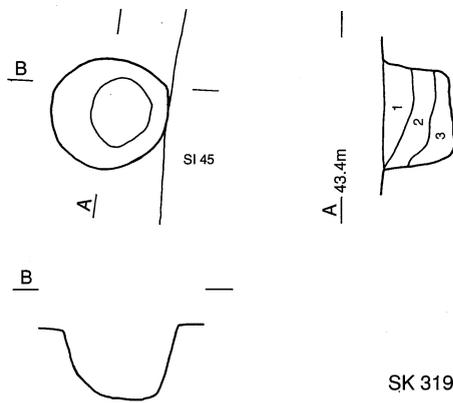
SK 316



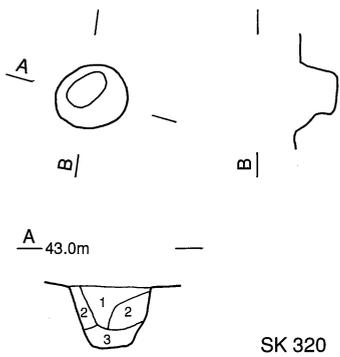
SK 317



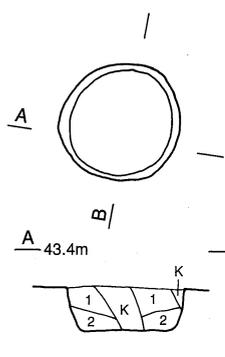
SK 318



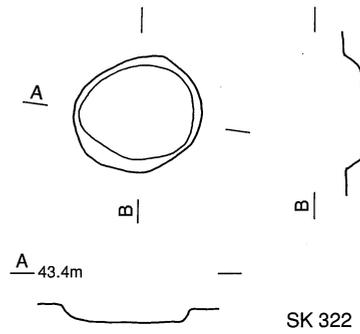
SK 319



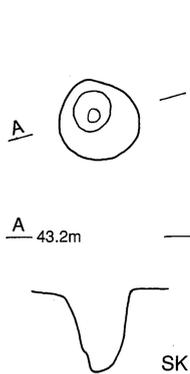
SK 320



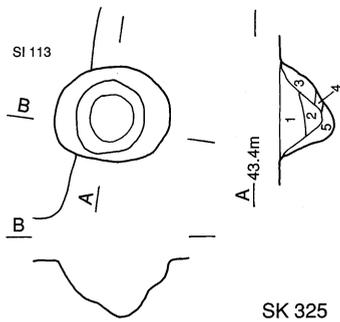
SK 324



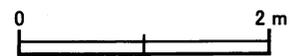
SK 322



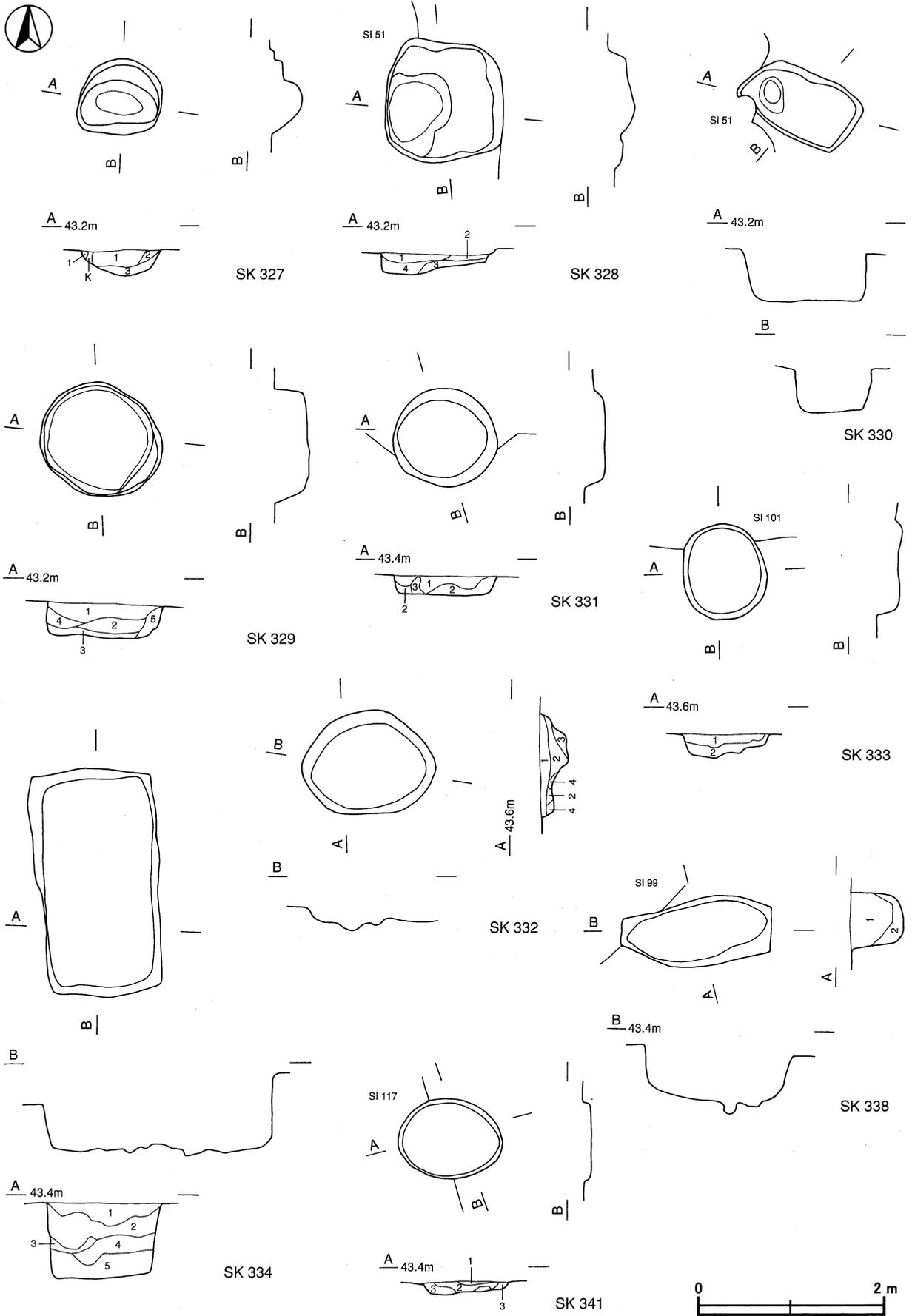
SK 323



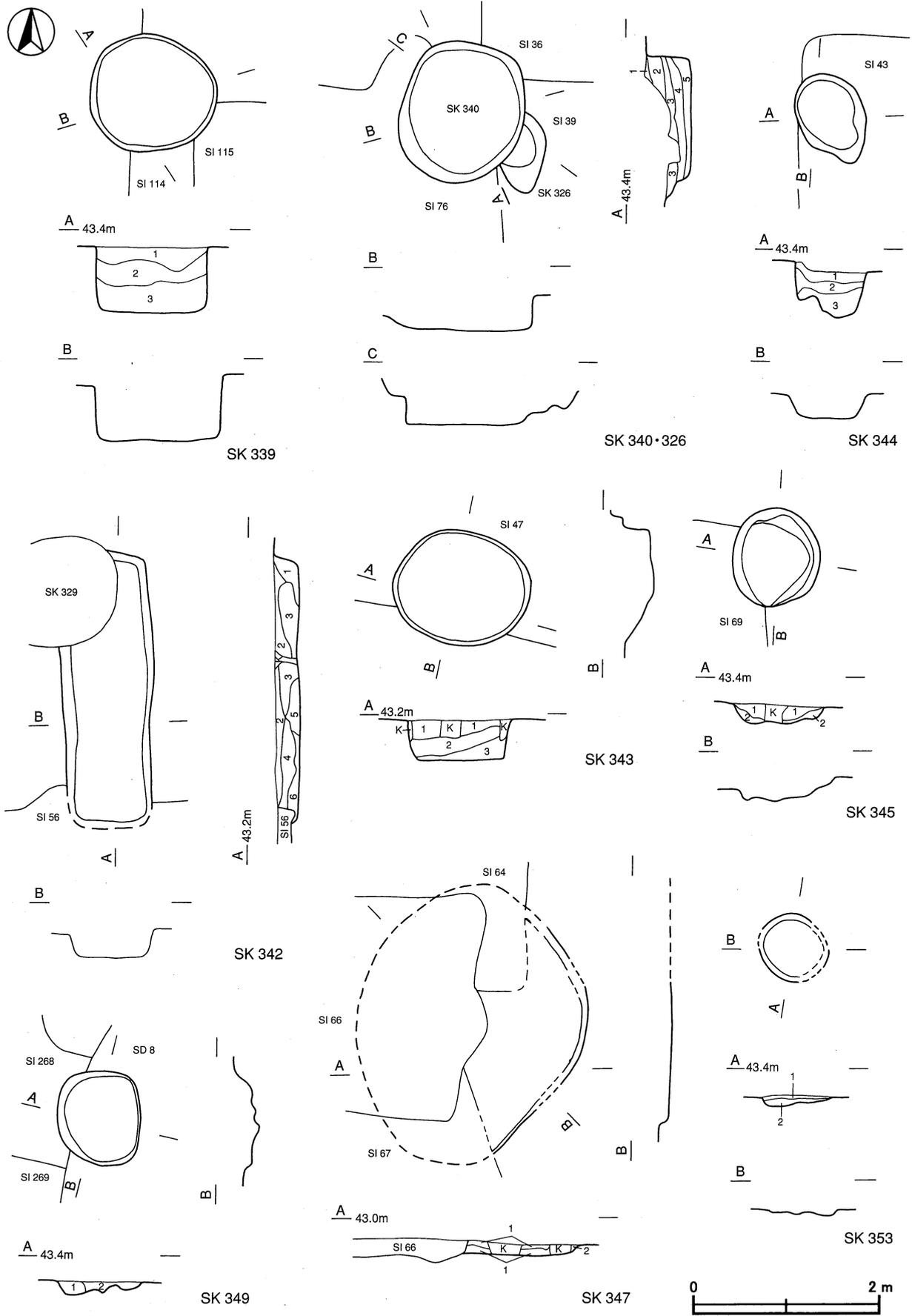
SK 325



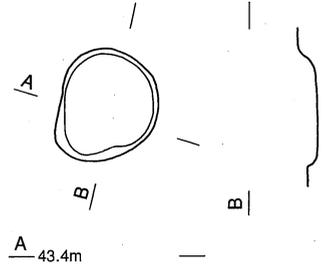
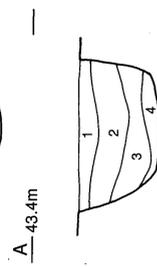
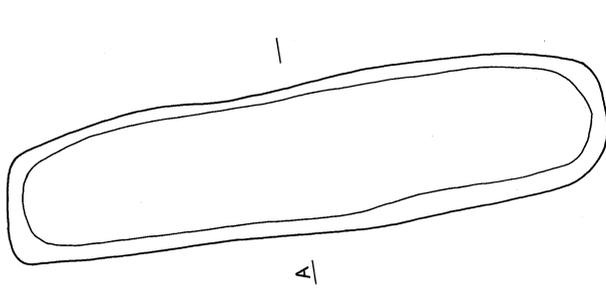
第873図 その他の土坑実測図(19)



第874図 その他の土坑実測図(20)



第875図 その他の土坑実測図(2)

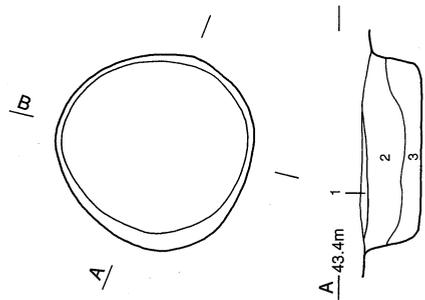


A 43.4m

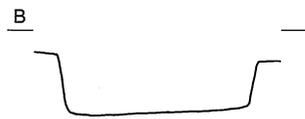


SK 348

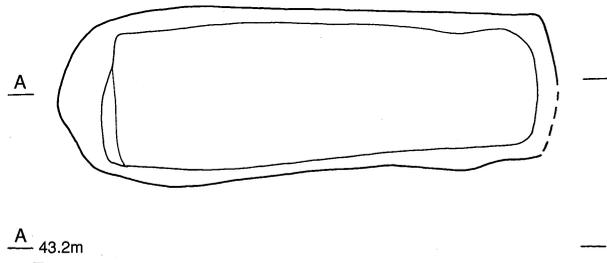
SK 350



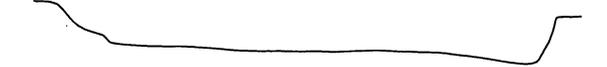
A 43.4m



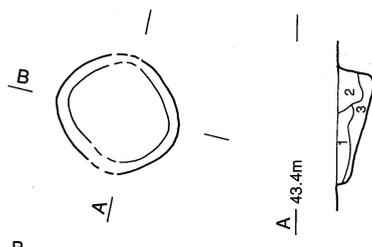
SK 351



A 43.2m



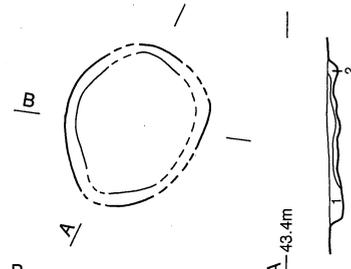
SK 352



A 43.4m



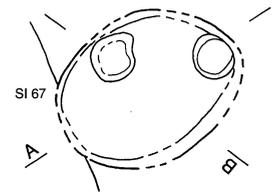
SK 354



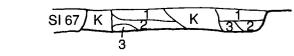
A 43.4m



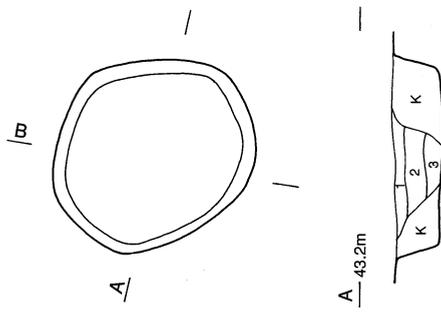
SK 355



A 43.4m



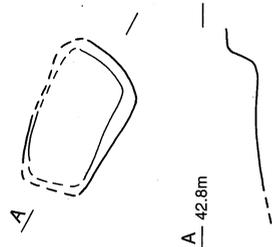
SK 356



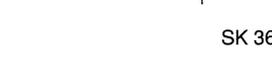
A 43.2m



SK 357



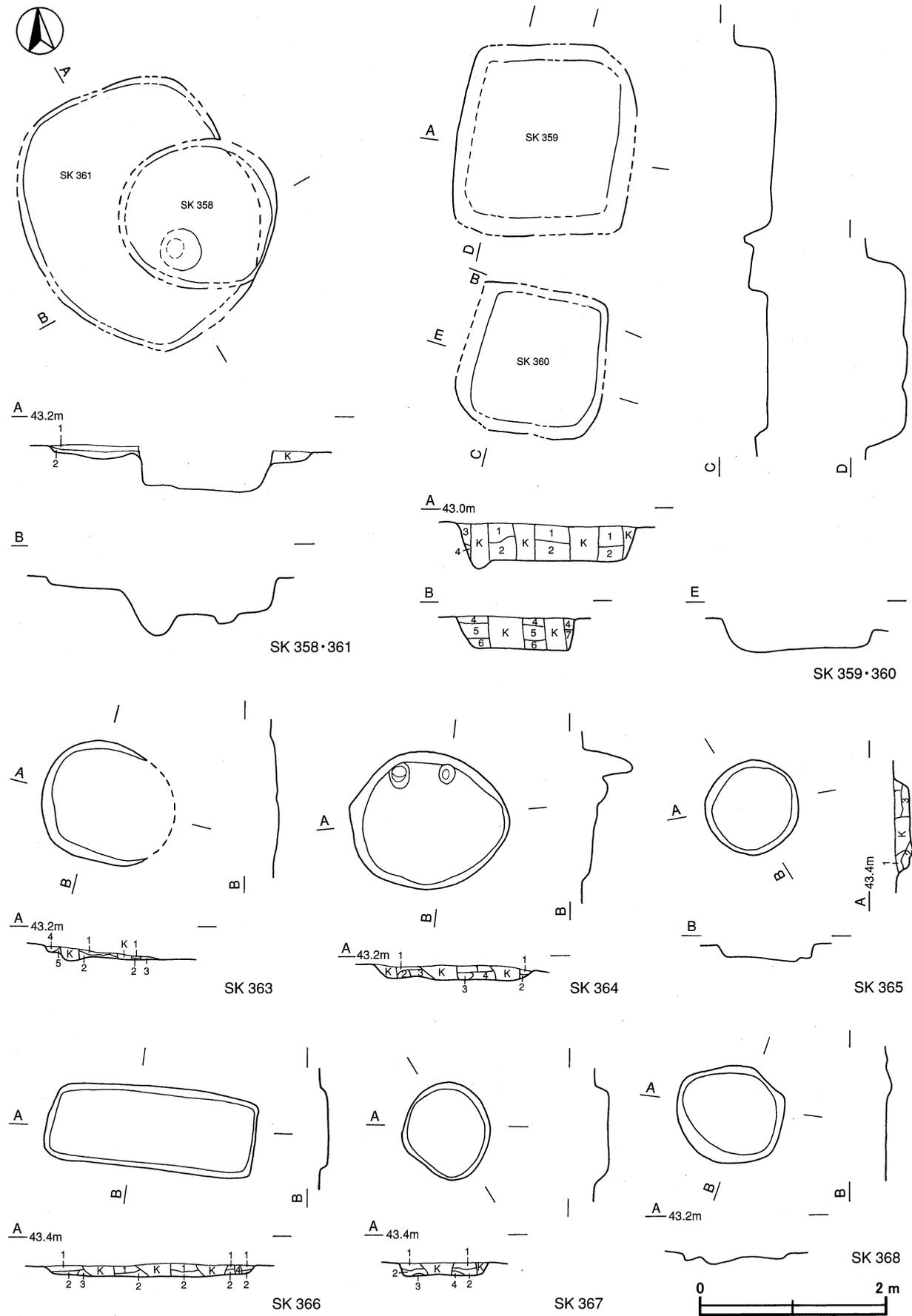
A 42.8m



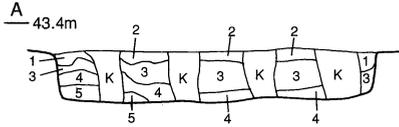
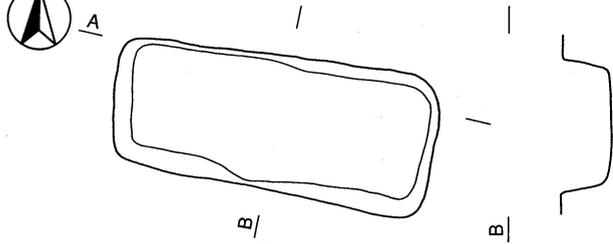
SK 362



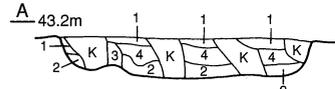
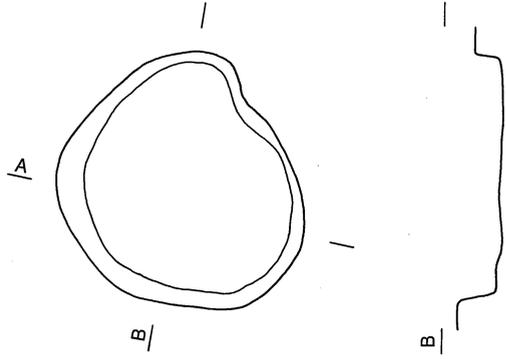
第876図 その他の土坑実測図(2)



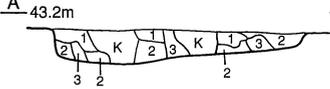
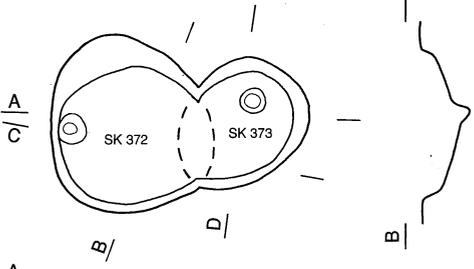
第877図 その他の土坑実測図(23)



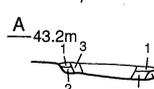
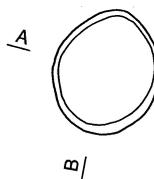
SK 369



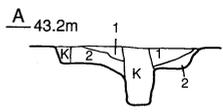
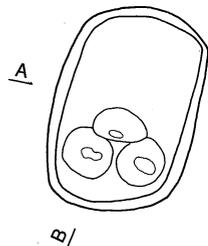
SK 370



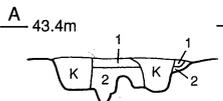
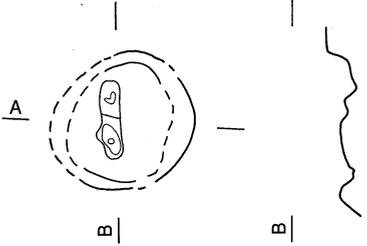
SK 372・373



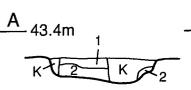
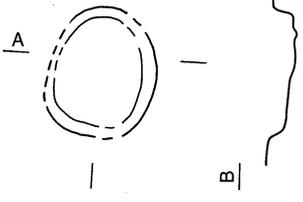
SK 371



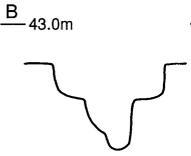
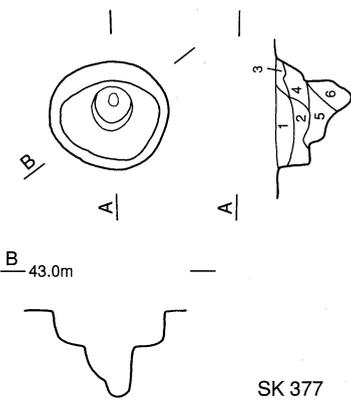
SK 374



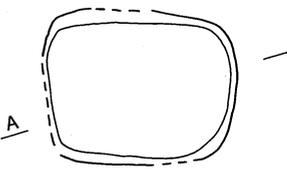
SK 375



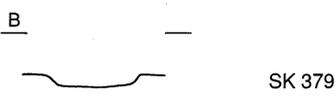
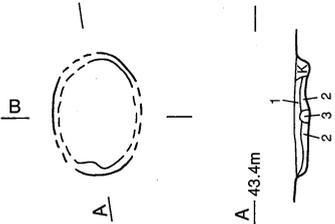
SK 376



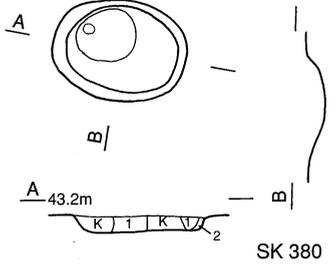
SK 377



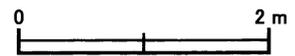
SK 378



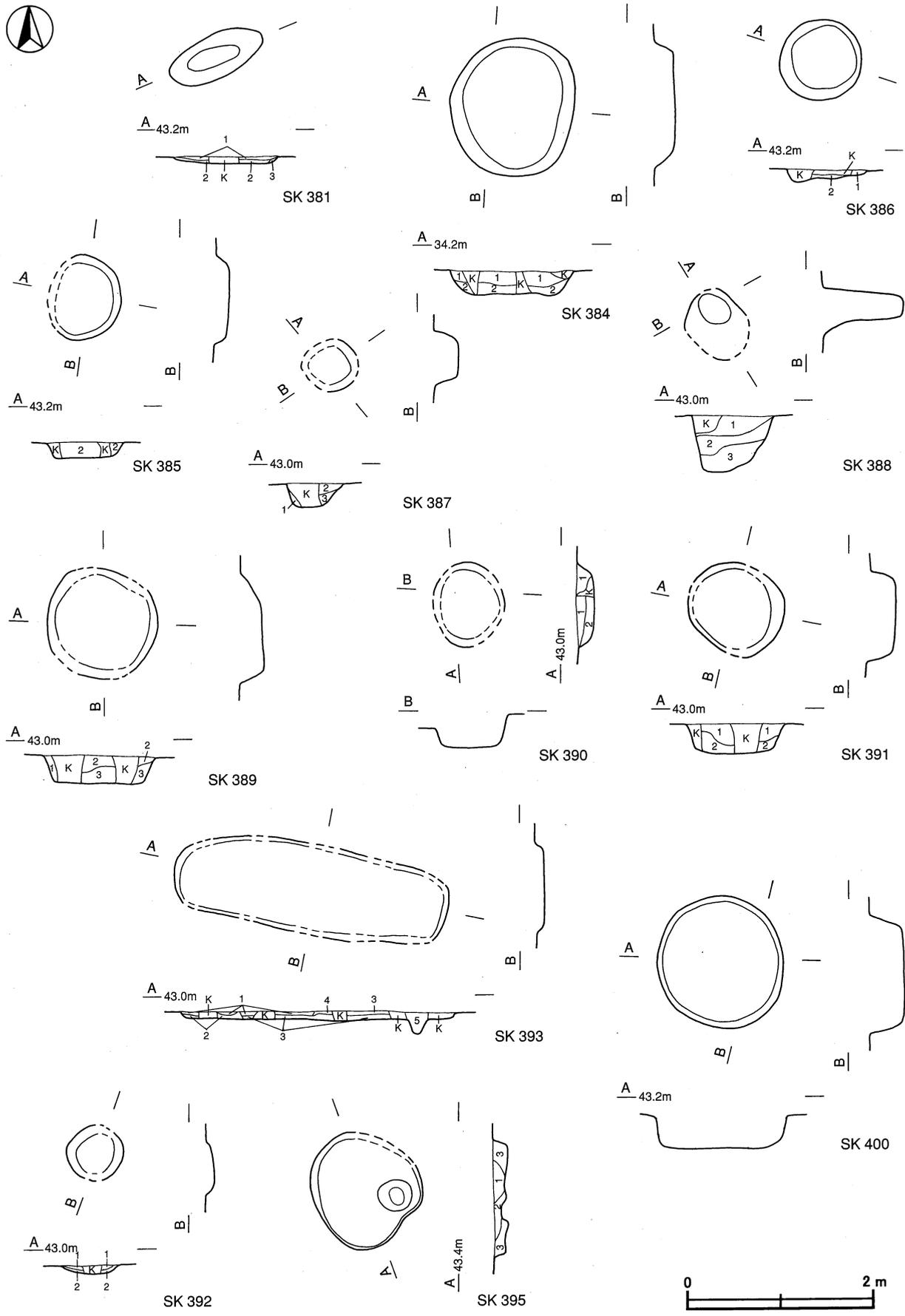
SK 379



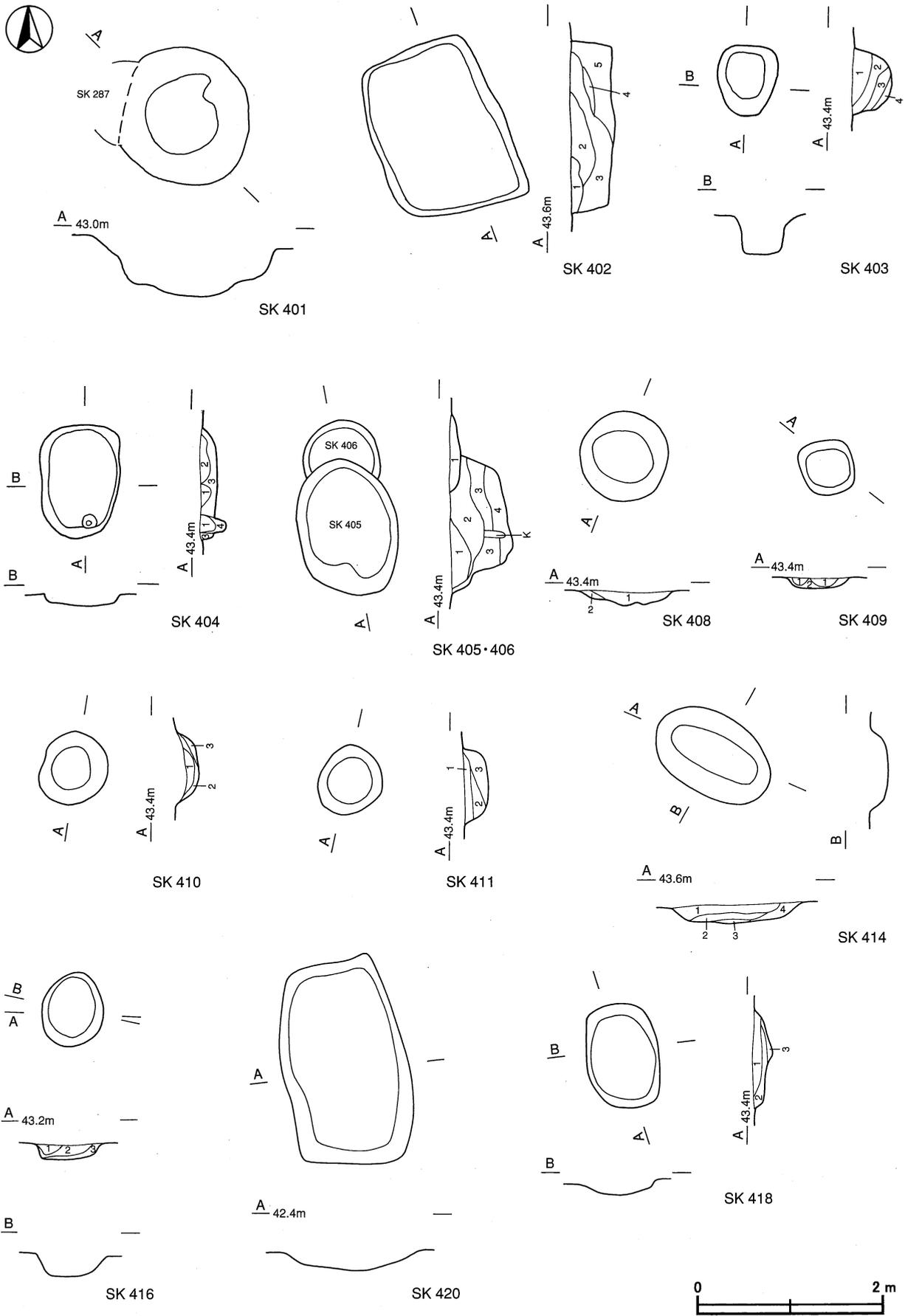
SK 380



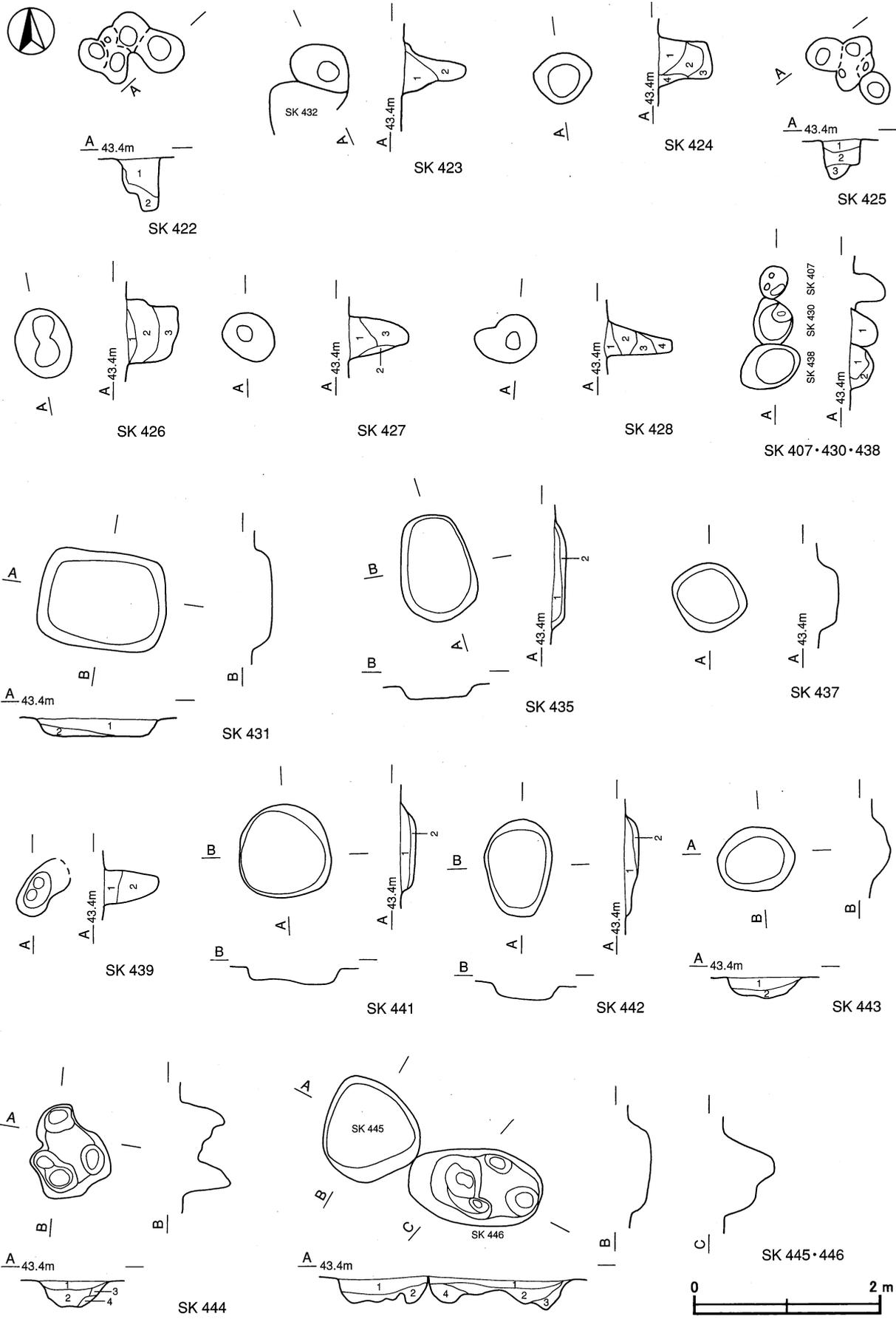
第878図 その他の土坑実測図(24)



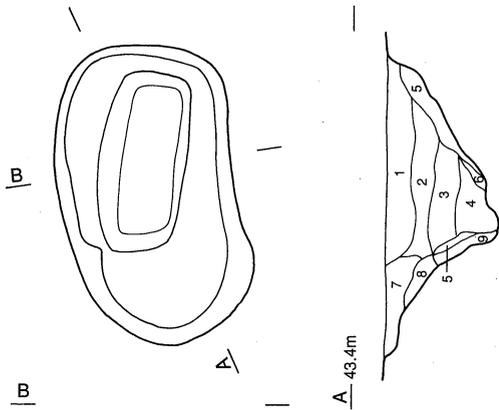
第879図 その他の土坑実測図(25)



第880図 その他の土坑実測図(26)

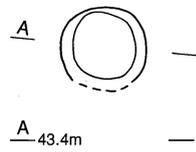


第881図 その他の土坑実測図(27)



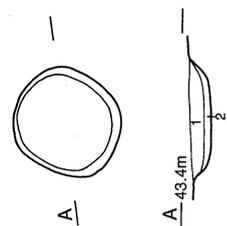
A 43.4m

SK 447



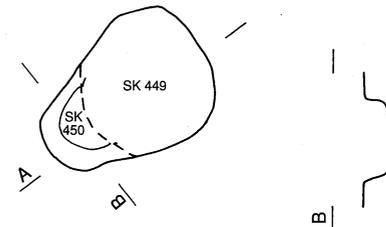
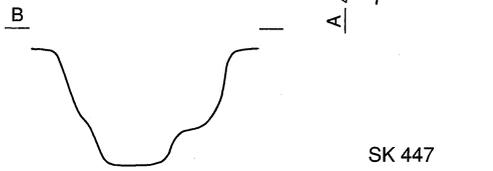
A 43.4m

SK 452



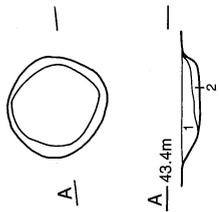
A 43.4m

SK 453

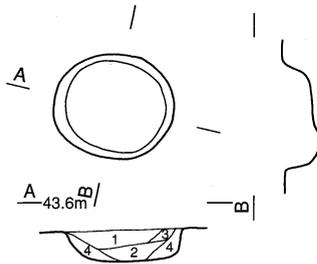


A 43.6m

SK 450

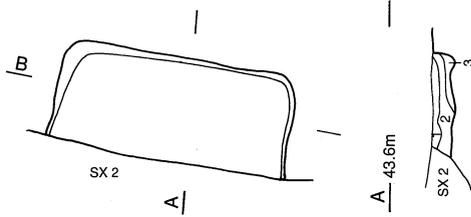


SK 454



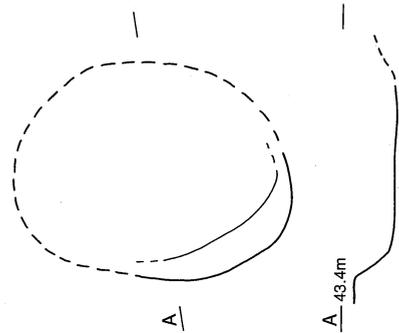
A 43.6m

SK 451



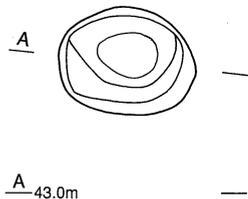
A 43.6m

SK 460



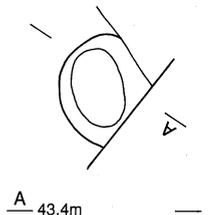
A 43.4m

SK 458



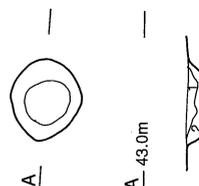
A 43.0m

SK 465



A 43.4m

SK 464

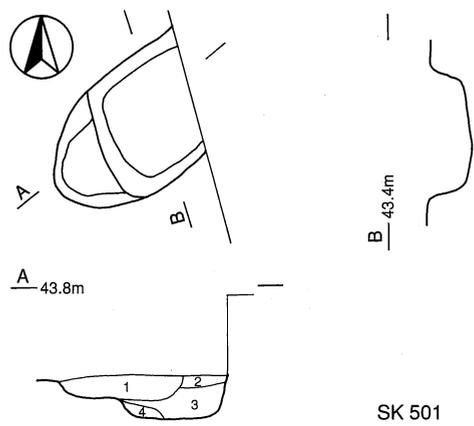


A 43.0m

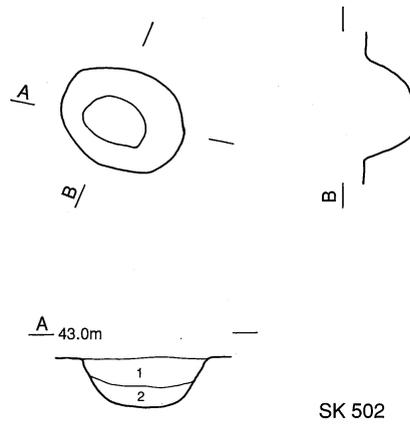
SK 463



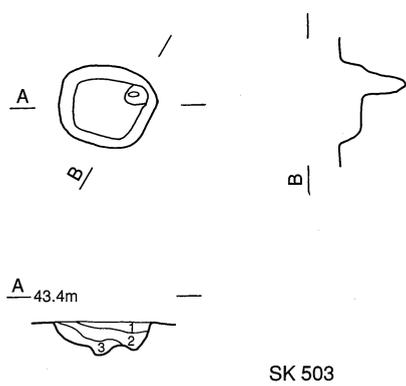
第882図 その他の土坑実測図(28)



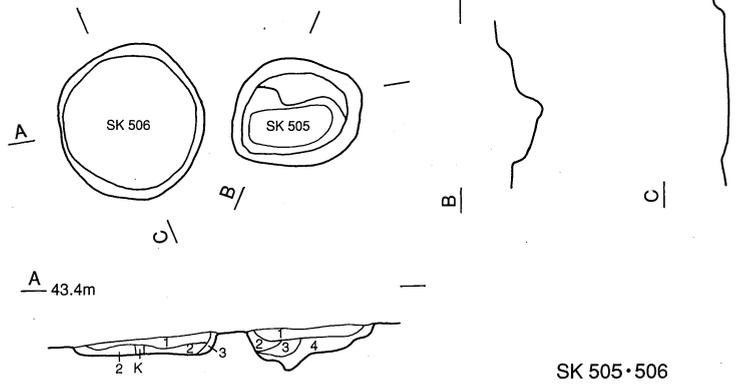
SK 501



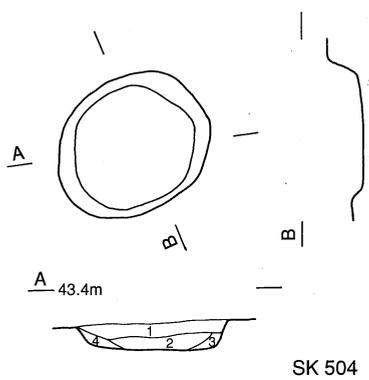
SK 502



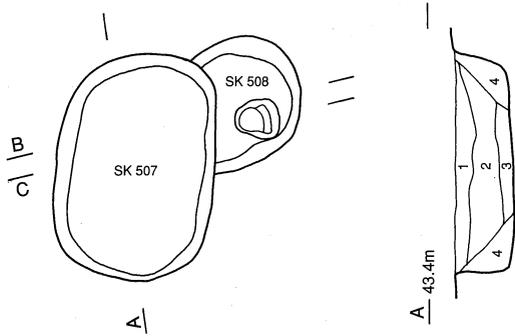
SK 503



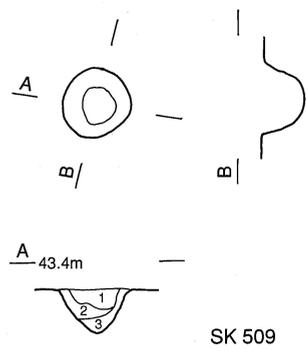
SK 505・506



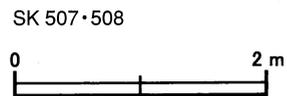
SK 504



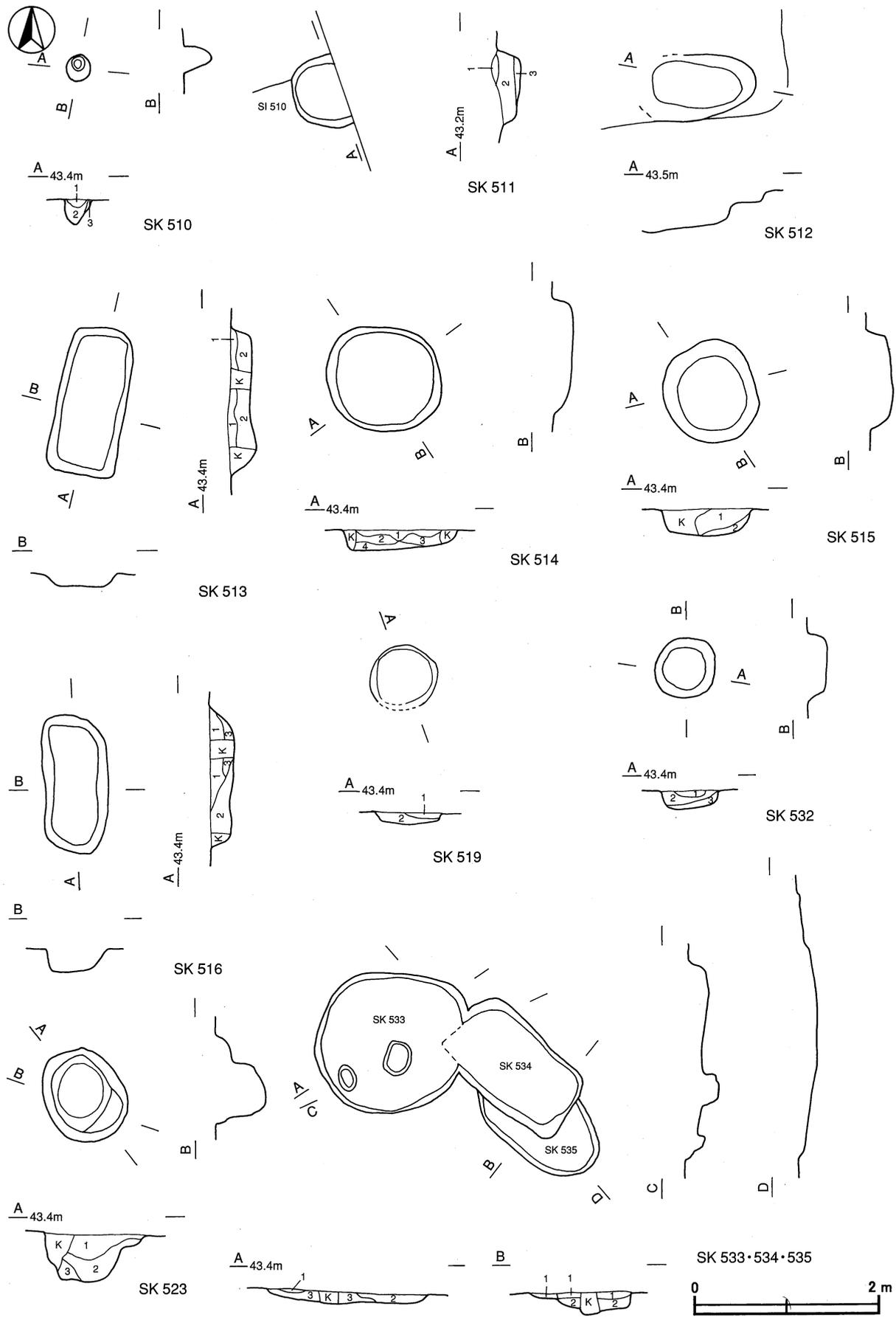
SK 507・508



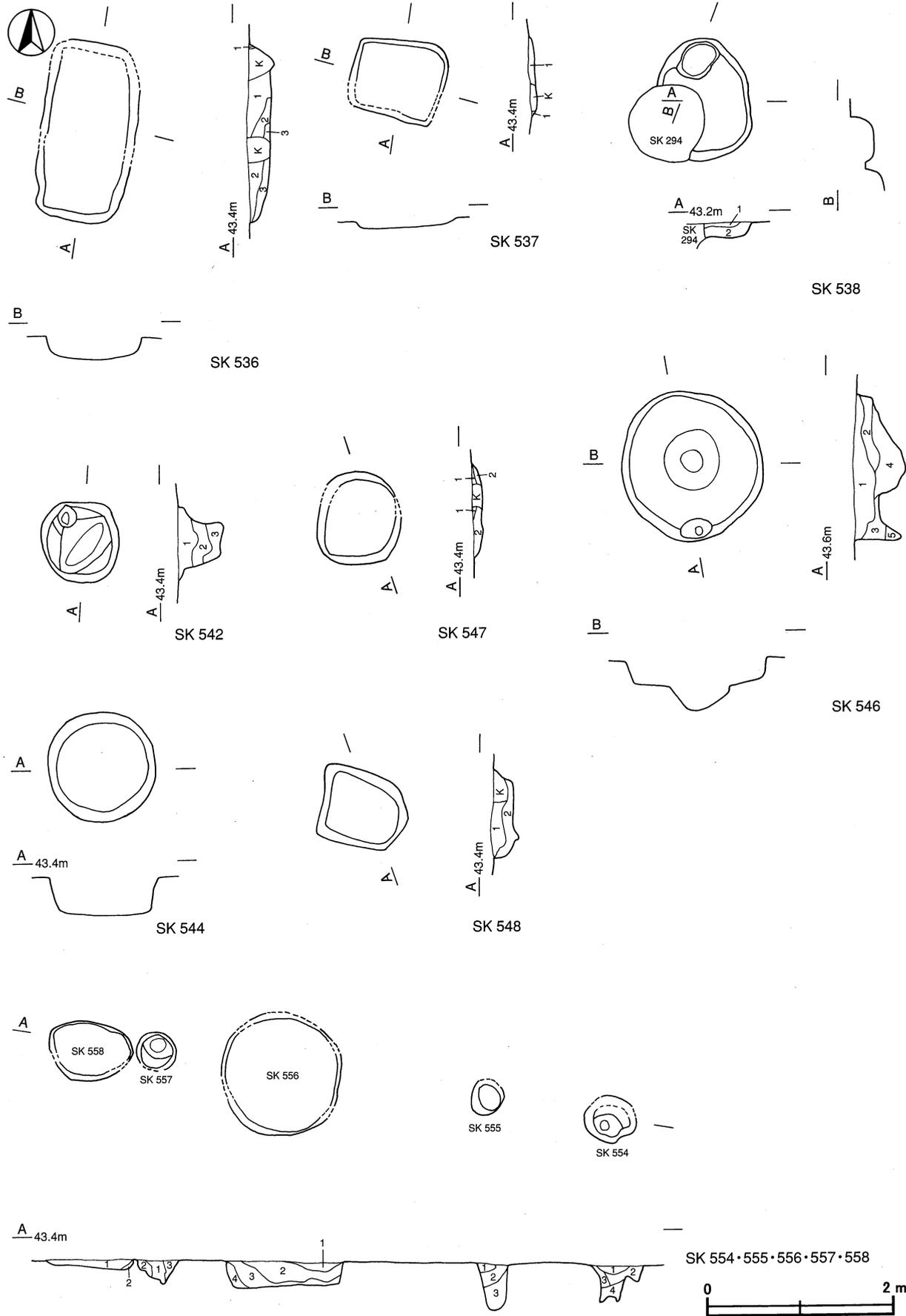
SK 509



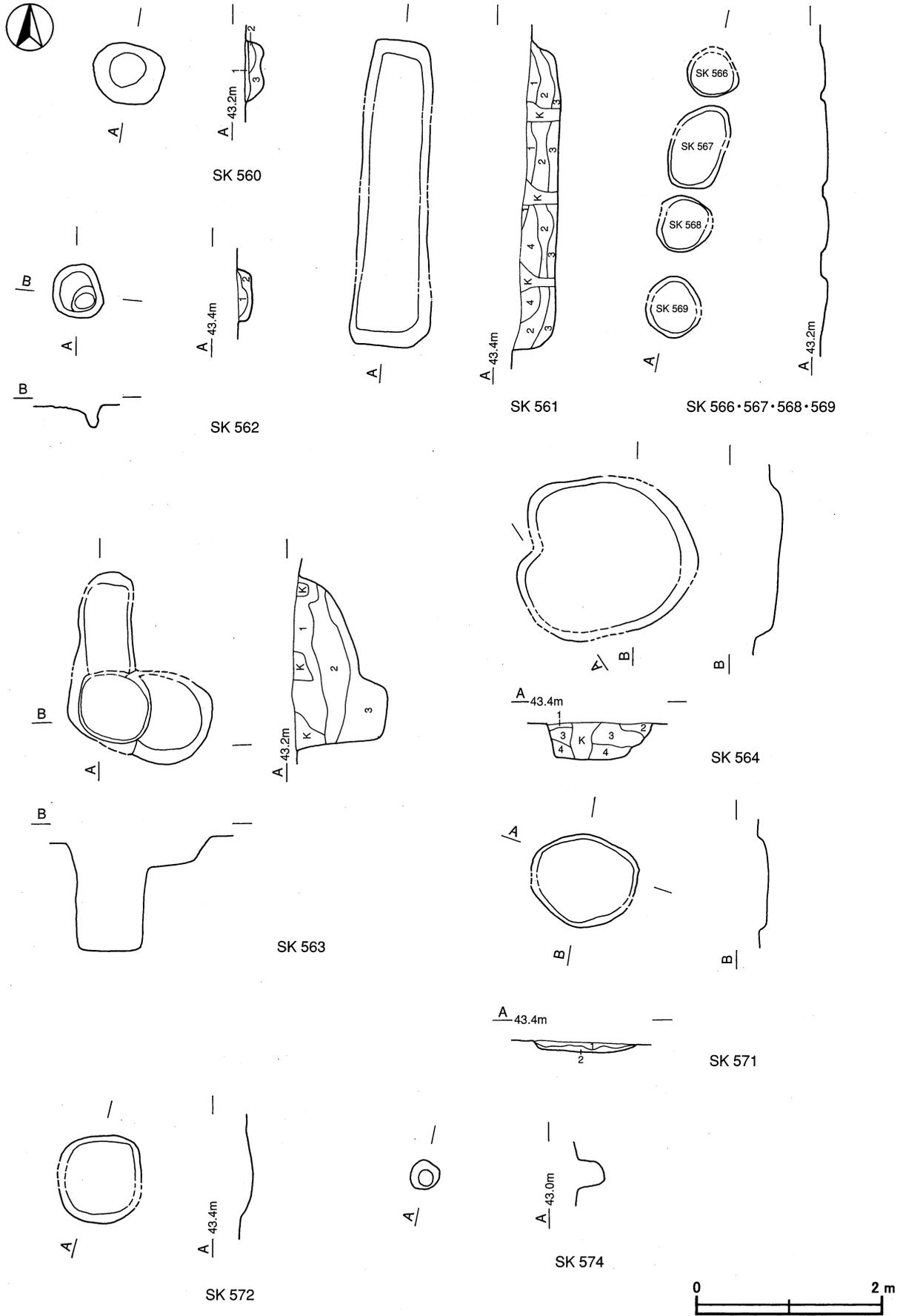
第883図 その他の土坑実測図(29)



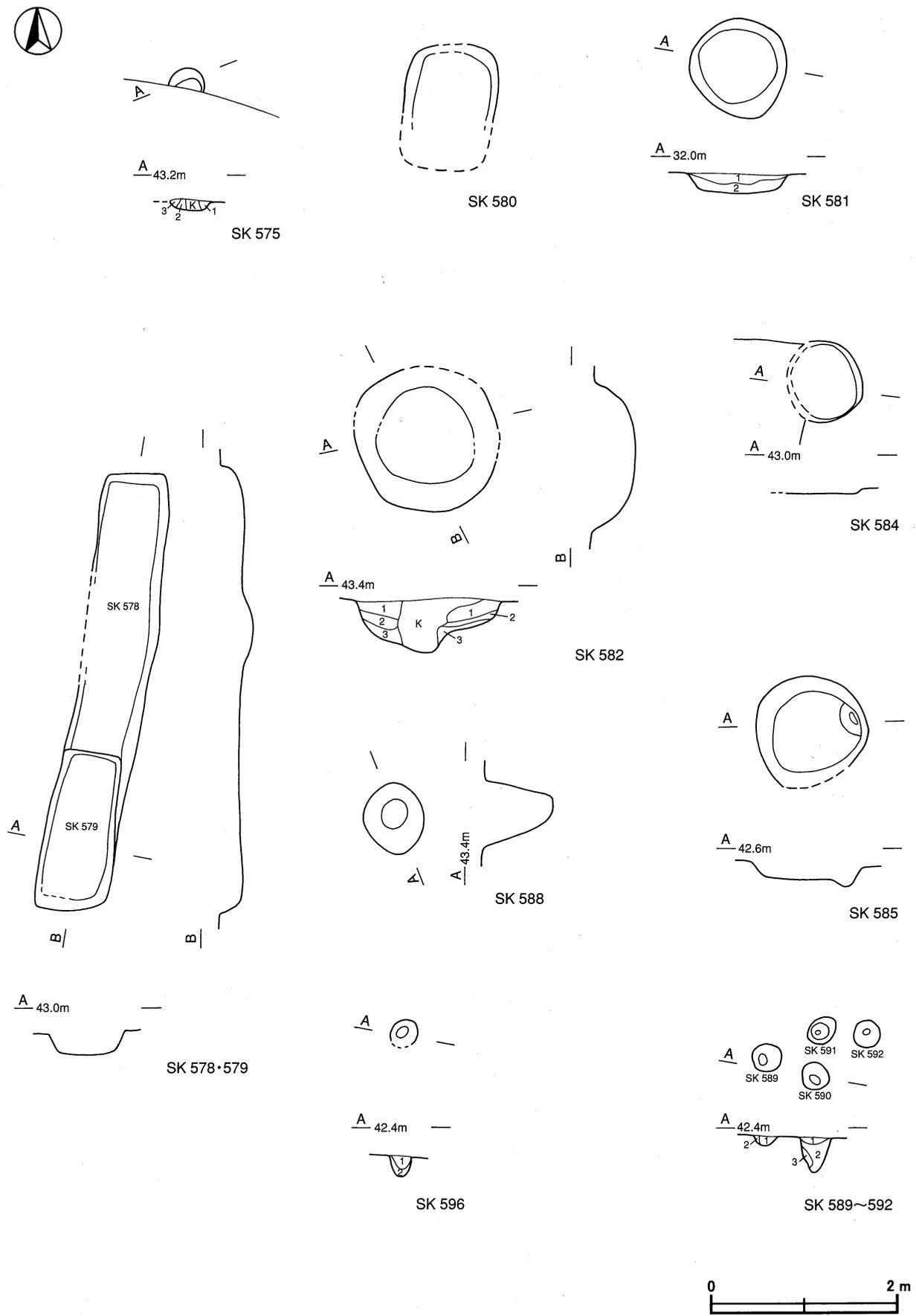
第884図 その他の土坑実測図(30)



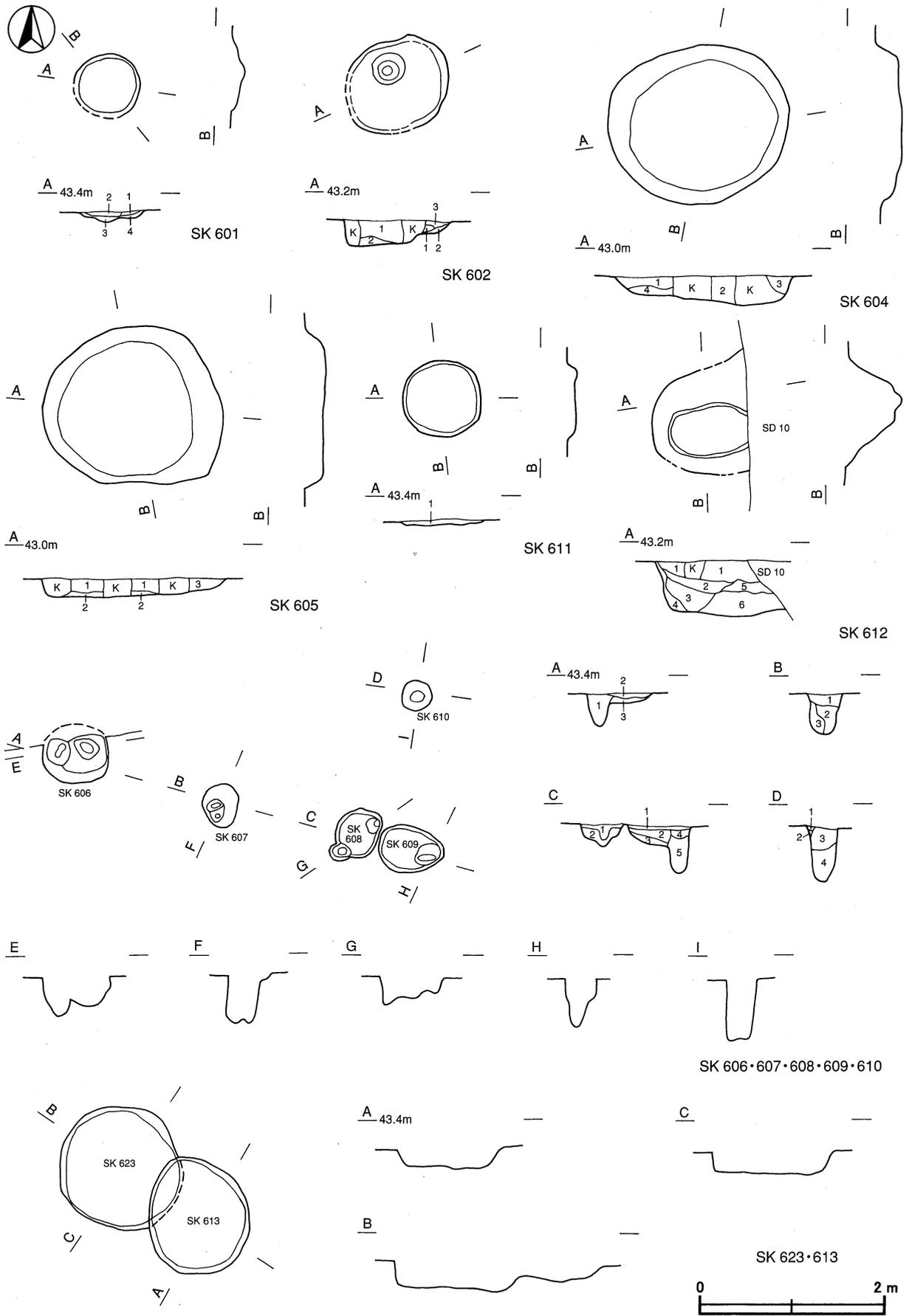
第885図 その他の土坑実測図(31)



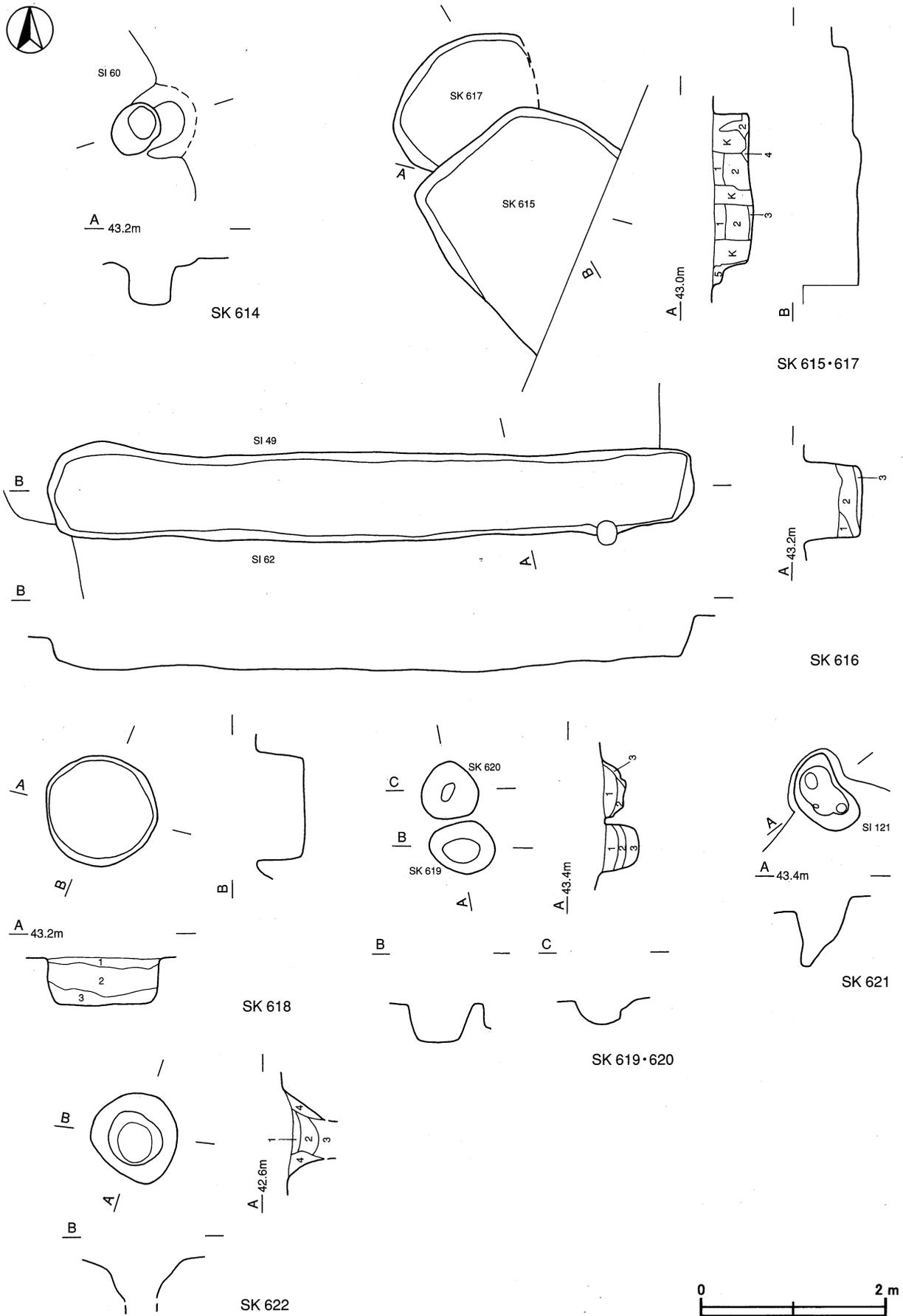
第886図 その他の土坑実測図(32)



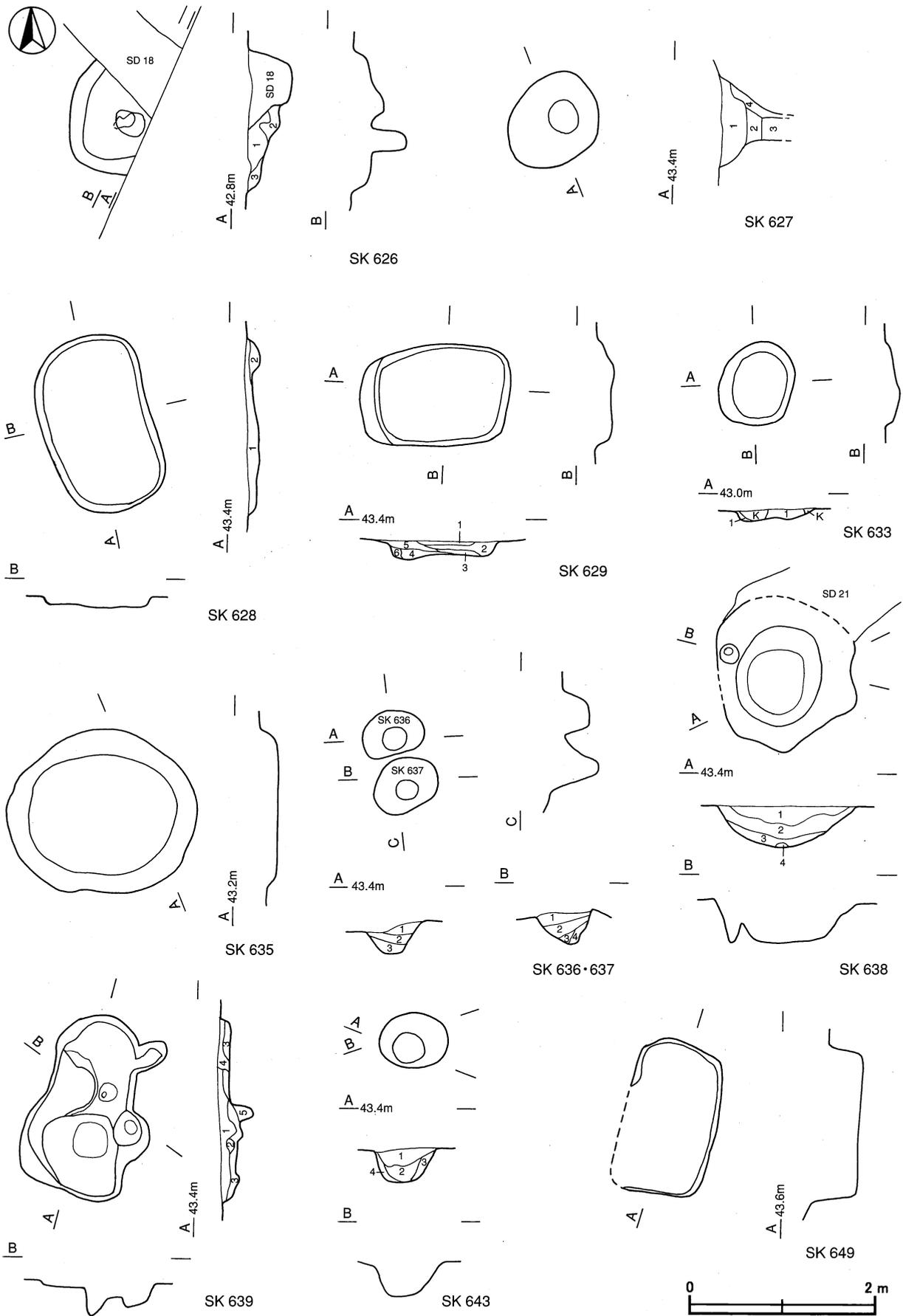
第887図 その他の土坑実測図(33)



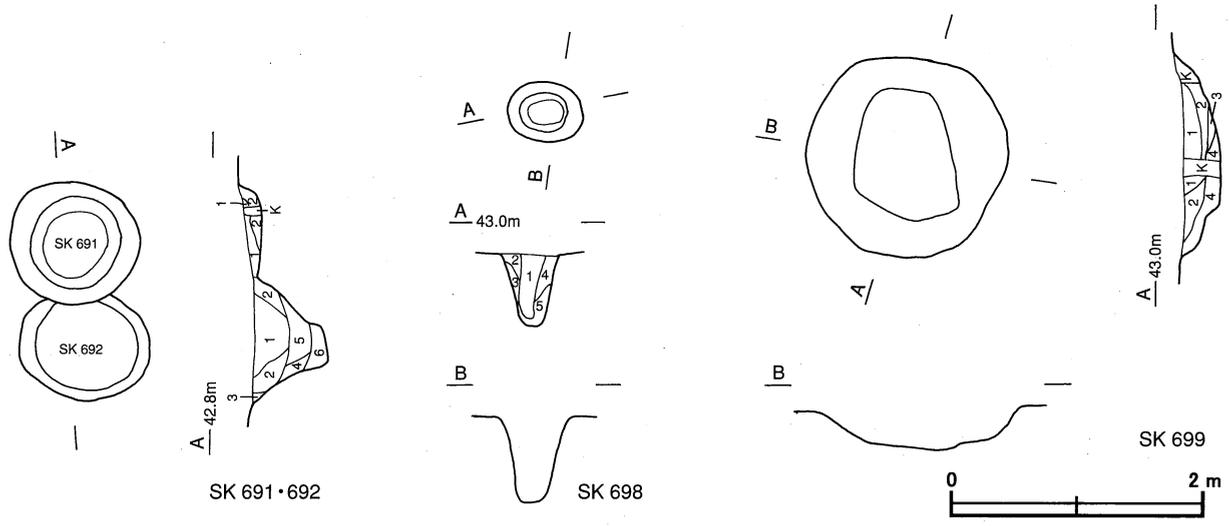
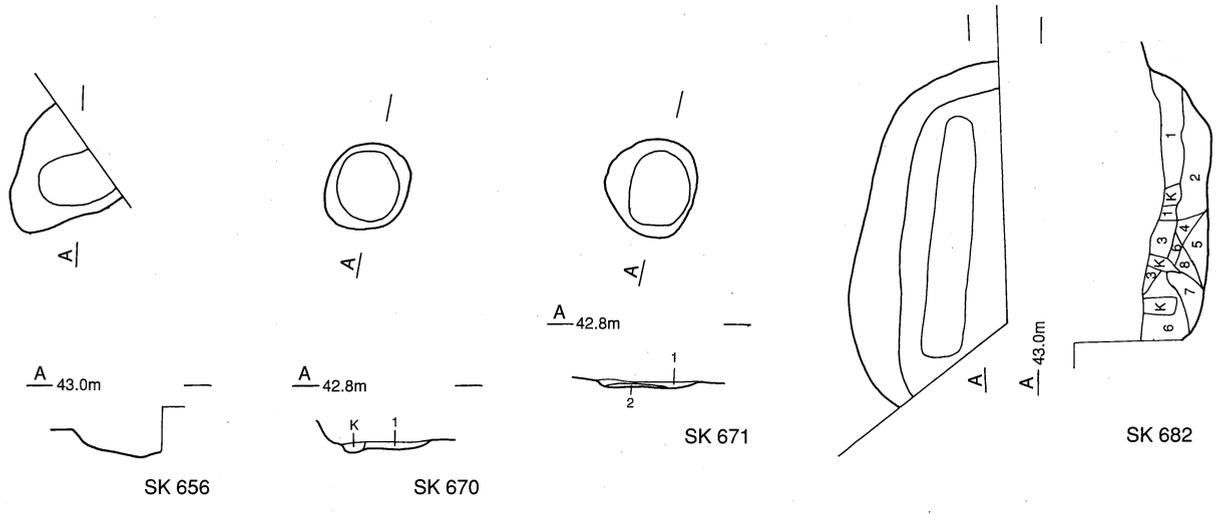
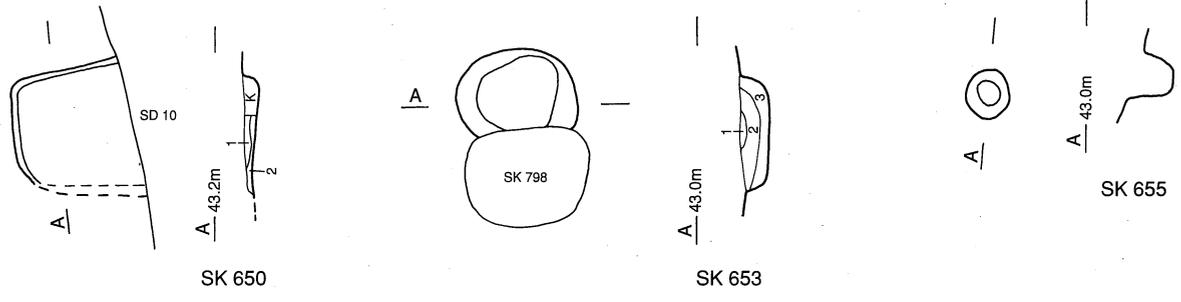
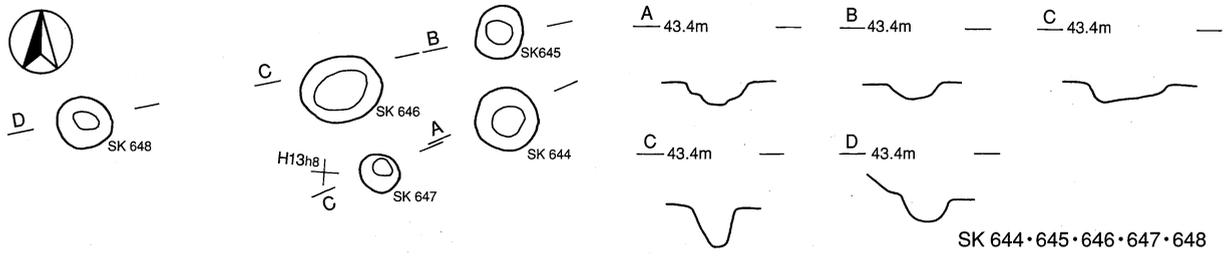
第888図 その他の土坑実測図(34)



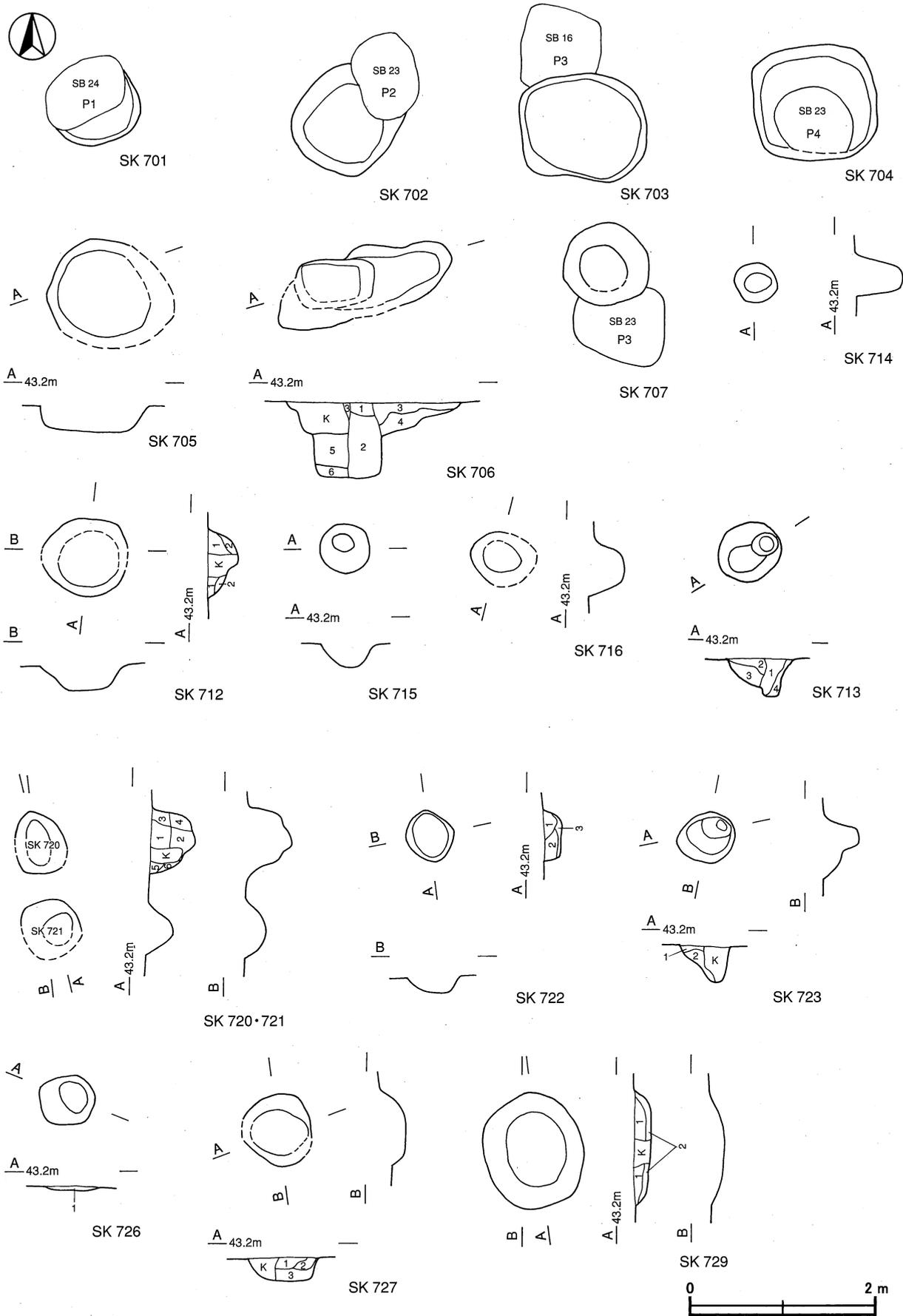
第889図 その他の土坑実測図(35)



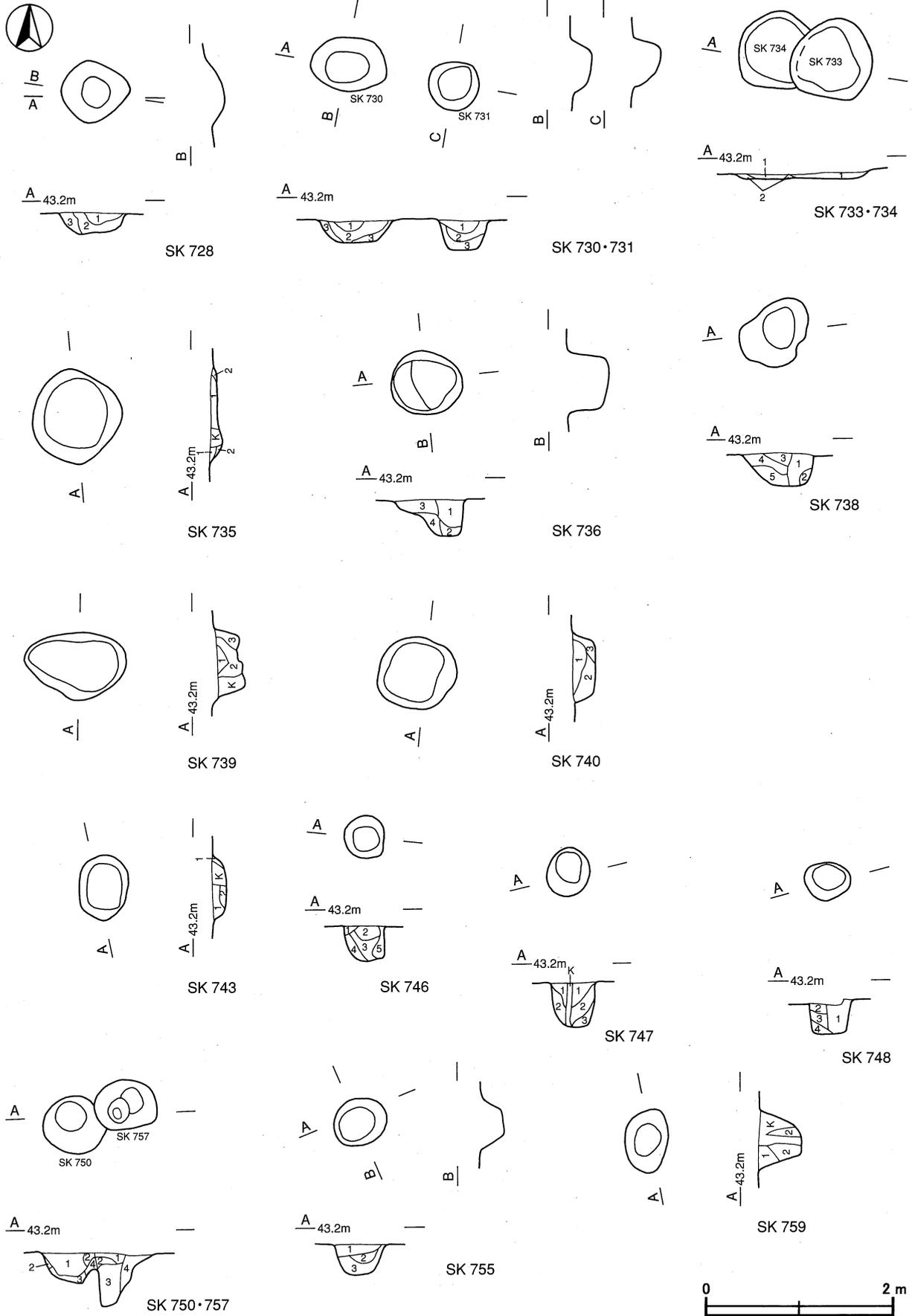
第890図 その他の土坑実測図(36)



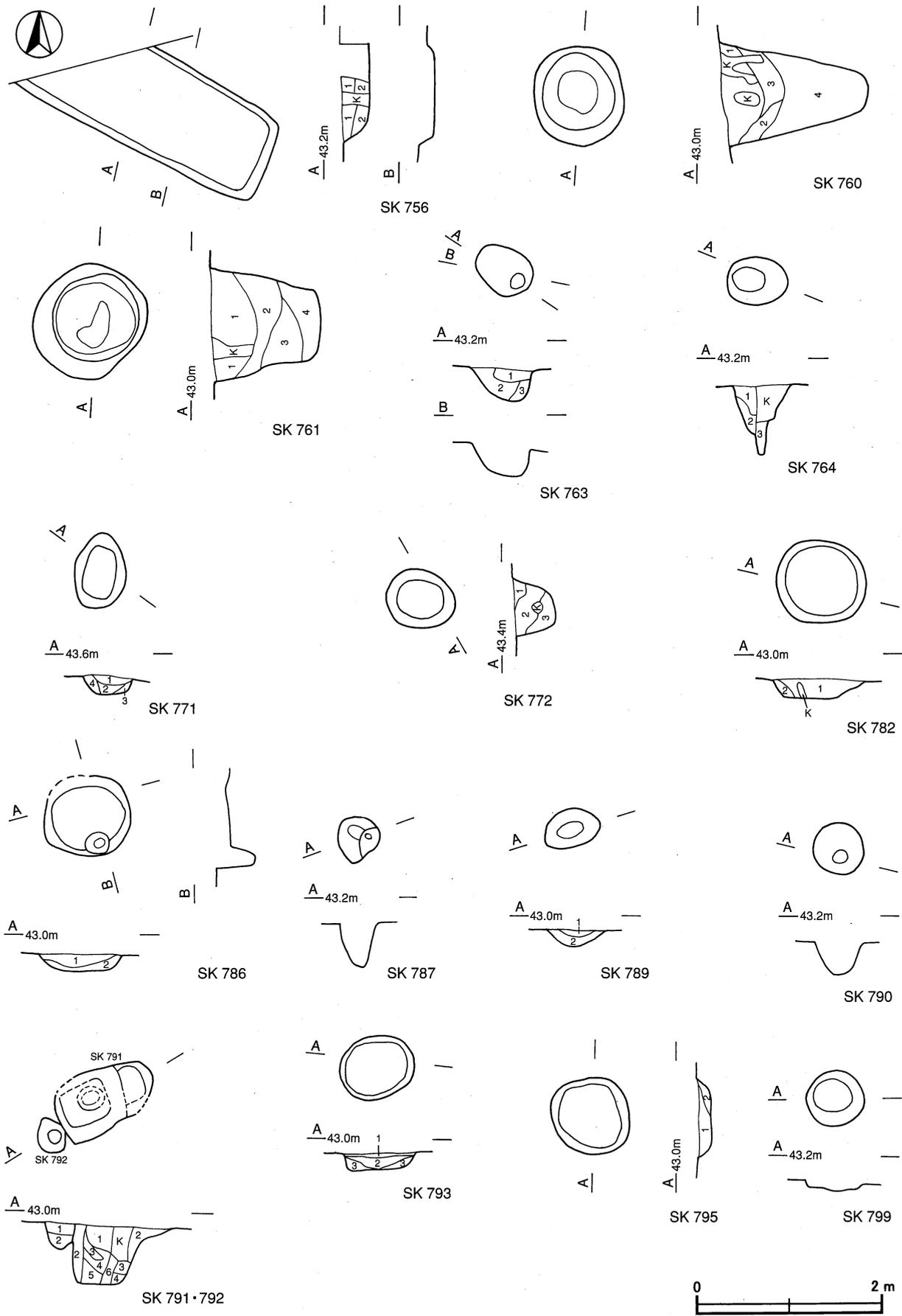
第891図 その他の土坑実測図(37)



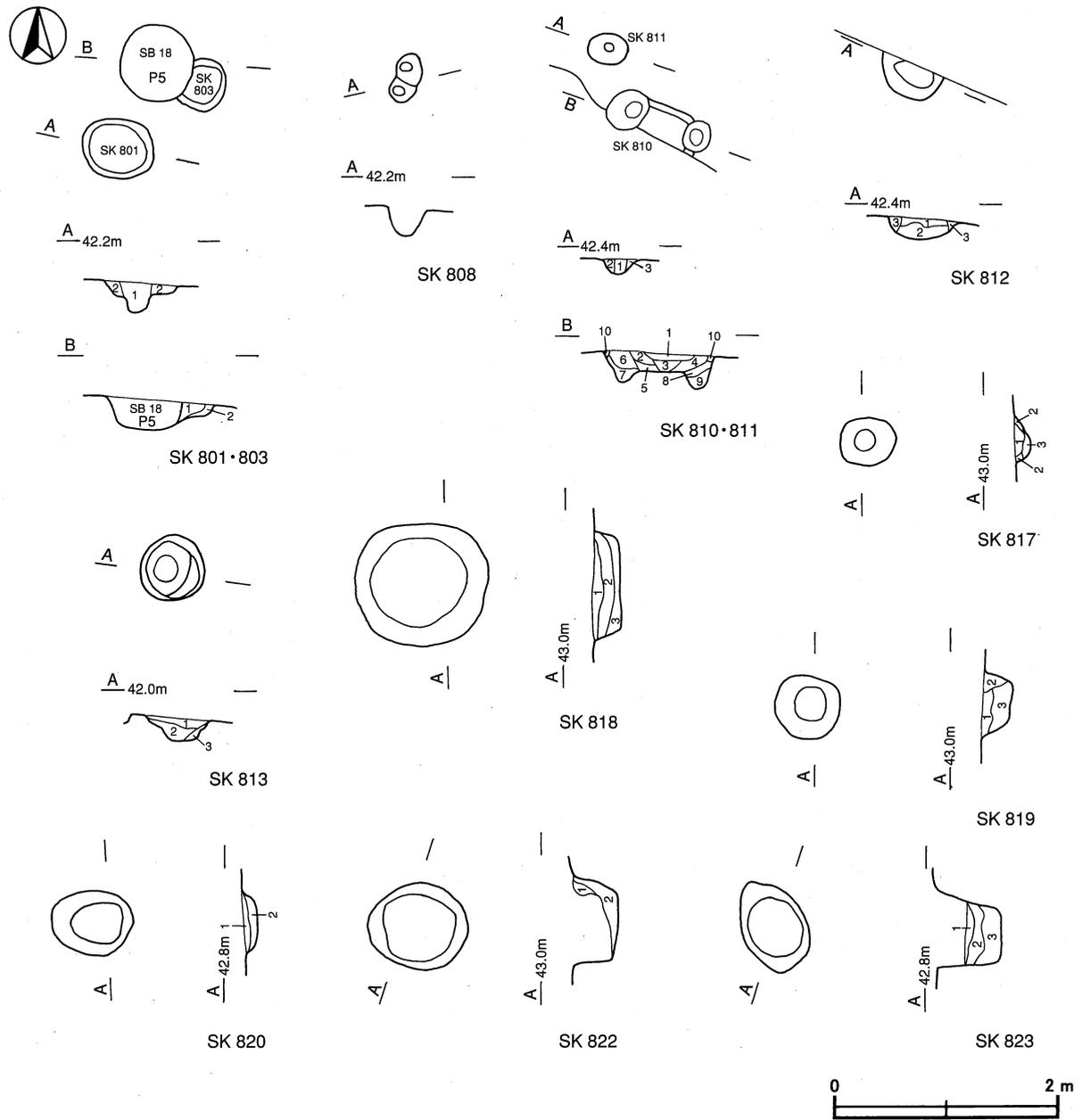
第892図 その他の土坑実測図(38)



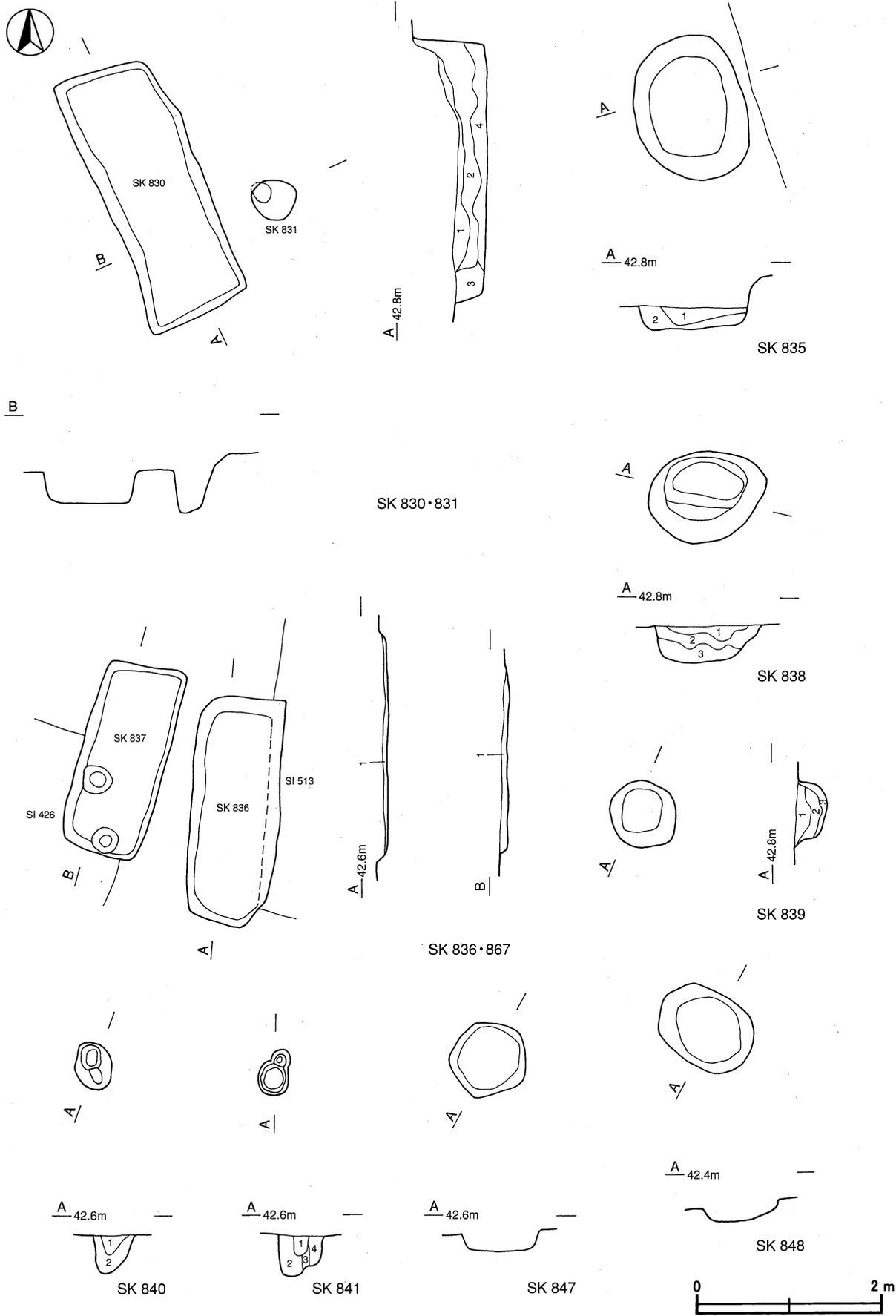
第893図 その他の土坑実測図(39)



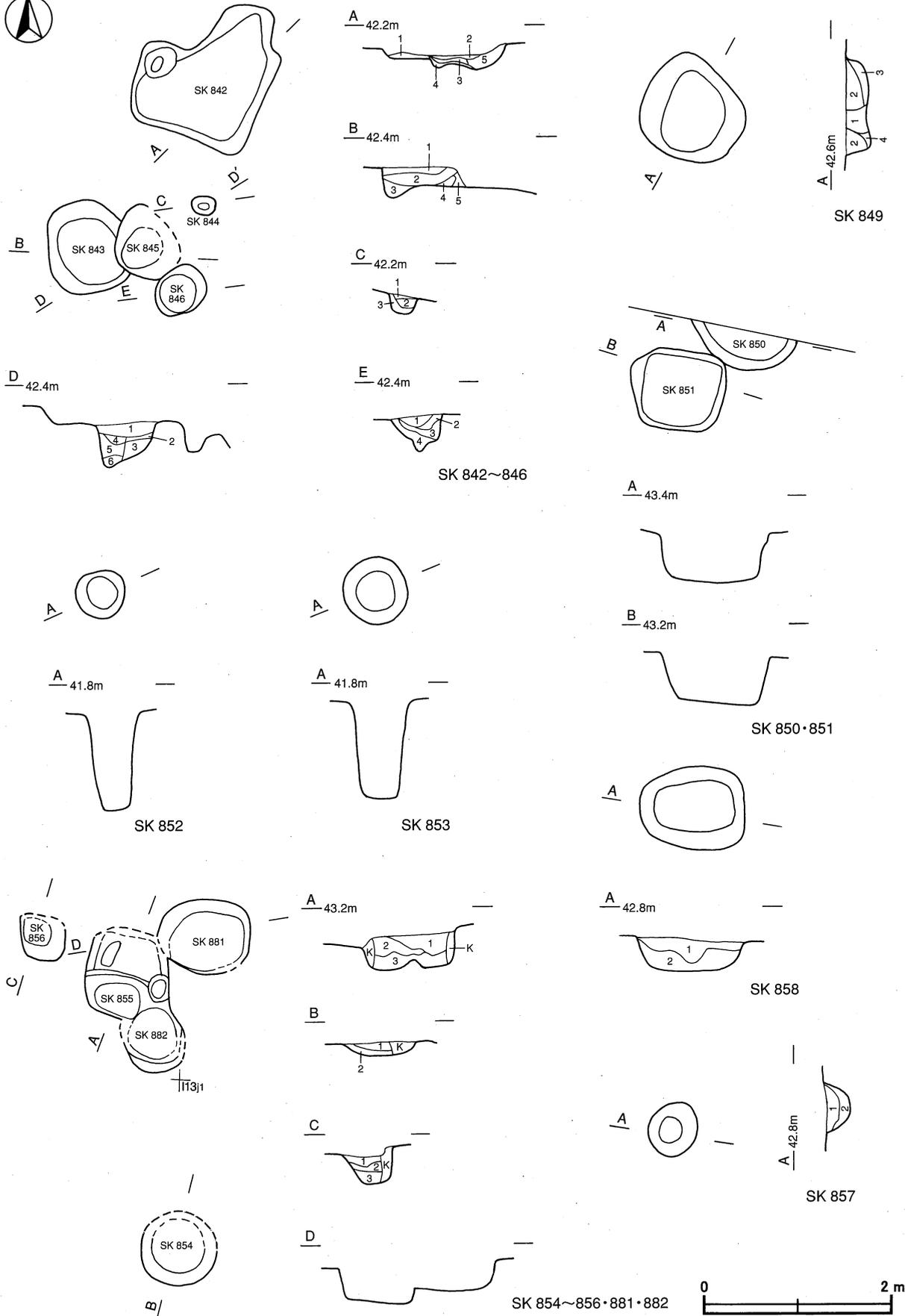
第894図 その他の土坑実測図(40)



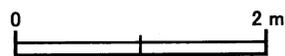
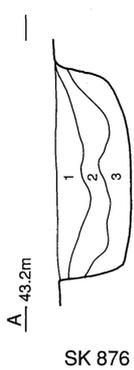
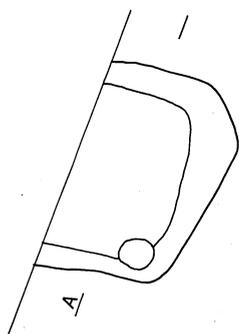
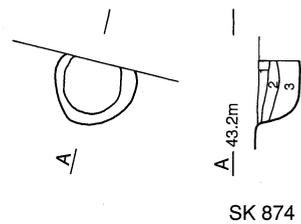
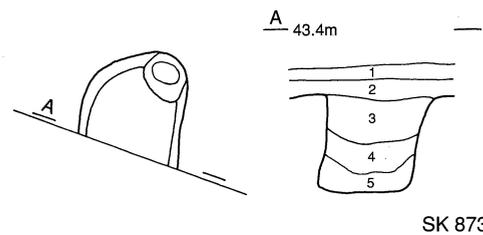
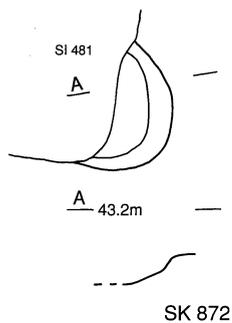
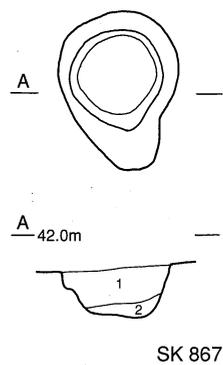
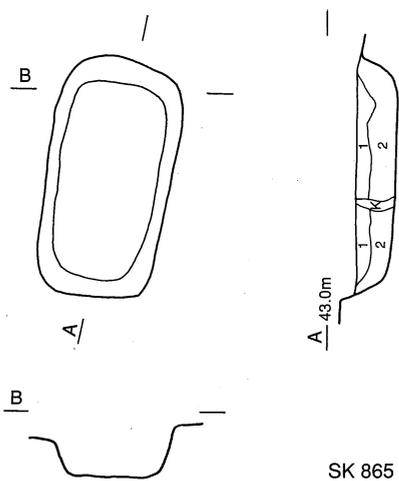
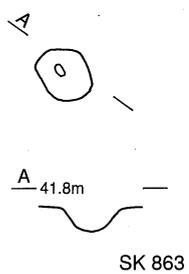
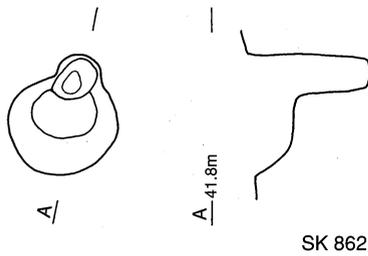
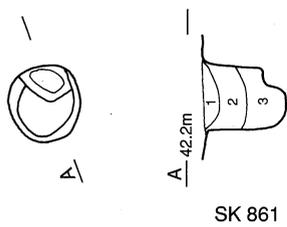
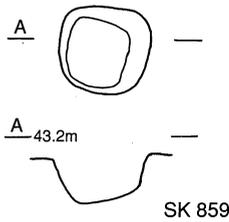
第895図 その他の土坑実測図(41)



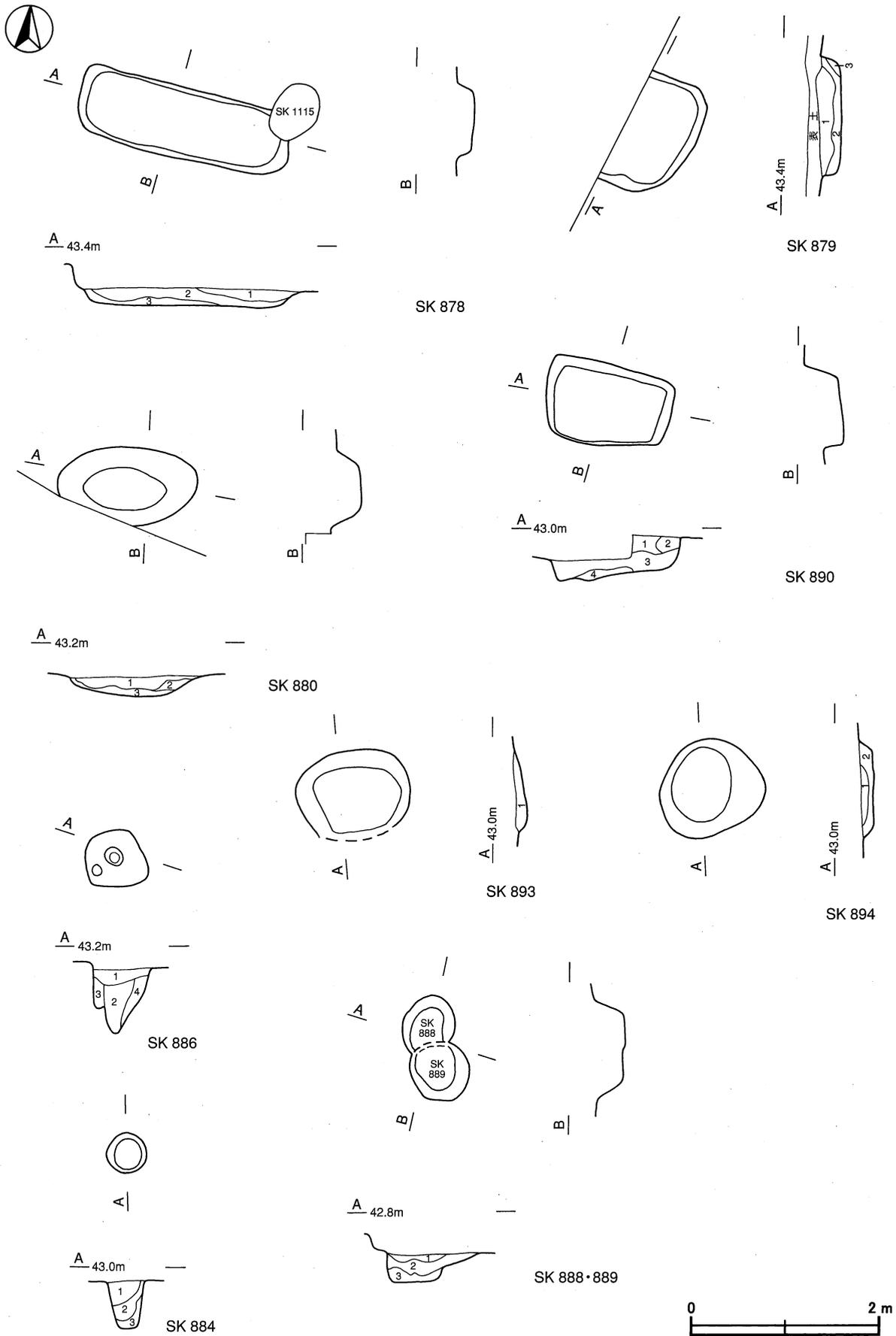
第896図 その他の土坑実測図(42)



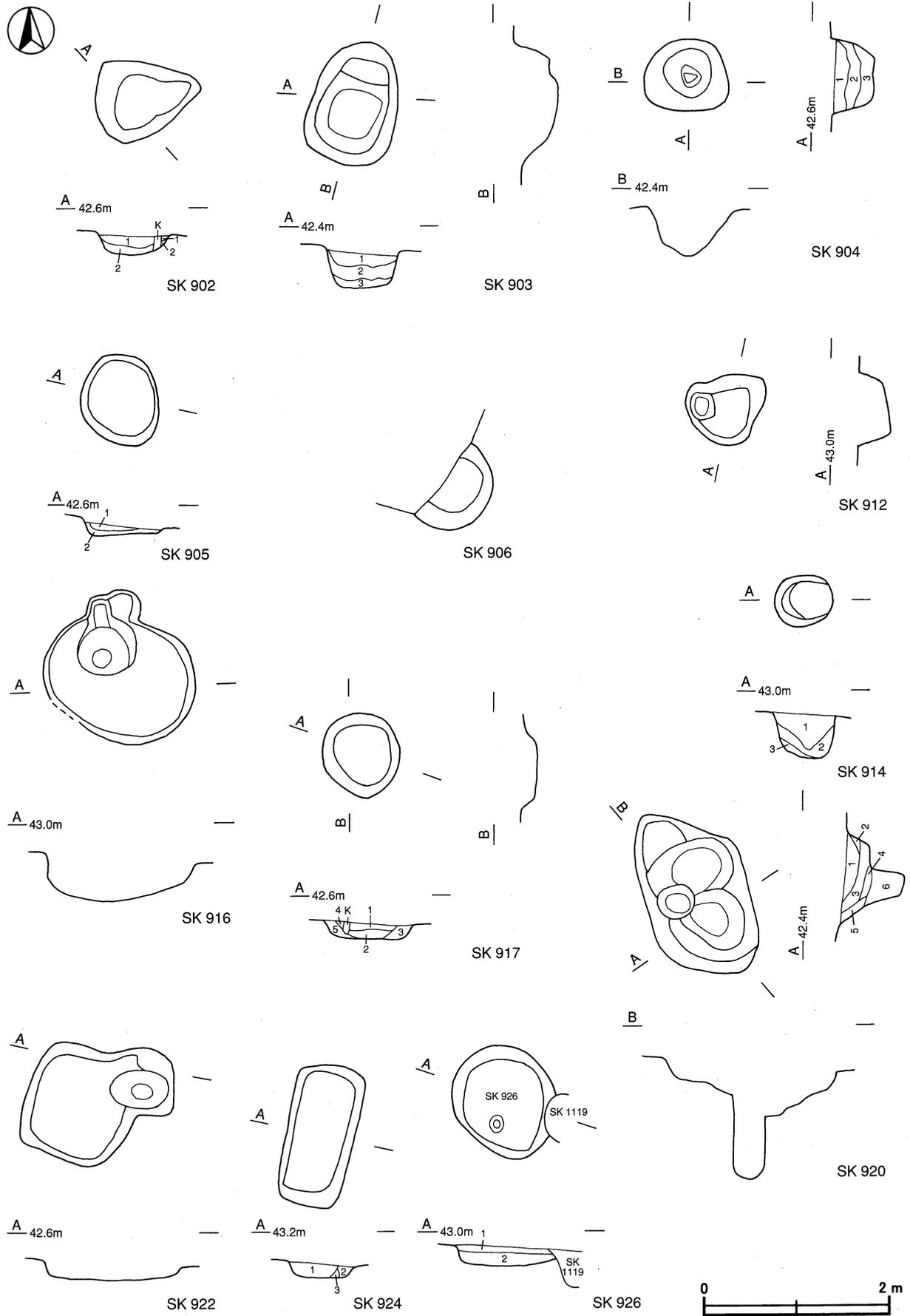
第897図 その他の土坑実測図(43)



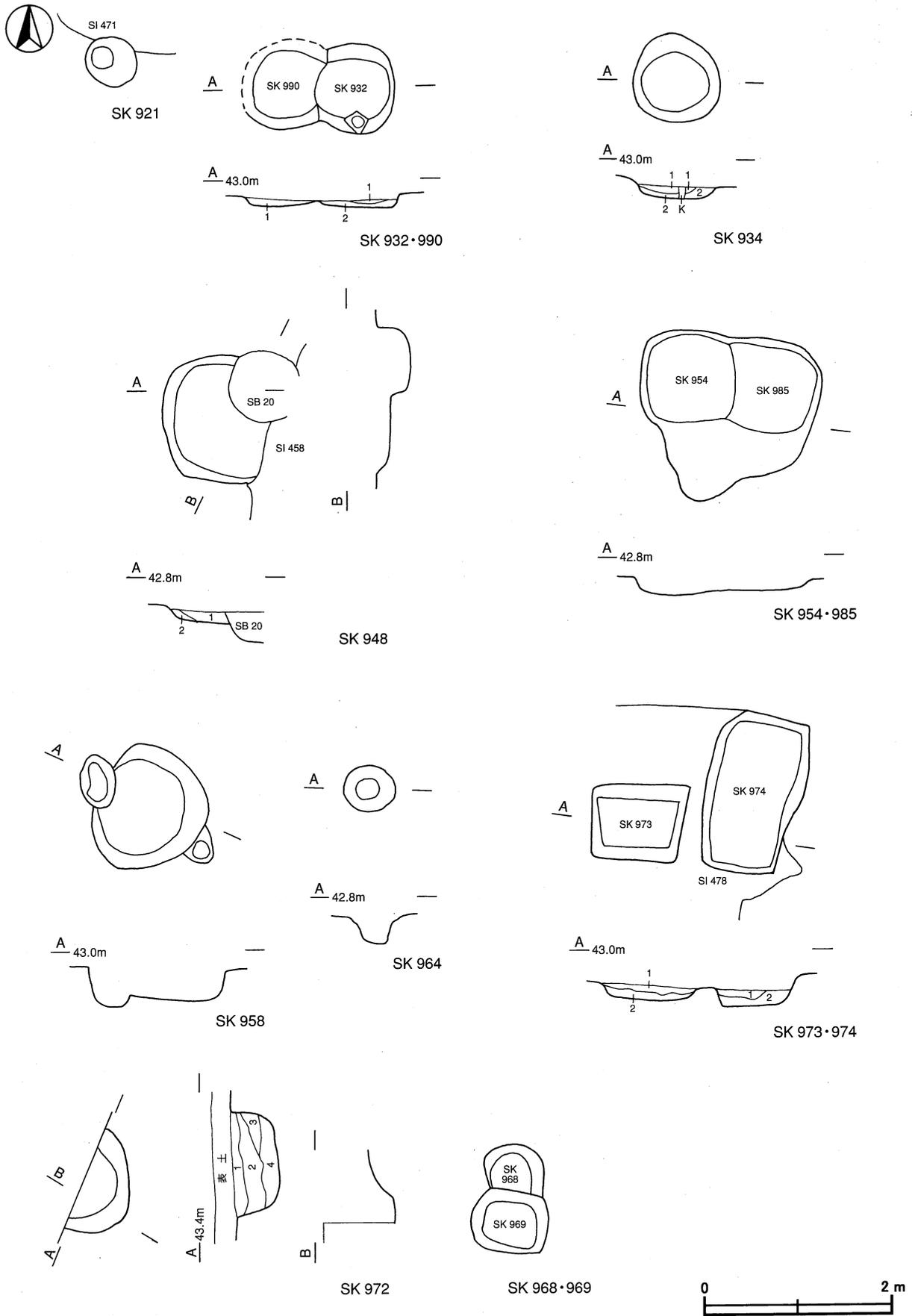
第898図 その他の土坑実測図(44)



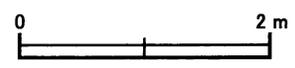
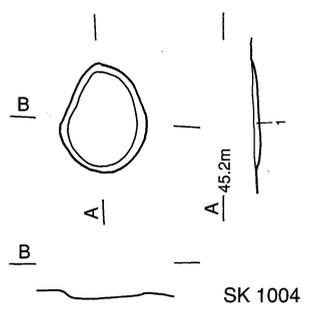
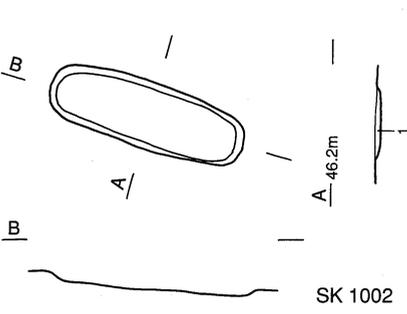
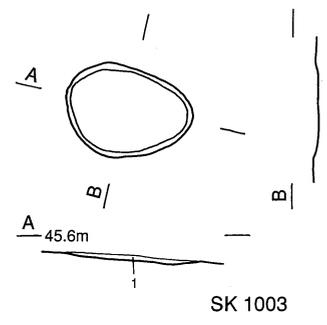
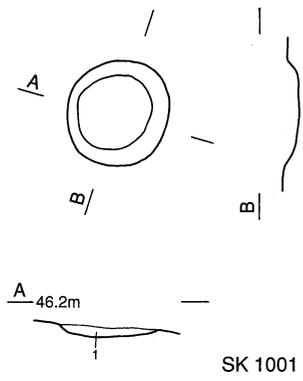
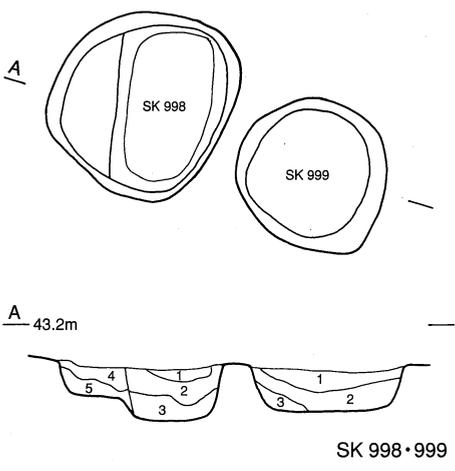
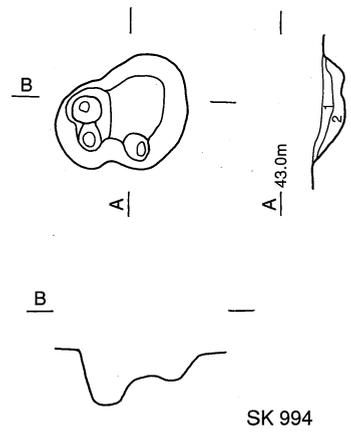
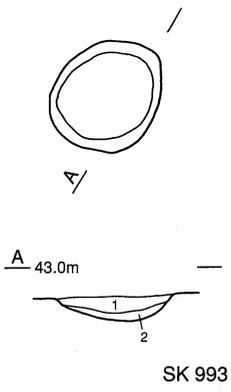
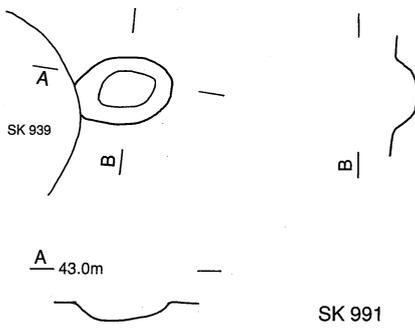
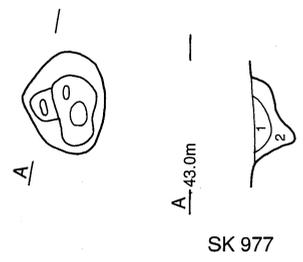
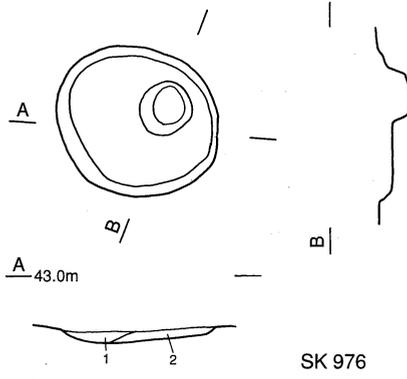
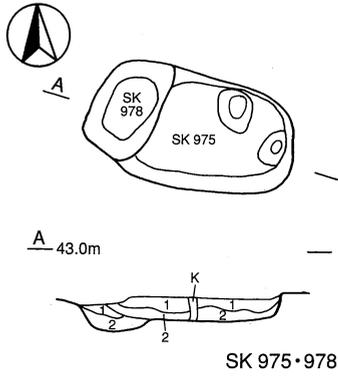
第899図 その他の土坑実測図(45)



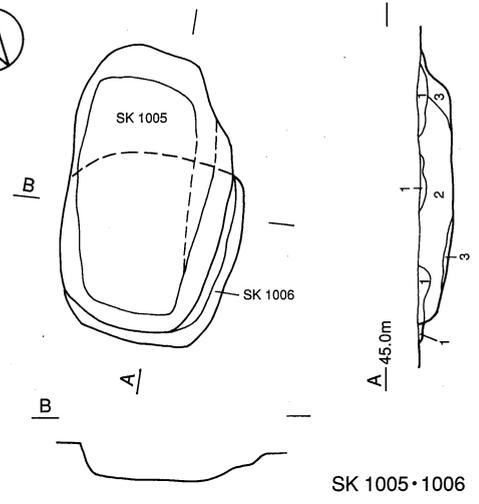
第900図 その他の土坑実測図(46)



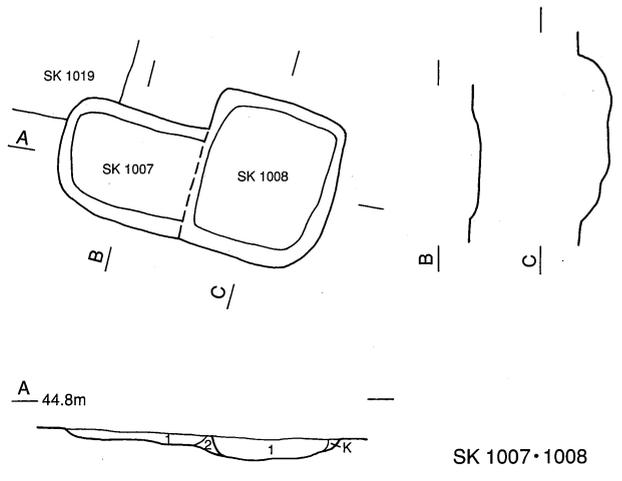
第901図 その他の土坑実測図(47)



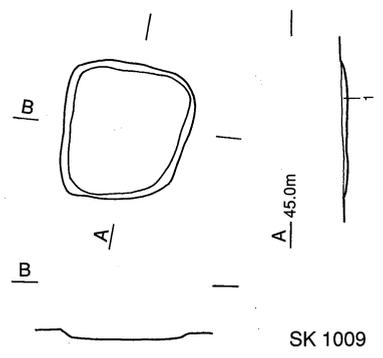
第902図 その他の土坑実測図(48)



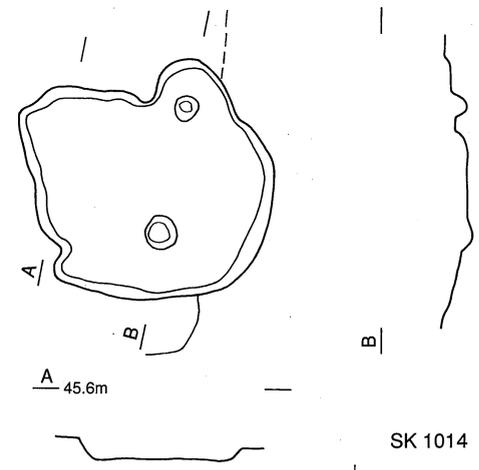
SK 1005・1006



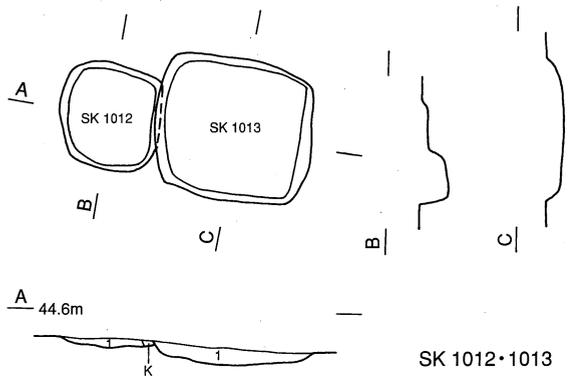
SK 1007・1008



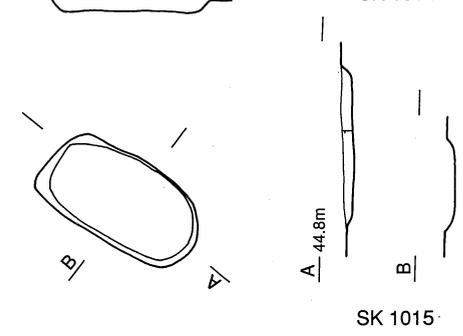
SK 1009



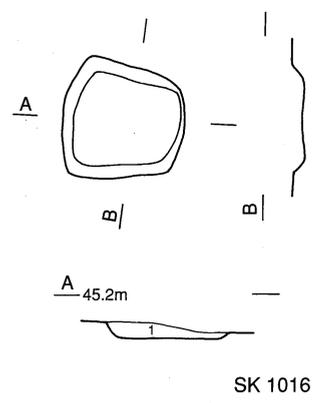
SK 1014



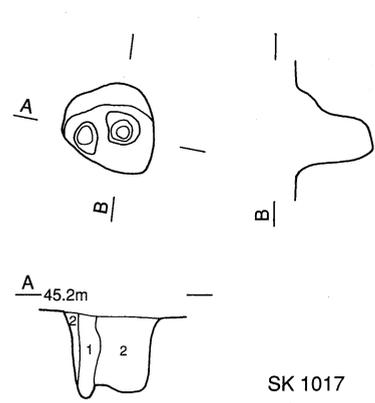
SK 1012・1013



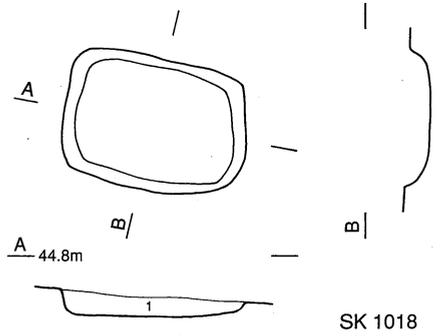
SK 1015



SK 1016



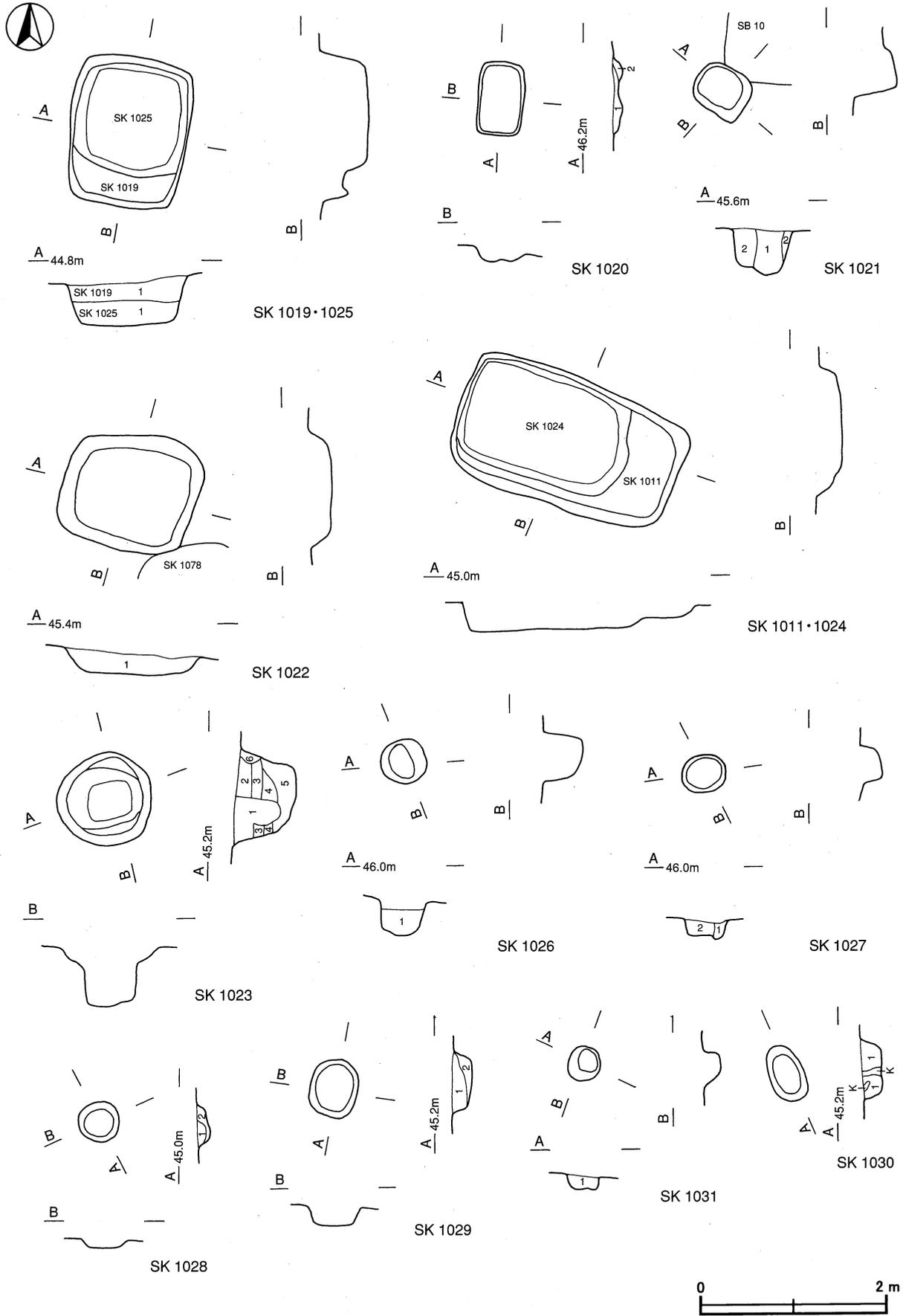
SK 1017



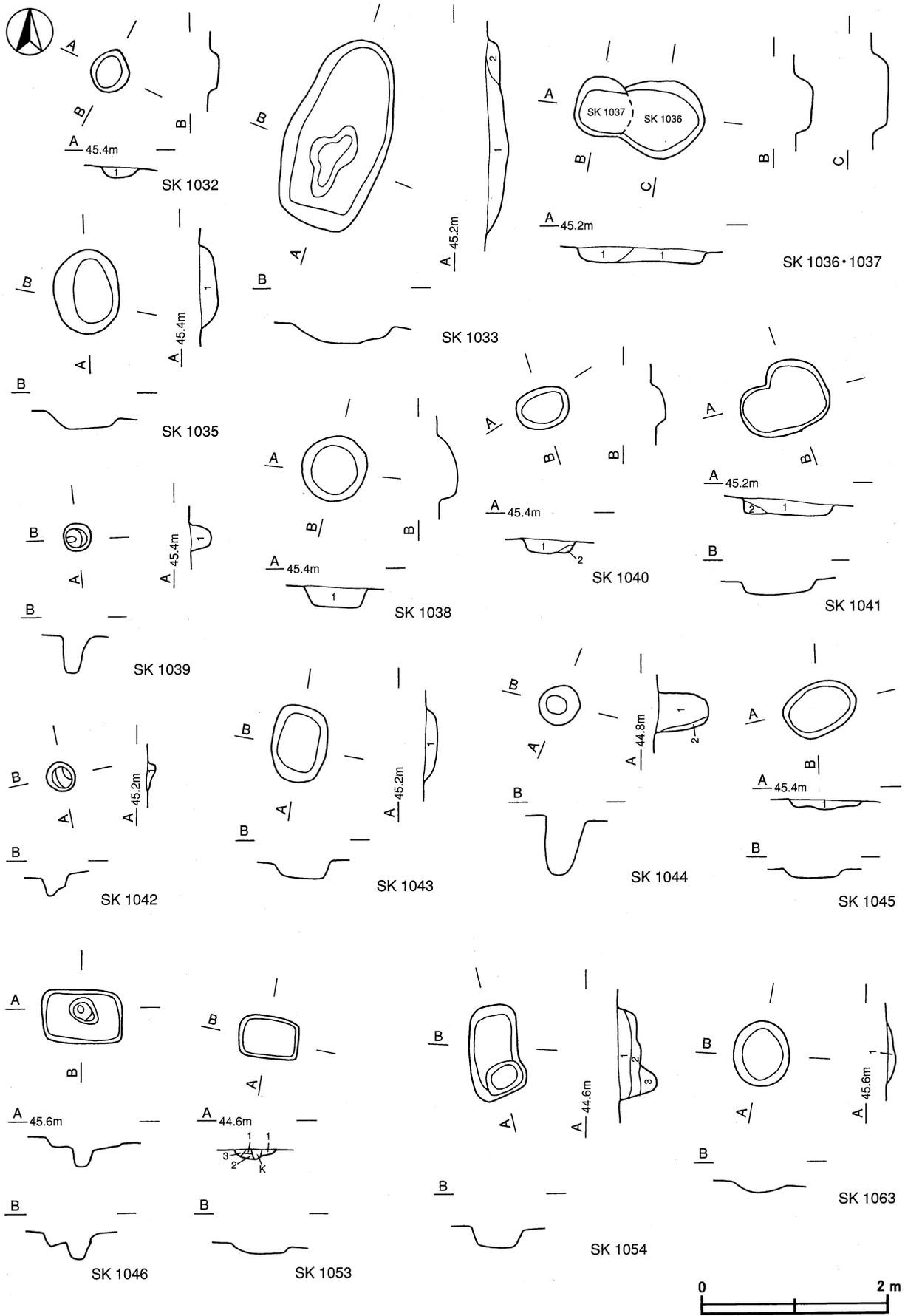
SK 1018



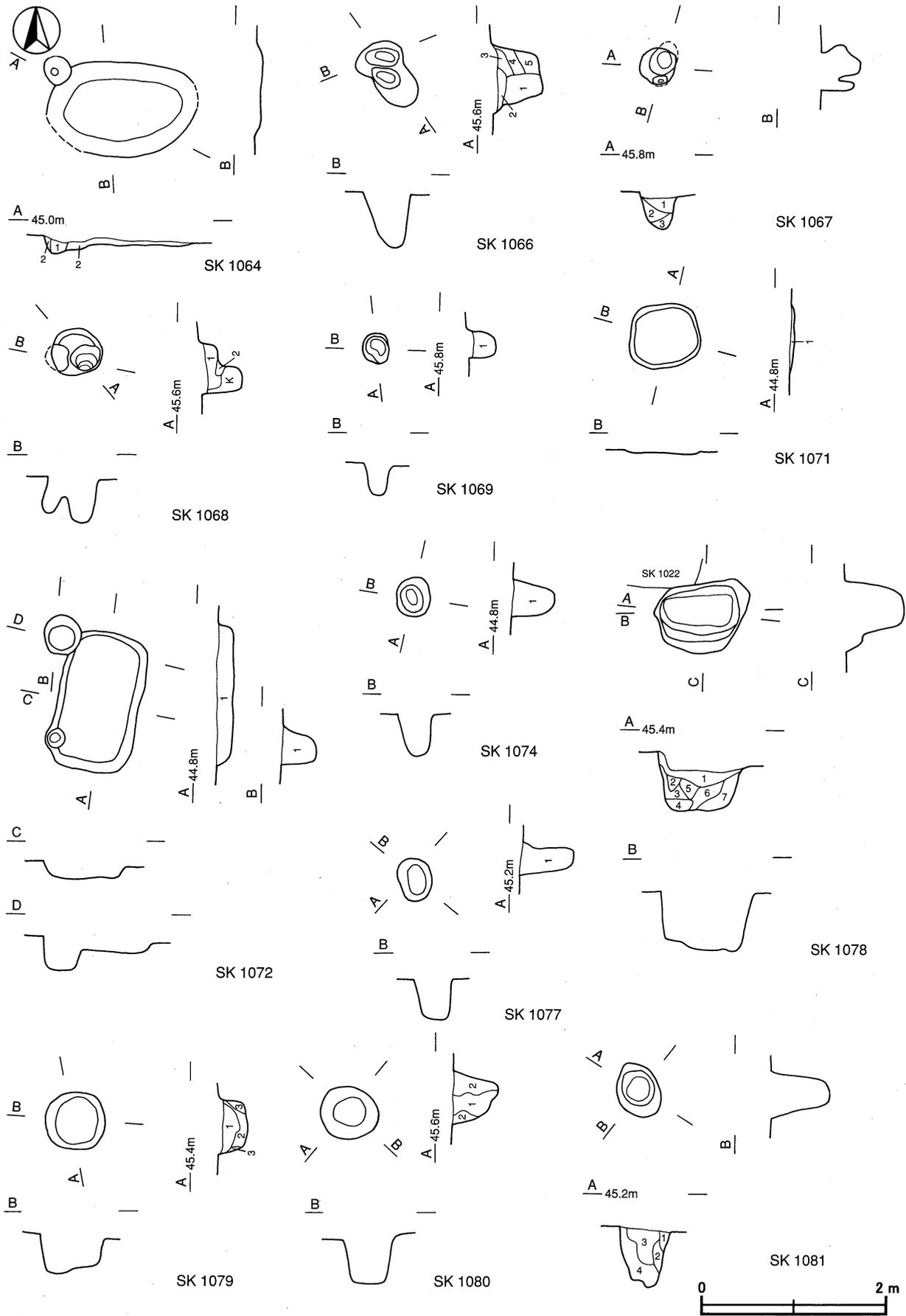
第903図 その他の土坑実測図(49)



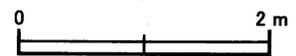
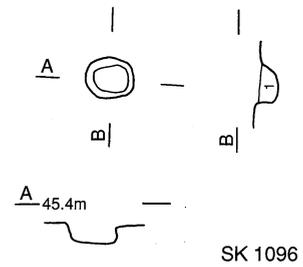
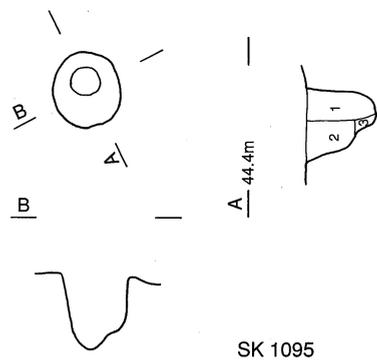
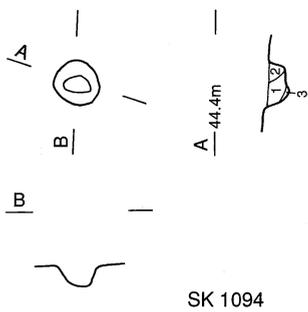
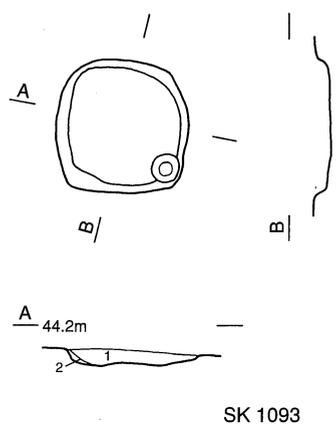
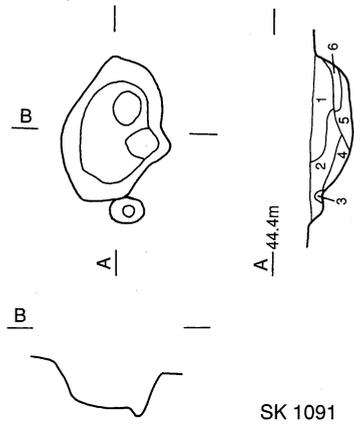
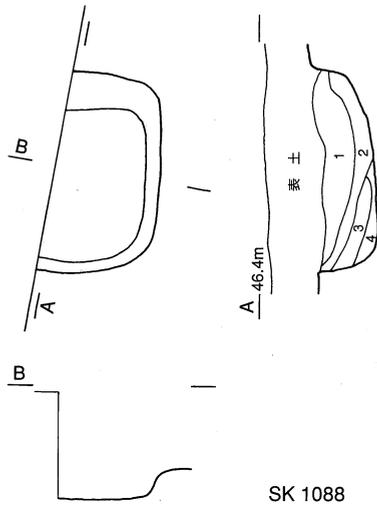
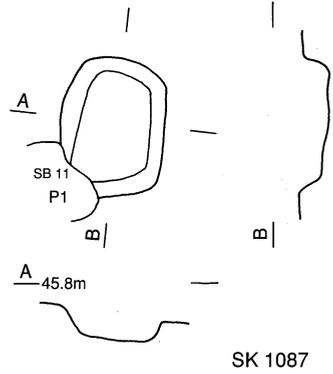
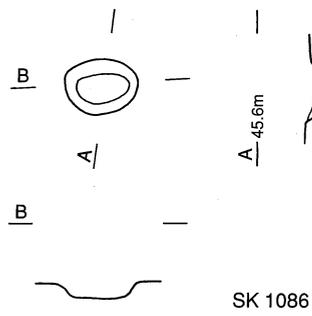
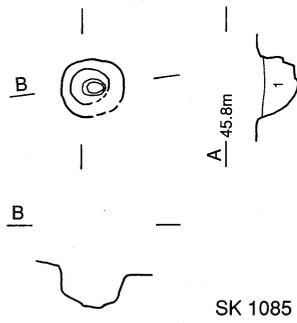
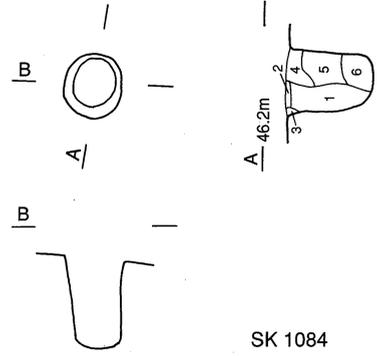
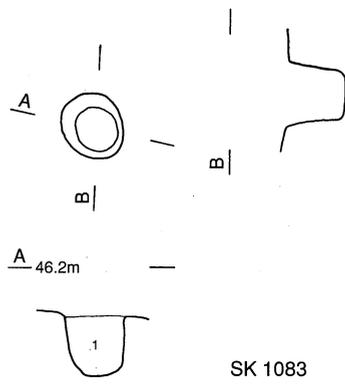
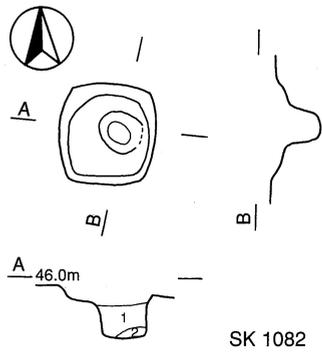
第904図 その他の土坑実測図(50)



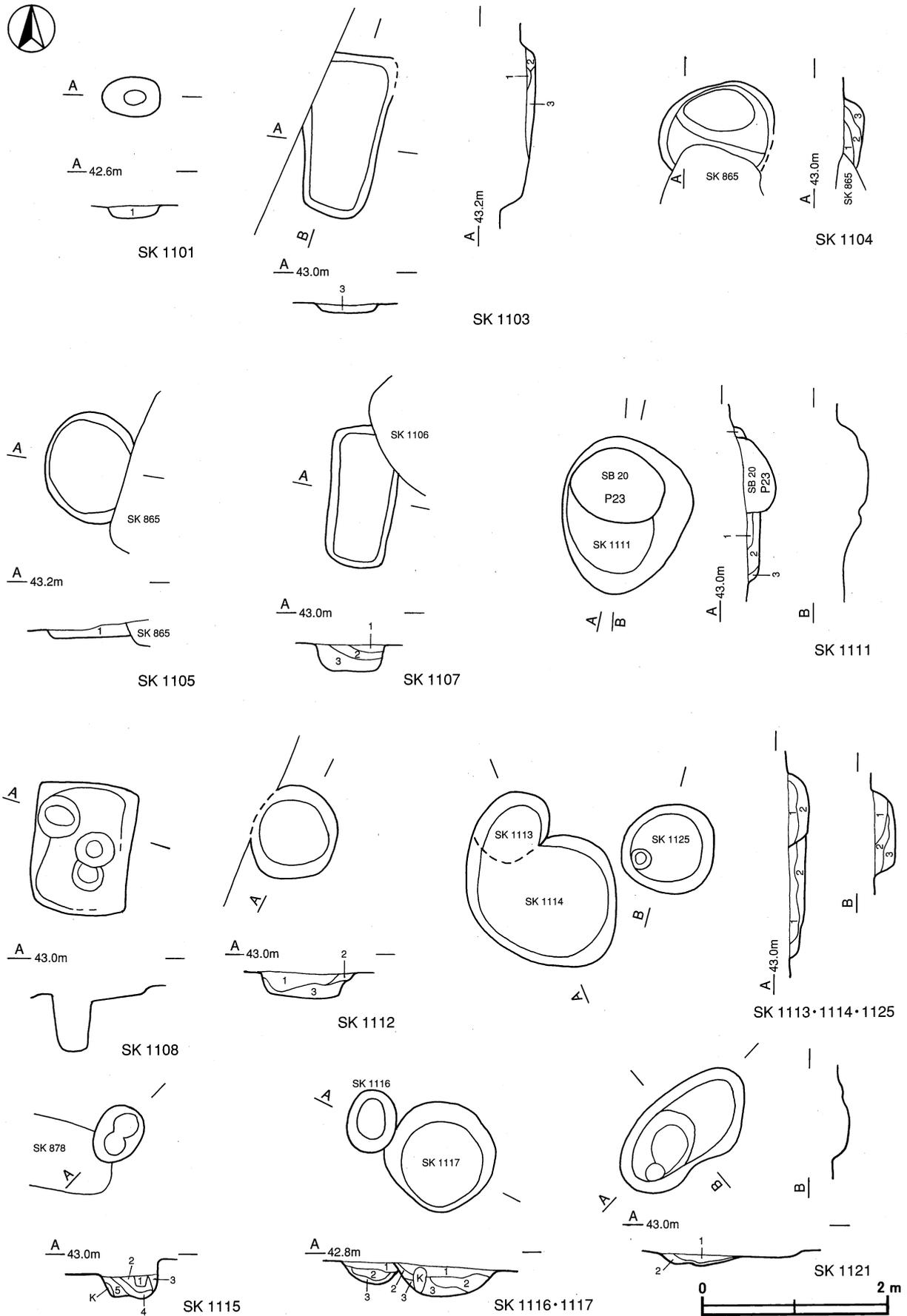
第905図 その他の土坑実測図(51)



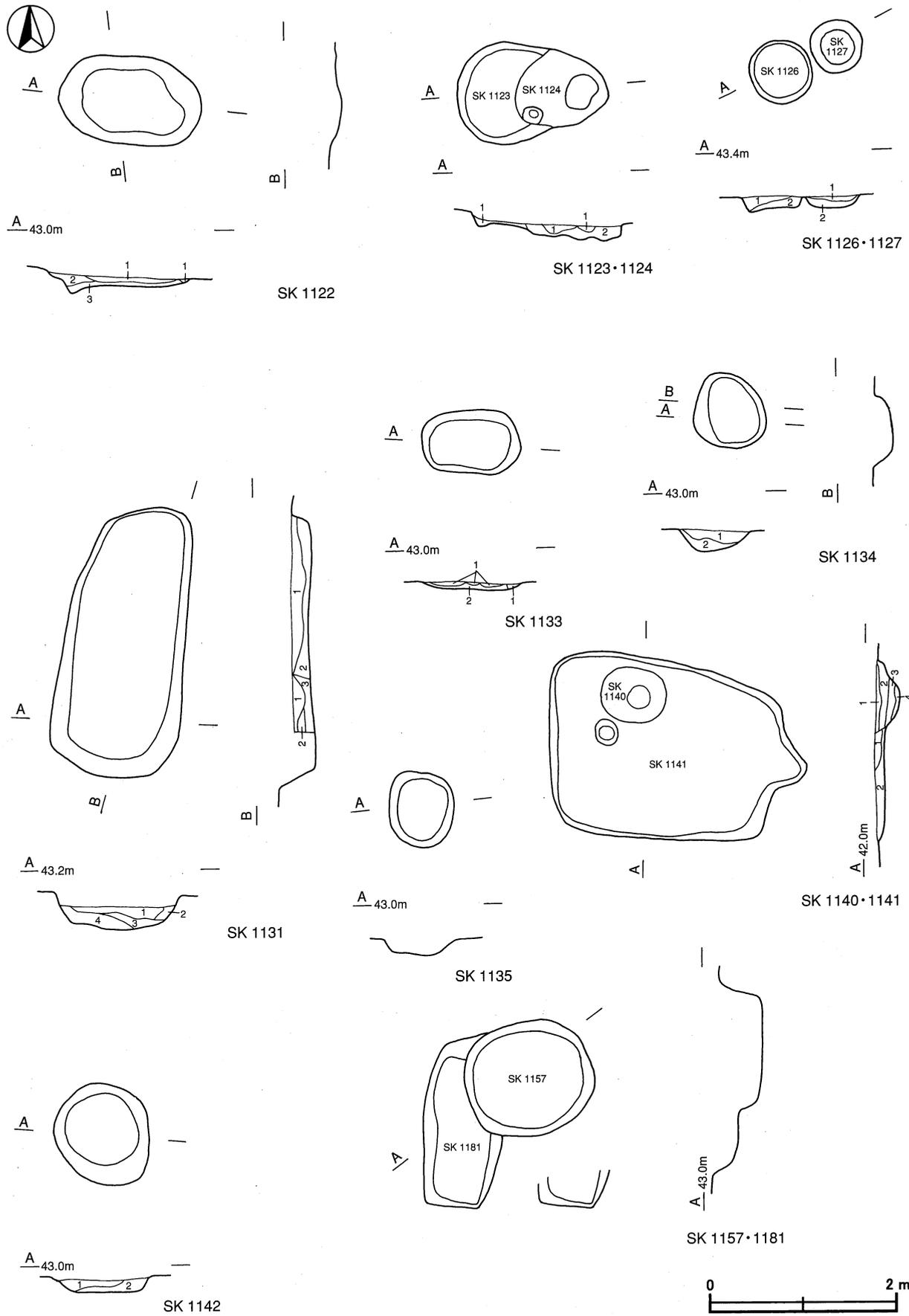
第906図 その他の土坑実測図(52)



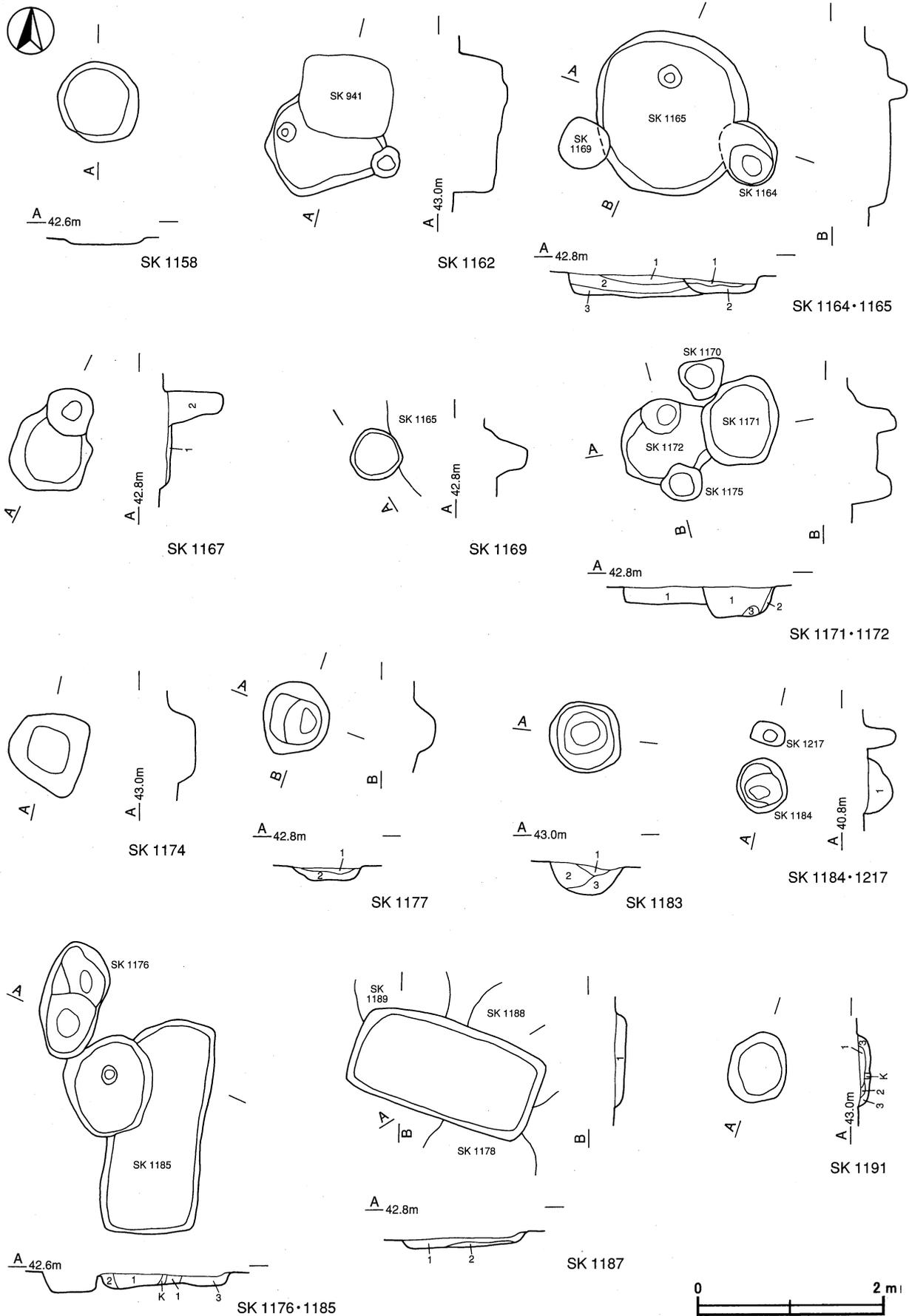
第907図 その他の土坑実測図(53)



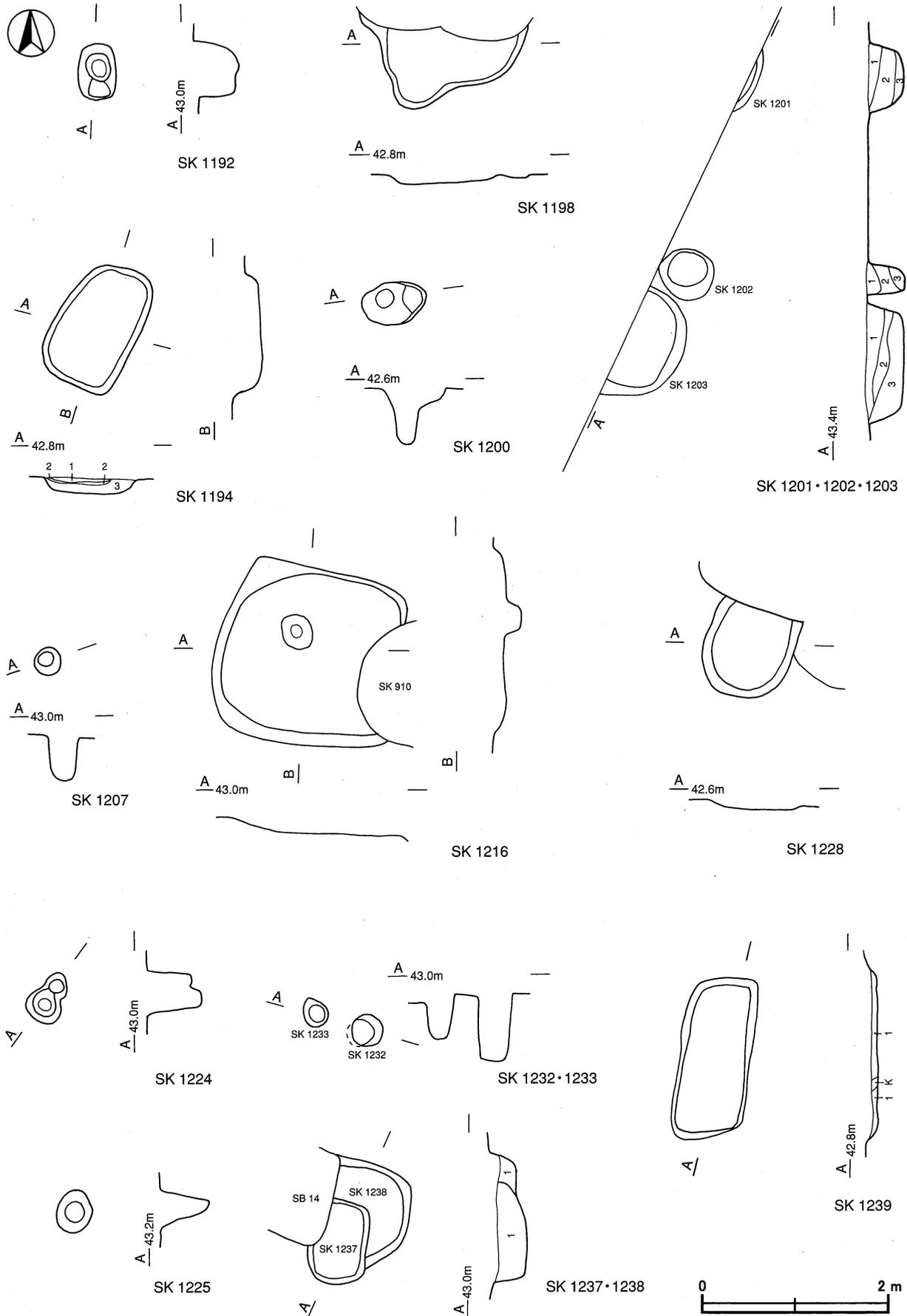
第908図 その他の土坑実測図(54)



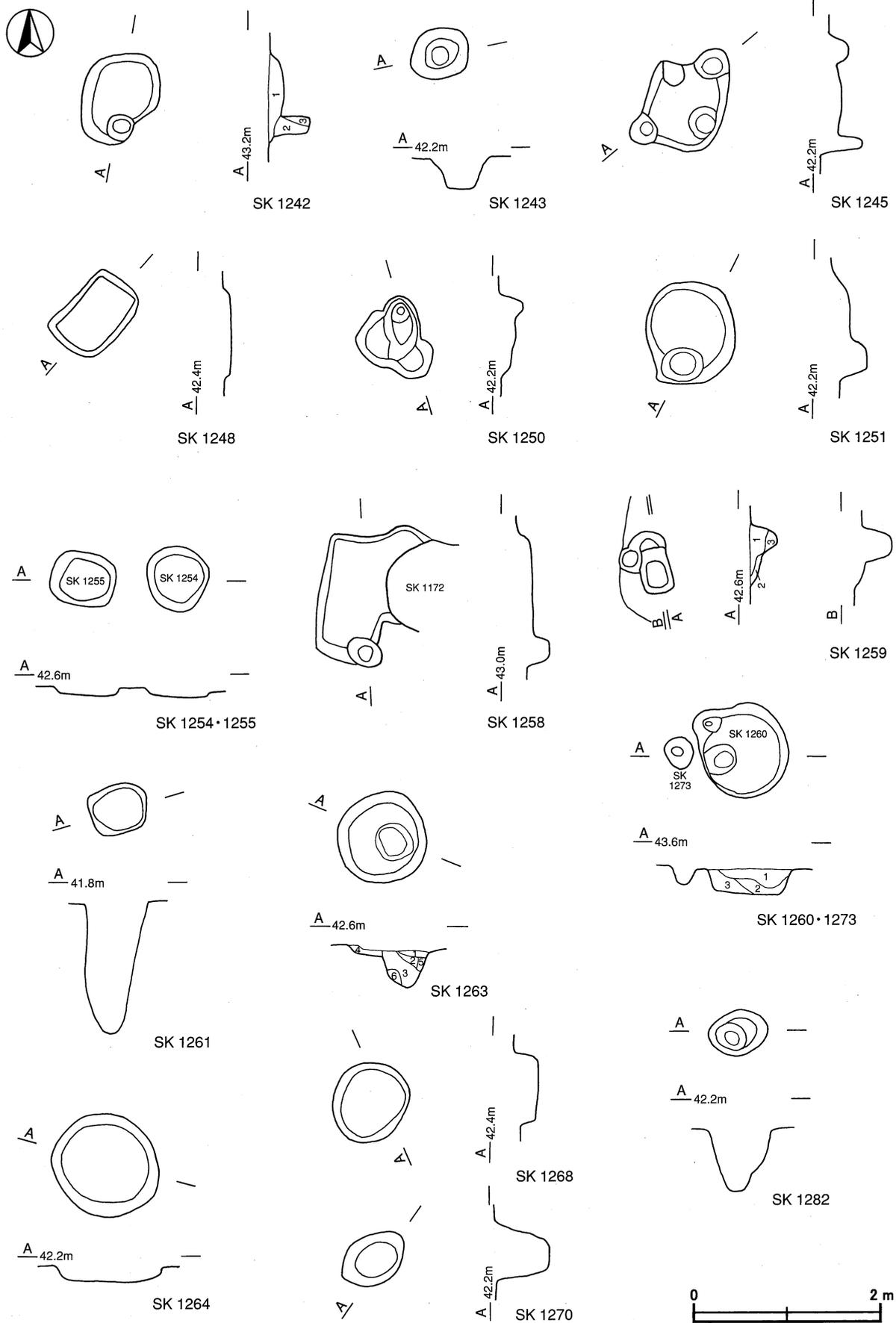
第909図 その他の土坑実測図(55)



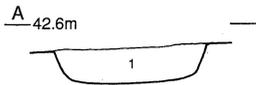
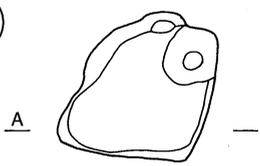
第910図 その他の土坑実測図(56)



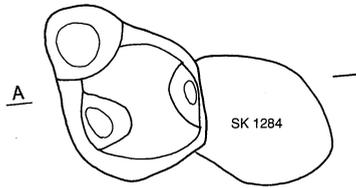
第911図 その他の土坑実測図(57)



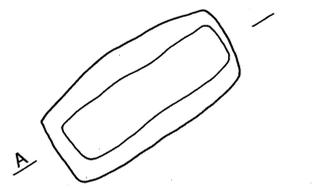
第912図 その他の土坑実測図(58)



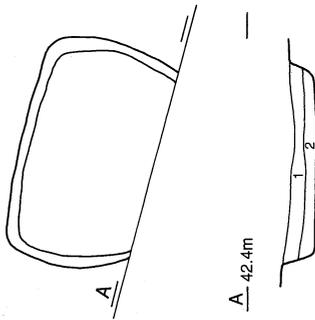
SK 1286



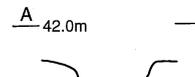
SK 1283



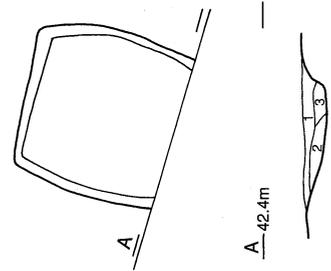
SK 1289



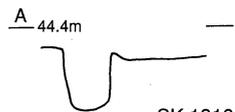
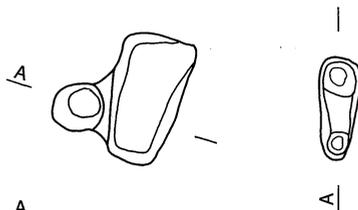
SK 1301



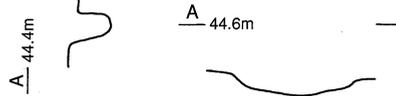
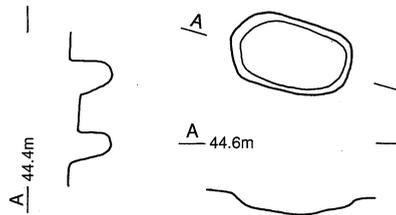
SK 1300



SK 1302

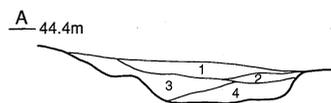
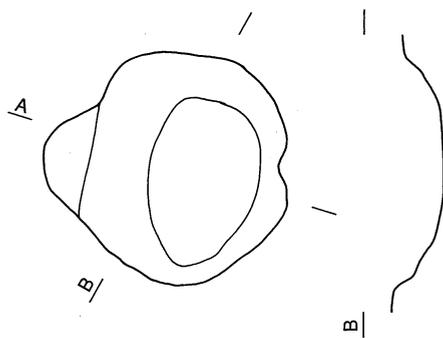


SK 1310

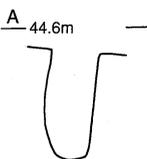
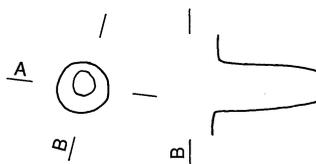


SK 1314

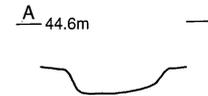
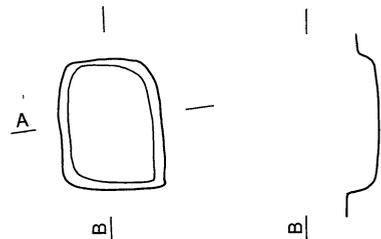
SK 1309



SK 1312



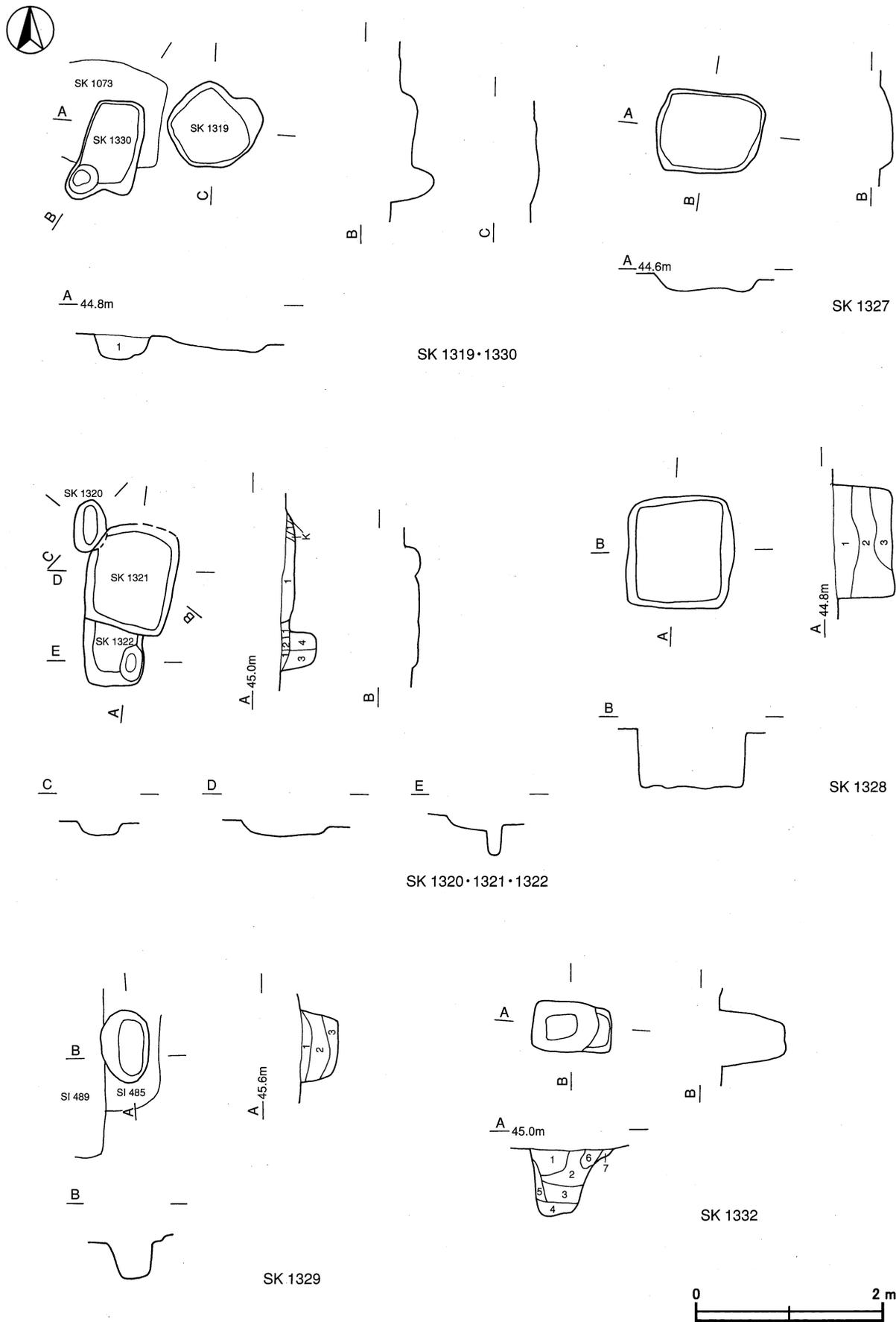
SK 1318



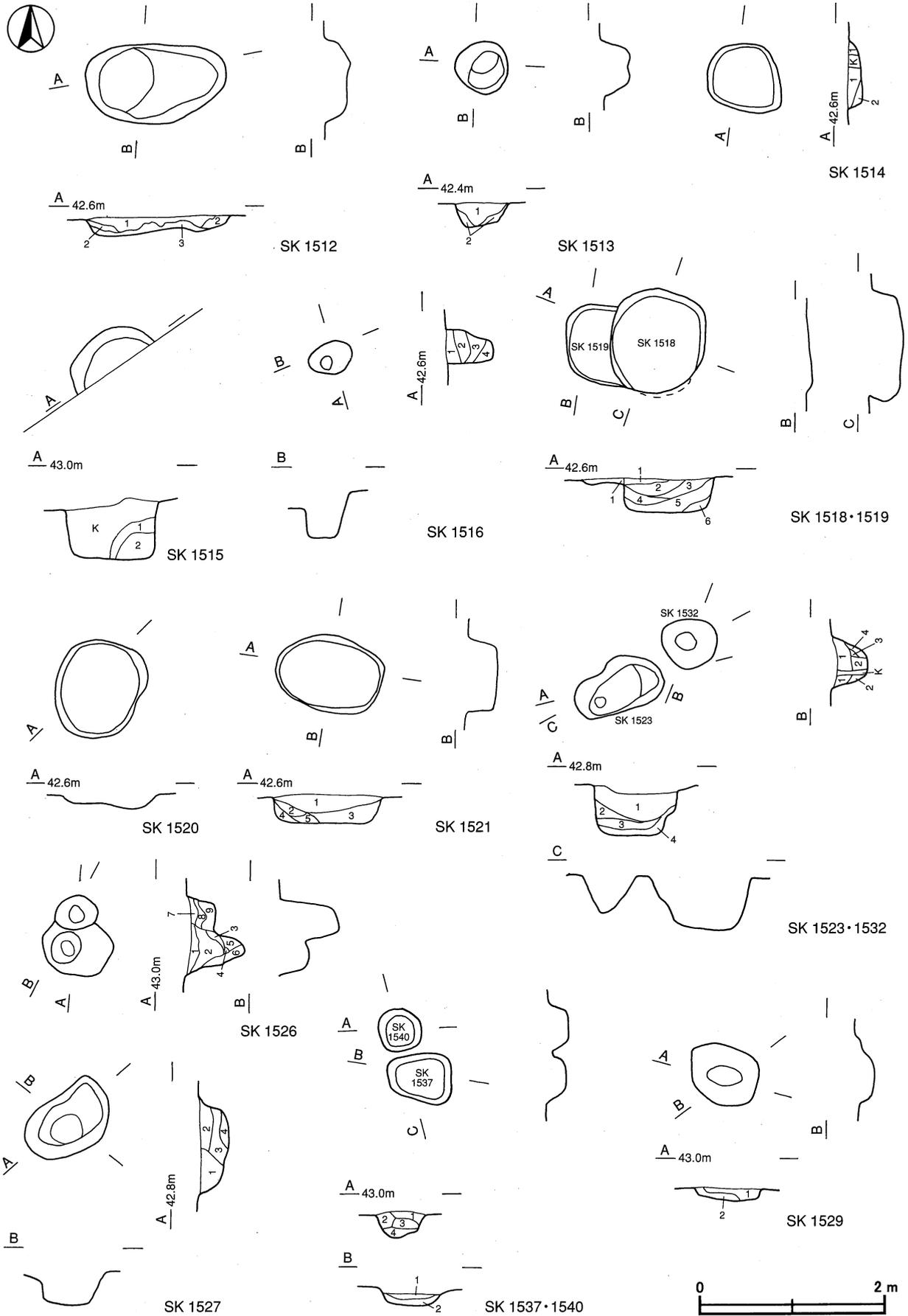
SK 1315



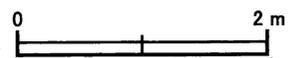
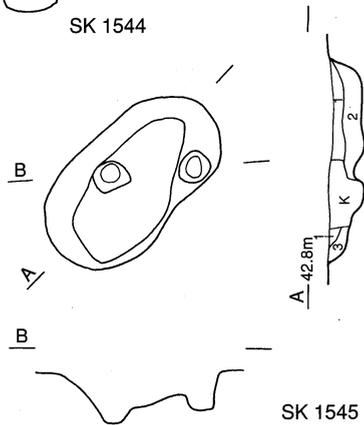
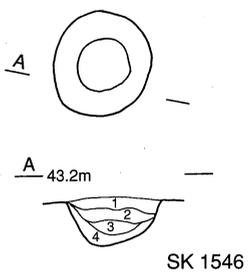
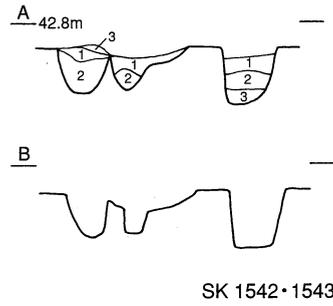
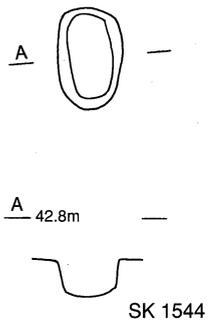
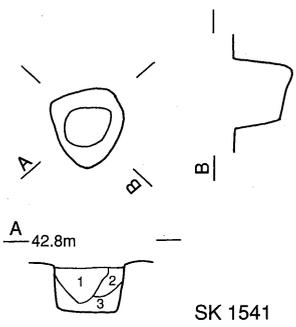
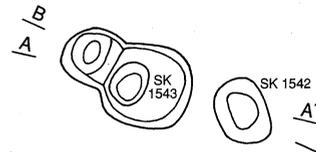
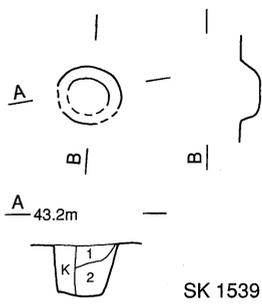
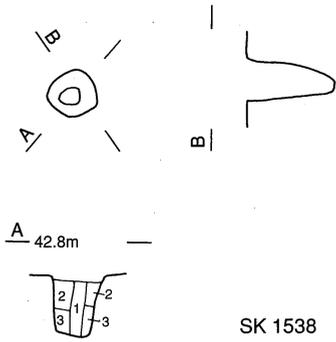
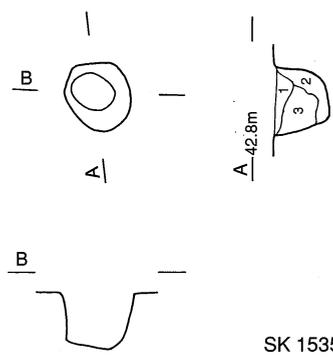
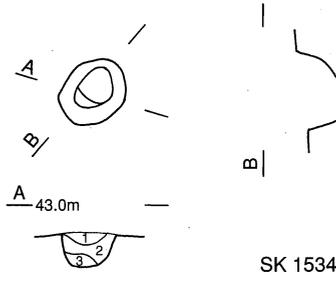
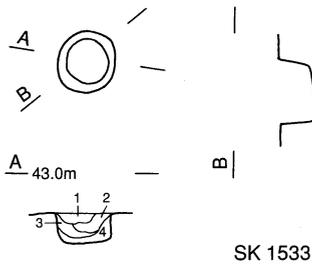
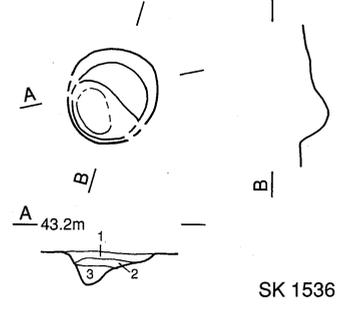
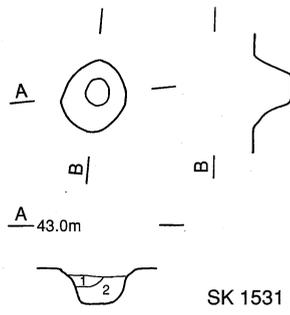
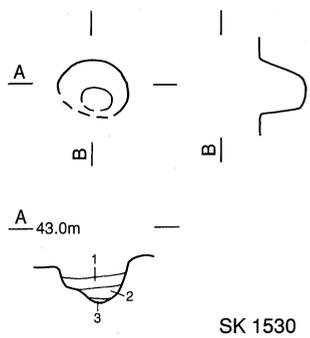
第913図 その他の土坑実測図(59)



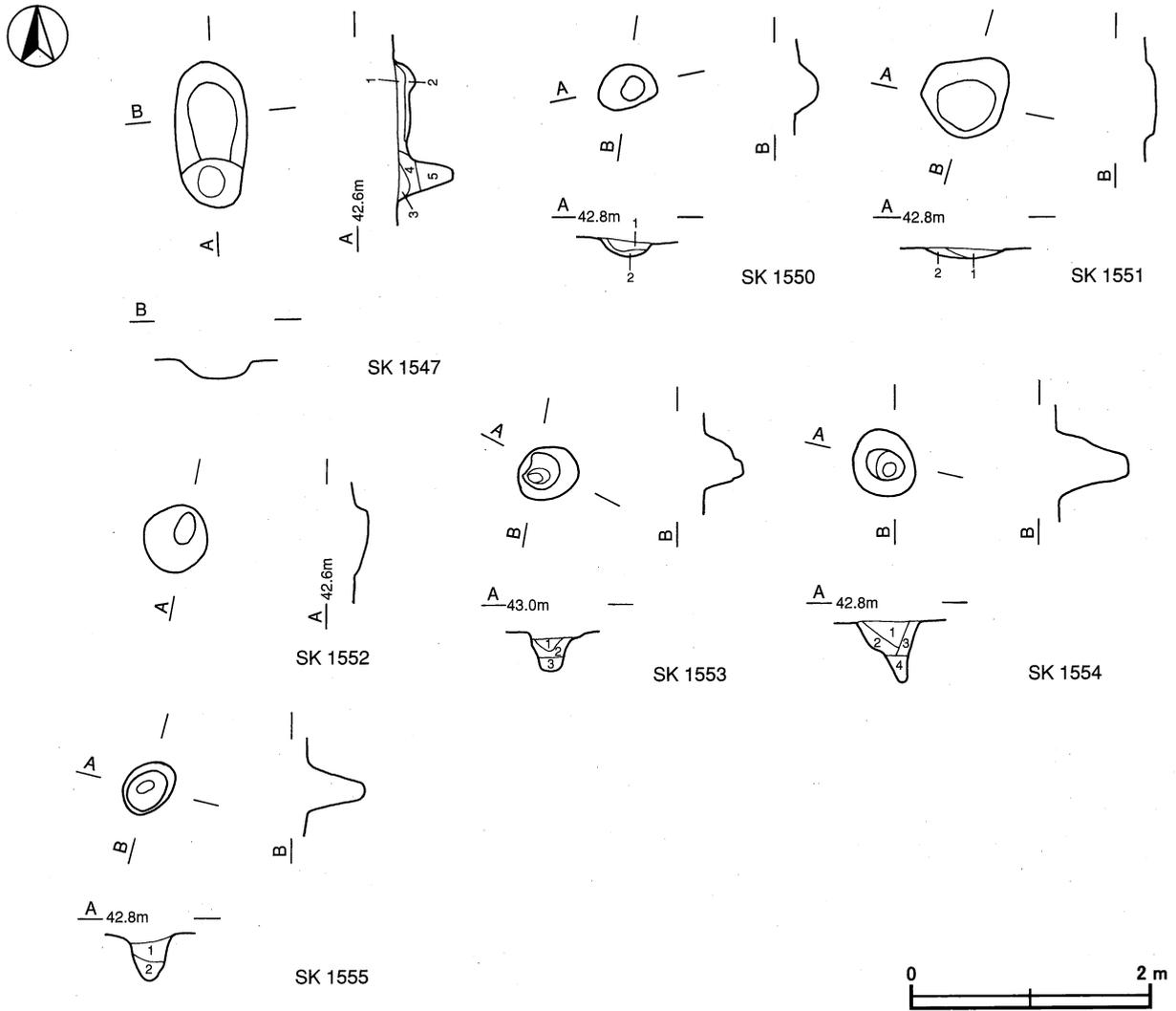
第914図 その他の土坑実測図(60)



第915図 その他の土坑実測図(61)



第916図 その他の土坑実測図(62)



第917図 その他の土坑実測図(63)

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第4号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第6号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第8号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第10号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第11号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第16号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第12号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量

第14号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

第18号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第20号土坑土層解説

- 1 褐色 砂・粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 砂粒・ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第21号土坑土層解説

- 1 褐色 砂粒・粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 砂粒・粘土粒子・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子・炭化物微量

第22号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量
- 5 褐色 ロームブロック多量

第23号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

第24号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第28号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第29号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第31号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量

第33号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第34号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第35号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化物微量

第36号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 極暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量
- 5 暗褐色 焼土粒子中量, ロームブロック少量

第37号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第39号土坑土層解説

- 1 褐色 炭化粒子・焼土粒子中量, 鹿沼バミス少量
- 2 褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

第40号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第41号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 鹿沼バミス少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 鹿沼バミス多量, ローム粒子少量

第42号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 極暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ローム粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子多量

第43号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第45号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第46号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第47号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量

第48号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒色 ローム粒子中量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量, ロームブロック微量

第50号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒色 ローム粒子少量
- 6 灰褐色 ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子微量
- 8 極暗褐色 ローム粒子微量
- 9 黒色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 灰褐色 ローム粒子中量
- 11 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子多量
- 13 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第51号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第53号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第54号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 灰褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

第59号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第60号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第61号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量

第62号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第63号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第64号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第65号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第67号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第68号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第70号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第71号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック, 炭化粒子微量

第72号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第74号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第75号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量

第76号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第78号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 黒色 ロームブロック少量

第79号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第80号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第81号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第83号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第84号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第85号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第86号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第87号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第89号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第90号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第93号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第94号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 8 褐色 ロームブロック少量

第95号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量

第97号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第99号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第100号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

第101号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック少量

第104号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

第107号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第115号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 明赤褐色 焼土粒子多量, 炭化物少量
- 4 黒色 焼土ブロック少量, 炭化物微量
- 5 黒色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 黒色 ロームブロック少量

第119号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 3 黒色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

第122号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 4 黒色 ローム粒子微量
- 5 黒色 ロームブロック中量
- 6 黒色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子少量
- 7 黒色 ロームブロック中量
- 8 黒色 ロームブロック中量

第123号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 黒色 ロームブロック少量
- 8 黒色 ロームブロック少量

第134号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子多量, 炭化物・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量

第136号土坑土層解説

- 1 黒褐色 鉄片・鉄滓多量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 鉄滓微量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

第140号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第141号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第142号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量
- 2 黒色 炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・白色粒子微量

第143号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量

第144号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第148号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第151号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第152号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

第154号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量

第155号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第156号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

第157号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

第158号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第161号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化物中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化物中量, ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第162号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 3 黒色 ロームブロック・炭化物少量

第163号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第164号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック中量

第276号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量

第277号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第278号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒色 ロームブロック・焼土ブロック少量

第281号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第283号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量

第288号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土粒子少量

第290号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第291号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量

第292号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第293号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第294号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第295号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

第296号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第297号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第298号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第301号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第302号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第303号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒色 炭化物・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第304号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第308号土坑土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 粘土粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第309号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第310号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

第313号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第314号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第315号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第316号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第317号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第318号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

第319号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量

第320号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

第324号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第325号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第327号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第328号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第329号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第331号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第332号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第333号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第334号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第338号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第339号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第340号土坑土層解説

- 1 褐灰色 焼土粒子・粘土粒子中量, ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第341号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

第342号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第343号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第344号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第345号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第347号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第348号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

第349号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第350号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量

第351号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第353号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第354号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第355号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第356号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量

第357号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第359・360号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量

第361号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第363号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第364号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第365号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第366号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第367号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第369号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第370号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量

第371号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第372号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第373号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

第374号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第435号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化物中量, ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化物少量

第438号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第439号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第441号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第442号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第443号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第444号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第445号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第446号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第447号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 8 褐色 ロームブロック中量
- 9 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第450号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第451号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第453号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第454号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化材微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第460号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化物中量, ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 黒色 炭化物中量, ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第463号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化材微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第464号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子少量

第501号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第502号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第503号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第504号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 極褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 3 極褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

第505号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第506号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量

第507号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 極暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化物少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

第508号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

第509号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第510号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第511号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第513号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量

第514号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第515号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第516号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第519号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第523号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

第532号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第533号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第534号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第535号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第536号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第537号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第538号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第542号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第546号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第547号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第548号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第554号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第555号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第556号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量

第557号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量

第558号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第560号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第561号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第562号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第563号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 2 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第564号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・粘土少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第571号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第575号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第581号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第582号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第589号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第590号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第596号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第601号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子中量, ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 極暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第602号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第604号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第605号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第606号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量

第607号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第608号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第609号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第610号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第611号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第615号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第616号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第618号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第619号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第620号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第622号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子少量

第626号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第627号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

第628号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第629号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

第633号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第636号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第637号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第638号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

第639号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第643号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

第650号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

第653号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量

第670号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第671号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 焼土ブロック中量

第682号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 鹿沼パミス微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 鹿沼パミス微量
- 5 黒褐色 鹿沼パミス中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
- 8 褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量

第691号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

第692号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第698号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第699号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第706号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・鹿沼パミス微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量, 炭化物・鹿沼パミス微量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック中量

第712号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第713号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第720号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量

第722号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第723号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第726号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・灰少量

第727号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量

第728号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

第729号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量

第730・731号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・鹿沼パミス微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第733号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量

第734号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第735号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第736号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第738号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第739号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第740号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第743号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第746号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第747号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第748号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 4 褐色 鹿沼パミス多量, ロームブロック中量

第750号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第755号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 焼土ブロック少量

第756号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

第757号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス微量

第759号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒色 ロームブロック中量

第760号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量

第761号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒色 ロームブロック少量

第763号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第764号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

第771号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第772号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量

第782号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第786号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・白色粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第789号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第791号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量

第792号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第793号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第795号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第801号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第803号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第810号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 8 黒暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量
- 10 褐色 ロームブロック少量

第811号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第812号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第813号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・鹿沼パミス少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第817号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第818号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子・鹿沼パミス微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量

第819号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第820号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第822号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第823号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第830号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス少量, 焼土粒子微量

第835号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第836号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第837号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第838号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第839号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第840号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量, 粘土ブロック微量

第841号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量

第842号土坑土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼パミス中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 鹿沼パミス中量, ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 鹿沼パミス少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 鹿沼パミス微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量, 鹿沼パミス少量, 焼土粒子微量

第843号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・鹿沼パミス少量
- 4 橙褐色 鹿沼パミス多量
- 5 暗褐色 ローム粒子・鹿沼パミス少量

第844号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化物中量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第845号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・鹿沼パミス中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量

第846号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 鹿沼パミス中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子・鹿沼パミス中量, 炭化粒子微量

第849号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 鹿沼パミス少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 鹿沼パミス少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第854号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第855号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量

第856号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第857号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第858号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・焼土ブロック・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第861号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・鹿沼パミス少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 鹿沼パミス中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第865号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック少量

第867号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

第873号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 黒色 炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第1005号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第1006号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第1007号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第1008号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1009号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量

第1012号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第1013号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第1015号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第1016号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第1017号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 (柱の抜き取り痕)
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第1018号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第1019号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第1025号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第1020号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第1021号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第1022号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第1023号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 (柱の抜き取り痕)
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量 (版築状の埋土)
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 (版築状の埋土)
- 5 暗褐色 ロームブロック少量 (版築状の埋土)
- 6 褐色 ロームブロック少量

第1026号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第1027号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量 (柱抜き取り痕)
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第1028号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

第1029号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第1030号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1031号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子微量

第1032号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第1033号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・馬骨微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第1035号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1036号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第1037号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第1038号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第1039号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第1040号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第1041号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第1042号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第1043号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1044号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第1045号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1053号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第1054号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第1063号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

第1064号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第1066号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量

第1067号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第1068号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第1069号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第1071号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第1072号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第1074号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第1077号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第1078号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック少量

第1079号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第1080号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 (柱の抜き取り痕)
- 2 褐色 ロームブロック少量

第1081号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第1082号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第1083号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

第1084号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量(柱の抜き取り痕)
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

第1085号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子微量

第1086号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

第1088号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第1091号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

第1093号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第1094号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第1095号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第1096号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第1101号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1103号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1104号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第1105号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1107号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第1111号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1112号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量

第1113号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第1114号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1115号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 3 黒色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第1116号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第1117号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 焼土ブロック・炭化材少量
- 2 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

第1121号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第1122号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第1123号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1124号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第1125号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第1126号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1127号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第1131号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第1133号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第1134号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1140号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1141号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量

第1142号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第1164号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第1165号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第1167号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量, 炭化粒子微量

第1171号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第1172号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1183号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量

第1184号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第1185号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第1187号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第1191号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第1194号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 2 褐色 鹿沼パミス中量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量

第1201号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第1202号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第1203号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1237号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

第1238号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第1239号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第1242号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第1259号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第1260号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量

第1263号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量
- 6 褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量

第1286号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第1301号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第1302号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第1312号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第1321号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第1322号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第1328号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第1329号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1330号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・骨粉微量

第1332号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第1512号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第1513号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第1514号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

第1515号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第1516号土坑土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼パミス少量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量

第1518号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量

第1519号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第1521号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第1523号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 鹿沼パミス少量, ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第1526号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ロームブロック微量
- 9 暗褐色 ロームブロック少量

第1527号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第1529号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第1530号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第1531号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第1532号土坑土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼パミス中量, ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 鹿沼パミス微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第1533号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第1534号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第1535号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第1536号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第1537号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第1538号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第1539号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第1540号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量
- 2 極暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量, ロームブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 4 暗赤褐色 ロームブロック少量

第1541号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第1542号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第1543号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第1545号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第1546号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック中量

第1547号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量

第1550号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第1551号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック少量

第1553号土坑土層解説

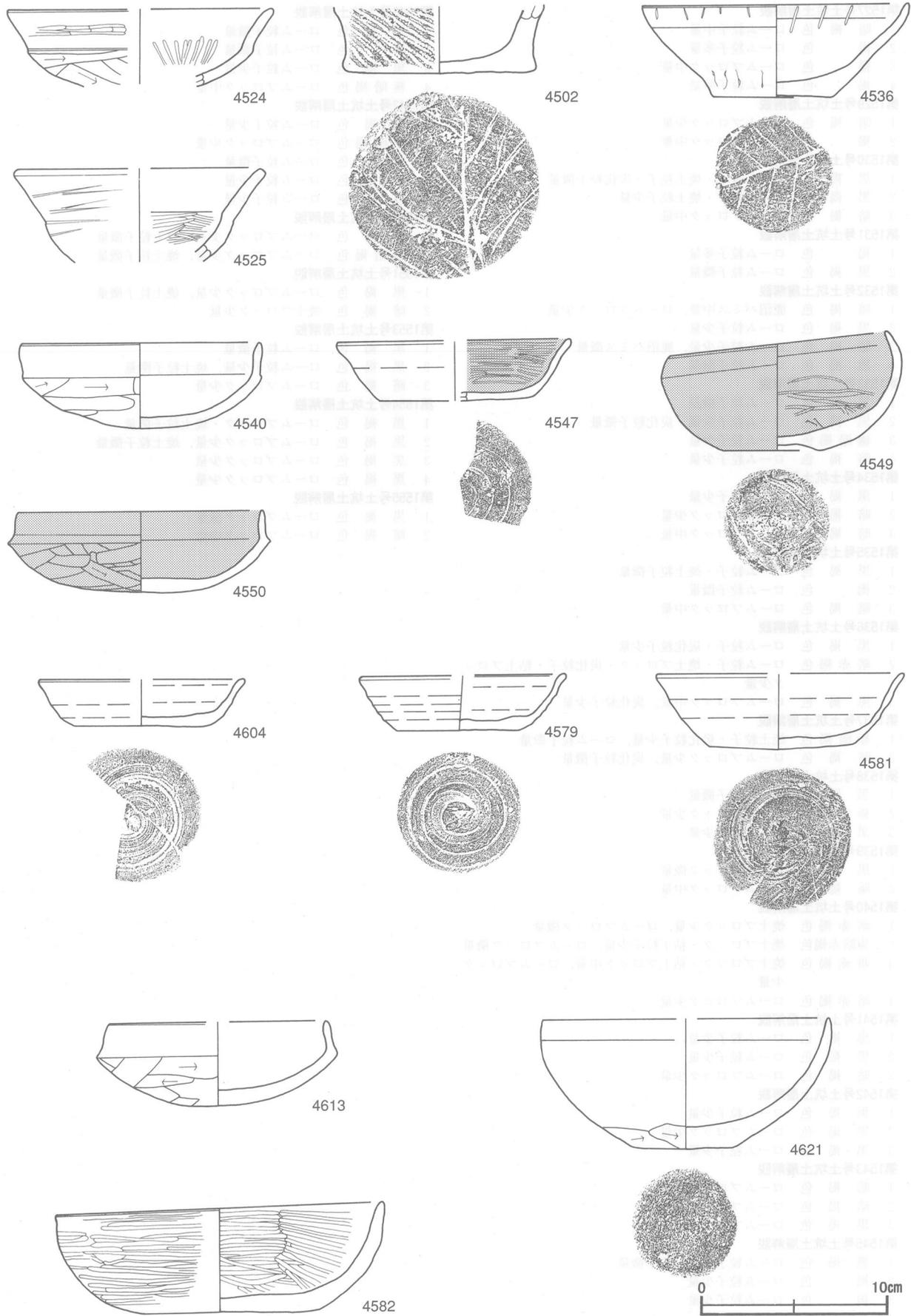
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第1554号土坑土層解説

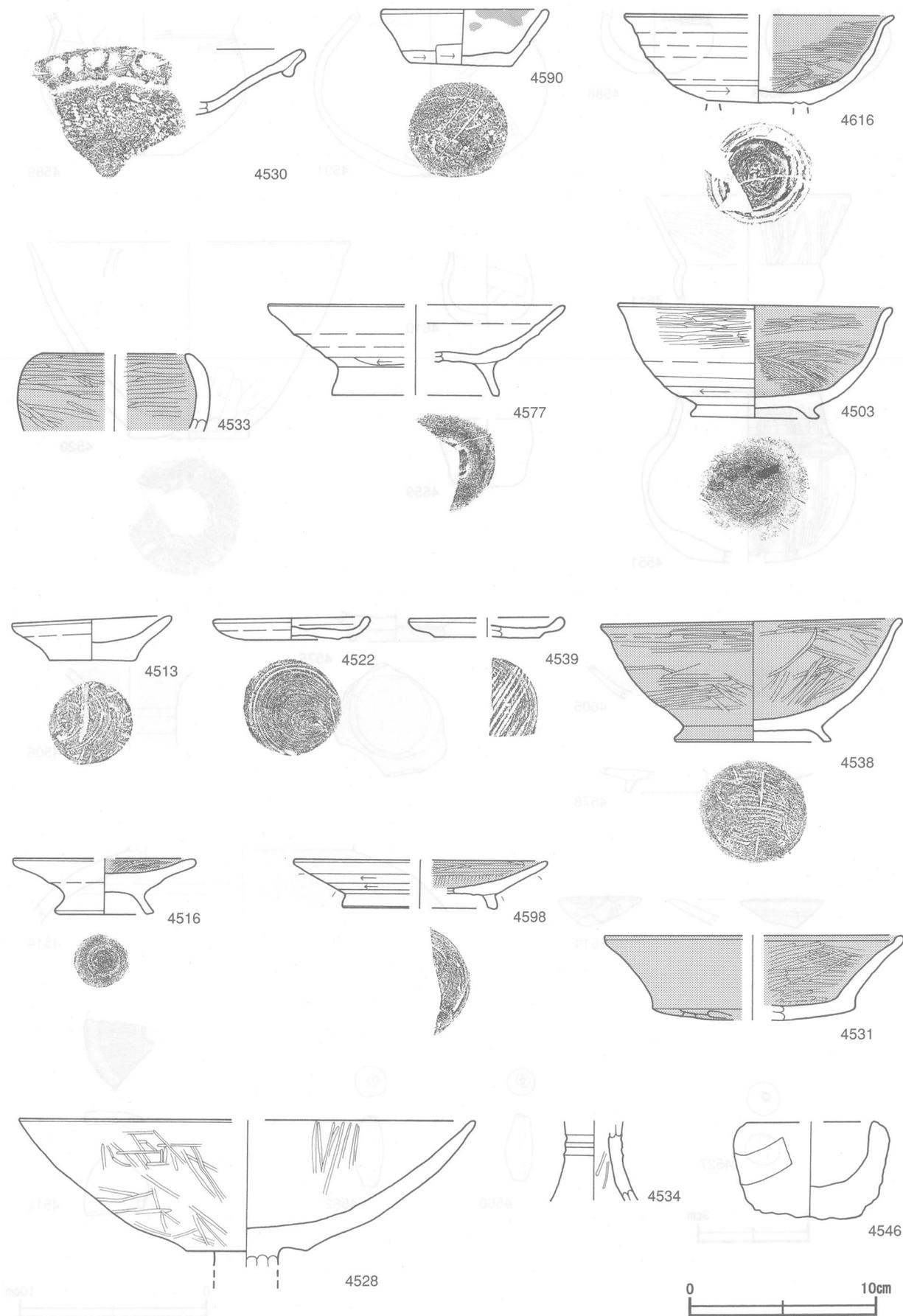
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第1555号土坑土層解説

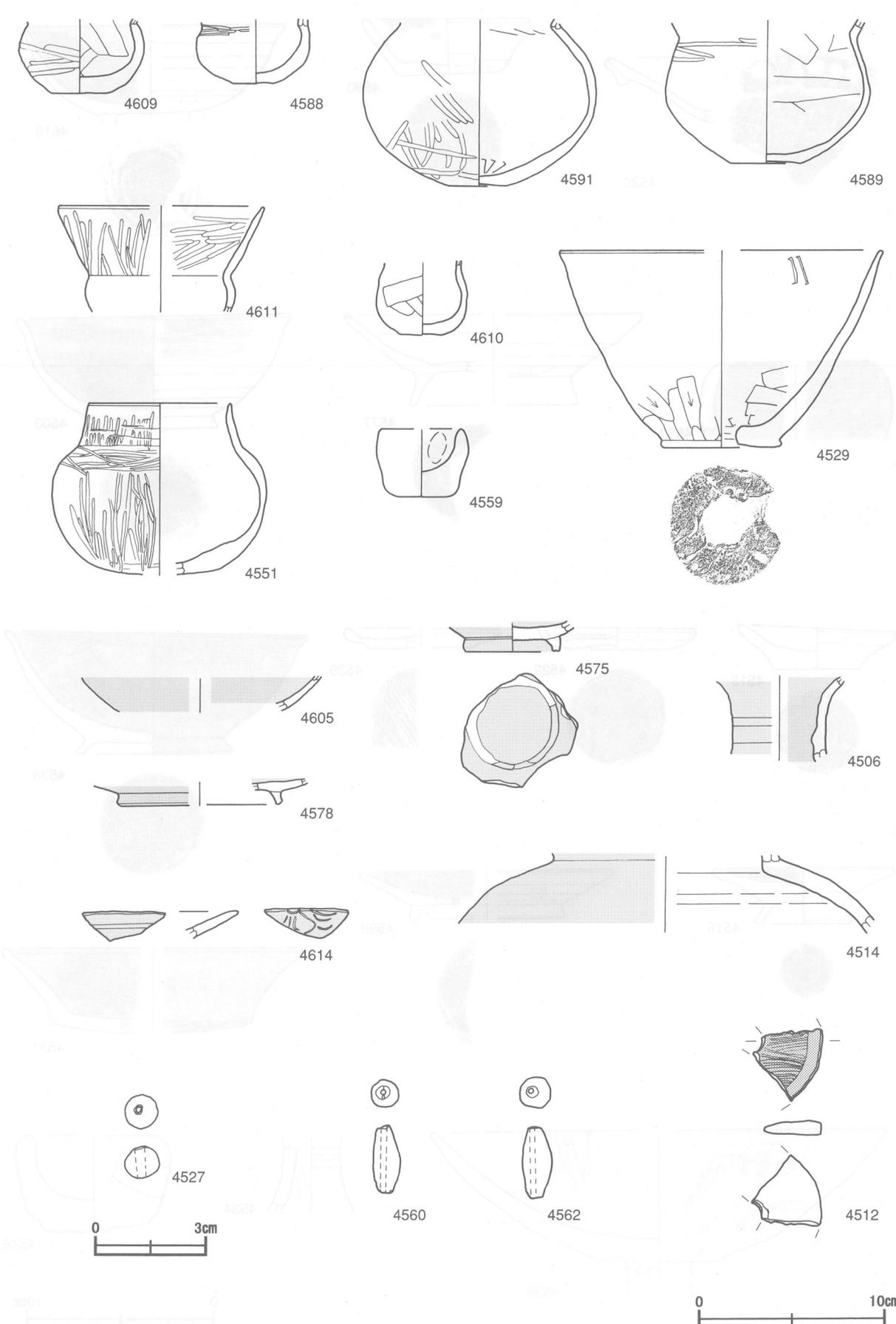
- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量



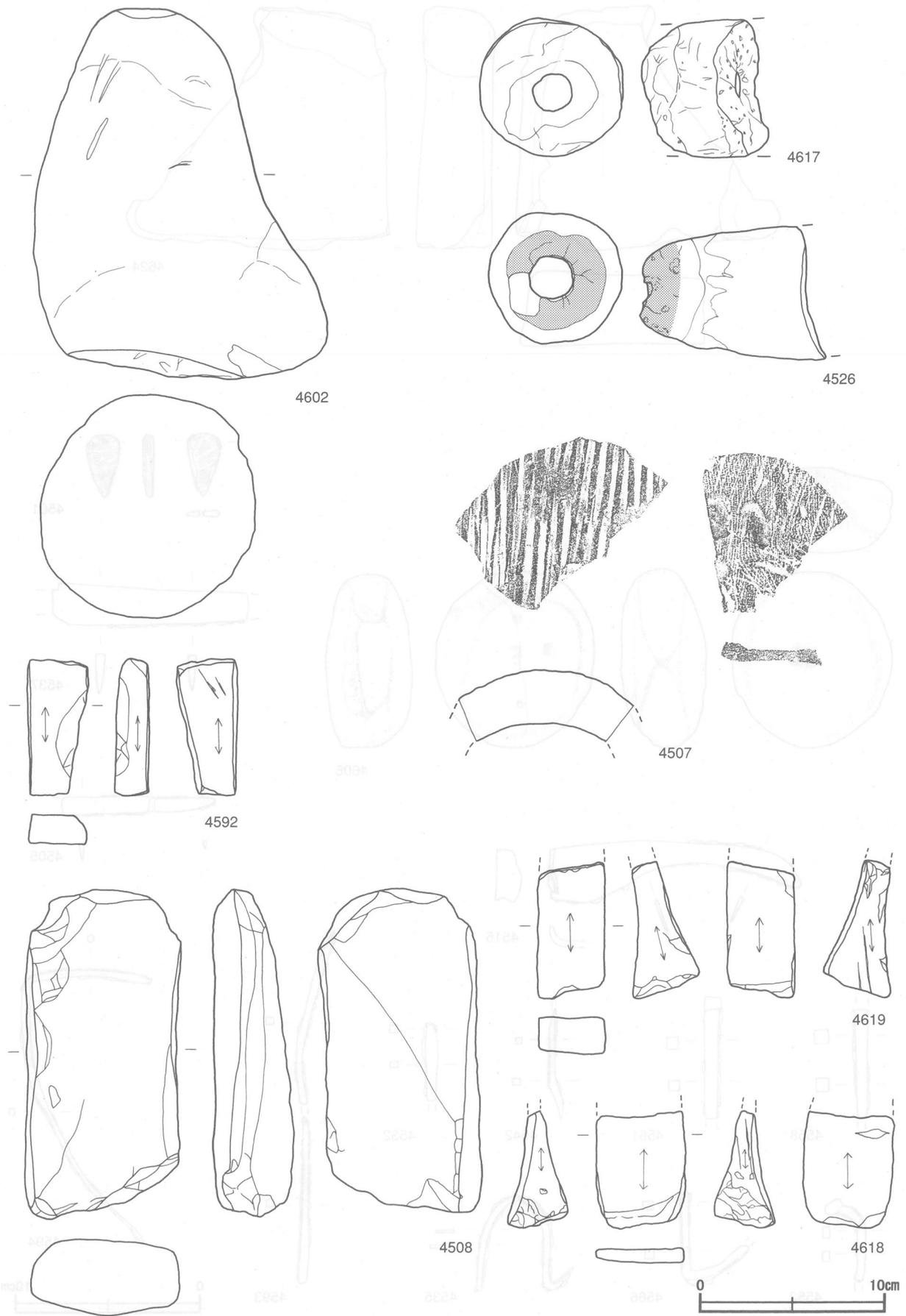
第918図 その他土坑出土遺物実測図(1)



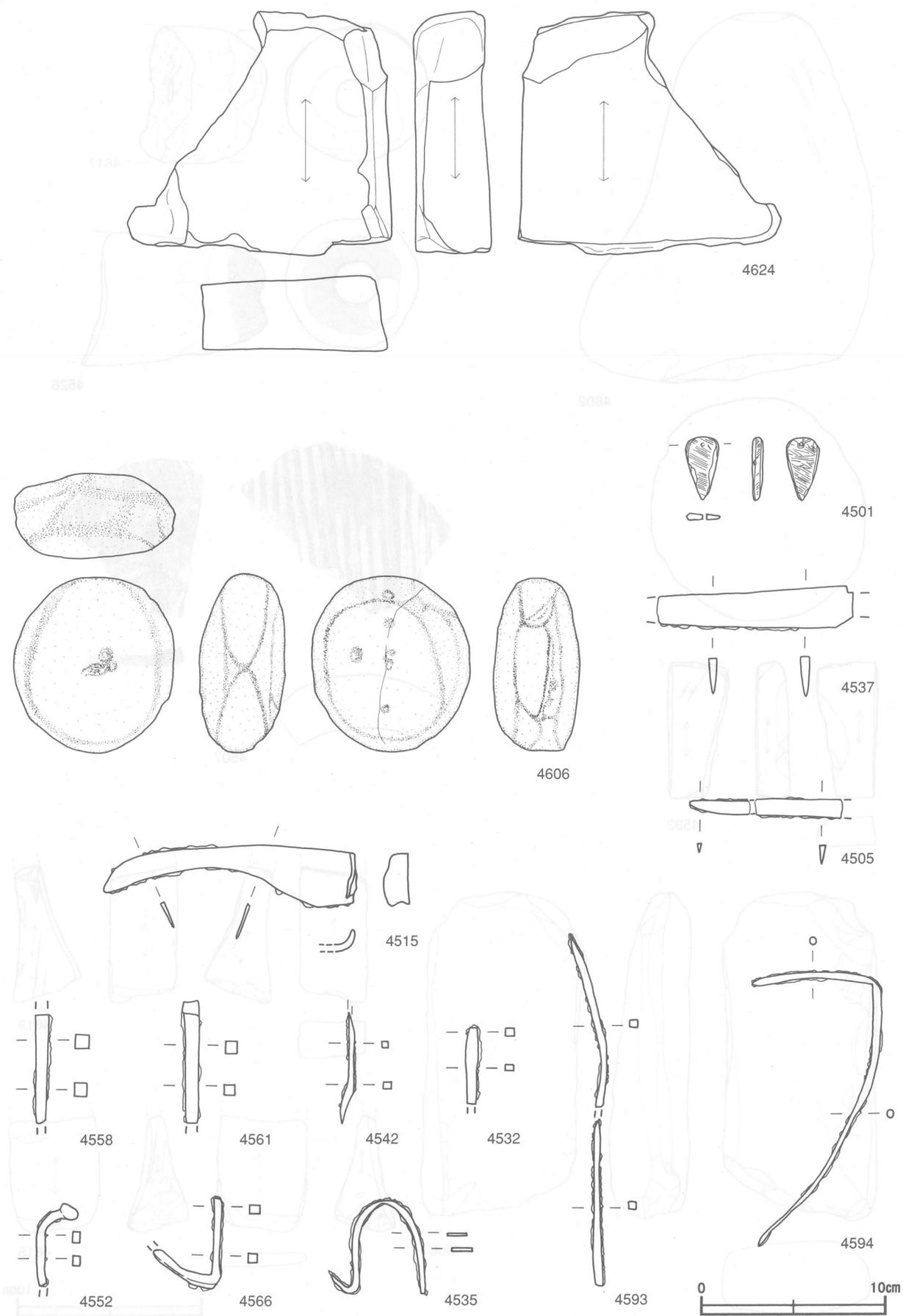
第919図 その他土坑出土遺物実測図(2)



第920図 その他土坑出土遺物実測図(3)



第921図 その他土坑出土遺物実測図(4)



第922図 その他土坑出土遺物実測図(5)

その他の土坑出土遺物観察表 (第918図～第922図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4502	弥生土器	壺	-	(3.6)	10.2	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	付加条1種, 底部木葉痕	SK48	5%
4503	土師器	高台付椀	14.5	6.0	6.8	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け, 体部下端回転ヘラ削り	SK60	90% PL238 底部内面に焼成前刻書「X」
4506	灰釉陶器	長頸瓶	-	(4.6)	-	緻密	灰オリーブ・灰白	良好	内・外面ロクロナデ, 外面に沈線あり	SK87	5%
4513	土師器	小皿	8.3	2.9	4.6	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り・体部ロクロナデ	SK174	100% PL238
4514	灰釉陶器	短頸壺	-	(4.1)	-	緻密	灰オリーブ・灰白	良好	体部ロクロナデ, 釉は流し掛け	SK186	5% 東濃産 PL248
4621	土師器	坏	[15.4]	7.0	5.4	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	SK199 南部中層	70%
4516	土師器	高台付皿	[9.6]	3.0	4.6	雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	SK202 北西部下層	40%
4522	土師器	小皿	8.2	1.3	5.1	雲母・長石・石英	にぶい橙	良好	底部回転糸切り, 体部ロクロナデ	SK262 南部中層	100% PL238
4524	土師器	坏	[14.2]	(4.1)	-	石英・赤色粒子	明赤褐	普通	内面放射状の暗紋	SK267 東部中層	15%
4525	土師器	坏	[13.0]	(5.0)	-	雲母・赤色粒子	橙	二次焼成	体部外面に研ぎ痕あり	SK267 西部上層	10%
4616	土師器	高台付椀	[14.4]	(4.8)	-	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け, 体部回転ヘラ削り	SK308	40%
4528	土師器	高坏	[24.4]	(10.0)	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ, 内・外面ヘラ磨き	SK334 北部上層	30%
4529	土師器	甌	[17.2]	10.6	6.2	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ, 内面ヘラナデ, 単孔式	SK334 北部中層	20%
4530	弥生土器	高坏カ	-	(3.5)	-	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	複合口縁, 指頭押圧	SK338	5%
4531	土師器	高坏	[15.8]	4.0	-	砂粒	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ・外面横ナデ	SK348 中央部上層	70%
4533	土師器	鉄鉢形土器	[7.8]	(4.2)	-	砂粒	黒	普通	体部内・外面でいねいなヘラ磨き	SK352 西部中層	10%
4534	須恵器	高坏	-	(4.7)	-	砂粒	灰	良好	外面に2条の沈線, 透かし孔あり	SK359 南部下層	10%
4536	土師器	坏	14.2	5.0	6.4	雲母	にぶい橙	普通	体部外面荒いナデ, 口縁部横ナデ	SK382 覆土中	100% PL239
4538	土師器	高台付椀	16.2	6.6	8.3	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	底部回転糸切り後, 高台貼り付け, 内・外面ヘラ磨き	SK403 中央部底面	70%
4614	緑釉陶器	段皿	-	(1.5)	-	緻密	オリーブ・暗緑	良好	体部内・外面ロクロナデ, 陰刻花紋	SK403	5% PL247
4539	土師器	小皿	[8.0]	1.0	[5.6]	雲母・長石	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後, 荒いヘラナデ	SK449 南部下層	25%
4540	土師器	坏	12.7	4.6	-	雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部内面横ナデ	SK458 中央部中層	98% PL239
4591	土師器	埴	-	(9.0)	3.2	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	SK542 北西部中層	30%
4598	土師器	高台付皿	[13.4]	2.6	[8.2]	雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け, 体部下端回転ヘラ削り	SK578	15%
4546	土師器	手捏土器	[6.8]	5.3	5.0	雲母・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ナデ, 底部外面に被熱痕	SK638 北西部底面	50% 内面に炭化物付着
4547	土師器	坏	[12.4]	3.2	[8.2]	砂粒	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	SK643 覆土中層	10%
4549	土師器	坏	11.6	6.3	5.2	雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ, 底部ヘラナデ	SK691 覆土下層	85% PL239
4609	土師器	埴	-	(3.9)	3.0	雲母・石英	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	SK698 覆土下層	40%
4610	土師器	ミニチュア土器	-	(4.0)	2.0	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ	SK698 覆土下層	85% PL239
4611	土師器	埴	[11.0]	(5.7)	-	雲母・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ, ハケ目調整後, ヘラ磨き	SK698 覆土中	5%
4550	土師器	坏	13.0	4.4	-	雲母・長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ	SK718 北部中層	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4551	土師器	壺	[7.6]	9.2	[6.2]	赤色粒子	橙	普通	口縁端部内・外面横ナデ, 外面ヘラ磨き	SK718 北部中層	50% 底部被熱痕あり PL239
4604	土師器	坏	[10.8]	2.5	7.0	雲母, 赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り, 体部ロクロナデ	SK876	30%
4605	灰釉陶器	椀	-	(1.8)	-	緻密	灰白・灰黄	良好	体部内・外面ロクロナデ, 釉は刷毛塗り	SK877	5%
4559	土師器	手捏土器	[4.4]	3.2	3.4	雲母・石英	橙	普通	内面に指頭圧痕, 雑な作り	SK978 覆土上層	60% PL239
4575	緑釉陶器	椀	-	(1.6)	5.2	長石	浅黄	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	SK1142	10%
4577	土師器	高台付坏	[15.8]	4.9	[8.8]	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け, 体部ロクロナデ	SK1172 北部中層	30%
4578	灰釉陶器	椀	-	(1.3)	[8.4]	緻密	灰黄褐	良好	体部ロクロナデ	SK1185	5%
4579	土師器	坏	[10.8]	2.9	6.6	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り, 体部ロクロナデ	SK1200	60% PL241
4581	土師器	坏	[13.2]	4.1	7.6	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り, 体部ロクロナデ	SK1224 北部上層	50%
4582	土師器	坏	17.4	5.8	9.0	雲母・赤色粒子	赤褐	普通	体部内・外面ヘラ磨き, 底部外面ヘラ削り	SK1261 覆土中層	85% PL240
4588	土師器	埴	-	(3.4)	2.1	雲母・長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き, 内面ナデ	SK1300 覆土上層	60%
4589	土師器	埴	-	(7.7)	3.8	雲母・石英	橙	普通	体部外面ヘラ磨き, 内面ヘラナデ	SK1300 覆土上層	30%
4590	須恵器	坏	8.8	3.2	5.3	砂粒	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 一方向のヘラ削り, 体部下端手持ちヘラ削り	SK1324	80% PL241 底部ヘラ記号「二」内面に油煙付着
4613	土師器	坏	[11.6]	4.5	-	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	SK1530 覆土中層	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4501	剣形模造品	3.4	1.7	0.5	4.16	滑石	孔径は0.15cm, 鑄はなく, ほぼ扁平, 擦痕顕著	SK42 北部底面	PL265

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4505	刀子	[8.3]	1.0	0.3	(6.0)	鉄	茎部欠損, 切先残存	SK83 覆土上層	PL279

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質及び特徴	出土位置	備考
4507	丸瓦	(9.6)	(11.2)	2.8	(285.0)	凸面平行叩き, 凹面粘土板からの糸切り痕と布目痕あり	SK115	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4508	砥石	17.8	8.5	4.2	829.0	粘板岩	砥面5面, 端部片側欠損, 研ぎ痕あり	SK129 東部底面	PL268

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4512	紡錘車	[7.6]	0.8	[1.0]	(10.6)	土	土師器の坏底部を転用, ヘラ削り後ナデ調整痕あり	SK169	土師器転用

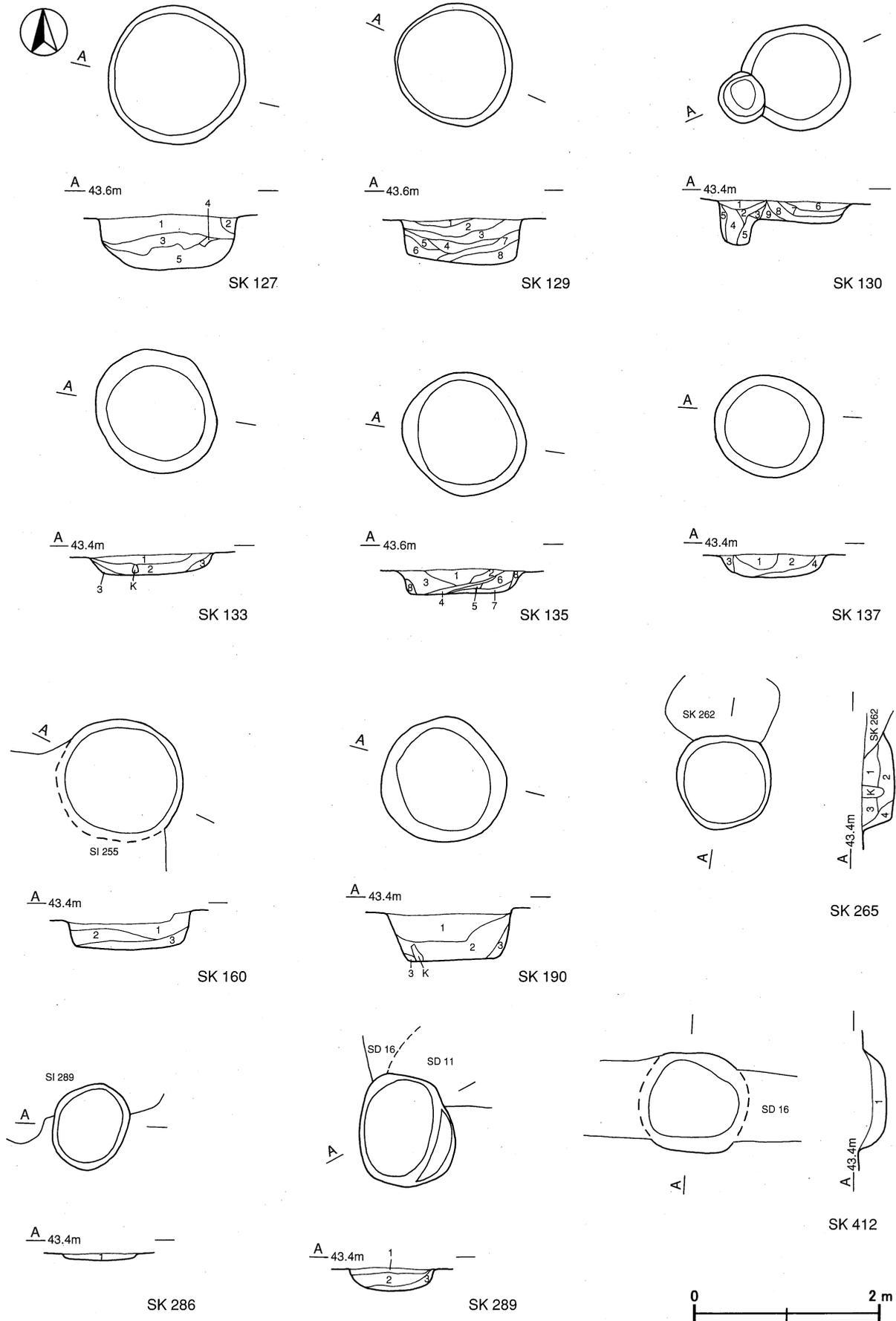
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4515	鎌	13.6	2.7	0.2	30.4	鉄	刃部わずかに彎曲, 研ぎ減りあり, 基部は全体を折り返す	SK199 中央部下層	PL281

番号	器種	長さ	外径	内径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
4526	羽口	(9.9)	7.1	3.1	(327.0)	長石・石英・スサ	外面ナデ, 先端部は火熱で溶解され, 溶着滓が付着, 孔径は先端部ほど小さくなっている	SK294 中央部中層	PL262

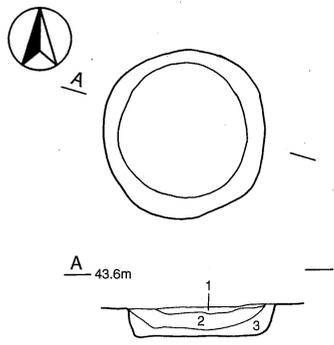
番号	器種	長さ	外径	内径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
4617	羽口	(6.9)	7.7	2.2	(280.0)	長石・石英・スサ	両端部欠損, スサ入り, 被熱痕あり	SK308	

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4527	小玉	0.9	0.9	0.2	0.66	土	ナデ, にぶい褐色を呈する	SK330	PL258

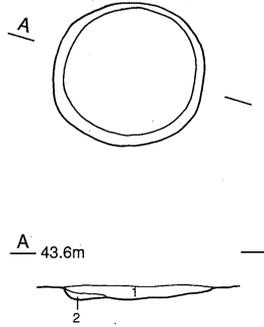
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4618	砥石	(6.3)	4.8	3.3	(85.6)	凝灰岩	砥面4面, 端部片側欠損, 中央部が薄い, 研痕あり	SK349 西部上層	
4619	砥石	(7.4)	3.7	3.6	(106.0)	凝灰岩	砥面4面, 両端部欠損後に, 砥石として利用, 研痕あり	SK349 西部上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4532	不明	(4.3)	0.9	0.4	(4.0)	鉄	両端部欠損, 断面長方形, 鐵の基部, あるいは紡錘車の軸カ	SK351 南部中層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4535	不明	5.2	(5.4)	0.2	(20.8)	鉄	両端部欠損, 断面長方形の帯状	SK370 南部上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4537	刀子	(10.8)	2.3	0.5	(31.0)	鉄	刃部先端・基部欠損, 両関あり	SK393	PL279
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4624	砥石	13.3	(14.2)	4.1	(1060.0)	砂岩	砥面3面, 被熱後に欠損し, 砥石として再利用	SK465 中央部底面	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4542	紡錘車カ	(6.2)	0.5	0.4	(3.0)	鉄	両端部欠損, 断面方形の棒状, 紡錘車の軸部カ	SK514 南部上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4592	砥石	7.4	3.2	1.8	58.6	泥岩	砥面4面, 端部片側欠損, 研ぎ痕あり	SK547	PL268
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4593	紡錘車カ	(19.1)	0.5	0.4	(14.9)	鉄	両端部欠損, 断面方形の棒状, 紡錘車の軸部カ	SK563	
4594	紡錘車カ	(14.9)	0.3	0.3	(15.1)	鉄	端部片側欠損, 断面円形の棒状, 紡錘車の軸部カ	SK563	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4552	釘	(4.5)	2.2	0.6	(8.0)	鉄	脚部先端部欠損, 頭部は叩かれ, 潰れている	SK724 中央部底面	PL282
番号	器種	高さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4602	支脚	19.6	14.1	12.4	2930.0	土(スサ)	ナデ, 被熱痕あり, にぶい橙色を呈する, 円錐形状	SK853 中央部中層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4606	磨石	9.4	8.7	4.6	580.0	玄武岩	表裏面に凹痕あり, 表裏面に煤附着	SK888 北部上層	PL268
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4558	釘	(5.9)	0.6	0.8	16.0	鉄	両端部欠損, 断面方形の棒状	SK910	PL282
番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4560	管状土錘	3.6	1.5	0.3	5.85	土	ナデ, にぶい黄褐色を呈する	SK978 覆土上層	PL260
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4561	釘	(6.7)	0.7	0.7	(15.0)	鉄	両端部欠損, 断面方形の棒状	SK979	PL282
番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4562	管状土錘	3.7	1.6	0.3	6.95	土	ナデ, にぶい黄褐色を呈する	SK979	PL260
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
4566	釘	(6.1)	0.6	0.5	(11.7)	鉄	頭部欠損, 断面方形の棒状, 脚部上部に木質附着	SK1114 東部底面	PL282



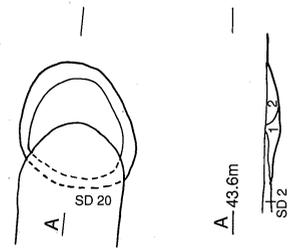
第923図 墓壇の可能性のある土坑（円形）実測図(1)



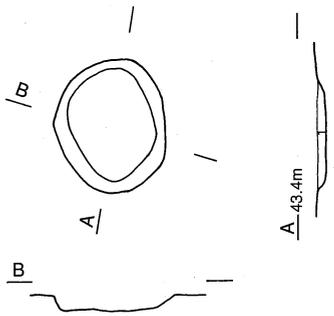
SK 413



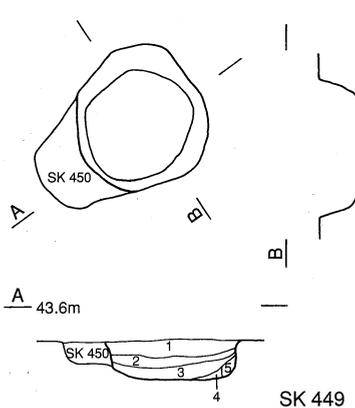
SK 415



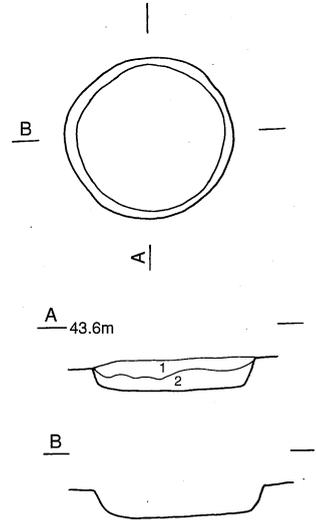
SK 417



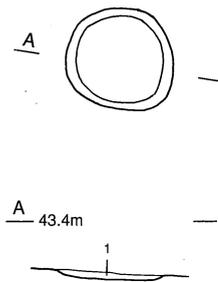
SK 436



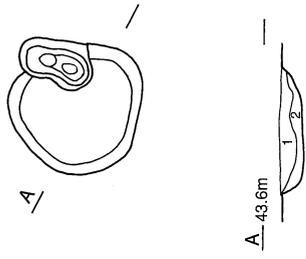
SK 449



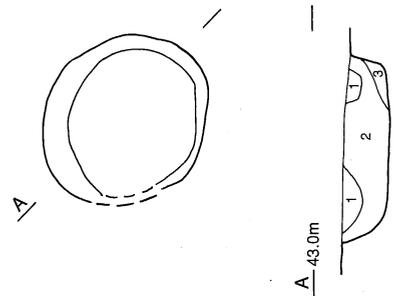
SK 461



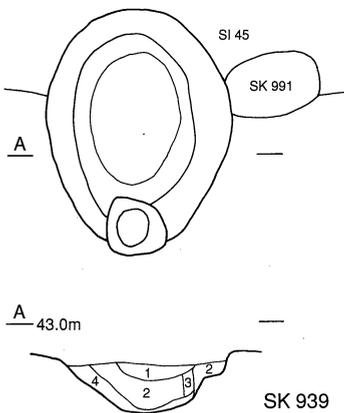
SK 597



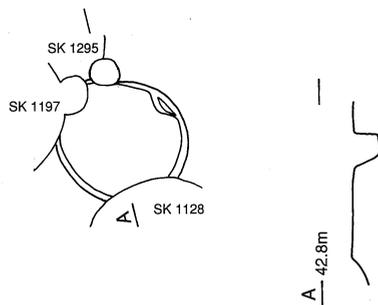
SK 824



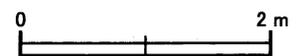
SK 910



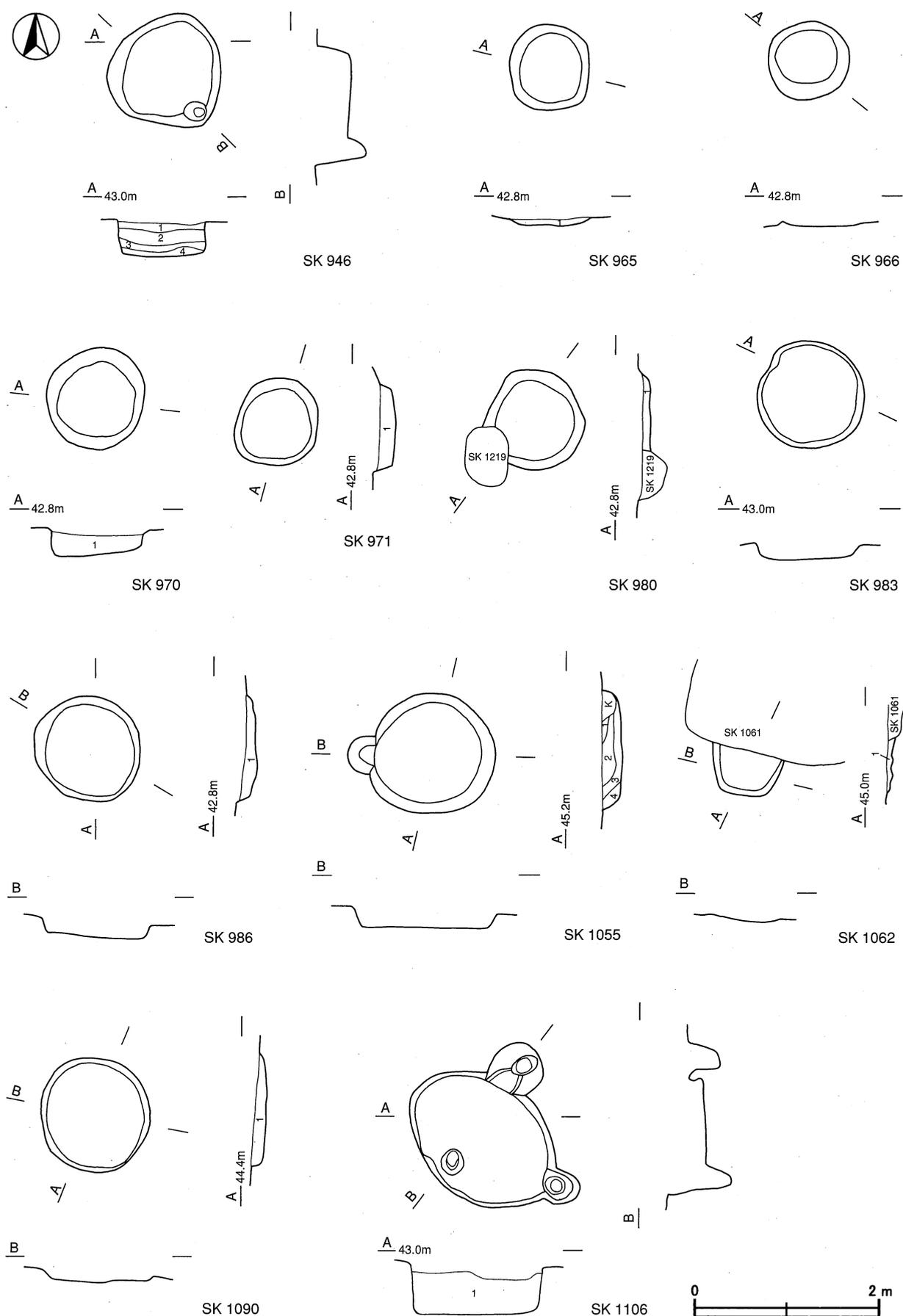
SK 939



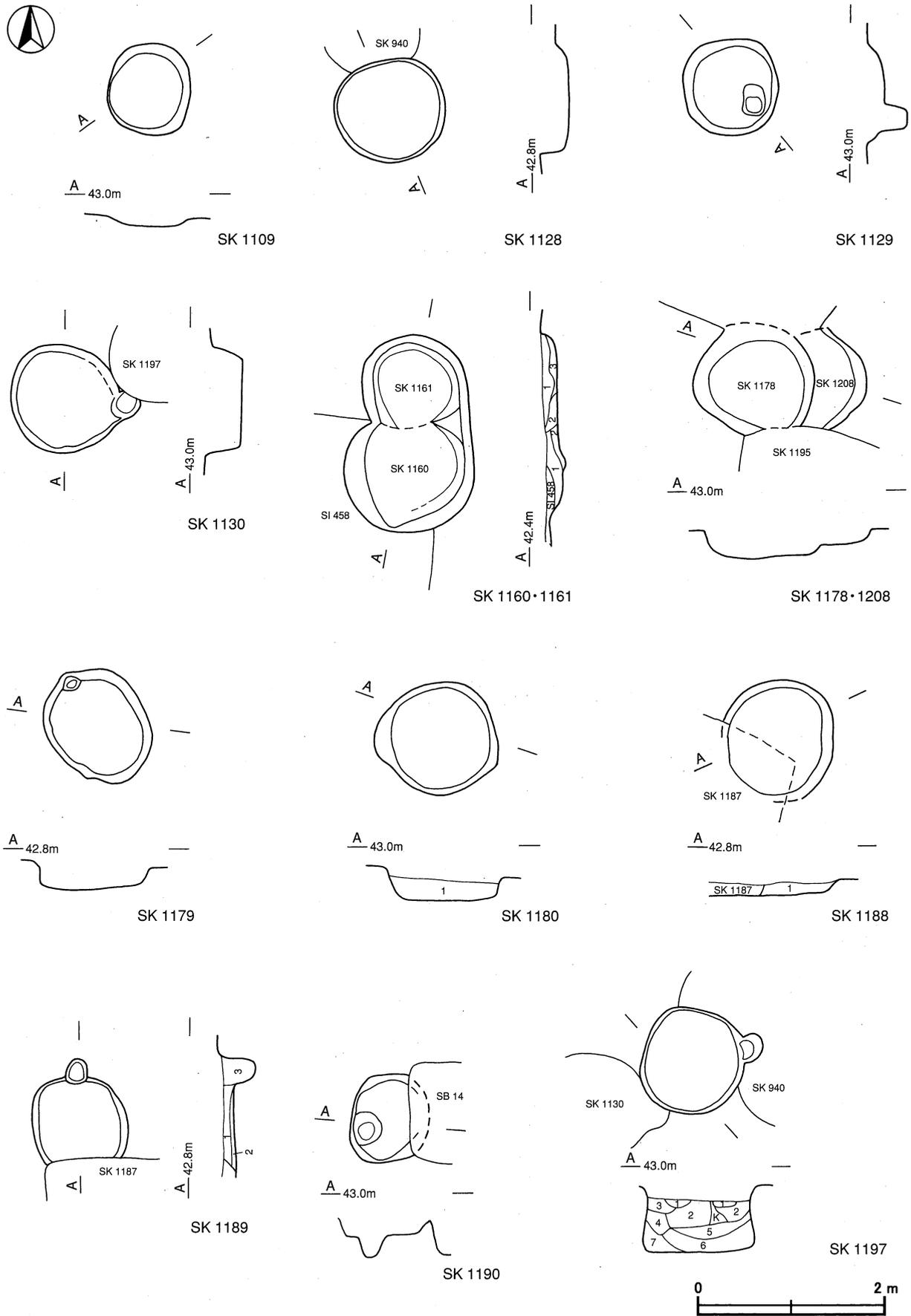
SK 940



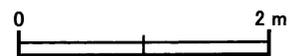
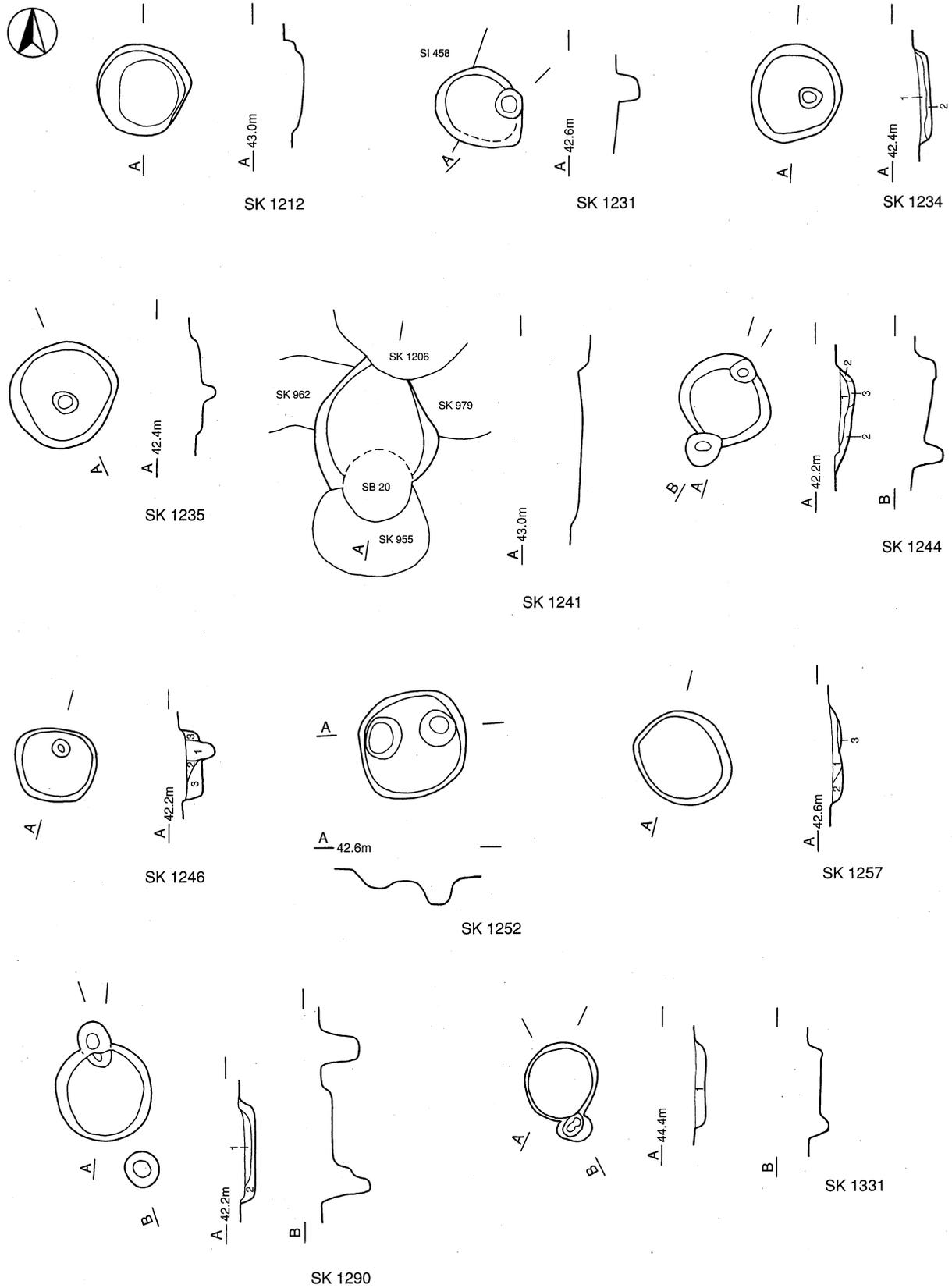
第924図 墓壙の可能性のある土坑(円形)実測図(2)



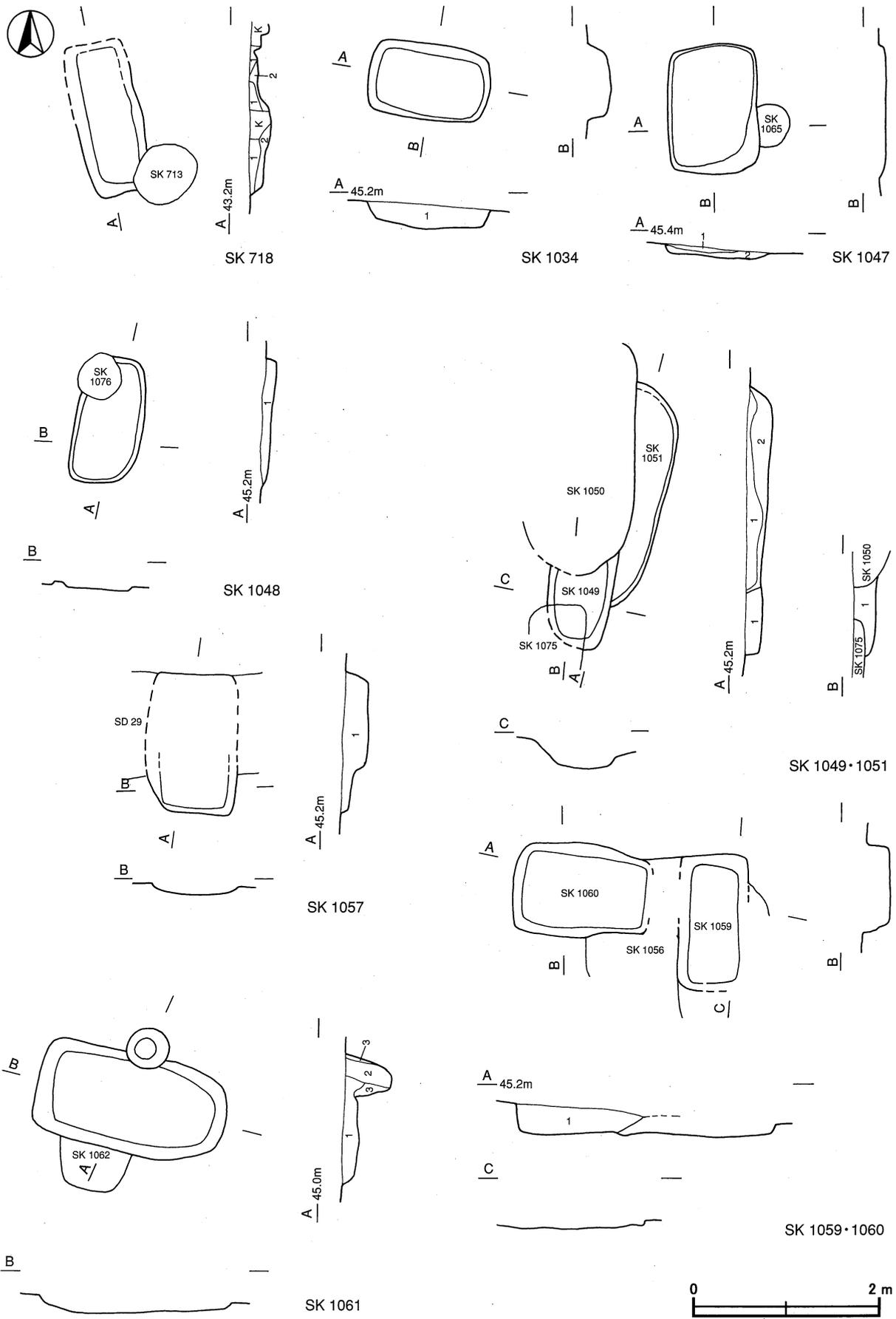
第925図 墓壙の可能性のある土坑（円形）実測図(3)



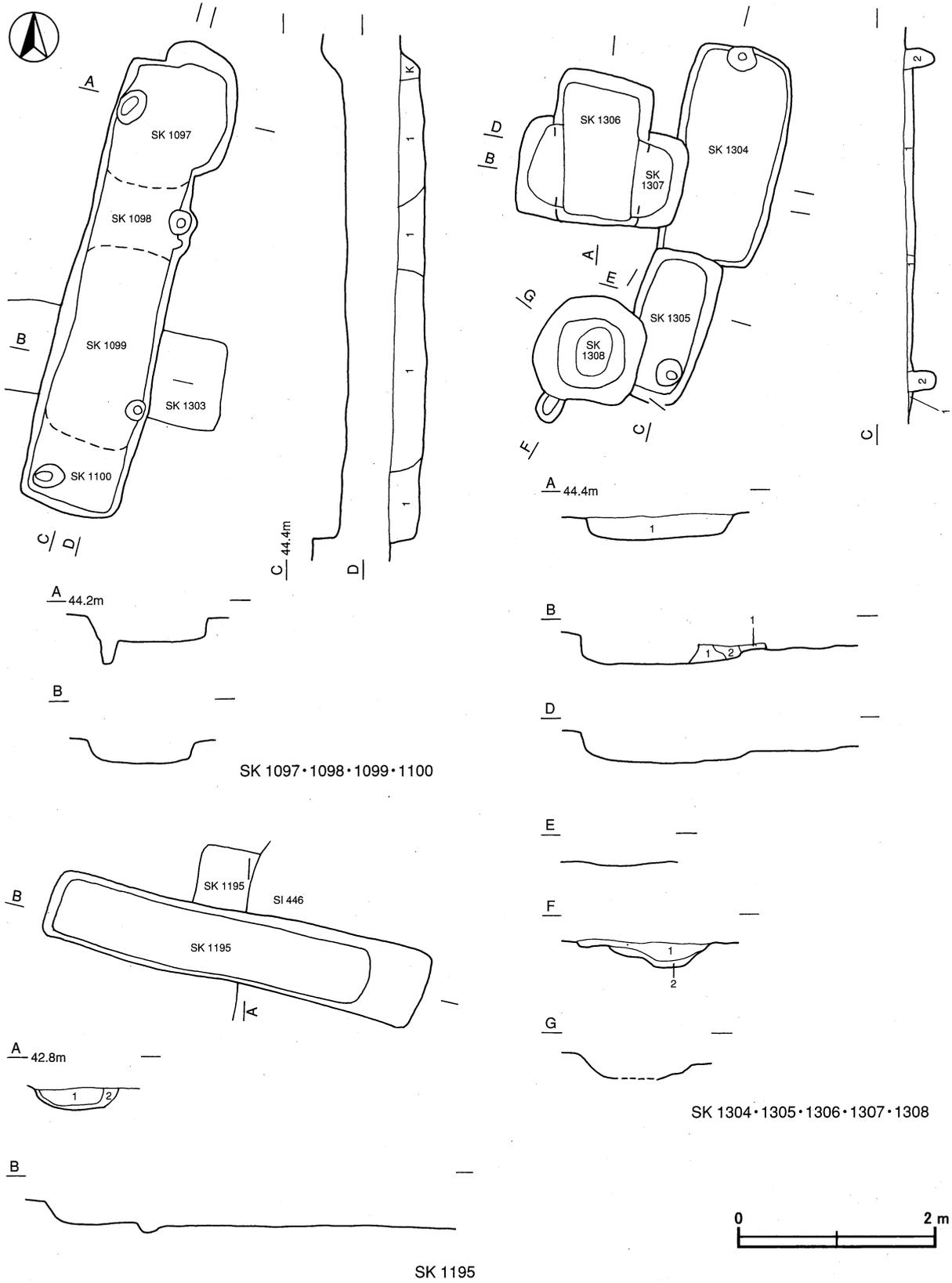
第926図 墓壙の可能性のある土坑（円形）実測図(4)



第927図 墓墳の可能性のある土坑（円形）実測図(5)



第928図 墓壇の可能性のある土坑（方形）実測図(6)



第929図 墓壙の可能性のある土坑（方形）実測図(7)

墓墳の可能性のある土坑（円形）

第127号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化物少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量
- 4 黒色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック多量

第129号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック少量
- 8 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量

第130号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子微量
- 4 黒色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 黒色 ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 9 黒色 炭化物・ローム粒子微量

第133号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第135号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子多量

第137号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量

第160号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量

第190号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第265号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第286号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量

第289号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量
- 2 黒色 炭化物少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土ブロック微量

第412号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第413号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第415号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第417号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第436号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第449号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第461号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第597号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第824号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第910号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第939号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量, 粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

第946号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第965号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第970号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第971号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第980号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

第986号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第1055号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第1062号土坑土層解説

- 1 暗褐色 砂粒微量, 骨粉少量

第1090号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 骨粉

第1106号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

第1160号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1161号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第1180号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量

第1188号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第1189号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第1197号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック, 鹿沼バミス少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量
- 5 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量, 鹿沼バミス微量

第1234号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第1244号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒色 ロームブロック微量

第1246号土坑土層解説

- 1 黒色
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第1290号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第1257号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第1331号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・骨粉微量

墓壇の可能性のある土坑 (方形)

第718号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化材少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化材微量

第1034号土坑土層解説

- 1 暗褐色 骨粉少量, ロームブロック微量

第1047号土坑土層解説

- 1 黄褐色 鹿沼バミス中量
- 2 暗褐色 炭化粒子・骨粉微量

第1048号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・骨粉微量

第1049号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量

第1051号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・骨粉微量
- 2 褐色 ローム粒子微量

第1057号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第1060号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第1061号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・骨粉少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第1097号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・骨粉微量

第1098号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 骨粉微量

第1099号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・骨粉微量

第1100号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・骨粉微量

第1195号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第1304号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第1305号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第1306号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量

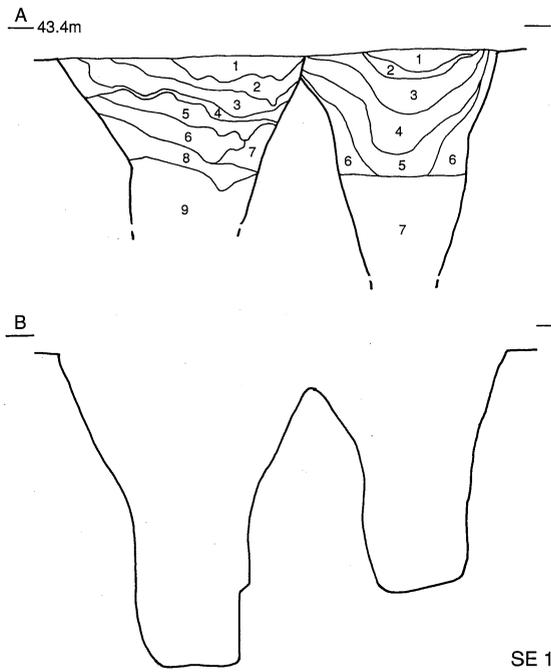
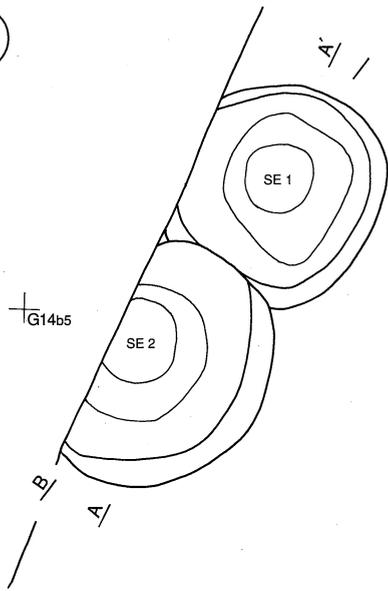
第1307号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

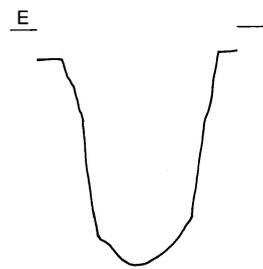
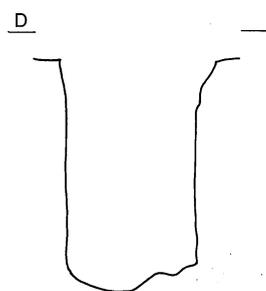
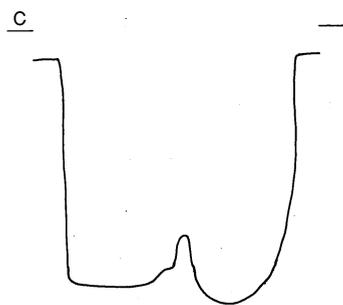
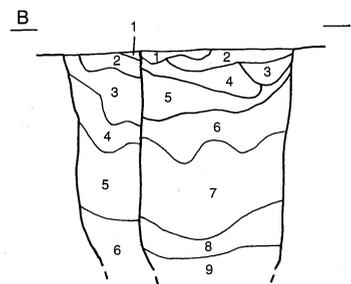
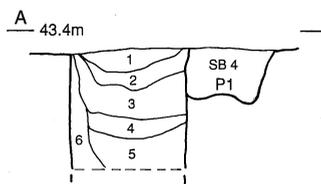
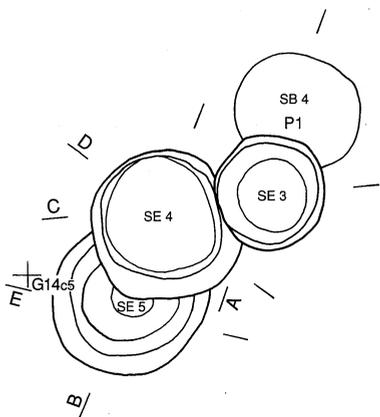
第1308号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

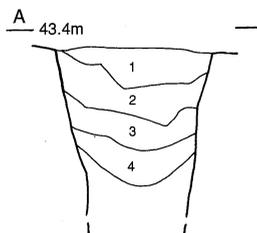
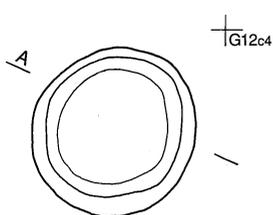
(6) 井戸跡 (第930~938図)



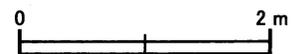
SE 1・2



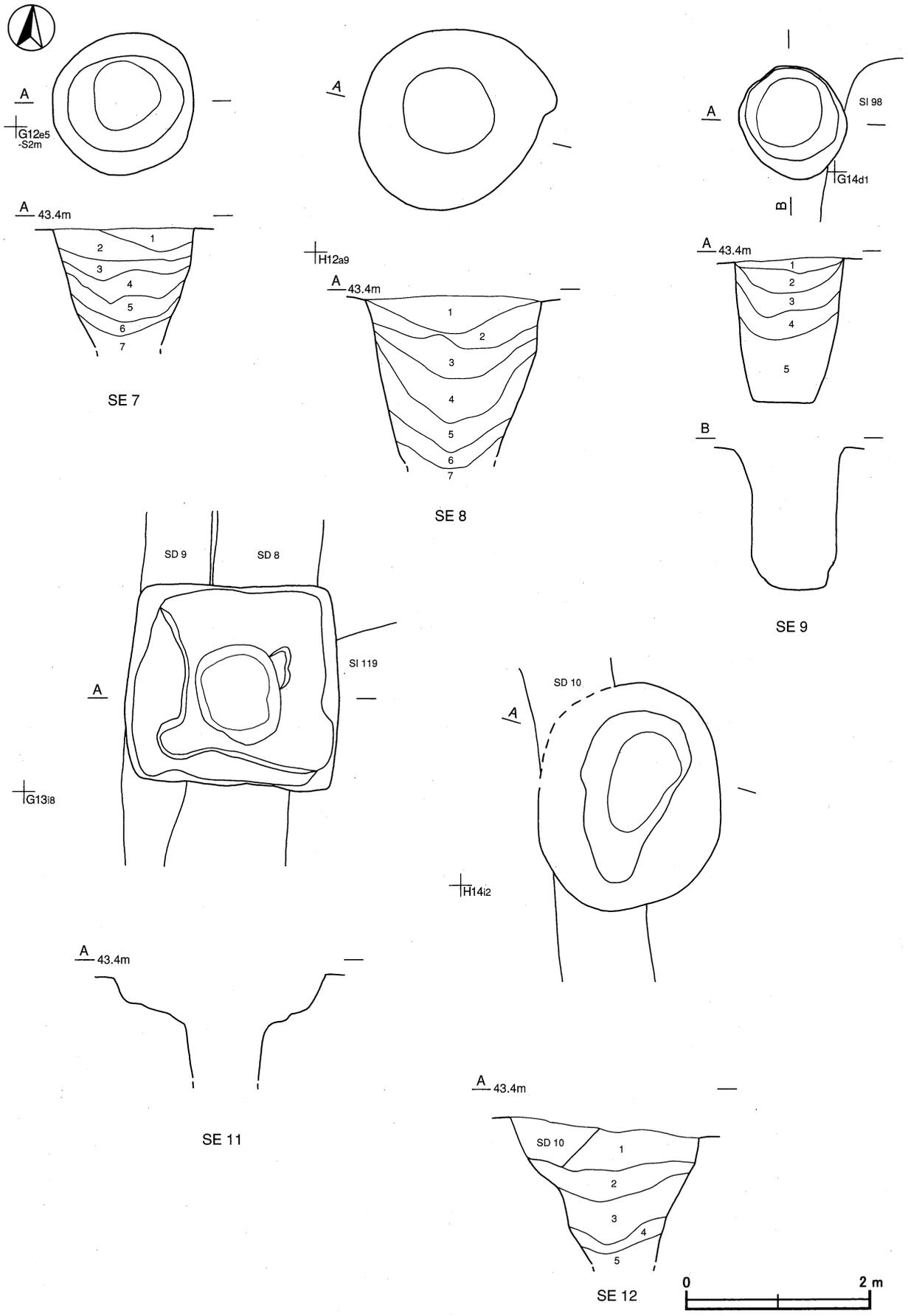
SE 3・4・5



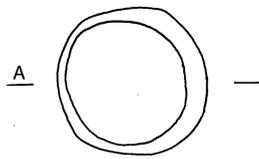
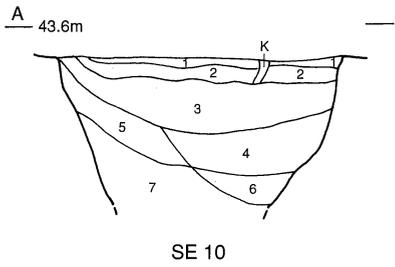
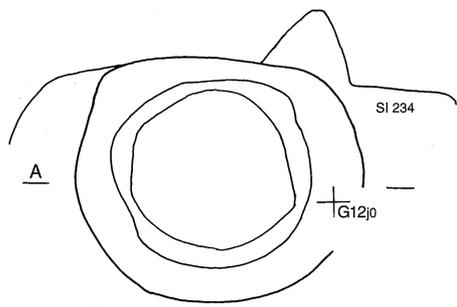
SE 6



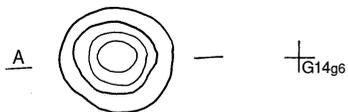
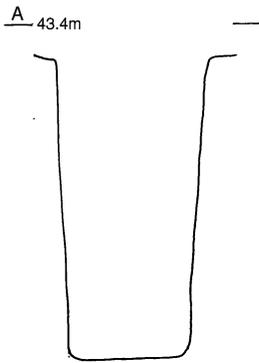
第930図 第1~6号井戸跡実測図(1)



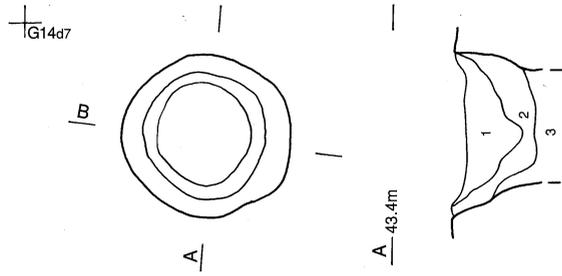
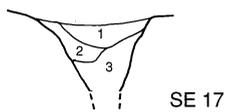
第931图 第7~12号井戸跡実測図(2)



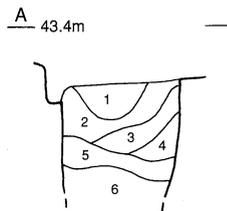
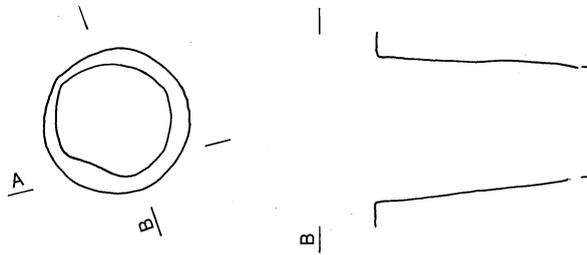
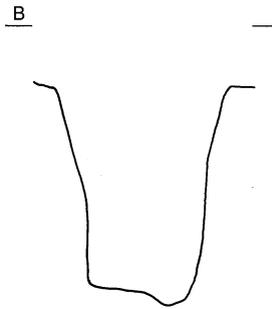
H13b2-E1m



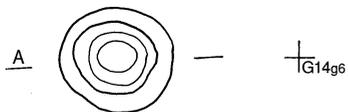
A 43.4m



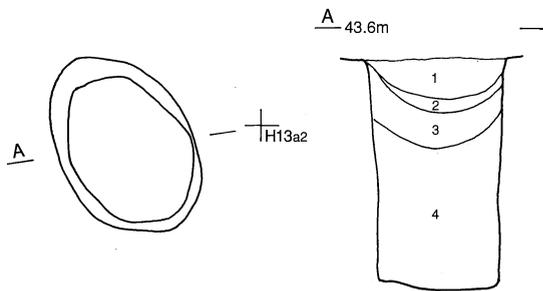
A 43.4m



SE 16



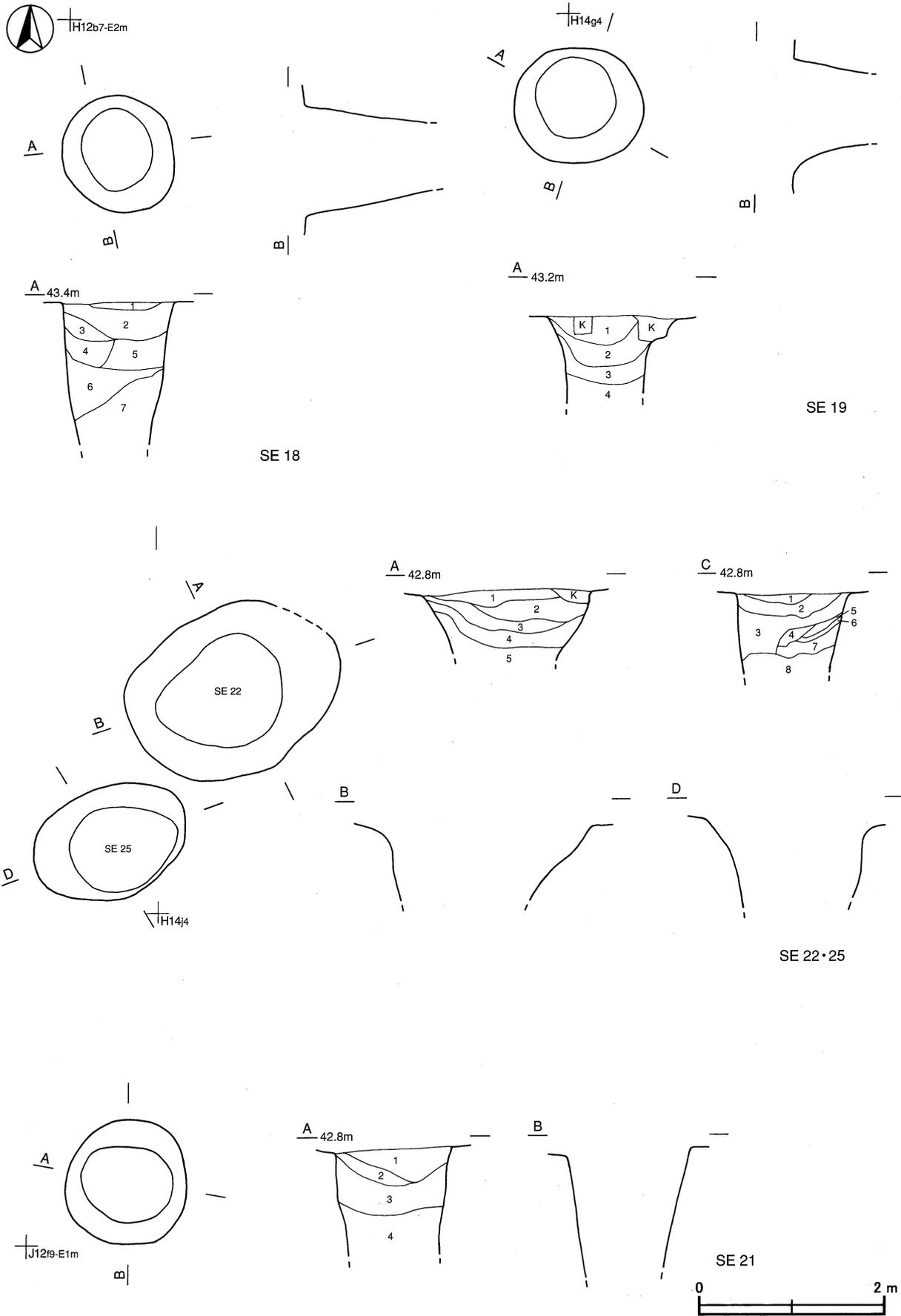
A 43.4m



A 43.6m

SE 20

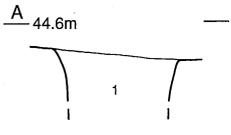
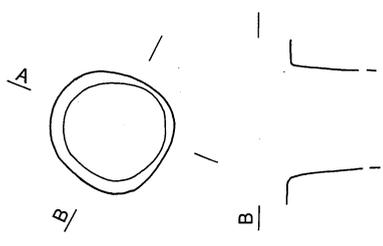
第932図 第10・13・15・16・20号井戸跡実測図(3)



第933图 第18・19・21・22・25号井戸跡実測図(4)

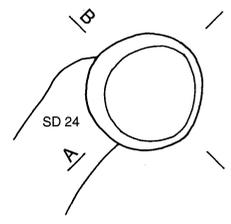


E9d5

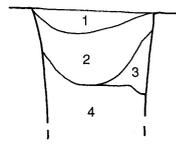


SE 26

E9d2-S1m

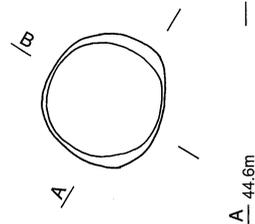


A 45.2m

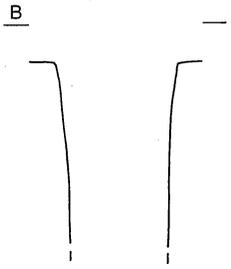


SE 27

E9e4-N1m

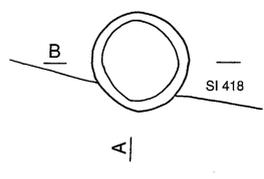


A 44.6m

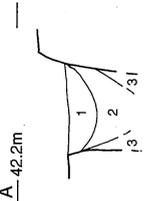


SE 28

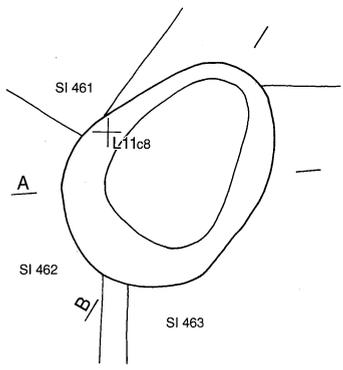
J1219-S1m



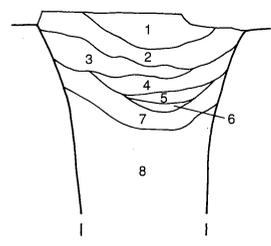
A 42.2m



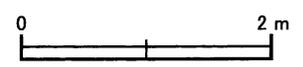
SE 31



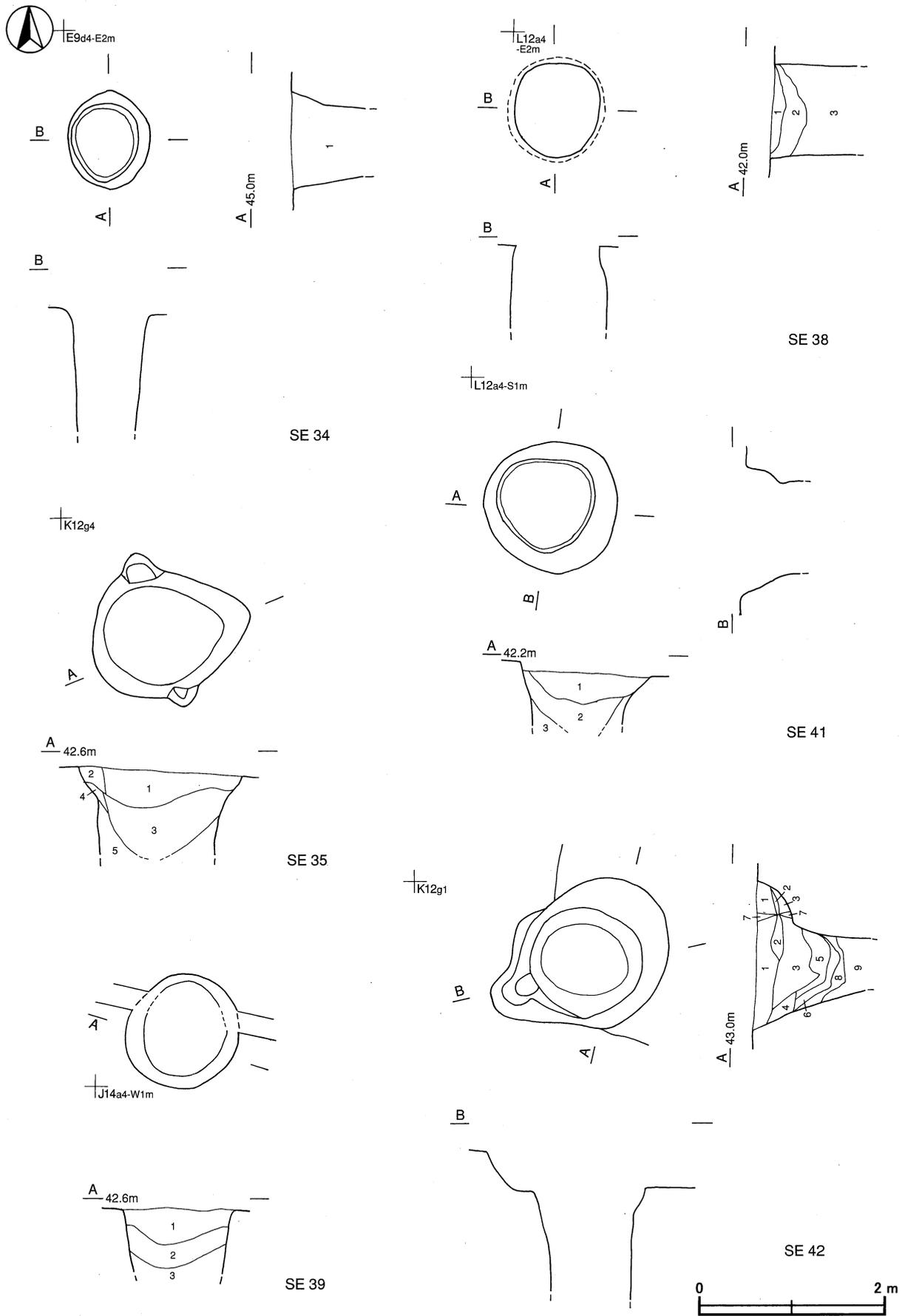
A 43.0m



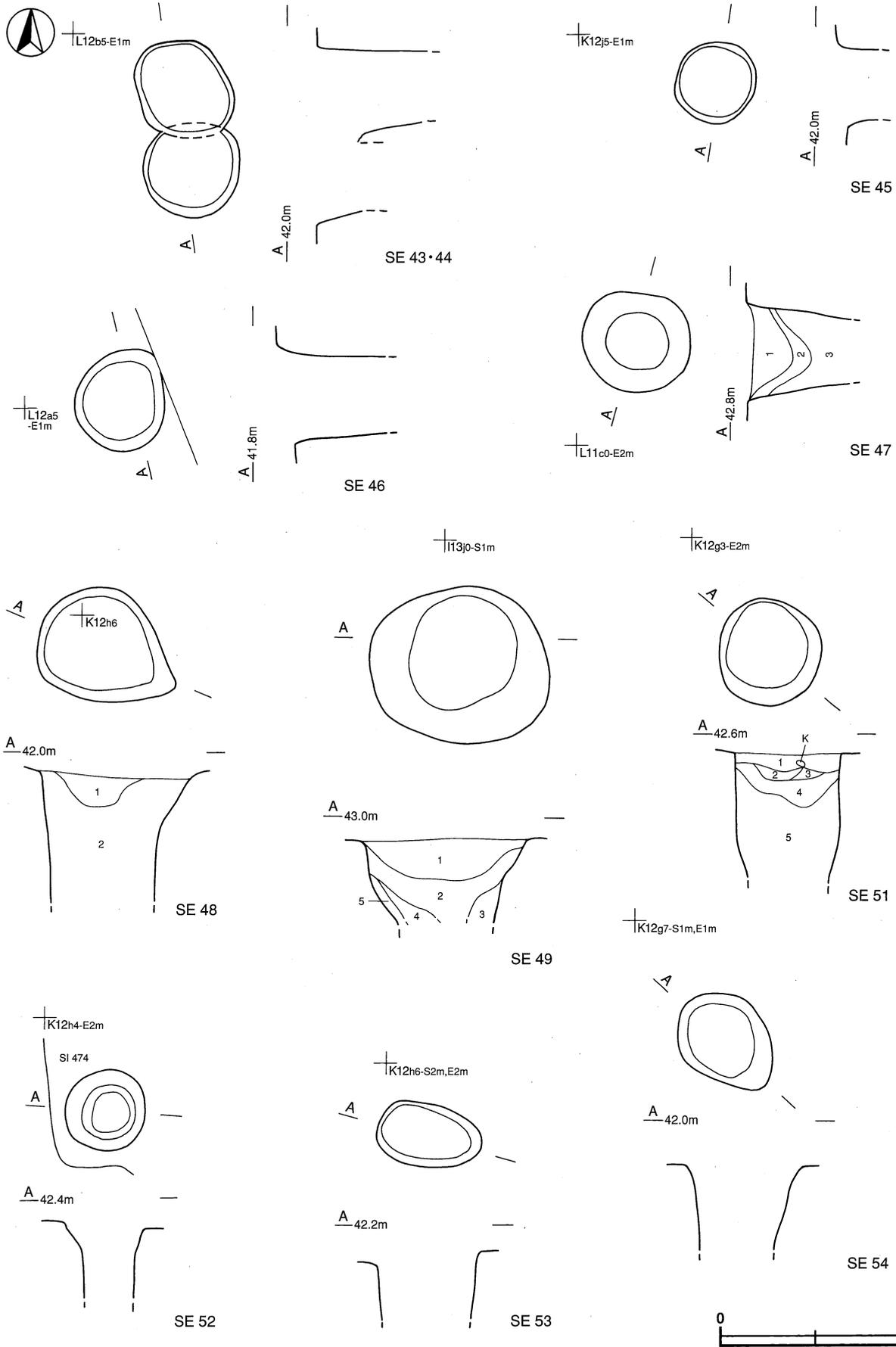
SE 33



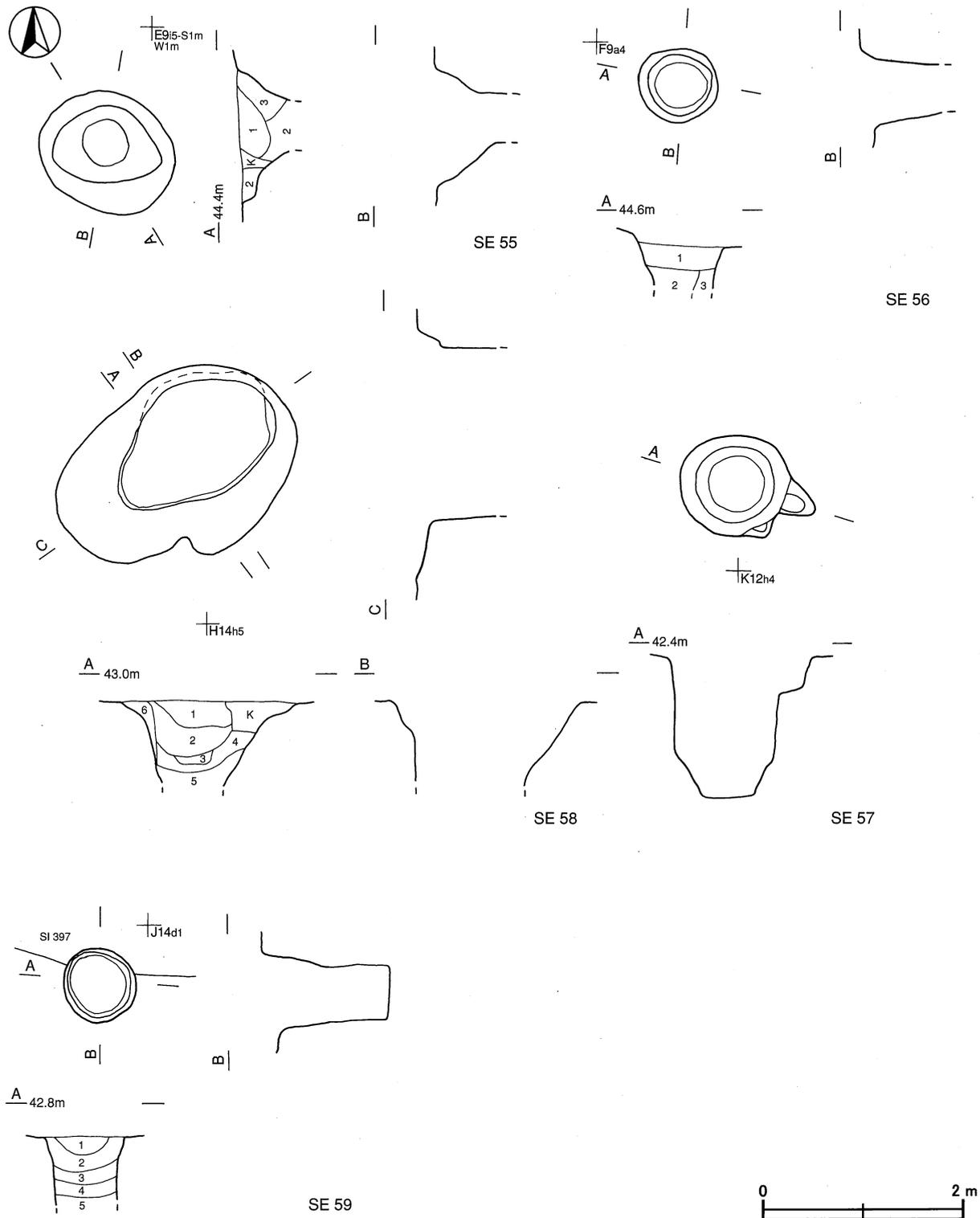
第934图 第26~28·31·33号井戸跡実測図(5)



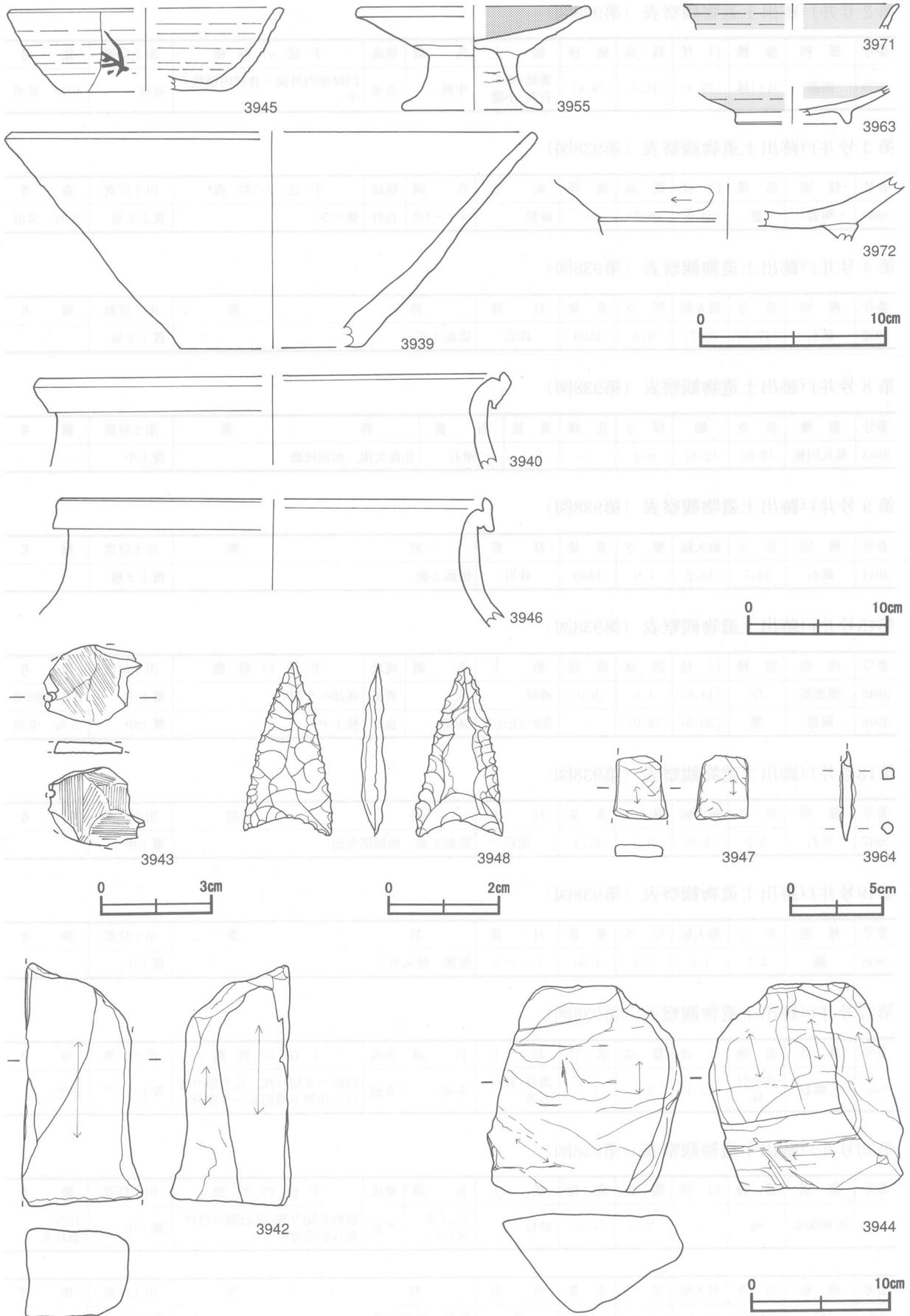
第935図 第34・35・38・39・41・42号井戸跡実測図(6)



第936图 第43~49・51~54号井戸跡実測図(7)



第937図 第55~59号井戸跡実測図(8)



第938图 第2·3·4·8·9·15·18·19·27·33·53·58号井戸跡出土遺物実測図

第2号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3939	陶器	片口鉢	[27.4]	11.5	[9.8]	雲母・長石・石英・小礫	赤褐	普通	口縁部内外面・体部内面横ナデ。	底面	10% 常滑

第3号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3940	陶器	甕	[33.0]	(6.7)	-	砂粒	オリブ黒	良好	横ナデ	覆土上層	5% 常滑

第4号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	長さ	最大幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
3942	砥石	(17.5)	(8.7)	6.3	1500	砂岩	砥面3面		覆土下層	

第8号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	石質	特	徴	出土位置	備考
3943	双孔円板	(2.6)	(2.6)	0.3	-	2.4	滑石	孔部欠損	両面研磨	覆土中	

第9号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	長さ	最大幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
3944	砥石	14.5	13.2	7.0	1840	砂岩	砥面3面		覆土下層	

第15号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3945	須恵器	坏	[14.6]	4.5	[9.0]	砂粒	灰	普通	底部へラ削り	覆土中	10% 外面墨書
3946	陶器	甕	[30.0]	(9.0)	-	雲母・長石・石英	灰褐	良好	横ナデ	覆土中	5% 常滑

第18号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	長さ	最大幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考	
3947	砥石	3.5	(2.9)	0.6	11.5	泥岩	砥面2面	両端部欠損。		覆土中	

第19号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	長さ	最大幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考	
3948	鎌	3.1	1.5	0.4	1.60	チャート	無頸	挟入有り。		覆土中	

第27号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3955	土師器	高台付環	[12.1]	5.6	[7.5]	雲母・長石・石英	赤褐	普通	回転へラ切り後、高台貼り付け、体部下端回転へラ削り	覆土中	30%

第33号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3963	灰釉陶器	碗	-	(2.0)	[6.0]	砂粒	にぶい黄・灰オリブ	普通	回転糸切り後、高台貼り付け、釉は刷毛塗り	覆土中	10% 猿投産

番号	種別	長さ	最大幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考	
3964	釘	(4.8)	0.6	0.6	4.7	鉄	角釘	頭部欠損		覆土中	

第53号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3971	緑釉陶器	椀	[11.6]	(1.4)	-	砂粒	オリーブ黒・深緑釉	良好	体部ロクロナデ	覆土中	5%

第58号井戸跡出土遺物観察表 (第938図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3972	陶器	片口鉢	-	(3.5)	-	小礫・長石・石英	黄灰	良好	ロクロナデ, 体部下端ヘラ削り	覆土中	10% 常滑

第1号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量

第2号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 5 明褐色 鹿沼パミス多量, ローム粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量
- 9 黒色 ロームブロック微量

第3号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 4 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒色 ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量

第4号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 黒色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 7 黒色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・鹿沼パミス微量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 黒色 ローム粒子微量

第5号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 黒色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・鹿沼パミス微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第6号井戸跡土層解説

- 1 黒色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒色 ロームブロック少量
- 4 黒色 ロームブロック中量

第7号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・鹿沼パミス少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・鹿沼パミス微量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第8号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物・鹿沼パミス微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物・鹿沼パミス微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック中量, 砂粒少量, 焼土ブロック微量

第9号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス少量
- 4 黒色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量

第10号井戸跡土層解説

- 1 褐色 鹿沼パミス中量, ロームブロック少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, 鹿沼パミス中量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 鹿沼パミス少量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 黒色 ロームブロック・焼土ブロック少量

第12号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック・粘土粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 黒色 ロームブロック・炭化粒子少量

第13号井戸跡土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量

第16号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック微量
- 3 黒色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 黒色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量

第17号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒色 ローム粒子微量

第18号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物・鹿沼バミス少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化物・鹿沼バミス微量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・鹿沼バミス少量, 焼土ブロック微量
- 6 黒色 炭化粒子中量, ロームブロック・鹿沼バミス微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第19号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第20号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・鹿沼バミス少量
- 2 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・鹿沼バミス少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子・焼土ブロック少量

第21号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼バミス少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼バミス少量, 焼土ブロック微量
- 3 黒色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第22号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 鹿沼バミス微量

第25号井戸跡土層解説

- 1 極暗褐色 鹿沼バミス少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 鹿沼バミス中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・鹿沼バミス微量
- 4 黒褐色 鹿沼バミス多量
- 5 極暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子・鹿沼バミス微量
- 6 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 7 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子・鹿沼バミス微量
- 8 黒色 鹿沼バミス多量, ロームブロック少量

第26号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第27号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第28号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第31号井戸跡土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 黒色 炭化粒子少量, ローム粒子・鹿沼バミス微量

第33号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量

第34号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

第38号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス・赤色粒子微量
- 2 黒褐色 鹿沼バミス少量, ロームブロック・赤色粒子微量
- 3 黒褐色 鹿沼バミス微量

第39号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量, 焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量

第41号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミス少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 鹿沼バミス微量
- 3 暗褐色 鹿沼バミス少量

第42号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
- 6 黒色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 7 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子・鹿沼バミス中量, 炭化粒子微量
- 9 褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量, 炭化粒子微量

第47号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 鹿沼バミス微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第48号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量
- 2 黒褐色 鹿沼バミス微量

第49号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第51号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量

第55号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第56号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

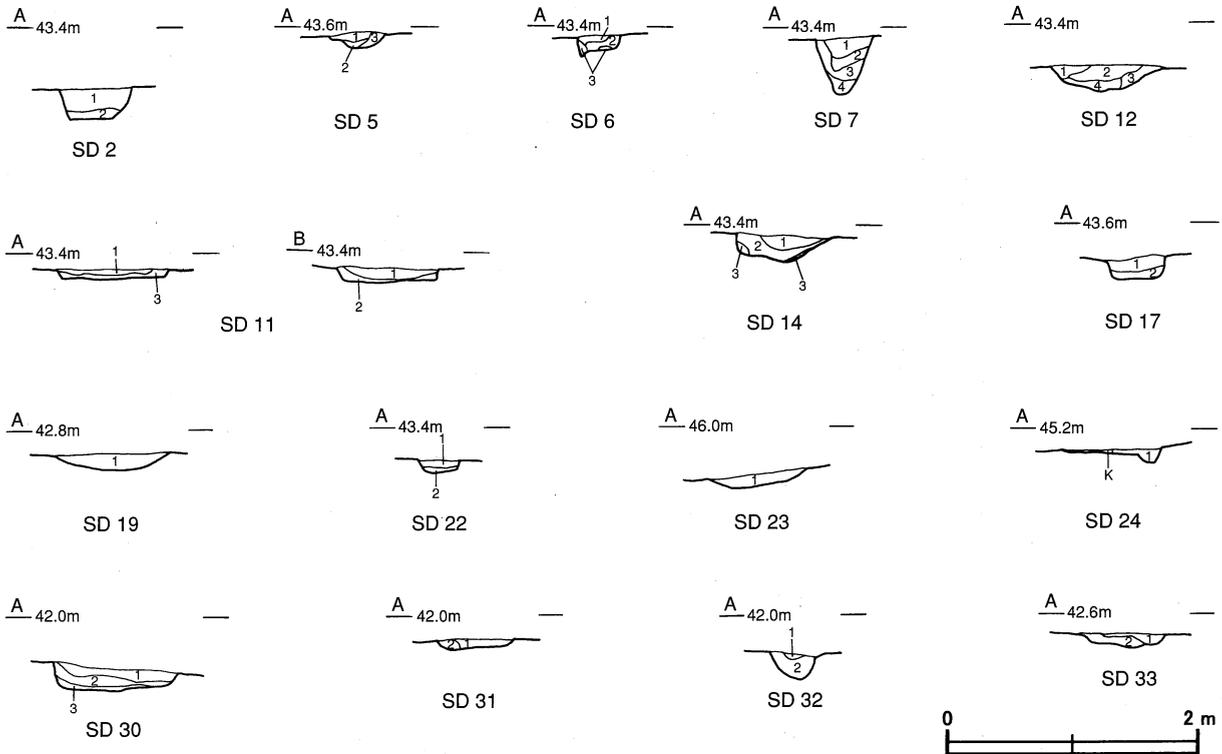
第58号井戸跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第59号井戸跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック微量
- 5 黒色 ローム粒子微量

(7) 溝跡



第939図 第2・5～7・11・12・14・17・19・22～24・30～33号溝跡土層断面実測図

第2号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第5号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第6号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第7号溝土層解説

- 1 黒色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量
- 4 黒色 ロームブロック少量

第11号溝土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第12号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第14号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第17号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

第19号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第22号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量

第23号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第24号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第30号溝土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第31号溝土層解説

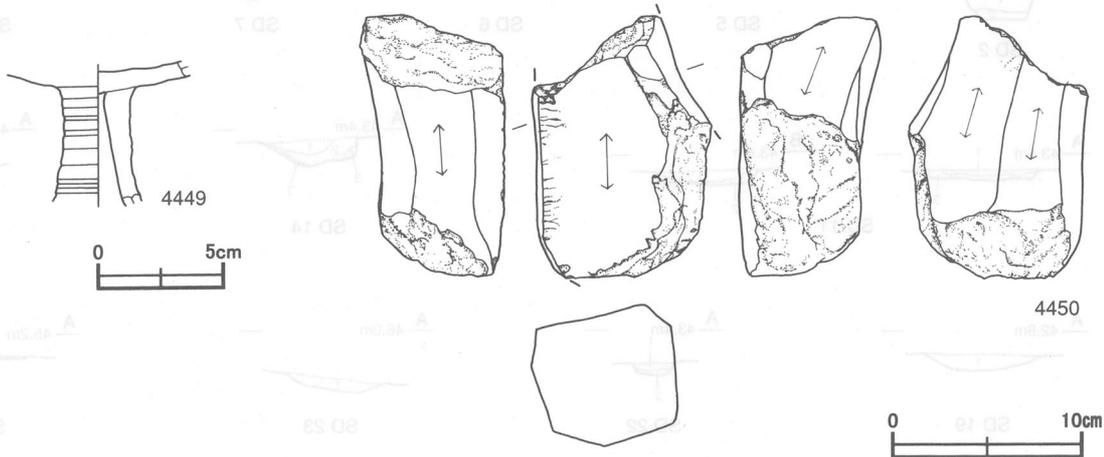
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第32号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第33号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量



第940図 第7号溝跡出土遺物実測図

第7号溝跡出土遺物観察表 (第940図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4449	須恵器	高坏	-	(5.7)	-	長石	暗灰	普通	ロクロ整形	東部下層	20%

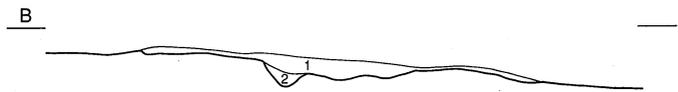
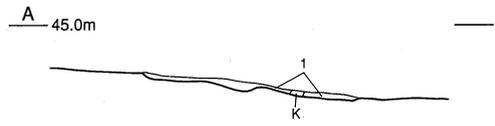
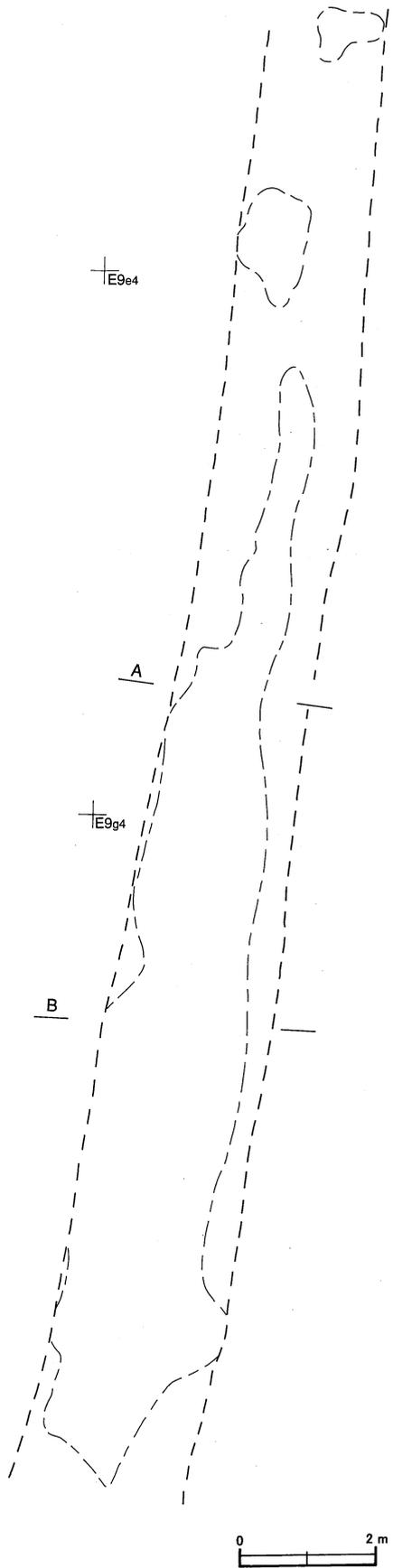
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4450	砥石	(14.0)	(9.4)	7.6	(1080)	凝灰岩	砥面6面, その他は破断面	覆土中	PL269

(8) 道路跡

今回の調査で, 4条の道路跡を確認した。第1・4号道路跡については既の中・近世の項で記述しており, ここでは第2・3号道路跡についてその概要を記述する。

第2号道路跡 (第941図)

位置 調査区西部北寄りのE9d4~E9i4区に位置し, 緩やかな斜面部に立地している。



第941图 第2号道路迹实测图

規模と形状 確認された長さは約22mで、E9j4区から北方向(N-8°-E)に直線的に延びているが、耕作などの攪乱のため遺存状態が悪く、路面幅2.1mほどが確認できた。路面はローム面を5~17cm掘り込んで構築されており、断面は緩やかな弧状を呈している。

覆土 2層からなり、第1層は硬化層で、砂粒が混じっている。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡の硬化面は遺存状態が悪いものの長さ16.5mほどを確認することができたが、出土遺物がないため時期は不明である。

第3号道路跡 (第942図)

位置 調査区南部西寄りのL11c8~L11g7区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第463・478~480号住居跡、第112・973・976・978号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南側が調査区域外に延びて全容は確認できなかったが、長さ約16mが確認された。上幅約0.5m、下幅0.4~0.45m、深さ約10cmで、断面は逆台形状を呈しており、北方向(N-23°-E)に直線的に延び、16mより先は後世の耕作を受けており、確認できなかった。

覆土 3層からなり、第1・2層とも硬化層である。

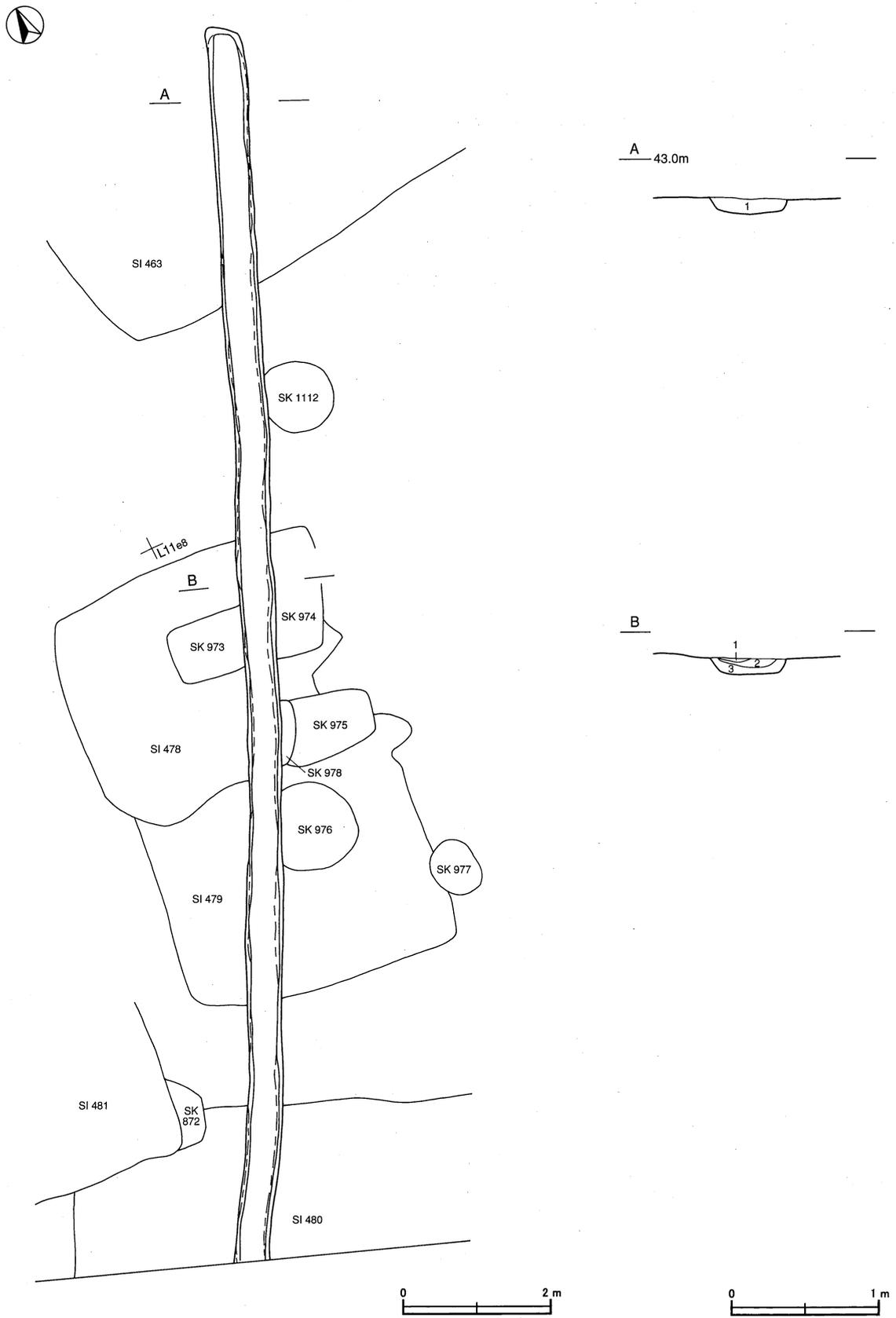
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片66点(坏9, 甕57), 須恵器片2点(坏1, 甕1)が散在した状態で出土している。

出土した土器はいずれも細片で、破断面が摩滅しており、混入したものである。

所見 土層観察から、硬化層が幅0.4~0.5m、深さ5~10cmで確認できたが、道路幅や構築状況から生活道路と考えられ、硬化層は人の往来によって踏み硬められたものである。本跡は10世紀後半と比定される第478号住居跡を掘り込んでいるが、伴出遺物がないため詳細な時期は不明である。



第942图 第3号道路迹实测图

(9) ピット群

今回の調査で、ピット群32か所を確認した。以下、その概要について記述する。

第1号ピット群 (第943図)

位置 調査区北部東寄りのF12f7～F12g8区に位置し、平坦部に立地している。

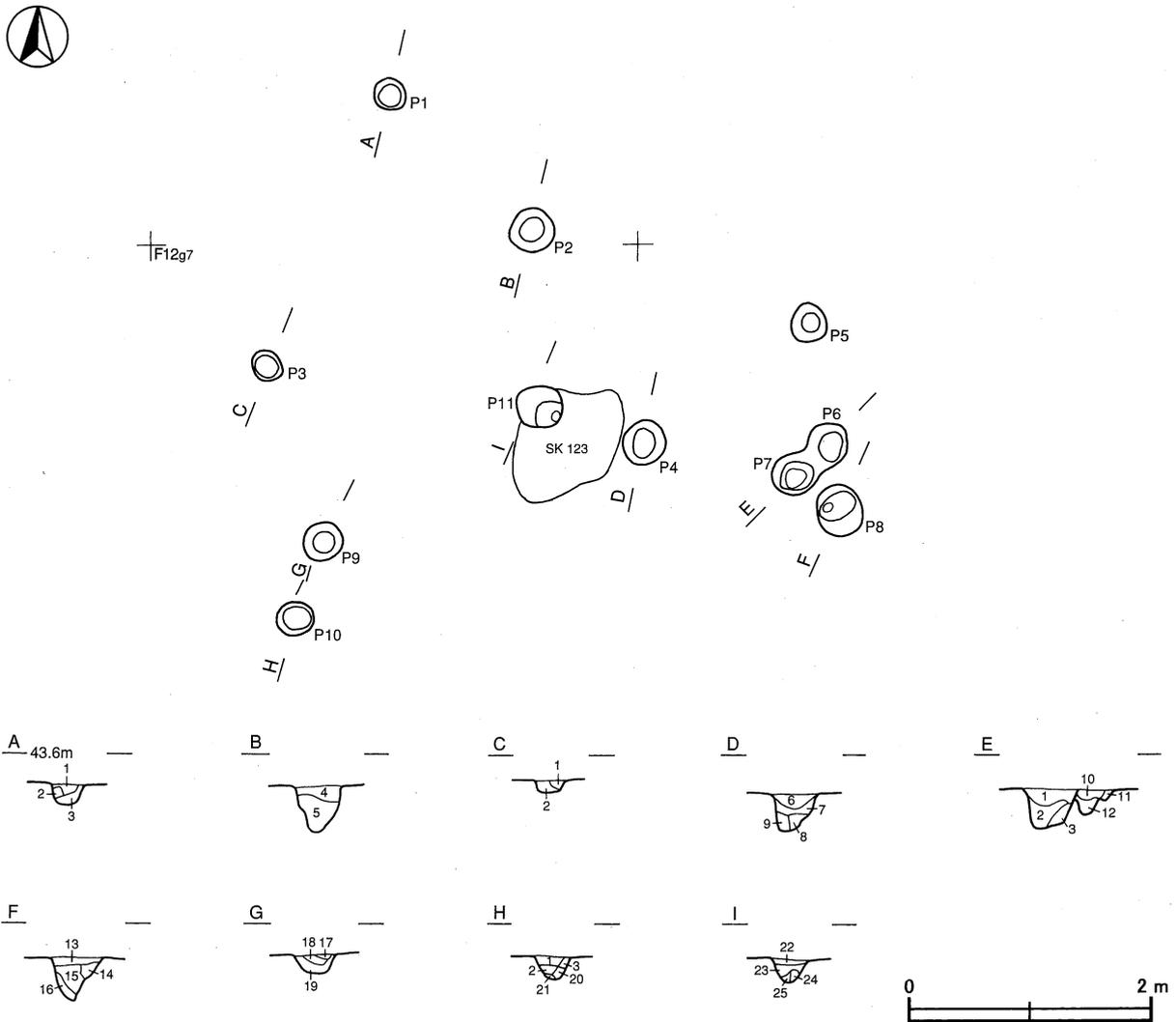
重複関係 第123号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 6m四方の範囲に11か所のピットが確認された。ピットは長径25～45cm, 短径25～38cmの円形及び楕円形で、深さが10～38cmである。各ピットの断面はU字状を呈している。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから、すべて柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|---------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒色 | ロームブロック中量 | 11 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 黒色 | ロームブロック微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量 | 13 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量 | | |



第943図 第1号ピット群実測図

14 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	20 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
15 暗褐色	ロームブロック少量	21 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
16 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量	22 黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量
17 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	23 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
18 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	24 褐色	ローム粒子ブロック中量, 焼土ブロック微量
19 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量	25 黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 2 点 (甕), 須恵器片 2 点 (甕) が P6 の覆土中から出土している。いずれも細片で, 破断面が摩滅しているため, 混入したものと考えられる。

所見 ピットの深さや配列などに規則性がないため, 掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく, 性格が不明確であることからピット群としてとらえた。時期は, 伴出遺物がないため不明である。

第 2 号ピット群 (第 944 図)

位置 調査区北部北寄りの G12b5 ~ G12c5 区に位置し, 平坦部に立地している。

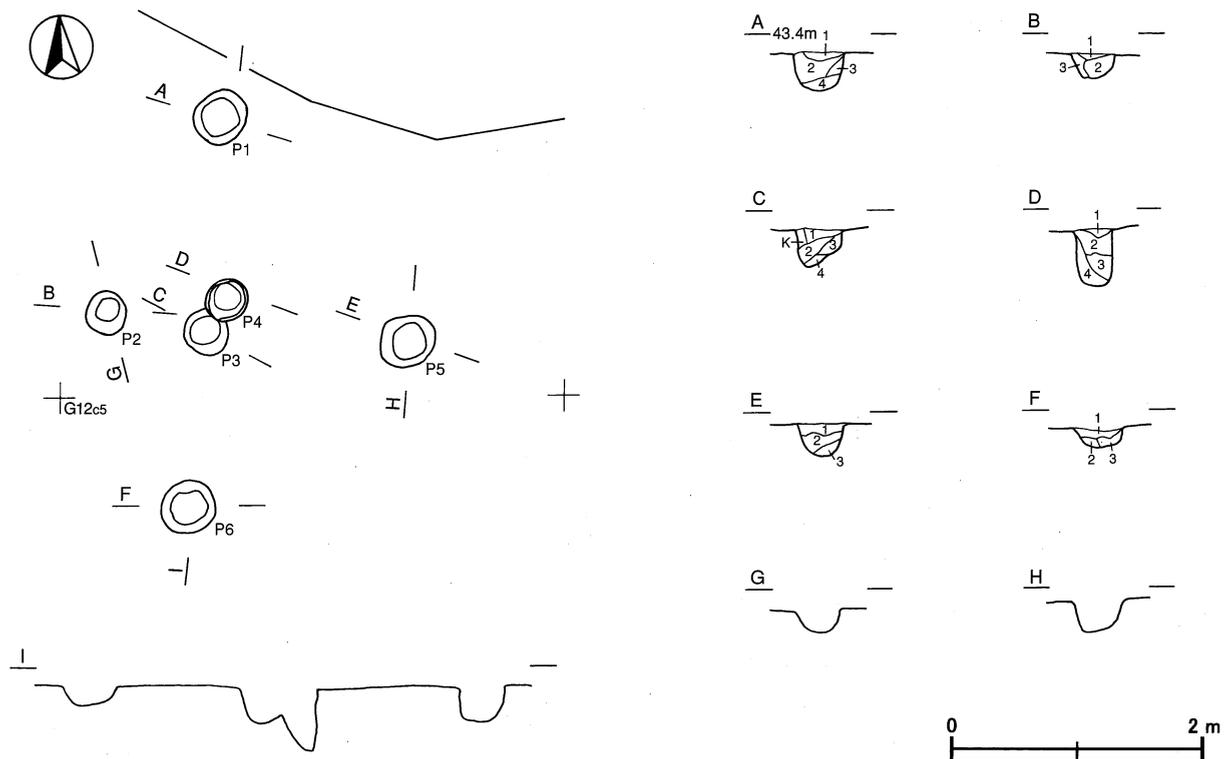
規模と形状 南北約 4 m, 東西約 3 m の範囲に存在するピット 6 か所を検出した。ピットは, 長径 33~44cm, 短径 33~42cm の円形及び楕円形で, 深さが 13~48cm である。各ピットの断面は U 字状もしくは逆台形状を呈している。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず, 土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから, すべて柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 P4 の覆土中から土師器片 2 点 (甕), P2 の覆土中から土師器片 1 点 (甕) が出土している。



第 944 図 第 2 号ピット群実測図

いずれも細片であり、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットは配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡や柵跡と考えにくく、性格が不明確であることからピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。

第3号ピット群 (第945図)

位置 調査区北部東寄りのG12b3～G12b4区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 2m四方の範囲に不規則に存在するピット6か所を検出した。長径26～39cm、短径23～30cmの円形及び楕円形であり、深さは8～25cm、断面形はU字状もしくは逆台形状を呈している。

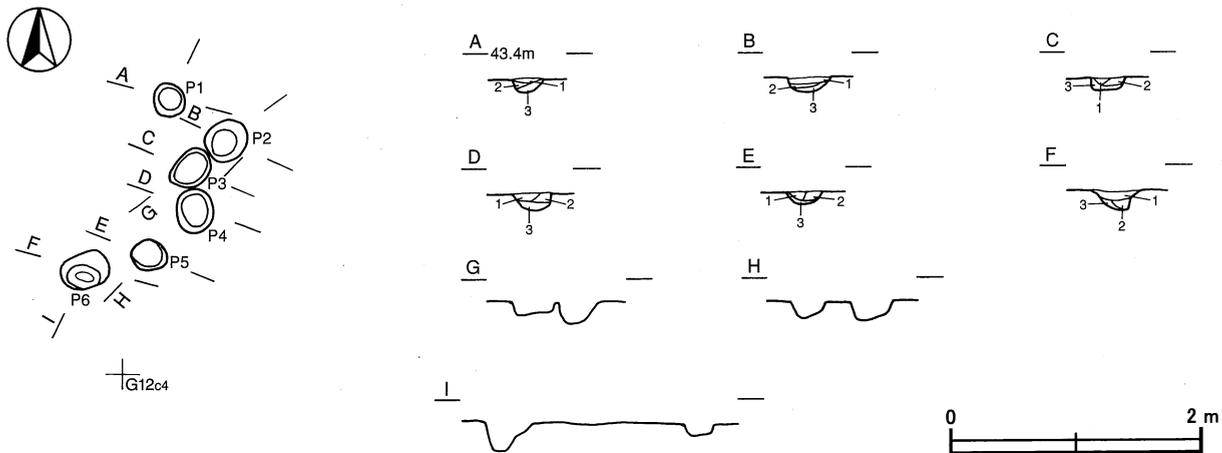
覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから、すべて柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 出土していない。

所見 ピットの形状や配列が不規則なことから、掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく、ピット群としてとらえた。時期は、出土遺物がないため不明である。



第945図 第3号ピット群実測図

第4号ピット群 (第946図)

位置 調査区北部北東寄りのG14a9～G15a1区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第1号柵跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北約2m、東西約8mの範囲に存在するピット12か所を検出した。ピットは長径24～31cm、短径20～28cmの円形及び楕円形で、深さは16～49cmであり、各ピットの断面形はU字状を呈している。

覆土 柱痕は第3・9・15層が相当し、締まりが弱い。他は埋土であり、ロームブロック・炭化粒子などを含む暗褐色土・黒褐色土・黒色土で、柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

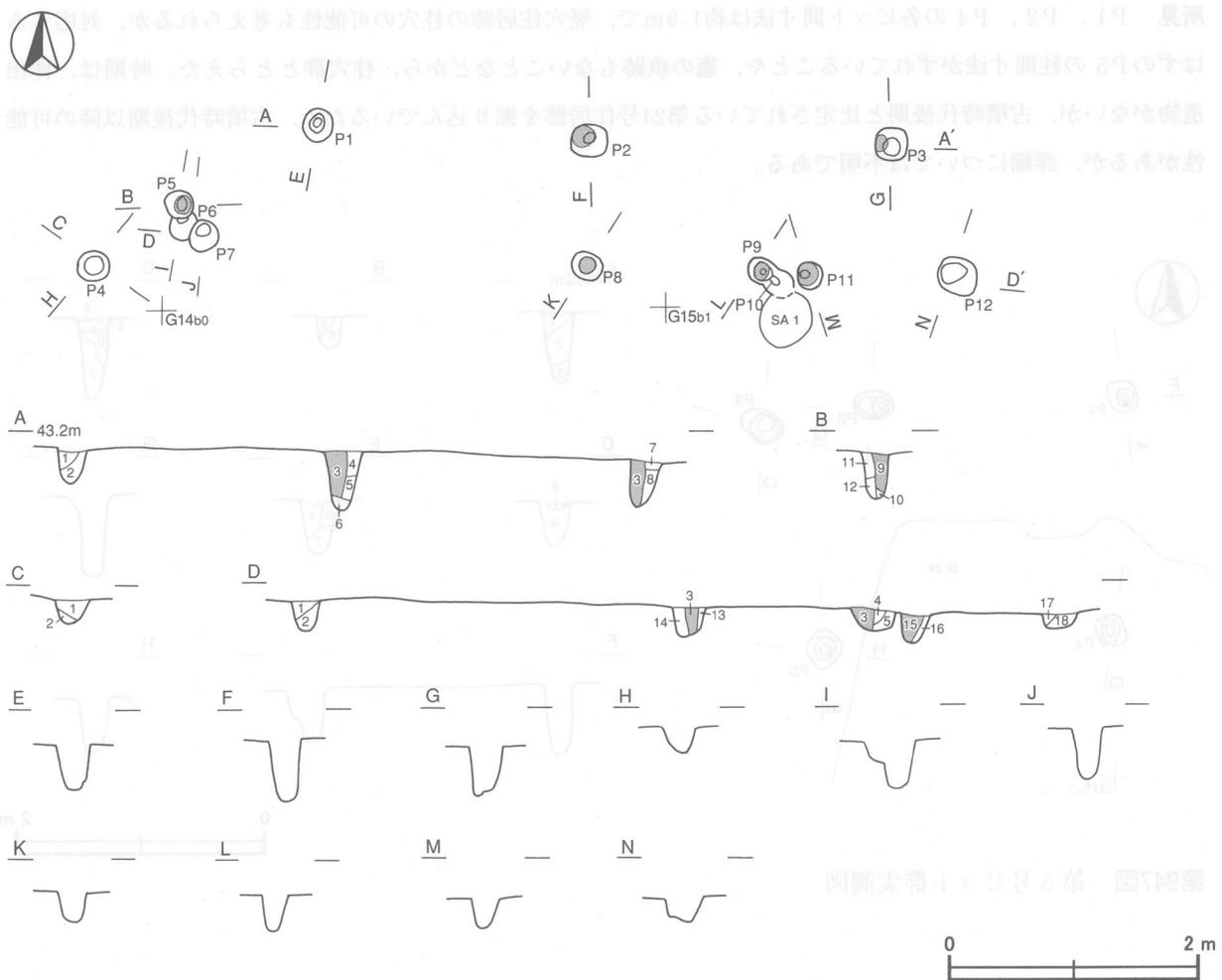
土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- | | | | | | |
|----|-----|------------------------|----|-----|-----------------|
| 5 | 黒色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 | 黒褐色 | ロームブロック微量 | 13 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 14 | 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 8 | 暗褐色 | ロームブロック微量 | 15 | 黒色 | ローム粒子少量 |
| 9 | 黒褐色 | ローム粒子微量 | 16 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 10 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 17 | 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 11 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 出土量は少なく, 土師器片1点(坏)がP1の覆土中, 土師器片1点(甕)がP12の覆土中からそれぞれ出土している。いずれも細片であり, 破断面が摩滅しているため, 混入したものと考えられる。

所見 本跡では, 柱痕をP2・P3・P5・P8・P9・P11で確認することができたが, 配置に規則性がなく, 掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくい。性格が不明確であることからピット群ととらえた。時期は, 伴出遺物がないため不明である。



第946図 第4号ピット群実測図

第5号ピット群 (第947図)

位置 調査区北部北東寄りのF15j1区に位置し, 平坦部に立地している。

重複関係 第24号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 ピットが5か所確認され, 長径26~34cm, 短径21~26cmの円形及び楕円形であり, いずれも垂直に掘り込まれ, 深さは36~64cmである。各ピットの断面はU字状もしくは逆台形上を呈している。

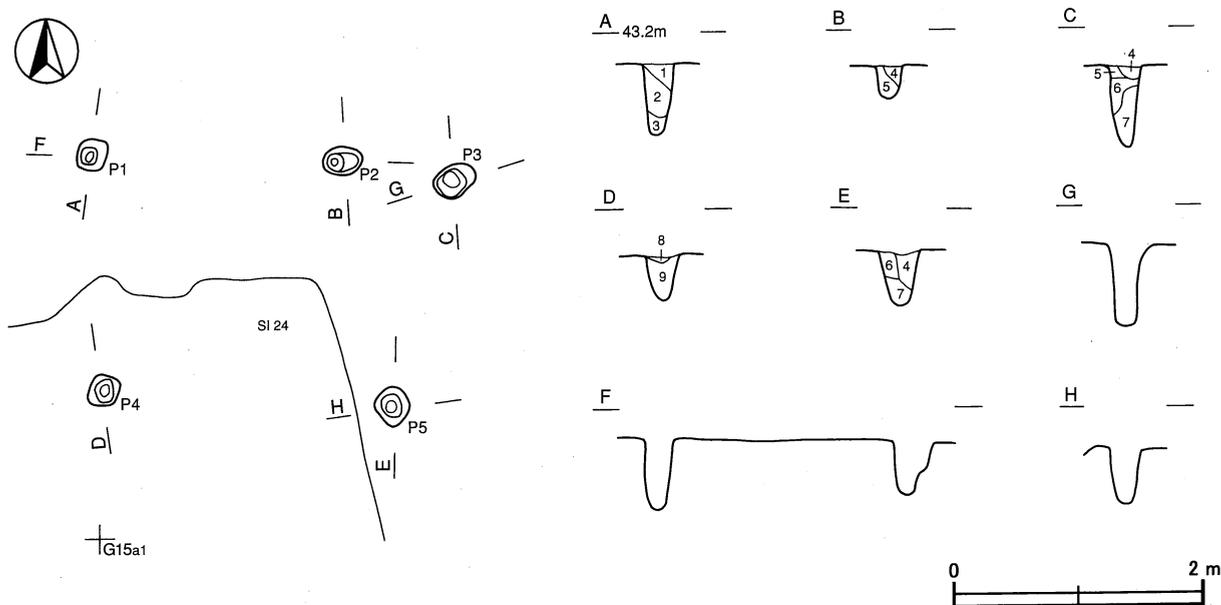
覆土 柱の抜き取り痕などは確認できず、土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから、すべて柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック微量
- 7 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 8 黒色 炭化粒子中量、焼土粒子微量
- 9 黒色 炭化粒子少量

遺物出土状況 出土遺物は少なく、土師器片1点(坏)がP3覆土中から出土している。破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 P1, P2, P4の各ピット間寸法は約1.9mで、竪穴住居跡の柱穴の可能性も考えられるが、対応するはずのP5の柱間寸法がずれていることや、竈の痕跡もないことなどから、柱穴群ととらえた。時期は、伴出遺物がないが、古墳時代後期と比定されている第24号住居跡を掘り込んでいるため、古墳時代後期以降の可能性はあるが、詳細については不明である。



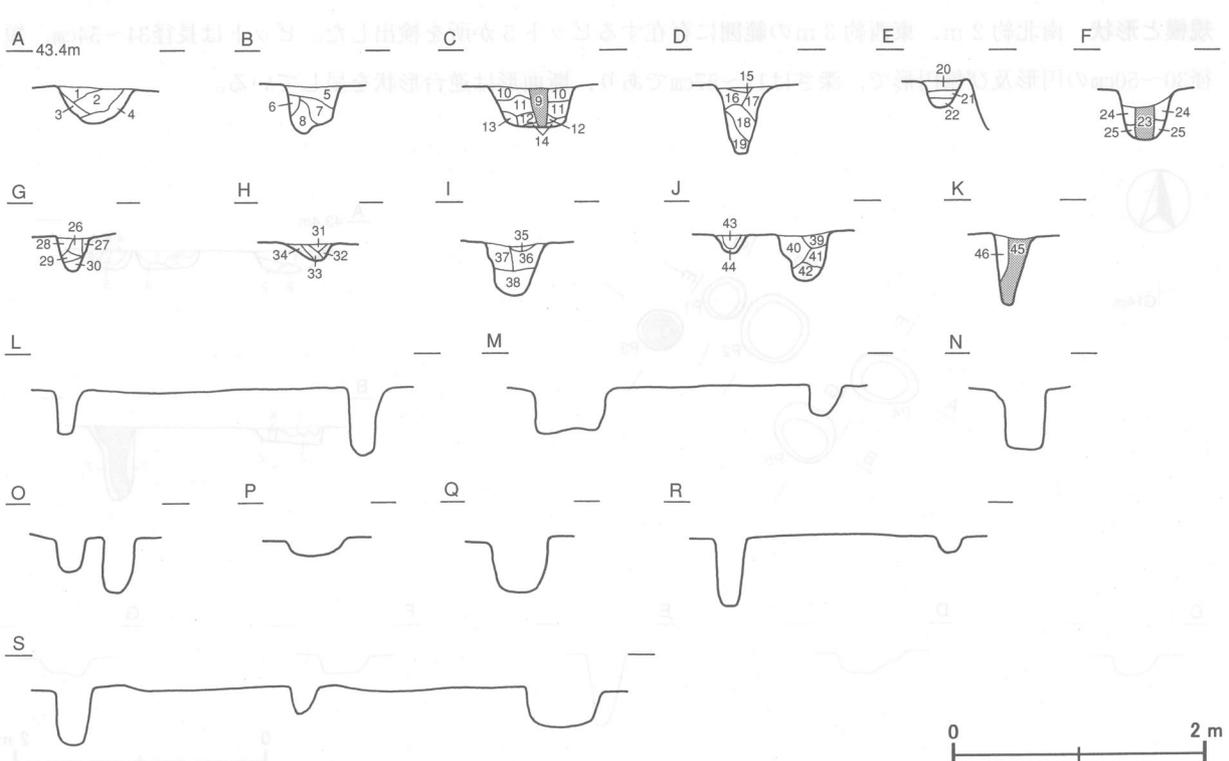
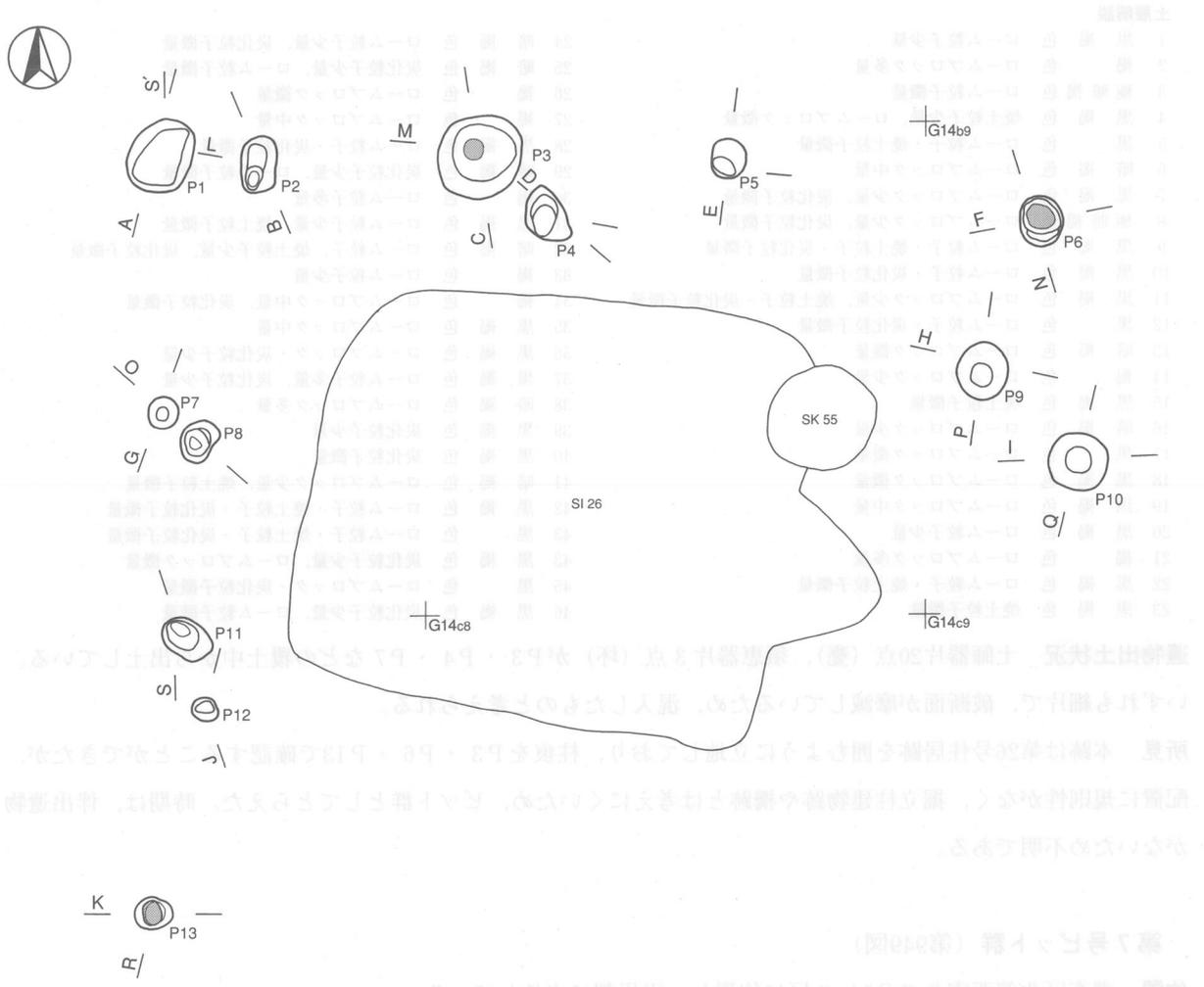
第947図 第5号ピット群実測図

第6号ピット群 (第948図)

位置 調査区北部北東寄りのG14b7～G14b9区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約7m、東西約8mの範囲に存在するピット13か所を検出した。ピットは長径23～68cm、短径22～66cmの円形及び楕円形で、深さは12～55cmであり、断面形はU字形を呈している。ピットの形状・方向・ピット間の間隔などに規則性を見出せない。

覆土 土層第9・23・45層が柱痕に相当し、P3・P6・P13で確認できた。第10・11・12・13・14・24・25・46層は埋土の覆土であり、ロームや炭化粒子などを含む褐色土・暗褐色土・黒褐色土・黒色土である。他の層は、土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから、柱抜き取り後の覆土と考えられる。



第948図 第6号ピット群実測図

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量	24	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック多量	25	暗褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量
3	極暗褐色	ローム粒子微量	26	褐色	ロームブロック微量
4	黒褐色	焼土粒子少量, ロームブロック微量	27	褐色	ロームブロック中量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	28	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック中量	29	暗褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量
7	黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	30	褐色	ローム粒子多量
8	極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	31	黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
9	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	32	暗褐色	ローム粒子, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
10	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	33	褐色	ローム粒子少量
11	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	34	褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
12	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	35	黒褐色	ロームブロック中量
13	暗褐色	ロームブロック微量	36	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
14	褐色	ロームブロック少量	37	黒褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量
15	黒褐色	焼土粒子微量	38	暗褐色	ロームブロック多量
16	暗褐色	ロームブロック少量	39	黒褐色	炭化粒子少量
17	黒褐色	ロームブロック微量	40	黒褐色	炭化粒子微量
18	黒褐色	ロームブロック微量	41	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
19	黒褐色	ロームブロック中量	42	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
20	黒褐色	ローム粒子少量	43	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
21	褐色	ロームブロック多量	43	黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック微量
22	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	45	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
23	黒褐色	焼土粒子微量	46	黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量

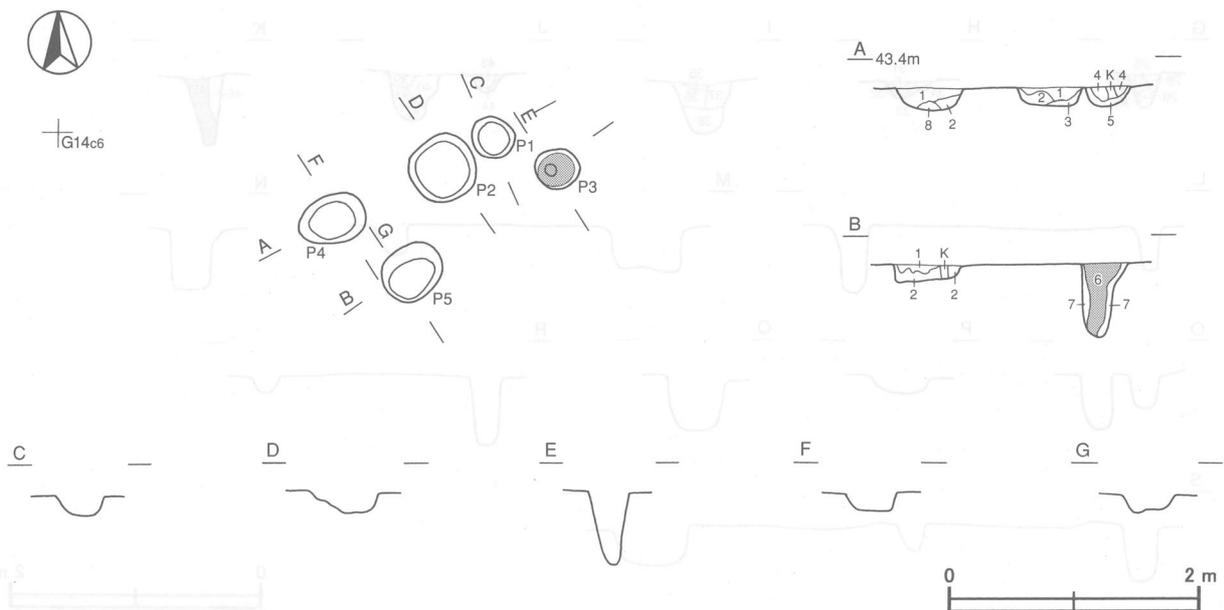
遺物出土状況 土師器片20点(甕), 須恵器片3点(坏)がP3・P4・P7などの覆土中から出土している。いずれも細片で, 破断面が摩滅しているため, 混入したものと考えられる。

所見 本跡は第26号住居跡を囲むように立地しており, 柱痕をP3・P6・P13で確認することができたが, 配置に規則性がなく, 掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくいいため, ピット群としてとらえた。時期は, 伴出遺物がないため不明である。

第7号ピット群 (第949図)

位置 調査区北部西寄りのG14c6区に位置し, 平坦部に立地している。

規模と形状 南北約2m, 東西約3mの範囲に存在するピット5か所を検出した。ピットは長径34~54cm, 短径30~50cmの円形及び楕円形で, 深さは12~57cmであり, 断面形は逆台形状を呈している。



第949図 第7号ピット群実測図

覆土 第6層が柱痕に相当し、第7層は埋土であり、ローム粒子混じりの暗褐色土である。他の層は、土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから、柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子、炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片5点(坏)がP1の覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 本跡では柱痕をP3で確認することができたが、配置に規則性がなく、掘立柱建物跡や柵跡とは考えられず、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。

第9号ピット群 (第950図)

位置 調査区北部北東寄りのG13c6～G13d8区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第243号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南北約7m、東西約9mの範囲に存在するピット34か所を検出した。ピットは長径26～74cm、短径24～59cmの円形で、深さは16～49cmであり、断面形はU字形状または逆台形状を呈している。

覆土 柱痕などは確認できず、土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから、すべて柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|----------------------|----|-----|-----------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 8 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 | 黒色 | ロームブロック少量 | 9 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 | 黒色 | ロームブロック微量 | 10 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量 |
| 5 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 11 | 黒色 | ロームブロック少量 |
| 6 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | | | |

遺物出土状況 弥生土器片3点(壺)、土師器片72点(坏9、甕63)がP5・P9などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や深さ、ピット間の間隔などに規則性が見出せないため、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。

第11号ピット群 (第951図)

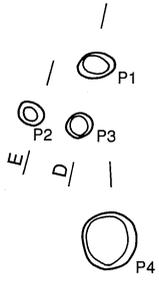
位置 調査区北部のH13i1～G13j1区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約8m、東西約5mの範囲に存在するピット13か所を検出した。ピットは長径23～43cm、短径22～34cmの円形及び楕円形で、深さは12～56cmであり、断面形はU字形状または逆台形状を呈している。

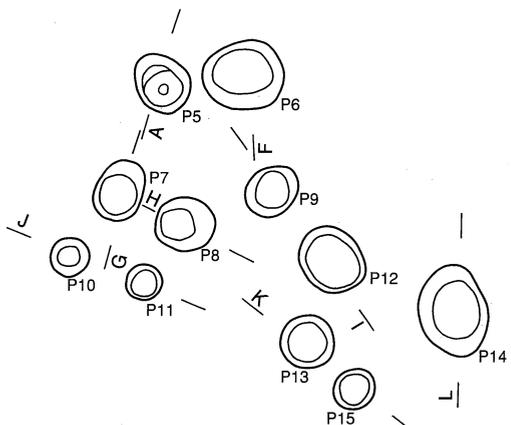
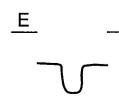
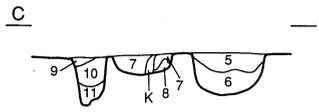
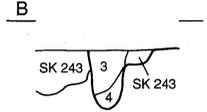
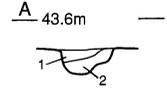
覆土 ピットからは柱痕などは確認できず、土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから、柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

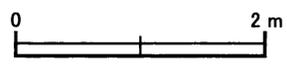
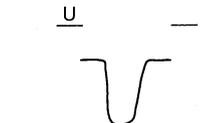
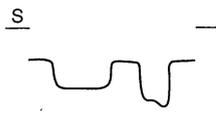
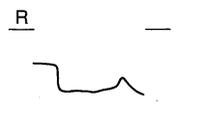
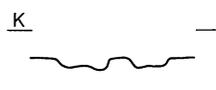
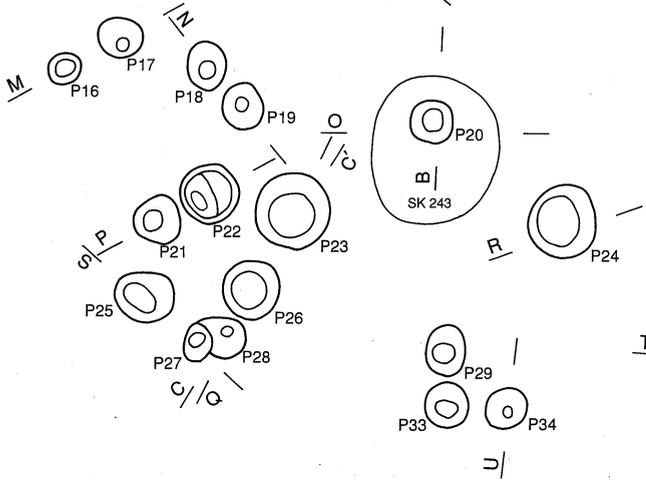
- | | | |
|---|-----|----------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 | 黒褐色 | ロームブロック少量 |



IG13c8



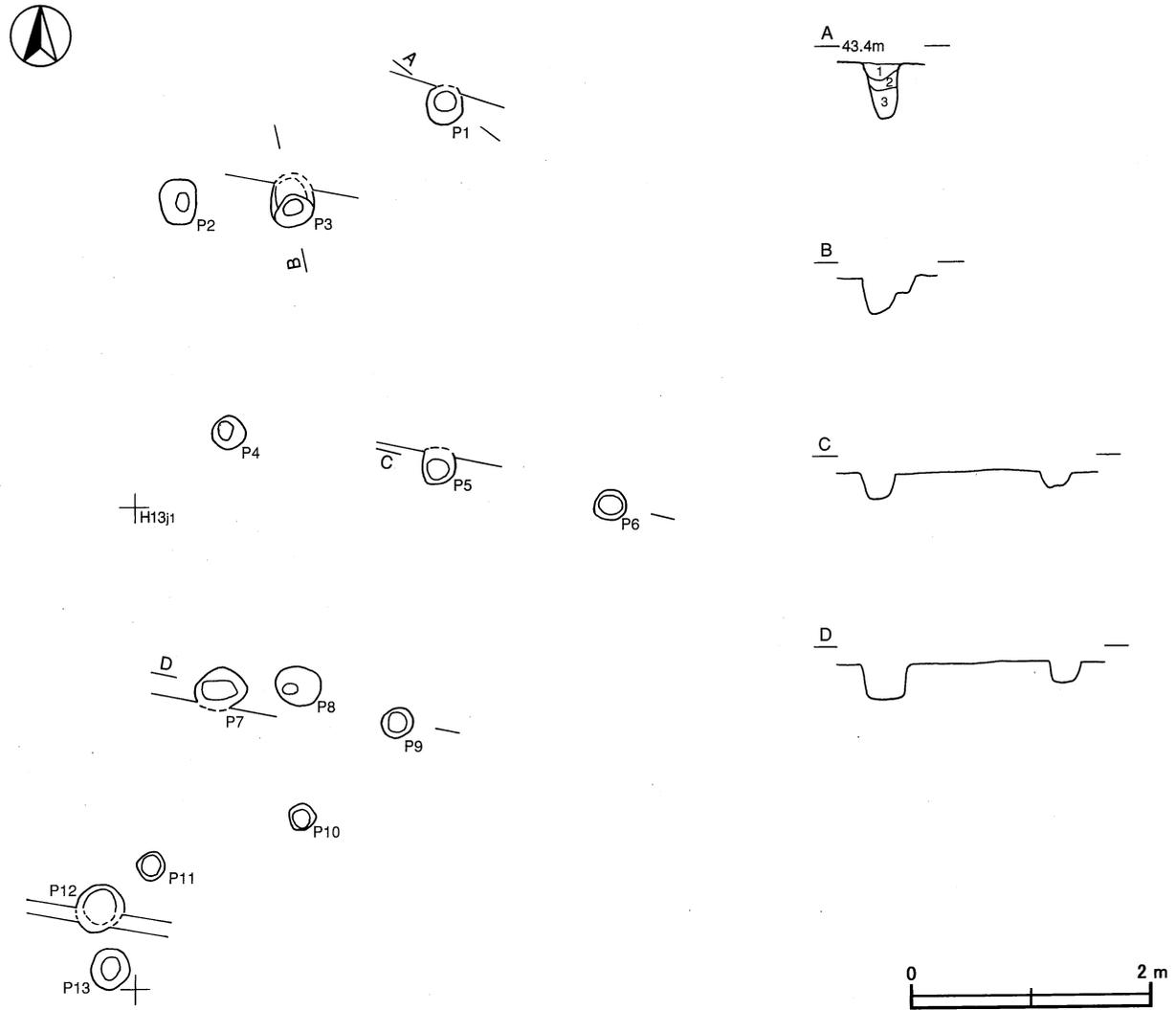
IG13d8



第950図 第9号ピット群実測図

遺物出土状況 土師器片20点（坏3，甕17），鉄滓1点がP2・13などの覆土中から出土している。いずれも細片で，破断面が摩滅しているため，混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や配列に規則性がないため，ピット群としてとらえた。時期は，伴出遺物がないため不明である。



第951図 第11号ピット群実測図

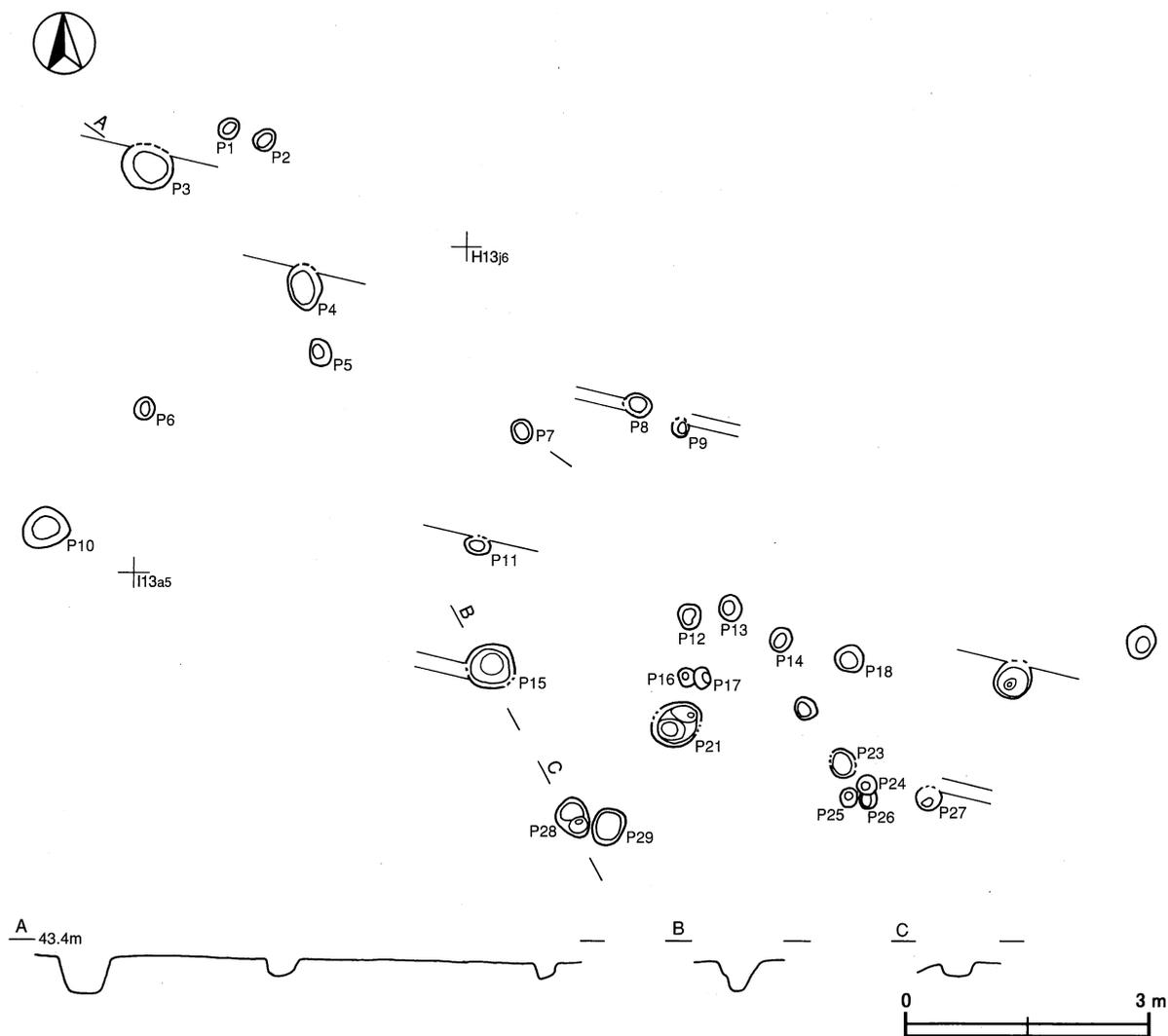
第13号ピット群（第952図）

位置 調査区中央部北寄りのH13i4～I13a8区に位置し，平坦部に立地している。

規模と形状 南北約9m，東西約14mの範囲に存在するピット29か所を検出した。ピットは長径21～61cm，短径20～59cmの円形及び楕円形で，深さは14～67cmであり，断面形はU字形状または逆台形状を呈している。

遺物出土状況 土師器片20点（坏3，甕17），鉄滓1点がP15などの覆土中から出土している。いずれも細片で，破断面が摩滅しているため，混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や配列に規則性が見出せないため，ピット群としてとらえた。時期は，伴出遺物がないため不明である。



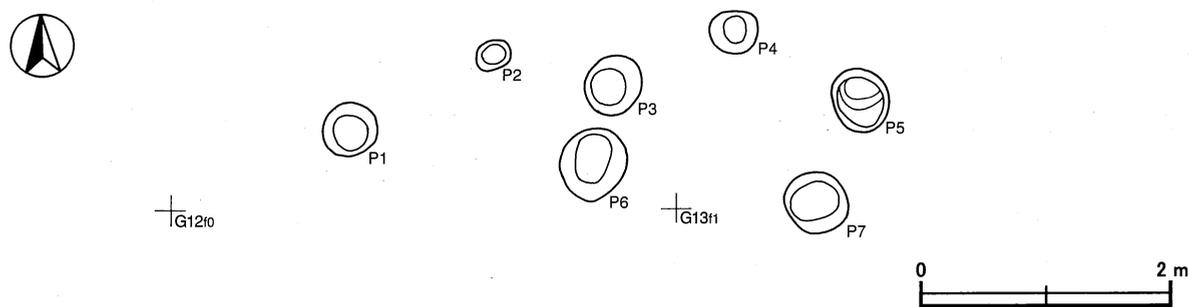
第952図 第13号ピット群実測図

第14号ピット群 (第953図)

位置 調査区中央部のG12e0～G12e1区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約2m、東西約5mの範囲に存在するピット7か所を検出した。ピットは長径27～57cm、短径23～53cmの円形及び楕円形で、深さは20～35cmである。

遺物出土状況 出土していない。



第953図 第14号ピット群実測図

所見 ピットの配列などに規則性が見出せないため、ピット群としてとらえた。時期は、出土遺物がないため不明である。

第15号ピット群 (第954図)

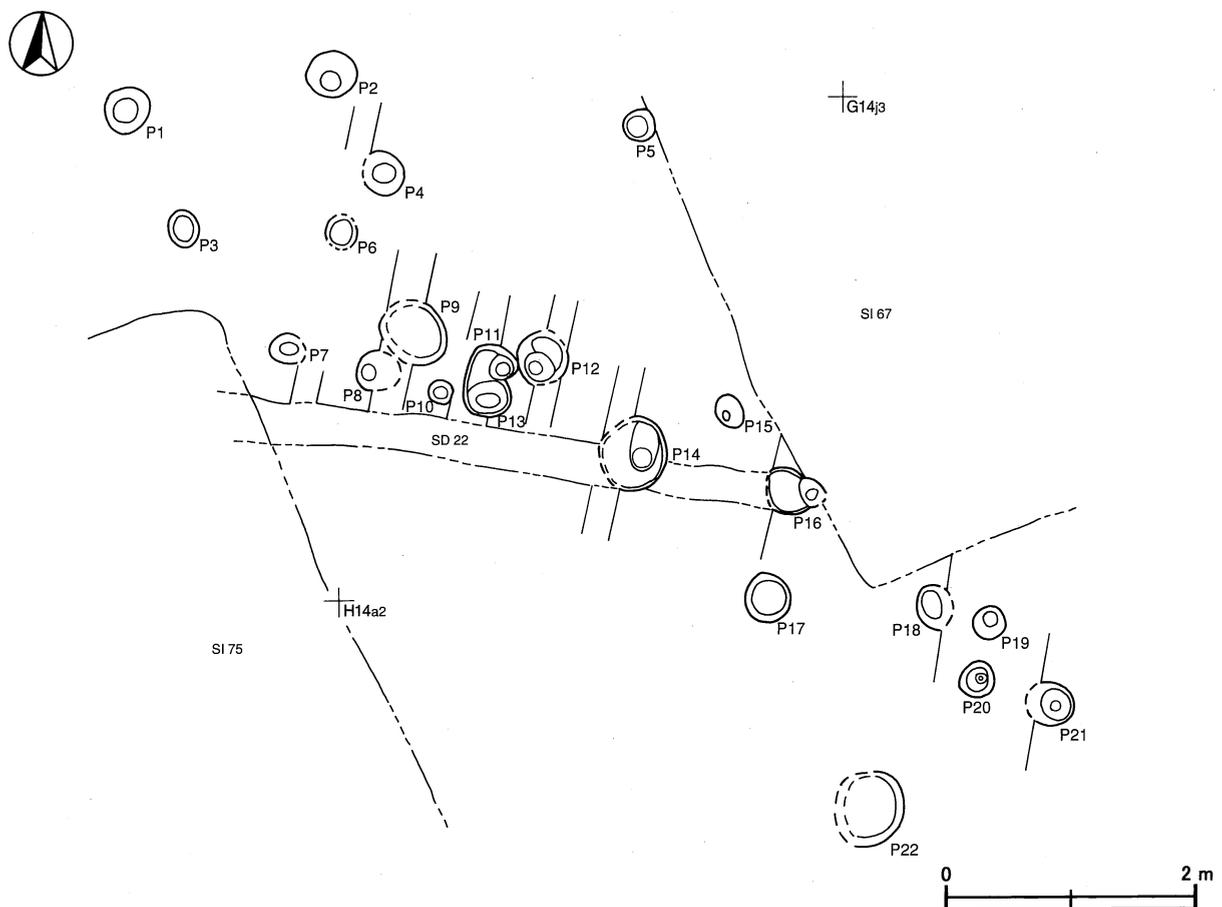
位置 調査区中央部のG14i1～H14a3区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第67号住居跡、22号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 南北約6m、東西約8mの範囲に存在するピット22か所を検出した。ピットは長径21～61cm、短径18～53cmの円形及び楕円形で、深さは11～59cmであり、断面形はU字形または逆台形状を呈している。

遺物出土状況 土師器片23点(坏9, 甕14), 須恵器片2点(甕)1点がP20・P21などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や配列などに規則性が見出せないため、ピット群としてとらえた。本跡は6世紀中葉に比定される第67号住居跡や第22号溝を掘り込んでいるが、第22号溝が時期不明であり、加えて伴出遺物もないため、時期は不明である。



第954図 第15号ピット群実測図

第16号ピット群 (第955図)

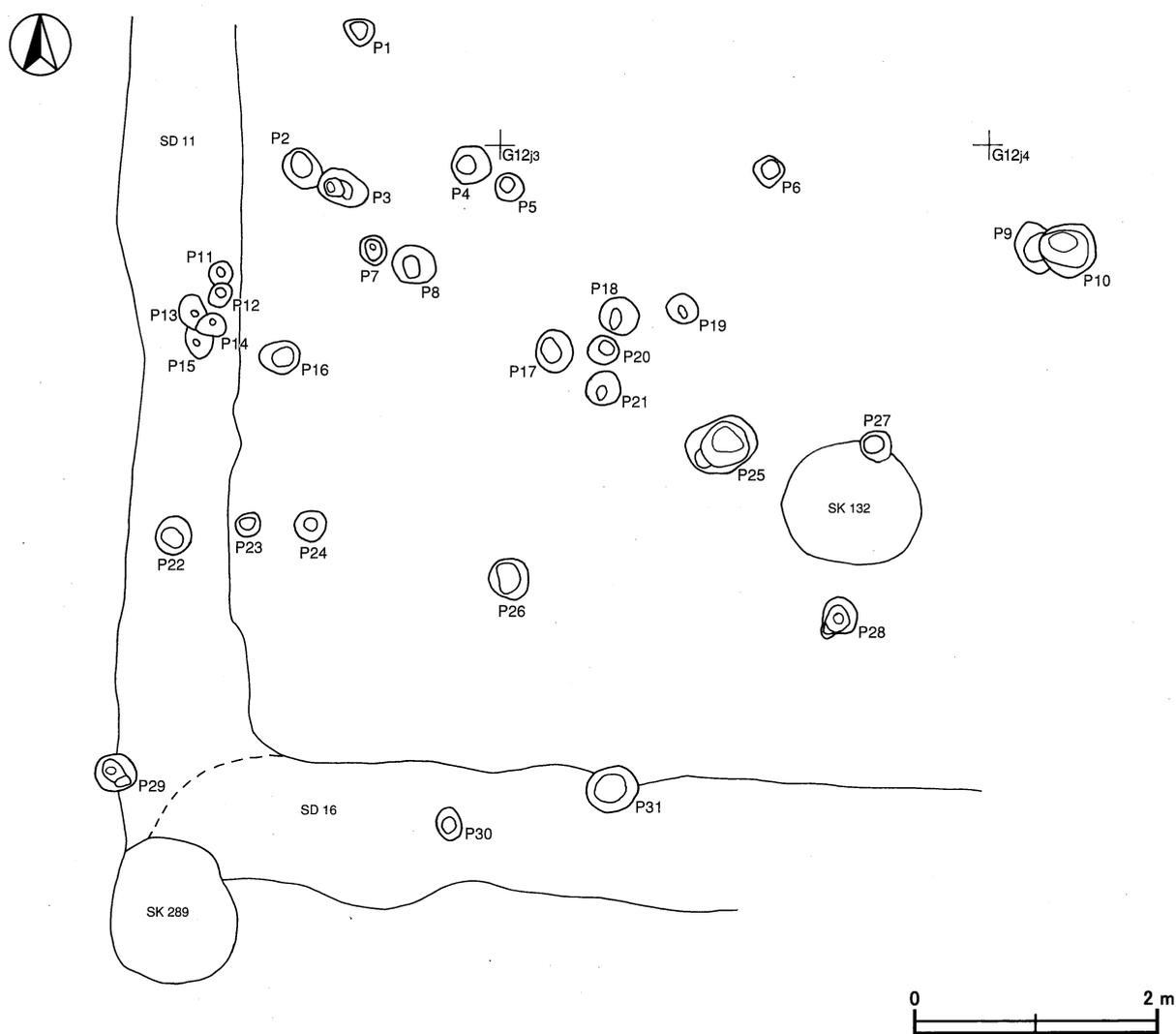
位置 調査区中央部のG12i2～H12a3区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第11・16号溝、第132号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南北約4.5m、東西約5mの範囲に存在するピット31か所を検出した。ピットは長径22～57cm、短径21～45cmの円形及び楕円形で、深さは14～59cmである。

遺物出土状況 土師器片5点(坏)がP24などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や配列などに規則性が見出せないため、ピット群としてとらえた。時期は、中世と推定される第16号溝を掘り込んでいるため、中世以降と考えられる。



第955図 第16号ピット群実測図

第17号ピット群 (第956図)

位置 調査区北部西寄りのG12h4区に位置し、平坦部に立地している。

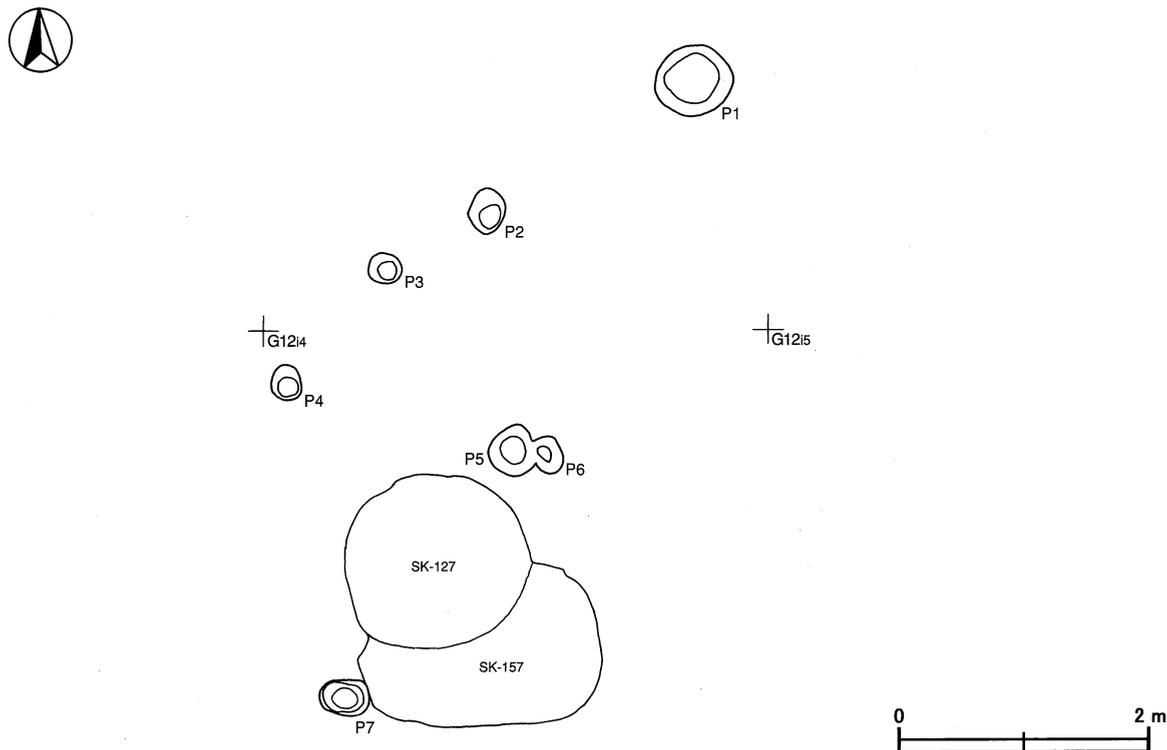
重複関係 第127・157号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北約5m、東西約4mの範囲に存在するピット7か所を検出した。ピットは長径26～63cm、短

径23～52cmの円形及び楕円形で、深さは15～26cmである。

遺物出土状況 土師器片5点(坏)がP2など覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や配列などに規則性が見出せないため、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がな
いため不明である。



第956図 第17号ピット群実測図

第18号ピット群 (第957図)

位置 調査区中央部のI13a4～I13b5区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 5m四方の範囲に存在するピット11か所を検出した。ピットは長径23～40cm、短径20～35cmの円形及び楕円形で、深さは11～42cmであり、断面形はU字状を呈している。

遺物出土状況 土師器片16点(坏3、甕13)がP4などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものである。

所見 ピットの配列などに規則性が見出せないため、掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がな
いため不明である。

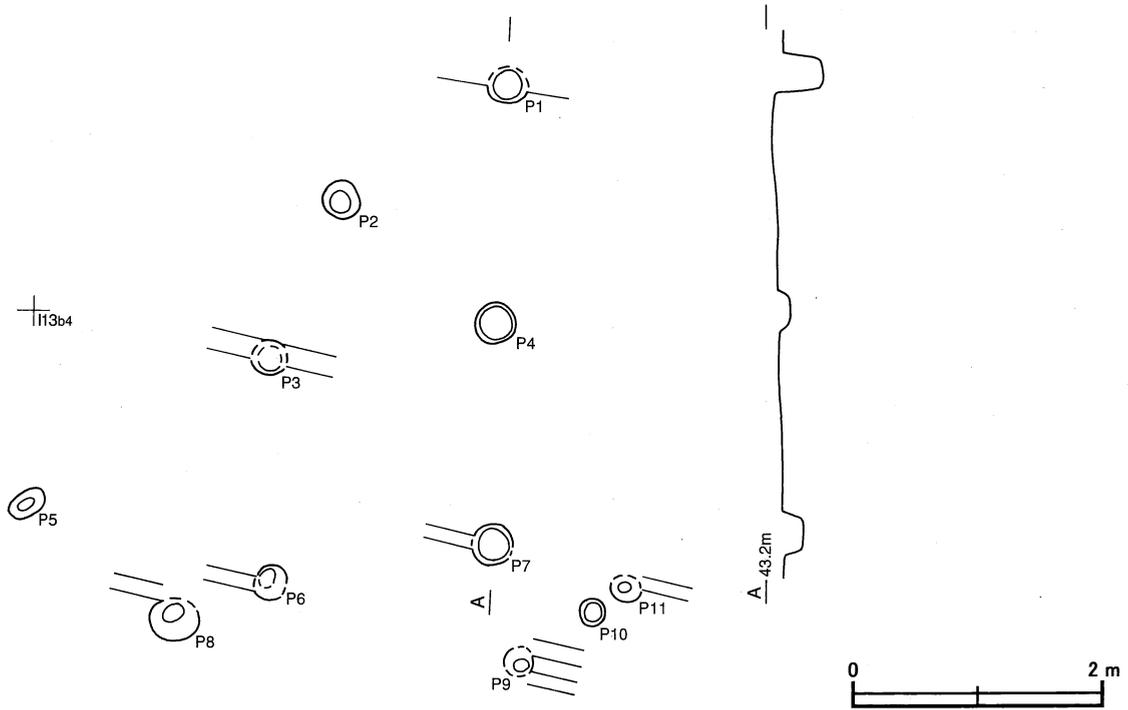
第19号ピット群 (第958図)

位置 調査区中央部西寄りのG12f3～G12g4区に位置し、平坦部に立地している。

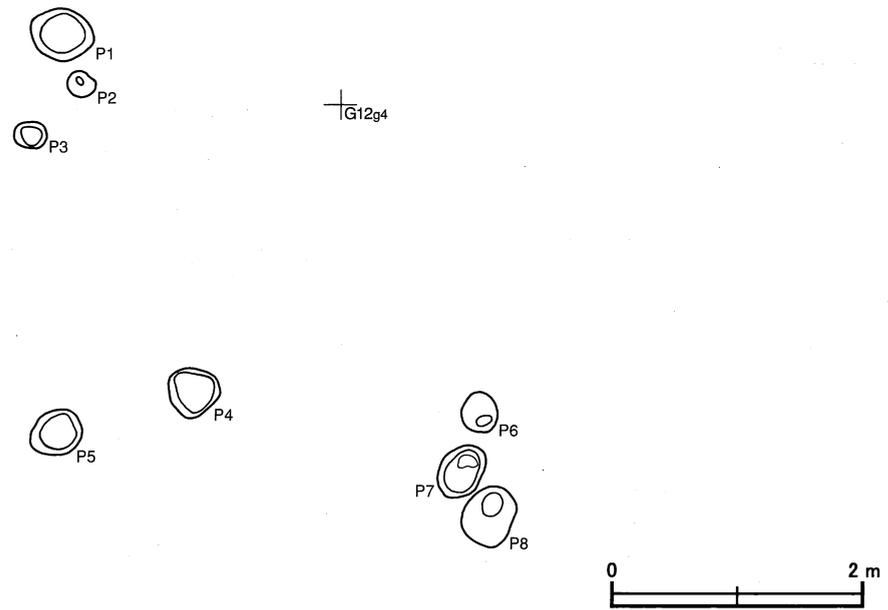
規模と形状 4m四方の範囲に存在するピット8か所を検出した。ピットは長径27～47cm、短径22～37cmの円形または楕円形で、深さは15～58cmである。

遺物出土状況 出土していない。

所見 ピットの形状や配列などに規則性が見出せないため、ピット群としてとらえた。時期は、出土遺物がないため不明である。



第957図 第18号ピット群実測図



第958図 第19号ピット群実測図

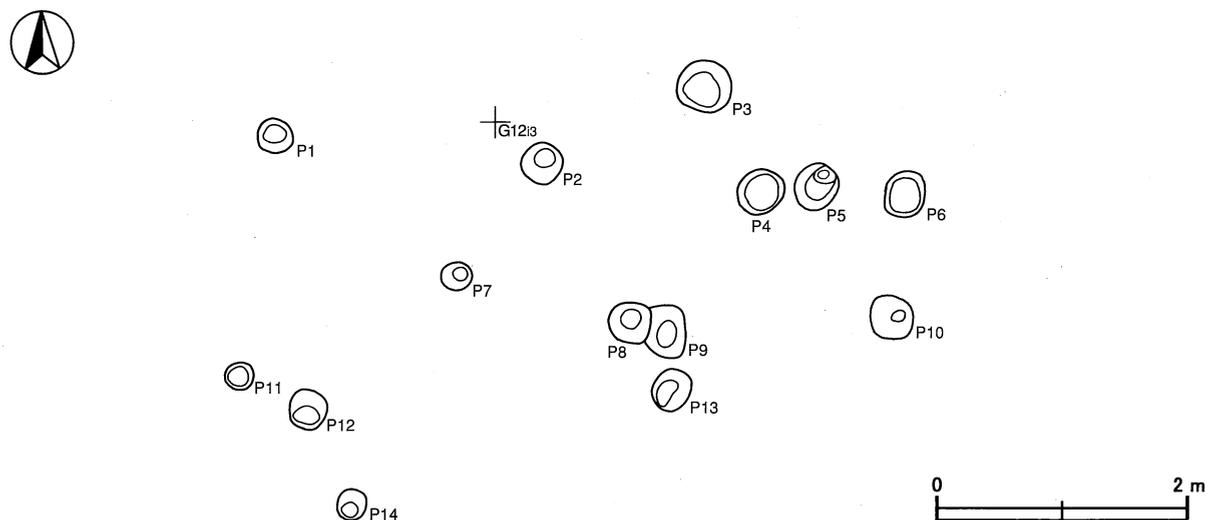
第20号ピット群 (第959図)

位置 調査区中央部西寄りのG12i2～G12i3区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約4m、東西約5.5mの範囲に存在するピット14か所を検出した。ピットは長径23～43cm、短径21～42cmの円形または楕円形で、深さは11～34cmである。

遺物出土状況 出土していない。

所見 ピットの形状や深さ、ピット間隔などに規則性が見出せないため、ピット群としてとらえた。時期は、出土遺物がないため不明である。



第959図 第20号ピット群実測図

第22号ピット群 (第960図)

位置 調査区中央部のI13d3～I13f4区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第701, 708号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北約6m、東西約7mの範囲に存在するピット23か所を検出した。ピットは長径25～60cm、短径20～51cmの円形及び楕円形で、深さ約13～25cmであり、断面形はU字形状または逆台形状を呈している。

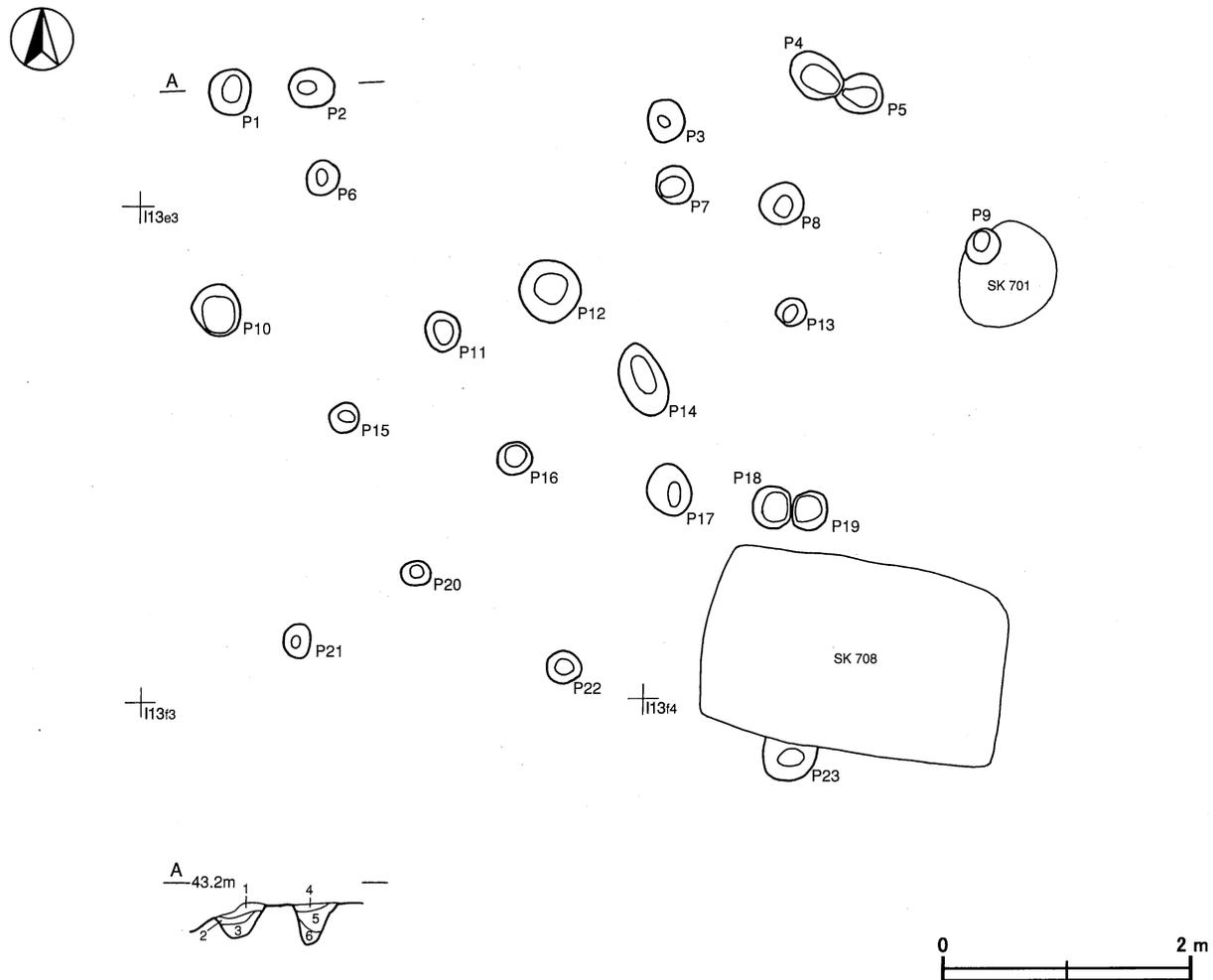
覆土 ピットからは柱痕などは確認できず、土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから、柱抜き取り後の覆土と考えられる。

P1・2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片25点(坏3, 甕22)が覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 第1号濠の張り出し部に位置しているが、ピット間隔や方向に規則性がなく、掘立柱建物跡や柵跡とは考えられず、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。



第960図 第22号ピット群実測図

第23号ピット群 (第961図)

位置 調査区中央部のH12g6～H12j7区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約10m、東西約5mの範囲に存在するピット17か所を検出した。ピットは長径23～61cm、短径約21～52cmの円形及び楕円形で、深さは25～67cmである。

遺物出土状況 土師器片33点(坏7, 甕26), 須恵器片1点(甕)がP5・14などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や配列に規則性がないことから、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。

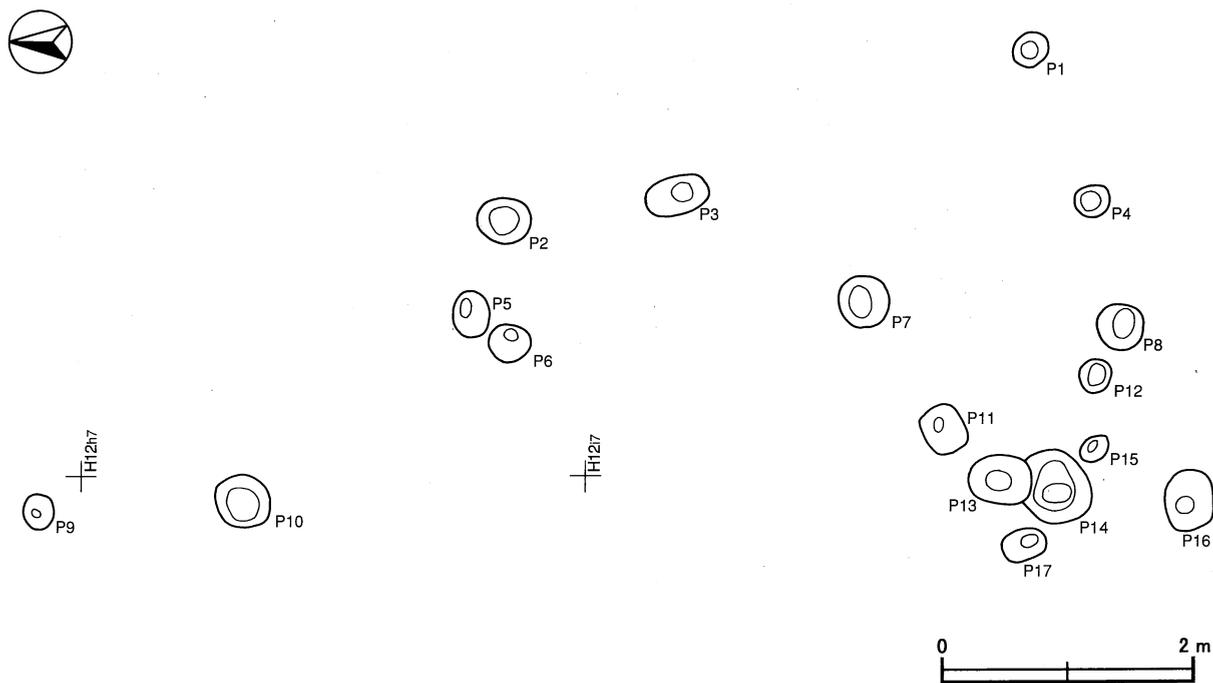
第24号ピット群 (第962図)

位置 調査区中央部のI12c9～I12d0区に位置し、平坦部に立地している。

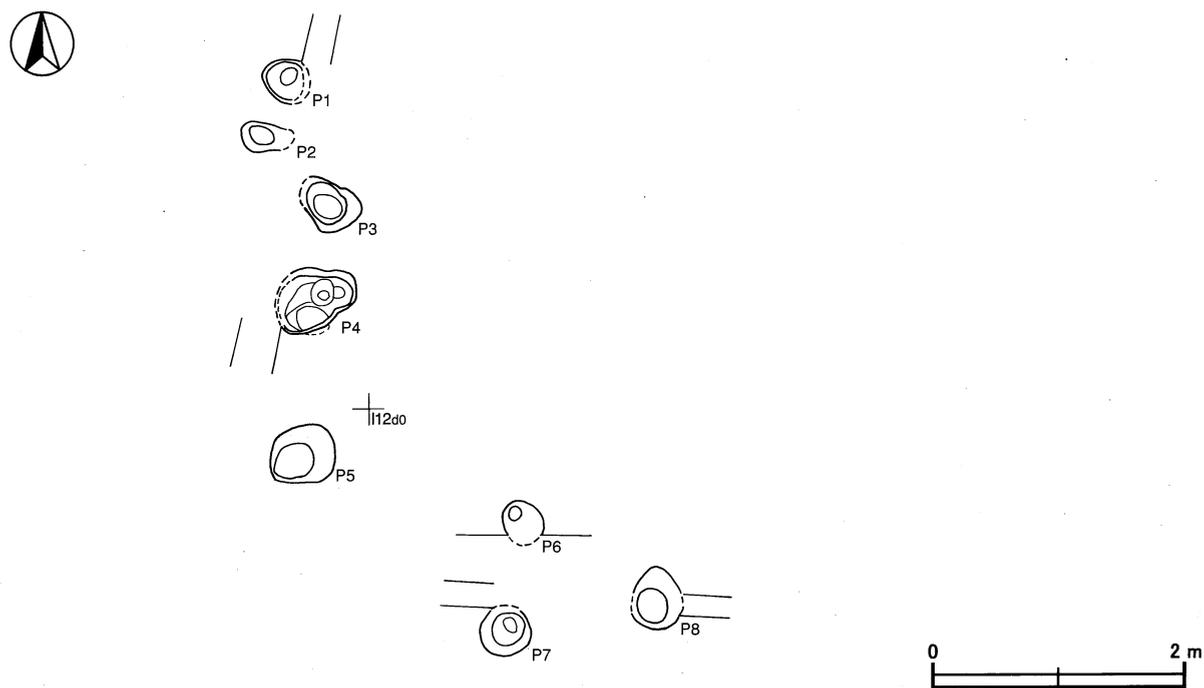
規模と形状 南北約5m、東西約4mの範囲に存在するピット8か所を検出した。ピットは長径34～55cm、短径30～47cmの円形及び楕円形で、深さが30～81cmである。

遺物出土状況 土師器片4点(甕)がP1の覆土中、土師器片2点(甕), 須恵器片2点(甕1, 鉢1)がP4の覆土中からそれぞれ出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状やピット間の間隔，方向に規則性がないことから，ピット群としてとらえた。時期は，伴出遺物がないため不明である。



第961図 第23号ピット群実測図



第962図 第24号ピット群実測図

第25号ピット群 (第963図)

位置 調査区中央部のH12i8～I12a9区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約11m、東西約7mの範囲に存在するピット22か所を検出した。ピットは長径35～70cm、短径20～52cmの円形及び楕円形で、深さは10～50cmである。

遺物出土状況 土師器片35点(坏8, 甕27)、須恵器片3点(坏2, 高台付坏1)がP5・6などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状やピットの配列に規則性がないことから、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。



第963図 第25号ピット群実測図

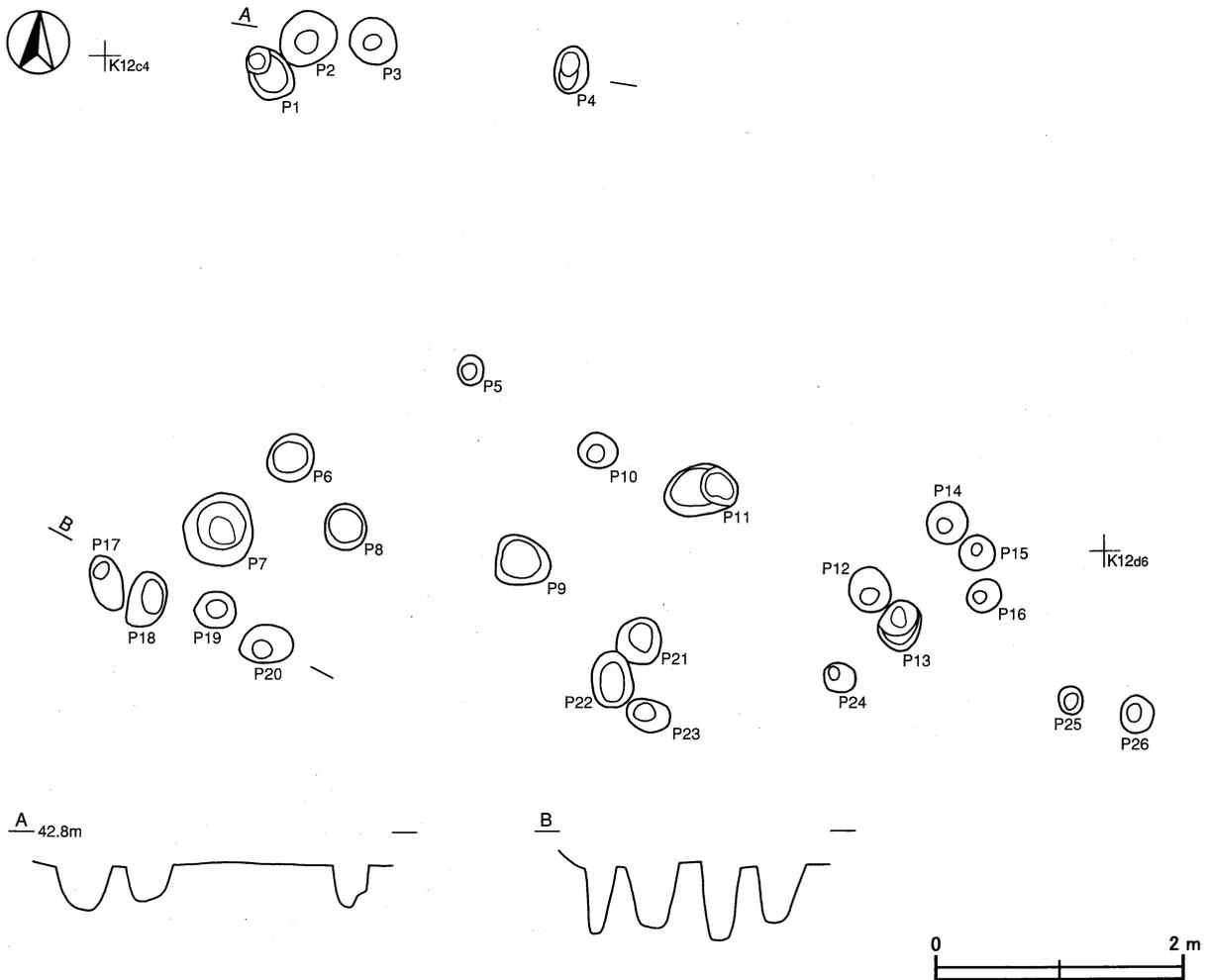
第26号ピット群 (第964図)

位置 調査区南部のK12b4～K12d6区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約6m、東西約9mの範囲に存在するピットを26か所検出した。ピットは長径23～61cm、短径21～56cmの円形及び楕円形で、深さは25～67cmであり、断面形はU字形状または逆台形状を呈している。

遺物出土状況 土師器片45点(坏16, 甕29), 須恵器片3点(高台付坏1, 甕2), 鉄滓4点がP18・P19などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や規則性がないことから、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。



第964図 第26号ピット群実測図

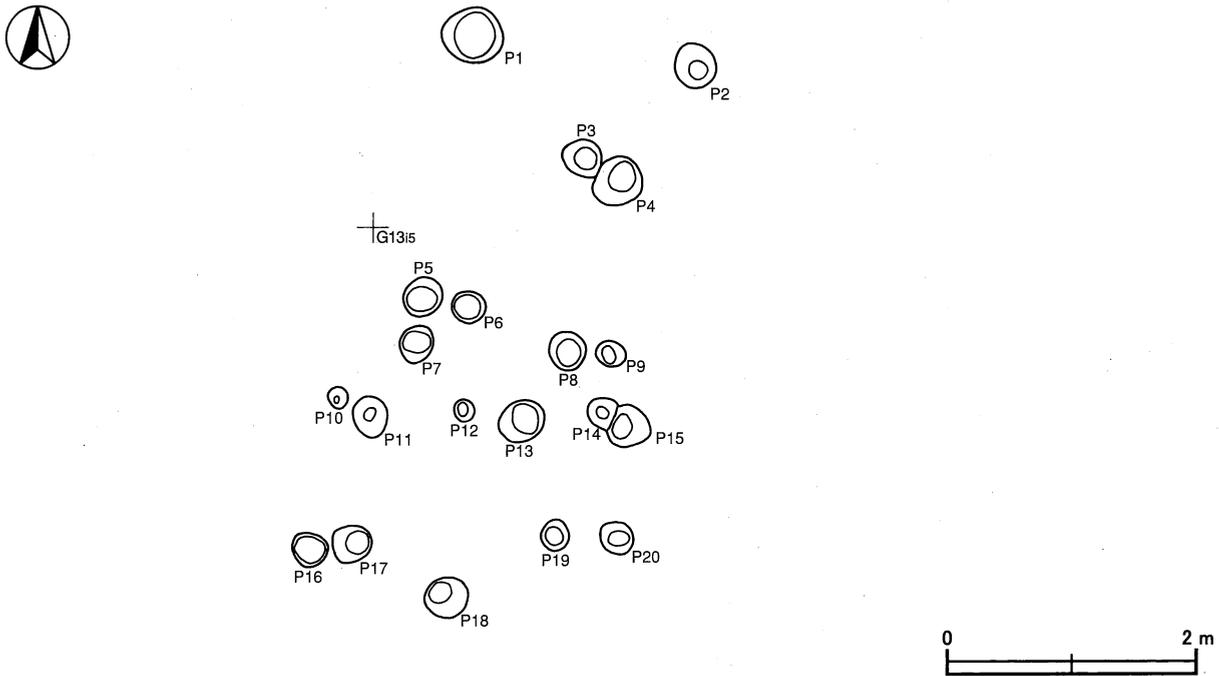
第28号ピット群 (第965図)

位置 調査区北部のG13h4～G13i5区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約5m、東西約3.5mの範囲に存在するピット20か所を検出した。ピットは長径18～48cm、短径16～42cmの円形及び楕円形で、深さは10～75cmである。

遺物出土状況 土師器片6点(高台付坏1, 甕5), 須恵器片1点(甕)がP8などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの配列に規則性がないことから、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。



第965図 第28号ピット群実測図

第29号ピット群 (第966図)

位置 調査区北部のG13h3～G13j4区に位置し、平坦部に立地している。

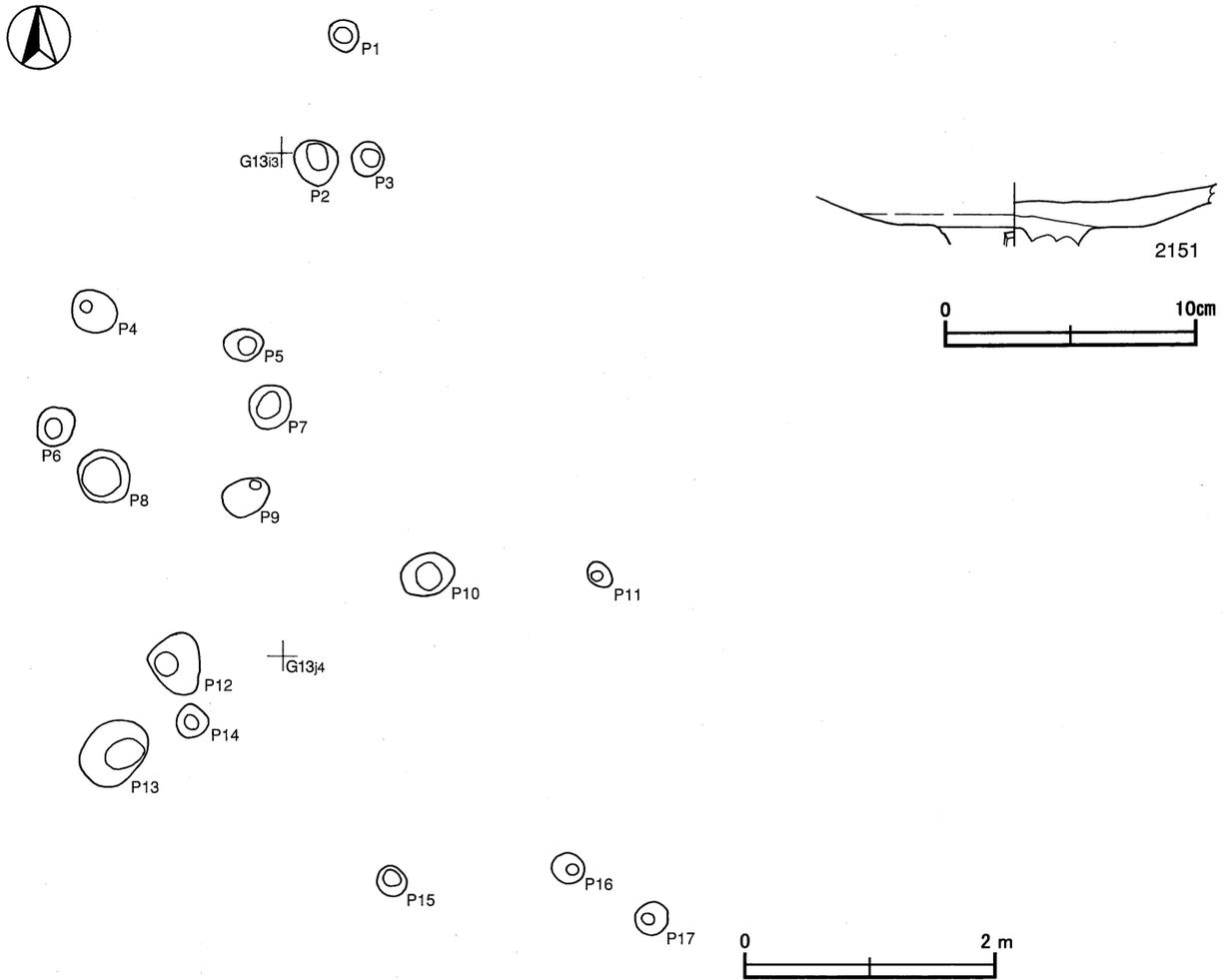
規模と形状 南北約7m、東西約5mの範囲に存在するピット17か所を検出した。ピットは長径25～52cm、短径22～42cmの円形及び楕円形で、深さは11～50cmであり、断面形はU字形状または逆台形状を呈している。

遺物出土状況 土師器片6点(高台付坏1、甕5)、須恵器片1点(甕)、緑釉陶器1点(椀・皿類)がP9などの覆土中から出土している。ほとんどが細片であり、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。緑釉陶器片はP16の覆土中から出土したもので、猿投産の黒笹90号窯式と考えられ、小破片のため図示できなかった。2151はP13の覆土中から出土している。

所見 ピットの形状や配列に規則性がないことから、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。

第29号ピット群遺物観察表 (第966図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2151	須恵器	高盤	-	(2.5)	-	黒色粒子・赤色粒子	黄灰色	良好	内外面ロクロナデ、透かし孔4か所	P13覆土中	10% 外面自然釉



第966図 第29号ピット群・遺物実測図

第30号ピット群 (第967図)

位置 調査区北部のG13i2～H13a3区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約7m、東西約5mの範囲に存在するピット18か所を検出した。ピットは長径23～78cm、短径19～70cmの円形または楕円形で、深さは14～58cmである。

遺物出土状況 土師器片1点(坏)がP9の覆土中から出土している。細片で破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や配列などに規則性がないことから、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。

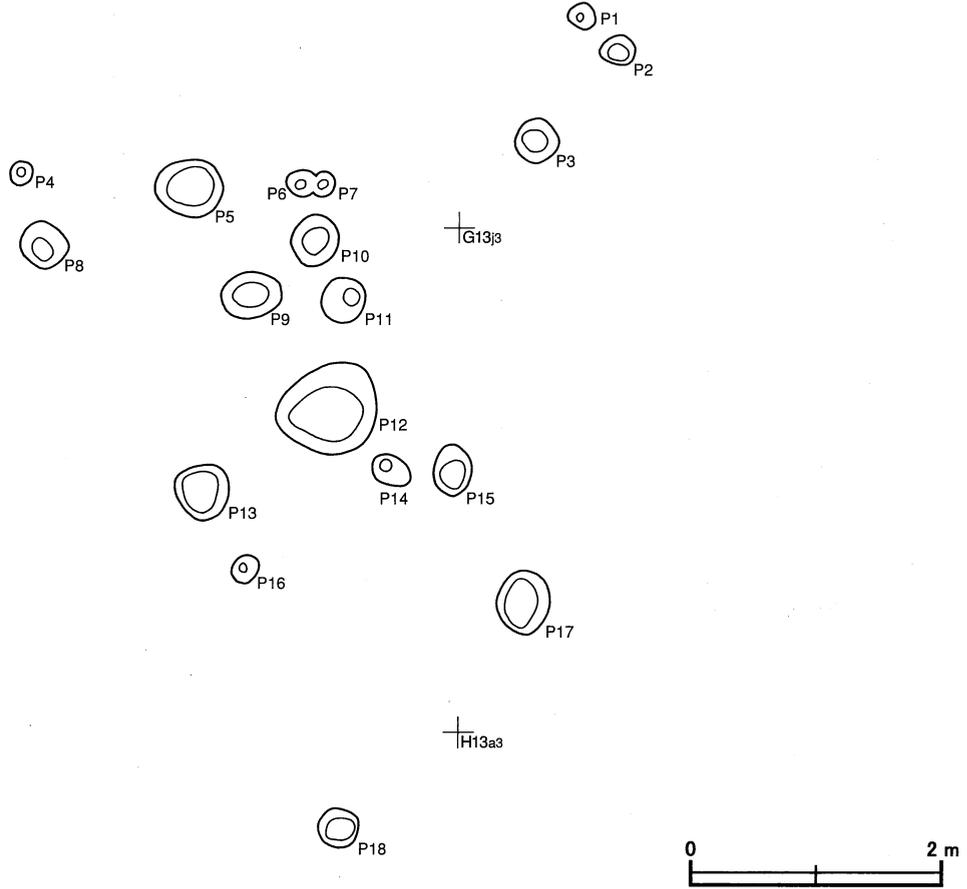
第32号ピット群 (第968図)

位置 調査区北部のG12e8～G12f9区に位置し、平坦部に立地している。

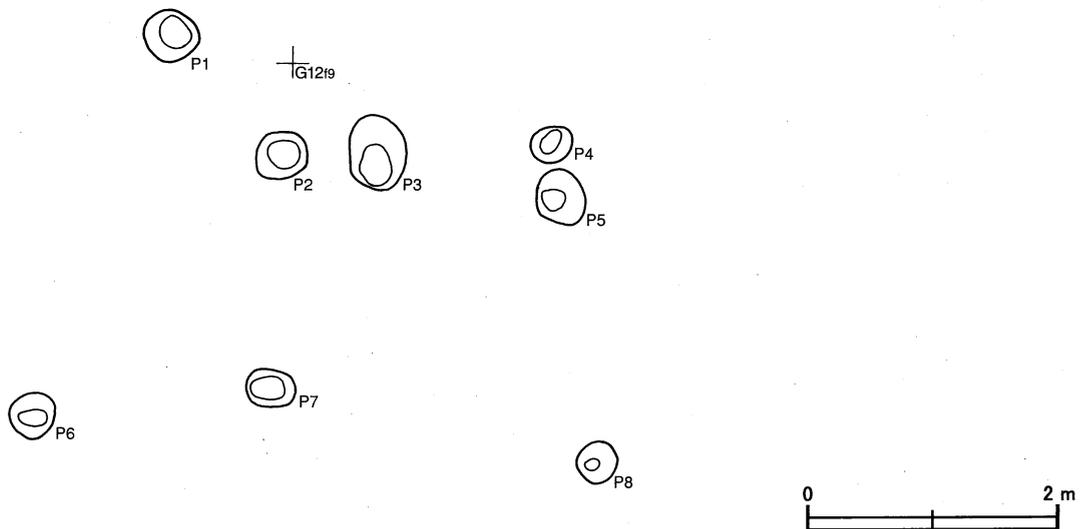
規模と形状 南北約4m、東西約5mの範囲に存在するピット8か所を検出した。ピットは長径35～58cm、短径27～46cmの円形または楕円形で、深さは29～45cmである。

遺物出土状況 土師器片2点(甕)がP1の覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものである。

所見 ピットの配列に規則性がないことから、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。



第967図 第30号ピット群実測図



第968図 第32号ピット群実測図

第34号ピット群 (第969図)

位置 調査区北部のH12b9～H12d0区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第7号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北約9m、東西約8mの範囲に存在するピット17か所を検出した。第7号掘立柱建物跡と重複しているが、掘り方の重複は見られない。ピットは長径24～73cm、短径25～63cmの円形または楕円形で、深さは13～38cmであり、断面形はU字形状または逆台形状を呈している。

覆土 柱痕などは確認できず、土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから、柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・鹿沼パミス少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、鹿沼パミス少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片24点(坏14, 甕10)がP7などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や配列に規則性がなく、第7号掘立柱建物跡の足場掘り方とも考えられないことから、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。

第35号ピット群 (第970図)

位置 調査区北部のJ12d8～J12e9区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約3.3m、東西約4.5mの範囲に存在するピット8か所を検出した。ピットは長径30～64cm、短径24～50cmの円形または楕円形で、深さは約9～67cmであり、断面形はU字形状または逆台形状を呈している。

覆土 第1層は柱痕に相当し、第2～4層は埋土であり、ローム・炭化粒子・焼土粒子を含む暗褐色土・黒褐色土・黒色土である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片17点(坏7, 甕10)、須恵器片1点(坏)がP5・6などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

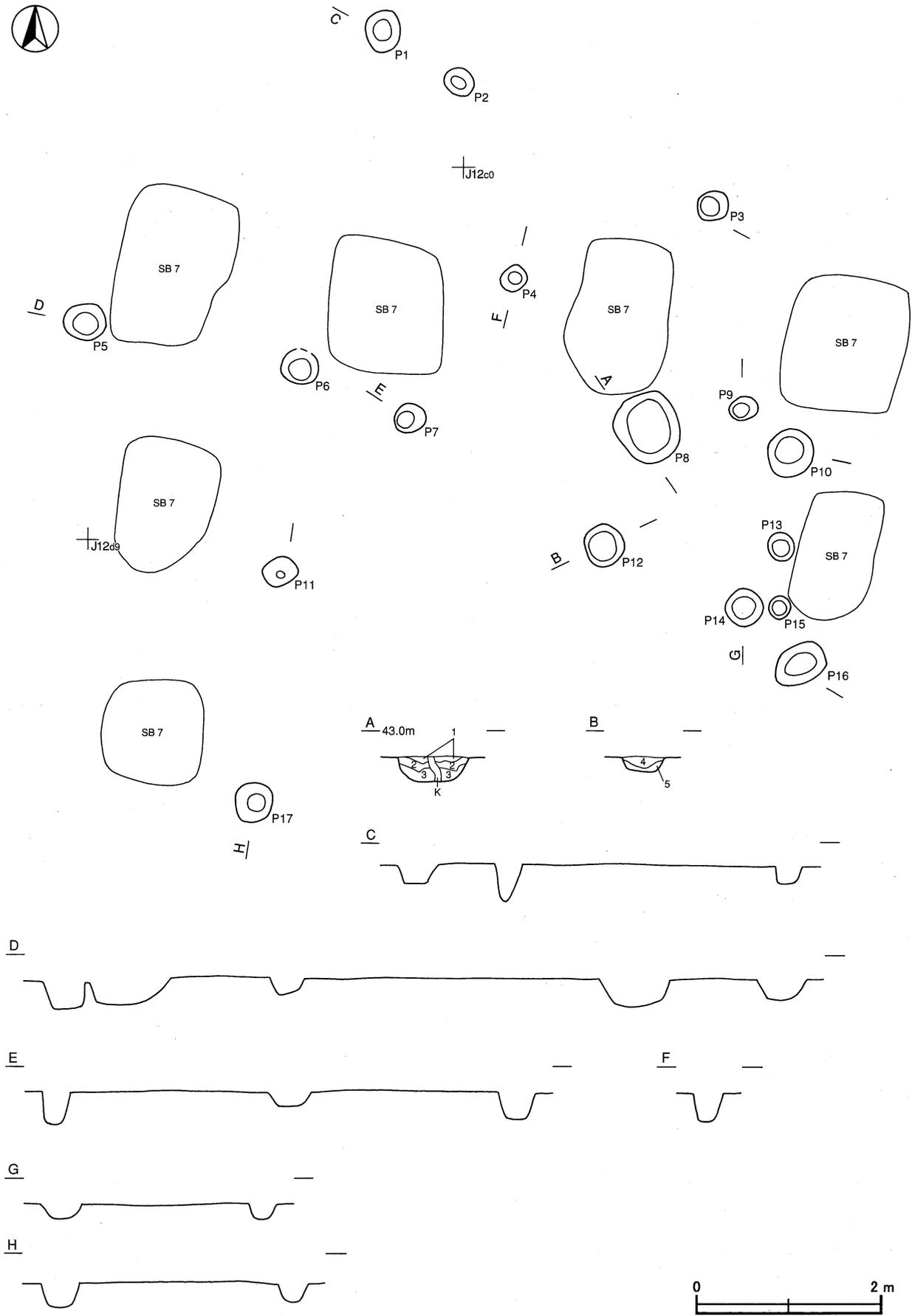
所見 P5で柱痕は確認できたが、ピットの形状や配置などに規則性がないことから、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。

第36号ピット群 (第971図)

位置 調査区北部のJ12g0～J13i1区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約6m、東西約7mの範囲に存在するピット28か所を検出した。ピットは長径22～65cm、短径19～53cmの円形または楕円形で、深さは11～63cmであり、断面形はU字形状または逆台形状を呈している。

覆土 第1層が柱痕に相当し、第2・3層は埋土であり、ローム粒子などを含む褐色土・暗褐色土である。他は、土層観察での堆積状況や土の締まり具合などから、柱抜き取り後の覆土と考えられる。



第969図 第34号ピット群実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 鹿沼パミス少量, 焼土粒子, 炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・鹿沼小ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | 鹿沼パミス中量, ローム粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量, 鹿沼パミス微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス少量, 炭化粒子微量 | 17 褐色 | 鹿沼パミス中量, ローム粒子少量 |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量 | | |

遺物出土状況 土師器片15点(甕), 須恵器片6点(坏)がP12などの覆土中から出土している。いずれも細片で, 破断面が摩滅しているため, 混入したものと考えられる。

所見 本跡では柱痕をP3で確認し, J12h0区南部では集中したピットを確認したが, 配置などに規則性が認められないことから, ピット群としてとらえた。時期は, 伴出遺物がないため不明である。

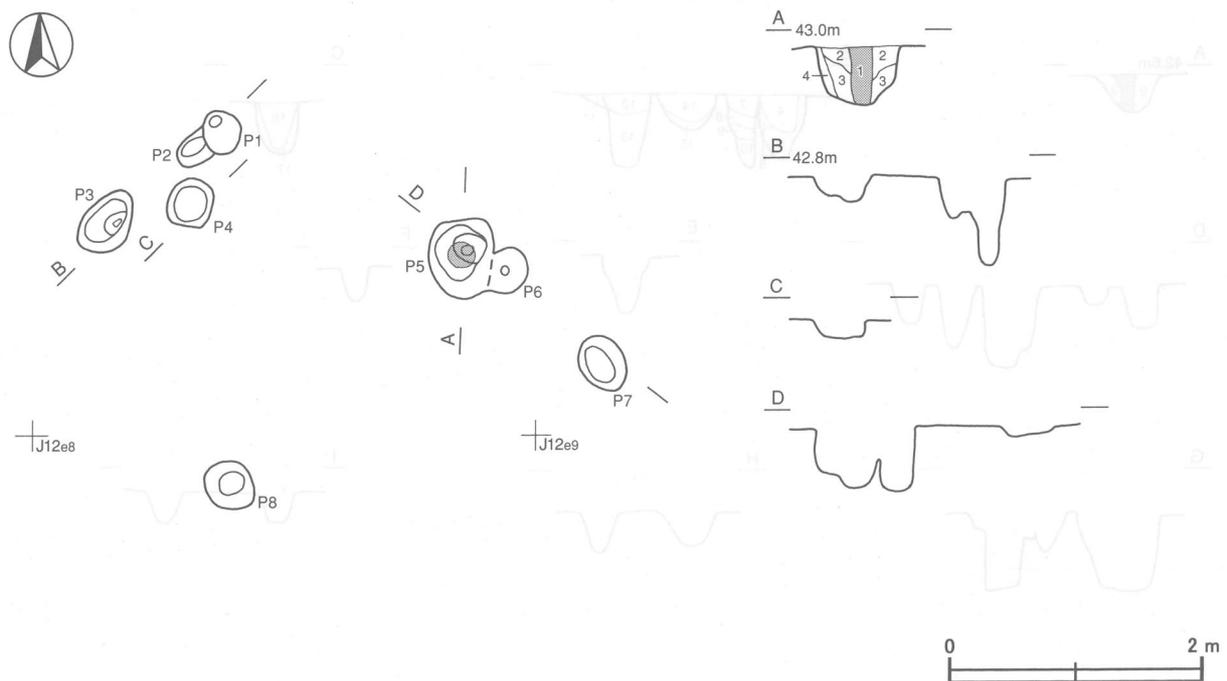
第37号ピット群 (第972図)

位置 調査区北部のH12c8~H12e9区に位置し, 平坦部に立地している。

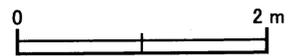
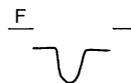
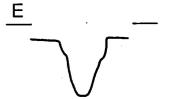
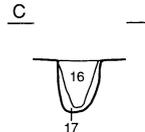
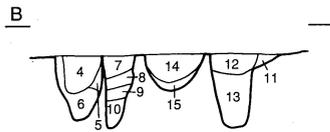
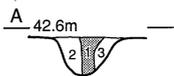
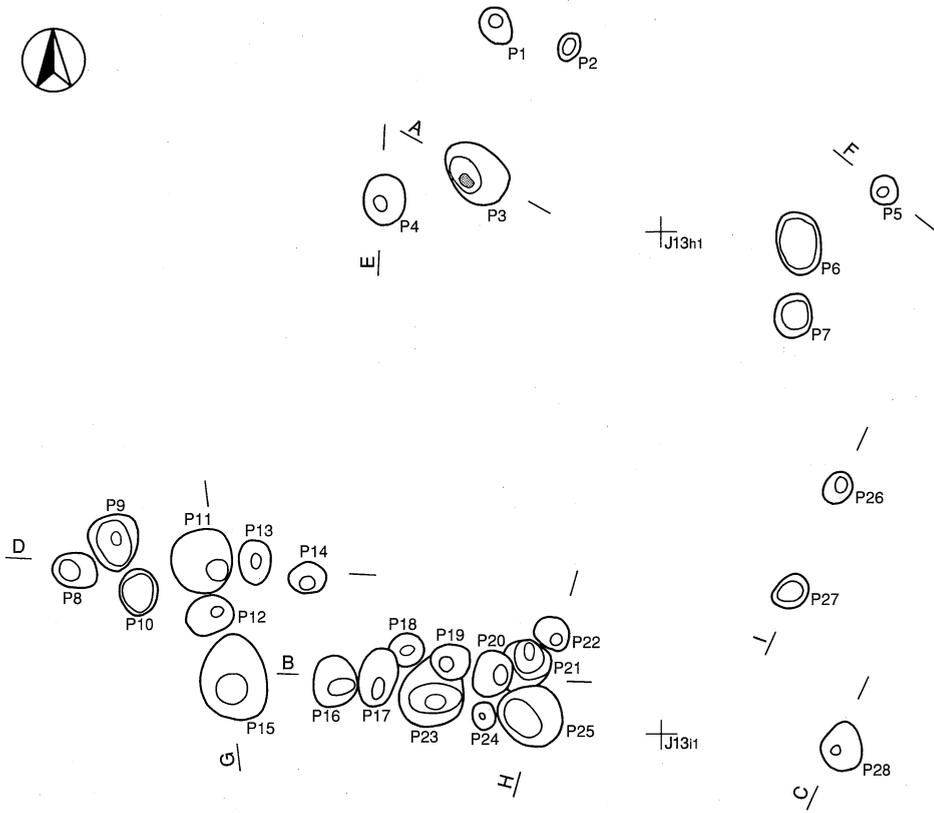
規模と形状 南北約8m, 東西約4mの範囲に存在するピット22か所を検出した。ピットは長径19~39cm, 短径18~33cmの円形及び楕円形で, 深さは12~27cmである。

遺物出土状況 土師器片5点(甕4, 高坏1)がP1などの覆土中から出土している。いずれも細片で, 破断面が摩滅しているため, 混入したものと考えられる。

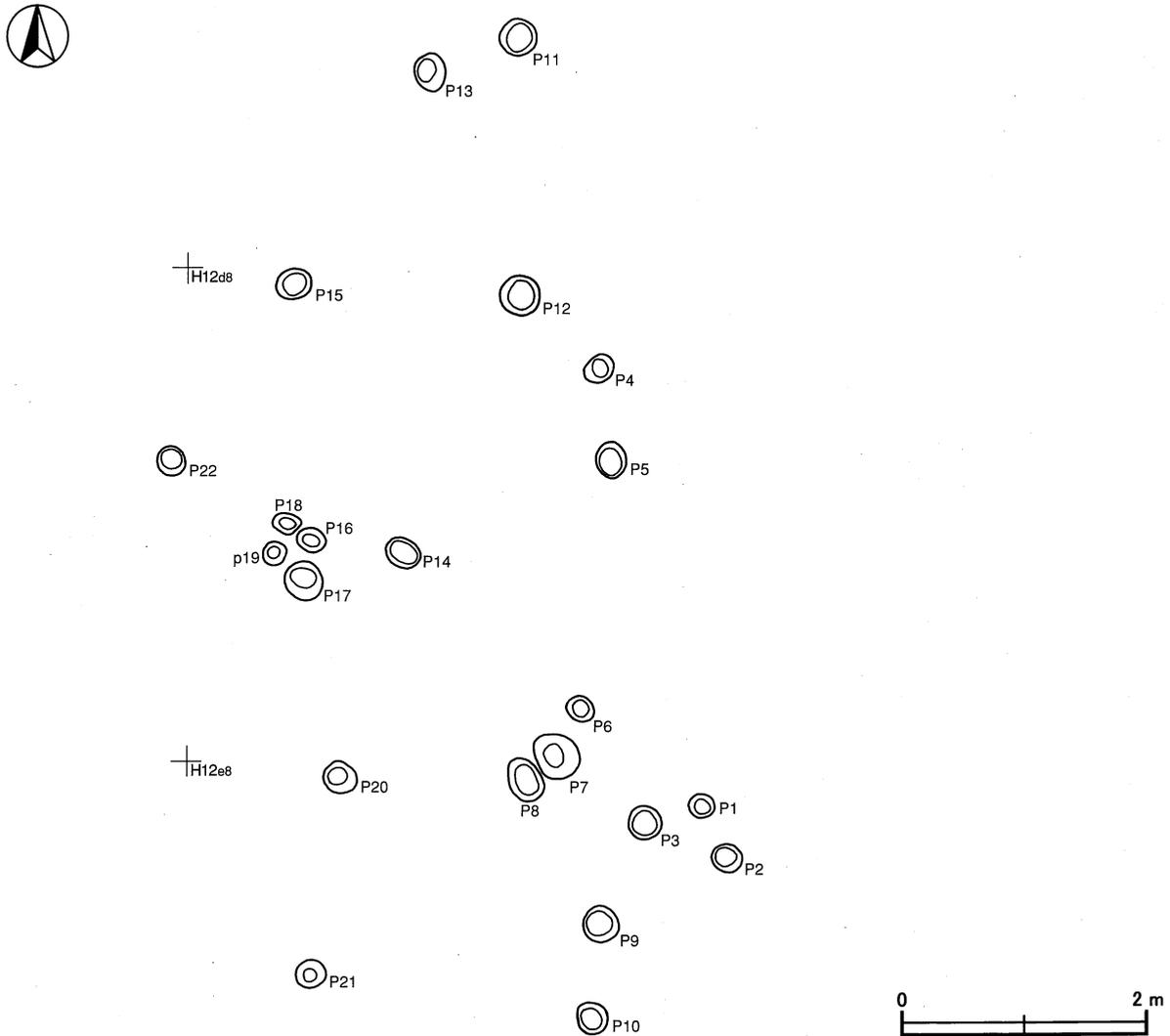
所見 ピットの配列に規則性がないことから, ピット群としてとらえた。時期は, 伴出遺物がないため不明である。



第970図 第35号ピット群実測図



第971図 第36号ピット群実測図



第972図 第37号ピット群実測図

第38号ピット群 (第973図)

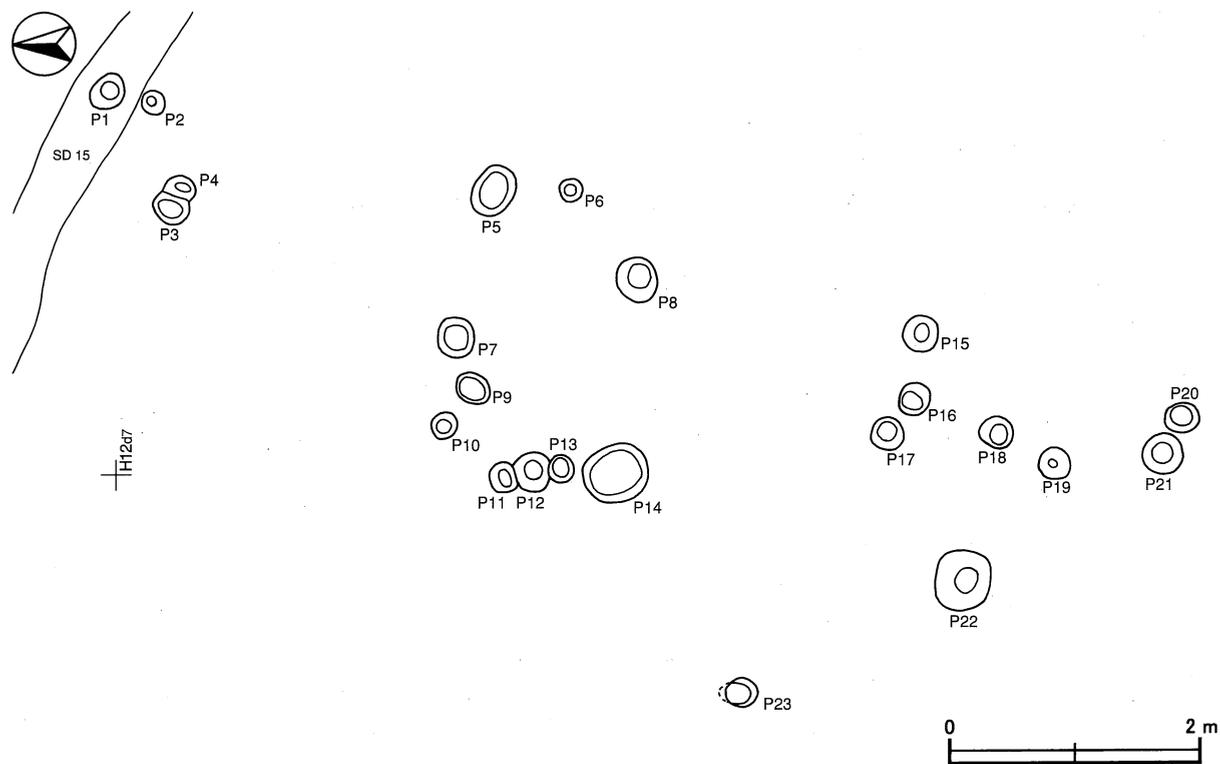
位置 調査区北部のH12d6～H12f7区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第15号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南北約9m、東西約5mの範囲に存在するピット23か所を検出した。ピットは長径21～51cm、短径19～48cmの円形及び楕円形で、深さは11～51cmである。

遺物出土状況 土師器片5点(甕)がP7などの覆土中から出土している。いずれも細片で、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられる。

所見 ピットの形状や配列に規則性がないことから、ピット群としてとらえた。時期は中世と推定される第15号溝を掘り込んでいるため、中世以降と推定される。



第973図 第38号ピット群実測図

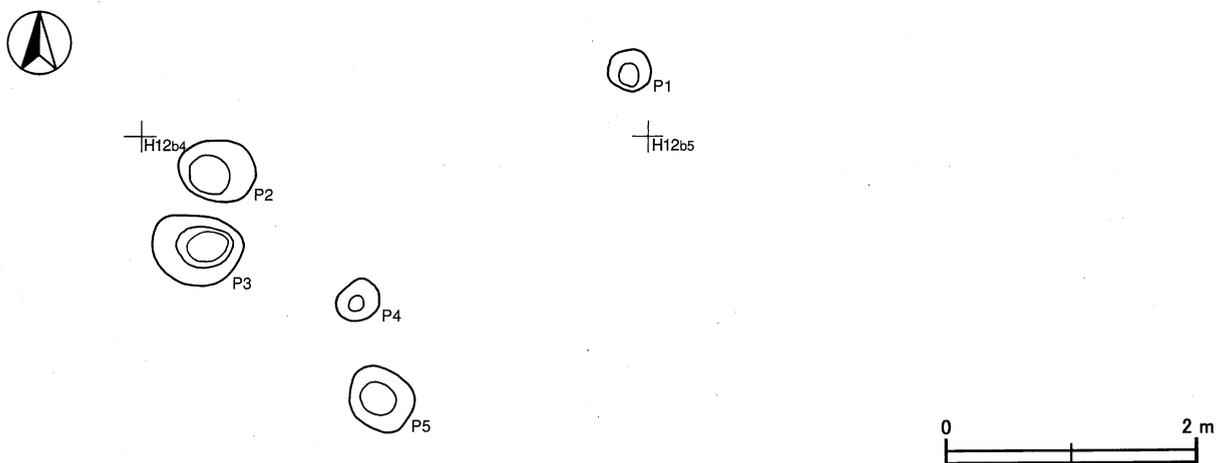
第40号ピット群 (第974図)

位置 調査区北部のH12a4～H12b4区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 南北約3m、東西約4mの範囲に存在するピット5か所を検出した。ピットは長径35～72cm、短径19～48cmの円形または楕円形で、深さは11～51cmである。

遺物出土状況 出土していない。

所見 ピットの配列に規則性がないことから、ピット群としてとらえた。時期は、伴出遺物がないため不明である。



第974図 第40号ピット群実測図

(10) 不明遺構

第1号不明遺構 (第975図)

位置 調査区北部のF15d1区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 北側部分及び東側部分が調査区域外に延びているため、南北軸約3.0m、東西軸約1.1mだけが確認され、長径方向はN-2°-Eである。耕作等の攪乱のため底面には起伏が見られ、さらに東に向かって傾斜している。確認面からの深さはもっとも深いところで13cmであり、壁高は2cm前後と低い。

炉・竈 確認できなかった。

ピット 確認できなかった。

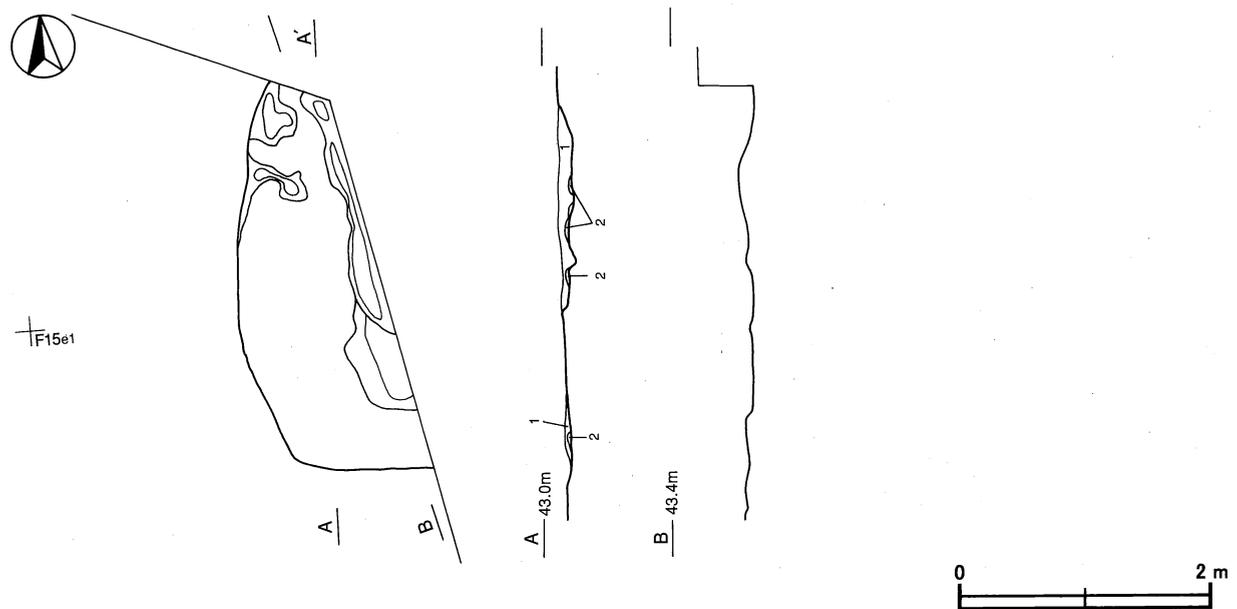
覆土 2層からなり、焼土ブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片23点(坏6, 甕17), 礫8点が出土している。多くの遺物は細片であり、破断面が摩滅しているため、混入したものと考えられ図示できる遺物はない。

所見 本跡は北側及び東側が調査区域外に延びているため、全体の形状を把握することはできなかった。また出土土器はいずれも破片であり、遺構の遺存状態も悪く形状の把握が困難であるが、須恵器が出土しないことや出土した内黒坏片の形状などから、時期は10世紀代と考えられる。



第975図 第1号不明遺構実測図

第2号不明遺構 (第976図)

位置 調査区北部南寄りのH13g2区に位置し、平坦部に立地している。

重複関係 第460号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 大部分が調査区域外に延びているため、全体の様相は把握できないが、東西軸3.8m、南北軸0.5mだけが確認できた。確認された壁高は10~18cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦であり、硬化面や壁溝は確認されなかった。

竈・炉 調査区域外に位置すると考えられる。

ピット 1か所。深さは18cmで、性格は不明である。

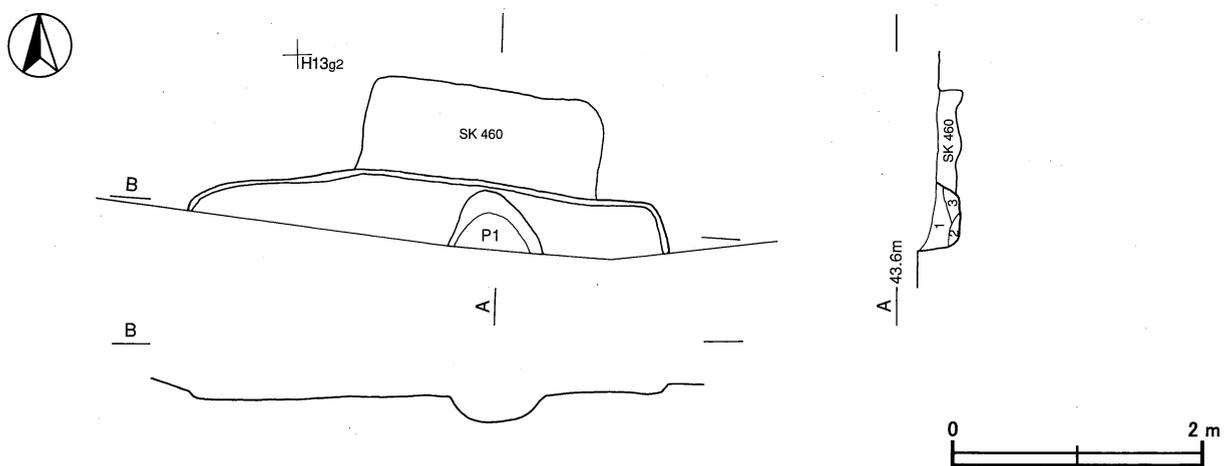
覆土 3層のみ確認されたが、堆積状況は判然としない。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 出土遺物は少なく、土師器片20点（坏6，甕14），礫片1点が出土しただけである。いずれも細片で破断面が摩滅しており，混入したものと考えられ，図示できたものはない。

所見 本跡は大部分が調査区域外に延びているため，全体の形状を把握することはできなかった。また，出土遺物はいずれも細片であり，形状の把握が困難である。掘り込んでいる第460号土坑も詳細は不明であり，時期決定は困難である。



第976図 第2号不明遺構実測図

第3号不明遺構（第977図）

位置 調査区中央部のJ12i8区に位置し，平坦部に立地している。

重複関係 第418号住居跡を掘り込み，第31号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 長軸約4.8m，短軸約4.1mの長方形で，主軸方向はN-9°-Eである。壁高は約14cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であるが，それほど硬化した部分は認められず，壁溝も確認されていない。

竈 確認されていない。

ピット 確認されていない。

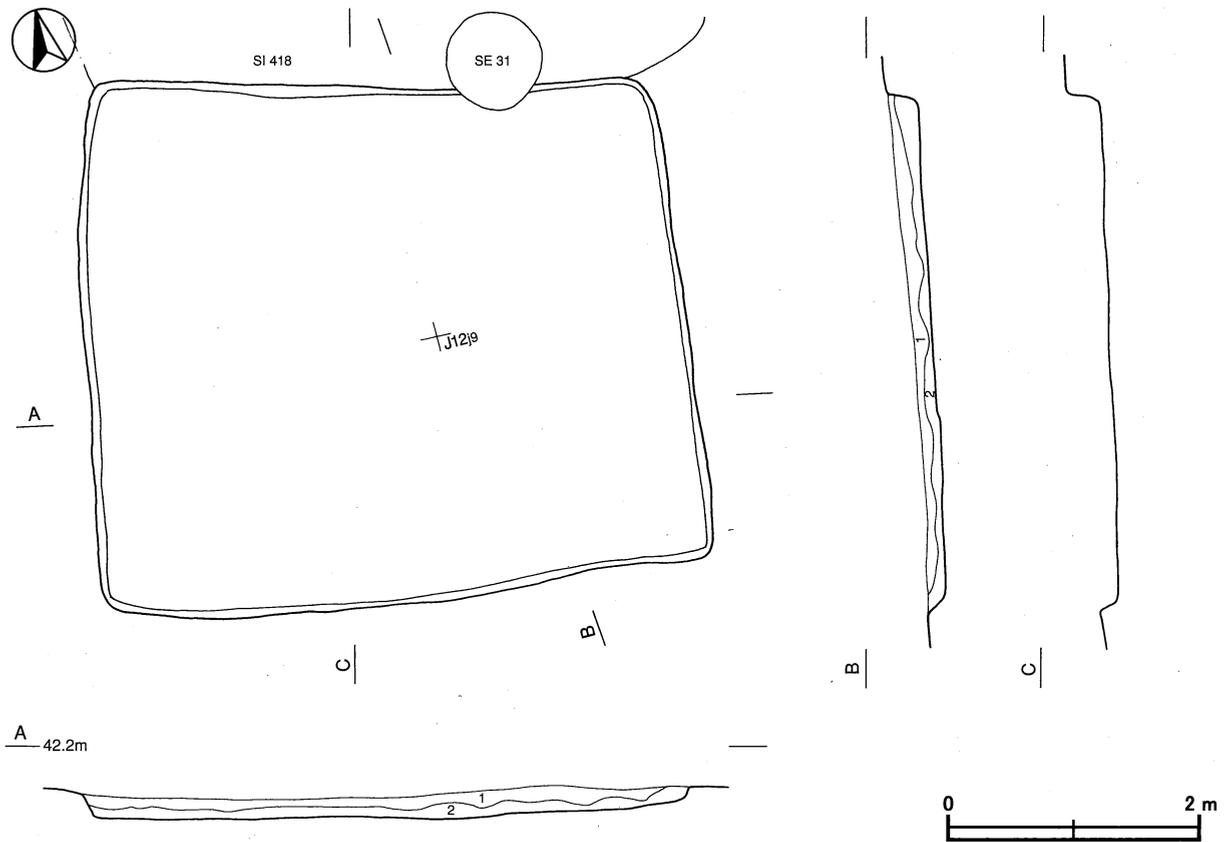
覆土 2層からなるが，覆土が浅く堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片11点（坏2，高坏1，甕8），礫1点，覆土中から出土している。すべて細片で，伴出遺物はないため，本跡廃絶後に投棄あるいは混入したと考えられる。

所見 本跡からは竈は検出されず，床面も硬化していないため，住居跡とは判断できない。また，伴出遺物もなく，時期も不明である。



第977図 第3号不明遺構実測図

第4号不明遺構 (第978図)

位置 調査区南部のL12b6区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 大半が調査区域外に延びているため、南北軸は約3.7m、東西軸は約1.5mだけが確認された。壁高は約60cmで、直立している。

床 遺存している部分はほぼ平坦であるが、それほど硬化した部分は認められず、壁溝も確認されていない。

竈 検出されていない。

ピット 検出されていない。

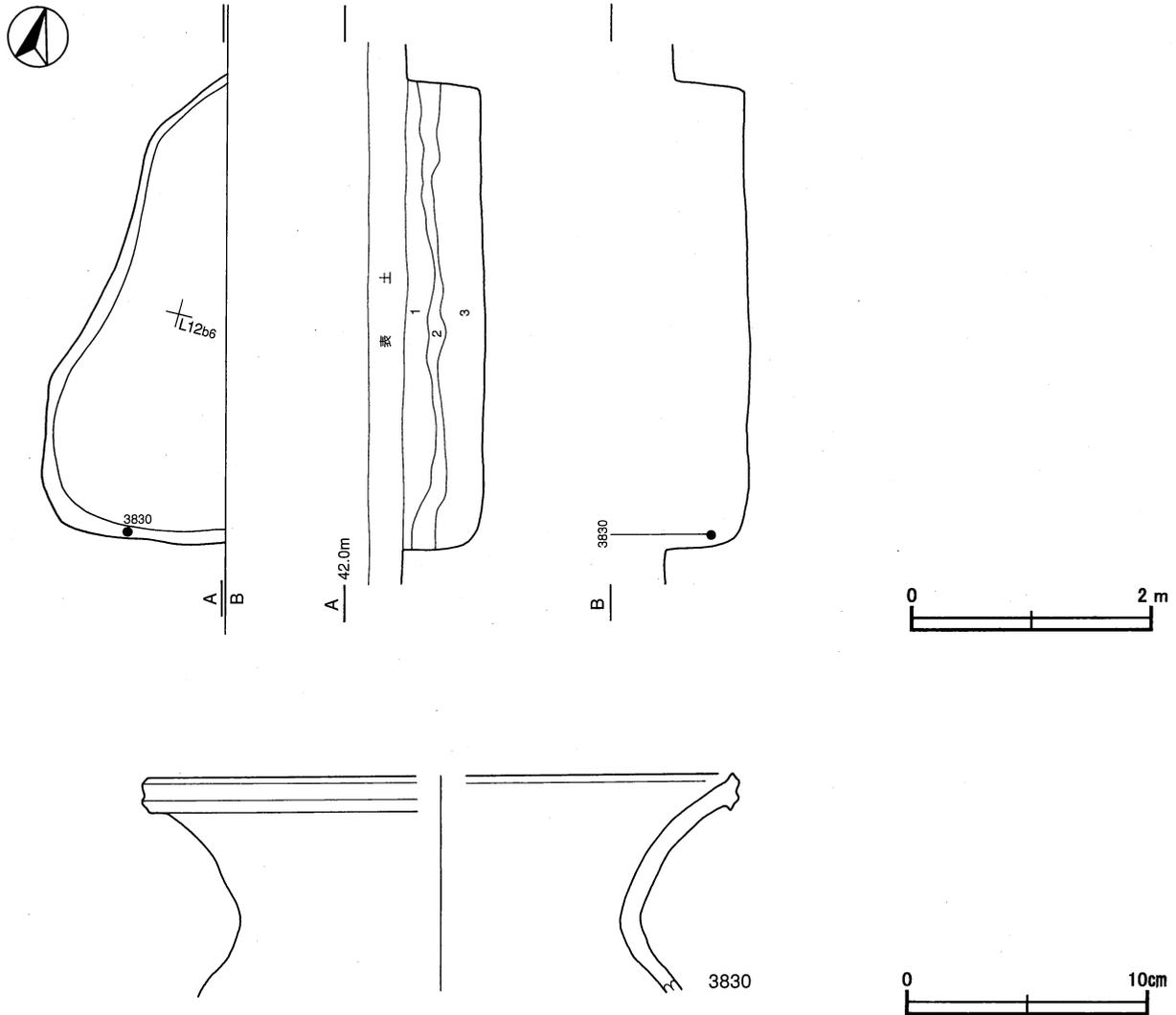
覆土 3層からなり、粒子の細かい黒褐色土を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片38点(坏18, 高台付坏4, 甕16), 須恵器片2点(坏1, 甕1), 鉄滓4点, 礫片2点が覆土中から出土している。すべて細片であり、本跡に伴う遺物は少なく、ほとんどが投棄か、本跡廃絶後の埋め戻しの段階で埋土に混入したものである。3830は埋土に混入したものと考えられる。

所見 伴う遺物が少ないことや、遺構の重複関係からも判断できないため、時期は不明である。



第978図 第4号不明遺構・出土遺物実測図

第4号不明遺構出土遺物観察表 (第970図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3830	須恵器	甕	[24.2]	(8.9)	-	長石・鉄・黒鉛子	灰	普通	ロクロ整形	南壁際中層	5%

第5号不明遺構 (第1230・1253・1293・1294号土坑) (第979図)

位置 調査区南部L12b2区に位置し、平坦部に立地している。

規模と形状 P1～P4は東西方向に並列しており、長軸は1.9～2.4m、短軸は0.8～1.3mほどの不整楕円形で、長軸方向はN-0°からN-19°-Eの範囲である。深さは96～100cmを測り、それぞれの底面は平坦である。

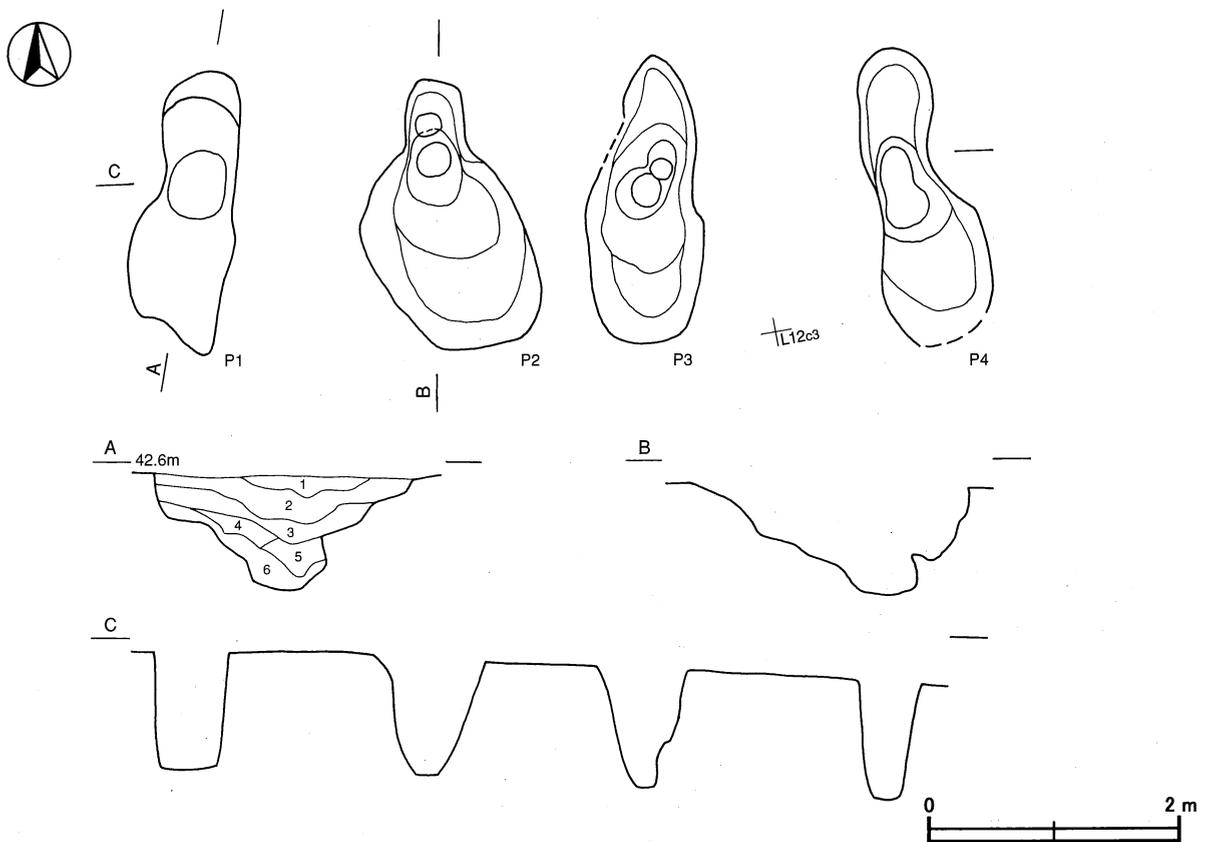
覆土 P1の覆土は6層からなり、各層にロームブロックを含んだ人為的な堆積状況を示している。P2～P4の覆土も、おおむね同様な堆積状況である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 鹿沼パミス中量, ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 極暗褐色 鹿沼パミス中量, ロームブロック少量

遺物出土状況 P1 から, 土師器片 6 点 (坏 1, 甕 5), 須恵器片 2 点 (坏 1, 甕 1) が出土している。P2 からは, 土師器片 48 点 (坏 25, 小皿 4, 甕 19), 須恵器片 3 点 (坏) が出土している。いずれも細片で破断面が摩滅していることから, 混入したものである。

所見 本跡に伴う遺物がないために時期の特定が困難であるが, 10 世紀後半の土師器片が混入していることから, 平安時代以降と考えられる。P1 ~ P4 は東西方向に並列し, 芯々間の寸法は約 1.8m で等間隔に配されている。掘り方の土層断面の観察から, 南から北に向かって流れ込んでいる様子がうかがわれ, 柱を抜き取るために斜め方向に地山を掘り込んだものと考えられる。北側には四面庇を有する第 20 号掘立柱建物跡が近接し, 東側には南に庇を有する第 39 号掘立柱建物跡がそれぞれ立地していることから, これらに付随する何らかの施設あるいは構造物の存在が考えられる。



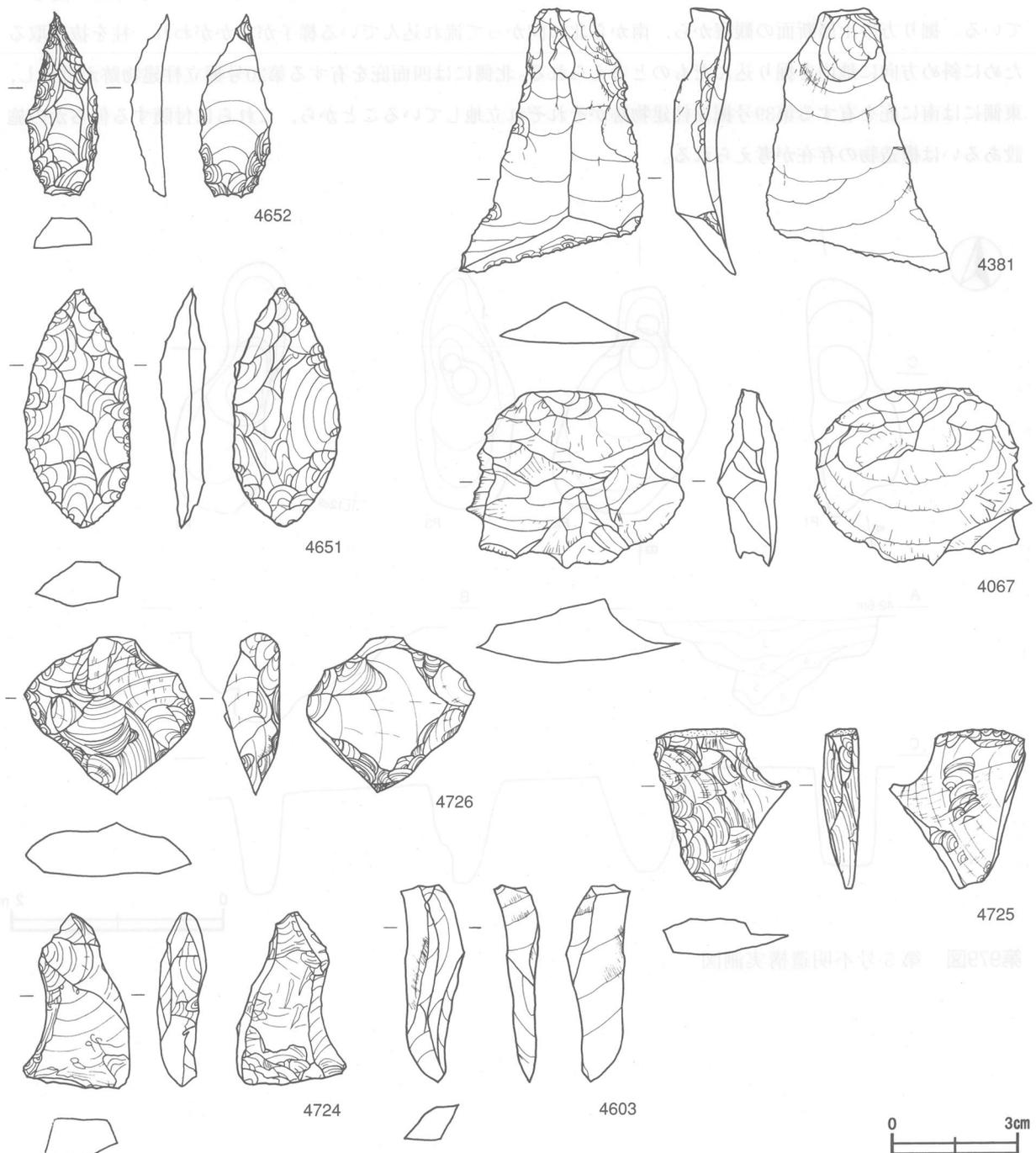
第979図 第5号不明遺構実測図

(11) 遺構外出土遺物 (第980~994図)

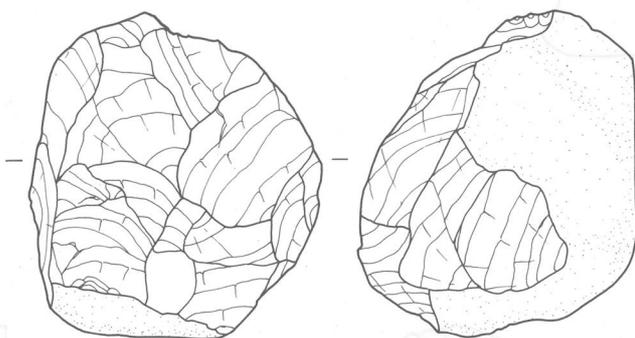
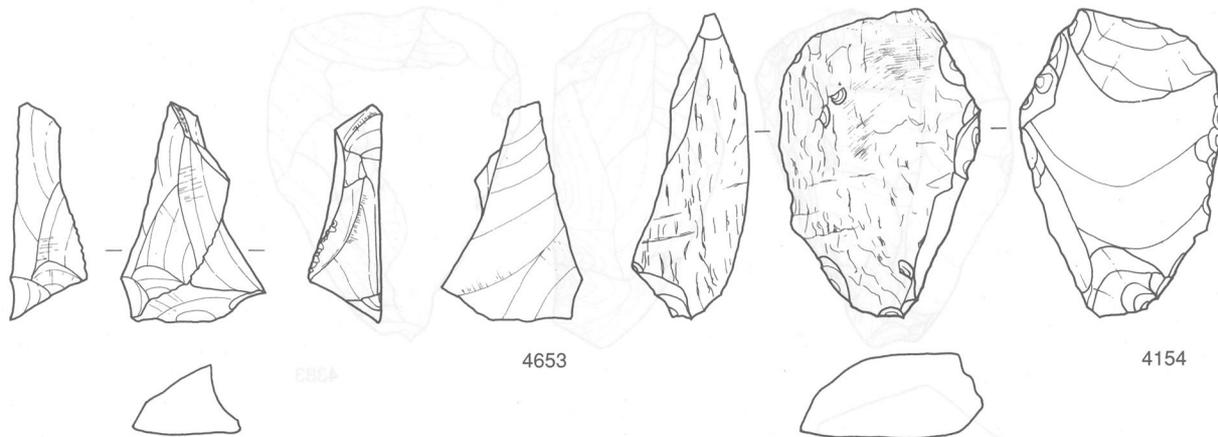
今回の調査では、表土層、遺構確認面などから遺構に伴わない遺物が出土している。ここではそれらの中から、各時代の特色あるものを抽出し、観察表で記載する。

旧石器時代においては、石器集中地点などは確認できなかったが、角錐状石器1点、搔器1点、尖頭器1点、剥片6点、石核9点が出土している。

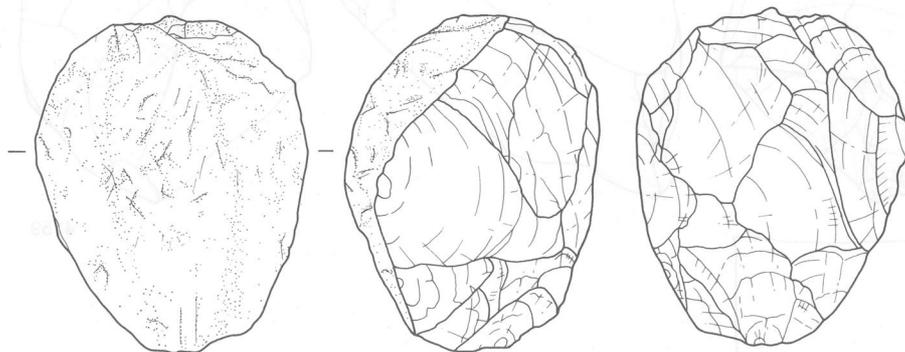
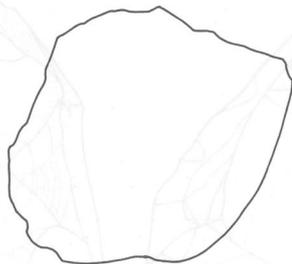
また、縄文時代の遺構も確認されていないが、縄文時代中期前半及び中期後半の土器が少量出土し、石器は搔器2点、楔形石器1点、錐1点、削器1点、有舌尖頭器1点、尖頭器1点、石鏃7点、剥片3点、磨石4点、磨製石斧1点、石皿1点が出土している。



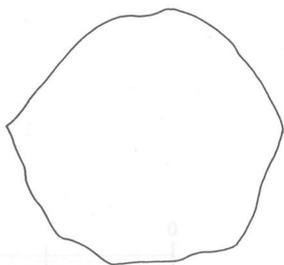
第980図 遺構外出土遺物実測図(1)



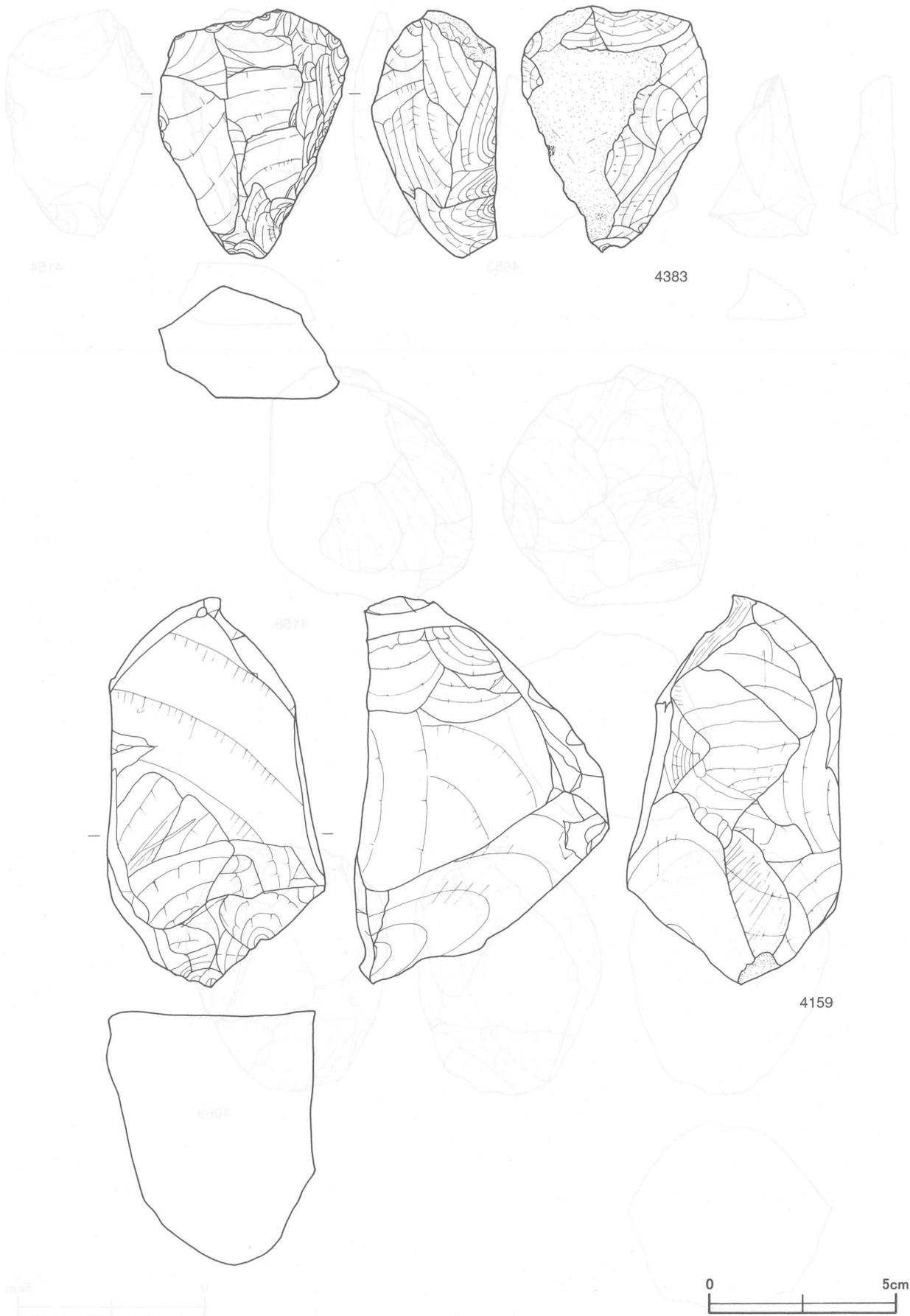
4158



4069

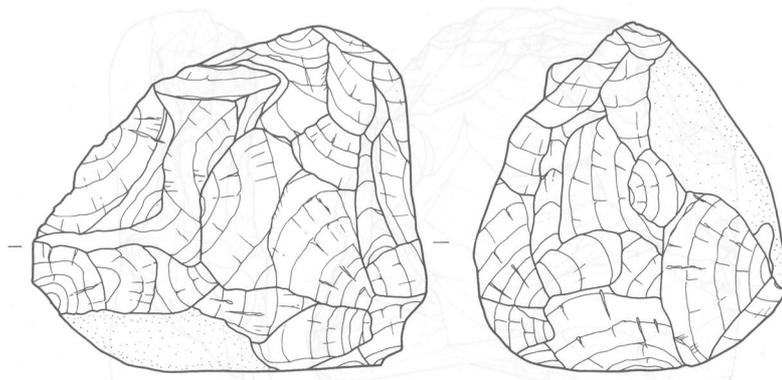


第981图 遺構外出土遺物実測図(2)

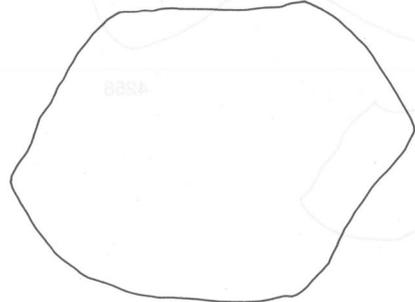


第982図 遺構外出土遺物実測図(3)

東南大学考古学研究所 図139集



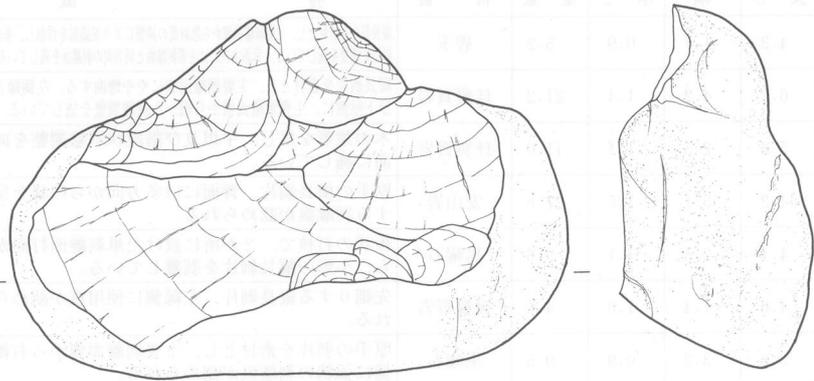
4384



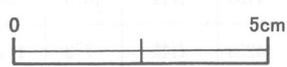
第984図 新出出土物実測図(4)

(第984-985) 新出出土物実測図(4)

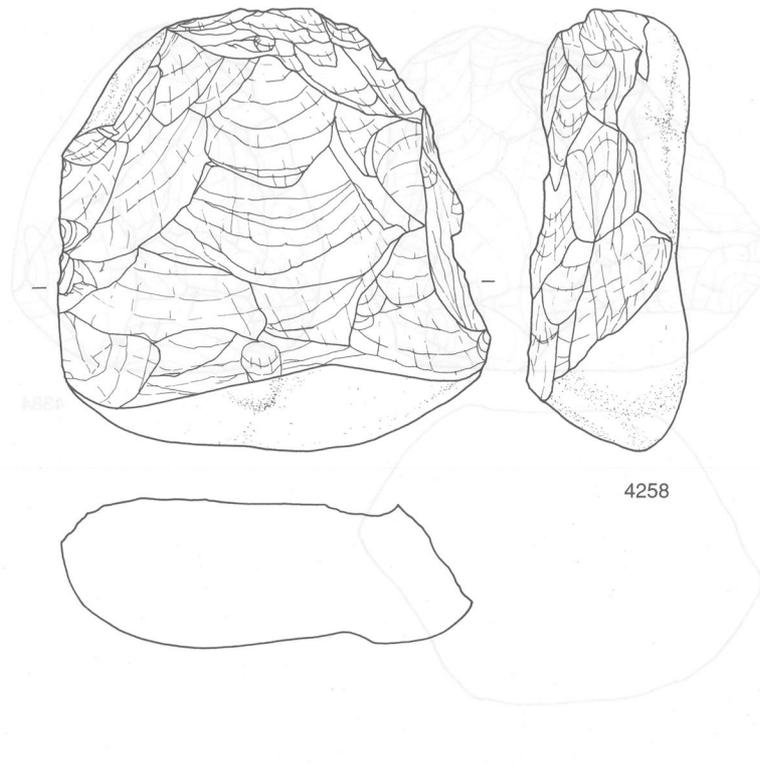
品名	出土位置	層	種別	長さ	幅	厚さ	重量	備考
PT.370	中	中	貝殻	2.2	0.8	0.2	0.1	200
PT.371	中	中	貝殻	2.1	0.7	0.2	0.1	180
PT.372	中	中	貝殻	2.0	0.6	0.2	0.1	160
PT.373	中	中	貝殻	1.9	0.5	0.2	0.1	140
PT.374	中	中	貝殻	1.8	0.4	0.2	0.1	120
PT.375	中	中	貝殻	1.7	0.3	0.2	0.1	100
PT.376	中	中	貝殻	1.6	0.2	0.2	0.1	80
PT.377	中	中	貝殻	1.5	0.1	0.2	0.1	60
PT.378	中	中	貝殻	1.4	0.0	0.2	0.1	40
PT.379	中	中	貝殻	1.3	0.0	0.2	0.1	20
PT.380	中	中	貝殻	1.2	0.0	0.2	0.1	10
PT.381	中	中	貝殻	1.1	0.0	0.2	0.1	5
PT.382	中	中	貝殻	1.0	0.0	0.2	0.1	2
PT.383	中	中	貝殻	0.9	0.0	0.2	0.1	1
PT.384	中	中	貝殻	0.8	0.0	0.2	0.1	0.5
PT.385	中	中	貝殻	0.7	0.0	0.2	0.1	0.2
PT.386	中	中	貝殻	0.6	0.0	0.2	0.1	0.1
PT.387	中	中	貝殻	0.5	0.0	0.2	0.1	0.05
PT.388	中	中	貝殻	0.4	0.0	0.2	0.1	0.02
PT.389	中	中	貝殻	0.3	0.0	0.2	0.1	0.01
PT.390	中	中	貝殻	0.2	0.0	0.2	0.1	0.005
PT.391	中	中	貝殻	0.1	0.0	0.2	0.1	0.001



4259



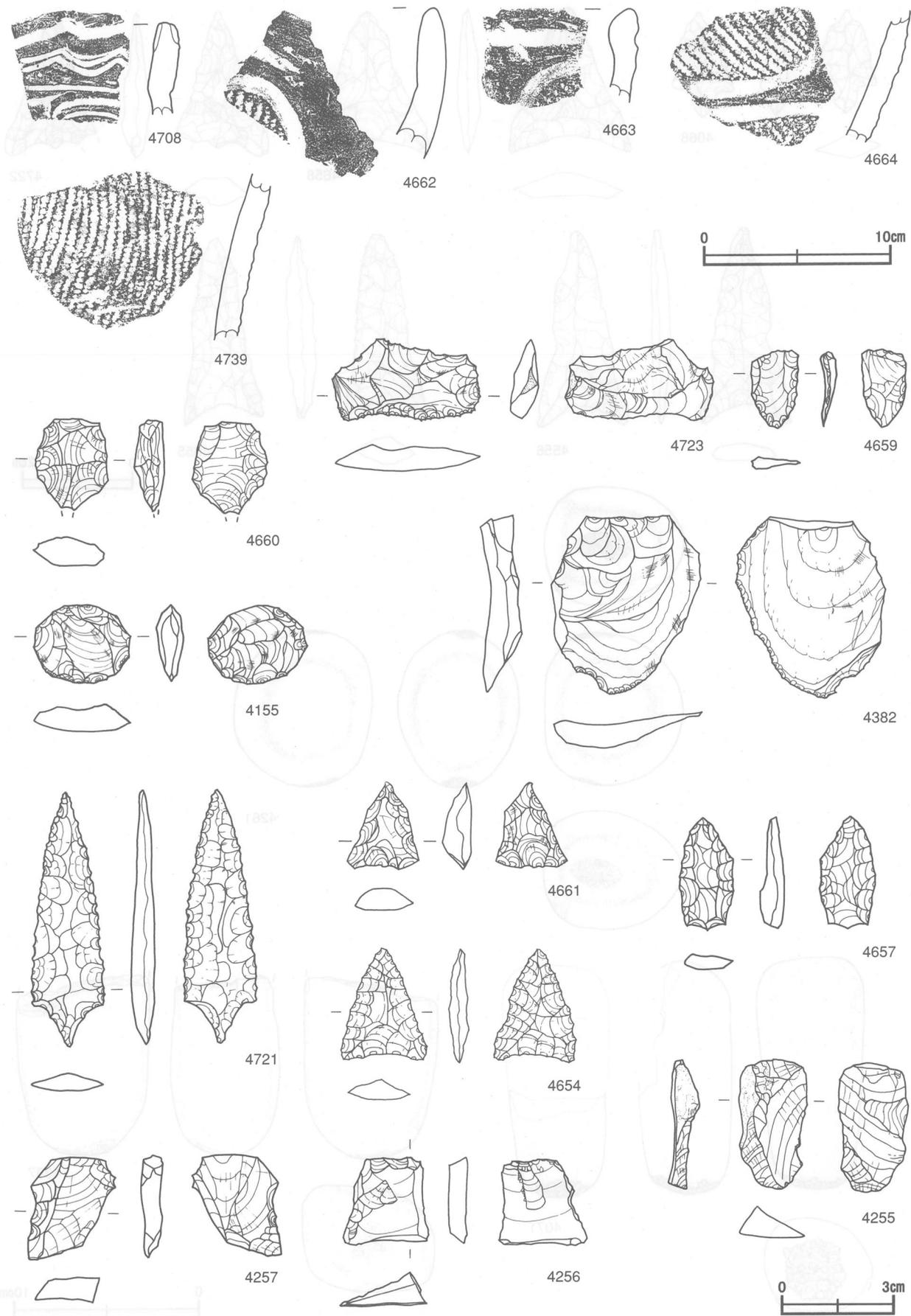
第983図 遺構外出土物実測図(4)



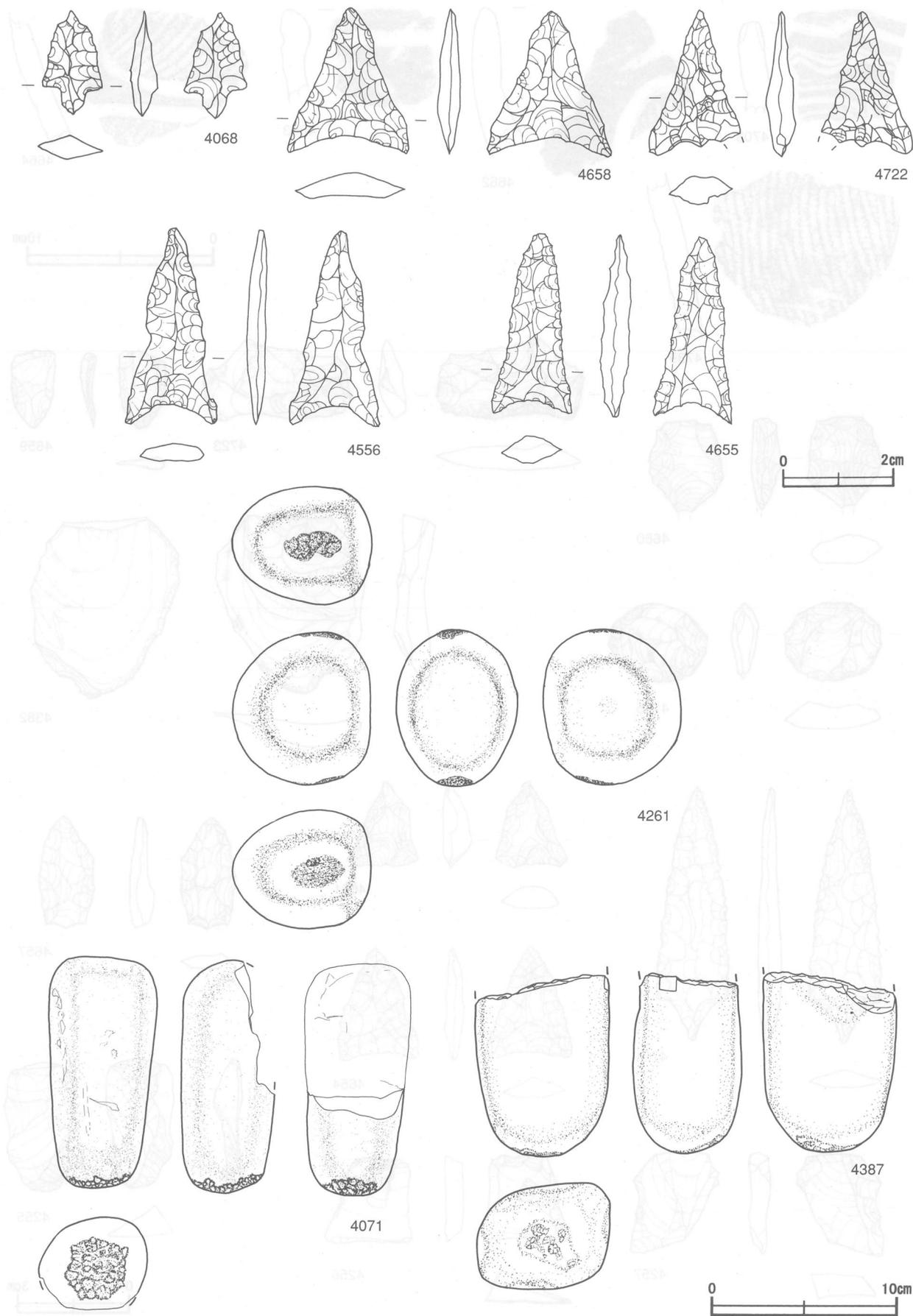
第984図 遺構外出土遺物実測図(5)

遺構外遺物観察表 (第980~994図)

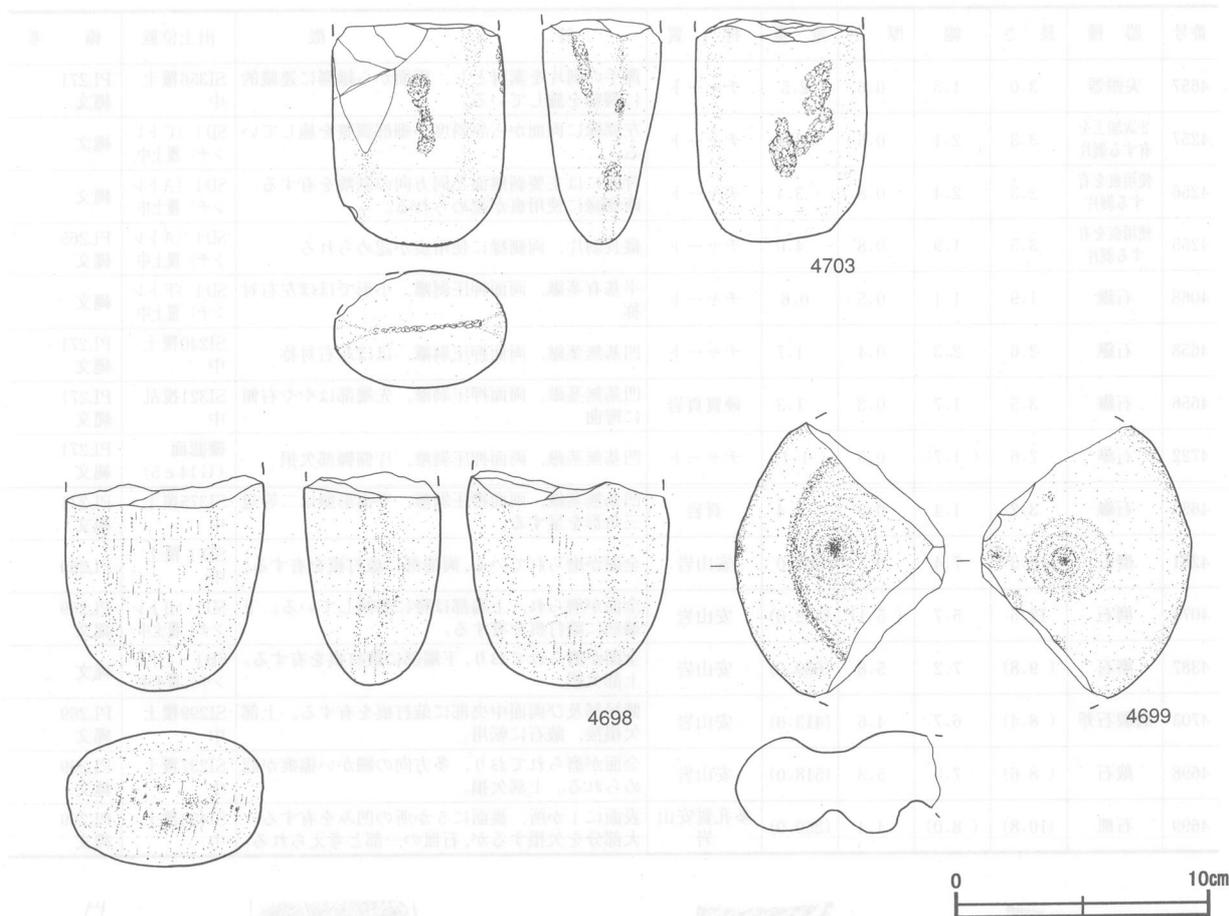
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4652	角錐状石器	4.3	1.7	0.9	5.2	碧玉	縦長剥片を素材とし、主要剥離面側から急斜度の調整により尖頭部を作出し、基部周辺に調整を施している。背面中央には主要剥離面と同方向の剥離面を残している。	SI324覆土中	PL270旧石器
4381	搔器	6.2	4.2	1.4	21.2	珪質頁岩	縦長剥片を素材とし、主要剥離面側にやや彎曲する。左側縁及び下縁側に、主要剥離面側から細かな剥離調整を施している。	SD1 (Fトレンチ) 覆土中	PL270旧石器
4651	尖頭器	5.6	2.5	1.1	11.0	珪質頁岩	木の葉形を呈し、平坦及び階段状剥離調整を両面に施している。	SI481覆土中	PL270旧石器
4067	剥片	4.2	5.1	1.5	27.8	安山岩	厚手の横長剥片、背面には多方向から凹状を呈する剥離痕が認められる。	SD1 (Fトレンチ) 覆土中	旧石器
4724	石核	4.1	2.5	1.1	9.6	黒曜石	板状の石核で、2か所に設けた単剥離面打面から、小形の縦長剥片を剥離している。	確認面 (H14 a 8)	PL270旧石器
4603	使用痕を有する剥片	4.6	1.4	1.0	4.6	硬質頁岩	先細りする縦長剥片、左縁側に使用痕が認められる。	SK865覆土中	PL270旧石器
4725	2次加工を有する剥片	3.8	3.2	0.9	9.5	黒曜石	厚手の剥片を素材とし、主要剥離面側から右縁側に弧状の剥離痕が認められる。	確認面 (G14 e 9)	PL270旧石器
4726	石核	3.7	4.0	1.2	14.8	黒曜石	板状の石核で、2か所に設けた複剥離面打面から、小形の剥片を剥離している。	表採	PL270旧石器
4154	剥片	6.1	4.0	2.4	49.4	赤瑪瑙	平坦打面から剥離された背面に礫面を残す剥片であり、左側縁下端はヒンジフラクチャーを呈する。	SD1 (Fトレンチ) 覆土中	旧石器
4653	剥片	4.3	2.9	1.5	12.1	硬質頁岩	下端に石核底面を残した縦長剥片。中央部付近から切断され、その稜上に微細な剥離痕を有する。	SI480覆土中	PL270旧石器
4158	石核	6.5	5.3	5.5	261.0	安山岩	半割した円礫を素材とし、背面には礫面を大きく残す。打面が多方向から設定され幅広の横長剥片を剥離している。	SD1 (Aトレンチ) 覆土中	旧石器
4383	石核	6.7	5.0	3.5	99.6	瑪瑙	3か所に設けた作業面で、礫面・剥離面打面から横長剥片を連続して剥離している。礫面を大きく残す。	SD1 (Cトレンチ) 覆土中	PL265旧石器
4069	石核	6.7	5.6	5.0	211.0	安山岩	半割した円礫を素材とし、礫面を大きく残す。多方向から剥片剥離がなされ、剥離面が打面として設定されている。	SD1 (Fトレンチ) 覆土中	旧石器
4384	石核	6.9	7.9	6.0	382.0	安山岩	分割した円礫を素材とし、礫面を大きく残す。多方向から小形の剥片が剥離されている。	SD1 (Aトレンチ) 覆土中	旧石器
4159	石核	10.5	5.7	6.8	478.0	安山岩	わずかの礫面を残す。大きな剥離によって5か所の平坦な剥離面を作出している。連続するような剥片剥離作業は行われていない。	SD1覆土中	旧石器
4259	石核	7.3	11.0	3.8	381.0	安山岩	半割した礫を素材とし、礫面を大きく残す。礫面を打面として、幅広の横長剥片を剥離している。	SD1 (Iトレンチ) 覆土中	旧石器
4258	石核	8.8	8.5	3.2	324.0	安山岩	半割した円礫を素材とし、礫面を大きく残す。多方向から幅広の横長剥片を連続的に剥離している。	SD1覆土中	旧石器



第985图 遺構外出土遺物実測図(6)



第986図 遺構外出土遺物実測図(7)

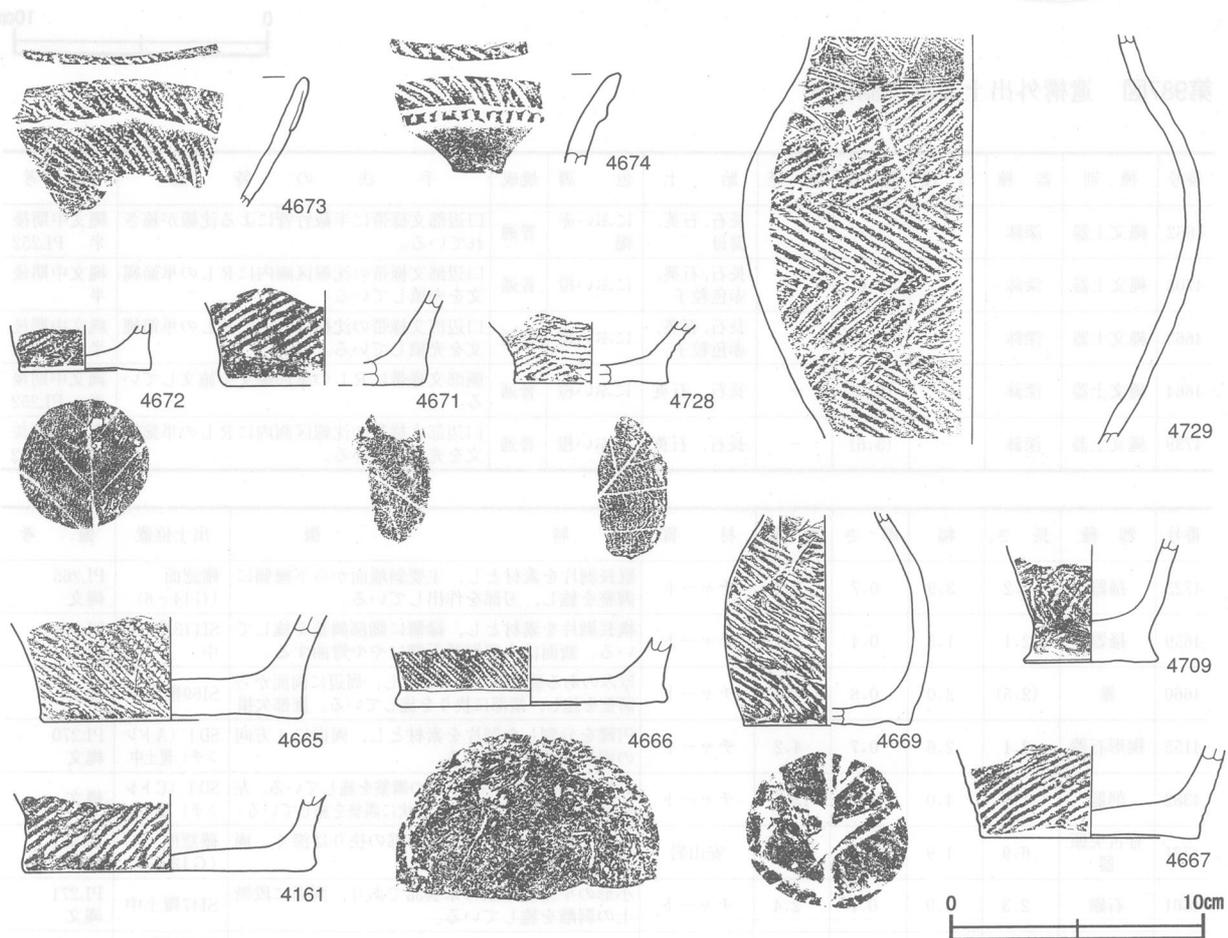


第987図 遺構外出土遺物実測図(8)

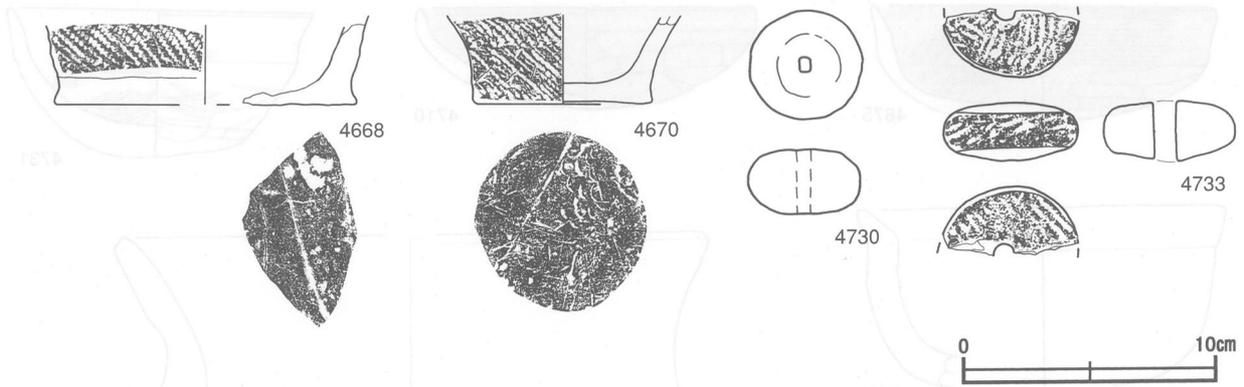
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考
4662	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石, 石英, 雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部文様帯に半截竹管による沈線が施されている。	縄文中期後半 PL252
4708	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石, 石英, 赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部文様帯の沈線区画内にRLの単節縄文を充填している。	縄文中期後半
4663	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石, 石英, 赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部文様帯の沈線区画内にRLの単節縄文を充填している。	縄文中期後半 PL252
4664	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石, 石英	にぶい橙	普通	胴部文様帯にRLの単節縄文を施文している。	縄文中期後半 PL252
4739	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石, 石英	にぶい橙	普通	口辺部文様帯の沈線区画内にRLの単節縄文を充填している。	縄文中期後半 PL252

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4723	搔器	2.2	3.9	0.7	5.2	チャート	縦長剥片を素材とし, 主要剥離面から下縁側に調整を施し, 刃部を作出している。	確認面 (G14c6)	PL265 縄文
4659	搔器	2.1	1.3	0.4	1.1	チャート	横長剥片を素材とし, 縁側に細部調整を施している。断面は主要剥離面側にやや彎曲する。	SI113覆土中	PL271 縄文
4660	錐	(2.5)	2.0	0.8	(4.5)	チャート	厚みのある縦長剥片を素材とし, 周辺に両面から調整を施し, 端部に抉りを施している。錐部欠損	SI69覆土中	縄文
4155	楔形石器	2.1	2.6	0.7	4.2	チャート	円盤を分割した剥片を素材とし, 両面に4方向の両極剥離痕を有する。	SD1 (Aトレンチ) 覆土中	PL270 縄文
4382	削器	4.8	4.0	1.2	13.7	チャート	右側縁に背面側から急斜度の調整を施している。左側縁下端は主要剥離面から弧状に調整を施している。	SD1 (Cトレンチ) 覆土中	縄文
4721	有舌尖頭器	6.9	1.9	0.6	7.2	安山岩	長身で幅が狭く, 左右の基部の抉りは深く, 両面押圧剥離を施している。	確認面 (G13d7)	PL271 縄文
4661	石鏃	2.3	1.9	0.7	2.4	チャート	小形の平基無茎鏃の未製品であり, 両面に段階上の剥離を施している。	SI47覆土中	PL271 縄文
4654	石鏃	2.0	1.5	0.3	0.7	硬質頁岩	凹基無茎鏃, 両面押圧剥離, ほぼ左右対称	SI123覆土中	PL271 縄文

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4657	尖頭器	3.0	1.5	0.6	2.5	チャート	薄手の剥片を素材とし、両面から縁側に連続的に調整を施している。	SI356覆土中	PL271 縄文
4257	2次加工を有する剥片	3.3	2.1	0.6	3.9	チャート	左側縁に両面から急斜度の細部調整を施している。	SD1 (Cトレンチ) 覆土中	縄文
4256	使用痕を有する剥片	2.3	2.4	0.8	3.4	チャート	背面には主要剥離面と同方向の剥離を有する。両側縁に使用痕が認められる。	SD1 (Aトレンチ) 覆土中	縄文
4255	使用痕を有する剥片	3.5	1.9	0.8	4.0	チャート	縦長剥片、両側縁に使用痕が認められる。	SD1 (Aトレンチ) 覆土中	PL265 縄文
4068	石鏃	1.9	1.1	0.5	0.6	チャート	平基有茎鏃、両面押圧剥離、小形でほぼ左右対称	SD1 (Fトレンチ) 覆土中	縄文
4658	石鏃	2.6	2.3	0.4	1.7	チャート	凹基無茎鏃、両面押圧剥離、ほぼ左右対称	SI240覆土中	PL271 縄文
4656	石鏃	3.5	1.7	0.3	1.3	硬質頁岩	凹基無茎鏃、両面押圧剥離、先端部はやや右側に彎曲	SI321攪乱中	PL271 縄文
4722	石鏃	2.6	(1.7)	0.5	(1.1)	チャート	凹基無茎鏃、両面押圧剥離、片側脚部欠損	確認面 (G14e5)	PL271 縄文
4655	石鏃	3.2	1.4	0.5	1.4	頁岩	凹基無茎鏃、両面押圧剥離、平面形態は二等辺三角形を呈する。	SI375覆土中	PL271 縄文
4261	磨石	8.3	7.4	6.3	565.0	安山岩	全面が磨られている、両端部に敲打痕を有する。	SD1 覆土中	PL269
4071	磨石	12.5	5.7	(5.1)	(512.0)	安山岩	全面が磨られ、上端部は特に磨滅している。下端部に敲打痕を有する。	SD1 (Hトレンチ) 覆土中	PL269 縄文
4387	磨石	(9.8)	7.2	5.8	(659.0)	安山岩	全面が磨られており、下端部に敲打痕を有する。上部欠損。	SD1 (Iトレンチ) 覆土中	縄文
4703	磨製石斧	(8.4)	6.7	4.6	(413.0)	安山岩	側縁部及び両面中央部に敲打痕を有する。上部欠損後、敲石に転用。	SI299覆土中	PL269 縄文
4698	敲石	(8.6)	7.9	5.3	(518.0)	安山岩	全面が磨られており、多方向の細かい擦痕が認められる。上部欠損。	SI237覆土中	PL269 縄文
4699	石皿	(10.8)	(8.0)	4.4	(260.0)	多孔質安山岩	表面に1か所、裏面に5か所の凹みを有する。大部分が欠損するが、石皿の一部と考えられる。	SI433覆土中	PL269 縄文



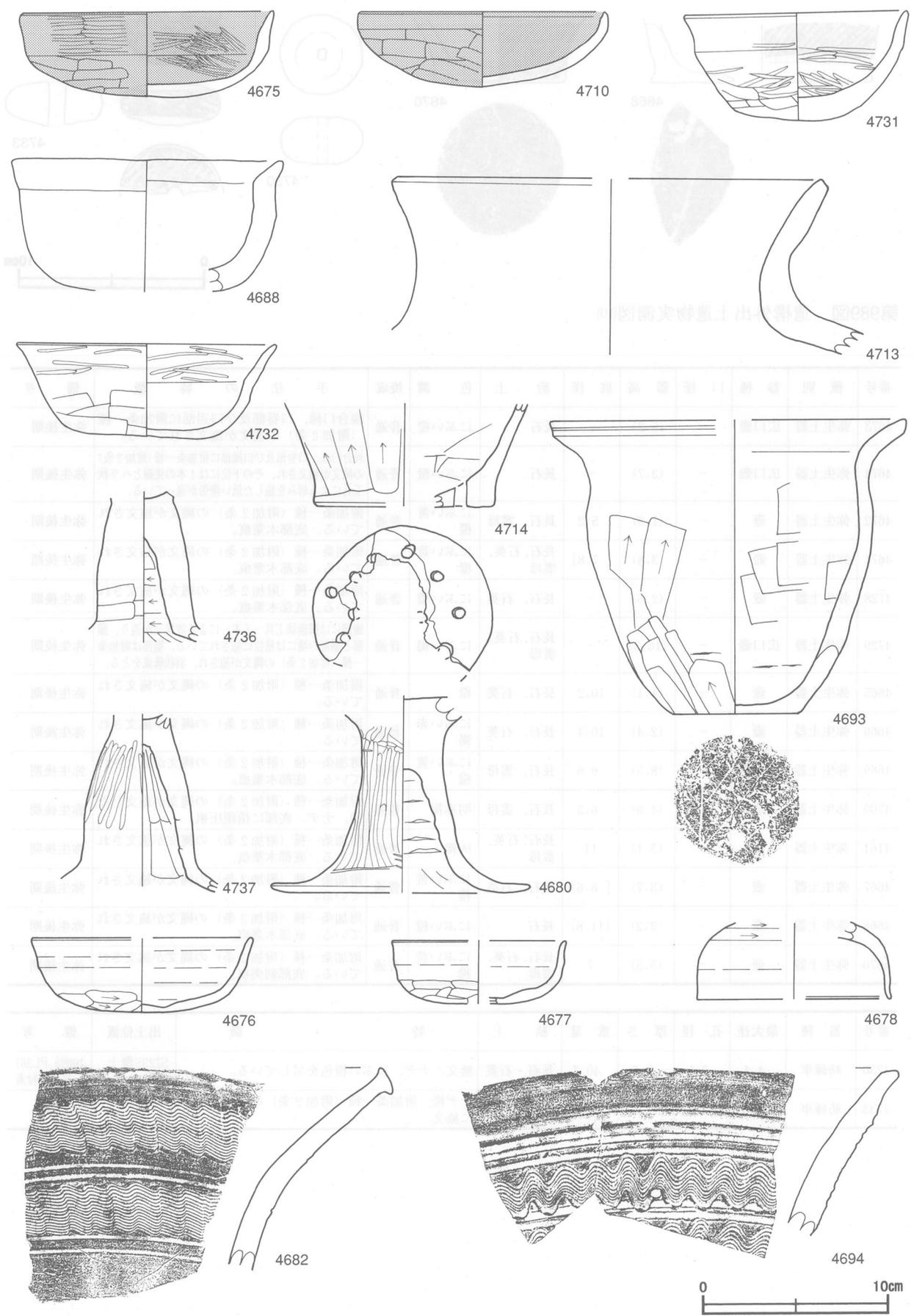
第988図 遺構外出土遺物実測図(9)



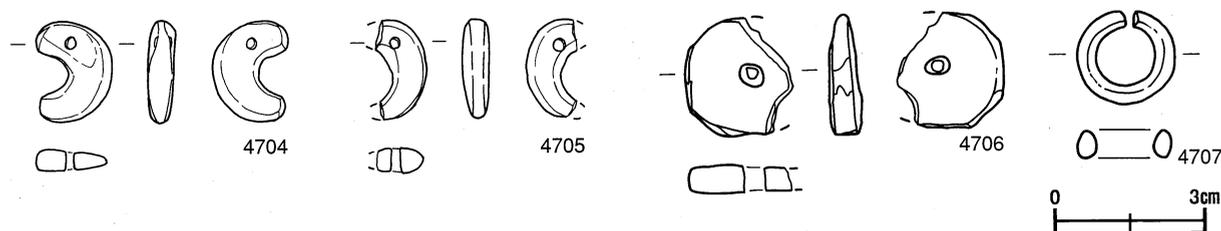
第989図 遺構外出土遺物実測図(10)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考
4673	弥生土器	広口壺	-	(5.2)	-	長石	にぶい橙	普通	複合口縁、口唇部及び口辺部に附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。	弥生後期
4674	弥生土器	広口壺	-	(3.7)	-	長石	にぶい橙	普通	複合口縁、口唇部及び口縁部に附加条一種(附加2条)の縄文が施文され、その下位には1本の沈線とヘラ状工具による刻みを施した低い隆帯が巡っている。	弥生後期
4672	弥生土器	壺	-	(1.9)	5.2	長石、雲母	にぶい黄橙	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。底部木葉痕。	弥生後期
4671	弥生土器	壺	-	(3.8)	[7.8]	長石、石英、雲母	にぶい黄橙	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。底部木葉痕。	弥生後期
4728	弥生土器	壺	-	(2.6)	-	長石、石英	にぶい橙	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。底部木葉痕。	弥生後期
4729	弥生土器	広口壺	-	(16.3)	-	長石、石英、雲母	にぶい褐	普通	頸部には櫛歯状工具(5本)による波状文が巡り、頸部と胴部の境には横位に施されている。胴部は附加条一種(附加2条)の縄文が施され、羽状構成をとる。	弥生後期
4665	弥生土器	壺	-	(4.1)	10.2	長石、石英	橙	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。	弥生後期
4666	弥生土器	壺	-	(2.4)	10.4	長石、石英	にぶい赤褐	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。	弥生後期
4669	弥生土器	広口壺	-	(8.5)	6.6	長石、雲母	にぶい黄橙	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。底部木葉痕。	弥生後期
4709	弥生土器	壺	-	(4.9)	6.3	長石、雲母	明赤褐	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文した後、ナデ。底部に指頭圧痕。	弥生後期
4161	弥生土器	壺	-	(3.1)	11	長石、石英、雲母	灰褐	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。底部木葉痕。	弥生後期
4667	弥生土器	壺	-	(3.7)	[8.6]	長石、石英	にぶい黄橙	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。	弥生後期
4668	弥生土器	壺	-	(3.2)	[11.8]	長石	にぶい橙	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。底部木葉痕。	弥生後期
4670	弥生土器	壺	-	(3.5)	7	長石、石英、雲母	にぶい黄橙	普通	附加条一種(附加2条)の縄文が施文されている。底部刺突痕。	弥生後期

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
4730	紡錘車	4.4	0.5	2.5	40.7	長石・石英	無文、ナデ、にぶい橙色を呈している。	SI235覆土中	100% PL261一部に煤付着
4733	紡錘車	5.2	2.4	1.0	26.3	石英・赤色粒子	ナデ後、附加条一種(附加2条)の縄文を全面に施文。	SI360覆土中	50% 弥生



第990図 遺構外出土遺物実測図(11)

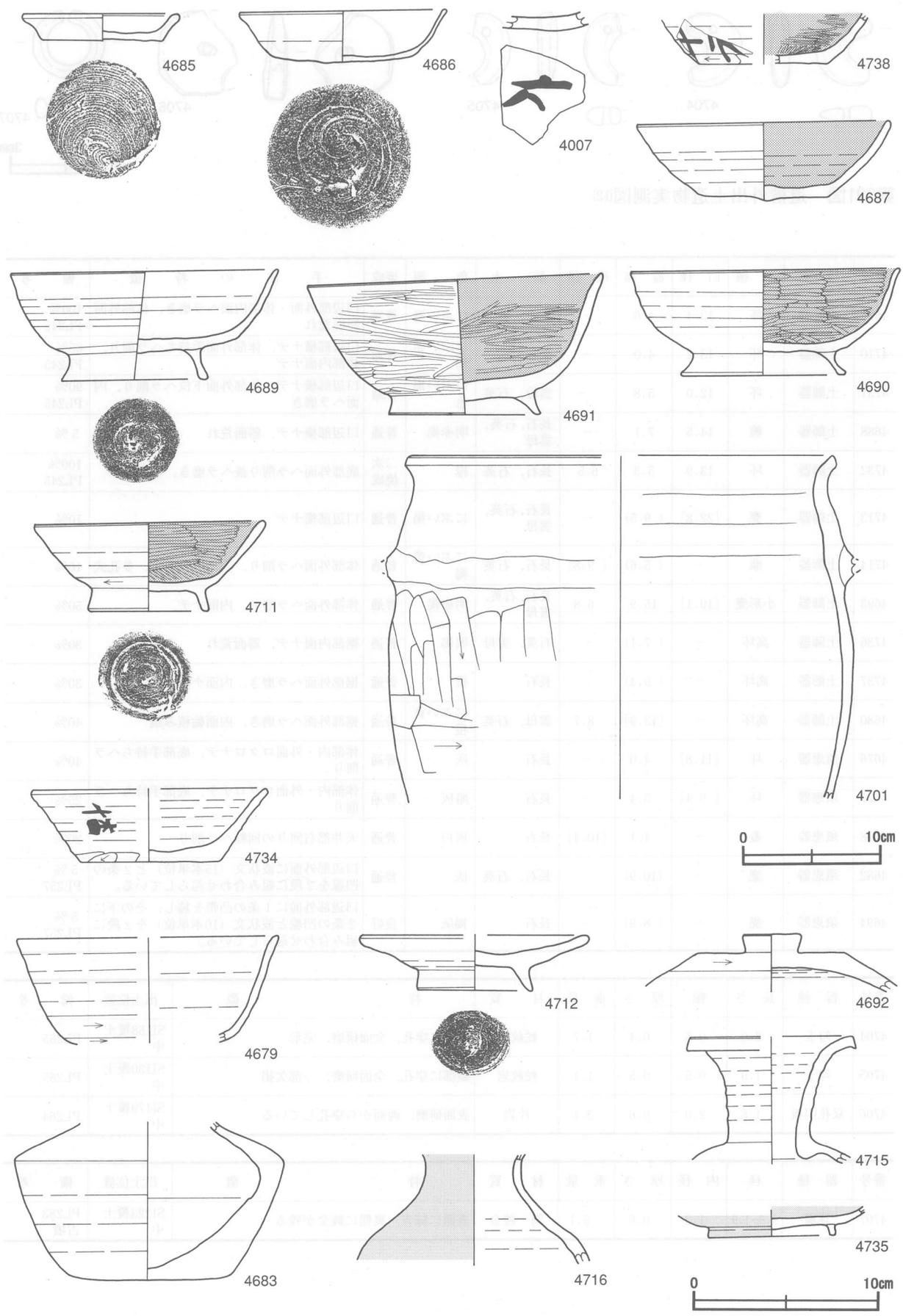


第991図 遺構外出土遺物実測図(12)

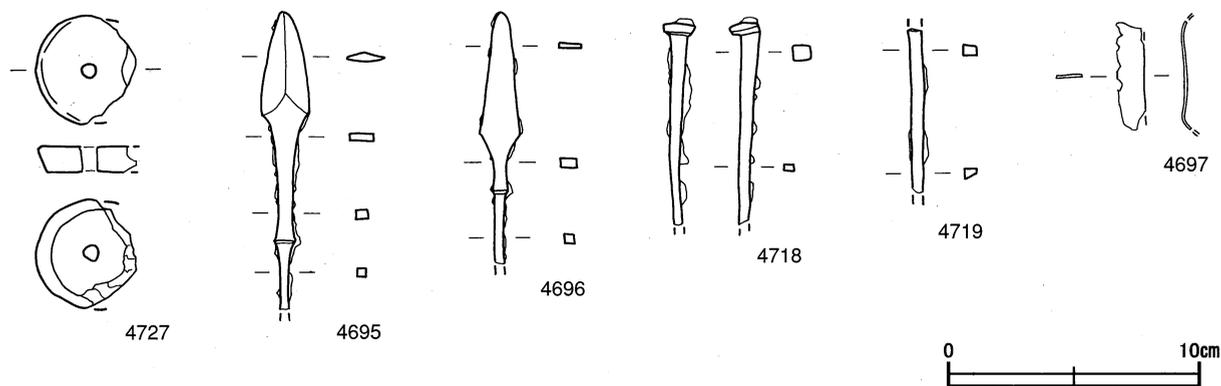
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考
4675	土師器	坏	13.4	4.6	-	長石, 雲母	にぶい褐色	普通	口辺部外面・体部内面ヘラ磨き, 体部外面器面荒れ	100% PL245
4710	土師器	坏	13.2	4.0	-	長石	にぶい赤褐色	普通	口辺部横ナデ, 体部外面手持ちヘラ削り, 体部内面ナデ	85% PL245
4731	土師器	坏	12.0	5.8	-	雲母, 石英	にぶい褐色	普通	口辺部横ナデ, 体部外面下位ヘラ削り, 内面ヘラ磨き	90% PL245
4688	土師器	椀	14.5	7.1	-	長石, 石英, 雲母	明赤褐色	普通	口辺部横ナデ, 器面荒れ	5%
4732	土師器	坏	13.9	5.3	6.5	長石, 石英	橙	二次焼成	底部外面ヘラ削り後ヘラ磨き, 器面荒れ	100% PL245
4713	土師器	甕	[22.8]	(9.5)	-	長石, 石英, 雲母	にぶい褐色	普通	口辺部横ナデ	10%
4714	土師器	甌	-	(5.6)	[9.8]	長石, 石英	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ, 多孔式	10%
4693	土師器	小形甕	[19.1]	15.9	6.8	長石, 石英, 雲母	明赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り, 内面ナデ	50%
4736	土師器	高坏	-	(7.1)	-	石英, 雲母	明褐色	普通	裾部内面ナデ, 器面荒れ	30%
4737	土師器	高坏	-	(9.4)	-	長石	橙	普通	裾部外面ヘラ磨き, 内面ナデ	30%
4680	土師器	高坏	-	[13.9]	8.7	雲母, 石英	にぶい黄褐色	普通	裾部外面ヘラ磨き, 内面輪積み痕	40%
4676	須恵器	坏	[11.8]	4.0	-	長石	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ, 底部手持ちヘラ削り	40%
4677	須恵器	坏	[9.4]	3.4	-	長石	暗灰	普通	体部内・外面ロクロナデ, 底部手持ちヘラ削り	25%
4678	須恵器	蓋	-	4.1	[10.4]	長石	灰白	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	20%
4682	須恵器	甕	-	(10.9)	-	長石, 石英	灰	普通	口辺部外面に波状文(15本単位)と2条の凹線を2段に組み合わせ巡らしている。	5% PL257
4694	須恵器	甕	-	(8.9)	-	長石	褐色	良好	口辺部外面に1条の凸帯を施し, その下に2条の凹線と波状文(10本単位)を2段に組み合わせ巡らしている。	5% PL257

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4704	勾玉	2.0	0.5	0.4	1.7	蛇紋岩	頭部に穿孔, 全面研磨, 完形	SI158覆土中	PL265
4705	勾玉	1.9	0.5	0.5	1.1	蛇紋岩	頭部に穿孔, 全面研磨, 一部欠損	SI130覆土中	PL265
4706	双孔円板	1.8	2.0	0.6	3.1	片岩	表面研磨, 両面から穿孔している。	SI179覆土中	PL264

番号	器種	径	内径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4707	耳環	1.8~1.9	1.2	0.6	5.1	銅・鍍金	表面に緑青, 裏側に鍍金が残る	SI223覆土中	PL283 古墳



第992図 遺構外出土遺物実測図(13)



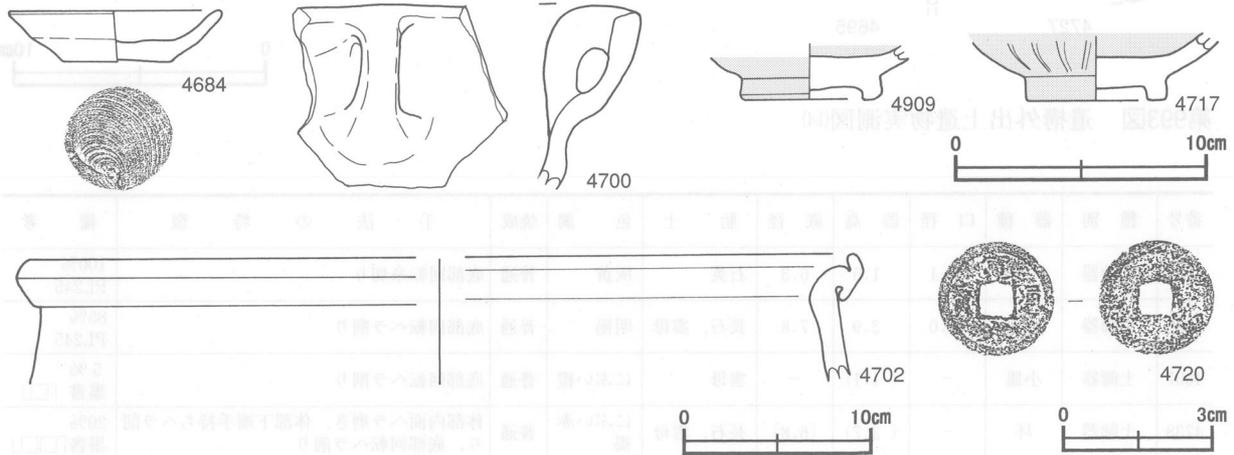
第993図 遺構外出土遺物実測図(14)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考
4685	土師器	小皿	8.1	1.5	6.3	石英	灰黄	普通	底部回転糸切り	100% PL245
4686	土師器	小皿	11.0	2.9	7.8	長石, 雲母	明褐	普通	底部回転ヘラ削り	85% PL245
4007	土師器	小皿	-	(1.1)	-	雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ削り	5% 墨書「□」
4738	土師器	坏	-	(2.7)	[6.8]	長石, 雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き, 体部下端手持ちヘラ削り, 底部回転ヘラ削り	20% 墨書「□□」
4687	土師器	坏	13.6	4.1	6.9	長石, 石英, 雲母	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ切り	85%
4689	土師器	高台付椀	14.3	5.9	7.8	長石, 石英, 雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	90% PL245
4691	土師器	高台付椀	15.8	7.2	8.1	雲母, 赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内外面ヘラ磨き, 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	85% PL245
4690	土師器	高台付椀	14.4	5.8	8.8	長石, 雲母, 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き, 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	85% PL245
4711	土師器	高台付椀	12.2	4.9	6.0	長石, 石英, 雲母	にぶい黄橙	普通	体部下端回転ヘラ削り, 底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	80% PL245
4701	土師器	羽釜	[22.8]	(18.9)	-	長石, 石英, 雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り	20%
4734	須恵器	坏	[12.5]	3.9	7.3	長石	灰オリーブ	普通	体部下端手持ちヘラ削り, 体部ロクロナデ, 底部回転ヘラ削り	70% PL249 墨書「幡」
4679	須恵器	坏	[14.2]	5.8	-	長石	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	20%
4712	須恵器	高台付皿	[12.0]	3.0	6.0	長石, 石英, 雲母	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	40%
4692	須恵器	蓋	-	(3.1)	-	長石	灰	普通	天井部右回りの回転ヘラ削り	15%
4683	須恵器	長頸瓶	-	(6.5)	8.6	長石	灰黄	普通	外面ロクロナデ, 器面荒れ	80%
4715	須恵器	長頸瓶	[8.8]	(6.9)	-	長石, 雲母	黄灰	普通	頸部内外面ロクロナデ	10%
4716	灰釉陶器	小瓶	-	(5.9)	-	緻密	灰黄, 灰オリーブ	普通	体部ロクロナデ, 釉は流し掛け	5%
4735	緑釉陶器	皿	-	(2.0)	6.8	緻密	灰オリーブ	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け, 高台部に沈線, 内外面施釉, 釉は刷毛塗り	45% PL247 黒笹90号窯式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4727	紡錘車	4.0	1.0	0.7	22.9	片岩	無文, 表面研磨, 上部及び側部欠損	表採	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4695	鎌	(11.9)	1.9	0.4	(18.6)	鉄	柳刃式, 台状関有り, 基部欠損	SI224覆土中	
4696	鎌	(10.0)	1.6	0.5	(14.3)	鉄	柳刃式, 台状関有り, 基部欠損	SI229覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4718	釘	(8.1)	1.2	0.6	(10.8)	鉄	脚部先端欠損, 脚部わずかに屈曲する。	確認面 (F 9 d 6)	
4719	釘カ	(6.5)	0.5	0.4	(7.3)	鉄	頭部欠損, 脚部先端欠損	確認面 (F 9 d 6)	
4697	不明銅製品	(4.3)	1.1	0.1	(1.9)	銅	表面は緑錆に覆われているが, 一部に鍍金を確認できる。	SI213覆土中	



第994図 遺構外出土遺物実測図(15)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考
4684	土師質土器	小皿	8.3	2.1	4.2	雲母, 石英	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	100% PL245
4700	土師質土器	内耳鍋	-	(7.3)	-	長石, 石英, 雲母	にぶい褐	普通	1内耳残存, 体部外面指頭圧痕, 体部内・外面ナデ	5%
4909	青磁	碗	-	(2.2)	5.5	緻密	オリーブ灰	良好	内外面施釉, 精製品	20% PL246 龍泉窯系
4717	青磁	碗	-	(2.6)	5.6	緻密	灰白, 灰オリーブ	良好	内外面施釉, 外面蓮弁文, 精製品	20% 龍泉窯系
4702	陶器	甕	[43.2]	(6.7)	-	石英, 雲母, 赤色粒子	黒褐	良好	体部内・外面ロクロナデ	5% PL248 常滑系

番号	銭名	径	孔径	厚さ	重量	初鑄年	特徴	出土位置	備考
4720	寛永通寶	2.3	0.7	0.1	2.0	元文4年(1739)	鉄銭, 背面無文	表採	PL284

表2 弥生時代住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考
							壁溝	主柱穴	貯藏穴	ピット	出入口	炉			
61	G14j7	N-49°-W	長方形	[4.0]×3.5	8	平坦	-	4	-	2	-	1	自然	炉石	弥生時代後期
84	H14b2	N-29°-W	隅丸長方形	5.2×4.1	25~34	平坦	-	4	-	16	1	2	人為	弥生土器(高坏・壺・広口壺・小形壺)	弥生時代後期前半
99	G14d1	N-47°-W	長方形	6.3×4.8	13~21	平坦	-	4	-	5	2	1	自然	弥生土器(壺・広口壺)	弥生時代後期前半
121	H13a0	N-51°-W	隅丸長方形	[5.5]×4.4	19~22	平坦	-	4	-	3	-	1	人為	弥生土器(小形壺・広口壺・壺), 糸巻き形土製品	弥生時代後期前半
139	H13d5	N-87°-W	隅丸長方形	5.8×4.0	10~32	平坦	-	4	-	5	1	1	自然	弥生土器(小形壺・広口壺・壺)	弥生時代後期後半
163	G13g4	N-23°-W	長方形	[5.3×3.5]	-	平坦	-	2	-	11	-	-	不明	弥生土器(壺), 紡錘車	弥生時代後期後半
192	G13b6	N-40°-W	長方形	[6.8]×5.5	14~18	平坦	-	4	-	2	-	1	自然	弥生土器(壺・広口壺), 磨石	弥生時代後期前半
356	I13d7	N-68°-W	[長方形]	[5.7×4.8]	-	平坦	-	4	-	3	1	1	不明	弥生土器(小形壺・壺), 敲石	弥生時代後期後半
461	L11b9	N-20°-E	[長方形]	3.3×(1.3)	13	平坦	-	-	-	3	-	-	人為	弥生土器片	弥生時代後期
469	I13j7	N-76°-W	長方形	5.2×[4.0]	16~20	平坦	-	4	-	1	-	1	人為	弥生土器(壺・広口壺), 紡錘車	弥生時代後期後半

表3 古墳時代住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	主柱穴	貯藏穴	ピット	出入口	炉・竈			
1A	F14d8	N-7°-W	[長方形]	(3.3×2.6)	14~18	平坦	一部有	1	-	-	-	-	-	-	5世紀後半
1B	F14d8	N-7°-W	[長方形]	(4.5×3.5)	-	平坦	一部有	-	1	1	-	-	人為	土師器(甕, 坏)	5世紀後半
2	F14d8	N-7°-W	不明	(3.37×1.3)	14~18	平坦	-	3	-	3	-	-	-	土師器(坏)	5世紀中葉
6	F14e9	N-10°-W	方形	7.26×6.71	10	平坦	-	4	-	-	1	竈	人為	土師器(坏, 碗, 甕, 甌), 砥石, 鏝	6世紀後半
7	F14e8	N-6°-W	長方形	4.7×4.0	15~20	平坦	一部	4	-	-	-	竈	人為	土師器(坏, 碗, 甕, 甌), 須惠器(坏・横瓶・甕), 灰釉陶器(瓶)	7世紀後葉
8	F14f7	N-12°-E	方形	6.24×(5.10)	20~30	平坦	一部	3	1	2	1	炉3	人為	土師器(坏, 高坏, 甕, 甌)	5世紀中葉
9	F14e9	N-10°-W	[方形]	[4.80×4.55]	-	平坦	-	4	-	-	-	[竈]	人為		6世紀後半
13	F14e0	N-14°-W	不明	(6.95×6.24)	不明	平坦	-	-	1	5	1	-	-	土師器(坏, 甕)	6世紀中葉
15	F14h9	N-87°-E	長方形	7.90×6.54	44~48	平坦	ほぼ全周	4	2	14	1	炉2	人為	土師器(坏, 鉢, 高坏, 甕, 甌), 須惠器(坏, 甕), 砥石, 白玉	5世紀後半
16	F14e8	N-15°-W	方形	[5.40×4.90]	8~12	平坦	-	1	-	3	1	-	-	土師器(坏, 甕), 砥石	6世紀前葉
20	G14a7	N-17°-E	長方形	[4.00]×3.28	17~30	平坦	[全周]	-	-	1	-	[竈]	人為	土師器(甕), 須惠器(甕), 管状土錘, 砥石, 刀子	7世紀前半
22	F14j7	N-2°-E	方形	6.93×6.72	30~46	平坦	[全周]	4	-	9	1	竈	人為	土師器(坏, 甕, 甌), 須惠器(フラスコ形瓶, 坏, 甕), 土玉, 白玉, 紡錘車, 双孔円板, 鏝, 耳環	7世紀前葉
24	F15j1	N-12°-W	方形	3.8×3.7	6~20	平坦	一部	-	-	1	-	竈	人為	土師器(甕)	古墳・後期
27	G14c9	N-96°-E	方形	7.00×6.64	12~20	平坦	全周	4	1	-	1	竈	人為	土師器(坏, 碗, 甕, 甌), 支脚, 白玉, 勾玉, 砥石	5世紀末~6世紀初め
30	G14d8	N-1°-E	[方形]	5.4×5.4	8~16	平坦	[全周]	4	1	1	-	炉	人為	土師器(坏, 碗, 鉢, 甕, 甌), 支脚, 須惠器(無蓋高坏)	5世紀中葉
31	G14d7	N-4°-E	方形	5.8×5.4	19~24	平坦	[全周]	4	-	2	1	竈	人為	土師器(坏), 羽口, 白玉, 耳環	6世紀後半
32	G14c3	N-10°-W	[方形]	6.0×(4.0)	10~28	平坦	一部	4	-	1	1	-	不明	双孔円板, 鉄鏝	6世紀前半
35	G14j9	N-26°-E	[方形]	5.0×(1.0)	6~8	平坦	-	-	-	-	-	-	人為		古墳前期~中期

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	主柱穴	貯藏穴	ピット	出入口	炉・竈			
36	G14c4	N-2°-E	[方形]	9.2×8.8	14~21	平坦	[全周]	4	-	5	2	竈	人為	土師器(坏), 須惠器(甕), 球状土錘, 砥石	6世紀後半
37	G14c4	N-0°	[長方形]	[3.0×3.0]	8~12	平坦	-	-	-	2	-	-	-	土師器(坏, 甕), 須惠器(甕)	6世紀後半
38	G14e4	N-11°-W	[長方形]	(4.8×4.5)	4~10	平坦	-	4	-	2	1	炉	人為		古墳・前期 ~中期
45	G14f4	N-2°-E	[方形]	[4.74×4.62]	7	平坦	-	3	-	-	1	竈	不明	土師器(坏, 高坏, 甕, 手捏), 砥石, 釘	6世紀中葉
47	G14f3	N-104°-E	[方形]	[6.7×6.7]	12~20	平坦	-	4	1	1	-	竈	人為	土師器(坏, 高坏)	5世紀末~ 6世紀初め
49	G14g5	N-4°-E	長方形	7.88×7.50	30~39	平坦	一部	4	1	1	2	[竈]	人為	土師器(坏), 砥石, 双孔円板, 鉄鏃	6世紀後半
50	G14f6	N-90°-E	[方形]	6.25×6.02	18~20	平坦	[全周]	4	1	-	-	竈	人為	土師器(坏, 埴, 甕, 甗), 砥石	5世紀末~ 6世紀初め
51	G14f7	N-5°-W	方形	9.05×8.14	12~16	平坦	一部	4	-	-	1	竈	人為	土師器(坏, 椀, 甕), 土玉	6世紀後半
52	G14f7	N-5°-W	方形	7.27×(6.90)	不明	平坦	-	4	-	5	1	-	-		6世紀中葉
54	F15i2	N-5°-E	-	3.8×(2.5)	18~22	平坦	[全周]	2	-	1	1	-	人為	土師器(甕, 甗), 須惠器(甗), 支脚, 刀子	6世紀前葉
56	G14g9	N-5°-W	方形	4.7×4.6	8~13	平坦	ほぼ 全周	4	-	4	-	竈	人為	土師器(甕, 置き竈)	7世紀前葉
57	F15j2	N-16°-W	-	(3.3×2.6)	36	平坦	[全周]	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏)	6世紀後半
58	F15h2	不明	不明	(3.00×0.5)	38~42	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳・後期
59	G14e0	N-6°-E	方形	4.0×4.0	2~3	平坦	全周	4	1	-	-	-	-	土師器(坏)	5世紀後半
60	G14h8	N-70°-E	長方形	2.25×3.6	10~18	平坦	-	2	-	-	-	竈	人為	土師器(手捏土器)	7世紀後半
62	G14i6	N-17°-W	[方形]	7.13×(6.46)	10	平坦	-	4	2	4	-	-	不明	土師器(坏, 壺)	6世紀初頭
64	G14h3	N-0°	[方形]	[4.44]×4.16	16~24	平坦	全周	4	-	1	-	竈	人為	土師器(坏, 甕)	6世紀後半
65	H14a4	N-27°-W	方形	3.02×3.04	8~10	平坦	(全周)	4	-	1	1	竈	人為	土師器(甕, 甗)	6世紀中葉
67	G14j3	N-24°-W	方形	5.22×5.18	9~13	平坦	ほぼ 全周	4	1	-	1	竈	人為	土師器(坏, 高坏), 紡錘車	6世紀中葉
68	G14f2	N-8°-E	[方形]	[4.16×3.92]	8~16	平坦	[全周]	4	1	1	1	竈	人為	土師器(坏)	6世紀後半
69	G14h2	N-1°-W	方形	4.81×4.79	13~28	平坦	[全周]	4	-	-	1	竈	人為	土師器(坏)	6世紀中葉
71	G14h1	N-15°-W	方形	5.29×5.02	20~33	平坦	[全周]	4	1	-	1	竈	人為	土師器(坏, 甕), 管状土錘, 砥石	6世紀前葉
74	G13j0	N-13°-W	方形	5.08×5.03	14~18	平坦	全周	4	-	3	1	竈	人為	土師器(坏, 甕)	7世紀前葉
75	H14a1	N-31°-W	方形	4.90×4.84	15~20	平坦	全周	4	1	-	1	竈	人為	土師器(坏, 手捏土器), 支脚	6世紀前葉
76	G14e3	N-3°-E	方形	4.20×[3.98]	30	平坦	[全周]	3	-	2	1	竈	人為	土師器(坏・甕)	7世紀前葉
78	H14b4	N-12°-E	方形	5.79×5.60	7~14	平坦	-	-	-	3	1	竈	人為	土師器(坏・甕)	6世紀後半
79	H14a6	N-16°-W	方形	5.10×4.86	6~19	平坦	-	4	1	5	1	竈	人為	土師器(坏, 甕, 甗), 土玉	6世紀中葉
82	H14c6	N-15°-W	[方形]	3.26×[3.06]	15	平坦	-	-	-	-	-	[竈]	人為	土師器(甕)	6~7世紀
86	H13i0	N-7°-E	不明	(1.70)×(1.26)	16	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏)	7世紀代
87	H14e1	[N-15°-W]	[方形]	2.72×2.50	16	平坦	-	3	-	-	-	-	人為	土師器(坏)	古墳・後期
89	H14d5	N-84°-E	方形	3.14×3.31	20~35	平坦	-	3	1	-	-	竈	人為	土師器(甗), 砥石	6世紀前葉
94	H14g3	N-20°-E	不明	不明	不明	平坦	-	2	-	1	-	炉	-		古墳・中期 以降
96	H14f2	N-2°-W	[方形]	(4.5)×(4.5)	5	平坦	-	1	1	3	-	竈	人為	土師器(甕), 砥石	7世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	支柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈			
97	G14c2	N-11°-E	[方形]	6.12×(5.34)	26~29	平坦	[全周]	4	-	1	1	-	人為	土師器(坏), 須惠器(蓋, 坏), 土玉, 白玉	7世紀後葉
103	G13b9	N-3°-W	[長方形]	(9.87)×[9.10]	24	平坦	[全周]	4	-	13	2	[竈]	不明	管状土錘, 双孔円板, 刀子	古墳・後期
104	G13a8	[N-15°-W]	不明	(1.98)×(1.32)	12	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器片	古墳・後期
105	F13j7	N-3°-W	[長方形]	6.84×(3.32)	18	平坦	[全周]	1	-	2	-	-	人為	土師器(坏)	7世紀代
108	G13b7	N-3°-E	長方形	4.8×4.0	17~35	平坦	[全周]	4	-	-	1	竈	人為	土師器(坏, ミニチュア), 須惠器(蓋), 刀子	7世紀後葉
109	G13d8	N-3°-W	[方形長形]	[4.2×4.2]	25	平坦	[全周]	4	-	-	1	-	人為	土師器(坏, 甕), 須惠器(坏)	7世紀代
112	G13e8	N-6°-E	長方形	(2.7×2.2)	25	平坦	一部	-	-	-	1	竈	人為	土師器(坏, 甕)	7世紀後半
113	G13f9	N-9°-E	方形	7.18×7.00	22~30	平坦	[全周]	4	1	-	1	竈	人為	土師器(坏, 小形甕), 須惠器(蓋), 砥石, 紡錘車	6世紀前葉
114	G13f0	N-40°-E	長方形	6.0×5.5	16~26	平坦	全周	4	-	-	1	竈	人為	土師器(坏, 椀, 甕), 刀子, 鎌, 釘	6世紀後葉
116	G13j7	N-76°-E	長方形	4.8×4.2	20	平坦	-	4	1	-	2	竈	人為	土師器(坏, 甕), 砥石	6世紀前葉
117	G13h9	N-15°-W	[方形]	[5.70×5.58]	12	平坦	一部	4	1	-	-	竈	人為	土師器(高坏)	6世紀中葉
118	G13g8	N-2°-W	方形	3.77×3.65	36	平坦	ほぼ全周	-	-	1	-	竈	人為	土師器(坏, 椀, 小形甕, 甕, 甗, 手捏土器), 須惠器(広口壺), 砥石	7世紀前葉
119	G13i9	N-2°-W	方形	5.81×5.34	32	平坦	ほぼ全周	4	1	4	1	竈	人為	土師器(坏, 甕), 土玉, 砥石	7世紀前葉
123	H13b8	N-2°-W	方形	5.00×4.80	16~22	平坦	-	4	1	-	-	炉2	人為	土師器(坏, 埴, 台付甕, 甕)	4世紀中葉
124	H13d8	N-30°-W	[方形]	2.76×[2.74]	12~20	平坦	-	-	-	1	-	-	人為	土師器(坏), 須惠器(瓶)	7世紀前葉~中葉
125	H13c6	N-12°-W	方形	5.98×5.97	12	平坦	-	4	-	-	1	竈	人為		6世紀前葉
126	H14d1	N-80°-E	長方形	4.21×3.18	8~22	平坦	-	4	-	-	-	-	人為		古墳後期以前
129	H13g8	N-4°-W	方形	6.7×6.6	15	平坦	全周	4	1	8	2	竈	人為	土師器(坏, 埴, 甕), 須惠器(蓋)	6世紀初頭
132	H13g7	N-22°-W	[方形]	5.25×[5.05]	5	平坦	-	4	1	-	-	炉	不明		5世紀代
138	H13e9	N-67°-E	[方形]	[6.07]×5.76	15~17	平坦	ほぼ全周	4	1	-	-	炉	自然		5世紀前半
141	H13a7	N-88°-E	[方形]	[5.4×5.2]	8~14	平坦	一部	2	1	12	-	竈	人為	土師器(坏, 椀, 高坏), 砥石	5世紀後葉
142	H13c6	N-12°-W	方形	7.42×7.32	13~18	平坦	ほぼ全周	4	1	13	2	竈	人為	土師器(坏, 高坏, 甕), 須惠器(蓋), 砥石	6世紀中葉
143	H13d4	N-8°-W	方形	4.52×4.50	15~20	平坦	全周	4	1	-	1	竈	人為	土師器(坏, 椀, 甕, 小形甕, 甗), 砥石	6世紀初頭
146	H13a4	N-65°-E	方形	7.4×7.28	30~46	平坦	全周	4	1	11	1	竈	人為	土師器(坏, 小形甕, 甗), 土錘, 勾玉, 双孔円板	5世紀末~6世紀初め
151	G13j7	N-10°-W	方形	5.20×5.05	5~22	平坦	-	4	-	-	-	-	人為		5世紀末~6世紀初め
152	G13i6	N-4°-W	方形	5.8×5.4	12~20	平坦	全周	4	2	7	1	竈	人為	土師器(坏, 椀, 甕), 砥石	6世紀中葉
155	G13j5	N-72°-E	方形	3.61×3.50	16	平坦	ほぼ全周	-	-	2	1	東竈	人為		5世紀後葉
156	G13h2	N-7°-W	方形	4.51×4.28	15~39	平坦	[全周]	4	1	2	1	竈	人為	土師器(坏, 甕)	7世紀後半
157	H13a1	N-2°-E	方形	5.55×5.20	38~46	平坦	全周	4	1	-	1	竈	人為	土師器(坏, 甕), 須惠器(甗, 捏鉢)	7世紀前葉
161	G13h3	N-5°-W	長方形	3.7×2.84	12~22	平坦	-	4	-	3	1	竈	人為	土師器(坏, 手捏土器), 鉄鎌	6世紀後半
162	G13h3	N-2°-W	[方形]	3.80×(1.90)	3~10	平坦	-	-	-	1	-	-	不明		6世紀後半以前
167	G13h6	N-94°-W	方形	4.35×4.39	21~25	平坦	全周	4	2	1	1	竈1 炉1	人為	土師器(坏, 椀, 鉢, 高坏, 小型甕, 甕, 甗, 手捏土器), 支脚, 砥石, 凹石	6世紀前葉
168	G13e4	N-2°-W	方形	4.80×4.80	45	平坦	全周	4	1	3	1	竈	人為	土師器(坏, 椀, 小形甕, 甕), 須惠器(甗), 支脚, 砥石	6世紀中葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈			
181	G13b4	N-10°-W	[方形]	[5.30×5.30]	17~30	平坦	[全周]	4	-	2	1	-	人為		7世紀代
182	G13d2	N-10°-W	方形	5.06×4.9	10~22	平坦	半周	4	-	1	1	竈	人為	土師器(坏, 甕), 砥石	6世紀中葉
187	G13b3	N-4°-E	長方形	4.49×3.79	54~65	平坦	全周	4	-	-	1	竈	自然	土師器(坏, 甕), 紡錘車	7世紀後半
189	H13e6	N-8°-W	方形	9.50×9.30	10	平坦	[全周]	4	2	-	2	竈2	人為	土師器(坏, 椀, 高坏, 甕, 甗), 羽口, 砥石, 紡錘車	6世紀前葉
193	F13j5	-	-	(3.45×3.05)	10	平坦	-	1	-	2	-	-	人為		5世紀後葉
196	F13j4	N-86°-E	[方形]	5.15×5.01	34~43	平坦	一部	2	-	3	1	竈	人為	土師器(坏, 鉢, 高坏, 小形甕, 甕, 甗)	5世紀末~ 6世紀初め
200	G13a1	N-8°-E	[方形]	6.70×6.22	10	平坦	[全周]	4	1	4	2	竈	人為	土師器(坏, 甕), 須恵器(コップ形), 砥石, 鎌, 刀子	6世紀後葉
208	G12e0	N-22°-W	[方形]	2.5×2.5	10~14	平坦	-	3	-	-	1	-	不明	土師器(坏, 椀, ミニチュア)	5世紀中葉
209	H13a1	N-7°-W	長方形	2.8×2.3	18~30	平坦	[全周]	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏, 甕)	7世紀後葉
227	H12a0	N-22°-W	方形	4.0×3.9	6	平坦	全周	4	-	-	1	竈	不明	土師器(坏, 甗)	7世紀後葉
231A	G12j7	N-7°-W	方形	5.2×5.2	16~24	平坦	-	4	-	-	1	竈	人為	土師器(坏, 甕, 甗), 土玉	7世紀前葉
231B	G12j7	N-7°-W	方形	4.8×4.8	10	平坦	全周	4	-	-	-	竈	貼床	土師器(坏)	7世紀中葉
233	G12j7	N-20°-W	方形	6.22×6.15	18~32	平坦	全周	4	2	-	1	-	人為	土師器(坏, 高坏, 甕, 甗)	6世紀後葉
236	H12c9	N-17°-W	方形	8.15×8.00	13~17	平坦	ほぼ全周	4	1	8	6	竈	人為	土師器(坏, 鉢, 高坏, 甕)	6世紀前葉
237	H13c1	N-80°-E	方形	4.95×4.85	10	平坦	全周	4	1	-	-	竈	不明	土師器(坏)	5世紀末~ 6世紀初め
238A	H12a8	N-12°-E	長方形	5.80×5.00	24~33	平坦	全周	4	-	1	1	竈	人為	土師器(坏, 甕), 土玉, 砥石, 耳環	7世紀中葉
238B	H12a8	N-12°-E	方形	4.50×4.50	23~33	平坦	全周	4	-	-	-	竈	人為		7世紀前葉
240	H13e1	N-12°-W	方形	7.92×7.82	20~27	平坦	全周	4	1	2	1	竈	人為	土師器(坏, 高坏, 甕), 支脚, 砥石, 鎌	6世紀中葉
243	H12f9	N-16°-W	方形	6.00×5.82	16	平坦	全周	4	1	-	1	竈	人為	土師器(坏, 甕), 土玉, 支脚	6世紀前葉
245	H12e7	N-105°-W	方形	3.05×2.80	16~22	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏, 甕, 手捏土器)	6世紀後葉
248	H12c5	N-4°-E	方形	5.5×5.5	24~38	平坦	[全周]	4	1	2	2	竈	人為	土師器(坏, 椀, 高坏, 甕, 甗), 砥石	6世紀前葉
249	H12b5	[N-13°-W]	[方形]	[4.96]×(3.85)	5	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器(坏, 甕), 土製品(羽口), 瓦	6世紀中葉 以前
250	H12b6	N-11°-W	長方形	[5.3×3.78]	-	平坦	-	4	-	-	1	竈	貼床		7世紀前葉
252	H12c7	-	-	3.74×(0.50)	5	平坦	-	-	-	-	-	-	不明		6世紀後葉 以前
258	G12c7	N-10°-W	方形	4.25×4.05	17~35	平坦	ほぼ全周	4	-	2	-	竈	人為	土師器(坏, 椀, 高坏, 甕, 甗)	7世紀前葉
260	G12a8	N-4°-E	長方形	3.90×3.20	25~30	平坦	全周	3	-	1	1	竈	人為	土師器(甕), 有孔円板	7世紀前葉
263	H12b6	N-10°-W	方形	6.56×6.22	22~30	平坦	-	4	-	2	1	竈	人為	土師器(坏, 高坏, 手捏土器, 捏鉢, 鉢), 砥石	7世紀前葉
268	G13f8	N-10°-E	[長方形]	(3.95)×3.35	16	平坦	半周	-	-	-	-	竈	人為	砥石	6世紀後半
271	F12h7	[N-5°-E]	-	(2.23×1.02)	22~36	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	双孔円板, 紡錘車	古墳・中期 ~後期
273	F12i7	N-3°-E	方形	6.15×6.00	22~25	平坦	[全周]	4	-	8	2	竈	人為	土師器(坏, 手捏土器), 紡錘車, 小札カ	7世紀前葉
276	G12b6	N-0°	長方形	4.18×3.00	18	平坦	-	-	-	-	1	竈	人為	土師器(坏)	7世紀前葉
278	G12c5	N-11°-W	方形	4.22×3.98	30~37	平坦	一部	-	1	1	-	竈	人為	土師器(坏, 甕, 小形鉢)	6世紀後葉
281	G12d3	N-90°-E	[方形 または 長方形]	5.95×(4.5)	20~32	平坦	[全周]	1	1	-	1	竈	人為	土師器(坏, 椀, 甕, 甗), 砥石	5世紀末~ 6世紀初め

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈			
282	G12f4	N-4°-E	方形	4.55×4.22	22~30	平坦	全周				3	竈	人為	土師器(坏, 高坏, 椀, 小形甕, 甕, 甗), 砥石, 凹石	7世紀前葉
283	H12f9	N-5°-W	[長方形]	2.50×(2.15)	10	平坦	-	-	-	2	-	-	人為	土師器(甕)	7世紀代
287	G12g2	N-4°-W	-	(2.76×2.30)	20~27	平坦	[全周]	-	1	-	-	-	人為	土師器(坏, 甕)	6世紀前葉
291	F14h7	N-11°-W	[長方形]	6.0×(4.0)	30	-	[全周]	-	-	1	-	-	人為	土師器(坏)	7世紀後半
293	H12c2	N-79°-W	長方形	4.6×2.95	8	平坦	全周	4	-	-	-	西竈	人為	土師器(坏, 小形甕)	6世紀後葉
294	H12c2	N-25°-W	方形	6.45×[6.45]	17~30	平坦	全周	4	1	2	-	炉	人為	土師器(坏, 高坏, 埴, 甕), 砥石	4世紀末
297	H12d1	N-4°-E	方形	4.85×4.78	20	平坦	ほぼ全周	4	1	1	2	竈	人為	土師器(坏, 甕)	6世紀前葉
298	H12d2	-	-	(1.5)×(1.4)	18	平坦	-	-	-	3	-	-	自然	土師器(坏), 砥石	6世紀中葉
302	H12g4	N-15°-W	[方形・長方形]	(3.35)×(3.0)	18~30	平坦	-	-	-	-	-	炉	人為	土師器(甕)	4世紀後葉
304	H12j6	-	-	[4.4]×[0.55]	25	平坦	-	-	-	-	-	-	人為		6世紀前半
305	H12i6	N-28°-W	[長方形]	6.80×(4.37)	27~34	平坦	[全周]	2	1	3	-	竈	人為	土師器(坏, 羽釜), 砥石	6世紀前葉
307	I12a6	N-16°-W	不明	(5.50×1.50)	33	平坦	-	1	-	1	-	-	人為	土師器(高坏, 埴, 鎌)	4世紀末
309	H12j7	N-18°-W	方形	5.94×5.73	28	平坦	ほぼ全周	4	1	-	-	竈	人為	土師器(坏, 高坏, 小形甕, 甕, 甗, ミニチュア土器)	6世紀前葉
310	I12c7	N-30°-W	[方形・長方形]	7.8×(2.2)	12	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏, 甗), 鎌	6世紀前葉
312	I12d7	-	[方形・長方形]	[4.38]×(2.2)	16	平坦	-	1	-	4	-	-	人為		5世紀後葉
313	H12e9	N-10°-E	[方形]	6.5×[5.9]	20	平坦	一部	4	-	2	1	竈	人為	土師器(坏, 甕), 砥石	6世紀後葉
314	I12f8	N-10°-W	[方形・長方形]	[5.00]×(1.65)	35	平坦	-	-	-	2	-	-	人為	土師器(甗)	7世紀代以前
315	I12g9	N-0°	[方形]	[8.09×8.00]	10	平坦	一部	4	-	1	-	竈	人為	土師器(坏, 甕)	6世紀前葉
316	I12g8	N-8°-E	[方形・長方形]	[2.80×2.80]	10	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為		7世紀前葉
318	I12h0	N-2°-E	方形	5.60×5.3	20	平坦	ほぼ全周	4	1	1	1	竈	人為	土師器(坏, 甕), 須恵器(甗, 甕), 支脚, 紡錘車	7世紀前葉
321	I13i0	N-4°-W	[方形]	[4.72×4.54]	不明	平坦	-	4	1	-	1	炉	-	土師器(高坏, 埴, 甗)	4世紀末
323	H12h8	N-15°-W	[方形・長方形]	8.34×(7.14)	26~50	平坦	一部	3	-	-	1	-	自然	土師器(坏), 砥石, 紡錘車	7世紀前葉
324	H12i9	[N-7°-W]	[方形]	[5.8×5.8]	20	平坦	-	2	1	5	-	炉	人為	土師器(高坏, 鉢, 甕, 甗)	5世紀後葉
327	I12b9	N-15°-E	方形	3.4×3.25	7~12	平坦	全周	2	-	2	1	炉2	人為	土師器(高坏, 埴, 甕), 砥石	5世紀中葉
329	I12b0	N-28°-W	方形	7.52×7.52	-	平坦	ほぼ全周	4	1	6	-	竈	-	土師器(坏)	6世紀前葉
330	I13a2	N-28°-W	長方形	7.96×6.96	-	平坦	全周	4	-	3	-	竈	-		6世紀後葉
332	H13i2	N-17°-E	[長方形]	(4.40)×3.92	15	平坦	一部	-	-	-	1	炉	人為	土師器(小形甕, 甕, 紡錘車)	4世紀後半
334	H12h0	N-9°-E	[方形]	3.15×[3.10]	0	平坦	-	4	-	-	-	-	不明		5世紀中葉以前
336	H13i4	N-77°-W	[長方形]	[3.96×1.74]	-	[平坦]	-	-	-	1	-	-	-	土師器(甕, 小形甕)	6世紀前葉
340	H13g6	N-15°-W	方形	9.56×9.36	16	平坦	一部	2	-	6	-	竈	人為	土師器(坏)	6世紀後葉
341	H13j7	-	-	(2.0)×(1.45)	30	平坦	一部	1	-	-	-	-	自然		7世紀中葉~後葉
350	I14e1	N-13°-W	[方形]	4.8×4.5	4~6	平坦	一部	3	1	-	-	-	-	土師器(埴, 高坏, 甕)	4世紀末
351	I14d1	N-18°-W	方形	5.50×5.05	10~18	平坦	1/2	4	-	-	1	竈	不明	土師器(坏, 手捏土器)	6世紀後葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設					覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)	
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口				炉・竈
352	I 13d9	N-0°	方形	6.80×6.30	10	平坦	一部	4	-	-	-	竈	人為	土師器(坏, 甕)	7世紀前葉
354	I 14g3	N-10°-W	[方形]	7.3×(3.0)	5~18	平坦	-	3	-	1	-	-	不明	土師器(甕), 砥石	5世紀中葉
357	I 13g7	N-11°-W	方形	6.05×5.60	5	平坦	全周	4	-	5	-	炉	不明	土師器(坏)	6世紀初頭
358	I 13f0	N-8°-W	方形	9.5×9.5	2~6	平坦	一部	4	-	2	2	炉	不明	土師器(坏, 甕), 砥石, 管玉, 土玉	6世紀前葉
359	I 14e3	N-4°-W	方形	6.3×5.6	12	平坦	一部	4	1	-	-	竈	不明	土師器(坏, 甕)	7世紀前葉
360	J 14d2	N-5°-W	[長方形]	(4.07)×3.70	8	平坦	-	3	-	1	-	竈	自然		6世紀中葉
361	I 14e2	N-6°-W	長方形	5.45×4.92	10~25	平坦	全周	4	-	-	2	竈	人為	土玉	6世紀後半
363	I 14f2	N-15°-W	[方形]	(4.5×3.5)	8~14	平坦	-	4	-	2	-	-	人為	土師器(坏, 碗)	5世紀後葉
364	I 14g4	N-0°	[方形・長方形]	4.00×(2.31)	12	平坦	一部	-	-	-	-	炉	人為	土師器(高坏, 罌, 小形壺)	5世紀中葉
365	I 14i3	N-15°-W	方形	5.00×5.00	10~23	平坦	全周	4	1	2	1	-	人為	土師器(甕, 甌), 支脚, たたき石	6世紀前葉
367	I 14i4	N-5°-W	不明	3.74×(1.14)	20	平坦	-	-	1	1	-	-	人為	土師器(高坏, 甕)	4世紀後半
368	I 14h2	N-9°-W	長方形	5.40×4.80	2~7	平坦	-	2	-	-	-	-	不明	土師器(罌, 小形甕, 甕), 砥石	4世紀中葉
370	J 14a2	N-0°	[方形]	[4.16×3.98]	不明	平坦	-	4	-	-	-	-	不明	土師器(高坏)	5世紀前半
372	J 14b3	N-5°-W	方形	4.90×4.87	13~23	平坦	全周	3	-	1	-	竈	人為	土師器(碗), 須恵器(フラスコ形瓶)	7世紀後葉
374	J 13a8	N-18°-W	方形	6.90×6.70	8	平坦	全周	4	1	2	1	炉2	不明	土師器(甕, 壺), 砥石	4世紀中葉
375	I 13h9	N-6°-W	方形	6.5×5.8	14~20	平坦	全周	4	-	11	2	竈	人為	土師器(坏, 甕), 鉄鏝	6世紀後葉
376	I 14j2	N-0°	方形	4.37×4.28	15	平坦	-	4	-	1	-	炉	不明		5世紀前半
379A	I 13h6	N-5°-W	方形	3.68×3.64	8~10	平坦	3/4	4	-	1	1	竈	不明		6世紀中葉
379B	I 13h6	N-5°-W	[方形]	[4.5]×4.5	2~4	平坦	一部	2	-	-	-	竈	不明		6世紀中葉 ~後葉
381	I 13g5	N-13°-W	方形	4.33×4.28	13	平坦	全周	2	1	3	-	竈	人為	土師器(坏)	6世紀中葉
382	I 13f4	N-13°-W	方形	5.2×4.8	14~18	平坦	-	4	1	-	2	炉	人為	土師器(高坏)	4世紀後半
383	J 14d1	N-9°-W	[方形・長方形]	(1.5×1.0)	10	平坦	-	-	-	-	-	-	人為		古墳後期以前
384	I 13h5	N-4°-E	方形	6.48×6.35	2~10	平坦	一部	4	-	3	-	竈	人為	土師器(坏, 高坏, 甕)	6世紀中葉
390	J 13a7	N-3°-E	方形	4.80×4.70	5	平坦	-	4	-	2	2	[竈]	-	土師器(坏)	6世紀後半
393	J 13e9	N-35°-W	[方形]	[4.62×4.52]	10	平坦	-	2	-	-	-	炉	人為		古墳前期~ 中期
398	J 13d2	N-82°-W	[方形・長方形]	(3.0)×(2.4)	22~26	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(甕)	7世紀後半
400	J 13b7	N-90°	[方形 または 長方形]	3.48×(1.92)	4~9	平坦	-	2	1	3	-	竈	不明	土師器(坏, 小形甕, 手捏土器)	6世紀中葉
402	J 13e7	N-15°-W	方形	5.0×5.0	20	平坦	ほぼ 全周	4	-	4	-	竈	人為	土師器(甕, 甌), 手捏土器	6世紀中葉
403	J 13f9	N-13°-W	[方形・長方形]	4.45×(2.52)	40~50	平坦	-	2	-	-	-	竈	人為	土師器(坏, 甌, 甕)	7世紀前葉
405	J 13e5	N-8°-W	[方形]	5.0×(5.0)	-	平坦	-	2	-	1	-	炉	不明		5世紀代
406	J 14b2	N-9°-W	[長方形]	[6.52×5.72]	-	平坦	-	4	-	1	1	竈	不明		6世紀代
409	J 13g6	N-11°-E	方形	4.8×4.8	5~10	平坦	-	4	-	2	1	竈	人為	土師器(坏, 甕, 小形甕, 甌)	6世紀後葉
412	J 12e0	N-16°-W	方形	5.30×5.30	28	平坦	-	4	-	1	-	[竈]	不明	土師器(坏)	6世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	支柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈			
414	I 12a8	N-9°-E	[方形・長方形]	4.65×(3.16)	3	平坦	-	-	-	-	-	竈	-		6世紀前葉
415	J 12b8	N-11°-E	[方形]	[7.7]×(7.3)	5	平坦	一部	2	-	-	-	竈	人為	土師器(高坏, 甕), 紡錘車, 小玉	6世紀中葉
418	J 12i9	N-17°-W	長方形	4.40×3.10	20	平坦	-	3	-	-	-	-	不明		古墳
420	H13i7	[N-14°-E]	[長方形]	[4.90×4.40]	40	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏, 甕)	7世紀前葉
425	I 12f9	N-7°-E	方形	4.78×4.43	18~21	平坦	ほぼ全周	4	-	-	1	竈	人為	土師器(甕), 土玉, 鏝	6世紀後葉
429	K12d6	N-100°-E	[方形・長方形]	2.62×(1.63)	58	平坦	全周	-	-	-	-	炉	自然	土師器(坏)	古墳
430	K12a5	[N-17°-E]	[方形・長方形]	[4.35×3.85]	-	平坦	-	-	-	-	1	[竈]	-	土師器(坏, 小形甕)	6世紀前葉
438	K12f1	N-2°-E	[方形・長方形]	[3.45]×3.24	6	平坦	-	-	-	1	-	[竈]	不明	土師器(甕)	古墳
441	I 14f4	N-0°	[方形]	[3.0×3.0]	15~20	傾斜	-	-	-	2	-	-	-	土師器(甕), たたき石	6世紀代
443	J 13a5	N-9°-W	[方形]	[5.4×5.4]	-	平坦	-	1	-	1	-	-	-	土師器(高坏, 埴), 土玉	4世紀後葉
444	I 14d2	N-9°-W	[方形]	[3.60]×(1.20)	-	平坦	-	-	-	-	-	炉	-		4~5世紀代
447	K11g0	N-25°-W	[方形]	(3.7)×[3.6]	5	平坦	-	-	-	2	-	-	不明		6世紀後葉
448	I 13e9	N-8°-E	[方形]	[4.33×4.16]	2~13	平坦	-	1	-	3	-	竈	-		6世紀中葉~後葉
449	K11h9	N-0°	[方形または長方形]	(4.35×2.3)	10	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器(坏)	7世紀前葉
452	K11j0	N-7°-E	[方形]	(5.92×5.70)	10~20	平坦	一部	-	-	1	-	-	不明		古墳
454	J 13f8	N-21°-W	方形	5.0×5.0	10	平坦	-	4	1	-	-	炉	人為	土師器(高坏, 甕)	5世紀中葉
458	L12a2	N-9°-E	方形	6.20×5.80	5~10	平坦	全周	4	-	4	1	竈	人為	土師器(坏, 甕), 砥石	6世紀後葉
459	J 13c7	[N-0°]	[長方形]	[3.5×3.0]	-	平坦	-	-	-	-	-	炉	-		古墳中期以前
462	L11c7	N-90°-E	[方形・長方形]	4.65×(3.25)	8~14	平坦	-	2	2	2	-	東竈	人為	土師器(坏, 甕)	5世紀末~6世紀初め
463	L11c8	N-88°-E	方形	6.40×6.30	16	平坦	全周	4	-	-	1	東竈	人為	土師器(坏, 椀, 高坏, 甕), 管玉	7世紀前葉
484	E 9 a1	N-13°-W	[長方形]	(5.60)×4.87	13~30	平坦	一部	4	-	-	1	-	人為	土師器(甕)	6世紀前葉
489	E 9 c1	N-0°	[長方形]	4.95×(4.35)	17~20	平坦	全周	4	-	-	1	竈	人為	紡錘車	6世紀後葉
491	E 9 e1	N-7°-E	方形	4.63×4.50	18~25	平坦	全周	4	-	-	2	竈	人為	土師器(坏)	6世紀後葉
493	E 8 g0	N-9°-E	[方形・長方形]	5.28×4.8	15~25	平坦	-	4	1	2	1	竈	人為	土師器(坏, 甕, 鉢, 小形甕), 砥石	6世紀前葉
496	E 8 j0	N-4°-E	方形	3.28×3.04	10	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏)	古墳
508	J 12g8	N-14°-E	[方形・長方形]	4.40×(3.18)	12~17	平坦	全周	-	1	-	-	-	人為	土師器(甕)	5世紀中葉
517	J 14b4	N-4°-E	[方形・長方形]	(4.35×3.55)	24	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(甕)	6世紀代
521	F 9 a2	N-2°-W	方形	5.20×4.98	25	平坦	-	4	1	-	1	竈	人為	土師器(坏, 甕, 小形甕, 甕), 手捏土器	6世紀後葉
523	F 9 a1	N-12°-W	[方形・長方形]	3.45×(1.2)	5~10	平坦	-	-	-	-	-	炉	不明		古墳中期以前
532	G13j6	N-0°	方形	3.4×3.4	8~15	平坦	-	-	-	3	-	-	人為	土師器(坏)	7世紀代

表4 奈良・平安時代住居跡一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈			
3	F14d0	N-8°-E	[方形・長方形]	3.2×(3.0)	20	平坦	[全周]	-	-	1	-	-	人為	土師器(甕), 灰釉陶器(長頸瓶・短頸壺)	10世紀前葉
4	F14d9	N-8°-E	方形	3.9×3.6	10~18	平坦	-	-	-	1	-	東竈	人為	土師器(坏), 須惠器(甌)	10世紀中葉
5	F14e0	N-88°-E	方形	3.2×3.0	12~14	平坦	-	2	-	-	-	竈	人為	土師器(坏・高台付椀・甕)	10世紀後葉
10	F14g0	N-105°-E	長方形	4.9×4.6	2~10	平坦	-	-	-	3	-	竈	人為	土師器(坏・高台付椀)	10世紀後葉
11	F15g1	N-3°-E	方形	2.7×2.6	22~30	平坦	一部	-	-	2	-	竈	人為	土師器(坏・高台付坏・鉢・甕)	10世紀中葉
12	F15g1	N-5°-E	方形	2.9×2.9	40	平坦	-	-	-	3	-	竈	人為	土師器(坏・甕), 須惠器(坏・高台付坏), 管状土錘	9世紀後葉
17	F14g6	N-0°	[方形・長方形]	5.0×(2.7)	44~55	凹凸	[全周]	-	-	3	-	-	人為	須惠器(坏・盤・蓋), 刀子	9世紀前葉
18	F14i6	N-90°-E	方形	3.0×2.9	10	平坦	一部	-	-	1	-	竈	人為	土師器(高台付椀), 須惠器(甕), 鉄鏃, 刀子	10世紀中葉
19	F14i7	N-110°-E	方形	3.78×3.76	6~16	平坦	全周	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏・高台付椀・甕・置き竈), 砥石, 金環, 紡錘車, 飾り金具	9世紀末~10世紀初頭
21	G14a6	N-11°-E	長方形	5.4×4.5	30~36	平坦	全周	4	-	-	-	竈	人為	須惠器(坏・高台付坏・高盤・盤), 紡錘車, 鉄鏃, 砥石	8世紀後葉
23	G14a9	N-4°-E	方形	3.8×3.7	26~38	平坦	一部	3	-	6	1	竈	人為	土師器(甌), 須惠器(坏), 紡錘車	8世紀前葉
25	F14i9	N-2°-E	長方形	3.6×2.7	6	平坦	一部	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(高台付椀)	10世紀中葉
26	G14b8	N-98°-E	長方形	3.6×3.3	5~12	平坦	一部	3	-	-	1	東竈	人為	土師器(高台付椀), 砥石	10世紀後葉
28	G14c0	N-102°-E	方形	3.6×3.5	3~6	平坦	一部	-	-	2	-	東竈	人為	土師器(高台付椀)	10世紀後葉
29	G14c8	N-92°-E	長方形	3.6×3.2	8~16	平坦	一部	-	1	1	-	竈	人為	土師器(高台付椀), 緑釉陶器(椀)	10世紀中葉
33	G14g9	N-90°-E	方形	2.6×2.4	6	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(坏・小皿), 砥石	10世紀中葉
34	F14h6	N-78°-E	[方形・長方形]	(2.6×1.9)	12	平坦	-	-	-	1	-	東竈	人為	土師器(高台付坏)	9世紀後葉
39	G14e4	N-96°-E	長方形	3.5×2.6	4~18	平坦	-	-	-	1	1	東竈	人為	土師器(坏・高台付椀)	10世紀後葉
40	G14d3	N-107°-E	方形	3.1×3.1	4~12	平坦	-	-	-	1	-	東竈	人為	土師器(高台付椀・甕), 緑釉陶器(椀), 砥石	10世紀後葉
41	G14c3	N-90°-E	方形	3.2×3.0	20	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(高台付椀・甕)	9世紀中葉
42	G14f4	N-86°-E	[方形]	[2.7×2.7]	-	平坦	-	-	-	-	1	東竈	不明		10世紀後葉
43	G14e3	N-5°-E	長方形	4.9×4.4	10	平坦	一部	-	-	1	-	竈	人為	土師器(坏・甕・甌), 灰釉陶器(椀), 砥石	10世紀前葉
44	G14f3	N-6°-E	方形	3.3×3.1	14	平坦	-	-	-	1	-	竈	人為	土師器(坏・高台付椀・皿), 砥石	10世紀中葉
46	G14f4	N-55°-E	長方形	5.0×4.1	8	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(高台付椀)	10世紀中葉
55	F14f8	N-97°-E	長方形	2.8×2.3	10	平坦	-	3	-	-	-	竈	人為	土師器(坏・高台付椀・甕)	10世紀中葉
63	G14i1	N-4°-W	[長方形]	[2.42×2.16]	14	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏・高台付椀・甕)	10世紀中葉
66	G14i3	N-90°-E	[方形]	[2.34×2.31]	5~10	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(坏)	10世紀後葉
70	G14g1	N-105°-E	[方形]	[2.52×2.40]	-	平坦	-	-	-	-	-	東竈	-	土師器(坏)	10世紀後葉
72	G13h0	N-4°-E	方形	4.42×4.35	24	平坦	ほぼ全周	2	-	2	1	竈	人為	土師器(坏・鉢・小形甕・甕), 須惠器(高台付皿)	9世紀後葉
73	G14i1	N-83°-E	長方形	2.66×2.27	6~13	平坦	一部	-	-	1	-	東竈	自然	土師器(坏)	10世紀後葉
77	G14h1	N-9°-E	[長方形]	[4.30×3.80]	-	平坦	-	4	-	-	1	竈	自然	須惠器(坏), 鉄鏃	9世紀中葉
81	H14c7	N-18°-E	[方形・長方形]	-	9	平坦	-	2	-	2	-	-	-		10世紀以前

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈			
85	H14c7	N-12°-E	[方形・長方形]	3.82×(3.12)	42	平坦	-	3	-	1	-	-	自然	土師器(坏・小皿)	10世紀後葉
90	H14d6	N-98°-E	長方形	3.41×2.87	38	平坦	-	4	-	-	-	東竈	自然	土師器(高台付椀・甕)	10世紀中葉
91	H14i3	N-74°-W	長方形	2.97×2.51	19~25	平坦	-	-	-	1	-	-	人為		
92	H14i3	N-17°-E	方形	2.75×2.6	22~27	平坦	-	-	-	2	-	-	人為	土師器(坏), 砥石	
93	H14h2	N-79°-W	長方形	4.73×3.90	7~36	平坦	-	-	-	3	-	-	人為	土師器(高台付椀)	11世紀前半
95	H14d4	N-18°-E	[長方形]	[3.69×2.97]	5	平坦	-	-	-	-	-	-	人為		
98	G14d1	N-94°-E	長方形	3.55×2.75	24	平坦	ほぼ全周	1	-	-	-	東竈	自然	土師器(坏・高台付椀)	10世紀中葉
100	G14e1	N-10°-E	長方形	4.08×3.03	16~25	平坦	ほぼ全周	-	-	1	1	竈	自然	土師器(坏・高台付椀・甕・小形甕), 灰釉陶器(高台付椀)	10世紀中葉
101	G13d0	N-95°-E	方形	4.5×4.2	20~30	平坦	一部	2	-	1	-	東竈	人為	土師器(坏・甕), 須恵器(坏・皿), 紡錘車, 刀子, 砥石	9世紀中葉
102	G13b0	N-9°-E	方形	4.3×4.3	10	平坦	-	-	-	-	-	竈	不明	土師器(坏), 球状土錘, 紡錘車, 刀子	10世紀前葉
106	G13b8	N-99°-E	[長方形]	[3.57×2.95]	-	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(高台付椀), 須恵器(甕), 平瓦, 紡錘車	10世紀後葉
107	G13c8	N-4°-E	長方形	[4.8×4.2]	37	平坦	半周	-	-	-	-	竈	自然	土師器(高台付坏), 須恵器(坏・提瓶・甕)	9世紀後葉
115	G14f2	N-102°-E	長方形	3.33×2.74	8	平坦	-	-	-	-	-	東竈	自然	土師器(高台付椀)	10世紀後葉
120	G13j8	N-2°-E	方形	3.47×3.39	13~20	平坦	ほぼ全周	4	-	-	1	北竈	人為	須恵器(高台付坏・蓋)	9世紀前葉
122A	H13b9	N-95°-E	長方形	3.26×3.0	13~20	平坦	-	-	-	-	1	東竈	人為	土師器(坏・甕), 須恵器(坏), 砥石, 鎌	9世紀後葉
122B	H13b9	N-8°-E	方形	3.2×3.0	30	平坦	-	-	1	1	1	北竈	人為	土師器(小形甕・甕)須恵器(坏・高台付坏・鉢)	9世紀中葉
127	G13a7	N-8°-E	[方形]	[3.58×3.46]	16	平坦	[全周]	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・高台付坏), 平瓦, 球状土錘, 砥石, 鉄鏝	10世紀後葉
128	H13h0	N-100°-E	長方形	3.72×3.33	7~17	平坦	ほぼ全周	4	-	-	1	東竈	人為	土師器(坏・高台付椀)	11世紀前半
130	H13f8	N-102°-E	方形	3.41×3.17	3~7	平坦	-	4	-	-	1	北竈	人為	須恵器(高台付坏)	9世紀中葉
131	H12j8	N-10°-E	不明	(3.66×1.3)	10	平坦	-	2	-	-	1	-	人為	土師器(高台付椀・甕), 不明鉄製品	10世紀後葉
133	H13i0	N-7°-W	不明	[4.3]×(1.7)	18	平坦	-	-	-	1	-	-	人為	土師器(高台付椀), 灰釉陶器(高台付椀)	10世紀後葉
134	H13e5	N-97°-E	[方形]	[3.54×3.39]	-	平坦	-	-	-	-	-	東竈	-		10世紀中葉以降
135	H13f4	N-14°-E	方形	3.46×3.40	-	平坦	全周	-	-	2	-	北竈	-	土師器(坏・三足鍋)	10世紀前葉
148	H13a6	N-12°-E	方形	3.63×3.34	23	平坦	一部	3	-	4	1	北竈	人為	土師器(坏・蓋・鉢), 須恵器(坏・高台付坏)	9世紀後葉
149	H13a7	N-71°-E	長方形	4.02×3.26	10	-	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(坏・高台付椀), 支脚	10世紀中葉
150	G13j7	N-90°-E	長方形	4.37×3.02	10~20	平坦	-	3	-	-	1	東竈	人為	土師器(坏・高台付椀・小皿), 砥石	10世紀後葉
158A	G13i2	N-9°-E	長方形	3.52×2.72	16~23	平坦	ほぼ全周	-	-	2	-	北竈	人為	土師器(坏・高台付椀)	10世紀中葉
158B	G13i2	N-95°-E	長方形	3.50×2.70	16~23	平坦	ほぼ全周	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(坏・高台付椀)	10世紀後葉
160	G13i1	N-97°-E	長方形	3.90×3.46	16	平坦	一部	-	-	1	-	東竈2	人為	土師器(高台付椀・小皿・甕・手捏土器)	11世紀前半
164	G13f4	N-107°-E	長方形	3.27×2.63	20~24	平坦	-	3	-	3	1	東竈	人為		10世紀後葉
165	G13h4	N-14°-E	方形	2.29×2.15	15	平坦	一部	1	-	-	-	北竈	人為	土師器(高台付椀)	10世紀中葉
166	G13f4	N-96°-E	[方形]	[2.45×2.30]	5	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(坏・置き竈)	10世紀中葉
169	G13a3	N-100°-E	長方形	3.60×2.80	24	平坦	一部	2	-	-	-	東竈	人為	土師器(坏・小形甕・甕・置き竈), 砥石	10世紀中葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈			
170	G13d4	N-4°-E	[方形]	[3.57×3.46]	10	平坦	一部	-	-	-	-	北竈	人為	土師器(坏・甕)	9世紀後葉
171	G13a6	N-8°-E	方形	3.52×3.23	44	平坦	一部	-	1	-	-	北竈	人為	土師器(坏・高台付碗・甕), 須惠器(坏)	10世紀前葉
172	G13d4	N-94°-E	[方形]	[2.64×2.47]	-	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(坏・高台付碗)	10世紀中葉
173	F13j6	N-9°-E	長方形	3.40×3.0	16	平坦	一部	-	-	-	-	北竈	人為	土師器(坏・碗), 須惠器(小瓶)	10世紀後葉
174	G13c4	N-118°-E	方形	3.40×3.20	10	平坦	-	-	-	1	-	東竈	人為	土師器(高台付碗), 紡錘車, 石突	10世紀中葉
175	G13f3	N-11°-E	方形	2.26×2.08	14	平坦	-	1	-	-	1	北竈	人為	土師器(高台付碗・甕), 須惠器(坏・甕), 灰釉陶器, 支脚	10世紀中葉
177	G13d3	N-44°-E	[長方形]	[2.60×2.20]	4	平坦	-	-	-	-	-	北竈	人為		
178	G13d6	N-4°-E	長方形	4.16×3.77	40	平坦	ほぼ 全周	2	-	-	1	北竈	人為	土師器(坏・高台付皿・甕), 須惠器(坏・ 長頸瓶), 鉄製品	10世紀前葉
179	G13c6	N-13°-E	方形	3.55×3.28	16~24	平坦	半周	3	-	1	1	北竈	人為	土師器(坏), 須惠器(坏・盤・短頸壺・甌・ 広口壺), 刀子, 鉄鉗	9世紀中葉
180	G13c4	N-100°-E	長方形	4.04×3.30	15	平坦	-	-	-	2	-	東竈	人為	土師器(小皿・甕), 須惠器(高台付坏), 灰 釉陶器	10世紀後葉
183	G13d3	N-110°-E	長方形	4.20×2.80	-	平坦	一部	1	-	-	-	東竈	-	土師器(坏・碗・高台付碗), 砥石, 釘	10世紀中葉
184	G13b2	N-85°-E	長方形	5.02×3.28	-	-	ほぼ 全周	-	-	-	-	東竈	-	土師器(小形甕), 須惠器(坏)	8世紀前葉
185	G13b2	N-11°-W	長方形	3.20×2.78	10~19	平坦	-	-	-	-	-	北竈	人為	土師器(手捏土器)	8世紀後葉
186	G13d4	N-120°-E	[長方形]	[2.13×1.85]	-	-	-	-	-	-	-	東竈	-	不明鉄製品	10世紀後葉
191	G13a6	N-1°-W	長方形	3.21×2.76	36	平坦	半周	-	-	-	-	北竈	人為	土師器(坏・高台付碗・小皿・三足鍋カ), 須惠器(甌)	10世紀中葉
199	F13j2	N-12°-E	方形	3.31×3.04	36	平坦	ほぼ 全周	-	-	3	-	北竈	-	須惠器(盤)	9世紀前葉
201	G12a9	N-4°-E	[長方形]	[3.96×3.50]	24	平坦	一部	-	-	1	-	北竈	人為	土師器(坏・高台付碗)	10世紀中葉
202	F12j0	N-10°-E	[長方形]	[2.90×2.40]	-	-	-	-	-	-	-	-	人為		
203	G12c9	N-8°-E	長方形	5.20×4.80	16	平坦	一部	-	-	-	-	北竈	人為	須惠器(坏・蓋)	8世紀前葉
204	G12c9	N-9°-E	[長方形]	[4.10×3.07]	-	平坦	-	-	-	-	-	北竈	人為	土師器(坏・高台付碗・高台付皿・甕), 刀 子	10世紀中葉
205	G12c8	-	[方形]	3.80×3.70	20	平坦	-	1	-	-	-	-	人為	紡錘車, 砥石	8世紀代
206	F13i4	不明	不明	(3.73×0.69)	20	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	須惠器(高台付碗), 刀子	10世紀中葉
207	G12c9	N-8°-E	長方形	4.90×4.12	20~34	平坦	全周	4	-	5	1	北竈	人為		8世紀中葉
210	G13d1	N-103°-E	長方形	3.70×2.90	5~15	平坦	ほぼ 全周	-	-	4	-	東竈	人為	土師器(坏・甕)	10世紀中葉
211	G13g1	N-95°-E	[方形]	[2.50×2.40]	-	-	-	-	-	-	-	東竈	-	土師器(坏・甕), 不明鉄製品	10世紀中葉
212	G13f2	N-16°-E	長方形	3.28×2.90	28~36	平坦	-	-	-	2	1	北竈	人為	土師器(坏・小形甕・甕・三足鍋カ), 須惠 器(坏), 紡錘車	9世紀中葉
213	G13g1	N-0°	方形	4.15×3.97	8~35	平坦	ほぼ 全周	4	-	2	-	1	人為	土師器(坏, 鉢)	9世紀後葉
214	G13g1	N-14°-E	長方形	3.50×2.65	18~24	平坦	全周	-	-	-	1	北竈	人為	須惠器(捏鉢・鉄鉢形土器), 揚げ砥石	9世紀中葉
215	H12d0	N-8°-W	長方形	2.35×1.88	8	平坦	-	-	-	-	-	北竈	人為	土師器(高台付碗)	10世紀後葉
217	G12e9	N-90°-E	長方形	4.00×3.25	17	平坦	-	2	1	-	-	東竈	人為	土師器(坏・小皿・高台付碗・小形甕・甕・ 三足鍋カ)	10世紀中葉
218	G12e9	N-90°-E	長方形	3.01×2.60	15	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(甕), 須惠器(坏・高台付坏・鉢)	9世紀中葉
219	G13f2	N-9°-E	長方形	3.69×2.90	20	平坦	一部	-	-	1	-	北竈	人為	紡錘車, 鉄鎌	9世紀前葉
220	G13h1	N-7°-E	[長方形]	[3.97×2.52]	16	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器(高台付碗)	10世紀後葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	支柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈			
221	G12h8	N-7°-E	方形	6.05×5.90	26	平坦	全周	4	-	2	1	竈	人為	土師器(甕・甔), 須惠器(坏・蓋), 砥石	8世紀前葉
222	G12h8	N-4°-E	長方形	3.80×3.44	14	平坦	一部	1	-	-	1	竈	人為	土師器(高台付椀・小皿), 土玉	11世紀前半
223	G12i0	N-115°-E	方形	3.45×3.05	27	平坦	一部	3	-	3	1	竈2	人為	須惠器(坏)	9世紀前葉
224	G13h1	N-111°-E	長方形	3.20×2.56	10~15	平坦	-	-	-	-	-	東竈	自然	土師器(高台付椀・小皿)	11世紀前半
225	G13i1	N-99°-E	[方形・長方形]	2.62×(0.60)	15	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為		10世紀中葉
226	G13j1	N-84°-E	方形	2.93×2.92	16	平坦	一部	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(高台付椀・小形甕), 円筒埴輪	11世紀前半
230	G12h8	N-87°-E	[長方形]	3.20×2.74	8~25	平坦	一部	4	-	2	1	東竈	人為	土師器(坏・高台付椀・小皿)	10世紀後葉
234	G12j9	N-8°-E	長方形	3.70×3.30	15	平坦	一部	-	-	4	1	竈	人為	土師器(坏・高台付椀・甕), 灰釉陶器, 鉄鏃, 棒状金具	10世紀前葉
235	G13j1	N-101°-E	[長方形]	3.14×2.42	12	平坦	[全周]	-	1	-	-	東竈	人為	土師器(高台付椀)	10世紀後葉
241	H12d0	N-85°-E	[長方形]	[4.80×4.00]	18~22	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(坏・高台付坏), 須惠器(甕)	10世紀前葉
244	H12c6	N-98°-E	[方形・長方形]	4.15×[3.50]	6	平坦	一部	-	-	-	-	-	-		10世紀後葉以前
246	H12e5	-	-	(2.20×0.80)	16	平坦	-	1	-	2	-	竈	-	土師器(坏)	9世紀後葉
247	H12d6	N-98°-E	長方形	4.70×3.70	12	平坦	一部	-	-	6	-	東竈	自然	土師器(高台付坏・小皿)	10世紀後葉
251	H12a7	N-94°-E	[方形]	[2.70×2.70]	10	平坦	-	-	-	-	-	東竈	自然	土師器(高台付椀)	10世紀後葉
254	G12h6	N-100°-E	[長方形]	[3.47×2.70]	-	平坦	-	-	-	-	-	東竈	-	土師器(坏・高台付椀)	10世紀中葉
255	G12h6	N-8°-W	[方形]	3.34×3.18	23	平坦	一部	-	-	1	-	竈	人為	土師器(高台付坏)	9世紀後葉
256	G12h6	N-0°-E	[長方形]	[3.60×3.03]	-	平坦	-	4	-	1	1	竈	人為	土師器(坏・高台付椀), 不明鉄製品	10世紀後葉
257	G12f7	N-8°-E	長方形	4.98×3.75	30~38	平坦	全周	4	-	-	1	竈	人為	土師器(甕・甔), 須惠器(坏・甕), 緑釉陶器, 軒丸瓦, 丸瓦, 平瓦, 砥石	8世紀中葉
259	H12c5	N-2°-E	[長方形]	[3.10×2.70]	16	平坦	-	4	-	-	-	-	人為		
262	G12a0	N-3°-E	方形	3.60×3.60	2~27	平坦	-	-	-	1	1	竈	人為	須惠器(坏・高台付坏)	8世紀中葉
264	F12j9	N-15°-E	長方形	5.36×4.30	7~35	平坦	全周	4	-	-	1	竈	自然	須惠器(蓋・甕), 刀子, 不明銅製品	8世紀中葉
265	F12i0	-	不明	不明	-	平坦	-	-	1	-	-	-	-	土師器(坏・小形甕・甕), 須惠器(坏), 灰釉陶器, 不明鉄製品	9世紀後葉
266	G12j7	N-15°-W	長方形	3.60×3.00	18	平坦	-	-	-	2	-	-	人為	土師器(小皿)	11世紀前半
267	F12h8	N-19°-E	方形	3.52×3.48	25~30	平坦	全周	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏・高台付坏・鉢・甕), 須惠器(坏・甕), 灰釉・緑釉陶器, 刀子	10世紀前葉
269	G13f8	N-104°-E	長方形	3.48×2.36	5~17	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(坏・高台付坏・鉢・甕), 須惠器(坏)	9世紀後葉
270	F12h8	N-5°-W	方形	4.22×3.90	28	平坦	一部	2	-	-	-	竈	人為	土師器(甕), 須惠器(坏・高台付坏・蓋・甕), 灰釉陶器, 鉄鏃, 鏃, 釘	9世紀前葉
272	F12h7	N-135°-E	方形	[3.12]×2.87	20	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(高台付椀・甕)	10世紀後葉
275	F12h7	N-0°	[方形]	[3.07]×2.88	-	平坦	一部	-	-	1	-	竈	-	須惠器(甕)	8世紀中葉
279	G12d5	N-40°-W	[長方形]	[4.80×3.52]	-	平坦	-	-	-	1	-	竈	-	土師器(坏・高台付椀・小皿・甕), 羽口	11世紀前半
280	G12f2	N-102°-E	[方形・長方形]	3.61×(3.20)	45	平坦	一部	-	-	3	-	東竈	人為	土師器(坏・甕・甔・手捏土器), 須惠器(長頸瓶・甕)	10世紀後葉
284	G12g5	N-3°-W	長方形	4.23×3.60	20	平坦	全周	4	-	2	-	竈	人為	土師器(坏・高台付椀・甕), 灰釉陶器	10世紀後葉
285	G12g5	N-90°-E	方形	3.5×3.45	16~20	平坦	[全周]	-	1	3	-	竈2	人為	土師器(坏・高台付坏・甕), 緑釉陶器, 紡錘車	10世紀中葉
286	G12h4	N-24°-E	長方形	3.54×3.20	8	平坦	-	-	-	2	-	竈	人為	土師器(坏・高台付椀・鉢・甕), 須惠器(坏・甕), 紡錘車	10世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	主柱穴	貯藏穴	ピット	入口	炉・竈			
288	G12h2	N-107°-E	方形	3.98×3.88	15	平坦	-	2	1	-	1	竈	人為	土師器(坏・高台付坏・甕), 灰釉陶器	9世紀中葉
292	H12c2	N-7°-E	方形	[3.90×3.70]	16~18	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏・高台付坏・鉢・小形甕・甕), 土錘, 紡錘車, 釘	9世紀後葉
295	H12c3	N-0°	[長方形]	[3.84×3.00]	-	平坦	-	-	-	2	-	竈	-	土師器(小形甕)	9世紀後葉
296	I14f3	N-96°-W	方形	2.50×2.50	-	平坦	一部	4	-	-	1	西竈	-		10世紀後半
299	H12d4	N-95°-E	[長方形]	(3.56)×3.38	14~20	平坦	一部	-	-	2	-	東竈	人為	土師器(高台付碗・小皿)	10世紀後葉
301	H12g4	N-60°-E	[方形・長方形]	[3.00×1.25]	20	平坦	-	-	-	-	-	東竈	自然	土師器(坏・甕), 丸瓦	9世紀後葉
303	H12h5	N-0°	長方形	[3.90]×2.40	30	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(高台付碗・小皿), 緑釉陶器, 紡錘車	11世紀前半
306	H12g6	N-9°-E	[方形・長方形]	4.65×(3.95)	35	平坦	[全周]	4	-	-	1	竈	人為	須惠器(坏・高台付坏・蓋・短頸壺), 緑釉陶器, 刀子	8世紀後葉
311	I12b7	N-70°-E	[方形・長方形]	2.80×(1.40)	30	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(甕), 須惠器(甕), 平瓦	9世紀後葉
317	I12g9	N-5°-E	方形	4.00×3.95	8~23	平坦	[全周]	4	-	-	-	竈	人為	土師器(小形甕・甕), 須惠器(盤・壺・甕), 土錘, 刀子	9世紀中葉
319	H12c0	N-98°-E	方形	2.54×2.36	10	平坦	-	3	-	-	-	東竈	自然	土師器(坏)	10世紀中葉
320	H12h9	N-96°-E	[方形・長方形]	[3.32×2.26]	4~20	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏・甕)	10世紀中葉
325	H12i9	N-20°-W	[方形・長方形]	[3.04×2.76]	10	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏)	10世紀中葉
328	I13c1	N-37°-W	長方形	3.81×3.36	24	平坦	全周	-	-	-	1	竈	人為		10世紀中葉
331	H13j8	N-10°-E	[方形・長方形]	[2.15×2.00]	6	平坦	-	-	-	-	-	-	-	土師器(甌), 砥石	10世紀前葉
342	H13j7	N-25°-E	長方形	4.00×3.10	5~10	平坦	一部	-	-	2	-	竈	-	土師器(坏), 灰釉陶器	9世紀後葉
344	I13a8	N-94°-E	長方形	3.75×2.59	7~14	平坦	全周	-	-	2	1	東竈	人為	土師器(坏)	10世紀中葉
345	H13i9	N-77°-W	[方形・長方形]	3.86×(2.15)	20	平坦	-	-	-	1	1	東竈	自然	須惠器(坏・高台付坏・短頸壺・蓋)	9世紀中葉
346	H12h7	N-3°-W	方形	2.59×2.48	17	平坦	一部	-	-	2	1	竈2	人為	土師器(坏・高台付碗)	10世紀後葉
347	I13d0	N-6°-E	長方形	3.39×2.51	16	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器(坏)	10世紀前葉
355	I13e8	N-2°-E	[長方形]	[3.65]×2.33	8	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏), 灰釉陶器	10世紀前葉
362	I14g2	N-92°-E	方形	3.30×3.30	15	平坦	-	4	-	-	-	東竈	自然	土師器(坏・高台付碗・耳皿・小形甕・甕), 砥石	10世紀中葉
366	I14i4	N-6°-W	長方形	3.20×2.93	7	平坦	-	4	-	-	1	竈	-	土師器(坏・小形甕)	9世紀前葉
371	J14a1	N-6°-E	[方形]	[3.46×3.44]	20	平坦	一部	-	-	-	-	竈	人為	須惠器(坏)	10世紀中葉
377	I14d3	N-4°-E	[方形・長方形]	(2.95×0.72)	23~33	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(甕), 須惠器(坏)	8世紀後葉
378	I13i9	N-110°-E	[長方形]	[3.50×2.85]	10	平坦	一部	-	-	-	-	東竈	人為	土師器(坏)	10世紀後葉
380	I13g6	N-100°-E	[長方形]	[3.23]×2.70	3~5	平坦	一部	-	-	2	-	東竈	不明	土師器(高台付碗)	10世紀後葉
385	I13h3	N-4°-W	長方形	5.20×3.55	32	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	須惠器(坏・甕)	8世紀前葉
386	I13j4	N-11°-E	方形	3.67×3.67	15~25	平坦	一部	4	-	-	-	竈	人為	須惠器(坏・高台付坏), 鉄鏝	9世紀中葉
387	J13a4	N-14°-E	方形	4.20×4.00	28	平坦	-	4	-	-	1	竈	人為	土師器(坏・小形甕), 須惠器(坏)	8世紀中葉
388	J13c5	N-0°	方形	4.18×3.77	20~31	平坦	-	4	-	4	1	竈	人為	土師器(碗), 須惠器(高台付坏・蓋)	8世紀中葉
391	I13e5	N-92°-E	長方形	4.27×3.64	34	平坦	一部	3	-	1	1	東竈	人為	土師器(坏・高台付坏・鉢・甕), 砥石	9世紀中葉
392	I13b7	N-3°-E	方形	3.90×3.80	20	平坦	-	4	-	1	1	竈	人為	須惠器(坏)	9世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈			
394	J 13d9	N-9°-W	[方形・長方形]	4.60×(2.10)	17	平坦	一部	-	-	1	-	竈	人為	土師器(坏・高台付椀), 管状土錘	10世紀前葉
396	J 14d1	N-8°-E	長方形	2.84×2.20	14	平坦	-	-	-	-	-	東竈	人為		10世紀後葉
397	J 14c1	N-11°-E	長方形	3.30×2.75	20	平坦	-	4	-	-	-	竈	人為	土師器(高台付椀)	10世紀中葉
399	J 13e0	N-23°-W	[方形]	(6.00×4.50)	20	平坦	一部	3	-	1	-	竈	人為	土師器(坏), 須恵器(坏), 灰釉陶器, 三足鍋, 平瓦	8世紀初頭
410	J 13e2	N-104°-E	方形	3.40×3.20	32	平坦	一部	-	-	-	1	東竈	人為	土師器(坏・高台付椀・小形甕), 管状土錘	10世紀後葉
411	J 13f1	N-94°-E	[長方形]	4.40×[3.30]	24	平坦	-	-	-	1	1	-	人為	土師器(坏)	11世紀前半
413	J 12d7	N-100°-E	[方形・長方形]	4.00×(2.41)	15	平坦	一部	1	-	2	-	東竈	人為	土師器(坏)	11世紀前半
417	J 12b0	N-12°-E	方形	3.50×3.30	16	平坦	全周	2	-	-	1	竈	自然	砥石	9世紀中葉
421	I 13j3	N-10°-E	長方形	[3.50×3.15]	32	平坦	一部	-	-	2	-	竈	人為	須恵器(坏・盤・蓋)	9世紀中葉
422	I 12h9	N-5°-E	[方形]	(3.65×3.37)	15	平坦	一部	4	-	-	1	竈	人為	須恵器(盤)	9世紀前葉
423	I 12j0	N-100°-E	[方形]	[4.30×4.00]	8	平坦	-	-	-	-	-	東竈	-		10世紀後葉
426	K 12b4	[N-110°-E]	[方形・長方形]	[3.52×3.00]	-	平坦	-	-	-	1	-	竈	-		10世紀後葉
427	K 12c5	N-10°-E	方形	3.53×3.45	14	平坦	ほぼ全周	-	-	1	-	竈	人為	土師器(坏・高台付皿), 須恵器(甕), 灰釉陶器	9世紀後半
432	I 12j0	N-100°-E	[方形]	[2.25×1.90]	18	平坦	-	-	-	1	-	-	人為	土師器(高台付坏・小皿・小形甕・甕)	11世紀前半
433	L 12c1	N-17°-E	[方形・長方形]	3.80×(1.80)	17	平坦	ほぼ全周	-	-	-	-	竈	人為	須恵器(蓋), 砥石	8世紀中葉
434	I 14f2	N-94°-E	[方形・長方形]	3.30×3.30	-	-	-	-	-	-	-	竈	-	土師器(甕), 丸瓦	10世紀後半
436	K 12e1	-	-	(2.68×1.90)	-	-	-	-	-	5	-	-	人為	土師器(坏・高台付坏), 刀子	9世紀後葉
437	K 11f0	N-105°-E	[方形・長方形]	[3.94]×(2.53)	-	平坦	-	-	-	3	-	東竈	人為	土師器(高台付椀), 門	10世紀後葉
439	K 12g1	N-4°-E	長方形	2.95×2.62	36	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏), 須恵器(坏)	9世紀中葉
445	K 12h4	N-104°-E	方形	2.91×2.81	10	平坦	-	-	1	-	-	東竈	人為	土師器(甕), 緑釉陶器	10世紀後葉
446	K 12h3	N-104°-E	長方形	3.24×2.68	23	平坦	一部	-	-	-	-	東竈	自然	須恵器(坏・長頸瓶)	9世紀中葉
450	K 11i9	N-100°-E	[方形・長方形]	3.66×(1.18)	10	平坦	一部	-	-	1	-	東竈	人為	土師器(坏・高台付椀・小皿・甕), 緑釉陶器, 刀子, 平瓦	10世紀中葉
451	K 11i9	N-2°-E	[方形]	[4.30×4.30]	-	-	-	3	1	1	-	竈	人為	土師器(坏・甕), 須恵器(大甕)	10世紀前葉
453	K 12i3	N-92°-E	長方形	4.44×3.37	10	平坦	一部	-	1	-	-	北・東竈	人為	土師器(高台付椀・小皿・鉢・甕), 緑釉陶器	11世紀前半
455	L 12a5	N-20°-E	[方形]	[2.40×2.36]	-	-	-	-	-	-	-	竈	-	土師器(坏)	10世紀前葉
456	J 13d0	N-77°-W	[方形]	2.90×2.70	20	平坦	-	-	-	1	1	-	人為		
460	L 11b9	N-10°-E	長方形	4.90×3.75	13	平坦	ほぼ全周	3	-	-	1	竈	人為	須恵器(坏), 羽口	8世紀中葉
464	L 12c1	N-0°	長方形	3.18×2.76	16	平坦	全周	4	-	-	1	竈	人為	須恵器(甕)	8世紀後葉
465	K 12i3	-	[方形・長方形]	3.00×(1.78)	9	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(甕)	10世紀中葉
466	K 12f4	-	-	2.93×(1.55)	57	平坦	-	2	-	1	-	-	人為	土師器(高台付椀)	10世紀中葉
470	K 12f4	-	-	4.60×(1.74)	57	平坦	-	-	-	1	-	-	人為	土師器(坏)	10世紀前葉
471	K 12f3	N-17°-E	長方形	2.75×2.16	8	平坦	-	-	-	-	-	竈	自然	土師器(坏)	10世紀前葉
472	L 12e3	N-90°-E	長方形	3.00×2.50	24	平坦	一部	-	-	3	1	竈	人為	土師器(高台付椀), 砥石	10世紀後葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈			
473	L12e1	N-6°-E	方形	2.92×2.80	7	平坦	全周	2	-	3	-	竈	自然	須恵器(坏・蓋)	8世紀後葉
477	L11f9	N-9°-E	[長方形]	[6.30×3.00]	7	平坦	-	3	-	3	1	竈	人為	土師器(坏・高台付椀・甕), 羽口	10世紀前葉
478	L11e8	N-108°-E	長方形	3.80×3.30	16~24	平坦	一部	-	-	2	1	竈	人為	土師器(坏・皿・耳皿), 紡錘車, 灰釉陶器	10世紀中葉
479	L11e8	N-96°-E	[長方形]	[5.40]×3.60	16~22	平坦	一部	-	-	5	1	竈	人為	土師器(高台付坏)	10世紀前葉
481	L11f6	N-7°-E	方形	3.60×3.20	28~40	平坦	全周	4	-	-	1	竈	人為	土師器(小形甕・甕), 須恵器(坏・高台付坏), 砥石, 鎌	8世紀後葉
482	L11g6	N-100°-E	[方形・長方形]	3.60×(1.20)	26~38	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(高台付椀カ・小皿)	10世紀中葉
483	L11d7	N-4°-E	[長方形]	3.20×(3.00)	24	平坦	一部	-	-	-	1	竈	人為	須恵器(坏・盤・有台盤)	8世紀中葉
485	E9c1	N-93°-E	[長方形]	[3.00]×2.30	5	平坦	-	-	-	-	1	竈	人為	土師器(高台付椀)	10世紀中葉
492	E9e1	N-8°-W	方形	4.40×4.40	17~48	平坦	一部	4	-	-	1	竈	人為	須恵器(坏・甕), 刀子	8世紀前葉
495	E819	N-5°-E	[方形・長方形]	6.00×(3.20)	12~44	平坦	一部	2	1	-	1	竈	人為	土師器(坏・甕)	8世紀前葉
498	E9j4	N-3°-E	[長方形]	[6.00]×3.90	20~44	平坦	一部	2	-	-	1	竈	人為	須恵器(高台付坏・盤), 砥石	8世紀中葉
499	E9i4	N-38°-E	不明	(4.20×3.90)	15	平坦	一部	-	-	3	-	-	人為	土師器(坏・手握土器), 須恵器(坏・蓋・甕)	8世紀前葉
501	I11i0	N-5°-W	[方形]	[4.00×4.00]	3~18	平坦	一部	2	-	1	-	竈	人為		10世紀中葉
502	I11i0	N-110°-E	[方形]	[4.00]×3.60	-	平坦	一部	-	1	1	-	竈	人為	土師器(坏)	10世紀前葉
503	I11i8	N-9°-E	[方形・長方形]	[3.20×1.50]	-	-	一部	-	-	1	-	竈	-	土師器(坏・高台付椀・甕), 須恵器(蓋)	10世紀前葉
504	I12i0	-	不明	(1.80×1.00)	30	平坦	-	-	-	-	-	-	-	須恵器(高台付坏)	9世紀後葉
507	H12i0	N-24°-E	[方形]	[3.00×2.85]	-	-	-	-	-	-	3	-	-	土師器(坏・甕)	10世紀前葉
513	K12b6	[N-11°-E]	[長方形]	[5.09×3.85]	-	平坦	-	4	-	-	-	竈	-	土師器(高台付椀・小皿), 緑釉陶器, 鞆羽口, 紡錘車	10世紀後葉
514	K12d7	N-13°-E	[方形・長方形]	[4.85×0.35]	80	-	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(高台付椀・皿)	11世紀前半
518	F8d0	N-14°-E	長方形	3.30×2.28	12~17	平坦	-	4	-	-	1	竈	人為	須恵器(坏・蓋)	8世紀後葉
519	F8d9	N-14°-E	[長方形]	28.5×24.0	13~28	平坦	-	-	-	-	1	竈	人為	土師器(坏・高台付坏・高台付皿・甕), 須恵器(坏・甕)	10世紀中葉
522	F9a1	N-9°-E	[長方形]	3.90×3.22	7	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏・甕), 灰釉陶器, 平瓦	9世紀後葉
524	F8a9	N-6°-E	方形	2.92×2.80	16~25	平坦	一部	-	-	-	-	竈	人為	土師器(高台付坏・甕), 須恵器(坏・甕)	10世紀中葉
525	F8a0	N-92°-E	長方形	1.71×1.52	14	平坦	-	-	-	-	-	竈	人為	土師器(坏), 灰釉陶器	10世紀後葉
526	F8d9	N-12°-E	方形	3.70×3.50	16~32	平坦	一部	-	-	-	1	竈	人為	土師器(坏・小形甕・甕), 須恵器(坏・高台付坏)	9世紀後葉
528	J14d1	N-90°-W	[長方形]	[3.20×2.70]	20	平坦	-	-	-	2	-	竈	-	土師器(高台付椀), 丸瓦	10世紀前半
529	F9a2	N-90°-E	[長方形]	[3.70×3.00]	-	平坦	-	-	-	-	-	竈	-		奈良・平安
531	G14f5	N-83°-W	[長方形]	[3.50×2.50]	30	傾斜	-	-	-	1	-	-	人為	土師器(坏), 土玉	8世紀~10世紀中葉
533	I13c0	N-19°-E	方形	3.60×3.30	8	平坦	-	-	-	2	-	-	不明	砥石	9世紀中葉

表5 方形竪穴遺構一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	F14h0	N-38°-W	[方形]	[2.4×2.2]	7	不明	平坦	不明		時期不明
2	H14b6	[N-19°-E]	[長方形]	[3.85]×2.76	4~15	不明	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	8世紀以降
3	G13a4	N-76°-E	長方形	3.59×1.94	30	外傾	平坦	人為	土師器片	10世紀中葉
4	G12e0	N-14°-W	[方形]	[2.2×2.2]	10	不明	平坦	不明		古墳時代後期
5	I13a5	N-8°-W	長方形	4.22×3.2	85	垂直	平坦	人為		5世紀後葉
6	J12e9	N-11°-E	方形	2.12×2.05	10	外傾	平坦	人為		時期不明
7	H14g6	N-48°-E	[長方形]	4.49×[3.70]	8~20	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓, 骨片	10世紀後半以降
8	G12j7	N-95°-E	長方形	2.3×1.8	28~34	外傾	平坦	人為		中世
9	F13j4	N-0°	長方形	[4.00×3.41]	10~20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 瓦片, 石製品	8世紀以降
10	I14e1	N-9°-E	[方形]	2.04×(1.56)	15	外傾	平坦	人為		7世紀代以降
11	J13g4	N-16°-W	長方形	2.9×2.0	80	外傾	平坦	人為		7世紀前葉
12	K12h4	N-88°-E	長方形	[2.65×2.20]	2	不明	平坦	人為		6世紀代

表6 掘立柱建物跡一覽表

番号	位置	主軸方向	桁×梁 (間)	規 模 (m)	面 積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁間柱間 (m)	柱 穴 (cm)					出 土 遺 物	備 考 (時期)	
								構造	柱穴数	平 面 形	長径 (軸)	短径 (軸)			深さ
1	F14i4	N-86°-E	3×2	5.10×4.20	21.4	1.70	2.10	総柱	11	円形・楕円形・ 長方形・不定形	50~ 110	42~ 90	13~ 53		古墳時代
3	G13g6	N-82°-W	3×2	4.40×3.50	15.5	1.50	1.80	総柱	12	円形・楕円形	20~ 50	10~ 40	20~ 60		平安時代以降
4	G14c5	N-55°-W	3×2	5.50×3.70	20.7	1.80	1.90	総柱	7	円形・楕円形	10	10	30~ 50		9世紀後葉
5	G13e2	N-86°-W	2×2	3.70×3.60	13.5	1.90	1.80	側柱	9	円形・楕円形	30~ 60	30~ 50	10~ 50		10世紀以降
6	I13a1	N-83°-W	5×2	10.7×5.10	55.0	2.10	2.60	総柱	14	円形・楕円形・ 不定形	100~ 190	90~ 130	30~ 50	須惠器片	9世紀中葉
7	J12c9	N-85°-W	3×2	7.50×4.70	35.3	2.50	2.40	総柱	10	方形・楕円形	120~ 220	100~ 130	50~ 90	須惠器片	9世紀中葉
8	I13e5	N-90°-E	3×2	5.10×4.00	20.4	1.70	2.00	側柱	10	円形・楕円形	40~ 110	30~ 80	20~ 70	須惠器片	9世紀中葉
9	I13f9	N-78°-W	3×2	7.00×4.60	32.2	2.30	2.30	側柱	10	円形・楕円形	80~ 100	70~ 80	30~ 70	土師器片, 灰釉陶器片	9世紀後葉
10	F8a0	N-81°-W	3×2	5.50×4.30	23.6	1.80	2.20	側柱	8	円形・楕円形	50~ 100	50~ 90	10~ 80		9世紀前葉 ~中葉
11	E9e1	N-87°-E	3×2	7.40×4.80	35.5	2.50	2.40	側柱	10	円形・楕円形	30~ 60	30~ 40	50~ 90		10世紀前半
12	E9c1	N-86°-E	3×2	7.50×4.90	36.7	2.50	2.50	側柱	9	円形・楕円形	40	40	40~ 80		10世紀前半
13	E9b2	N-85°-E	3×2	5.70×4.20	23.9	1.90	2.10	側柱	8	円形・楕円形	40~ 60	40~ 50	20~ 40	不明鉄製品	10世紀前半
14	K12e1	不明	不明	(-)×(1.8)	不明	不明	1.8~ 2.0	不明	(3)	円形・楕円形	100~ 110	80	30~ 60		9世紀中葉
16	I13f9	N-87°-W	3×2	7.20×4.90	35.3	2.40	2.50	側柱	10	円形・楕円形	70~ 100	60~ 90	10~ 50	土師器片, 管状土錘, 鉄鈴, 釘	9世紀中葉
17	H13g3	N-0°	2×2	3.70×3.70	13.5	1.80	1.80	側柱	9	円形・楕円形	50~ 80	50~ 60	20~ 70	土師器片	10世紀代
18	K12d8	N-10°-E	2×2	4.20×4.00	16.8	2.10	2.00	総柱	9	円形・楕円形	40~ 110	40~ 100	10~ 50	砥石	9世紀前葉

番号	位置	主軸方向	桁×梁 (間)	規 模 (m)	面 積 (㎡)	桁柱間 (m)	梁間柱間 (m)	柱 穴 (cm)					出 土 遺 物	備 考 (時期)	
								構造	柱穴数	平 面 形	長径 (軸)	短径 (軸)			深さ
19	K12c6	N-10°-E	2×2	4.50×3.80	17.1	2.40	2.10	総柱	8	円形・楕円形	63~110	60~90	20~60	土師器片, 須惠器片	9世紀中葉
20	K11j9	N-75°-W	3×2	7.30×4.20 (庇)12.0×8.4	30.6 100.8	2.43	2.10	四面庇	27	円形・楕円形	70~150	60~100	20~50	土師器片, 灰釉陶器片, 不明鉄製品	9世紀前葉
23	I13g0	N-85°-W	3×2	6.20×4.10	25.4	2.10	2.10	側柱	10	円形・楕円形	40~120	20~80	20~110	土師器片	9世紀前葉
24	I13f0	N-90°-E	3×2	7.10×4.00	28.4	2.40	2.10	側柱	10	円形・楕円形	60~90	50~60	30~40		9世紀中葉
25	K12c7	N-10°-W	2×2	4.40×4.00	17.6	2.40	2.10	側柱	8	円形・楕円形	50~90	50~90	10~70	土師器片	9世紀中葉
30	J13d0	N-82°-W	[3×2]	(6.70×4.80)	32.2	2.10	2.10	側柱	8	円形・楕円形	60~110	60~90	10~50	須惠器片	9世紀前葉
33	I13g6	N-87°-W	3×2	(7.80×4.80)	37.4	2.40	2.40	側柱	10	円形・楕円形	50~90	50~90	10~70		9世紀前葉
35	I14c1	N-89°-W	(3×2)	(7.80×2.40)	不明	2.40	2.40	[側柱]	(5)	円形・楕円形	90~100	90~100	10~40	土師器片, 灰釉陶器片	9世紀中葉
36	J13a0	N-82°-W	3×1	6.00×3.50	22.8	2.10	2.60	側柱	8	円形・楕円形	120	80	50~60		9世紀中葉
37	I13a1	N-83°-W	4×2	8.90×5.40	48.1	2.10	2.70	側柱	(11)	円形・楕円形	80~90	60~70	10~70		9世紀後葉
39	L12d6	N-7°-E	3×2	7.40×4.50	33.3	2.40	2.40	側柱	11	円形・楕円形	110~130	60~90	10~40	土師器片	9世紀前葉
40	I13a5	N-5°-E	3×2	6.50×4.20	27.3	2.10	2.10	側柱	8	円形・楕円形	20~70	20~60	30~60		9世紀代
41	G14b1	N-4°-W	3×2	4.70×2.80	13.2	1.50	1.10	総柱	10	円形・楕円形	30~50	30~50	30~50		平安時代以降

表7 土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	F14d9	N-75°-E	円形	0.70×0.64	20	外傾	段状	自然	土師器片, 碟	
2	F14e3	N-64°-E	不定形	1.00×0.70	18	緩斜	皿状	人為	土師器片	
3	F14i7	N-31°-E	楕円形	0.66×0.47	75	外傾	皿状	人為	土師器片, 碟	
4	F18c8	N-0°	[楕円形]	[0.90]×(0.56)	30	外傾	平坦	人為		
5	F14i7	N-0°	円形	0.62×0.62	10	外傾	平坦	不明	土師器片	古墳時代
6	F14e0	N-90°	楕円形	0.55×0.48	15	外傾	平坦	不明		
7	F14d0	N-51°-W	楕円形	0.64×0.54	14	外傾	皿状	不明		
8	F14g9	N-0°	[円形]	1.12×(0.50)	7	緩斜	皿状	人為	土師器片	
9	F15e1	N-30°-W	不定形	1.80×1.06	9	緩斜	凹凸	不明		
10	F15e1	N-84°-E	不定形	1.20×1.10	14	緩斜	凹凸	自然	土師器片	
11	F14f9	N-0°	円形	1.58×1.58	18	緩斜	凹凸	人為		
12	F14g8	不明	不明	0.60×(0.36)	36	垂直	凹凸	人為	土師器片, 碟	
13	F14g0	N-0°	円形	0.85×0.85	35	垂直	平坦	人為	土師器片	
14	F14e0	N-20°-W	長方形	[0.76]×0.70	6	垂直	凹凸	不明	土師器片	
16	F14f9	N-55°-E	[円形]	1.30×(1.00)	15	緩斜	凹凸	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
17	F14f9	N-10°-W	[楕円形]	1.16×(0.92)	18	外傾	凹凸	人為		
18	G14c0	N-85°-E	楕円形	1.30×1.12	27	外傾	皿状	人為	土師器片	
19	F14f0	N-0°	円形	0.50×0.50	6	外傾	皿状	人為		
20	F14f0	N-40°-W	[楕円形]	0.63×(0.55)	18	緩斜	皿状	人為		
21	F14f8	N-0°	不定形	0.75×(0.70)	12	緩斜	皿状	人為		
22	F15f1	N-37°-W	楕円形	0.92×0.65	25	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
23	F15f1	N-0°	不定形	1.10×1.00	18	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 黒曜石, 粘土塊	
24	F15g1	N-0°	楕円形	1.65×1.00	12	外傾	平坦	人為		
25	F15g1	N-0°	不明	0.55×(0.25)	8	外傾	凹凸	人為		
26	F14i8	N-90°	楕円形	0.53×0.48	59	垂直	皿状	人為	土師器片, 碟	
27	F14i8	N-90°	楕円形	0.50×0.37	58	垂直	皿状	人為		
28	F15h2	N-14°-W	楕円形	1.05×0.78	33	外傾	凹凸	人為		
29	F15h2	N-0°	円形	1.00×1.00	19	外傾	平坦	人為	土師器片	
30	F15h1	N-90°	楕円形	0.73×0.63	27	外傾	皿状	人為	土師器片	
31	F14i6	N-40°-E	不定形	1.15×0.84	32	垂直	平坦	人為	土師器片, 碟	
32	F14i8	N-64°-E	楕円形	1.25×0.80	18	垂直	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
33	F14h7	N-36°-W	楕円形	0.88×0.72	25	垂直	凹凸	人為	土師器片	
34	F14i7	N-40°-W	不整楕円形	0.80×0.66	13	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
35	F14g7	N-90°	楕円形	0.36×0.32	22	外傾	皿状	人為		
36	F14h7	N-51°-W	不整楕円形	0.97×0.78	12	緩斜	平坦	人為		
37	F14f0	N-0°	円形	0.50×0.50	17	緩斜	凹凸	人為		
38	G14d0	N-0°	円形	1.32×1.32	34	垂直	平坦	人為	土師器片	
39	F15g1	N-5°-E	不整楕円形	0.98×0.39	18	外傾	皿状	人為		
40	F14h7	N-90°	不定形	1.50×0.73	34	外傾	凹凸	人為		
41	F15g2	N-70°-E	[楕円形]	(0.70)×0.70	22	垂直	平坦	人為		
42	F14i8	N-0°	円形	1.75×1.75	35	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 剣形模造品	
43	F14j9	N-0°	円形	0.40×0.40	20	垂直	皿状	自然		
44	F14f9	N-52°-W	楕円形	(0.50)×0.46	5	緩斜	皿状	人為	土師器片	
45	F14j9	N-90°	長方形	2.57×1.42	24	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
46	F14j9	N-0°	円形	0.51×0.51	20	垂直	平坦	人為	土師器片, 碟, 粘土塊	
47	F15f1	N-72°-E	楕円形	1.22×0.90	30	外傾	皿状	人為		
48	G14d9	N-85°-W	長方形	2.44×1.25	60	垂直	平坦	自然	ミニチュア土器, 黒曜石, 碟	
49	F14I7	N-69°-W	不整楕円形	1.25×1.05	24	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 粘土塊	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
50	F14I7	N-33°-E	楕円形	2.00×1.08	56	外傾	段状	人為		
51	G14b0	N-90°	楕円形	1.18×0.97	13	外傾	平坦	人為		
53	G14b0	N-0°	円形	0.95×0.95	20	外傾	平坦	人為		
54	F14I0	N-0°	円形	1.71×1.71	20	垂直	平坦	人為	土師器片, 礫	
55	G14b8	N-0°	円形	0.86×0.86	20	垂直	平坦	人為		
56	G14b9	N-0°	円形	1.05×1.05	31	垂直	平坦	人為		
57	G14b0	N-0°	円形	1.09×1.09	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 礫	
58	G15b1	N-0°	円形	1.42×1.42	12	外傾	平坦	人為	土師器片	
59	F14I9	N-81°-E	楕円形	0.58×0.50	24	外傾	段状	人為		
60	F14I6	N-0°	楕円形	1.38×0.98	不明	緩斜	凹凸	不明	土師器片	
61	F14j0	N-0°	不整楕円形	0.58×0.46	30	外傾	凹凸	人為	土師器片	
62	F14I9	N-10°-W	楕円形	0.95×0.62	25	外傾	段状	自然		
63	F14I9	N-74°-E	楕円形	0.60×0.48	23	外傾	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
64	F15h2	N-0°	円形	0.40×0.40	22	外傾	凹凸	人為	土師器片, 礫	
65	G14a6	N-7°-E	隅丸方形	0.72×0.69	30	外傾	皿状	人為		
66	F14h6	N-58°-W	不整形	1.20×0.90	30	外傾	皿状	人為	土師器片(坏・高台付坏・甕), 砥石	10世紀前半
67	F14j6	N-56°-W	楕円形	0.76×0.60	24	外傾	凹凸	自然	土師器片	
68	F14j6	N-66°-W	不定形	0.61×0.43	28	垂直	凹凸	人為		
70	G14c6	N-53°-E	楕円形	0.70×0.44	27	外傾	皿状	人為		
71	G14c7	N-0°	円形	1.25×1.25	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
72	G14a6	N-0°	[円形]	0.78×0.78	14	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
73	G14b6	N-10°-E	[楕円形]	(0.75)×0.95	45	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
74	G14c6	N-62°-E	不整楕円形	1.03×0.67	24	外傾	凹凸	人為		
75	G14e0	N-73°-E	[方形]	1.78×(1.69)	38	垂直	平坦	人為	土師器片, 灰釉陶器片	
76	G14a6	N-0°	円形	0.75×0.75	45	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 粘土塊	
78	G14e4	N-76°-E	楕円形	1.30×1.08	34	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
79	G14c6	N-18°-E	楕円形	0.85×(0.42)	26	外傾	凹凸	人為		
80	G14c7	N-0°	円形	1.11×1.10	26	外傾	皿状	自然	土師器片	
81	G14c6	N-0°	円形	0.90×0.90	13	外傾	皿状	自然		
83	G14d0	N-0°	円形	0.64×0.64	13	垂直	平坦	自然	土師器片, 鉄製品	
84	G14e9	N-0°	円形	1.11×1.11	34	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
85	G14e0	N-0°	円形	1.20×1.20	13	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須惠器片, 礫	
86	G15e1	N-64°-W	不明	(1.00)×(0.42)	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
87	G14e0	N-0°	円形	0.60×0.60	13	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器(長頸瓶)	
88	F14e0	N-0°	円形	0.44×0.44	14	垂直	平坦	不明	土師器片	
89	F14i6	N-0°	円形	0.65×0.65	15	緩斜	皿状	人為	土師器片	
90	F14j8	N-90°	長方形	1.95×(1.25)	33	外傾	平坦	自然	土師器片, 灰釉陶器片, 粘土塊	
91	F14j8	N-0°	[円形]	0.60×(0.60)	45	外傾	皿状	不明	土師器片	
93	F14d8	N-50°-W	楕円形	1.28×1.10	65	垂直	凹凸	自然	土師器片	
94	F14e7	N-83°-E	長方形	3.13×1.24	28	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
95	G14d7	N-77°-E	楕円形	1.37×1.07	45	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
97	G14e8	N-90°	楕円形	1.40×1.35	51	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
99	G14e8	N-0°	円形	0.92×0.92	14	緩斜	皿状	自然	土師器片	
100	G14g9	N-90°	楕円形	0.95×0.77	10	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須惠器片	
101	G12e4	N-0°	円形	0.88×0.88	36	外傾	皿状	自然	土師器片, 碟	
104	G12b4	N-32°-W	楕円形	2.54×1.15	48	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 碟	
105	F12g8	N-5°-E	楕円形	0.52×0.35	35	外傾	皿状	不明		
106	F12h7	N-80°-E	楕円形	1.42×1.13	93	外傾	平坦	人為		
107	F12g8	N-2°-E	楕円形	(1.15)×0.76	84	外傾	凹凸	自然	土師器片	
109	G12b4	N-87°-W	楕円形	0.53×0.48	30	外傾	皿状	人為		
110	G12c4	N-0°	円形	0.50×0.50	32	外傾	皿状	人為	土師器片	
111	G12c4	N-0°	円形	0.43×0.43	26	外傾	皿状	人為		
112	G12d4	N-0°	円形	0.48×0.48	28	外傾	皿状	人為	土師器片	
113	H12c8	N-55°-W	長方形	3.00×1.40	50	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 瓦片, 粘土塊	9世紀後葉
115	F12i8	N-0°	円形	0.70×0.70	73	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 丸瓦, 碟	
116	G14b1	N-0°	楕円形	(0.35)×0.55	15	緩斜	皿状	自然		
117	G14b1	N-82°-W	楕円形	0.75×0.54	25	緩斜	皿状	自然		
119	G13a6	N-90°	楕円形	0.63×0.58	58	垂直	平坦	人為	土師器片, 剥片, 粘土塊	
122	F12g8	N-0°	円形	1.54×1.54	52	垂直	平坦	人為	土師器片, 碟	
123	F12g7	N-40°-E	不定形	1.15×0.80	58	外傾	凹凸	人為		
124	F13g5	N-19°-E	楕円形	1.66×1.38	24	緩斜	凹凸	自然	土師器片, 須惠器片, 碟	
127	G12i4	N-0°	円形	1.47×1.47	57	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 碟	
129	G12i2	N-0°	円形	1.30×1.30	46	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 砥石	
130	G12i4	N-66°-E	不定形	1.46×1.12	47	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須惠器片, 粘土塊	
131	G12j3	N-0°	円形	1.10×1.10	不明	不明	不明	不明	土師器片	
132	G12j3	N-90°	楕円形	1.13×1.02	7	外傾	平坦	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
133	G12i4	N-0°	円形	1.38×1.38	23	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	
134	G12c0	N-50°-W	楕円形	1.30×1.18	22	緩斜	平坦	人為	土師器片	
135	G12i3	N-37°-W	楕円形	1.35×1.21	26	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 礫	
136	G12a7	N-40°-E	不定形	0.86×0.65	17	緩斜	皿状	人為	鉄滓(碗形滓・鍛冶滓・鍛造削片)	
137	G12f5	N-0°	円形	1.16×1.16	23	緩斜	皿状	自然	土師器片	
138	G12f5	N-0°	円形	0.49×0.49	20	外傾	平坦	人為	土師器片	10世紀後半
139	G12b0	N-80°-W	楕円形	1.12×1.00	56	外傾	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
140	G12e4	N-0°	円形	0.95×0.95	5	緩斜	皿状	自然	土師器片	
141	G12d5	N-66°-E	不定形	0.45×0.40	16	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須惠器片	
142	G12d5	N-0°	円形	0.54×0.54	28	外傾	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
143	G12c4	N-90°	楕円形	0.55×0.49	30	外傾	皿状	自然		
144	G12b7	N-0°	円形	0.67×0.67	85	外傾	皿状	自然	土師器片, 礫	
146	G13g2	N-0°	円形	0.95×0.95	21	外傾	平坦	不明	土師器片, 須惠器片	
147	G13g2	N-90°	楕円形	0.85×0.75	24	緩斜	皿状	自然		
148	G13f2	N-32°-E	楕円形	1.11×0.93	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
149	G12f0	N-0°	円形	0.80×0.80	17	外傾	平坦	不明	土師器片	
150	G13f1	N-0°	円形	0.95×0.95	14	外傾	平坦	不明		
151	G12e0	N-64°-W	楕円形	1.68×1.14	30	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 陶器片, 礫	
152	G12h4	N-47°-W	長方形	1.85×1.00	12	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
154	G12a7	N-0°	楕円形	1.05×0.80	18	緩斜	皿状	自然		
155	G12h8	N-0°	円形	0.66×0.66	28	外傾	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
156	G12h8	N-0°	円形	0.73×0.73	30	外傾	皿状	自然		
157	G12i4	N-72°-E	楕円形	2.08×1.22	35	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 瓦片, 鉄滓	
158	G13e2	N-0°	楕円形	1.52×1.12	23	外傾	凹凸	自然		
159	H12a2	N-50°-W	楕円形	1.50×1.20	50	外傾	皿状	人為	土師器(坏・小皿・甕), 須惠器片, 礫	10世紀後半以降
160	G12h7	N-0°	円形	1.38×1.38	37	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
161	G12g6	N-12°-E	楕円形	1.36×1.05	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 礫	
162	H12d0	N-8°-W	楕円形	1.38×1.03	40	緩斜	皿状	自然	土師器片, 礫	
163	G13j2	N-35°-E	楕円形	1.35×1.05	24	外傾	段状	自然	土師器片, 礫	
164	H13a2	N-77°-E	楕円形	1.14×0.92	5	緩斜	平坦	自然		
165	G12i8	N-0°	円形	0.58×0.58	42	外傾	皿状	不明		
166	H12d6	N-10°-E	隅丸長方形	0.95×0.80	46	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 粘土塊, 礫	
167	H13b1	N-58°-E	楕円形	0.86×0.65	6	緩斜	平坦	不明		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
168	H12d9	N-80°-W	楕円形	3.60×1.06	17	緩斜	平坦	自然	土師器片, 粘土塊, 礫	
169	H12e6	N-6°-E	長方形	2.95×0.70	20	外傾	凹凸	自然	土師器片, 紡錘車(坏片を転用)	
171	H12e8	N-0°	不明	0.52×(0.45)	56	外傾	皿状	自然		
172	G13c6	N-90°	楕円形	1.43×1.18	17	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
173	G13a6	N-42°-W	楕円形	1.35×1.20	7	緩斜	凹凸	自然		
174	G13g1	N-68°-W	楕円形	0.90×0.70	13	外傾	平坦	不明	土師器(坏・甕・小皿), 須惠器片, 礫, 粘土塊	
175	G12g0	N-0°	円形	0.93×0.93	63	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄滓, 礫	
176	G12h9	N-90°	楕円形	0.70×0.56	30	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
177	G12g0	N-0°	円形	1.85×1.85	10	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
178	G12h0	N-33°-E	[円形]	1.40×(1.05)	10	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
179	G13a5	N-5°-E	長方形	2.00×1.02	17	垂直	凹凸	自然	土師器片, 須惠器片	
180	H12e4	N-76°-W	不明	0.70×(0.40)	30	外傾	平坦	自然		
181	G12i8	N-0°	楕円形	0.64×0.58	25	外傾	平坦	不明	土師器片	
184	G13f3	N-44°-E	楕円形	1.51×1.36	14	外傾	平坦	自然		
185	G13f4	N-25°-W	楕円形	1.02×0.92	20	外傾	凹凸	自然		
186	G12f8	N-35°-E	楕円形	1.87×1.50	70	垂直	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器(短頸壺), 瓦片, 鉄滓, 礫	
187	G12f8	N-39°-W	楕円形	1.69×1.40	38	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須惠器片, 瓦片, 礫	
190	G12g7	N-0°	円形	1.35×1.35	52	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 鉄滓, 礫	
191	G12f9	N-0°	円形	0.44×0.44	不明	不明	不明	不明	土師器片	
192	G12f9	N-0°	円形	0.58×0.58	38	外傾	平坦	自然		
193	G12f0	N-0°	円形	0.50×0.50	45	外傾	皿状	自然		
194	G12f9	N-0°	円形	0.50×0.50	10	緩斜	皿状	自然		
195	G12f0	N-43°-E	不整楕円形	0.95×0.78	41	緩斜	平坦	自然	土師器片	
196	G12f0	N-0°	円形	0.73×0.73	8	緩斜	平坦	自然		
197	G12f9	N-0°	円形	0.66×0.66	6	緩斜	平坦	自然	土師器片	
198	G12f9	N-0°	円形	0.65×0.65	25	外傾	皿状	自然	土師器片	
199	G12g0	N-90°	楕円形	1.37×0.80	15	緩斜	凹凸	自然	土師器片, 鉄製品(鎌)	
200	H12e8	N-0°	円形	1.43×1.43	26	外傾	平坦	自然	土師器片	
201	H12i6	N-66°-W	楕円形	1.36×0.88	20	緩斜	皿状	自然	土師器片	
202	H12j6	N-70°-W	[長方形]	(3.10×1.30)	40	外傾	平坦	自然	土師器(高台付皿), 須惠器片, 礫	
203	H13j7	N-58°-E	不定形	1.10×1.07	26	緩斜	皿状	自然		
204	H13h1	N-76°-W	長方形	1.95×1.14	14	緩斜	平坦	自然		
205	I13h1	N-12°-E	長方形	3.51×0.85	25	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
207	I 12e8	N-85°-W	不定形	1.65×1.30	28	外傾	平坦	不明	土師器片	
208	I 12a6	[N-33°-W]	不明	1.25×1.05	65	外傾	平坦	自然	土師器片	
209	H12g5	[N-11°-E]	[円形]	(0.85×0.34)	21	外傾	凹凸	自然	土師器片	
210	H12g5	N-0°	円形	0.67×0.67	40	外傾	皿状	不明		
211	G12g0	N-0°	円形	1.05×1.05	26	外傾	平坦	自然	土師器片	
212	G13b7	N-76°-W	長方形	2.00×1.70	50	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	10世紀後半以降
214	G13b5	N-26°-E	円形	1.80×1.65	70	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 砥石	
215	J13h4	[N-79°-E]	[方形]	[2.03×1.90]	84	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 土製品(紡錘車), 炭化材, 礫	6世紀中葉
216	J13g4	N-16°-W	長方形	2.93×2.00	82	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片, 瓦片, 礫, 粘土塊	
217	J13c3	N-90°-E	楕円形	2.80×1.90	134	外傾	凹凸	人為	土師器片	7世紀前半
218	J13b7	N-39°-E	不定形	1.10×0.65	40	垂直	凹凸	人為		
219	G13a5	N-0°	円形	0.86×0.86	26	外傾	凹凸	自然	土師器片	
220	G13c9	N-0°	隅丸長方形	(1.62)×0.98	32	外傾	平坦	人為	土師器片	
221	G13c6	N-0°	円形	0.49×0.49	47	垂直	皿状	人為	土師器片	
222	G13d6	N-0°	楕円形	0.59×0.53	30	垂直	皿状	自然	土師器片, 須惠器片, 粘土塊	
223	G13d3	N-90°	楕円形	0.93×0.70	33	外傾	平坦	人為	土師器片	
224	G13e3	N-0°	不整楕円形	0.58×0.54	25	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
225	G13b0	N-80°-E	楕円形	1.15×0.98	28	緩斜	皿状	自然	土師器片	
226	G13c0	N-90°	楕円形	1.17×0.97	12	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 粘土塊	
227	G13c0	N-0°	円形	1.00×0.97	13	緩斜	皿状	自然		
228	G13b0	N-32°-W	[円形]	1.14×(0.95)	21	垂直	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
229	G13d4	N-23°-W	不定形	1.10×0.85	56	外傾	皿状	不明		
230	G13d3	N-50°-E	楕円形	0.62×0.45	20	緩斜	凹凸	不明		
231	G13d3	N-57°-E	楕円形	0.90×0.74	44	緩斜	凹凸	不明		
232	G13a5	N-47°-E	楕円形	0.65×0.54	29	垂直	皿状	自然		
233	G13a5	N-23°-W	楕円形	0.60×0.46	16	外傾	凹凸	自然		
234	G13d3	N-0°	楕円形	0.47×0.36	60	外傾	平坦	不明	土師器片	
235	G13d3	N-0°	円形	0.45×0.42	51	外傾	平坦	不明	土師器片	
236	G13a5	N-28°-W	楕円形	0.58×0.47	17	垂直	凹凸	自然		
237	G13e5	N-65°-W	楕円形	0.65×0.57	7	緩斜	皿状	不明		
238	G13a5	N-0°	円形	0.24×0.24	15	外傾	皿状	自然		
239	G13c5	N-79°-W	楕円形	1.10×0.86	43	外傾	皿状	人為	土師器片	
240	G13e8	N-13°-E	長方形	3.95×0.68	23	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
241	G13a7	N-54°-W	楕円形	1.10×1.00	20	垂直	凹凸	不明	土師器片, 礫	
242	G13a5	N-16°-W	楕円形	1.14×0.98	59	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須恵器片, 礫	
243	G13d7	N-0°	楕円形	1.16×1.02	35	外傾	皿状	自然	土師器片	
244	I13c8	-	円形	1.86×1.77	122	外傾	平坦	不明	土師器片(坏・手握土器・甕・甌)	7世紀前葉
245	G13d6	N-90°	[円形または楕円形]	0.85×(0.52)	10	緩斜	皿状	不明		
246	G13d6	N-44°-W	楕円形	0.70×0.62	10	緩斜	皿状	不明		
247	G13e6	N-0°	円形	0.85×0.85	10	緩斜	皿状	不明		
248	G13f6	N-0°	円形	0.98×0.98	23	外傾	平坦	不明	土師器片, 須恵器片	
249	G13f3	N-38°-W	楕円形	0.80×0.66	11	外傾	平坦	自然	土師器片	
250	G13j5	N-0°	不整円形	0.56×0.56	45	緩斜	皿状	自然	土師器片	
251	G13i4	N-0°	円形	0.74×0.74	30	外傾	平坦	自然	土師器片	
252	G13c4	N-0°	円形	0.78×0.78	52	緩斜	平坦	不明		
253	G13g4	N-0°	不定形	1.19×0.81	44	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須恵器片, 粘土塊, 礫	
254	G13h4	N-60°-W	楕円形	0.53×0.46	42	垂直	皿状	不明	土師器片	
255	G13f4	N-21°-W	不定形	1.00×0.80	64	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片, 粘土塊	
256	G13f4	N-5°-E	楕円形	0.87×0.56	21	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須恵器片	
257	H12c4	N-0°	円形	0.75×0.75	不明	不明	不明	不明		
258	H12b3	N-77°-W	楕円形	1.25×0.90	57	外傾	皿状	自然	須恵器片	
259	H12b3	N-20°-W	楕円形	1.02×0.80	40	外傾	皿状	自然	土師器片	
260	G12f0	N-58°-E	楕円形	1.41×0.65	8	緩斜	凹凸	不明		
261	G13a6	N-0°	円形	1.60×1.60	20	垂直	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
262	G12g3	N-90°	楕円形	1.20×0.80	35	緩斜	皿状	人為	土師器(小皿)	
263	G12g5	N-90°	楕円形	0.90×0.75	30	外傾	凹凸	不明		
264	H12i9	N-0°	円形	0.80×0.80	13	外傾	平坦	人為		
265	G12g3	N-0°	円形	1.00×1.00	32	外傾	平坦	自然		
266	G13j4	N-0°	楕円形	1.50×1.35	30	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須恵器片	
267	G13j5	N-10°-W	長方形	2.23×1.73	36	外傾	凹凸	自然	土師器(坏), 須恵器片, 鉄滓	
268	G12g4	N-90°	[楕円形]	(0.95)×0.93	8	緩斜	皿状	不明		
269	G12g3	[N-30°-W]	[円形]	0.82×(0.50)	15	外傾	平坦	自然		
270	G13g3	N-0°	円形	0.74×0.74	30	外傾	凹凸	人為	土師器片	
272	G13f1	N-90°	楕円形	0.60×0.53	55	垂直	平坦	自然		
274	G12i7	N-7°-E	長方形	[2.63×2.02]	82	外傾	平坦	自然	土師器片, 鉄滓	
275	G13d1	N-0°	円形	0.38×0.38	45	垂直	皿状	自然	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
276	G13d3	N-0°	円形	0.50×0.50	60	外傾	皿状	自然	土師器片, 灰釉陶器片	
277	G12j2	N-0°	円形	0.76×0.76	16	緩斜	平坦	人為		
278	G13c3	N-56°-W	楕円形	0.50×0.44	60	外傾	皿状	人為	土師器片	
279	G13a7	N-0°	[円形]	0.58×(0.50)	12	緩斜	皿状	不明		
280	G13e8	[N-0°]	[円形]	0.95×[0.95]	27	外傾	皿状	自然	土師器片	
281	G13g7	N-0°	円形	1.43×1.43	59	外傾	平坦	自然	土師器片	
282	H12a1	N-0°	円形	1.25×1.25	52	緩斜	皿状	人為	土師器片, 粘土塊	
283	G13h4	N-0°	円形	0.83×0.83	12	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
284	H12c3	N-0°	楕円形	1.02×0.80	20	外傾	凹凸	不明		
286	G12j1	N-27°-E	楕円形	0.95×0.75	6	緩斜	皿状	不明	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	
287	G13h1	N-83°-W	楕円形	1.02×0.90	50	緩斜	不明	不明		
288	G13j5	N-20°-W	不定形	1.27×1.25	17	外傾	凹凸	不明		
289	H12a2	N-0°	楕円形	1.18×1.04	24	緩斜	皿状	人為	土師器片	
290	G12f9	N-0°	円形	0.94×0.94	18	外傾	皿状	自然	土師器片	
291	G12f8	N-40°-W	楕円形	1.28×1.08	12	緩斜	平坦	人為	土師器片	
292	G12e9	N-0°	円形	0.82×0.82	11	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 瓦片	
293	H13g5	N-0°	不定形	1.00×1.00	23	外傾	凹凸	不明	土師器片	
294	H13h8	N-0°	円形	0.80×0.80	39	外傾	平坦	人為	土師器片, 羽口片, 鉄滓	
295	G12f6	N-74°-E	隅丸長方形	1.53×0.95	25	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
296	H12b0	N-90°	楕円形	1.75×1.50	19	緩斜	皿状	自然	土師器片	
297	G12e9	N-27°-E	楕円形	0.65×0.55	40	緩斜	皿状	自然	土師器片	
298	H13h8	N-47°-W	楕円形	0.80×0.70	20	外傾	皿状	人為	土師器片	
301	G14c3	N-25°-W	円形	1.22×1.15	34	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須惠器片, 礫	
302	G14d3	N-21°-E	不定形	1.60×1.55	30	緩斜	皿状	人為	土師器片	
303	G14c3	N-0°	隅丸方形	1.22×1.15	30	緩斜	皿状	自然	土師器片	
304	G14d3	N-55°-W	隅丸長方形	1.40×0.97	32	外傾	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
308	G14c5	N-40°-E	楕円形	1.15×0.88	15	緩斜	皿状	人為	土師器(高台付椀), 須惠器片	
309	G14f7	N-0°	円形	1.10×1.04	15	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
310	G14f6	N-0°	円形	0.92×0.92	10	外傾	平坦	自然		
312	G14c3	N-0°	円形	1.10×1.01	20	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
313	G14d1	N-0°	円形	0.90×0.90	5	外傾	平坦	自然	土師器片	
314	G14c2	不明	不明	1.00×(0.40)	20	緩斜	平坦	自然	土師器片	
315	G14d2	N-70°-W	楕円形	1.20×1.05	23	外傾	皿状	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
316	H14b4	N-50°-E	楕円形	1.42×1.30	12	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
317	G14f3	N-22°-W	円形	0.85×0.62	76	外傾	凹凸	人為		
318	G14f5	N-0°	円形	1.30×1.30	19	緩斜	凹凸	自然		
319	G14f4	N-0°	円形	0.92×0.92	60	外傾	皿状	自然	土師器片	
320	G14g9	N-68°-E	楕円形	0.58×0.50	49	外傾	平坦	人為	土師器片	
322	G14f4	N-80°-E	楕円形	1.05×0.85	20	緩斜	凹凸	人為		
323	H14a6	N-0°	円形	0.64×0.64	36	外傾	凹凸	人為	土師器片	
324	H14b4	N-0°	円形	1.00×0.95	34	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 礫	
325	G13g0	N-84°-W	楕円形	0.90×0.75	45	外傾	皿状	自然	土師器片	平安時代
326	G14e3	N-9°-W	楕円形	0.85×0.45	22	外傾	凹凸	不明	土師器片	
327	G14f8	N-90°	不定形	0.88×0.82	31	緩斜	凹凸	自然	土師器片	
328	G14f8	N-0°	隅丸方形	1.28×1.28	27	緩斜	凹凸	自然	土師器片	
329	G14f9	N-49°-W	楕円形	1.32×1.16	47	外傾	平坦	自然	土師器片, 礫	
330	G14f8	N-67°-W	不整長方形	1.82×1.06	60	外傾	凹凸	人為	土師器片, 土製品(小玉)	
331	G14e1	N-0°	円形	1.13×1.13	20	外傾	平坦	人為	土師器片	
332	G13e0	N-90°	楕円形	[1.45]×1.08	24	外傾	凹凸	自然		
333	G13d0	N-27°-W	楕円形	1.03×0.90	29	緩斜	平坦	自然		
334	G13f9	N-3°-W	長方形	2.45×1.32	87	外傾	凹凸	人為	土師器(高坏・甌), 須恵器片, 灰釉陶器片, 礫	
338	G14e2	N-85°-E	楕円形	1.63×0.72	72	外傾	凹凸	人為	弥生土器(高坏), 土師器片, 礫	
339	G14f1	N-0°	円形	1.35×1.27	71	垂直	平坦	自然	土師器片, 粘土塊	
340	G14e3	N-0°	楕円形	1.53×1.30	50	垂直	平坦	人為	土師器片	
341	G13h9	N-75°-W	楕円形	1.13×0.84	10	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 粘土塊	
342	G14f9	N-4°-W	長方形	2.95×1.00	30	外傾	平坦	人為	黒曜石, 剥片, 礫	
343	G14g2	N-75°-W	楕円形	1.43×1.20	43	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
344	G14e2	N-32°-W	楕円形	1.05×0.70	50	緩斜	凹凸	不明		
345	G14h2	N-7°-E	楕円形	1.06×0.90	24	緩斜	凹凸	自然	土師器片	
347	G14i4	N-15°-E	[円形または楕円形]	(2.05×1.05)	10	外傾	平坦	自然	土師器片, 粘土塊	
348	G14f5	N-78°-E	長方形	4.85×1.24	60	外傾	平坦	人為	土師器(高坏), 羽口, 礫, 粘土塊	
349	G13f8	N-30°-W	楕円形	1.08×0.90	14	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
350	G13g8	N-30°-E	楕円形	0.93×0.80	25	外傾	皿状	自然	土師器片	
351	G14g2	N-0°	円形	1.58×1.55	47	垂直	平坦	自然	土師器片, 不明鉄製品	
352	G14h8	N-90°	長方形	3.95×1.42	48	外傾	平坦	自然	土師器(鉄鉢形土器), 陶器片, 黒曜石, 礫	
353	G14i5	N-64°-W	楕円形	[0.76]×0.68	10	外傾	凹凸	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
354	G14i5	N-31°-W	楕円形	0.96×0.87	20	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
355	G14j4	N-23°-E	楕円形	1.30×1.10	22	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
356	G14i4	N-64°-E	楕円形	[1.53]×1.15	32	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 礫	
357	G14i9	N-56°-E	楕円形	1.66×1.47	45	垂直	平坦	人為	土師器片, 剥片	
358	G14i9	N-0°	円形	1.70×1.70	60	外傾	皿状	自然	土師器片, 剥片	
359	H14a8	N-7°-E	方形	2.05×1.90	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器(長頸瓶), 剥片, 礫	
360	H14b8	N-10°-E	方形	1.55×1.50	33	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 礫	
361	G14i8	N-19°-W	楕円形	2.90×2.25	11	外傾	平坦	自然	土師器片, 礫	
362	H14b8	N-18°-E	長方形	[1.15]×0.63	22	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 礫	
363	H14e3	N-73°-W	楕円形	1.44×1.25	15	外傾	平坦	自然	土師器片	
364	H14f2	N-88°-W	楕円形	1.70×1.49	14	緩斜	平坦	人為	土師器片, 礫	
365	H14c3	N-0°	円形	1.02×1.02	20	外傾	平坦	人為	土師器片	
366	H14d3	N-87°-W	長方形	2.22×0.87	10	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片, 礫	
367	H14d2	N-30°-E	円形	1.03×0.97	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 礫	
368	H14f3	N-71°-W	楕円形	1.16×1.04	6	緩斜	皿状	自然		
369	H14c2	N-80°-E	長方形	2.56×1.11	40	外傾	平坦	人為		
370	H14b4	N-0°	不定形	2.00×1.90	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 不明鉄製品, 鉄滓, 粘土塊, 礫	
371	H14c5	N-14°-E	楕円形	1.00×0.85	10	外傾	凹凸	人為		
372	H14c4	N-28°-W	楕円形	1.44×1.28	48	外傾	皿状	人為	土師器片, 礫	
373	H14c4	N-38°-W	楕円形	1.05×0.91	15	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 礫	
374	H14c4	N-13°-E	長方形	1.65×1.13	80	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄滓, 礫	
375	H14b3	N-0°	円形	1.14×1.14	24	外傾	凹凸	人為		
376	H14b2	N-11°-E	楕円形	1.05×[0.85]	19	外傾	平坦	人為	土師器片	
377	H14h5	N-79°-W	楕円形	0.95×0.86	67	外傾	凹凸	人為	土師器片, 礫	
378	H14a7	N-90°	長方形	1.52×1.22	35	垂直	平坦	不明		
379	G14i4	N-90°	楕円形	0.96×[0.70]	11	外傾	平坦	人為	土師器片	
380	H14c4	N-75°-W	楕円形	1.07×0.80	12	外傾	平坦	人為	土師器片	
381	G14g4	N-68°-E	楕円形	1.06×0.46	7	緩斜	皿状	人為		
382	G14j1	N-90°	楕円形	0.50×0.45	不明	不明	不明	不明	土師器(坏)	
383	G14j2	N-57°-W	楕円形	0.40×0.36	不明	不明	不明	不明	土師器片, 礫	
384	H14c5	N-7°-E	楕円形	1.49×1.30	24	外傾	平坦	人為	土師器片, 礫, 貝殻片	
385	H14e5	N-5°-E	楕円形	0.93×[0.78]	15	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
386	H14d4	N-0°	円形	0.90×0.90	10	外傾	平坦	人為	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
387	H14e4	N-20°-E	円形	[0.60]×[0.55]	25	外傾	平坦	人為		
388	H14e4	N-27°-W	楕円形	0.75×0.65	86	外傾	平坦	人為	土師器片, 碟	
389	H14e5	N-0°	円形	1.20×1.20	28	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄製品, 碟	
390	H14f5	N-0°	楕円形	0.90×[0.75]	19	外傾	凹凸	人為	土師器片, 碟	
391	H14f5	N-51°-W	楕円形	1.02×0.91	30	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 碟	
392	H14f4	N-0°	円形	0.60×0.60	8	緩斜	皿状	自然		
393	H14f4	N-79°-W	隅丸長方形	2.97×0.95	23	緩斜	平坦	人為	土師器片, 刀子, 鉄滓	
394	H14f4	N-70°-W	不定形	1.00×0.66	84	外傾	凹凸	人為	土師器片, 碟	
395	H14a1	N-0°	不整円形	1.15×1.15	15	外傾	凹凸	人為		
396	H14g4	N-0°	円形	1.40×1.30	15	外傾	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
397	H14g4	N-90°	楕円形	1.35×1.05	6	緩斜	平坦	人為	土師器片	
398	H14g3	N-35°-E	楕円形	1.08×1.03	15	緩斜	凹凸	人為		
399	H14h4	-	円形	1.20×1.11	10	緩斜	皿状	人為	土師器片	
400	G13f9	N-0°	円形	1.43×1.43	38	外傾	平坦	人為		
401	G13h1	N-30°-E	円形	1.55×1.45	63	緩斜	皿状	不明	土師器片, 須惠器片, 碟	
402	H13a4	N-22°-W	長方形	1.90×1.40	46	外傾	平坦	自然	土師器片	
403	G13i1	N-3°-E	楕円形	0.76×0.66	54	垂直	平坦	人為	土師器(高台付椀), 緑釉陶器(段皿), 砥石	
404	G12g8	N-0°	楕円形	1.20×0.87	25	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
405	G12g8	N-7°-W	楕円形	[1.47]×1.07	66	外傾	皿状	人為	土師器片	
406	G12g8	N-0°	円形	0.82×0.82	10	緩斜	皿状	人為		
407	G13j3	N-0°	円形	0.32×0.32	33	外傾	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
408	G12g7	N-0°	円形	0.95×0.95	15	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
409	G12g7	N-16°-W	楕円形	0.60×0.55	11	緩斜	皿状	自然		
410	G13i1	N-0°	円形	0.78×0.78	45	緩斜	皿状	人為	土師器片	
411	H12a4	N-75°-W	楕円形	0.90×0.80	25	外傾	皿状	人為	土師器片, 粘土塊	
412	H12a5	N-0°	円形	[1.16]×[1.16]	25	外傾	皿状	自然	土師器片	
413	H12a5	N-0°	円形	1.34×1.34	23	外傾	平坦	人為	土師器片, 灰釉陶器片	
414	G12i5	N-56°-W	楕円形	1.32×0.87	20	緩斜	皿状	人為	土師器片	
415	G12j5	N-0°	円形	1.21×1.13	10	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
416	G13i1	N-90°	楕円形	0.80×0.65	28	緩斜	皿状	人為	土師器片, 碟	
417	G12j6	N-50°-W	楕円形	1.06×0.90	10	緩斜	皿状	人為		
418	G12j6	N-15°-W	楕円形	1.11×0.80	21	緩斜	皿状	人為		
419	G12h0	N-83°-W	楕円形	0.60×0.35	45	内傾緩斜	皿状	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
420	G13i2	N-5°-W	長方形	2.15×1.32	20	緩斜	皿状	人為	土師器片	
422	G13j3	N-90°	不定形	1.15×0.75	57	外傾	皿状	人為		
423	H13a3	N-77°-W	楕円形	0.68×0.45	63	外傾	皿状	人為		
424	G13j3	N-90°	楕円形	0.65×0.55	57	外傾	皿状	人為	土師器片	
425	G13j3	N-90°	不定形	0.70×0.55	43	垂直	皿状	自然	土師器片	
426	G13i3	N-19°-W	楕円形	0.77×0.59	55	外傾	平坦	自然	土師器片	
427	G13i3	N-49°-W	楕円形	0.58×0.46	64	外傾	皿状	不明	土師器片	
428	G13i4	N-90°	楕円形	0.67×0.50	72	外傾	平坦	人為		
430	G13j3	N-0°	楕円形	[0.50×0.42]	30	不明	凹凸	自然		
431	H13f2	N-82°-W	長方形	1.40×1.05	16	緩斜	平坦	人為	土師器片, 礫	
432	H13a3	N-90°	[楕円形]	0.82×(0.50)	15	不明	平坦	人為	土師器片	
435	G12i5	N-0°	楕円形	1.05×0.90	30	外傾	凹凸	人為	土師器片	
436	G12h5	N-14°-W	楕円形	1.14×0.80	13	緩斜	皿状	人為	土師器片	
437	G12h5	N-71°-W	楕円形	0.83×0.74	20	緩斜	皿状	人為	土師器片	
438	G13j3	N-61°-E	楕円形	[0.66×0.44]	25	外傾	皿状	自然		
439	G13i3	N-18°-E	楕円形	0.50×0.30	59	外傾	皿状	自然		
440	H12c2	N-0°	円形	1.45×1.45	19	緩斜	皿状	不明	土師器片, 須惠器片	
441	H13c3	N-0°	円形	1.05×1.02	15	外傾	皿状	自然		
442	H13c3	N-3°-W	楕円形	1.05×0.72	15	外傾	皿状	自然		
443	H13d3	N-79°-E	楕円形	0.82×0.66	27	緩斜	凹凸	自然		
444	H13d3	N-6°-W	不定形	0.98×0.82	54	外傾	凹凸	自然		
445	H13d3	N-24°-W	楕円形	1.10×1.00	26	緩斜	凹凸	人為		
446	H13d4	N-80°-W	楕円形	1.45×0.80	54	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
447	G12a8	N-5°-W	楕円形	2.40×1.36	92	外傾	凹凸	人為	土師器片	
448	G13g7	N-0°	円形	0.65×0.65	不明	不明	不明	不明		
449	H12a4	N-15°-W	円形	1.15×1.06	31	外傾	平坦	人為	土師器(小皿), 須惠器片	
450	H12a4	N-60°-E	[円形または楕円形]	0.65×(0.36)	21	垂直	平坦	自然		
451	H12d5	N-80°-W	楕円形	0.92×0.83	30	外傾	皿状	自然	土師器片	
452	H12a7	N-0°	円形	0.66×0.66	36	外傾	皿状	不明	土師器片	
453	G12j6	N-0°	円形	0.86×0.86	7	緩斜	皿状	不明	土師器片	
454	G12j6	N-0°	円形	0.83×0.83	15	緩斜	皿状	不明	土師器片	
458	H12a7	N-90°-E	[楕円形]	[2.16×1.70]	32	緩斜	平坦	不明	土師器(坏)	
460	H13g2	N-80°-W	[方形または長方形]	1.90×[1.04]	18	垂直	凹凸	人為	土師器片, 粘土塊, 礫	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
461	H12c5	N-0°	円形	1.35×1.35	22	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須恵器片	
463	H14f1	N-0°	楕円形	0.65×0.55	13	緩斜	皿状	自然	土師器片, 砥石	
464	I13c1	N-0°	円形	0.72×0.72	14	垂直	平坦	人為		
465	J12d7	N-90°	楕円形	1.10×0.84	45	外傾	平坦	不明	砥石	
501	I11i0	N-49°-E	[楕円形]	(1.30)×0.98	34	外傾	皿状	人為	土師器片	
502	I11i0	N-33°-W	楕円形	1.02×0.78	35	外傾	皿状	自然	土師器片	
503	I11h9	N-79°-E	楕円形	0.77×0.66	25	緩斜	凹凸	自然	土師器片	
504	I11i8	N-71°-E	楕円形	1.27×1.05	21	外傾	平坦	人為	土師器片, 灰釉陶器片	
505	I11i9	N-90°	楕円形	1.00×0.86	35	外傾	凹凸	人為	土師器片	
506	I11i8	-	円形	1.24×1.13	15	外傾	平坦	自然	土師器片	
507	I11h0	N-4°-E	楕円形	1.82×1.25	44	外傾	平坦	人為	土師器片	
508	I11h0	-	[円形または楕円形]	0.99×(0.69)	47	外傾	凹凸	自然	土師器片	
509	I11i9	-	円形	0.55×0.55	33	外傾	皿状	自然	土師器片	
510	I11h9	-	円形	0.29×0.29	29	外傾	皿状	自然		
511	I12j1	不明	[円形または楕円形]	0.80×(0.53)	28	外傾	皿状	人為		
512	I11j0	N-80°-E	楕円形	(0.94)×0.70	40	外傾	皿状	不明	土師器片, 礫	
513	I13a5	N-8°-E	長方形	1.60×0.72	11	緩斜	平坦	人為	土師器片	
514	I13a4	N-90°	楕円形	1.23×1.06	22	外傾	平坦	人為	土師器片, 鉄製品(紡錘車カ), 礫	
515	I13b6	N-15°-W	楕円形	1.08×0.97	28	外傾	皿状	人為	土師器片	
516	I13b5	N-9°-W	長方形	1.49×0.65	24	外傾	平坦	人為		
517	I13a8	N-22°-E	楕円形	0.80×0.70	30	外傾	凹凸	自然		
519	I13b1	-	円形	0.72×0.72	12	外傾	平坦	人為		
523	I12a0	N-34°-W	楕円形	1.08×0.85	54	外傾	皿状	人為	土師器片	
530	I12b8	N-24°-E	楕円形	0.55×0.29	47	内傾緩斜	皿状	人為		
531	I12b8	N-0°	円形	1.80×1.80	46	外傾	平坦	人為	土師器(坏・器台・甕)	7世紀前葉
532	I12a9	N-0°	円形	0.64×0.64	20	外傾	平坦	人為	土師器片	
533	I13a3	N-0°	円形	1.56×1.56	40	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
534	I13a4	N-50°-W	長方形	1.55×0.90	20	外傾	皿状	人為	土師器片	
535	I13b4	N-47°-W	楕円形	(0.50)×[0.85]	5	緩斜	皿状	人為	土師器片	
536	I13j3	N-10°-E	長方形	1.95×1.03	24	外傾	皿状	人為	土師器片	
537	I13j3	N-76°-W	長方形	1.00×0.82	7	外傾	平坦	人為	土師器片	
538	H13h8	N-0°	楕円形	1.30×(0.50)	24	外傾	平坦	人為	土師器片	
542	H12j0	N-0°	円形	0.87×0.87	55	外傾	凹凸	人為	土師器(埴), 礫	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
544	I12a0	N-0°	円形	1.20×1.20	40	外傾	平坦	人為	土師器片	
546	H12j8	N-0°	円形	1.62×1.62	56	外傾	凹凸	人為	土師器片, 礫	
547	H13i1	N-7°-E	楕円形	1.00×0.90	10	緩斜	皿状	自然	土師器片, 礫石	
548	H13j1	N-77°-W	不定長方形	0.92×0.82	30	外傾	凹凸	人為		
549	H13i2	N-74°-W	長方形	0.57×0.36	20	外傾	凹凸	人為	土師器片, 礫	
554	I13b4	N-70°-W	楕円形	0.55×0.49	47	外傾	凹凸	人為		
555	I13b4	N-36°-W	楕円形	0.38×0.34	50	外傾	皿状	人為		
556	I13b3	N-0°	円形	0.82×0.82	24	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
557	I13b3	N-0°	円形	0.45×0.45	25	外傾	凹凸	人為		
558	I13b3	N-90°	楕円形	0.90×0.62	10	緩斜	平坦	自然		
560	I12e0	N-85°-W	楕円形	0.77×0.65	18	緩斜	凹凸	人為		
561	I12e0	N-2°-E	長方形	3.28×0.75	41	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
562	I13f1	N-0°	円形	0.56×0.56	22	外傾	凹凸	自然		
563	I13b5	N-0°	不定形	1.83×1.54	115	外傾	凹凸 (段上)	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄製品(紡錘車), 粘土塊, 礫	
564	I13b2	N-90°	不整楕円形	1.90×1.70	36	緩斜	皿状	人為		
565	I13b2	N-90°	長方形	2.52×2.10	15	緩斜	平坦	自然		
566	I12e0	N-0°	円形	0.55×0.55	6	緩斜	皿状	不明		
567	I12e0	N-20°-E	楕円形	0.92×0.60	5	緩斜	皿状	不明		
568	I12e0	N-0°	円形	0.60×0.60	6	緩斜	皿状	不明		
569	I12e0	N-9°-E	楕円形	0.68×0.60	5	緩斜	皿状	不明		
571	I13a3	N-82°-W	楕円形	1.12×1.00	10	外傾	平坦	人為	土師器片	
572	I13a4	N-0°	円形	0.95×0.95	13	緩斜	皿状	不明	土師器片	
574	I12d0	N-0°	円形	0.32×0.32	29	外傾	皿状	不明	須惠器片	
575	I13b4	N-90°-E	円形または楕円形	0.40×(0.29)	10	緩斜	皿状	人為		
576	I13c4	N-19°-W	楕円形	0.35×0.29	不明	不明	不明	不明		
578	J12d0	N-6°-E	長方形	(3.00)×0.76	24	外傾	平坦	人為	土師器(高台付皿), 須惠器片	
579	J12e0	N-6°-E	長方形	(1.70)×0.75	27	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 礫, 粘土塊	
580	I12f8	N-3°-E	長方形	1.40×0.98	21	緩斜	皿状	人為	土師器片	
581	I12h9	N-0°	円形	1.08×1.08	21	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
582	I12f0	N-0°	円形	1.58×1.58	47	緩斜	皿状	人為	土師器片, 礫	
583	I12g0	N-0°	楕円形	0.76×0.64	72	垂直	平坦	不明		
584	J12d8	N-0°	円形	0.86×0.86	6	緩斜	平坦	不明		
585	K12b5	N-0°	円形	1.18×1.18	24	外傾	凹凸	不明		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
586	K12b7	N-48°-W	楕円形	3.00×2.10	(80)	外傾	不明	人為	土師器片, 須惠器片, 緑釉陶器片, 灰釉陶器, 鉄滓	10世紀後半以降
589	K12d5	N-0°	円形	0.30×0.30	28	外傾	平坦	人為		
590	K12d6	N-0°	円形	0.32×0.32	39	外傾	皿状	人為	土師器片, 礫	
591	K12d6	N-42°-E	楕円形	0.35×0.26	20	緩斜	皿状	自然		
592	K12d6	N-0°	円形	0.28×0.28	29	外傾	皿状	自然		
596	K12d6	N-18°-E	楕円形	0.48×0.26	20	外傾	皿状	人為		
597	K12d7	N-0°	円形	0.90×0.90	6	緩斜	平坦	自然	土師器片	
601	G14h2	N-0°	円形	0.70×0.70	10	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 礫	
602	H14b7	N-55°-E	楕円形	1.20×1.02	28	緩斜	皿状	人為		
604	H14h4	N-67°-E	楕円形	1.94×1.70	24	外傾	皿状	人為	土師器片	
605	H14h4	N-0°	円形	1.95×1.95	22	外傾	平坦	人為		
606	G13i8	N-90°	楕円形	0.71×[0.64]	42	外傾	凹凸	人為		
607	G13j9	N-0°	楕円形	0.46×0.37	54	外傾	凹凸	人為		
608	G13j9	N-54°-W	不定形	0.70×0.48	30	外傾	凹凸	人為		
609	G13j9	N-77°-W	楕円形	0.71×0.51	52	外傾	皿状	人為		
610	G13i9	N-0°	円形	0.31×0.31	68	垂直	平坦	自然		
611	H13c0	N-0°	円形	0.82×0.82	10	緩斜	凹凸	不明	土師器片, 須惠器片	
612	H14c1	N-68°-E	楕円形	[1.55]×1.18	61	緩斜	凹凸	人為		
613	G13j8	N-21°-W	楕円形	1.25×1.08	35	緩斜	平坦	不明		
614	G14h8	N-60°-E	楕円形	0.58×0.47	95	垂直内傾	凹凸	自然	土師器片	
615	H14f6	N-42°-W	[方形または長方形]	2.15×(2.01)	27	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓, 粘土塊, 礫	
616	G14h5	N-90°	長方形	6.97×0.97	60	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
617	H14f6	N-49°-E	[楕円形]	1.70×(1.00)	24	外傾	平坦	不明	土師器片, 鉄滓, 粘土塊, 礫	
618	G14g3	N-0°	円形	1.20×1.20	52	外傾	平坦	人為	土師器片, 土製品, 礫	
619	G14e3	N-84°-W	楕円形	0.72×0.63	41	外傾	皿状	自然	土師器片	
620	G14e3	N-0°	円形	0.61×0.61	26	外傾	皿状	自然	礫	
621	H13a0	N-32°-W	楕円形	0.87×0.50	75	外傾	皿状	不明	土師器片	
622	H14c6	N-22°-W	楕円形	1.00×0.90	不明	垂直	不明	自然	礫	
623	G13j8	N-0°	円形	1.31×1.31	27	垂直	平坦	不明		
625	H13b9	N-34°-E	楕円形	0.54×0.40	34	外傾	皿状	不明		
626	H14d7	N-35°-E	[円形または楕円形]	(0.93×0.85)	35	緩斜	皿状	自然		
627	H13c8	N-54°-E	楕円形	1.00×0.90	158	緩斜・外傾	不明	人為	土師器片, 礫	
628	H13e4	N-19°-W	隅丸長方形	1.90×1.13	10	外傾	凹凸	人為	土師器片, 礫	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
629	H13a8	N-90°	長方形	1.58×1.10	18	緩斜	平坦	人為	土師器片, 礫	
633	H14e5	N-31°-E	楕円形	0.92×0.75	15	緩斜	皿状	不明	土師器片	
635	H13e6	N-75°-E	楕円形	2.03×1.75	18	外傾	平坦	不明		
636	H13b7	N-77°-E	楕円形	0.66×0.47	52	外傾	皿状	人為	土師器片	
637	H13b7	N-69°-E	楕円形	0.73×0.56	39	外傾	皿状	人為	土師器片, 砥石, 剥片	
638	H13d7	N-0°	円形	1.56×1.56	46	緩斜	皿状	人為	手握土器, 土師器片, 埴塼カ	
639	H13d7	N-15°-E	不定形	0.95×1.27	36	外傾	凹凸	人為	土師器片, 砥石, 礫	
643	H13i9	N-90°	楕円形	0.74×0.57	35	緩斜	皿状	人為	土師器(坏), 炭化材	
644	H13h9	N-0°	円形	0.50×0.50	19	緩斜	凹凸	不明	土師器片	
645	H13h9	N-10°-E	楕円形	0.45×0.38	14	緩斜	平坦	不明	土師器片	
646	H13h9	N-82°-E	楕円形	0.65×0.50	15	緩斜	平坦	不明	土師器片	
647	H13i9	N-0°	円形	0.32×0.32	30	外傾	平坦	不明	土師器片	
648	H13h8	N-0°	円形	0.45×0.45	25	外傾	皿状	不明		
649	H13i0	N-15°-E	長方形	1.14×0.95	35	外傾	平坦	不明		
650	H14f1	不明	[方形または長方形]	(1.03×0.96)	10	外傾	平坦	人為	土師器片, 礫	
653	I13c0	N-90°	楕円形	0.95×(0.60)	22	外傾	平坦	自然		
654	J14c1	不明	不定形	1.20×(0.70)	46	垂直	平坦	人為	土師器片, 礫	
655	I13c0	N-0°	楕円形	0.40×0.35	37	外傾	皿状	不明	土師器片	
656	I14b2	N-0°	円形	0.90×0.90	42	緩斜	皿状	不明	土師器片	
670	J14c1	N-0°	円形	0.67×0.67	5	不明	皿状	不明		
671	J14c1	N-0°	円形	0.75×0.75	5	不明	皿状	不明		
682	J14b4	N-9°-E	[楕円形]	(2.30×1.20)	77	緩斜	平坦	人為		
691	I14g3	N-0°	円形	1.05×1.05	55	緩斜	平坦	人為	土師器(坏)	
692	I14g3	N-78°-W	楕円形	1.10×0.80	18	緩斜	皿状	自然	土師器片	
698	I13i0	N-90°	楕円形	0.60×0.49	70	外傾	皿状	人為	土師器(埴), ミニチュア土器	
699	I13h0	N-0°	円形	1.63×1.63	35	外傾	凹凸	人為	土師器片, 粘土塊	
700	I13g7	N-0°	円形	0.45×0.45	40	垂直	凹凸	不明		
701	I14f1	N-50°-E	[円形]	1.00×(0.30)	不明	不明	不明	不明		
702	I14g1	N-40°-E	[方形]	1.06×(0.82)	不明	不明	不明	不明		
703	I13g0	N-84°-W	長方形	1.34×1.14	不明	不明	不明	不明		
704	I13h0	N-82°-E	長方形	1.32×1.20	60	緩斜	凹凸	不明		
705	I13e4	N-71°-W	楕円形	1.35×1.15	30	外傾	凹凸	不明	土師器片	
706	I13e6	N-71°-E	不整楕円形	1.96×0.76	80	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓, 礫	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
707	I14h1	N-45°-E	[円形]	0.90×(0.74)	不明	不明	不明	不明		
708	I13f4	N-79°-W	長方形	2.40×1.56	35	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 砥石, 鉄滓, 礫, 剥片	
712	I13f6	N-70°-E	円形	0.92×0.85	32	緩斜	皿状	自然		
713	I13f6	N-52°-E	楕円形	0.76×0.60	38	外傾	凹凸	人為	土師器片	
714	I13g6	N-0°	円形	0.45×0.45	55	垂直	皿状	人為	土師器片	
715	I13g6	N-0°	円形	0.52×0.52	32	外傾	皿状	人為	土師器片	
716	I13f5	N-71°-W	楕円形	0.70×0.55	40	緩斜	皿状	自然	土師器片	
718	I13f6	N-10°-W	楕円形	1.13×0.70	21	緩斜	凹凸	人為	土師器(坏・壺), 粘土塊	
720	I13f6	N-0°	円形	0.57×0.57	52	外傾	平坦	人為	土師器片	
721	I13f6	N-0°	円形	0.70×0.70	25	緩斜	皿状	人為	土師器片	
722	I13e5	N-18°-W	楕円形	0.55×0.47	20	垂直	平坦	人為		
723	I13e5	N-73°-E	楕円形	0.65×0.50	42	外傾	凹凸	人為		
724	I13i6	N-0°	円形	1.08×1.08	15	外傾	平坦	自然	ミニチュア土器, 支脚, 土師器片, 須惠器片, 鉄製品, 砥石	
726	I13f5	N-90°	楕円形	0.60×0.52	4	緩斜	皿状	人為	土師器片	
727	I13f3	N-0°	円形	0.79×0.79	25	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
728	I13f5	N-90°	楕円形	0.78×0.65	24	外傾	皿状	人為	土師器片	
729	I13f6	N-9°-W	楕円形	1.20×1.06	20	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 礫	
730	I13g5	N-79°-W	楕円形	0.80×0.58	22	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
731	I13g5	N-0°	円形	0.52×0.52	30	外傾	平坦	人為	土師器片	
733	I13f6	N-14°-E	楕円形	0.85×[0.75]	5	緩斜	平坦	不明	土師器片	
734	I13f6	[N-0°]	円形	0.85×[0.85]	5	緩斜	平坦	人為		
735	I13e7	N-0°	円形	1.00×1.00	12	緩斜	平坦	人為	土師器片, 粘土塊	
736	I13g8	N-90°	楕円形	0.76×0.66	44	外傾	皿状	人為	土師片, 粘土塊	
738	I13f7	N-42°-E	不定形	0.80×0.61	33	垂直	凹凸	人為	土師器片	
739	I13h8	N-80°-W	楕円形	1.07×0.71	26	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
740	I13f8	N-0°	円形	0.83×0.83	23	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
741	I13i6	N-0°	円形	0.67×0.67	34	緩斜	凹凸	人為		
743	I13g7	N-0°	楕円形	0.70×0.53	15	緩斜	皿状	人為	土師器片	
745	I13f7	N-0°	円形	1.10×1.10	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	10世紀前半
746	I13f6	N-0°	円形	0.45×0.45	37	外傾	皿状	人為	土師器片	
747	I13e7	N-0°	楕円形	0.51×0.45	47	垂直	皿状	人為	土師器片	
748	I13e7	N-82°-W	楕円形	0.50×0.34	45	垂直	皿状	人為	土師器片	
749	I13h7	N-0°	円形	0.46×0.46	40	外傾	皿状	人為	土師器片, 粘土塊	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
750	I 13g6	N-90°	楕円形	0.67×0.61	34	緩斜	皿状	人為	土師器片, 砥石	
751	I 13g6	N-90°	楕円形	0.47×0.40	16	外傾	平坦	自然		
752	I 13g6	N-90°	楕円形	0.69×0.61	24	緩斜	皿状	人為		
754	I 13h6	N-9°-W	楕円形	0.66×0.57	39	外傾	凹凸	人為		
755	I 13e6	N-72°-E	楕円形	0.59×0.48	31	外傾	凹凸	人為	土師器片	
756	I 13d7	N-63°-W	長方形	(2.10)×1.07	30	外傾	平坦	人為		
757	I 13g6	N-90°	楕円形	0.68×0.55	57	外傾	皿状	人為	土師器片, 磨石	
759	I 13e6	N-14°-E	楕円形	0.70×0.48	46	外傾	平坦	人為	土師器片, 碟	
760	J 13a3	N-0°	楕円形	1.10×0.96	107	外傾	皿状	人為	土師器片, 双孔円板, 転用砥石, 碟	
761	J 13b3	N-0°	円形	1.25×1.25	155	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 瓦片, 砥石, 碟	
763	I 13e8	N-32°-W	楕円形	0.80×0.47	40	外傾	平坦	人為	土師器片	
764	I 13d8	N-90°	楕円形	0.63×0.50	82	外傾	凹凸	人為		
771	J 13g5	N-7°-E	楕円形	0.78×0.55	18	外傾	皿状	自然		
772	J 13h6	N-75°-W	楕円形	0.74×0.62	44	垂直	皿状	人為		
782	I 13d0	N-0°	円形	0.96×0.96	18	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
786	I 14b2	N-90°	楕円形	0.94×0.85	44	垂直	凹凸	自然	土師器片	
787	I 13e0	N-17°-E	不整楕円形	0.50×0.43	50	垂直	凹凸	人為		
788	I 13d0	N-0°	円形	0.39×0.39	22	外傾	皿状	人為		
789	I 13d0	N-70°-E	楕円形	0.65×0.42	15	外傾	皿状	自然	土師器片, 碟	
790	I 13c0	N-0°	円形	0.52×0.52	35	外傾	皿状	不明	土師器片, 碟	
791	I 13c0	N-68°-E	長方形	0.75×0.68	63	外傾	平坦	人為		
792	I 13c0	N-61°-E	楕円形	1.40×0.54	30	外傾	皿状	人為		
793	I 13j7	N-80°-E	楕円形	0.76×0.54	20	外傾	平坦	人為	土師器片	
794	J 13a7	N-0°	円形	0.58×0.58	18	外傾	平坦	自然		
795	I 13e9	N-0°	円形	0.80×0.80	30	外傾	凹凸	不明	土師器片, 緑釉陶器片(段皿), 粘土塊	
796	I 13e4	N-9°-W	長方形	1.03×0.63	40	外傾	凹凸	不明		
799	I 13d0	N-0°	円形	0.60×0.60	6	垂直	凹凸	不明		
800	H 12h6	N-63°-E	楕円形	0.92×0.75	不明	不明	不明	不明	土師器片, 須惠器片	
801	K 12d7	N-67°-W	楕円形	0.65×0.52	32	外傾	凹凸	不明		
803	K 12d7	N-0°	[円形または楕円形]	0.45×(0.33)	12	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
808	K 12c6	N-10°-E	不整楕円形	0.46×0.25	25	外傾	皿状	自然		
810	K 12c6	不明	不明	0.95×(0.20)	30	外傾	凹凸	人為	須惠器片	
811	K 12c6	N-71°-W	楕円形	0.35×0.28	15	外傾	皿状	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
812	K12c6	不明	[円形または楕円形]	(0.50)×(0.22)	20	外傾	皿状	人為	土師器片(置き籠)	
813	K12c8	N-0°	円形	0.58×0.58	20	緩斜	平坦	人為		
815	J12f0	N-84°-E	楕円形	0.86×0.78	45	外傾	平坦	人為	土師器片	
816	K12d4	N-19°-W	楕円形	1.20×0.96	21	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄滓, 古銭	中世以降
817	J13d1	N-90°	楕円形	0.50×0.44	15	緩斜	皿状	人為		
818	J13e1	N-90°	楕円形	1.20×1.09	24	外傾	平坦	人為		
819	J13e1	N-0°	円形	0.57×0.57	27	外傾	平坦	人為		
820	J13f1	N-90°	楕円形	0.74×0.57	12	緩斜	皿状	人為		
822	J13e2	N-90°	楕円形	1.00×0.78	45	外傾	平坦	不明		
823	J13f2	N-31°-W	楕円形	0.85×0.59	60	外傾	平坦	不明		
824	J13f5	N-0°	不整円形	1.05×1.05	18	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
829	I12g9	N-0°	円形	1.22×1.22	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
830	J12f9	N-27°-W	長方形	2.80×1.10	33	外傾	平坦	人為		
831	J12f0	N-0°	円形	0.46×0.46	43	外傾	皿状	人為		
833	J12c9	N-0°	円形	0.95×0.95	18	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須恵器片, 礫	
835	J13e4	N-18°-W	楕円形	1.55×1.19	25	外傾	平坦	人為	土師器片	
836	K12b5	N-3°-E	長方形	2.44×[0.90]	5	不明	平坦	人為		
837	K12b5	N-16°-E	長方形	2.10×0.90	8	不明	平坦	人為	土師器片	
838	K12b4	N-90°	楕円形	1.23×0.96	38	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	
839	K12b4	N-0°	円形	0.72×0.72	33	外傾	皿状	自然	土師器片	
840	K12d5	N-14°-W	楕円形	0.53×0.42	40	外傾	皿状	人為	土師器片	
841	K12d5	N-19°-E	楕円形	0.50×0.34	42	垂直	凹凸	人為	土師器片	
842	J13h2	N-22°-E	不定形	[1.65×1.36]	25	緩斜	凹凸	人為		
843	J13i2	N-20°-W	[円形]	1.00×(0.85)	32	緩斜	凹凸	人為	須恵器片	
844	J13i2	N-90°	楕円形	0.25×0.20	20	外傾	皿状	人為	土師器片	
845	J13i2	N-15°-W	[楕円形]	0.80×(0.40)	50	外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	
846	J13i2	N-48°-E	楕円形	0.50×0.40	40	外傾	凹凸	人為		
847	J13i2	N-45°-E	円形	0.80×0.80	21	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
848	J12j0	N-48°-W	楕円形	1.10×0.80	19	緩斜	皿状	人為		
849	J13h1	N-55°-W	楕円形	1.12×1.00	25	外傾	皿状	人為	土師器片	
850	K12e1	不明	[円形または楕円形]	1.15×(0.42)	50	外傾	平坦	人為		
851	K12e1	N-88°-W	長方形	0.98×0.75	52	外傾	平坦	人為	砥石, 礫	
852	K12a8	N-0°	円形	0.52×0.52	102	垂直	皿状	不明	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
853	K12a9	N-0°	円形	0.71×0.71	110	垂直	皿状	不明	土師器片, 土製支脚, 礫	
854	I13j1	N-0°	円形	0.80×0.80	15	緩斜	皿状	自然		
855	I12i0	N-81°-W	楕円形	(0.65)×0.45	44	外傾	凹凸	人為	土師器片, 礫, 粘土塊	
856	I12i0	N-11°-W	円形または楕円形	0.46×(0.40)	30	緩斜	皿状	人為	土師器片	
857	K12a5	N-21°-E	楕円形	0.60×0.50	25	外傾	皿状	自然	土師器片	
858	K12a5	N-84°-E	隅丸長方形	1.10×0.88	32	外傾	皿状	自然	土師器片	
859	I13i1	N-5°-W	方形	0.70×0.70	40	外傾	皿状	自然	土師器片, 須惠器片, 礫	
860	J13b2	N-0°	円形	0.33×0.33	不明	不明	不明	不明	土師器片, 須惠器片	
861	I13j3	N-0°	円形	0.60×0.60	65	垂直	凹凸	自然	土師器片	
862	K12a9	N-18°-E	不定形	1.00×0.87	95	緩斜 (部垂直)	凹凸	不明		
863	K12a0	N-43°-W	楕円形	0.47×0.40	19	緩斜	皿状	不明		
865	L11e7	N-22°-E	長方形	0.93×1.00	45	外傾	皿状	自然	土師器片, 粘土塊, 剥片	
867	K12d8	N-13°-W	不整楕円形	1.27×0.96	40	外傾	平坦	自然	土師器片, 礫	
870	K12d8	N-0°	円形	0.50×0.50	不明	不明	不明	不明		
871	K12d8	N-56°-W	楕円形	0.67×0.50	不明	不明	不明	不明		
872	L11f7	不明	[円形または楕円形]	(1.00×0.45)	24	外傾	凹凸	人為	土師器片	
873	L11g8	N-15°-E	楕円形	(0.83)×0.79	73	外傾	平坦	人為		
874	K12e1	N-74°-E	[円形または楕円形]	0.65×(0.54)	35	垂直	皿状	人為	土師器片	
876	K11e0	不明	[方形または長方形]	1.56×(1.05)	不明	不明	不明	不明	土師器(坏), 須惠器片, 鉄滓, 粘土塊	
877	L11c9	N-0°	円形	1.35×1.35	34	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器(椀), 鉄滓, 礫	
878	L11b8	N-75°-W	長方形	2.26×0.86	19	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 礫	
879	L11f6	不明	[方形または長方形]	1.28×(0.80)	20	外傾	平坦	自然	土師器片	
880	L11h0	N-90°	楕円形	1.45×0.85	28	外傾	皿状	人為		
881	I13i1	N-81°-E	楕円形	0.96×0.78	32	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
882	I12i0	N-22°-W	楕円形	(0.70)×0.60	不明	不明	不明	不明		
883	J12a0	N-0°	円形	0.27×0.27	不明	不明	不明	不明	土師器片, 礫	
884	I12j9	N-53°-W	楕円形	0.44×0.40	50	外傾	皿状	人為		
885	J12a9	N-43°-E	楕円形	0.46×0.30	不明	不明	不明	不明		
886	I12j8	N-57°-W	楕円形	0.70×0.63	75	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
887	I12j0	N-0°	円形	0.32×0.32	不明	不明	不明	不明		
888	L11f9	N-10°-E	[楕円形]	0.55×(0.50)	30	外傾	平坦	自然	土師器片, 磨石	
889	L11f9	N-0°	円形	0.65×0.65	26	緩斜	平坦	不明		
890	L11d7	N-81°-W	長方形	1.34×0.90	41	外傾	平坦	人為	土師器片, 礫	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出土遺物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
892	K11f0	N-0°	円形	0.33×0.33	50	垂直	皿状	不明	土師器片	
893	L12f4	N-86°-W	楕円形	1.20×[0.95]	10	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
894	L12g4	N-0°	不整円形	1.10×1.10	12	緩斜	皿状	人為	土師器片	
902	L12f2	N-8°-E	不整楕円形	1.12×0.90	25	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須惠器片, 不明鉄製品	
903	L12f1	N-8°-E	楕円形	1.30×0.95	45	外傾	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
904	L12f1	N-90°	楕円形	0.88×0.77	50	外傾	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
905	L11e9	N-23°-W	楕円形	1.00×0.84	20	外傾	平坦	人為	須惠器片, 鉄滓	
906	L11e7	不明	[円形または楕円形]	0.99×(0.50)	不明	不明	不明	不明		
907	K11f0	N-90°	楕円形	0.40×0.35	45	外傾	皿状	不明	土師器片	
910	K11j0	N-46°-E	楕円形	1.45×1.25	35	外傾	平坦	自然	土師器片, 鉄製品(釘), 灰釉陶器片	
912	K12f1	N-52°-E	不定形	0.85×0.80	35	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 礫	
914	K12g1	N-90°	楕円形	0.75×0.53	47	垂直	皿状	自然	土師器片, 須惠器片	
916	K12g1	N-62°-W	楕円形	1.65×1.30	53	垂直	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
917	K12g2	N-0°	円形	0.90×0.90	30	垂直	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 礫	
920	L12f2	N-33°-W	楕円形	1.98×1.12	125	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須惠器片, 粘土塊	
921	K12g3	N-62°-W	楕円形	0.57×0.50	55	外傾	皿状	不明	土師器片, 鉄滓	
922	L11f0	N-17°-E	方形	1.20×1.15	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
924	L11a9	N-12°-E	長方形	1.55×0.73	15	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
926	L11a0	N-43°-W	不整楕円形	1.44×1.02	20	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
932	L11a0	N-0°	円形	0.98×(0.85)	12	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
934	L11a0	N-0°	円形	0.95×0.95	14	緩斜	平坦	自然	土師器片	
939	K11j0	N-0°	楕円形	1.95×1.45	48	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 砥石, 粘土塊, 礫	
940	K12h1	N-0°	円形	1.05×1.05	40	不明	凹凸	不明	土師器片	
943	L12a1	N-0°	円形	1.02×1.02	20	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 剥片	
945	K12j1	N-0°	円形	0.44×0.44	22	外傾	皿状	不明	土師器片	
946	K11j0	N-0°	不整円形	1.25×1.22	39	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
947	K12j1	N-0°	円形	0.97×0.97	37	外傾	皿状	人為	土師器片	
948	L12a2	N-82°-W	[方形または長方形]	1.25×(1.21)	16	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
949	K12j2	N-65°-E	不定形	0.68×0.57	26	垂直	平坦	人為		
951	K12j1	N-12°-W	楕円形	0.65×0.52	8	緩斜	皿状	自然		
954	K12h2	N-0°	方形	1.00×1.00	19	緩斜	皿状	人為		
955	K12i1	N-65°-W	楕円形	1.20×(0.56)	23	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
956	K12i1	N-43°-W	楕円形	0.94×0.85	28	垂直	平坦	自然	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
958	K11i0	N-55°-W	不整楕円形	1.65×1.30	44	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片, 陶器片	
962	K11i0	N-83°-E	不整楕円形	(1.45)×0.66	8	緩斜	皿状	人為	土師器片	
963	K12i1	N-44°-W	楕円形	0.46×0.36	46	垂直	皿状	不明	土師器片, 礫	
964	K12i1	N-80°-W	楕円形	0.53×0.47	28	緩斜	平坦	人為		
965	K12i2	N-0°	円形	0.92×0.92	6	緩斜	皿状	人為		
966	K12i2	N-0°	円形	0.87×0.87	5	緩斜	皿状	不明	土師器片	
968	K11g0	不明	[円形または楕円形]	0.60×(0.50)	12	緩斜	皿状	不明		
969	K11g0	N-0°	不定形	0.88×0.86	64	外傾	平坦	不明		
970	K12i1	N-0°	円形	1.10×1.10	25	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
971	K12i2	N-0°	円形	0.95×0.95	23	外傾	皿状	人為	土師器片, 緑釉陶器片, 礫	
972	L11b7	不明	[円形または楕円形]	1.10×0.55	45	外傾	皿状	人為	土師器片	
973	L11e8	N-85°-W	長方形	0.98×0.80	14	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
974	L11e8	N-16°-E	長方形	1.70×1.04	20	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
975	L11e8	N-87°-W	長方形	[1.10]×0.86	15	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
976	L11f8	N-0°	円形	0.37×0.37	26	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
977	L11f8	N-0°	楕円形	0.80×0.65	70	垂直	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
978	L11e8	N-24°-E	楕円形	0.80×0.53	30	緩斜	皿状	人為	土師器(手捏土器), 管状土錘	
979	K12i1	不明	[円形または楕円形]	(1.28)×(0.89)	18	緩斜	皿状	人為	土師器片, 鉄製品(釘), 管状土錘, 礫	
980	K12i2	N-0°	円形	1.10×1.10	10	緩斜	皿状	人為	土師器片, 粘土塊	
981	L12d5	N-90°	不定形	1.11×0.85	13	不明	不明	不明	土師器片, 須惠器片, 管状土錘	
983	K12h1	N-0°	円形	1.17×1.17	15	緩斜	平坦	人為	土師器片, 礫	
985	K12h2	N-7°-E	[方形または長方形]	1.00×(0.90)	16	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
986	K12i2	N-0°	円形	1.15×1.15	18	緩斜	平坦	人為	土師器片, 礫	
989	L11a9	N-90°	楕円形	0.35×0.30	33	不明	不明	不明		
990	L11a0	不明	[円形または楕円形]	[0.96]×(0.50)	12	不明	平坦	不明		
991	K11j0	N-90°	楕円形	0.73×0.53	24	緩斜	凹凸	人為	弥生土器片	
993	L11e8	N-29°-E	楕円形	0.95×0.80	20	緩斜	皿状	人為	土師器片	
994	L11e8	N-90°	不整楕円形	1.03×0.94	27	緩斜	凹凸	自然	土師器片, 鉄滓	
997	L11e7	N-24°-W	楕円形	1.85×1.25	21	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	10世紀後半
998	L11e6	N-0°	円形	1.52×1.52	44	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄滓, 礫	
999	L11f7	N-0°	円形	0.25×0.25	35	垂直	平坦	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄滓, 礫	
1001	F8d8	N-0°	円形	0.85×0.85	8	緩斜	皿状	人為	須惠器片	
1002	F8c9	N-71°-W	長方形	1.60×0.64	4	緩斜	平坦	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1003	F 8 e0	N-82°-W	楕円形	1.00×0.75	4	緩斜	皿状	人為		
1004	F 9 e1	N-0°	楕円形	0.88×0.72	4	緩斜	平坦	人為		
1005	F 9 f2	N-5°-E	長方形	2.28×1.25	25	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
1006	F 9 f2	N-5°-E	方形	1.50×1.50	2	緩斜	皿状	人為		
1007	F 9 e3	N-75°-W	長方形	(1.10)×0.90	9	緩斜	皿状	人為	土師器片	
1008	F 9 e3	N-15°-E	長方形	1.31×1.10	24	緩斜	凹凸	人為		
1009	F 9 g2	N-4°-E	不整形	1.10×1.10	5	緩斜	平坦	人為		
1011	F 9 g2	N-70°-W	長方形	2.43×1.38	15	緩斜	平坦	人為	土師器片, 鉄滓, 礫	
1012	F 9 f3	N-7°-E	方形	0.83×0.83	24	垂直	凹凸	人為	土師器片	
1013	F 9 f4	N-82°-W	長方形	1.25×1.12	16	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
1014	F 8 e0	N-0°	不定形	1.90×1.90	35	緩斜	皿状	人為	土師器片	
1015	F 9 d3	N-50°-W	楕円形	1.30×0.70	7	外傾	平坦	人為		
1016	F 9 c2	N-0°	不整形	0.96×0.96	10	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1017	F 9 b2	N-0°	不整形	0.71×0.71	60	外傾	凹凸	人為		
1018	F 9 c3	N-79°-W	長方形	1.46×1.05	20	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 礫	
1019	F 9 e2	N-8°-E	長方形	1.60×1.27	25	外傾	平坦	人為	土師器片	
1020	F 8 b9	N-1°-E	長方形	0.79×0.49	17	緩斜	凹凸	人為		
1021	F 9 b1	N-14°-W	不整形	0.70×0.70	46	垂直	凹凸	人為	土師器片	
1022	F 9 b1	N-78°-W	長方形	1.45×1.26	25	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
1023	F 9 b2	N-0°	円形	1.03×1.03	65	垂直	凹凸	人為		
1024	F 9 g2	N-70°-W	長方形	1.34×1.15	30	垂直	平坦	人為		
1025	F 9 e2	N-8°-E	方形	1.20×1.20	52	外傾	平坦	人為		
1026	E 8 i9	N-0°	円形	0.50×0.50	42	垂直	皿状	人為		
1027	E 8 i0	N-70°-E	楕円形	0.50×0.40	23	垂直	皿状	人為		
1028	E 9 i3	N-0°	円形	0.44×0.44	11	外傾	皿状	人為		
1029	E 9 h2	N-6°-E	楕円形	0.65×0.52	23	外傾	平坦	人為		
1030	E 9 h2	N-19°-W	楕円形	0.65×0.37	20	外傾	平坦	自然		
1031	E 9 g2	N-0°	円形	0.37×0.37	18	外傾	皿状	人為		
1032	E 9 g2	N-30°-E	楕円形	0.44×0.39	10	外傾	平坦	自然		
1033	E 9 d3	N-18°-E	不整形楕円形	2.07×1.08	21	緩斜	皿状	人為		
1034	E 9 d2	N-75°-W	長方形	1.31×0.80	25	外傾	皿状	人為		
1035	E 9 d2	N-8°-E	楕円形	0.90×0.70	19	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1036	E 9 g3	不明	[楕円形]	0.85×(0.75)	18	外傾	平坦	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1037	E 9 g3	N - 0°	[円形]	0.65×[0.65]	23	外傾	平坦	人為		
1038	E 9 g2	N - 0°	円形	0.70×0.70	18	外傾	平坦	自然		
1039	E 9 f2	N - 0°	円形	0.29×0.29	40	垂直	皿状	人為		
1040	E 9 e3	N - 70° - E	楕円形	0.55×0.42	14	外傾	皿状	人為		
1041	E 9 e3	N - 57° - E	不整楕円形	0.97×0.75	16	垂直	平坦	人為		
1042	E 9 e3	N - 0°	円形	0.29×0.29	25	垂直	凹凸	自然		
1043	E 9 d3	N - 15° - E	楕円形	0.80×0.60	20	外傾	皿状	人為		
1044	E 9 d4	N - 0°	円形	0.43×0.43	63	垂直	皿状	人為		
1045	E 9 d2	N - 62° - E	楕円形	0.75×0.56	10	外傾	平坦	人為		
1046	E 9 d1	N - 90°	長方形	0.84×0.55	30	緩斜	凹凸	人為		
1047	E 9 c2	N - 0°	長方形	1.40×0.95	9	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1048	E 9 c2	N - 8° - E	隅丸長方形	1.36×0.70	12	外傾	平坦	人為		
1049	E 9 c2	N - 8° - E	[楕円形]	0.88×(0.75)	30	緩斜	平坦	人為		
1050	E 9 c2	N - 8° - E	楕円形	2.60×1.20	50	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	中世以降
1051	E 9 c2	N - 19° - E	[楕円形]	(2.40)×(0.45)	20	緩斜	凹凸	人為		
1052	E 9 a5	不明	[円形または楕円形]	1.28×(0.80)	70	垂直	凹凸	自然	土師器片	
1053	E 9 a5	N - 83° - W	長方形	0.62×0.43	6	外傾	皿状	人為		
1054	E 9 b5	N - 0°	楕円形	1.01×0.59	42	外傾	凹凸	自然		
1055	E 9 b5	N - 90°	不整楕円形	1.58×1.40	21	緩斜	平坦	自然		
1056	E 9 b3	不明	[方形または長方形]	1.40×(1.00)	22	垂直	平坦	人為		
1057	E 9 b2	不明	[方形または長方形]	0.93×(0.44)	37	緩斜	凹凸	人為		
1058	E 9 b3	N - 0°	長方形	1.70×1.04	15	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片	
1059	E 9 b3	N - 0°	長方形	1.35×(0.52)	13	緩斜	平坦	人為		
1060	E 9 b3	N - 84° - W	長方形	1.41×[1.00]	28	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 礫	
1061	E 9 a3	N - 78° - W	不整長方形	2.07×1.35	50	外傾	凹凸	人為		
1062	E 9 a3	不明	[方形または長方形]	0.77×(0.47)	8	緩斜	皿状	人為		
1063	E 9 b1	N - 0°	楕円形	0.68×0.58	11	緩斜	皿状	人為		
1064	E 9 b3	N - 90°	楕円形	1.60×1.02	14	緩斜	凹凸	人為		
1066	E 9 h1	N - 37° - W	不整楕円形	0.77×0.47	57	垂直	皿状	人為		
1067	E 9 h1	N - 0°	円形	0.40×0.40	41	垂直(内傾)	凹凸	人為	土師器片, 砥石, 礫	
1068	E 9 h1	N - 90°	楕円形	0.55×0.50	50	垂直(内傾)	凹凸	人為		
1069	E 9 h1	N - 0°	円形	0.30×0.30	34	垂直	皿状	自然		
1070	E 9 b2	不明	[円形または楕円形]	0.60×(0.25)	11	緩斜	皿状	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1071	E 9 b4	N-80°-E	方形	0.73×0.73	5	緩斜	皿状	人為		
1072	E 9 b4	N-9°-E	長方形	1.50×0.86	18	緩斜	平坦	人為	土師器片, 碟	
1073	E 9 b4	不明	[方形または長方形]	1.10×(1.00)	4	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1074	E 9 a4	N-0°	楕円形	0.42×0.36	48	垂直	皿状	人為		
1075	E 9 d2	N-9°-E	楕円形	0.95×0.58	15	緩斜	皿状	人為		
1077	E 9 a1	N-30°-W	楕円形	0.44×0.35	44	垂直	皿状	自然		
1078	F 9 b1	N-90°	不整楕円形	1.10×0.70	62	垂直	平坦	人為		
1079	F 9 b1	N-0°	円形	0.65×0.65	43	緩斜	凹凸	人為		
1080	F 8 b0	N-0°	円形	0.63×0.63	52	垂直	平坦	人為		
1081	F 9 b2	N-30°-W	楕円形	0.62×0.45	63	垂直	皿状	人為		
1082	F 8 b9	N-0°	方形	0.80×0.80	38	緩斜	凹凸	人為		
1083	E 8 j0	N-0°	円形	0.51×0.51	48	垂直	平坦	人為		
1084	E 8 j9	N-0°	円形	0.50×0.50	74	垂直	皿状	人為		
1085	F 8 a0	N-0°	円形	0.50×0.50	30	垂直	凹凸	人為		
1086	F 9 a1	N-90°	楕円形	0.60×0.45	10	緩斜	平坦	人為		
1087	E 9 e1	N-0°	隅丸長方形	1.11×0.80	23	外傾	平坦	不明	土師器片	
1088	E 8 e0	N-7°-E	[方形または長方形]	1.60×(0.80)	21	緩斜	平坦	自然		
1089	E 9 c2	N-46°-E	楕円形	0.60×0.50	28	緩斜	皿状	不明		
1090	E 9 c5	N-0°	円形	1.23×1.23	14	緩斜	皿状	人為		
1091	E 9 b5	N-11°-E	楕円形	1.15×0.85	40	緩斜	凹凸	人為	土師質土器片	
1092	E 9 b6	N-18°-E	不整楕円形	1.75×0.76	54	外傾	凹凸	人為		
1093	E 9 b6	N-0°	方形	1.05×1.05	12	外傾	皿状	人為	土師器片	
1094	E 9 b6	N-0°	円形	0.35×0.35	15	外傾	皿状	自然		
1095	E 9 b6	N-0°	楕円形	0.58×0.52	60	外傾	凹凸	人為		
1096	E 9 c2	N-90°	楕円形	0.38×0.33	16	垂直	皿状	人為	土師器片, 磨石, 砥石	
1097	E 9 b6	N-14°-E	不定形	[1.50]×1.20	24	外傾	平坦	人為		
1098	E 9 c6	N-14°-E	[方形または長方形]	1.08×(0.64)	37	-	平坦	人為		
1099	E 9 c6	N-14°-E	長方形	[2.00]×1.05	37	-	平坦	人為		
1100	E 9 c6	N-14°-E	[方形または長方形]	1.00×(0.73)	33	垂直	平坦	人為		
1101	L 11 f0	N-0°	不整円形	0.71×0.71	29	緩斜	皿状	自然		
1102	L 12 a1	N-75°-W	長方形	1.95×0.89	70	垂直	凹凸	人為		
1103	L 11 d6	N-13°-E	長方形	1.76×0.85	38	外傾	平坦	人為		
1104	L 11 d7	不明	[円形または楕円形]	1.23×(0.70)	20	外傾	皿状	自然	土師器片, 須恵器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1105	L11e7	N-10°-W	[円形または楕円形]	1.18×(0.89)	25	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 羽口, 礫	
1106	K12g1	N-38°-E	不定形	2.08×(1.65)	57	オーバーハング内傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
1107	K11h0	N-7°-E	長方形	1.52×0.69	28	外傾	平坦	人為		
1108	K11h0	N-17°-E	長方形	1.41×0.98	65	外傾	凹凸	人為	土師器片	
1109	K11h0	N-0°	円形	0.97×0.97	13	緩斜	皿状	人為	土師器片	
1111	K11i9	N-7°-E	楕円形	1.65×1.34	48	外傾	皿状	不明	土師器片, 須恵器片	
1112	L11d8	N-0°	円形	0.95×0.95	26	外傾	平坦	人為	土師器片, 鉄滓	
1113	L11d7	N-50°-E	楕円形	[0.82]×0.65	26	緩斜	平坦	人為	土師器片, 鉄滓	
1114	L11d7	N-90°-E	楕円形	1.62×1.36	17	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄製品(釘), 鉄滓	
1115	L11b8	N-32°-E	楕円形	0.64×0.47	40	垂直	皿状	人為	土師器片	
1116	L11e9	N-0°	楕円形	0.64×0.54	21	緩斜	皿状	人為	土師器片	
1117	L11e9	N-0°	円形	1.15×1.15	40	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須恵器片, 粘土塊	
1119	L11a0	N-0°	楕円形	0.50×0.42	40	外傾	皿状	人為		
1120	L12f4	N-8°-W	不整楕円形	2.62×2.12	23	外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片, 緑釉陶器片, 灰釉陶器片, 鉄滓	10世紀前葉
1121	L11c0	N-47°-E	楕円形	1.63×0.90	14	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
1122	L11d0	N-78°-W	不整楕円形	1.55×0.95	28	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
1123	L11d0	不明	[円形または楕円形]	1.10×(0.60)	17	緩斜	凹凸	人為		
1124	L11d0	N-90°	楕円形	1.00×0.84	30	外傾	凹凸	人為	土師器片, 礫	
1125	L11d8	N-0°	円形	0.99×0.99	21	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 緑釉陶器片, 鉄滓	
1126	L11e6	N-0°	円形	0.68×0.68	16	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
1127	L11e6	N-0°	円形	0.57×0.57	13	外傾	皿状	自然		
1128	K12h1	N-0°	円形	1.20×1.20	31	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 礫	
1129	K11h0	N-0°	円形	1.03×1.03	45	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
1130	K11h0	N-29°-W	不整楕円形	1.20×(1.15)	40	緩斜	平坦	人為		
1131	K11j9	N-8°-E	楕円形	3.10×1.25	20	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 緑釉陶器片, 礫	
1132	L12i6	N-90°-E	円形	0.80×0.70	40	外傾	平坦	不明	土師器片(坏・埴・甕)	6世紀初頭
1133	L11b9	N-80°-W	楕円形	1.07×0.70	7	緩斜	皿状	人為	土師器片	
1134	L11b9	N-0°	円形	0.85×0.85	23	緩斜	皿状	人為	土師器片, 羽口, 灰釉陶器片	
1135	L11c8	N-5°-W	楕円形	0.85×0.70	13	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1136	L12f3	N-55°-W	方形	3.9×3.2	-	外傾	-	人為	土師器片, 礫	
1140	L11f0	N-90°	楕円形	0.70×0.60	25	緩斜	皿状	自然	土師器片, 礫	
1141	L11f0	N-82°-W	不定形	2.75×1.95	10	緩斜	皿状	自然	土師器片	
1142	L11b8	N-36°-W	楕円形	1.19×1.02	18	緩斜	平坦	人為	緑釉陶器(碗)	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1150	L12d5	N-13°-E	不定形	1.25×0.55	101	-	-	不明	土師器片	
1151	L12d5	N-14°-E	長方形	1.23×0.90	9	-	-	不明		
1152	L12d5	N-0°	円形	0.70×0.70	12	緩斜	皿状	不明	土師器片	
1157	K11g0	N-90°	楕円形	1.40×1.25	48	垂直	平坦	不明	土師器片	
1158	K12h3	N-0°	円形	0.86×0.86	7	緩斜	平坦	不明	土師器片, 須惠器片, 磔	
1160	L12a3	N-0°	円形	1.43×1.43	17	緩斜	皿状	人為	土師器片	
1161	K12i3	N-0°	円形	1.20×1.20	15	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
1162	K11g0	N-76°-E	不整楕円形	1.22×1.08	40	垂直	平坦	人為	土師器片	
1164	K12f2	N-39°-W	楕円形	[0.75]×0.55	20	緩斜	皿状	人為		
1165	K12f2	N-0°	円形	1.75×1.75	58	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片, 磔	
1167	L11c0	N-26°-E	不整楕円形	1.20×0.83	63	垂直	凹凸	人為	土師器片, 陶器片	
1169	K12f1	N-0°	円形	0.50×0.50	64	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 陶器片, 磔	
1170	K12e2	N-0°	不整円形	0.46×0.46	38	垂直	平坦	不明		
1171	K12e2	N-0°	楕円形	0.92×0.80	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 磔	
1172	K12e2	N-0°	不整円形	0.93×0.93	15	垂直	平坦	人為	土師器(高台付坏), 須惠器片, 磔	
1173	K12e1	不明	[円形または楕円形]	0.60×(0.29)	65	外傾	凹凸	不明		
1174	K12f2	N-0°	不定形	0.84×0.82	19	外傾	皿状	自然	土師器片	
1175	K12e2	N-0°	円形	0.45×0.45	17	外傾	平坦	人為	須惠器片	
1176	K12g2	N-12°-E	楕円形	1.25×0.66	16	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
1177	K12g2	N-0°	円形	0.76×0.76	17	緩斜	皿状	人為	土師器片, 磔	
1178	K12h2	[N-0°]	[円形]	1.28×[1.28]	30	外傾	皿状	人為		
1179	K12h1	N-31°-W	楕円形	1.21×1.03	24	垂直	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 磔	
1180	K12g1	N-0°	円形	1.30×1.30	25	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
1181	K11g0	N-14°-E	長方形	1.80×0.85	24	外傾	平坦	人為	土師器片	
1183	K12f1	N-0°	円形	0.75×0.75	40	緩斜	皿状	人為		
1184	K12g2	N-12°-E	楕円形	1.00×0.64	29	緩斜	皿状	人為	土師器, 鉄滓	
1185	K12g2	N-3°-E	不定形	2.30×1.57	15	垂直	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
1186	K12g2	N-83°-W	長方形	0.57×0.45	17	外傾	平坦	不明	土師器片	
1187	K12g2	N-69°-W	長方形	2.10×1.10	11	緩斜	平坦	人為	土師器片, 磔	
1188	K12g2	N-0°	円形	1.30×1.30	13	緩斜	平坦	人為		
1189	K12g2	不明	不整円形	1.08×1.08	32	垂直	凹凸	人為		
1190	K11f0	N-0°	長方形	0.91×[0.80]	54	緩斜	凹凸	不明	土師器片, 磔	
1191	K11i9	N-0°	楕円形	0.75×0.61	15	緩斜	皿状	不明	土師器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1192	K11i0	N-4°-W	長方形	0.60×0.40	22	外傾	皿状	不明		
1194	K12g1	N-9°-E	楕円形	1.40×1.15	30	外傾	平坦	人為		
1195	K12h2	N-74°-W	長方形	[3.90]×0.75	24	緩斜	皿状	自然	磔	
1196	K12h2	N-12°-E	[方形または長方形]	0.62×0.50	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 磔	
1197	K12h1	N-0°	円形	1.16×1.16	71	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
1198	K12h2	不明	[不整形または不整形長方形]	1.50×(0.85)	9	緩斜	平坦	不明		
1199	K12h2	N-20°-W	楕円形	0.35×0.31	35	垂直	皿状	不明		
1200	K12h2	N-77°-E	楕円形	0.70×0.46	56	外傾	皿状	人為	土師器(坏)	
1201	L11g6	不明	[円形または楕円形]	(0.70×0.15)	38	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1202	L11g6	N-0°	円形	0.60×0.60	35	外傾	皿状	人為		
1203	L11g6	不明	[円形または楕円形]	1.30×(0.61)	37	外傾	平坦	人為		
1204	K12g2	N-17°-W	楕円形	0.60×0.47	10	緩斜	平坦	不明	土師器片	
1206	K12i1	N-76°-W	楕円形	1.43×1.10	62	垂直	凹凸	人為		
1207	K12h1	N-0°	円形	0.30×0.30	52	垂直	平坦	不明		
1208	K12h2	不明	[円形または楕円形]	1.05×(0.55)	14	垂直	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	
1212	K11i0	N-0°	円形	0.94×0.94	31	外傾	皿状	自然	土師器片, 須恵器片, 磔	
1216	K11j0	N-78°-W	長方形	[2.60]×1.87	30	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 磔	
1217	K12f2	N-90°	楕円形	0.35×0.25	33	垂直	皿状	人為	土師器片, 須恵器片, 羽口, 磔	
1218	K12h1	N-90°	楕円形	0.40×0.30	63	垂直	皿状	不明	土師器片	
1219	K12i2	N-0°	楕円形	0.65×0.46	11	緩斜	皿状	人為	土師器片, 陶器片	
1223	K11i9	N-0°	楕円形	0.35×0.30	24	外傾	皿状	不明		
1224	K11i0	N-26°-E	楕円形	0.54×0.35	58	垂直	凹凸	不明	土師器(坏)	
1225	K11h0	N-31°-E	楕円形	0.45×0.39	55	垂直	皿状	不明	土師器片	
1227	L12a1	N-25°-W	不整形楕円形	0.95×0.50	25	外傾	凹凸	人為		
1228	L12b2	N-19°-E	楕円形	(0.95)×0.95	10	緩斜	皿状	不明	土師器片	
1229	L12b1	不明	[円形または楕円形]	0.57×(0.24)	18	緩斜	皿状	人為		
1230	L12b1	N-19°-E	不整形楕円形	1.92×0.80	96	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	第5号不明遺構
1231	L12a3	N-80°-W	楕円形	0.59×0.49	24	緩斜	凹凸	不明	土師器片, 粘土塊, 磔	
1232	K11g0	N-0°	円形	0.35×0.35	65	外傾	凹凸	人為		
1233	K11g0	N-33°-W	楕円形	0.34×0.27	63	外傾	凹凸	人為	須恵器片	
1234	K12j4	N-0°	円形	0.95×0.95	15	外傾	平坦	人為	土師器片	
1235	K12i5	N-0°	円形	1.05×1.05	20	緩斜	凹凸	不明	土師器片, 須恵器片, 磔	
1237	K12e1	N-8°-E	楕円形	0.94×0.94	37	外傾	皿状	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1238	K12e1	不明	[円形または楕円形]	1.00×(0.85)	25	外傾	平坦	人為		
1239	K12h1	N-5°-E	長方形	1.65×0.70	12	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
1240	L12b2	不明	[方形または長方形]	0.90×(0.58)	28	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
1241	K12i1	不明	[円形または楕円形]	1.25×(0.85)	39	不明	平坦	不明	土師器片	
1242	L11a8	N-0°	不整楕円形	0.96×0.80	45	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 灰釉陶器片, 砥石, 礫	
1243	K12g5	N-90°	楕円形	0.60×0.54	36	緩斜	平坦	人為		
1244	K12g5	N-19°-E	不整楕円形	1.17×0.95	30	外傾	凹凸	人為		
1245	K12g5	N-0°	長方形	0.90×0.83	45	外傾	凹凸	不明	土師器片, 須惠器片	
1246	K12g5	N-0°	円形	0.83×0.83	35	外傾	凹凸	人為		
1247	L12e6	N-9°-E	楕円形	1.23×0.80	16	緩斜	平坦	不明		
1248	K12h5	N-43°-E	長方形	0.90×0.62	5	緩斜	平坦	不明		
1250	K12f5	N-28°-W	不定形	0.80×0.70	28	外傾	凹凸	不明	土師器片, 礫, 置き竈片	
1251	K12f4	N-32°-E	不整楕円形	1.14×0.95	38	緩斜	凹凸	不明		
1252	K12f4	N-0°	円形	1.10×1.10	35	緩斜	凹凸	不明	土師器片, 礫	
1253	L12b3	N-0°	不整楕円形	2.35×0.85	98	緩斜	凹凸	不明	土師器片, 須惠器片	第5号不明遺構
1254	K12g3	N-0°	円形	0.72×0.72	10	緩斜	平坦	不明	礫	
1255	K12g3	N-72°-W	楕円形	0.68×0.60	9	緩斜	平坦	不明	土師器片	
1256	K12g3	N-70°-E	楕円形	0.52×0.46	不明	不明	不明	不明		
1257	K12i3	N-0°	円形	0.95×0.95	10	緩斜	皿状	人為	土師器片	
1258	K12e1	不明	不定形	1.35×(0.65)	22	外傾	凹凸	不明		
1259	K12f3	N-15°-W	長方形	0.48×0.32	40	外傾	皿状	自然	土師器片	
1260	K12h4	N-53°-W	不整楕円形	1.10×0.95	32	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須惠器片	
1261	L12h3	N-69°-E	楕円形	0.60×0.52	140	垂直	皿状	不明	土師器(坏)	
1263	K12j3	N-0°	円形	0.95×0.95	44	外傾	凹凸	人為		
1264	K12j2	N-0°	円形	1.10×1.10	16	緩斜	平坦	人為		
1265	L12g1	N-0°	[円形]	0.70×(0.55)	26	外傾	平坦	不明	砥石, 羽口, 礫	
1266	K12j4	N-24°-W	楕円形	0.67×0.50	55	外傾	皿状	不明		
1267	L12g1	N-0°	円形	1.00×1.00	32	外傾	平坦	不明		
1268	K12i4	N-0°	円形	0.86×0.86	25	垂直	平坦	不明		
1269	K12f5	N-0°	不定形	0.65×0.50	53	外傾	凹凸	不明		
1270	K12i4	N-58°-E	楕円形	0.75×0.50	60	垂直	凹凸	不明	土師器片	
1273	K12h4	N-18°-W	楕円形	0.34×0.30	22	緩斜	皿状	人為		
1274	K12g5	N-90°	楕円形	0.45×0.40	34	垂直	凹凸	不明		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1276	L12d1	N-50°-E	楕円形	1.45×1.26	20	外傾	皿状	不明	土師器(坏・甕)	10世紀後半以降
1277	L12c2	N-0°	不整形	1.30×1.10	40	外傾	平坦	人為	土師器(坏・甕)	10世紀後半以降
1278	L12c1	N-0°	長方形	0.72×0.65	58	垂直	凹凸	不明		
1281	L12a2	N-90°	楕円形	1.70×1.45	30	緩斜	皿状	不明		
1282	K12g4	N-78°-E	楕円形	0.63×0.51	85	外傾	皿状	人為		
1283	K12j3	N-0°	[円形]	1.20×(0.98)	68	外傾	凹凸	人為		
1284	K12j3	N-70°-E	[楕円形]	(1.10)×1.00	19	不明	平坦	不明		
1285	K12g4	N-0°	円形	0.35×0.35	72	外傾	皿状	不明		
1286	K12i3	N-60°-E	不整形楕円形	1.50×1.15	25	緩斜	皿状	人為		
1289	L12c4	N-57°-E	長方形	1.62×0.80	54	垂直	平坦	人為		
1290	K12h5	N-0°	不整形楕円形	1.20×0.95	50	垂直	凹凸	自然		
1292	K11i0	N-82°-W	楕円形	1.06×0.84	25	緩斜	皿状	不明		
1293	L12b2	N-8°-E	不整形楕円形	2.15×1.25	100	外傾	凹凸	不明		第5号不明遺構
1294	L12b2	N-12°-E	不整形楕円形	2.25×0.93	95	緩斜	平坦	不明		第5号不明遺構
1295	K12h1	不明	[円形または楕円形]	1.07×(0.55)	18	不明	平坦	不明		
1297	L12b3	N-0°	円形	0.64×0.64	74	外傾	皿状	人為		
1298	L12b3	N-0°	楕円形	0.88×0.61	20	不明	不明	不明		
1300	L13b2	N-67°-E	楕円形	0.65×0.42	26	外傾	皿状	不明	土師器(埴), 碟	
1301	E9b6	不明	[方形または長方形]	1.81×(1.06)	13	外傾	平坦	自然		
1302	E9c6	不明	[方形または長方形]	1.35×(1.20)	18	外傾	平坦	自然		
1303	E9c6	N-80°-W	長方形	2.42×0.90	10	外傾	平坦	不明		
1304	E9d6	N-10°-E	長方形	2.22×1.05	30	緩斜	平坦	人為		
1305	E9d5	N-10°-E	長方形	1.58×0.77	不明	不明	平坦	不明		
1306	E9d5	N-9°-E	長方形	1.50×0.95	30	不明	平坦	人為		
1307	E9d5	N-83°-W	長方形	1.70×0.95	30	垂直	平坦	人為		
1308	E9d5	N-0°	隅丸方形	1.05×1.05	33	緩斜	皿状	人為		
1309	E9d6	N-0°	楕円形	0.83×0.35	33	垂直	凹凸	不明		
1310	E9e5	不明	不定形	1.04×1.00	50	垂直	凹凸	不明		
1311	E9e6	N-76°-W	楕円形	1.08×0.92	48	緩斜	凹凸	不明		
1312	E9f5	N-0°	不整形	1.88×1.88	31	緩斜	皿状	人為	土師質土器(内耳鍋)	
1313	E9f5	N-80°-E	楕円形	1.01×0.90	24	緩斜	皿状	不明	土師質土器(内耳鍋), 碟	
1314	E9f5	N-79°-W	楕円形	0.96×0.58	15	緩斜	皿状	不明		
1315	E9g5	N-0°	長方形	1.00×0.77	21	垂直	平坦	不明	土師器片, 須恵器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1318	E 9 e4	N-0°	円形	0.40×0.40	86	垂直	皿状	不明		
1319	E 9 b4	N-0°	不整円形	0.98×0.98	9	緩斜	皿状	不明		
1320	E 9 b3	N-0°	楕円形	0.54×0.35	15	外傾	皿状	自然	土師器片	
1321	E 9 b4	N-12°-E	不整長方形	1.16×0.94	11	緩斜	平坦	自然	土師器片, 礫	
1322	E 9 c3	N-0°	[方形または長方形]	0.65×(0.63)	36	外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	
1323	E 9 c2	N-4°-E	長方形	0.65×0.41	7	外傾	平坦	不明		
1324	E 9 b3	N-22°-E	長方形	1.60×(0.50)	30	外傾	皿状	人為	土師器(坏), 須恵器片, 灰釉陶器片	
1325	E 9 b3	N-13°-E	長方形	1.55×0.80	15	外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片	
1326	E 9 b3	-	長方形	1.80×0.90	20	外傾	皿状	人為		
1327	F 9 b3	N-90°	長方形	1.14×0.85	20	緩斜	皿状	不明		
1328	F 9 b3	N-0°	方形	1.20×1.20	62	垂直	平坦	人為	土師器片, 灰釉陶器片	
1329	E 9 c2	N-0°	楕円形	0.75×0.50	38	外傾	皿状	人為	土師器片	
1330	E 9 b4	N-13°-E	不整楕円形	1.05×0.57	45	外傾	凹凸	人為		
1331	E 9 b6	N-21°-W	不整楕円形	1.00×0.75	21	外傾	凹凸	人為		
1332	E 9 e2	N-86°-W	長方形	0.85×0.55	71	外傾	皿状	人為	土師器片	
1342	J 14c2	不明	[円形または楕円形]	1.05×(0.54)	21	不明	不明	不明	土師器片, 須恵器片	
1343	J 14d1	不明	[円形または楕円形]	0.72×(0.50)	18	緩斜	皿状	自然		
1512	J 13h6	N-83°-E	楕円形	1.52×0.85	26	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
1513	J 13h7	N-0°	円形	0.56×0.56	31	外傾	皿状	人為	土師器片	
1514	J 14c1	N-0°	不整円形	0.75×(0.72)	15	外傾	平坦	自然	土師器片, 緑釉陶器片	
1515	J 14d2	不明	[円形または楕円形]	(1.00×0.32)	44	垂直	平坦	不明	土師器片	
1516	J 14d1	N-65°-E	楕円形	0.50×0.38	52	外傾	平坦	人為	土師器片	
1518	I 14j4	N-0°	円形	1.10×1.10	34	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
1519	I 14j4	不明	[円形または楕円形]	0.83×(0.49)	6	緩斜	皿状	人為		
1520	I 14j4	N-0°	円形	1.04×1.04	14	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
1521	J 14a4	N-80°-W	楕円形	1.15×0.80	35	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 礫	
1522	I 14j4	N-5°-W	楕円形	0.48×0.38	50	垂直	平坦	不明	土師器片	
1523	J 13e6	N-60°-E	不整楕円形	1.00×0.59	55	外傾	平坦	自然	土師器片	
1525	J 13a6	N-75°-W	不整楕円形	1.15×0.68	28	外傾	凹凸	人為	土師器片	
1526	J 13d5	N-0°	不整円形	0.87×0.87	62	垂直	凹凸	人為	土師器片, 不明土製品	
1527	J 13f6	N-55°-E	楕円形	1.00×0.65	35	外傾	皿状	人為		
1529	J 13c5	N-66°-W	楕円形	0.80×0.65	13	垂直	皿状	人為		
1530	J 13c8	N-90°	楕円形	0.56×[0.42]	35	外傾	皿状	人為	土師器(坏)	古墳時代後期

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1531	J 13d6	N - 0°	円形	0.53×0.53	29	外傾	平坦	不明	土師器片, 粘土塊	
1532	J 13e6	N - 0°	円形	0.60×0.60	38	外傾	皿状	人為	土師器片	
1533	J 13c4	N - 0°	円形	0.48×0.48	29	垂直	平坦	自然	土師器片	
1534	J 13c4	N - 50° - E	楕円形	0.60×0.47	40	垂直	皿状	人為	土師器片	
1535	J 13e6	N - 40° - W	楕円形	0.59×0.50	45	垂直	皿状	人為		
1536	I 13d9	N - 0°	円形	0.76×0.76	25	緩斜	皿状	人為		
1537	J 13h6	N - 80° - E	不整長方形	0.68×0.58	20	緩斜	平坦	人為	土師器片	
1538	J 13f6	N - 0°	円形	0.37×0.37	70	垂直	皿状	人為	土師器片, 須惠器片	
1539	I 13d9	N - 0°	円形	0.48×0.48	15	外傾	平坦	人為		
1540	J 13h6	N - 0°	円形	0.48×0.48	20	外傾	平坦	人為	土師器片	
1541	J 13e6	N - 0°	不整円形	0.57×0.57	85	垂直	凹凸	人為	土師器片	
1542	J 13a0	N - 21° - W	楕円形	0.53×0.40	44	外傾	平坦	人為	土師器片	
1543	J 13a0	N - 61° - W	不整楕円形	1.08×0.63	35	緩斜	凹凸	人為		
1544	J 13c6	N - 7° - W	楕円形	0.80×0.50	28	緩斜	皿状	人為		
1545	J 13b0	N - 40° - E	楕円形	1.60×0.90	40	緩斜	凹凸	人為		
1546	I 13d8	N - 0°	円形	0.70×0.70	30	緩斜	皿状	人為		
1547	J 13g6	N - 0°	楕円形	(0.82)×0.58	14	緩斜	皿状	自然	土師器片	
1548	J 13g6	N - 90°	楕円形	0.50×0.37	43	外傾	平坦	自然		
1550	J 13j1	N - 90°	楕円形	0.48×0.35	16	緩斜	皿状	自然	土師器片	
1551	J 13j1	N - 90°	楕円形	0.70×0.65	8	緩斜	平坦	自然	土師器片	
1552	J 14a1	N - 0°	円形	0.53×0.53	7	緩斜	平坦	自然		
1553	J 13b5	N - 90°	楕円形	0.48×0.41	30	垂直	凹凸	自然	土師器片	
1554	J 13d7	N - 0°	円形	0.54×0.54	60	外傾	皿状	人為	土師器片	
1555	J 13c8	N - 43° - E	楕円形	0.45×0.35	48	外傾	皿状	自然		
1556	E 9 c1	不明	楕円形	1.15×1.05	30	外傾	皿状	自然		
1557	L 12a4	N - 10° - E	楕円形	0.58×0.52	不明	不明	不明	不明		

表 8 井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	主 な 出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	G 14a5	N - 1° - E	[円形]	1.75×(1.56)	192	外傾	[平坦]	人為	土師器片, 須惠器片, 陶器片, 礫片	9世紀代
2	G 14b5	N - 4° - E	[楕円形]	2.02×(1.35)	251	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 陶器片, 鉄滓, 粘土塊, 礫片	16世紀代
3	G 14b5	N - 41° - W	円形	0.96×(0.88)	196	垂直	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 陶器片, 礫片	16世紀代

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
4	G14b5	N-95°-W	[円形]	1.24×(1.13)	183	垂直	平坦	人為	土師器片, 陶器片, 礫片, 炭化材	10世紀代
5	G14c5	N-47°-W	[楕円形]	1.20×(0.63)	163	外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片, 礫片	8世紀代
6	G12c3	N-0°	円形	1.31×1.28	(140)	外傾	-	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 陶器片, 礫片	7世紀代
7	G12e5	N-0°	円形	1.53×1.52	(132)	外傾	-	人為	土師器片, 須恵器片, 礫片	9世紀代
8	G12j9	N-72°-E	楕円形	2.15×1.90	(193)	外傾	-	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 砥石, 礫片	10世紀代
9	G13c0	N-13°-W	楕円形	1.25×1.10	166	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 瓦質土器片, 粘土塊, 礫片	9世紀代
10	G12i9	N-89°-W	楕円形	2.25×1.96	(120)	外傾	-	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 礫片	10世紀代
11	G13h8	N-1°-W	方形	2.28×2.22	(112)	垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀代
12	H14h2	N-95°-E	楕円形	2.50×1.95	(132)	垂直	-	人為		
13	G14d7	N-56°-W	円形	1.36×1.28	170	垂直	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片, 礫片	10世紀代
14	H13a2	N-64°-W	円形	1.90×1.73	193	外傾	傾斜	自然	土師器片, 須恵器片, 粘土塊, 礫片	古墳時代後期以降
15	I13a2	N-51°-W	円形	1.23×1.17	240	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 礫片	16世紀代
16	H13g5	N-50°-E	円形	1.15×1.14	(90)	垂直	-	人為	土師器片, 陶器片, 礫片, 炭化材	8世紀代
17	G14g5	N-0°	円形	0.90×0.85	(56)	外傾	-	人為		
18	H12b7	N-0°	円形	1.25×1.20	(130)	外傾	-	人為	土師器片, 須恵器片, 礫片, 炭化材	8世紀代
19	H14g4	N-72°-W	円形	1.38×1.26	(80)	垂直	-	人為	土師器片, 石鏃, 不明鉄製品, 碗形滓, 粘土塊	7世紀代
20	H13a1	N-32°-W	楕円形	1.55×1.05	188	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 礫片	7世紀代
21	J12e9	N-23°-W	円形	1.35×1.34	(154)	外傾	-	人為		
22	H14i4	N-65°-E	楕円形	2.35×1.77	(80)	外傾	-	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄滓, 礫片	8世紀代
23	I13i3	N-39°-E	円形	1.37×1.30	(120)	垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片, 砥石, 鉄滓, 礫片	10世紀以降
24	J13h2	N-7°-W	楕円形	2.10×1.70	180	垂直	平坦	人為	土師器片, 灰釉陶器片(短頸壺)	10世紀前半以前
25	H14i3	N-66°-E	楕円形	1.71×1.21	(100)	外傾	-	人為	土師器片	9世紀代
26	E9d5	N-18°-W	円形	1.00×0.98	(40)	垂直	-	人為	土師器片, 礫片	古墳時代
27	F9d1	N-54°-W	円形	0.96×0.93	(160)	垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片	10世紀代
28	F9d4	N-58°-W	円形	1.06×0.98	(150)	垂直	-	人為		
29	F9g2	N-0°	[方形]	2.89×(1.76)	170	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	中世カ
30	E9d4	N-25°-W	楕円形	1.50×1.30	(140)	垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器(内耳鍋), 鉄滓, 礫片	9~10世紀
31	J12i9	N-0°	円形	0.79×0.77	(105)	垂直	-	人為	土師器片, 礫片	6世紀代
32	K12a5	N-0°	円形	1.12×1.10	143	垂直	段状	人為	土師器片, 須恵器片, 円筒埴輪片, 羽釜片, 鉄滓	中世
33	L11c8	N-48°-W	楕円形	1.98×1.39	(154)	垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 陶器片, 鉄製品(釘), 鉄滓, 炭化材, 粘土塊	10世紀代
34	E9d4	N-4°-E	楕円形	1.05×0.80	(130)	垂直	-	人為	土師器片, 鉄滓, 礫片	8世紀代
35	K12g4	N-79°-E	楕円形	1.75×1.35	(94)	垂直	-	人為		
36	L11e9	N-2°-E	円形	1.57×1.55	220	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片	9世紀後半以前

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆土	主 な 出 土 遺 物	備 考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
38	L12a4	N-1°-W	円形	1.12×1.05	(88)	垂直	-	人為	土師器片, 礫片	9世紀代
39	I14j3	N-19°-E	円形	1.25×1.20	(70)	外傾	-	人為	土師器片, 須恵器片	7世紀代
40	J13e5	N-85°-W	楕円形	3.70×3.39	250	外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片, 灰釉陶器片, 木杵(井戸杵), 鉄滓, 陶器片, 不明鉄製品	9世紀中葉以前
41	L12a4	N-4°-E	円形	1.42×1.38	-	外傾	-	人為	土師器片, 不明鉄製品, 礫片	10世紀代
42	K12g1	N-60°-E	[楕円形]	2.06×1.46	(160)	垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀代
43	L12b5	N-53°-W	楕円形	1.14×0.98	(120)	垂直	-	人為		
44	L12b5	N-43°-E	円形	1.06×1.01	(50)	垂直	-	人為	土師器片(坏)	6世紀代
45	K12j5	N-10°-W	円形	0.87×0.86	(44)	垂直	-	人為	土師器片(坏・甕), 須恵器片	7世紀代
46	L12a5	N-7°-E	円形	1.09×0.95	(115)	垂直	-	人為	土師器片(坏・甕), 礫片	6世紀代
47	L11b0	N-68°-W	円形	1.15×1.04	(110)	垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片	9世紀代
48	K12h6	N-68°-W	楕円形	1.55×1.19	(140)	垂直	-	人為		
49	I13j0	N-68°-W	楕円形	1.96×1.66	(85)	外傾	-	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 不明鉄製品, 砥石, 礫片	9世紀代
50	H12a2	N-44°-E	円形	1.14×1.09	(80)	外傾	-	人為	土師器片, 須恵器片, 不明鉄製品, 礫片	
51	K12g3	N-8°-W	楕円形	1.30×1.10	(150)	垂直	-	人為		
52	K12h4	N-0°	円形	0.85×0.85	(130)	垂直	-	人為		
53	K12h6	N-73°-W	楕円形	1.12×0.67	(70)	垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片	9世紀代
54	K12g7	N-51°-W	楕円形	1.22×0.87	(90)	垂直	-	人為		
55	E9i5	N-33°-W	楕円形	1.36×1.15	(60)	外傾	-	人為	土師器片(坏・甕・椀・椀上鉢)	8世紀代
56	F9a4	N-79°-W	楕円形	0.85×0.74	(70)	垂直	-	人為		
57	K12g3	N-75°-W	不整円形	1.05×1.00	135	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 砥石, 礫片	7世紀代
58	H14g4	N-34°-W	楕円形	2.46×1.73	(80)	垂直	-	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 砥石	8世紀代
59	J13d9	N-7°-E	円形	0.75×0.74	126	垂直	平坦	人為		

表9 道路跡一覧表

番号	位置	方向	規 格				壁面	断面	覆土	主 な 遺 物	備 考 (時 代)
			確認長(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	E8i0~E9i3	N-88°-E	(17)	2.3~3.6	1.8~2.5	11~40	傾斜	弧状	人為	土師質土器片(内耳鍋), 陶器片(皿)	16世紀代 硬化面あり SI495→本跡
2	E9d4~E9i4	N-8°-E	(22)	2.1	2.1	5~17	傾斜	弧状	人為		不明 硬化面あり
3	L11c8~L11g7	N-23°-E	(16)	0.5	0.4~0.45	10	傾斜	逆台形	人為	土師器片(坏・甕)	不明 硬化面あり SI463・ 478~480, SK112・973・ 976・978→本跡
4	E8e0~E9h2	N-14°-W N-41°-W	(17)	0.75~1.5	0.5	15	傾斜	弧状	人為	土師質土器片(内耳鍋)	16世紀代 硬化面あり SI492, SB11, SD28→本跡

表10 溝跡一覽表

番号	位置	方向	形状	規模(m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				確認長	上幅	下幅	深さ(cm)					
1	I14a1~K13a4	北東~南	L字状	東西(59.0) 南北(70.6)	5.30~8.40	1.20~1.60	88~198	緩斜	葉研		土師器(坏・高坏・甕), 須惠器(甕)	4世紀後半~ 6世紀前半
2	F14d8~F14c9	西~東	直線状	(4.85)	0.49~0.54	0.09~0.35	21~25	外傾	U字状		土師器片	不明
3	F14g0~F15i2	北西~南東	直線状	(11.10)	0.49~3.23	0.10~2.10	65	外傾	U字状	人為	土師器片, 須惠器片, 緑釉陶器片	
4A	J12e7~J13i7	西~東	直線状	(42.00)	0.73~1.50	0.33~1.43	32	外傾	皿状	人為	土師器, 須惠器, 弥生土器, 鉄滓	9世紀代
4B	J12e7~J13i7	西~東	直線状	(42.00)	2.0~3.0	0.7~2.10	29	外傾	皿状	人為	土師器, 須惠器, 灰釉陶器, 緑釉陶器, 砥石, 平瓦	9世紀代
5	F13i2~F13j3	北西~南東	L字状	(10.37)	0.26~0.72	0.17~0.47	13~18	傾斜	U字状		土師器片, 須惠器片, 弥生土器	不明
6	F13i2~G13a3	北~南	直線状	(8.90)	0.32~1.22	0.15~1.02	55	外傾	U字状		土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器	不明
7	G13a2~F13j4	南西~北東	直線状	(8.50)	0.30~0.52	0.04~0.36	84	外傾	V字状		土師器片	不明
8	G13f8~H13f7	北~南	直線状	40.50	0.54~1.72	0.32~1.70	18~24	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器, 常滑	8~9世紀 後葉
9	G13h8~G13i8	北~南	直線状	(8.20)	0.32~0.66	0.22~0.50	5	外傾	U字状	不明		古墳時代後期
10	H13b0~H14i2	北~南	直線状	(32.00)	0.86~2.26	0.14~0.60	70~110	緩斜	葉研	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓	中世
11	G12i2~H11a0	北~南	直線状	(8.00)	0.42~1.10	0.56~0.78	8~12	外傾			土師器片, 弥生土器	不明
12	H13h6~H14h1	西~東		(22.20)	0.42~0.84	0.33~0.62	8~18	緩斜	U字状		土師器片, 鉄滓	不明
13	J13d1~J13e1	北~南	直線状	7.00	0.58~0.66	0.29~0.60	20~22	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄製品	10世紀後半 以降
14	G12h0~G13h1	西~東	直線状	(1.48)	0.65~0.78	0.24~0.42	21	緩斜	U字状			不明
15	H12a2~H13e8	西~東	直線状	(70.00)	0.40~1.10	0.22~0.80	4~16	緩斜		人為	土師器片	中世
16	H12a2~H12a7	西~東	直線状	(20.00)	0.70~1.10	0.40~0.50	8~18	外傾	皿状	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄鍬	中世~近世
17	H12d1	-	-	(0.52)	0.52	0.44	15	外傾	平坦			不明
18	H14d6~H14d7	西~東	蛇行	(3.54)	[1.75]~0.84	0.13~0.22	22~36	外傾	U字状	人為	土師器片, 須惠器片, 弥生土器	
19	J13b9~J13d9	北~南	直線状	6.60	0.71~0.88	0.35~0.40	14	緩斜	皿状			不明
20	H12a6	北~南	直線状	(2.86)	0.84	0.69	5	緩斜	平坦			
21	H13d8	北東~南西	不定形	(3.92)	2.46	1.80	28	外傾	皿状	自然	土師器片	6世紀前葉 以前
22	G13j8~G14j2	西~東	直線状	(15.98)	0.38~0.26	0.28~0.19	10	外傾	平坦		土師器片	不明
23	F8d9~F8e9	北~南	直線状	(3.64)	0.41~0.81	0.38~0.42	10	緩斜	平坦		土師器片	不明
24	F9d1~F9f1	北~南	直線状	8.55	0.39~0.58	0.10~0.40	4	緩斜	平坦		-	不明
27	E8e0~E9h1	北~南	直線状	(10.40)	0.46~0.68	0.27~0.48	9	緩斜	U字状		土師器片	中世
28	E8e0~E9h1	北~南	直線状	(14.20)	(1.04)	(0.38)	28	緩斜	平坦		土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片	中世
29	E9b0~E9b3	西~東	直線状	(10.44)	1.00~1.20	0.40~0.80	50	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 灰釉陶器片	中世
30	L12d6~L12g5	北~南	直線状	(12.89)	1.0~0.72	0.70~0.48	20	垂直	平坦		土師器片	不明
31	L12f3~L12f4	西~東	直線状	(3.03)	0.62~0.38	0.49~0.18	9	外傾	平坦		-	不明
32	L12d6	西~東	直線状	(3.06)	0.41~0.37	0.20~0.10	19	外傾	平坦		-	不明
33	I14j3~J14a3	北~南	直線状	(8.50)	0.62	0.45	10	外傾	平坦		-	不明

表11 柵跡一覧表

番号	位置	主軸方向	規 模 (m)							出 土 遺 物	備 考 (時期)
			長さ	間	柱 間	柱 穴	長 径	短 径	深 さ		
1	G14b0	N-88°-E	6.4	3	1.8~2.4	8	0.3~0.5	0.2~0.4	0.2~0.3	土師器片(坏・甕), 須惠器片(坏), 土製品(不明)	不明
2	L11e0	N-85°-E	11.2	5	2.0~2.2	6	0.2~0.4	0.2~0.3	0.2~0.3		9世紀代
3	L11g0	N-5°-W	11.0	5	1.8~2.6	6	0.6~1.1	0.5~0.9	0.1~0.2	土師器片(坏・甕), 須惠器片(坏・高台付坏・甕)	9世紀代
4	H12b3	N-30°-W	3.6	2	1.4~1.8	3	0.4~0.5	0.3~0.5	0.3~0.8		近世以降
5	H12a3	N-30°-W	6.9	4	1.4~1.8	5	0.3~0.5	0.3~0.5	0.1~0.5	土師器片(坏・甕)	近世以降
6	H13e3	N-48°-E	4.9	2	2.0~2.6	3	0.3~0.5	0.2~0.4	0.1~0.3		不明
12	J13a6	N-10°-W	10.2	3	2.7~3.3	4	0.5~0.8	0.4~0.7	0.1~0.3	土師器片(坏・甕), 須惠器片(坏)	9世紀代
13	J13f5	N-90°	4.9	2	2.1	3	0.5~0.8	0.5~0.6	0.2~0.4	土師器片(坏・碗・甕)	不明

表12 ピット群一覧表

番号	位置	柱穴 (長さの単位はすべてcm)					主 な 遺 物	備 考 (時 代)
		柱穴	平面形	長径(軸)	短径(軸)	深さ		
1	F12f7~F12g8	11	円形・楕円形	25~45	25~38	10~38	土師器片(甕), 須惠器片(甕)	不明
2	G12b5~G12c5	6	円形・楕円形	33~44	33~42	13~48	土師器片(甕)	不明
3	G12b3~G12b4	6	円形・楕円形	26~39	23~30	8~25		不明
4	G14a9~G15a1	12	円形・楕円形	24~31	20~28	16~49	土師器片(坏・甕)	不明 1号柵跡→本跡
5	F15j1	5	円形・楕円形	26~34	21~26	36~64	土師器片(甕)	古墳時代後期以降 SI24→本跡
6	G14b7~G14b9	13	円形・楕円形	23~68	22~66	12~55	土師器片(甕), 須惠器片(坏)	不明
7	G14c6	5	円形・楕円形	34~54	30~50	12~57	土師器片(坏)	不明
9	G13c6~G13d8	34	円形・楕円形	26~74	24~59	16~49	土師器片(坏・甕), 弥生土器片(壺)	不明 SK243→本跡
11	H13i1~G13j1	13	円形・楕円形	23~43	22~34	12~56	土師器片(坏・甕), 鉄滓	不明
13	H13i4~I13a8	29	円形・楕円形	21~61	20~59	14~67	土師器片(坏・甕), 鉄滓	不明
14	G12e0~G12e1	7	円形・楕円形	27~57	23~53	20~35		不明
15	G14i1~H14a3	22	円形・楕円形	21~61	18~53	11~59	土師器片(坏・甕), 須惠器片(甕)	不明 SI67, SD22→本跡
16	G12i2~H12a3	31	円形・楕円形	22~57	21~45	14~59	土師器片(坏)	中世以降 SK132, SD11・16→本跡
17	G12h4	7	円形・楕円形	26~63	23~52	15~26	土師器片(坏)	不明
18	I13a4~I13b5	11	円形・楕円形	23~40	20~35	11~42	土師器片(坏・甕)	不明
19	G12f3~G12g4	8	円形・楕円形	27~47	22~37	15~58		不明
20	G12i2~G12i3	14	円形・楕円形	23~43	21~42	11~34		不明
22	I13d3~I13f4	23	円形・楕円形	25~60	20~51	13~25	土師器片(坏・甕)	不明 本跡→SK701・708
23	H12g6~H12j7	17	円形・楕円形	23~61	21~52	25~67	土師器片(坏・甕), 須惠器片(甕)	不明
24	I12c9~I12d0	8	円形・楕円形	34~55	30~47	30~81	土師器片(甕), 須惠器片(甕・鉢)	不明

番号	位置	柱穴 (長さの単位はすべてcm)					主 な 遺 物	備 考 (時 代)
		柱穴	平面形	長径(軸)	短径(軸)	深さ		
25	H12i8~I12a9	22	円形・楕円形	25~70	20~52	10~50	土師器片(坏・甕), 須惠器片(坏・高台付坏)	不明
26	K12b4~K12d6	26	円形・楕円形	23~61	21~56	25~67	土師器片(坏・甕), 須惠器片(高台付坏・甕), 鉄滓	不明
28	G13h4~G13i5	20	円形・楕円形	18~48	16~42	10~75	土師器片(高台付坏・甕), 須惠器(甕)	不明
29	G13h3~G13j4	17	円形・楕円形	25~52	22~42	11~50	土師器片(坏・高台付坏・甕), 須惠器片(高盤), 緑釉陶器	不明
30	G13i2~H13a3	18	円形・楕円形	23~78	19~70	14~58	土師器片(坏)	不明
32	G12e8~G12f9	8	円形・楕円形	35~58	27~46	29~45	土師器片(甕)	不明
34	J12b9~J12d0	17	円形・楕円形	24~73	25~63	13~38	土師器片(坏・甕)	不明 SB7→本跡
35	J12d8~J12e9	8	円形・楕円形	30~64	24~50	9~67	土師器片(坏・甕), 須惠器片(坏)	不明
36	J12g0~J13i1	28	円形・楕円形	22~65	19~53	11~63	土師器片(甕), 須惠器片(坏)	不明
37	H12c8~H12e9	22	円形・楕円形	19~39	18~33	12~27	土師器片(高坏・甕)	不明
38	H12d6~H12f7	23	円形・楕円形	21~51	19~48	11~51	土師器片(甕)	中世以降 SD15→本跡
40	H12a4~H12b4	5	円形・楕円形	35~72	19~48	11~51		不明

表13 時期不明住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備 考
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈			
289	G12j1	不明	-	4.20×(2.30)	-	平坦	-	-	-	-	-	-	-	-	本跡→SK282・286, SD11
335	I13a4	N-10°-W	[方形]	[3.24×3.00]	-	平坦	-	-	-	1	-	竈	-	-	本跡→SK514・534・572
343	I13b7	N-24°-E	[方形・長方形]	(4.45×2.08)	-	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	-	本跡→SD1
404	J13f6	N-6°-E	[方形]	[4.21×4.11]	-	平坦	-	3	-	-	1	-	-	-	本跡→SI402・405, SK1523・1527・1528・1532・1538
476	L11g9	不明	[方形・長方形]	(5.20×2.70)	10	平坦	一部	2	-	2	-	-	人為	-	SK880→本跡
480	L11g7	不明	不明	[5.80]×(1.72)	57	平坦	一部	2	-	-	-	-	人為	-	本跡→SI481, SA2, SK872
500	J13i5	N-38°-W	不明	(3.27×2.43)	-	-	-	-	-	2	-	竈	-	-	本跡→SD1・4B
506	I12j1	N-3°-E	[方形・長方形]	(2.86×1.92)	15	平坦	一部	-	-	1	-	-	人為	-	本跡→SK511
509	F8d0	N-98°-E	[長方形]	[3.06]×2.63	25	平坦	一部	6	-	-	-	-	人為	-	
511	K12f4	N-5°-E	[長方形]	[2.16×1.78]	12	平坦	-	4	-	-	-	-	人為	-	SI512→本跡
512	K12g4	N-5°-W	[長方形]	[3.35×2.57]	15	平坦	-	-	-	1	-	-	人為	-	本跡→SI511, SK1282・1285
530	F13j4	N-12°-E	方形	2.60×2.50	40	平坦	-	-	-	1	-	-	人為	-	SI166・193→本跡→SD7

表14 鍛冶工房跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出土遺物	備 考 (時 代)
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	貯蔵穴	竈・炉			
1	H14g1	N-8°-W	[方形・長方形]	[4.40×3.80]	10~15	平坦	-	-	-	10	-	-	人為	土師器片, 須惠器片, 炉壁片, 鉄滓, 羽口片, 礫片	11世紀前葉 本跡→SD10, SK463・650

表15 不明遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考 (時代)
							壁溝	支柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈			
1	F15d1	N-2°-E	-	(3.08×1.16)	不明	凸凹	-	-	-	-	-	-	人為		10世紀代
2	H13g2	-	-	3.80×(0.50)	10~18	平坦	-	-	-	1	-	-	-	土師器片	不明
3	J12i8	N-9°-E	長方形	4.80×4.10	14	平坦	-	-	-	-	-	-	-	土師器片	不明
4	L12b6	-	-	(3.70×1.50)	-	平坦	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片, 須恵器片, 鉄滓	不明
5	L12b2	N-0°~ N-19°-E	不整 楕円形	1.90×2.40~ 0.80×1.30	96~ 100	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器片, 須恵器片	平安時代以降

表16 地下式墳一覧表

番号	位置	主軸方向	規 模 (m)						底面	覆土	主 な 出 土 遺 物	備 考 (時代)
			豎 坑			主 室						
			長軸×短軸	深さ	平面形	長軸×短軸	深さ	平面形				
1	I12f9	N-110°-E	1.10×0.80	0.7	楕円形	2.10×1.30	0.7	隅丸長方形	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 粘土塊	中世以降

第4節 まとめ

今回の調査によって、当遺跡は弥生時代後期、古墳時代前期中頃から後期、奈良時代前期から平安時代後期にかけての集落跡であり、中世後半から近世にかけては墓域であったことが明らかとなった。確認された遺構数は竪穴住居跡450軒、掘立柱建物跡29棟、土坑1021基、墓墳50基など膨大な数にのぼり、これらは調査面積約20,000㎡内に非常に密集した状態で検出されている。このことは当遺跡の集落変遷をみる場合、時期が遡るに従ってその様相は断片的なものになってしまうことは否めない。また、遺構に伴わない遺物の中には、後期旧石器時代や縄文時代の遺物も出土している。それらの遺物の大半は遺構の覆土中から出土しており、当該期の遺構が存在した可能性が高いが、断続的に集落が形成された中で遺構構築等に伴って破壊されたものと推定される。

ここでは、各時代の様相について概要を述べて、まとめとしたい。

1 弥生時代 (第1004図)

弥生時代後期と考えられる竪穴住居跡は10軒が確認されており、2期に分けることができる。

第1期 (後期前半)

辰海道遺跡の集落としての出現期であり、第84・99・121・192号竪穴住居跡が該当する。住居跡は北部に4軒が確認されている。広口壺は有段口縁で、口縁部下端に刺突文、頸部には附加条一種（附加2条）の縄文、篋状工具による格子目文、櫛歯状工具により波状文・山形文を施すものがある。胴部には附加条一種（附加2条）を施すものが多い。

第2期 (後期後半)

第139・163・356・469号竪穴住居跡が本期に該当する。北部から中央部にかけて4軒が南北に一直線に並ぶように確認されている。広口壺は2段の複合口縁で、附加条一種（附加2条）の羽状構成をとり、下端にそれ

ぞれ刺突文が施される。頸部には櫛歯状工具による波状文・山形文を施すものがある。胴部には附加条一種(附加2条)で羽状構成をとるものが多い。また、土製紡錘車は第163号住居跡から1点、第469号住居跡から3点が出土しており、本期のすべての住居跡で土製紡錘車の保有が想定できる。

2 古墳時代

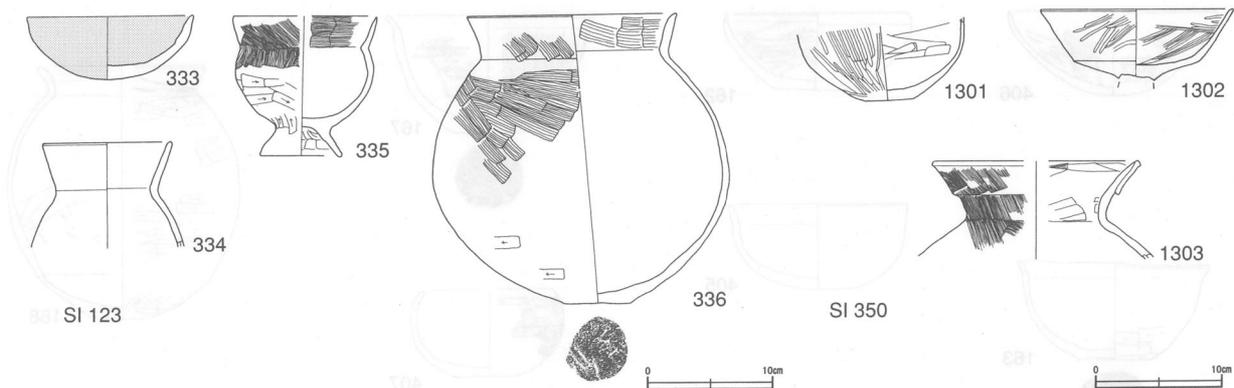
古墳時代前期中葉から7世紀後半と考えられる竪穴住居跡は226軒が確認されており、土器の形状¹⁾と遺構の形態から分類すると7期に分けられる。それらの中には、古墳前期後半から後期初頭にかけての濠で区画された居館跡が中央部から確認されている。ここでは住居跡の変遷について記述するとともに、居館の各施設や構造について検討を加え、当遺跡で確認された居館跡の特性と性格についてもふれてみたい。

(1) 集落の変遷

第3期(第995・1005図)

本期に属する住居跡は14軒で、居館外部が5軒、内部が9軒であるが、土器の形状や遺構の形態から、さらに2期に細分することが可能である。居館外部の第123号住居跡と内部の第368・374号住居跡は、居館が構築された当時の住居跡群と考えられる。また、居館内部では西側に南北濠に沿って第382・443・405号住居跡が等間隔で南北に並び、中央部北寄りに4軒の住居跡が配置されている。住居跡の規模はいずれも一辺が4m以下の小形住居跡で、居宅と思われるような大形の住居跡などは検出されていないが、方形区画を十分に意識した配置となっている。

土器は第123・350号住居跡が該当する。甕は胴部がほぼ球形を呈し、頸部でくの字状に屈曲し、口縁部が外傾する。体部外面上半部、口縁部内外面に刷毛目調整を施した後の一部ナデ整形によって消されている。また、小形の台付甕が出土しており、形状や調整については甕と酷似している。

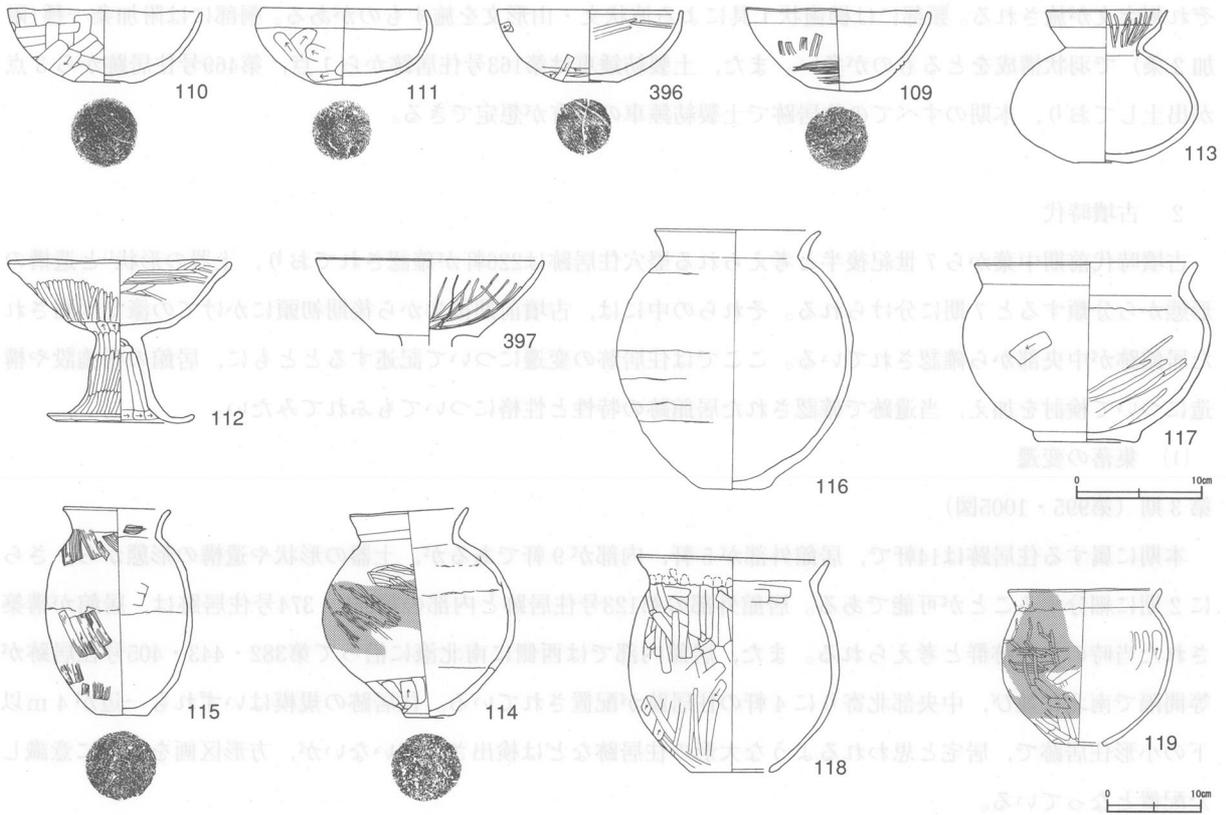


第995図 第123・350号住居跡出土遺物実測図(3期)

第4期(第996・1006図)

第3期とは時期的に連続せず、第3期の集落が廃絶または移転した後、時間的な空白が想定される。確認できた住居跡は15軒で、北部に一辺が約6mで中形の第8・15号住居跡が位置し、小形の住居跡が北部から中央部にかけて散在する。しかし、南部にはみられない。居館内部には中央部北寄りに2軒が確認でき、本期中に立て替えが行われたと考えられる。今回の調査ではあくまでも約半分を確認した中での判断でしかないが、内部施設で住居跡が1軒だけしか存在しないとすれば、第3期での居館の構造とは性格的に異なることが指摘できる。

本期には第8・30号住居跡の土器が該当する。高坏は坏部が外傾して立ち上がって口縁部に至り、脚部がエ



SI 8



SI 30

第996図 第8・30号住居跡出土遺物実測図（4期）

ンタシス状のふくらみを持ち、裾部が外反する。坏は平底で、口縁部が内彎するものとやや外反するものが混在する。罎は出土量が少なく、体部はそろばん玉状を呈している。甕は底部が突出しているものと突出が弱いものが混じる。甗はほとんどが無底式で、口縁部がくの字状を呈している。第30号住居跡からは須恵器のカップ形カ（もしくは無蓋高坏カ）が出土しており、陶邑編年のTK216型式に併行する時期のものと考えられる。

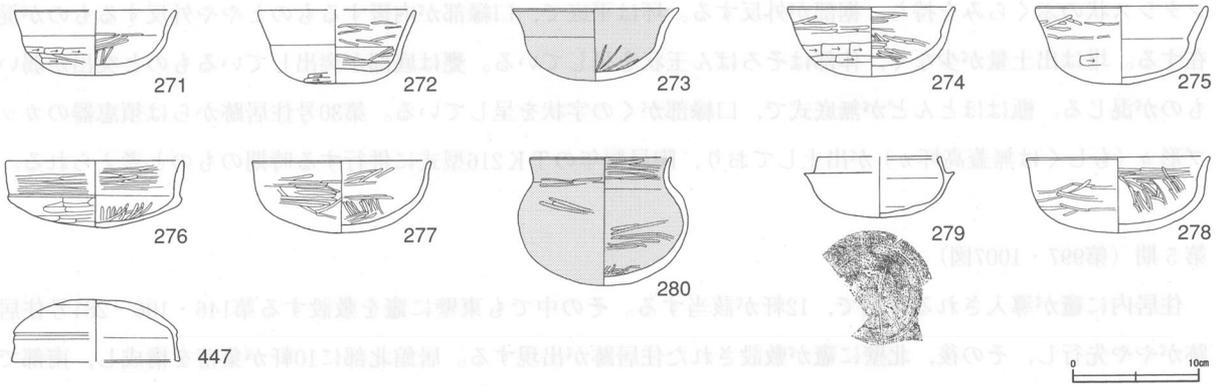
第5期（第997・1007図）

住居内に竈が導入される時期で、12軒が該当する。その中でも東壁に竈を敷設する第146・196・281号住居跡がやや先行し、その後、北壁に竈が敷設された住居跡が出現する。居館北部に10軒が集落を構成し、南部では第462号住居跡1軒だけが確認されただけである。また、居館内部には一辺が約5mと中型の住居跡の第357号住居跡1軒だけが検出され、居館内部施設の一部と考えられる。

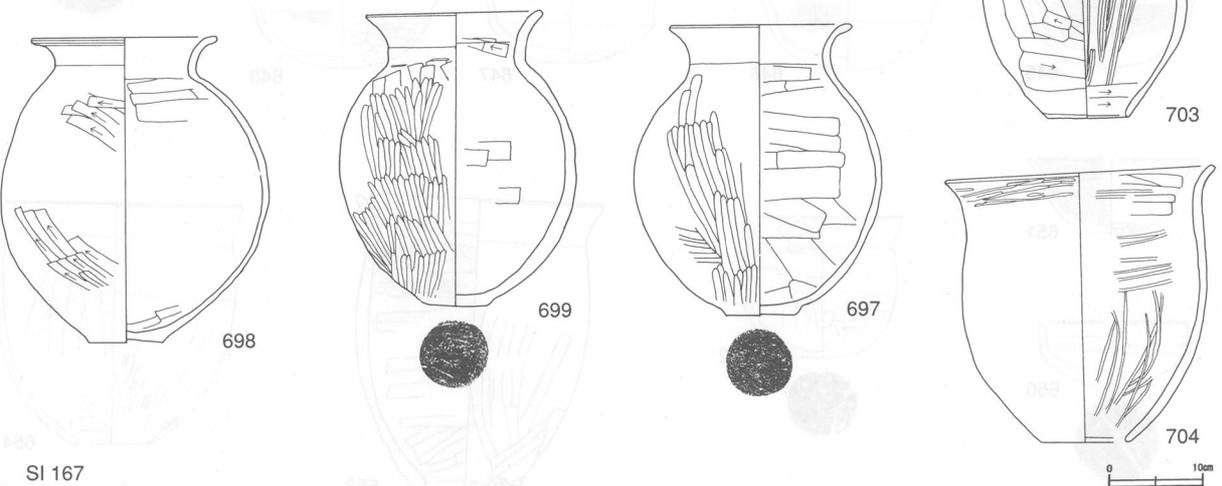
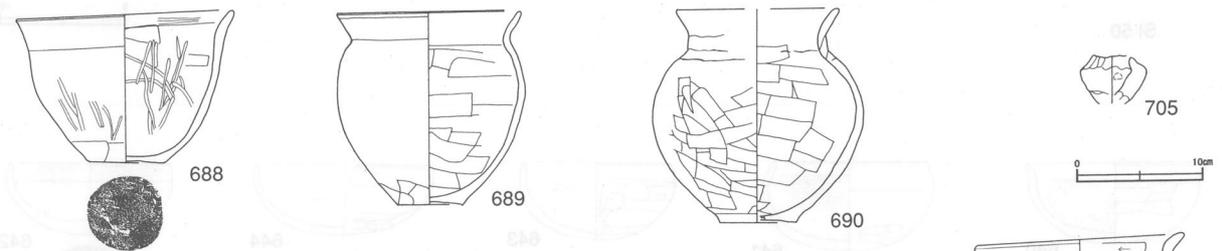
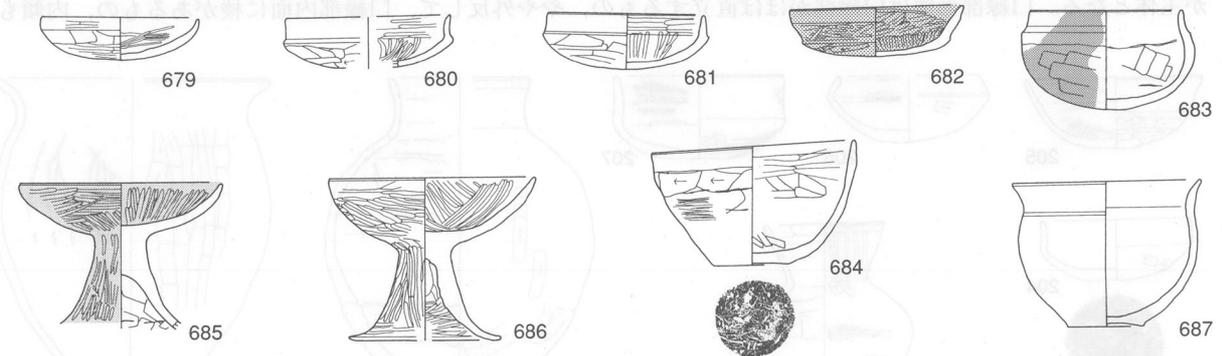
坏は出土量が増加し、器形もバラエティに富んで、組成の中心器種となる。また、平底は少なくなり、丸底が主体となる。口縁部形態は口縁部がほぼ直立するもの、やや外反して、口縁部内面に稜があるもの、内傾も



第997図 第50・146号住居跡出土遺物実測図（5期）

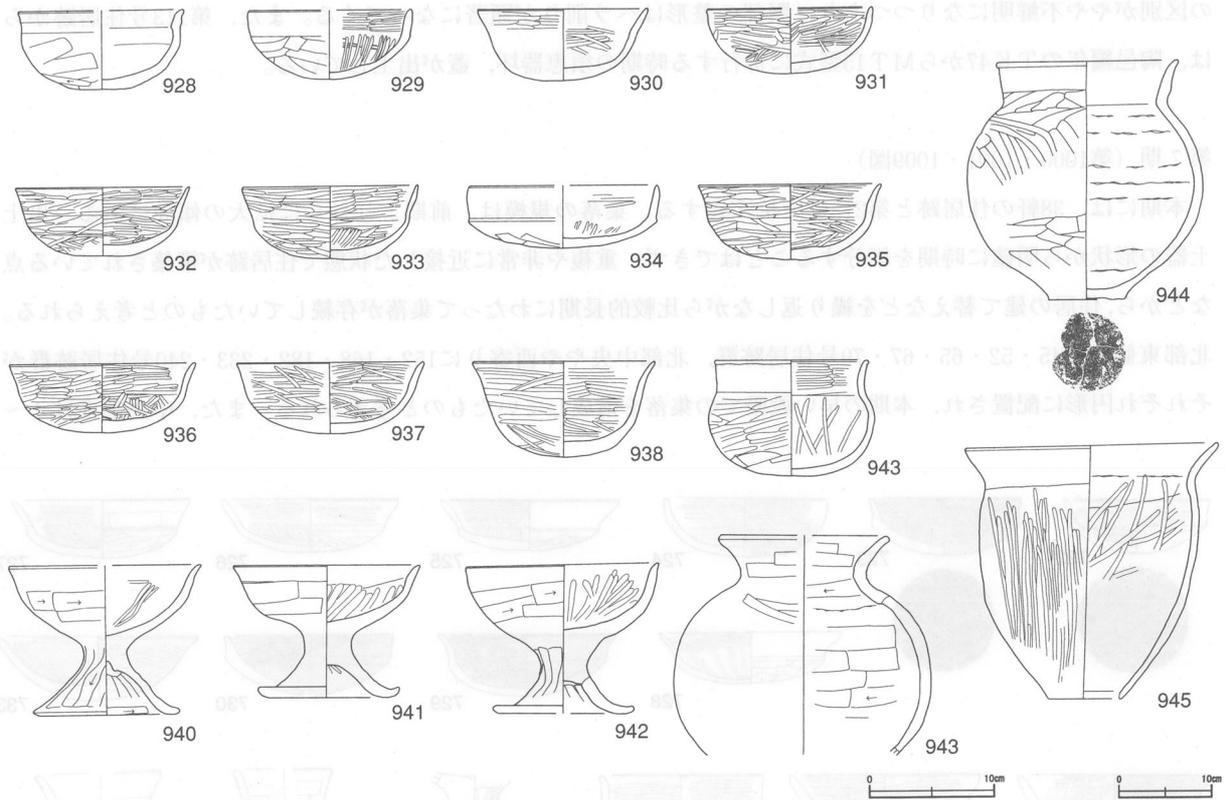


SI 113



SI 167

第998図 第113・167号住居跡出土遺物実測図（6期）



第999図 第248号住居跡出土遺物実測図（6期）

しくは内彎するものなどがみられる。また、須恵器坏蓋の模倣坏で、坏部上位に弱い稜があり、口縁部が外反するものがみられるようになる。埴は出土数が少なく、胴部がそろばん玉状で、胴部に対して口径が小さい。甕は底部や胴部に形態的变化はあまりみられないが、口縁部がほぼ直立に近いものがみられる。甗は甕形の無底式が主体をなすが、長胴化の傾向がみられる。さらに、207・642・650の土師器坏底部にはV字状の研磨痕が認められ、鉄器の存在を間接的に証明し得るものといえる。

第6期（第998・999・1008図）

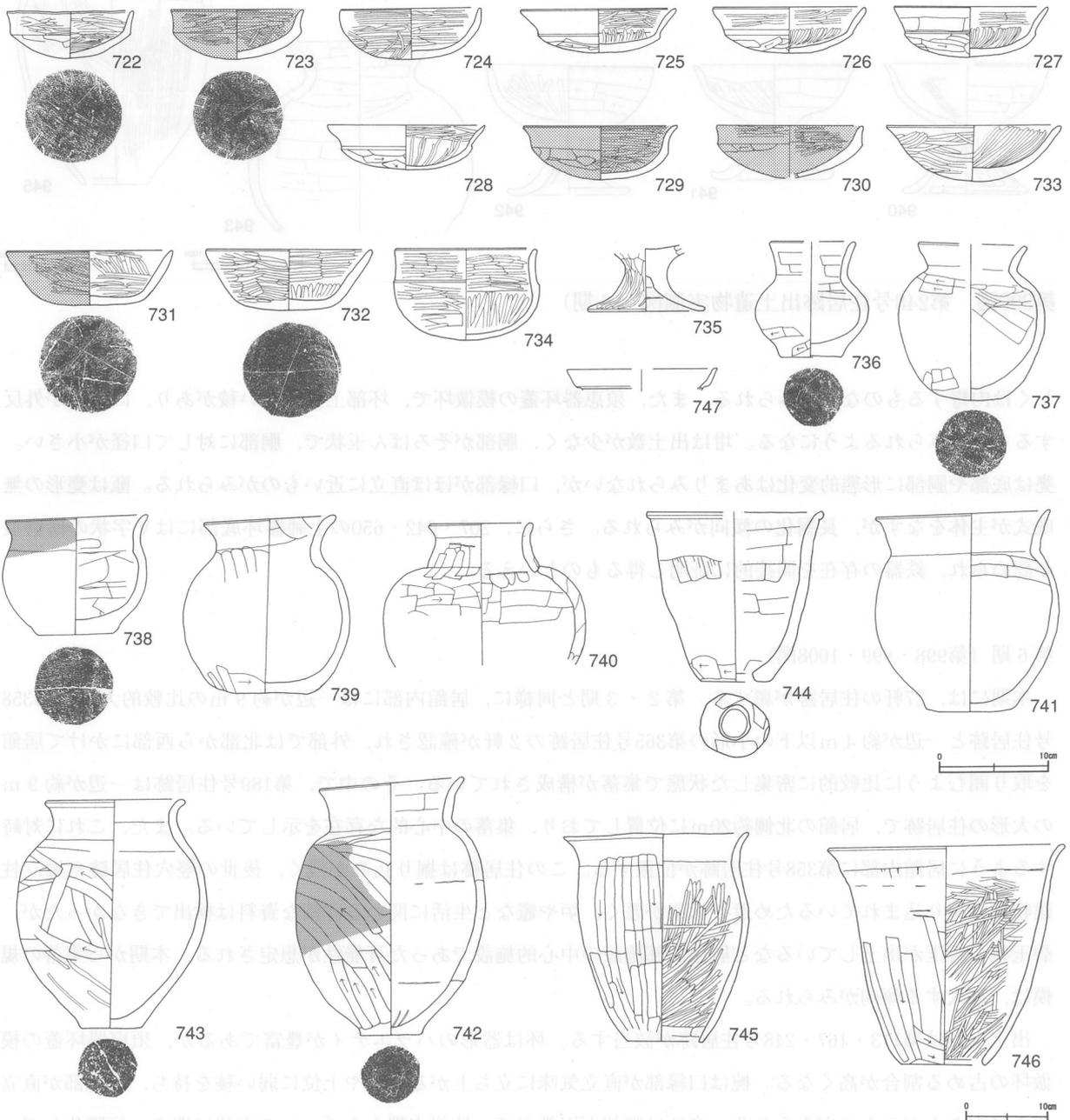
本期には、27軒の住居跡が属する。第2・3期と同様に、居館内部には一辺が約9mの比較的大形の第358号住居跡と一辺が約4m以下の小形の第365号住居跡の2軒が確認され、外部では北部から西部にかけて居館を取り囲むように比較的に密集した状態で集落が構成されている。その中で、第189号住居跡は一辺が約9mの大形の住居跡で、居館の北側約20mに位置しており、集落の中心的な存在を示している。また、これに対峙するように居館内部に第358号住居跡が位置する。この住居跡は掘り込みが浅く、後世の堅穴住居跡や堀立柱建物跡に掘り込まれているため遺存状態が悪く、炉や竈など生活に関わる詳細な資料は検出できなかったが、碧玉製の管玉が出土しているなど居館内部施設の中心的施設であった可能性が想定される。本期から集落の規模は、拡大する傾向がみられる。

出土土器は第113・167・248号住居跡が該当する。坏は器形のバラエティが豊富であるが、須恵器坏蓋の模倣坏の占める割合が高くなる。碗は口縁部が直立気味に立ち上がるものや上位に弱い稜を持ち、口縁部が直立ぎみに立ち上がるものがみられる。高坏は脚部が円錐形で、坏部末端から「ハ」の字状に開き、短脚化しているものもみられる。甕は胴部の最大径が中位から上位に移り、長胴化の傾向が見え始める。甗は口縁部と胴部

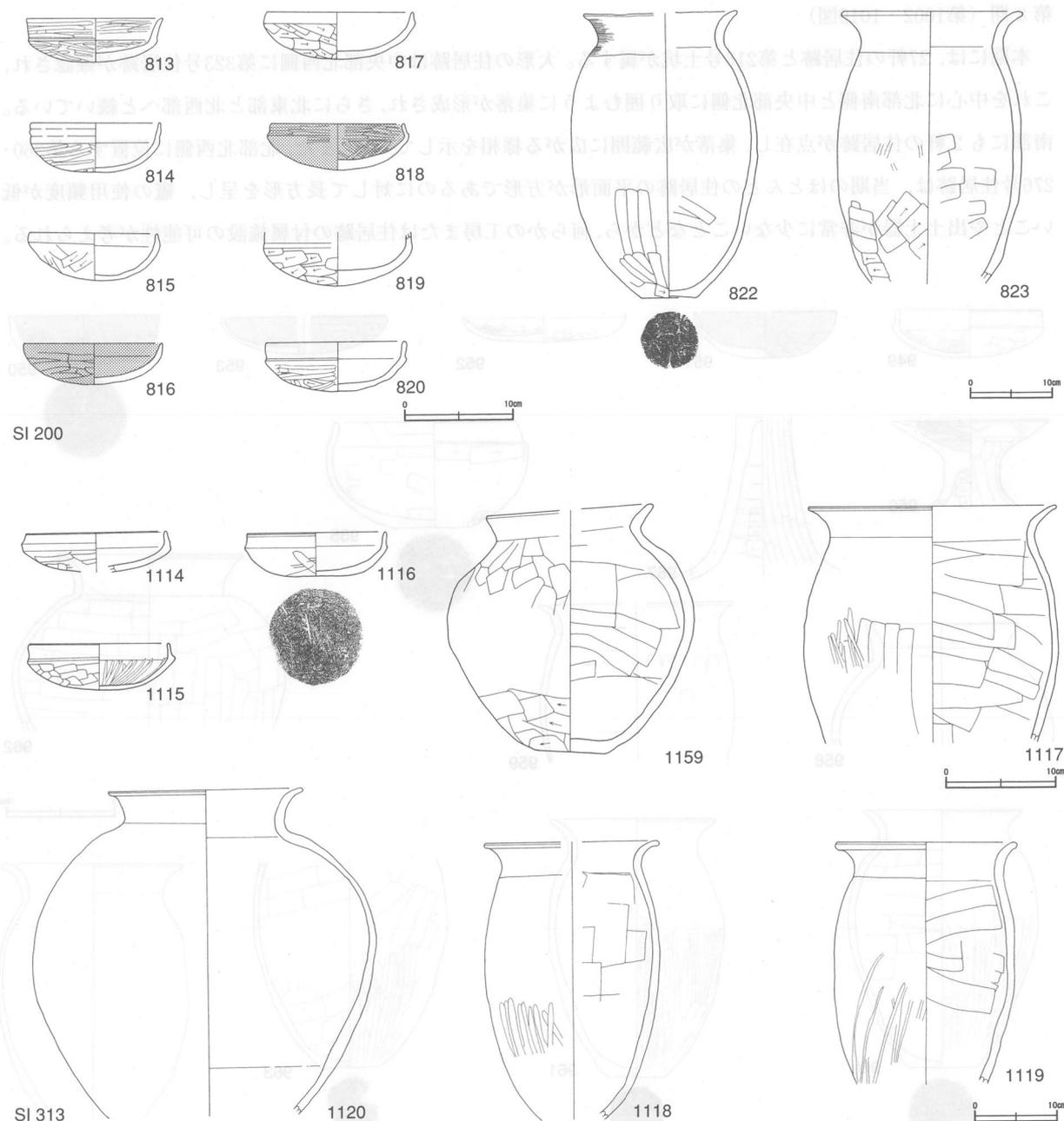
の区別がやや不鮮明になりつつあり、胴部の整形はヘラ削りが顕著になってくる。また、第113号住居跡からは、陶邑編年のTK47からMT15型式に併行する時期の須恵器杯、蓋が出土している。

第7期（第1000・1001・1009図）

本期には、38軒の住居跡と第215号土坑が属する。集落の規模は、前期よりさらに拡大の傾向にある。出土土器の形状から明確に時期を細分することはできず、重複や非常に近接した状態で住居跡が構築されている点などから、住居の建て替えなどを繰り返しながら比較的長期にわたって集落が存続していたものと考えられる。北部東側に第45・52・65・67・79号住居跡群、北部中央やや西寄りに152・168・182・233・240号住居跡群がそれぞれ円形に配置され、本期の早い段階での集落を構成していたものと考えられる。また、中央部では4～



第1000図 第168号住居跡出土遺物実測図（7期）



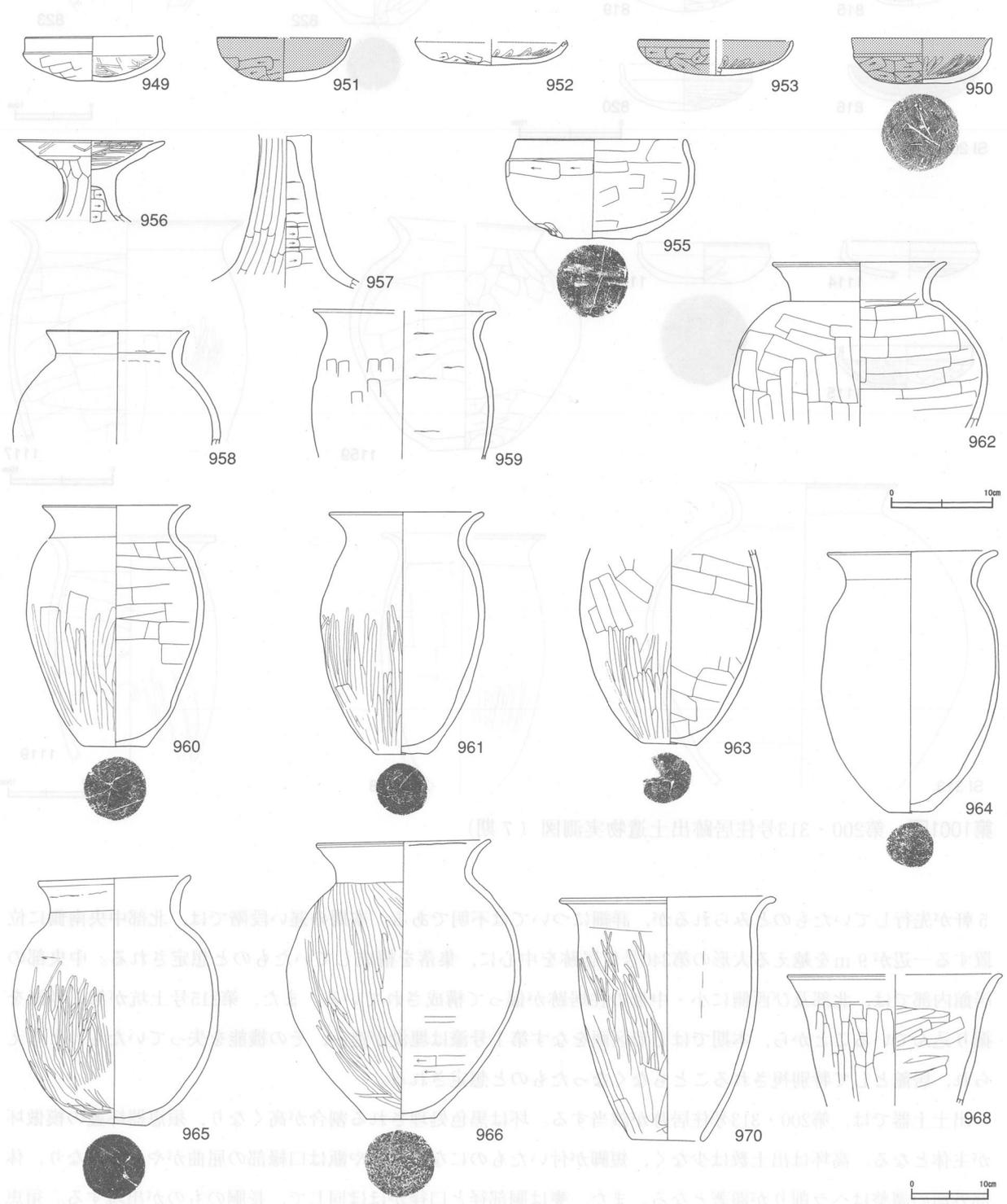
第1001図 第200・313号住居跡出土遺物実測図（7期）

5軒が先行していたものとみられるが、詳細については不明である。本期の遅い段階では、北部中央南側に位置する一辺が9 mを越える大形の第340号住居跡を中心に、集落を構成していたものと想定される。中央部の居館内部では、北部及び西側に小・中形の住居跡が偏って構成されている。また、第215号土坑が第1号濠を掘り込んでいることから、本期では方形区画をなす第1号濠は埋没が進み、その機能を失っていたものと考えられ、居館として特別視されることもなくなったものと想定される。

出土土器では、第200・313号住居跡が該当する。坏は黒色処理される割合が高くなり、須恵器坏蓋の模倣坏が主体となる。高坏は出土数は少なく、短脚が付いたものになる。甕や甑は口縁部の屈曲がやや弱くなり、体部外面の調整はヘラ削りが顕著となる。また、甕は胴部径と口径がほぼ同じで、長胴のものが出現する。須恵器の出土数は少ないが、坏蓋・坏身・フラスコ形瓶・甕などが出土している。

第8期（第1002・1010図）

本期には、27軒の住居跡と第216号土坑が属する。大形の住居跡は中央部北西側に第323号住居跡が確認され、これを中心に北部南側と中央部北側に取り囲むように集落が形成され、さらに北東部と北西部へと続いている。南部にも2軒の住居跡が点在し、集落が広範囲に広がる様相を示している。また、北部北西側に位置する第260・276号住居跡は、当期のほとんどの住居跡の平面形が方形であるのに対して長方形を呈し、竈の使用頻度が低いことや出土土器が非常に少ないことなどから、何らかの工房または住居跡の付属施設の可能性が考えられる。



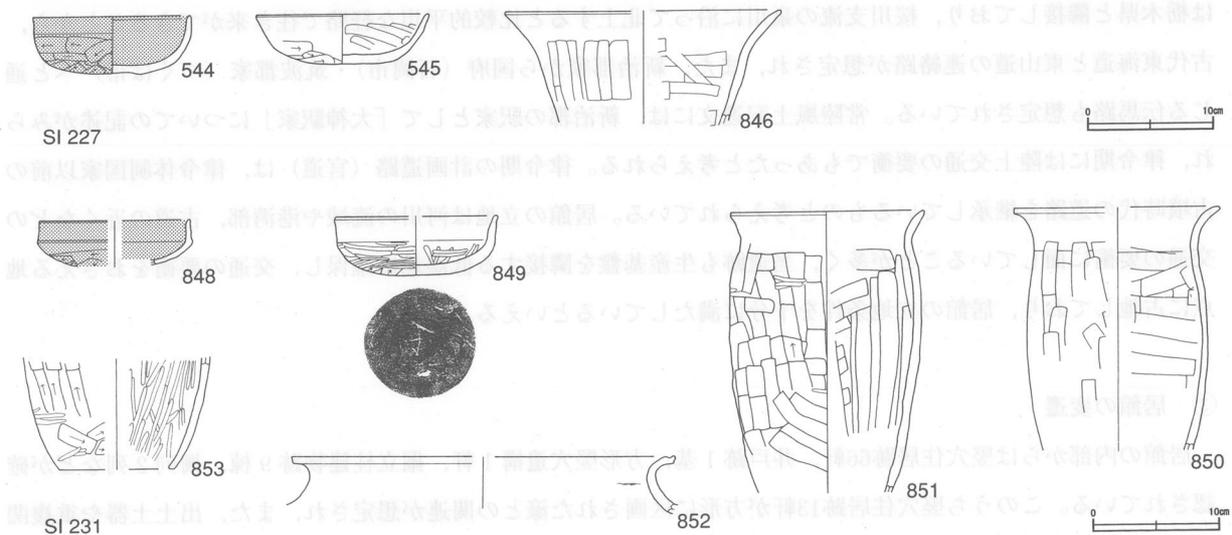
第1002図 第258号住居跡出土遺物実測図（8期）

出土土器では、第258・282号住居跡が該当する。坏は須恵器模倣坏や椀形坏で構成され、体部と坏部の稜が不明瞭なものがみられるようになる。また、952・1047のように内面に暗文状のヘラ磨きを残すものも出土している。甕は前期で出現した長胴のものと胴部の最大径が中位にあるものが混在し、いずれも体部外面にヘラ磨きが施される。甕は口縁部と胴部の境が不明瞭で、甕と同様に長胴化する傾向がみられ、甕と同様に体部外面にヘラ磨きが施される。

第9期 (第1003・1011図)

本期には、11軒の住居跡が属する。北部北端に大形の第7号住居跡が確認され、その周辺に小形の住居跡が点在する。また、中央部北側には3軒の住居跡が確認され、それより南側の中央部南側と南部には本期の遺構が検出されておらず、集落の展開もやや停滞する時期である。

出土土器では、第227・231号住居跡が該当する。坏は椀形坏と須恵器坏の模倣坏が混在し、半数近くが黒色処理されたものが残り、甕は長胴のものが主体となる。須恵器は住居跡や溝などから坏蓋・坏身・フラスコ形瓶が出土しており、東海地方（湖西産）から搬入されたものもみられる。



第1003図 第227・231号住居跡出土遺物実測図 (9期)

(2) 居館について

① 居館の名称と定義について

本書で使用している「居館」は、いわゆる「豪族居館」を指すものであるが、「豪族」の解釈の違いから「豪族居館」と呼称を避けている遺跡が多く、他に「首長居館」や「首長居宅」、「首長館」などが使用されている。橋本博文氏は、「首長居宅」を使用していたが1998年に行われた第8回東日本埋蔵文化研究会のシンポジウムでは「居館」の名称を使用している²⁾。また、大平聡氏は、特定集団による首長権の独占が未成立の状態では「豪族」という語は馴染まないことから、首長が首長としての役割果たす施設として「首長館」という名称を提唱している³⁾。さらに、寺沢薫氏は「首長居館」を使用しているが、中・小規模のものについては「居館」という巨大性・隔離性や独立的防塞性、祭祀性が薄いことから、むしろ「首長居宅」といった用語が適していると思えるが、今は用語にこだわらず、「首長居館」で統一しておきたいとしている⁴⁾。本書では、阿部義平氏の「古墳時代には居住性と防備性をかねた施設が存在するがこれを居館と呼び、防備性を欠き居住性も薄い施

設も含め邸宅として把握する⁵⁾」ことから、「居館」という語を使用する。

居館の定義については濠、堀、柵、土塁などの外郭施設が方形または長方形に区画され、内部には掘立柱式の平地式建物あるいは大型の竪穴住居を中心とした建物配置がなされているものが一般的に「豪族居館」といわれている。ただし、小笠原氏は「東日本では掘立柱建物以外に竪穴住居のみ、あるいは竪穴住居跡を主体としたものが顕著に散見される。」⁶⁾と指摘している。

本跡の「居館」は四周を濠で方形または長方形で区画され、内部には掘立柱建物跡が確認されず、竪穴住居跡のみで構成されており、東日本で確認されたものと同様の様相を示している。

② 居館の立地

居館は、岩瀬町から土浦市の霞ヶ浦西岸に流れる桜川支流泉川右岸の標高43～45mの低位な段丘上の縁辺部東端にある。段丘の縁辺部東端はほぼ平坦で、桜川流域の沖積地に張り出している。居館の周辺には、古墳群22か所、古墳約114基が確認されている。

岩瀬町鏡ヶ池を水源とする桜川は、真壁町・つくば市・土浦市を経て霞ヶ浦へと流れており、水上交通として利用可能な河川で、霞ヶ浦から上ってきて居館の所在する近くが終点であったと考えられる。また、岩瀬町は栃木県と隣接しており、桜川支流の泉川に沿って北上すると比較的平坦な経路で行き来ができることから、古代東海道と東山道の連絡路が想定され、また、新治郡家から国府（石岡市）・筑波郡家（つくば市）へと通じる伝馬路も想定されている。常陸風土記逸文には、新治郡の駅家として「大神駅家」についての記述がみられ、律令期には陸上交通の要衝でもあったと考えられる。律令期の計画道路（官道）は、律令体制国家以前の古墳時代の道路を継承しているものと考えられている。居館の立地は河川の流域や港湾部、古道の近くなどの交通の要衝に面していることが多く、当遺跡も生産基盤を隣接する低湿地に確保し、交通の要衝をおさえる地点に占地しており、居館の立地条件を十分に満たしているといえる。

③ 居館の変遷

居館の内部からは竪穴住居跡66軒、井戸跡1基、方形竪穴遺構1軒、掘立柱建物跡9棟、柵列2列などが確認されている。このうち竪穴住居跡13軒が方形に区画された濠との関連が想定され、また、出土土器や重複関係から少なくとも4期の画期をもって変遷をたどることができる。

ア 居館構築前

居館構築以前の遺構は弥生時代後期後半まで遡り、北部と中央部で竪穴住居跡10軒が確認されている。集落変遷の第2期に属する第356号住居跡は、居館を区画する濠に掘り込まれていることから第3期以降に居館が構築されたと考えられる。また、弥生時代終末期から古墳時代前期前半の遺構は確認されておらず、空白の時期となっている。当遺跡に居館が構築されるまでの様相については、周辺遺跡における今後の発掘調査の成果を待ちたい。

イ 居館Ⅰ期（第3期）

本期は集落変遷の第3期に属し、居館が構築された創建期と考えられ、出土土器と遺構の形態から、さらに2期に細分することができる。前半での配置は、中央部に2軒が約12mの間隔を置いてほぼ東西に並び、南西部に1軒が配されている。また、後半では西部に3軒が濠から約4.5m内側にそれぞれ約12mの間隔をおいて南北に並び、北部中央に3軒が北を頂点とする三角形に配されている。これらの竪穴住居跡の規模はいずれも一辺が4m以下の小形住居で、居宅と思われるようなものなどは検出されていない。しかし、竪穴住居跡の配置

は、方形区画を十分に意識したものと考えられる。

ウ 居館Ⅱ期（第4期）

本期は集落変遷の第4期に属し、15軒の竪穴住居跡が確認されている。居館内部からは1軒だけで、建て替えが行われた竪穴住居跡が内部の中央部北寄りに確認されている。その他の14軒の竪穴住居跡は、居館外から全て確認されている。その中で一辺が約6mの中形住居2軒が北部に位置し、その他の小形住居が散在している。本期の様相は居館Ⅰ期とは異なり、居館内部の中央北部寄りに竪穴住居が1軒だけが存在するだけとなる。

エ 居館Ⅲ期（第5期）

本期は集落変遷の第5期に属し、12軒の竪穴住居跡が確認されている。居館内部からは北西部やや中央寄りに1軒だけが確認されており、居館外では北側に10軒、南西側の南部に1軒が確認されている。竪穴住居跡の配置は居館Ⅱ期とほぼ同様の様相を示している。

オ 居館Ⅳ期（第6期）

本期は集落変遷の第6期に属し、25軒の竪穴住居跡が確認されている。居館内部からは一辺が約7mの比較的大形の住居跡と一辺が約4mの小形の住居跡の2軒が北部中央に確認されている。居館外では、北側から西側にかけて居館を取り囲むように集落が形成されている。その中で居館の北側約20mに位置する一辺が約9mの大形の住居跡は、居館内部の大形住居跡と対峙しており、集落の中心的な存在を示している。本期の様相は、居館Ⅱ・Ⅲ期と同様の配置となっているが、居館外の竪穴住居数が多くなり、居館を取り囲むように集落が構成されている。

④ 対応する古墳

第2章でも述べたように、当遺跡周辺には丘陵裾部などに46か所の古墳群が所在し、現在確認されている古墳の総数は170基を超えている。その中でも当遺跡から東北東約3kmに位置する長辺寺山古墳と既に発掘調査が実施された狐塚古墳は、4世紀代と想定されており当地域の支配者層の墓域として注目されている⁷⁾。長辺寺山古墳は全長120m、町内最大の前方向後円墳で、岩瀬盆地中央部の長辺寺山頂部に位置し、当遺跡を含めた岩瀬盆地を眺望するのに最適の地と言える。また、当古墳から採集された円筒埴輪の検討から、関東地方の初期段階の特異な埴輪であることが判明し、当地域ばかりでなく関東地方の古墳時代前期の様相を知る上で注目されるものとなっている⁸⁾。

狐塚古墳は長辺寺山の西麓に位置し、1967年3月に工場建設に伴って発掘調査が実施された。当古墳は全長約40mの前方向後円墳で、後方部中央から検出された粘土槨からは短甲1・鉄剣1・刀子1・鉄刀1・銅鏃4・鉄斧2・鉋2・小玉14などの副葬品が出土している。

両古墳は当地域内においても古式の様相を明示し、首長層の墓域として想定されている。いずれの古墳が先行するかは明確でないが、いずれも4世紀代に位置付けることが可能である。

これら古墳は当遺跡において居館が構築され、機能していた時期と重なることや立地から、重要な関わりがあるものと考えられる。

(3) 小結

当遺跡において確認された居館跡は、張り出し部を有する濠と竪穴住居跡で構成される中型規模⁹⁾の首長階級の居宅と考えられる。また、竪穴住居跡と濠から出土した土器の形状から、時期は4世紀中葉から6世紀前葉にかけて機能していたものと考えられる。その間、濠は覆土の状況から少なくとも2回掘り返しが行われ、

さらに新旧の遺物が混在することから濠浚えが行われた可能性が指摘でき、かなり長期にわたって機能していたものと考えられる。

内部の竪穴住居跡の配置では、居館Ⅰ期に複数確認でき、Ⅱ～Ⅳ期にかけては同時期に1軒または2軒だけしか確認できず、本跡は居館Ⅰ期（第3期）において首長階級の居宅として構築され、その後、濠の内部は特別視される区域として居館Ⅱ～Ⅳ期（第4～6期）まで存続していたものと考えられる。そして集落変遷の第7期以降の竪穴住居跡についてはその配置に規則性は認められず、また、その時期以降の土坑などに濠が掘り込まれていることから特別視する区域としての機能も失われたと思われる。

居館としての終焉を迎えるのとは逆に、集落の規模は前期に比べさらに拡大する傾向がみられ、第7期から第8期にかけて古墳時代の最盛期を迎える。この時期は国造制が施行された時期と重なり、当遺跡の地域は新治国に組み込まれたと考えられる。やがて、第9期に入ると集落は縮小していく傾向にあり、国造制から令制への移行期に当たると考えられ、計画的な配置換えや集落の移転等が行われたものと考えられる。

また、居館終焉を迎える時期の前後からは砥石の出土量が増加し始め、住居跡数が減少してもある程度の出土量を保っている。このことは小鍛冶等の工人集団の存在が想定できると同時に、当地域における鉄製道具類の流通に深く関わる強大な力を持った首長層の存在がうかがえる。（仲村）

註

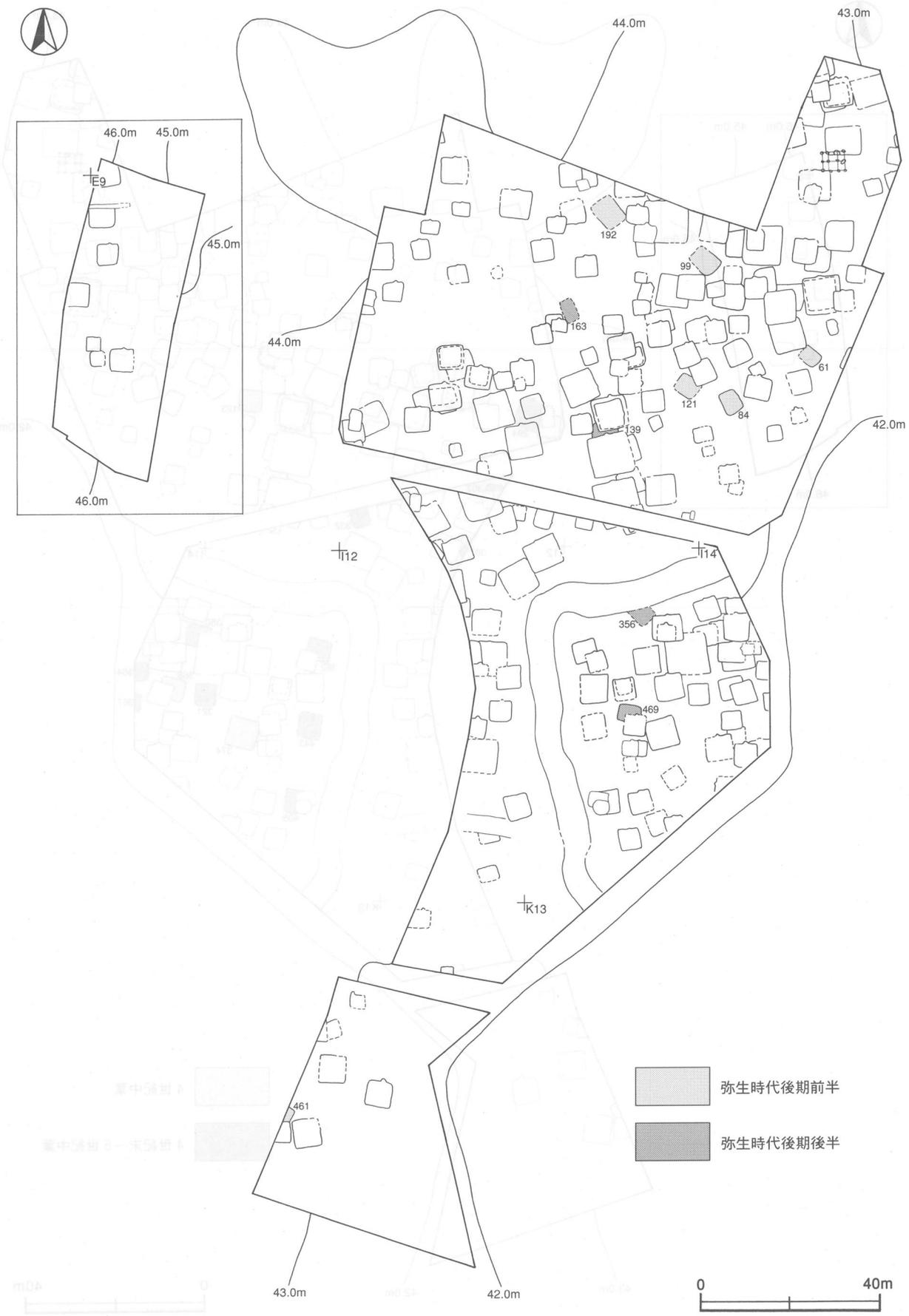
- 1) 古墳時代の年代観については、櫻村宜行氏の編年（1993・1999）に基づいた。
- 2) 橋本博文氏は「首長居館」を使用していたが、第8回東日本埋蔵文化財研究会のシンポジウム（1998）では「居館」の名称を使用している。
- 3) 大平 聡「古代史と豪族居館」『古墳時代の豪族居館を巡る諸問題』東日本埋蔵文化財研究会 1998年
- 4) 寺沢 薫「古墳時代の首長居館－階級と権力行使の場としての居館」『古代学研究』古代学研究会 1998年
- 5) 阿部義平「豪族居館と邸宅」『季刊考古学』第36号 吉川弘文館 1991年
- 6) 小笠原好彦・阿部義平「豪族居館研究と課題」『季刊考古学』第36号 吉川弘文館 1991年
- 7) 瓦吹 堅「岩瀬盆地考古学点描」『領域の研究』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年
- 8) 大橋泰夫・萩悦久・水沼良浩「常陸長辺寺山古墳の円筒埴輪」『古代』第77号 1984年
- 9) 小笠原好彦氏は居館の面積が7,000㎡以上を「大型居館」、2,000～7,000㎡を「中型居館」、2,000㎡未満を「小型居館」と分類している。

参考文献

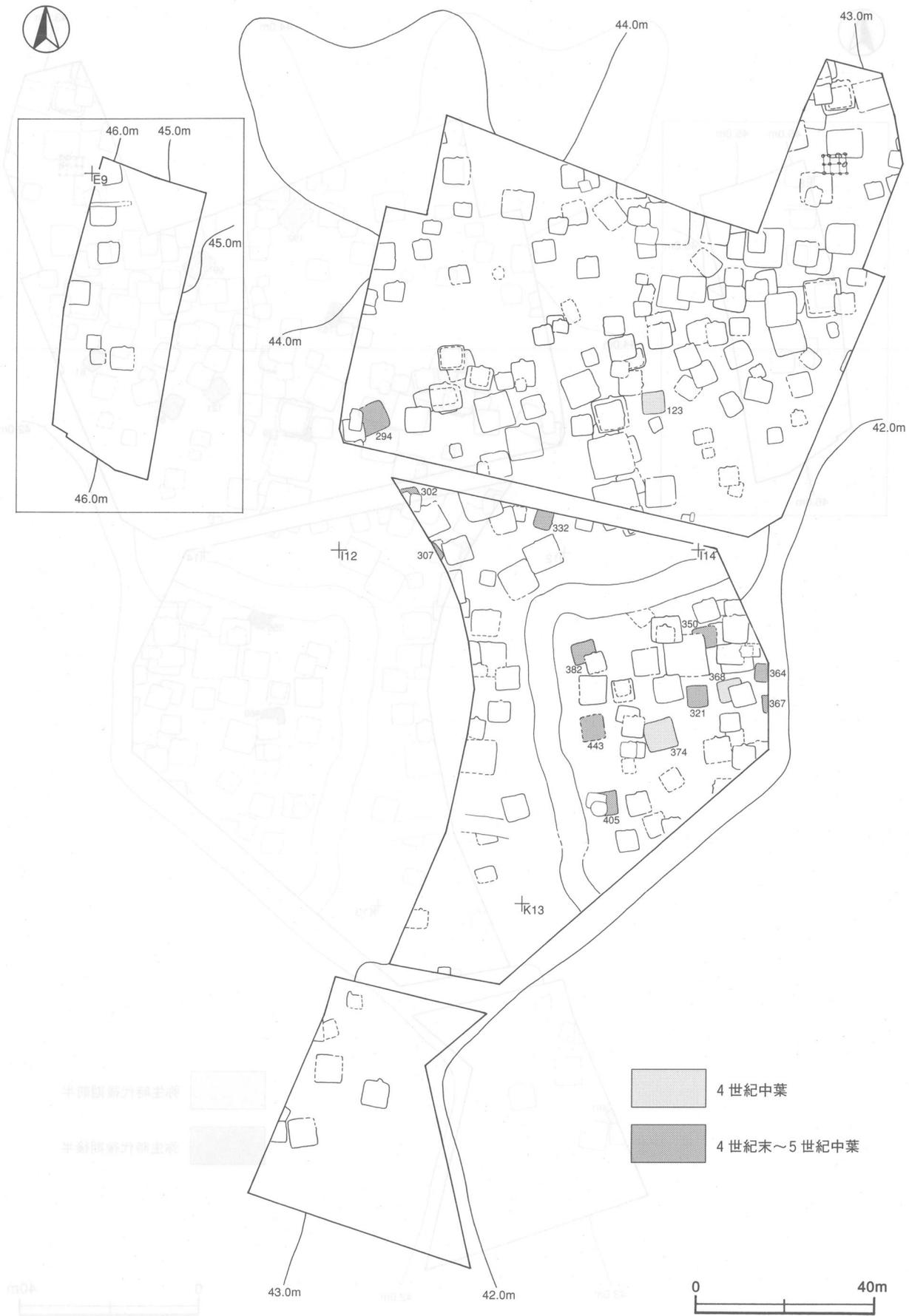
- ・海老澤稔「茨城県における弥生後期の土器編年」『波良岐考古』第22号 波良岐考古同人会 2000年
- ・中村 浩「古墳時代須恵器の生産と流通」雄山閣出版 1999年
- ・田辺昭三「須恵器大成」角川書店 1981年
- ・吹野富美夫「常陸南部における古墳時代後期の土器様相」『列島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会 1998年
- ・岩瀬町史編さん委員会「岩瀬町史 通史編」岩瀬町 1987年
- ・畑 大介「ムラ研究の方法－遺跡・遺物から何を讀みとるか」『研究集会報告集4』帝京大学山梨文化財研究所 2002年
- ・橋本博文「古墳時代首長層居宅の構造とその性格」『古代探叢Ⅱ』早稲田大学出版部 1988年
- ・中山 晋「栃木県における豪族の居館跡」『月刊考古学ジャーナル』No.289 ニューサイエンス社 1988年

3 奈良・平安時代

当遺跡の集落は、古墳時代から奈良時代、そして平安時代へと途切れることなく存続している。また、奈良・平安時代の住居跡は224軒に上り、土器の形状と遺構の形態から10期に分類される。ここでは住居跡の変遷について記述するとともに、施釉陶器や鉄生産関連遺物等については別項を設け、若干の検討を加えてみたい。



第1004図 辰海道遺跡集落変遷図 (第1・2期)



第1005図 辰海道遺跡集落変遷図（第3期）



第1006図 辰海道遺跡集落変遷図（第4期）



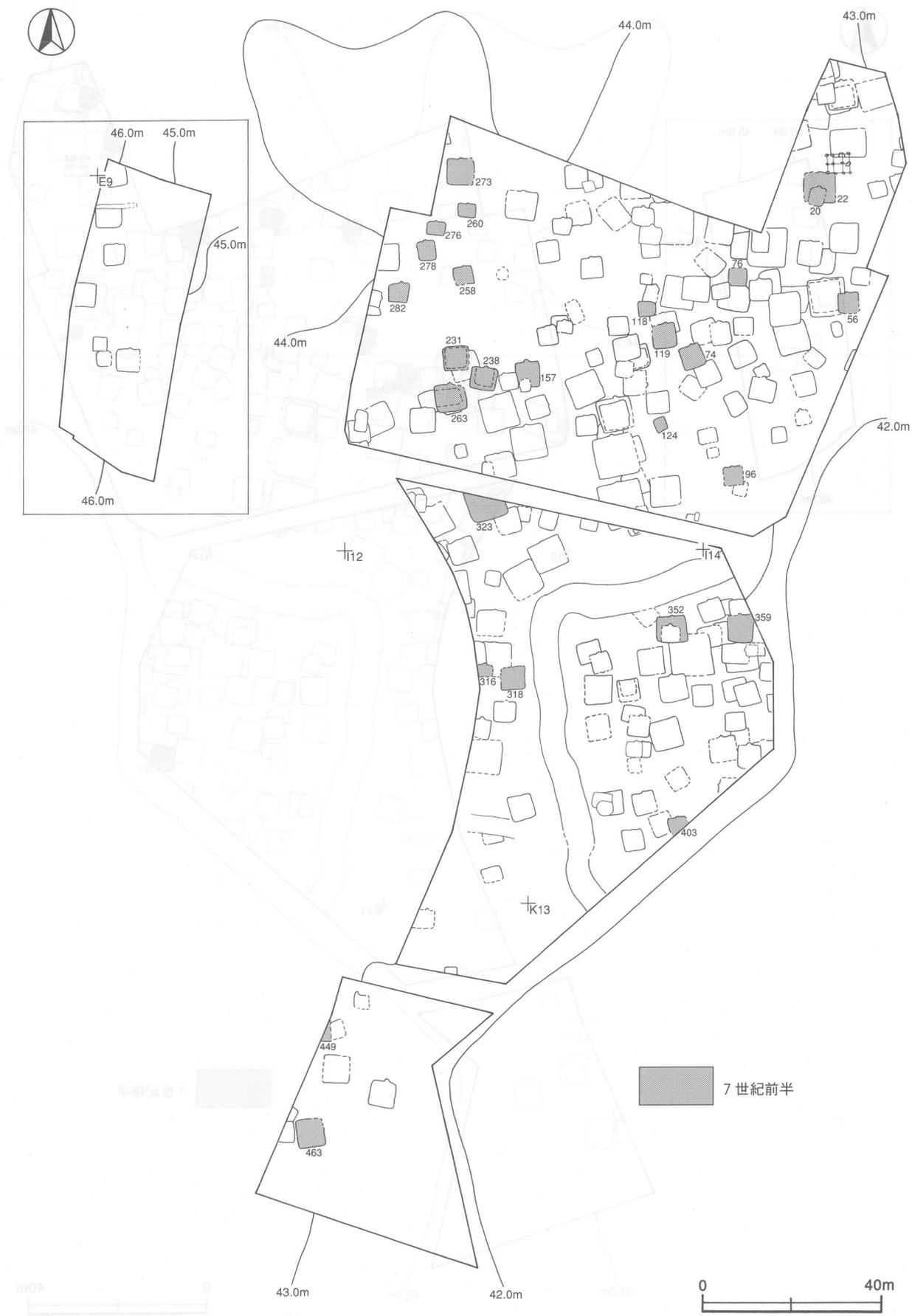
第1007図 辰海道遺跡集落変遷図 (第5期)



第1008図 辰海道遺跡集落変遷図 (第6期)



第1009図 辰海道遺跡集落変遷図（第7期）



第1010図 辰海道遺跡集落変遷図（第8期）



第1011図 辰海道遺跡集落変遷図（第9期）

(原 8 冊) 図説要善集補遺新編 図10101葉

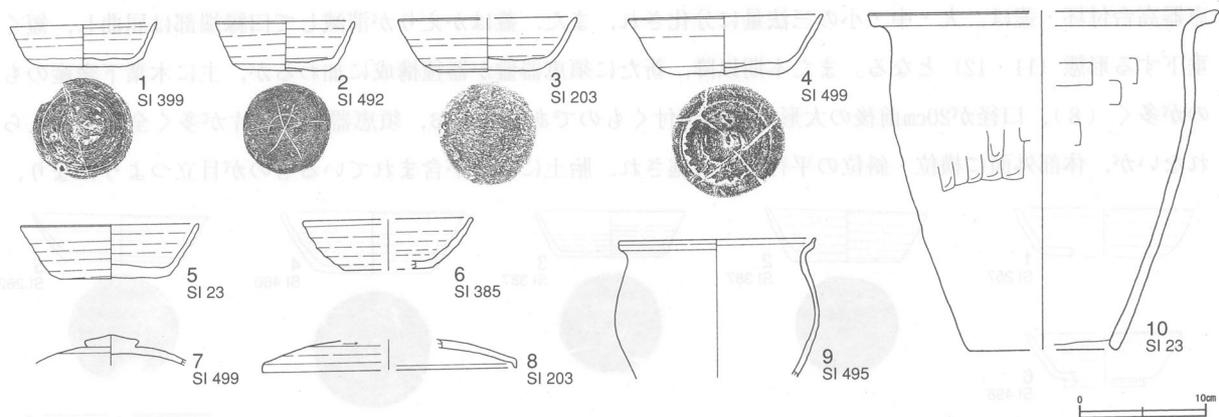
(1) 集落の変遷

第10期 (第1012・1022図)

住居跡9軒などが該当する。第8期までは在地豪族の世襲という地盤の上に立った単位集団の配置が見られ、これらを踏襲した形で集落が展開されていたが、第9期以降、古墳時代の集落構成は崩れ、当該期に入っても集落は引き続き衰退傾向にある。また、住居の形態を見ると、本期初頭には前期からの系譜である竪穴部に4か所の支柱穴を持つ大形住居が存在していたが、その後の住居は小形化し、中には8か所に壁柱穴を有する住居跡が検出されるなど、形態に変化が見られ始める。

なお当遺跡は、古代においては新治郡坂戸郷に属し、地理的にも新治郡衙に近接しているが、本期には刀子や硯などの官衙関連遺跡に見られる遺物は検出されておらず、散村的な様相を示している。また住居跡数が少ないため資料に乏しいが、須恵器製品では木葉下窯産が多く新治窯産は極端に少ない傾向にある。一方、下野国三龜窯産の須恵器(三龜窯産3・4)も一定量検出されているが、その根拠のひとつとして、本期は常陸国内において本格的な須恵器生産が開始されて間もない時期であり、先行する三龜窯産の須恵器を供給する必要があったと考えられる。

また器種構成を見ると、供膳具は坏が圧倒的に多く、高台付坏はほとんど検出されていない。この傾向は常陸国内の須恵器の構成に合致しており、高台付坏が占める割合が高い下野国から坏を中心に須恵器製品が供給されているにも関わらず、常陸国内の器種構成に準じていることは興味深い。なお、須恵器坏には扁平な丸底のものが若干存在するが、平底のものが多数を占め、また、口径は10~15cmまで大・中・小の三法量に分化されている。底部はヘラ切り後、回転ヘラ削り調整しているもの(1・4)が主体である。須恵器蓋には退化したかえりを持つものと全く持たないもの(8)とに分かれるが、いずれも在地窯産のものである。甕については、出土量が少ない上に破片が多く全形をうかがい知ることはできないが、土師器甕に関しては、いわゆる「常総甕」と呼ばれる口縁端部のつまみ上げ(9)を基本とした甕が主体である。



第1012図 第10期の土器群

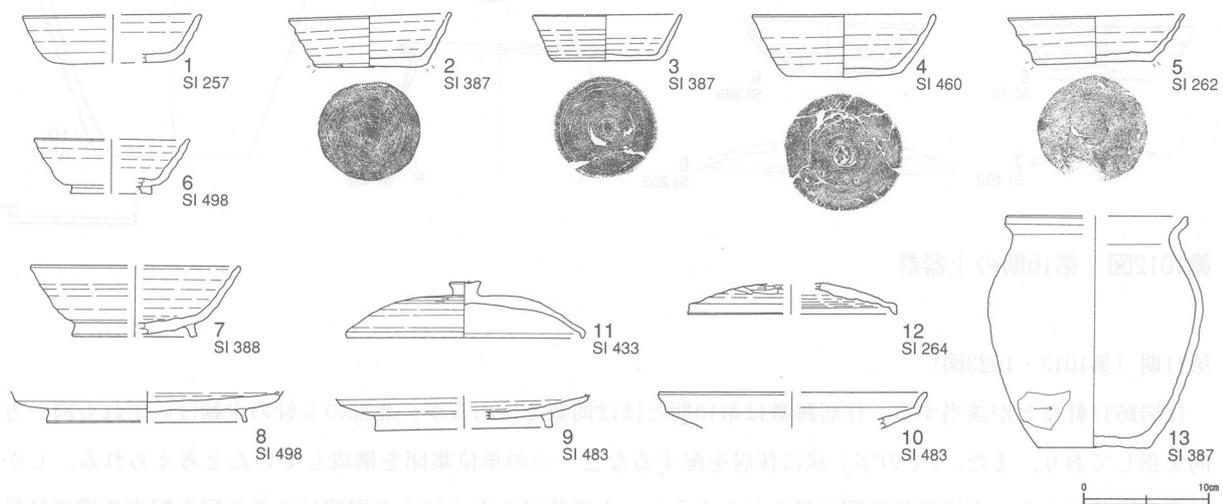
第11期 (第1013・1023図)

住居跡11軒などが該当する。住居跡数は第10期とほぼ同数ではあるが、北部の5軒の軸はいずれも同一方向を指しており、また、「くの字」状に住居を配するなど一つの単位集団を構成していたと考えられる。しかし奈良時代に入り、古墳時代後期に見られたような、大形住居を中心にその周囲に小形住居を配する構成は見られず、ほぼ等質な集団であったと推測される。なお、その集団の中には鍛冶炉を有する住居跡が1軒含まれ

ているが、本期以降、鉄滓や羽口、砥石などの鍛冶関連遺物が住居跡内から検出され始めており、鍛冶関連の手工業が開始されたことを示している。本期は律令国家体制の地方支配が確立し始めた時期であり、当遺跡が新治郡衙と隣接している地域性を考慮すれば、在地の豪族を体制内に取り込んでいく過程で、いわゆる人民支配の遂行と併行し経済基盤の強化が図られたと考えられよう。また、この鍛冶炉を有する単位集団が等質な住居の集合体であることは、官主導型である根拠として挙げられる。なお、第257号住居跡からは多数の瓦が検出され、一部の瓦には竈の補強材として使用されたものも含まれる。これらの瓦は新治郡衙出土の瓦と同じ瓦窯で製作されたものであるが、なぜ、どのように当遺跡へ搬出されてきたかは明らかではない。しかし、当遺跡周辺の地理的環境から考えれば、隣接する新治郡衙跡や瓦窯跡から搬出したことが推測される。特に新治郡衙に関しては『日本後記』の弘仁八（817）年十月の条に、郡衙の焼失について記載されており、当時、郡衙の火災は「神火」として全国的に頻繁に起こっていたことから見ても、新治郡衙が幾度かの火災に遭っていたことが予想され、焼失後に瓦を運び出し二次的に活用していた可能性がある。

また、本期になると土師器はほとんど見られなくなり、供膳具における須恵器への転換は急激と言える。なお本期以降、下野国産の須恵器の中に益子窯産（4・6・7）が見られ始め、この傾向は9世紀後葉まで続くが、その反面、三嶋窯産（1）の須恵器は大幅に減少し、序々に当集落に供給されなくなる。これは、下野国内において、三嶋窯そのものの衰退と益子窯における生産拡大があったことが大きな要因と考えられる。当集落と益子窯跡群は、山ひとつ越えた距離に位置していることも供給される要因と推測される。なお、本期も引き続き木葉下窯産（8・11）の須恵器が検出されている。

器種構成を見ると、圧倒的に多かった坏に対して高台付坏の占める割合が増えてくるが、その中でも益子窯産（6・7）のものが多く、また、高台部には前期と比べて高台が高くなる傾向（7）が認められる。須恵器坏の口径は11～15cmで、大・中・小の三法量に分化されてはいるが、主体は13～15cmの二法量となる。この二法量分化の傾向は常陸国産・下野国産の双方に共通していることである。また、底部はヘラ切り後に回転ヘラ削り調整しているもの（2・3）が依然として多いが、手持ちヘラ削り調整されているものも認められる。須恵器高台付坏・蓋は、大・中・小の三法量に分化され、また、蓋はかえりが消滅して口縁端部は屈曲し、短く垂下する形態（11・12）となる。また本期以降、新たに須恵器盤が器種構成に加わるが、主に木葉下窯産のものが多く（8）、口径が20cm前後の大形で高台が付くものである。なお、須恵器甕は破片が多く全形は捉えられないが、体部外面に横位・斜位の平行叩きが施され、胎土に雲母が含まれているものが目立つようになり、



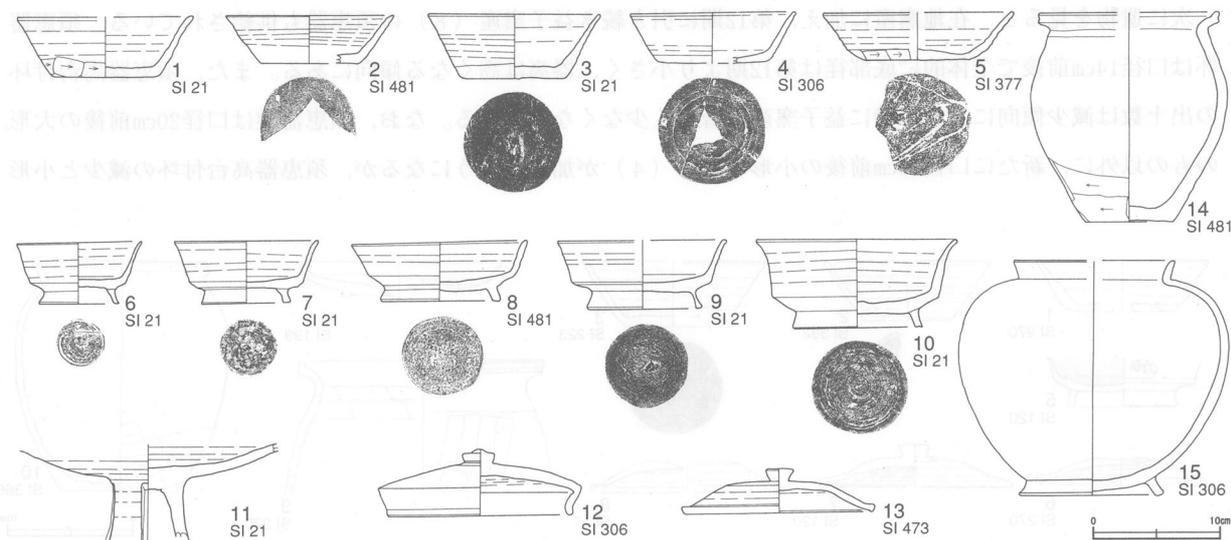
第1013図 第11期の土器群

本期から新治窯産も一定量供給され始める。また、甗については本期も含めて出土量は少ないが、在地窯産の甗が供給されている以上、武蔵国産の甗のように、甗の重さに耐えられず木製蒸籠を使用したとは考えられず、詳細は不明である。

第12期（第1014・1024図）

住居跡9軒が該当する。第11期に存在した北部の鉄生産に携わる集団は姿を消し、鍛冶炉を有する遺構も確認されていないが、鉄滓や砥石は多数検出されている。中央部の第377号住居跡からは、「庄」と記された墨書土器が検出されているが、本期以降、当遺跡内で「庄」と記された墨書土器が多数検出されており、これらの墨書は初期荘園の存在をうかがわせるものである。本期は墾田永年私財令の施行後、各地に初期荘園が形成され始めた時期であり、当遺跡が所在する地域が「坂戸庄」と呼称されていたことから見ても、この地が荘園化しつつあることを示唆していると想定される。なお、初期の荘園は私有を認められた墾田を集積した形で成立したとされるが、8～9世紀代には、律令制下の「国・郡・郷」体制が機能しており、あくまでも荘園は「郷」の中のひとつの地域として存在しているにすぎず、中世荘園とは異なり、開墾や経営などについても国司や郡司に全面的に依存していると言われている。これは、初期荘園内の墾田が輸租であり、賦課される租は国司や郡司が收取するものであることや、当時の開墾には国司の許可が必要であること、また荘園の耕作に関わる農民は、各自に口分田を持ち、賃租として荘園の耕作に関与させられていることなどがその根拠として挙げられる。なお、このような墾田集積型の荘園が、寄進型の荘園体制が確立する以前に各地で生まれており、当地域に存在し始めていたとしても不自然ではないであろう。

遺物を見ると、供膳具はすべて須恵器製品へと転換され、堀ノ内（3・7・10）・木葉下（6・9・11）・益子（13）の各窯で生産されたものが主体となっている。また、住居単位で見ても、これらの各窯産の製品が同一住居跡から供伴しており、須恵器の産地別による使い分けはなされていないようである。また、須恵器坏は口径13～15cm内に留まり、単一化傾向にあって、底部径も第11期より小さい傾向となる。須恵器高台付坏は口径10～16cmと多分化し、大形になる坏は主に堀ノ内窯産のものである。また、須恵器蓋もこの高台付坏の傾向に合わせるように小形のものから大形のものまで多様化している。なお、在地での高盤の製作は第11期から始



第1014図 第12期の土器群

まっているが、当遺跡では本期以降に確認されている。これらは大半が木葉下窯産のもので、四方向に透かしを有する形態（11）である。

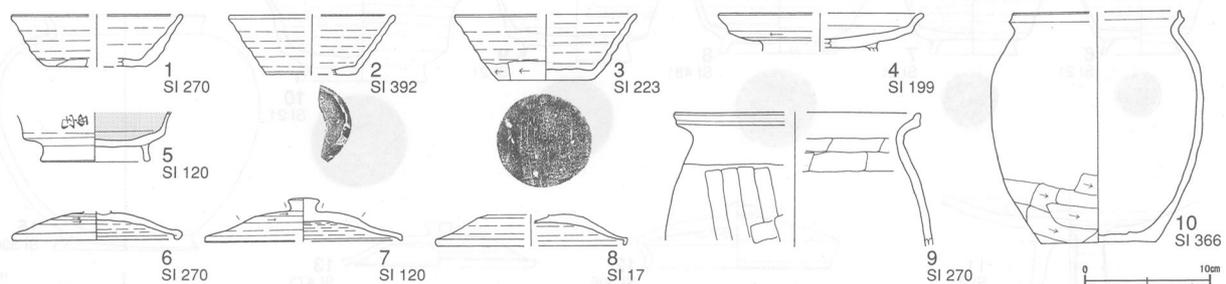
第13期（第1015・1025図）

住居跡9軒のほか、8棟で構成された掘立柱建物群が検出されている。この掘立柱建物群内には第15期まで随時建て替えられている建物跡が3か所で認められ、これらは恒常的かつ連続的に物資を収納した倉庫と断定できる。また第18・25号掘立柱建物跡は、いずれも2×2間の総柱式で柱穴内から炭化米も検出されており、主に穎稻を保管していた倉庫と捉えることができる。しかしこの掘立柱建物群は、地方豪族層にみられる大形の住居を取り囲むように建てられた建物群とは異なる配置を見せており、これらが10世紀を待たずにその姿を消してしまうことや、掘り方の平面形が隅丸形状であることなどから見て、官的様相を感じさせ、分散して保管するために郡衙が掌握した借倉のような倉庫群として存在していたと想定することもできる。

しかし一方では、初期荘園に関連する遺跡でしばしば見られる「庄」や「西宅」と記された墨書土器が本期の集落からも多数検出されていることや、律令体制の衰退期には、国司や郡司による開墾等が頻繁に行われている状況などを加味すると、初期荘園のひとつの事例として、掘立柱建物跡が官的様相を示しているとも言うことができよう。

なお、中央部には、東西に幅約4.6mの溝跡（第4号溝跡）が位置しているが、この溝が何の目的で掘削されたのか、あるいは何を区画しているのかが問題となる。中央部東寄りに位置する、建て替えが行われた掘立柱建物群（第9・16・23・24号掘立柱建物跡）は、恒常的かつ連続的に穎稻を収納した倉庫の可能性が高く、中心となる竪穴住居は確認されていない。それに対して、この溝跡の南側からは、2×2間の総柱式の建物や、他の掘立柱建物跡と若干の空白域で区画されている四面庇の第20号掘立柱建物跡などが確認されている。これらの建物の対比から、北部が倉庫群域であるのに対して、南部は徴税機能を分掌し、物資の集積や管理を行う機能を持った官衙的な区域と想定されよう。なお、この管理的な施設は、第20号掘立柱建物跡以外にも存在したと考えられ、第14号掘立柱建物跡が調査区域外に延びていることから見ても、西側の未調査区域に展開していた可能性が高い。この溝跡を中心に、倉庫群域と管理域が隔てられており、この溝は強い規格性の元に掘削されたものと想定される。なお本期以降、この溝跡を隔て約百年もの間、掘立柱建物群が形成されている。

次に遺物を見ると、在地窯産に加え、第12期に引き続き益子窯産（8）の須恵器も供給されている。須恵器坯は口径14cm前後で全体的に底部径は第12期より小さく、器高は高くなる傾向にある。また、須恵器高台付坯の出土数は減少傾向にあり、特に益子窯産は著しく少なくなっている。なお、須恵器盤は口径20cm前後の大形のもの以外に、新たに口径16cm前後の小形のもの（4）が加わるようになるが、須恵器高台付坯の減少と小形



第1015図 第13期の土器群

の須恵器盤の出現は、住居の規模縮小など、民衆の生活になんらかの変化の兆しがあったことに起因すると思われる。また、甕類は断片からの推測となるが、土師器甕は長胴化の傾向が見られ、須恵器甕と土師器甕の口縁端部は、いずれもつまみ出しが明瞭となってくる(10)。また、須恵器甕は青灰色で厚手の堀ノ内窯産のものが主流であるが、新治窯産の須恵器甕も供給されており、体部の平行叩きは横位から縦位へと変化してきている。また施釉陶器はほとんど見られないが、投棄された状態で第1号堀跡から検出された椀は猿投産井ヶ谷78号窯式のものである。

第14期(第1016・1026図)

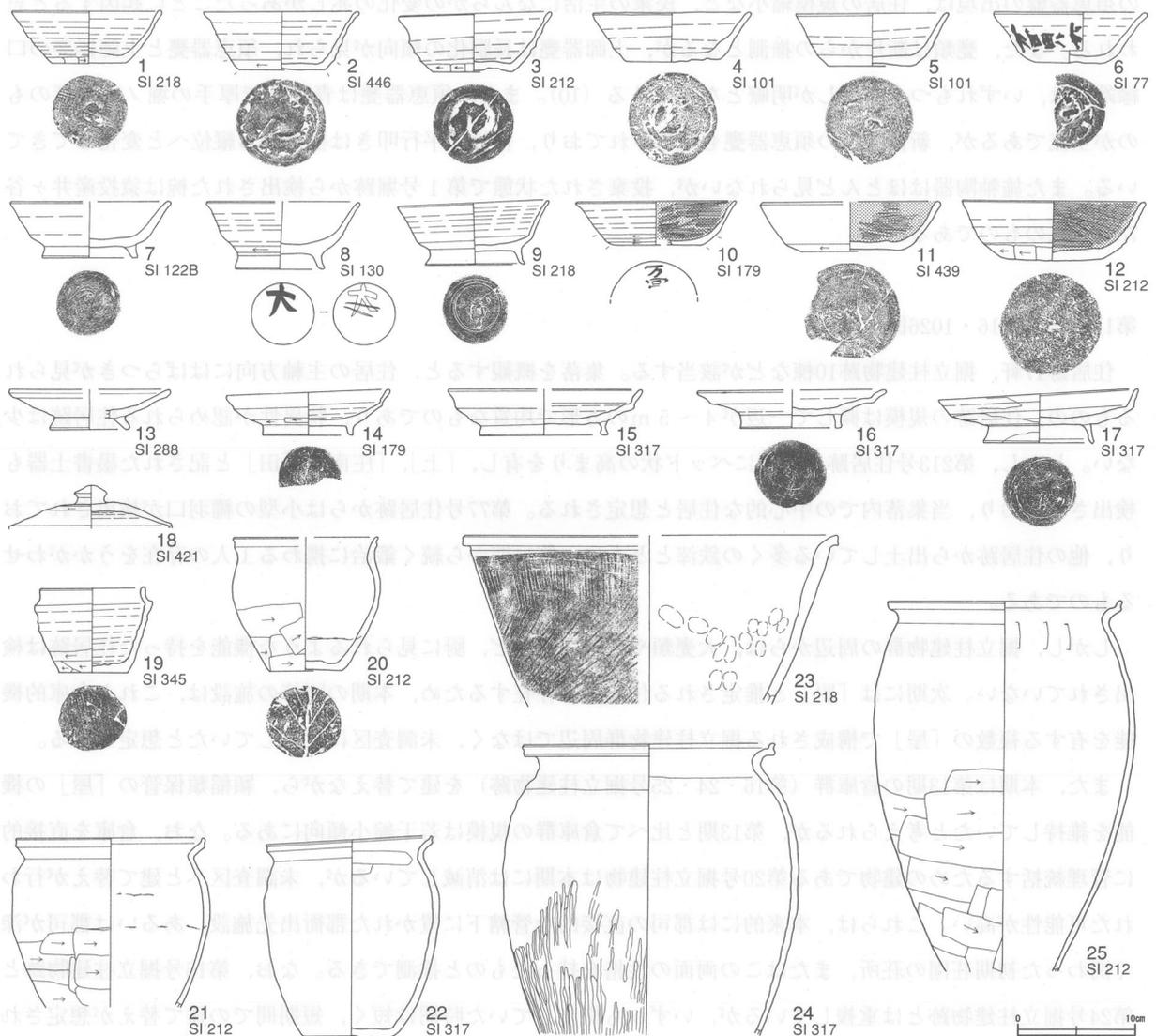
住居跡17軒、掘立柱建物跡10棟などが該当する。集落を概観すると、住居の主軸方向にはばらつきが見られるものの、住居跡の規模は概して一辺が4～5mの方形で均質なものであり、特異性が認められる住居跡は少ない。しかし、第213号住居跡は床面にベッド状の高まりを有し、「上」、「庄南」、「田」と記された墨書土器も検出されており、当集落内での中心的な住居と想定される。第77号住居跡からは小型の鞆羽口が検出されており、他の住居跡から出土している多くの鉄滓とともに、第11期から続く鍛冶に携わる工人の存在をうかがわせるものである。

しかし、掘立柱建物群の周辺からは、大甕類や大形の竈など、厨に見られるような機能を持った住居跡は検出されていない。次期には「厨」と推定される住居跡が存在するため、本期の厨等の施設は、これら倉庫的機能を有する複数の「屋」で構成される掘立柱建物群周辺ではなく、未調査区に位置していたと想定される。

また、本期は第13期の倉庫群(第16・24・25号掘立柱建物跡)を建て替えながら、穎稻類保管の「屋」の機能を維持していたと考えられるが、第13期と比べて倉庫群の規模は若干縮小傾向にある。なお、倉庫を直接的に管理統括するための建物である第20号掘立柱建物は本期には消滅しているが、未調査区へと建て替えが行われた可能性が高い。これらは、本来的には郡司の直接的な管轄下に置かれた郡衙出先施設、あるいは郡司が深く関わった初期荘園の荘所、またはこの両面の性格を持ったものと推測できる。なお、第16号掘立柱建物跡と第24号掘立柱建物跡とは重複しているが、いずれも機能していた時期は短く、短期間での建て替えが想定される。

また、須恵器製品の安定供給は、他地域との交流を如実に物語っているが、本期も堀ノ内窯産(2・9・19)が大半を占めているものの、木葉下窯産(18)や益子窯産(8)、新治窯産のものも依然供給されている。特に、木葉下窯産の須恵器製品は蓋や盤などの器種が多く、新治窯産には甕が多い傾向にある。この傾向は、当遺跡だけでなく常陸国内の官衙や官的様相の強い遺跡にも比較的該当しており、興味深い。

なお、本期からは新たに土師器坏が器種構成に加わるが、須恵器坏と比べて、底部径が大きく(10～12)、体部も内彎気味に立ち上がっている。また内面は黒色処理が施されており、ヘラ磨きも丁寧である。体部下端は手持ちヘラ削りが施されているもの(12)と回転ヘラ削りのもの(11)とがある。なお、須恵器坏は口径12～14cmほどで、底部径の縮小化がさらに進み、口縁端部が肥厚するもの(1)も目立ってきている。また、体部下端の調整は供給元の窯地により大きく異なるが、大半を占める堀ノ内窯産のものは回転ヘラ削りと手持ちヘラ削りの両方が認められ、無調整のものは少ない。須恵器高台付坏は、口径12～13cmのものが主流であるが、小形のものも前期に引き続いて供給されている。高台部は高く、高台部と体部との境が明瞭なもの(9)とそうでないもの(8)とに分かれるが、前者は堀ノ内窯産、後者は益子窯産に多い傾向が見られる。また、須恵器や土師器の皿(13)は出土量が極端に少ない。土師器甕は、第13期同様、口縁端部のつまみ上げがかなり顕著で(22・25)、体部の長胴化も進んでいる(25)。なお、新治窯産の甕には格子状の叩きが施されているもの



第1016図 第14期の土器群

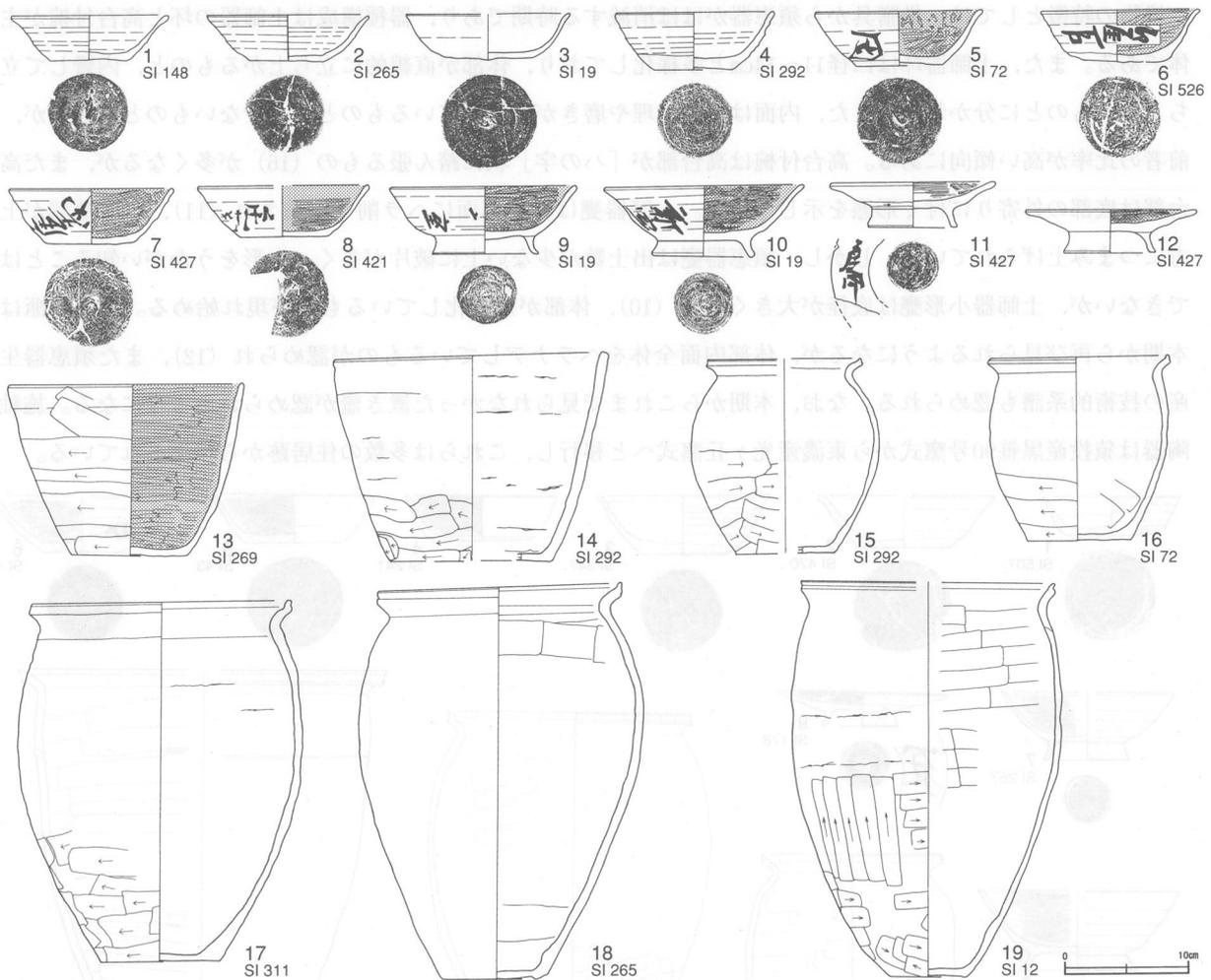
も見られ始める。須恵器鉢は、「バケツ状」のもの(23)が見られるが、出土数は少ない。また、施釉陶器は猿投産黒笹14号窯式のもの認められるようになる。なお、第214号住居跡からは仏鉢が出土しており、この頃には集落内にも仏教が浸透していたことがうかがわれる。

第15期(第1017・1027図)

住居跡23軒、掘立柱建物跡3棟などが該当する。第13期から続く掘立柱建物群は棟数が半減し、構造や規模から衰退傾向にあることが見て取れる。一方、北部では住居数に新たな増加が見られるようになる。これらの住居跡からは、「新室」、「新」、「室」、「庄」、「庄南」と墨書された坏9点が出土しているが、比較的大型の荘園では、荘所は複数存在するため、「庄」の前後のいずれかに方位を付け加えた墨書が見られることが多く、当集落からは「庄南」の墨書が多数検出されていることは、すでに当集落が大型荘園に成長していたことを表しているものと考えられる。また、全国的に880年頃には荘園の不輸・不入権が認められ、律令制の崩壊とともに各地で荘園が増加している時期であり、当遺跡の時期と合致している。なお、「庄南」と記された墨書土

器は第17期まで認められる。前期と比べて飛躍的に増加した施釉陶器の検出は、当集落の経済的な繁栄をうかがい知るものであり、鉄生産に関わる遺構や遺物が多数検出されたことと併せ、これらの繁栄を鉄生産を中心とした荘園経営によるものとするのは早計であるが、可能性は無視できないであろう。また、これらの灰釉陶器は、猿投産黒笹90号窯式が主体であり、中でも緑釉陶器の出土数は全体の2割を超える。

遺物の特徴を挙げると、須恵器製品は減少傾向にあるものの、益子窯産(1)のものが依然認められる。なお、供膳具における土師器の占める割合は大幅に増加する。また、須恵器坏はさらに底部径が小さくなるものや体部が内彎するものが見られるようになり、土師器坏は第14期よりも底部径が小さくなる傾向にある。一方、土師器高台付坏は大幅に増加し、いずれも内面に黒色処理とヘラ磨きが施されている。これらの高台付坏は、高台部が底部の外寄りに付き、「ハの字」状に開く形態が主体となる。甕や鉢も土師器の比率が高くなり、いずれも口縁端部のつまみ出しはさらに高くなる。なお、土師器鉢は須恵器の調整を模倣しているものが多くなるが、体部外面に輪積み痕が残るなど調整の雑なもの、内面に黒色処理や磨きを施して丁寧に仕上げるもの(13)とに分かれている。

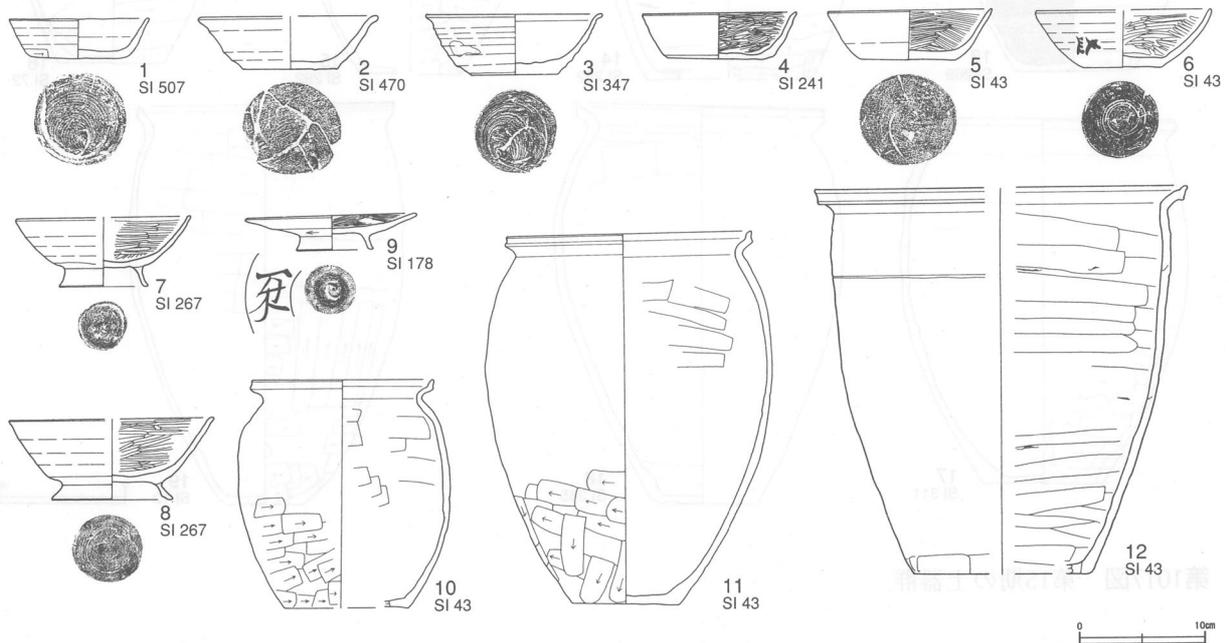


第1017図 第15期の土器群

第16期 (第1018・1028図)

住居跡23軒などが該当する。掘立柱建物跡は当期以降全くみられなくなり、竪穴住居だけの構成となる。住居は概して小形で、確認面からの掘り込みが浅く、遺存状態の悪いものが多い。なお、第178号住居跡には、鍔金具や鉄鏃、墨書土器などが投棄されており、荘園に關与している有力者層の存在をうかがう資料となっている。また902年には荘園整理令が施行され、地方有力者層の皇族・貴族や寺社などへの田地の寄進が禁止されることになり、これにより一時的ではあるが国司や郡司層が積極的に開墾や荘園經營に關与することは少なくなる。このような状況は、当遺跡内でも掘立柱建物群が消滅し、遺跡中央部を南北に二分していた第4号溝が第15期の段階で埋め戻されていることとも關連があるのかもしれない。しかし一方、次期にかけて人口は著しく増加していき、特に第17期は本期の住居数の約2.3倍にまで増加している。この人口増加については、律令体制の元での地方支配が崩壊していく中、浮浪したり逃亡したりした農民を強制的に動員したためと想定すれば、国司や郡司が關与したこれまでの荘園体制から、在地有力者層（郷司を歴任していた大名田堵と呼ばれる地方豪族や、土着した国司など）が荘園領主となって、開墾地に対する占有権を確保し、既存の鍛冶に關する工人集団をも傘下に取り込みながら、新たな体制へと轉換が図られた結果とも考えられる。

遺物の特徴としては、供膳具から須恵器がほぼ消滅する時期であり、器種構成は土師器の坏と高台付椀が主体である。また、土師器坏は口径11~14cmと多様化しており、体部が直線的に立ち上がるものと、内彎して立ち上がるものとに分かれる。また、内面は黒色処理や磨きが施されているものとそうでないものがあるが、前者の比率が高い傾向にある。高台付椀は高台部が「ハの字」状に踏ん張るもの(16)が多くなるが、まだ高台部は底部の外奇りに付く形態を示している。土師器甕は体部外面にヘラ削りが施され(11)、口縁端部が上方につまみ上げられている。しかし、須恵器甕は出土数が少ない上に破片が多く、全形をうかがい知ることができないが、土師器小形甕は底径が大きくなり(10)、体部が短胴化しているものが現れ始める。土師器甗は本期から再び見られるようになるが、体部内面全体をヘラナデしているものが認められ(12)、また須恵器生産の技術的系譜も認められる。なお、本期からこれまで見られなかった置き竈が認められるようになる。施釉陶器は猿投産黒笹90号窯式から東濃産光ヶ丘窯式へと移行し、これらは多数の住居跡から検出されている。



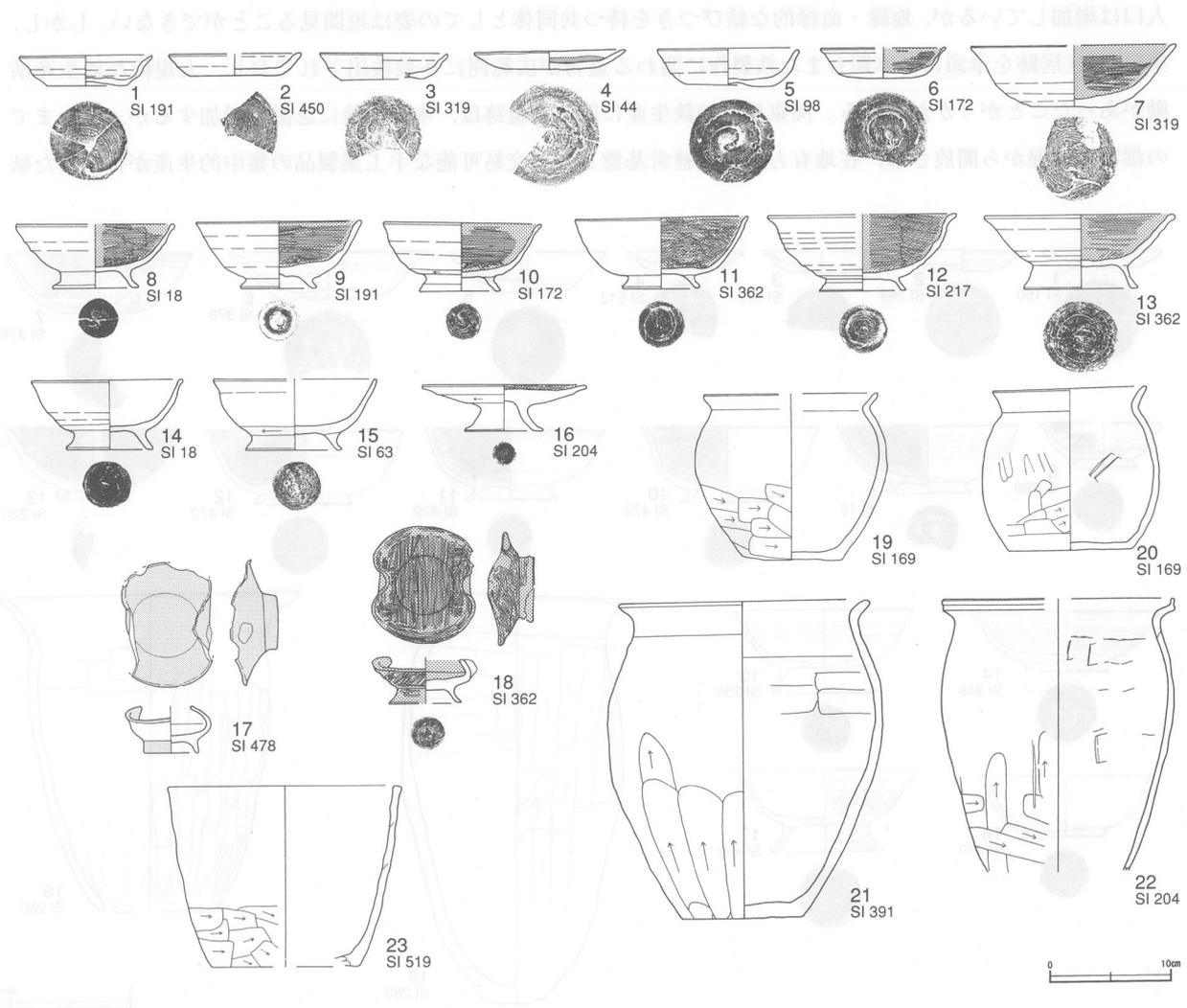
第1018図 第16期の土器群

第17期 (第1019・1029図)

該当住居数は52軒と、第16期と比べて飛躍的に増加し、10世紀代の最盛期を迎える。また、本期の住居形態の特徴としては、竈を東壁の南部に付設し、北側に広い空間を持つことが挙げられる。中には北部と中央部を仕切る溝が認められる例(第299号住居跡)もあり、居住者たちは意識して大きな空間を設けている。また、これらの住居からは鉄滓が多数検出されており、鍛冶に関する工人の住居と考えられる。なお第11期以降、掘立柱建物跡は検出されなくなるが、集落の中心が中央部よりも北側に展開していることから、未調査区に掘立柱建物跡が位置している可能性は高い。

10世紀以降になると、初期荘園の成立などにみられる律令体制の弛緩を背景として、在地有力者層の居館が経営拠点として複雑な様相を呈するようになる。荘官となった在地有力者は、それらを管理する荘所を荘園地内の各地に設けることが多く、「庄南」と墨書された坏が本期の住居跡からも検出されていることは、在地有力者の居宅も遺跡北の方角に存在しているものと推定される。また、『新編常陸国誌』には、延喜四年(904年)に源順の選述した『和名抄』の記述を引用し、飯岡村に小宅が存在していたと述べている。飯岡村は当遺跡の北方向に位置している現在の小字飯岡と想定されるが、飯岡周辺に在地首長の居宅があった可能性も指摘される。

次に遺物の特徴を挙げる。本期は須恵器が消滅する時期であり、新たに足高の高台碗や小皿が出現してくる。

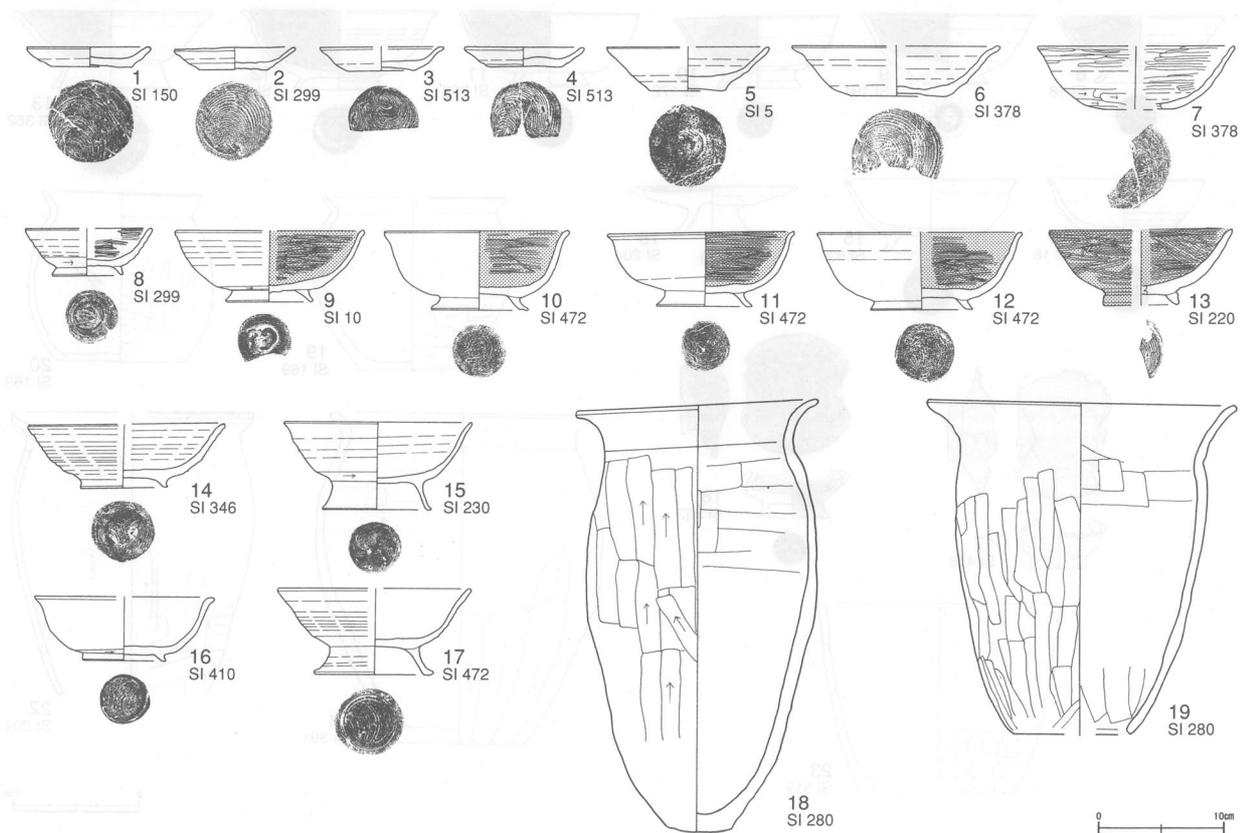


第1019図 第17期の土器群

坏は口径10~17cmと多様化するが、小形のものには底部径が大きい傾向にある。また、坏と高台付碗の体部はすべて内彎し、内面に黒色処理が施されるものと未調整のものに分かれる。高台付碗の高台部は、前期よりも底部の内寄りに付くものが目立ち始め(9~12)、体部の膨らみがより強調されている。また足高の高台碗は、高台付碗同様、体部が内彎して高台部もハの字に踏ん張る形態となる(13)。小皿の口径は10~12cmであり、底部の切り離しは回転ヘラ切り離しが主体であるが、一部糸切り離し(1・2)も見られ、口縁端部は外反するものと端部が肥厚しているものとに分かれる。甕や小形甕は、第16期からの系譜である口縁端部をつまみ上げるものと、新たに角張らせるものや丸く整えるもの(19~21)が出現するが、いずれも雑な調整のものが目立つ。また、施釉陶器は東濃産や尾北産のものが多く、東濃産光ヶ丘1号窯式の耳皿も検出されている。この耳皿のほか、緑釉陶器の段皿、稜碗などが多数検出されており、当集落の経済的発展がうかがえるが、これらの施釉陶器を金属器模倣の仏器類であることから捉えれば、当集落での仏教信仰の一端が垣間見られ、周辺に「村落内寺院」の存在も示唆される。

第18期 (第1020・1030図)

住居跡45軒などが該当する。住居の分布は、ほぼ第17期を踏襲して遺跡全域に広がりを見せるが、住居の主軸方向は概ね東方向を指した集落内での規律性をうかがうことができる。また、当集落は第17期から飛躍的に人口は増加しているが、地縁・血縁的な結びつきを持つ共同体としての姿は垣間見ることができない。しかし、第513号住居跡を筆頭に、本期もまた鉄製作に関わる遺物が広範囲に多数検出されており、大規模な鉄生産活動があったことがうかがわれる。関東地方の鉄生産に関する遺跡は、本期前後に急激に増加するが、これまでの郡家の掌握から開放され、在地有力者層の経営基盤として交易可能な手工業製品の集中的生産が行われた結



第1020図 第18期の土器群

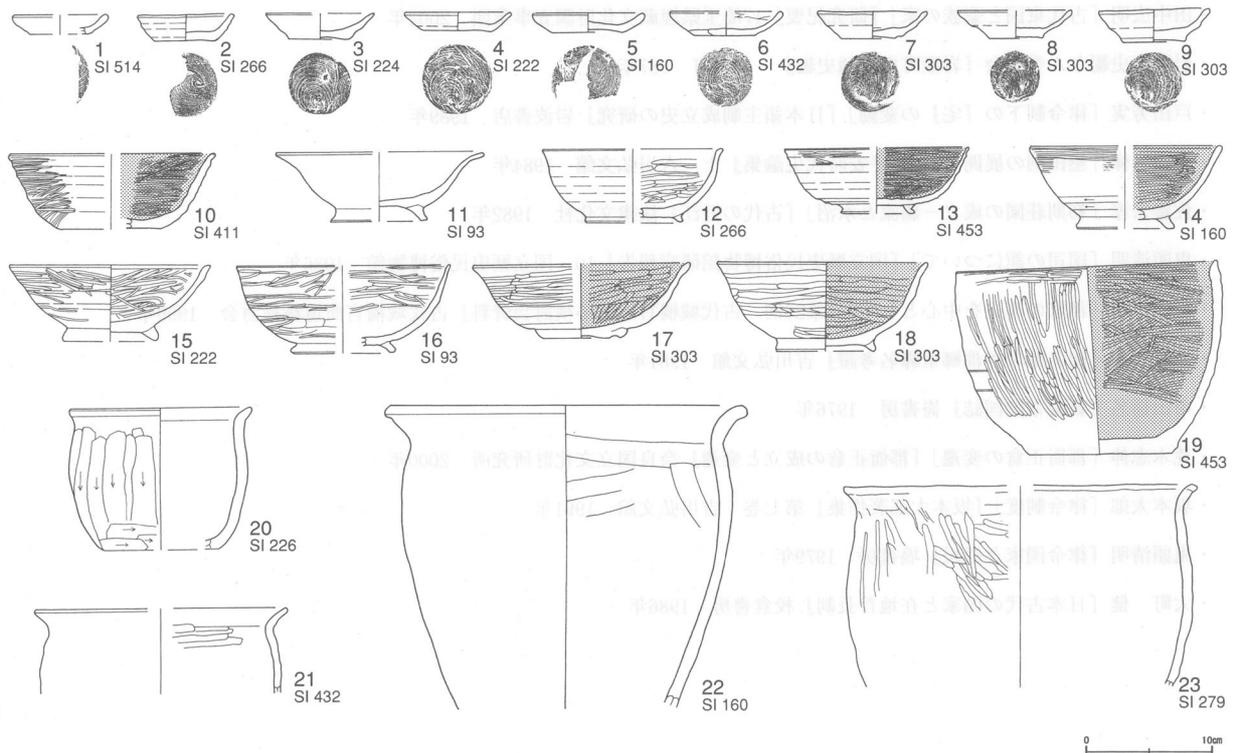
果と推定される。

なお、集落を東西に分断する溝跡（第4号溝跡）は埋め戻されてはいるものの、長い間、窪地として遺物の投棄が見られる。しかし、その後はかなり埋没が進んだと考えられ、当該期に比定される遺物は極少量が出土するだけである。

本期の器種構成は、坏は出土数が減少して供膳具の主体は高台付椀と小皿に移る傾向にあるが、坏には体部が外反気味に大きく開くもの（6）や、外面に磨きが施されるもの（7）が現れる。高台付椀は、体部の内彎が第17期に引き続き顕著となり、口径10cmほどの小形のものが現れ、また、坏同様に外面にも磨きを施すもの（13）が現れる。高台部は、第17期の系譜を引き継ぐものと極端に低いものに分かれる。足高高台椀は出土数が減少する傾向にあり、内面に磨きを施すものは衰退し、未調整のものが現れるようになる（15・17）。また、小皿は口径が10cmのものが主体となり、底部はヘラ切り離しのは無くなくなり、糸切り離しだけとなる。甕は口縁端部をつまみ上げるものは消滅し、第17期に見られた角張らせたものや丸く整えたものだけとなっている。また甕の中には、頸部から大きく外反し、口縁部に最大径を持つもの（19）が新たに出現するが、いずれも調整は雑である。

第19期（第1021・1031図）

住居跡14軒が該当する。第18期と比べ住居数は減少している。特に、これまで隆盛を誇っていた北部に位置する集団の衰微は顕著である。しかし、北部からは鍛冶工房が検出されており、製錬鍛冶に関する遺物の検出も多く、流動滓などを破碎した状況から判断すると、使用可能な銑鉄塊の小割や選別の作業も行われていたようである。また、径11cmほどの大形の羽口のほか、第128号住居跡からは羽口や炉壁材、鉄滓等が検出されている。以上のことから、周辺に製鉄関連の工房跡が存在していたことは明らかであり、外部への交易品として



第1021図 第19期の土器群

の生産活動は継続して行われていたと推定できる。また本期以降、新たに「郡・郷・保・荘」という地方行政システムが構築され、律令制下の「郡」から「郷」や「荘園」が独立してひとつの行政単位となる。このように荘園と公領との領域的な区別が確立し、村を実質的に支配する在地富豪層は、在地官人というもうひとつの側面を持ち始める。また、当遺跡は鉄生産に関する手工業を取り込みながら経済的に繁栄していったことがうかがわれ、中世になって坂門郷と大幡郷の二郷が中郡庄に組み込まれていくことから見ても、この時期は在地有力者層が在地領主へと成長を遂げる過渡期になるのではないだろうか。

また、当遺跡内では住居数の減少が認められるが、中心的建物や掘立柱建物跡などは検出されていないため、集落の中心は遺跡西側の未調査区域へ移動していたものと推測される。

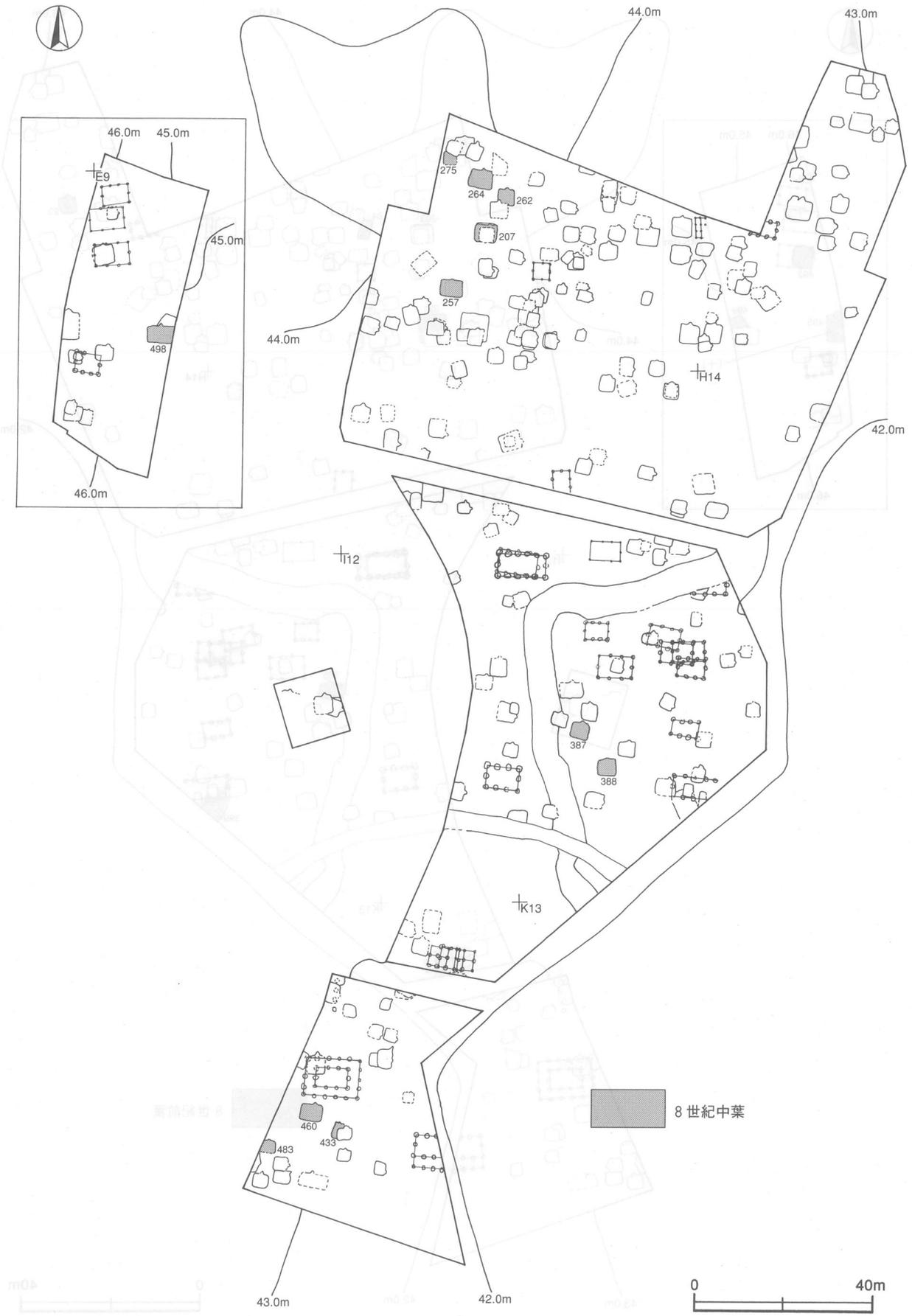
遺物を見ると、器種構成は第18期とほぼ同様であるが坏は消滅している。また、高台付椀は高台部が低いものだけとなり、外面に磨きを施すものが主流となるが、口縁部端部が大きく外反し、無調整の高台付椀は残る。小皿は口径9 cm以下のものが主体となり、その出土数も増加している。甕は第18期同様、雑な作りのものが多いが、出土量は減少傾向にある。また、鉢は体部が内彎し、内面だけでなく外面にも磨きを施すなど丁寧な作りのものが多い。なお本期は、隣国下野地方を含め広範囲に渡って、同器種内での規格の単一化や甕の出土数の減少、さらに小皿の普遍化などの傾向が認められ、耳付き鍋や三足鍋など竈での使用を前提としない煮炊き具も出土している。この時期は、平地式建物などへの転換が序々に進行していた可能性もあり、古代から中世への社会状況の変化の兆しが、生活様式の変化からも感じられる。(宮田)

参考文献

- ・山中敏史「律令国家の地方末端支配機構－研究の現状と課題－」『律令国家の地方末端支配機構をめぐって』－研究集会の記録－ 奈良国立文化財研究所 1998年
- ・川井正一「萌葱色の器－施釉陶器の交易と流通について－」『茨城史林』26 茨城地方史研究会 2002年
- ・田中広明「古代東国と豪族の家」『研究紀要』17埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2002年
- ・岩瀬町史編さん委員会『岩瀬町史 通史編』 岩瀬町 1987年
- ・戸田芳実「律令制下の『宅』の変動」『日本領主制成立史の研究』岩波書店 1989年
- ・森田 悌「墾田制の展開」『奈良平安時代史論集』上 吉川弘文館 1984年
- ・佐藤宗淳「初期荘園の成立－覇流と水沼」『古代の近江』法律文化社 1982年
- ・鬼頭清明「国司の館について」『国立歴史民俗博物館研究報告』10 国立歴史民俗博物館 1986年
- ・荒木 隆「郡家の構造を中心として」『第26回 古代城柵官衙遺跡検討会資料』古代城柵官衙遺跡検討会 1999年
- ・池邊 彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』吉川弘文館 1981年
- ・中山信名『新編常陸国誌』崙書房 1976年
- ・荒木志伸「郡衙正倉の変遷」『郡衙正倉の成立と変遷』奈良国立文化財研究所 2000年
- ・坂本太郎「律令制度」『坂本太郎著作集』第七巻 吉川弘文館 1991年
- ・鬼頭清明『律令国家と農民』塙書房 1979年
- ・大町 健『日本古代の国家と在地首長制』校倉書房 1986年



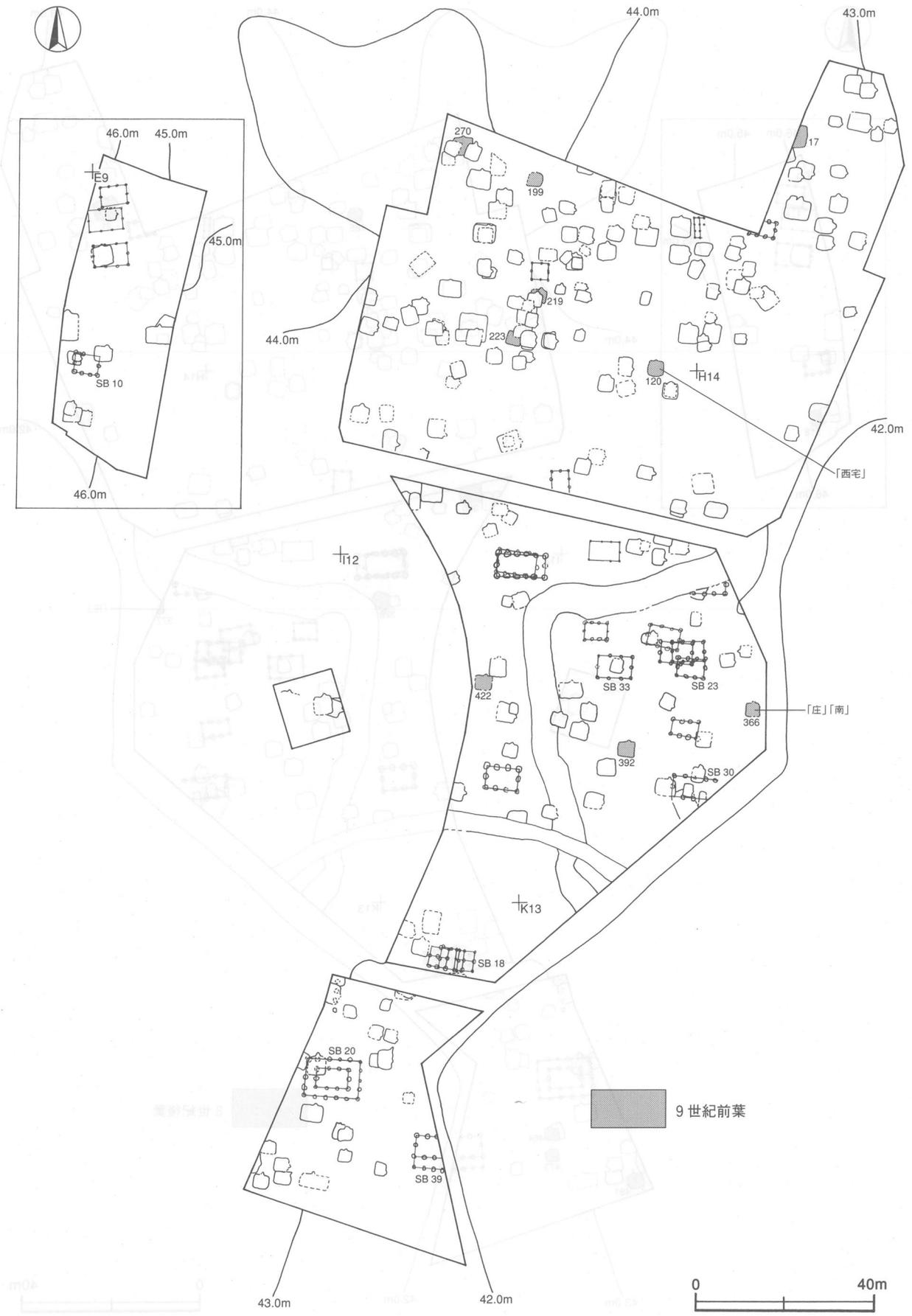
第1022図 辰海道遺跡集落変遷図（第10期）



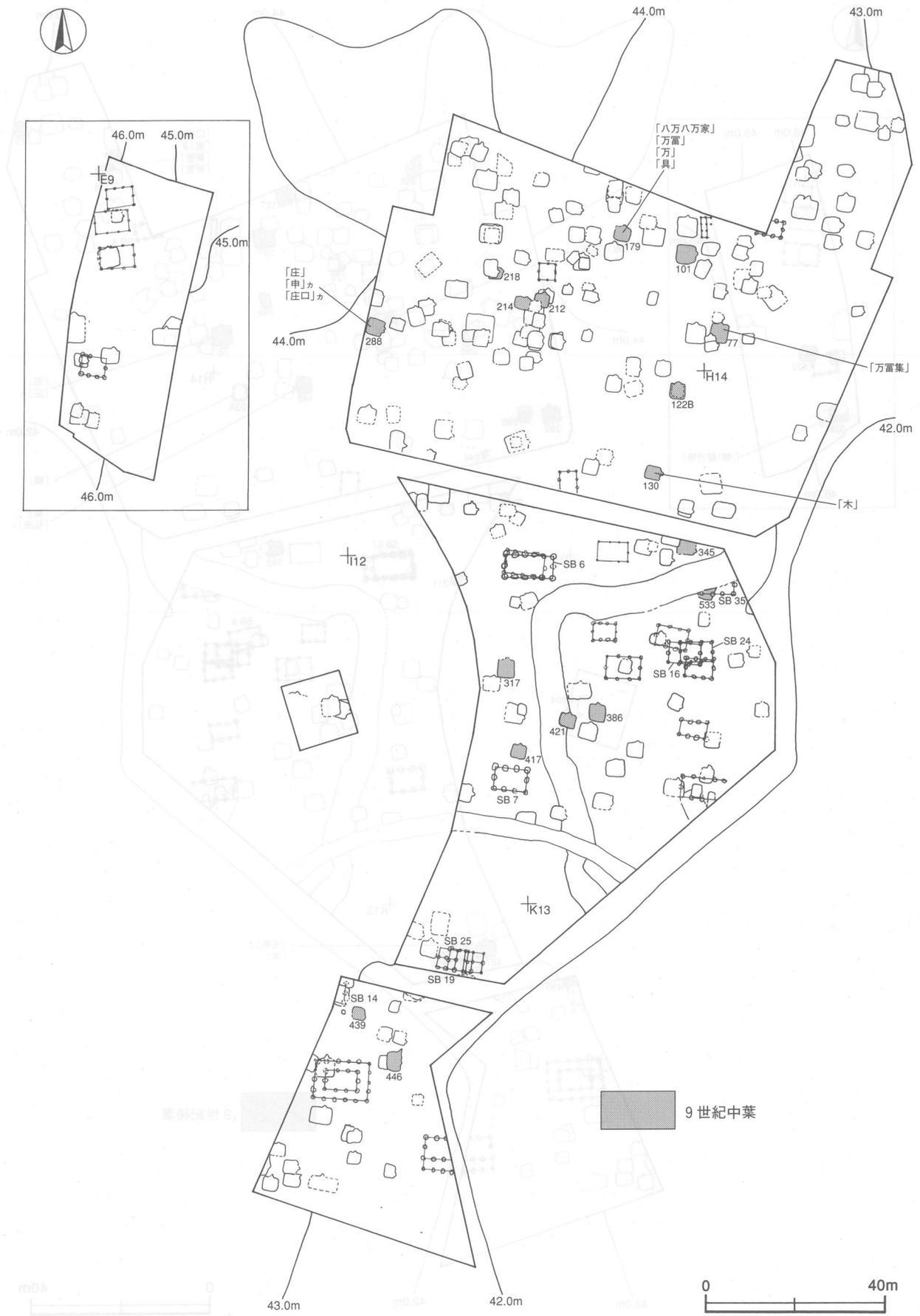
第1023図 辰海道遺跡集落変遷図 (第11期)



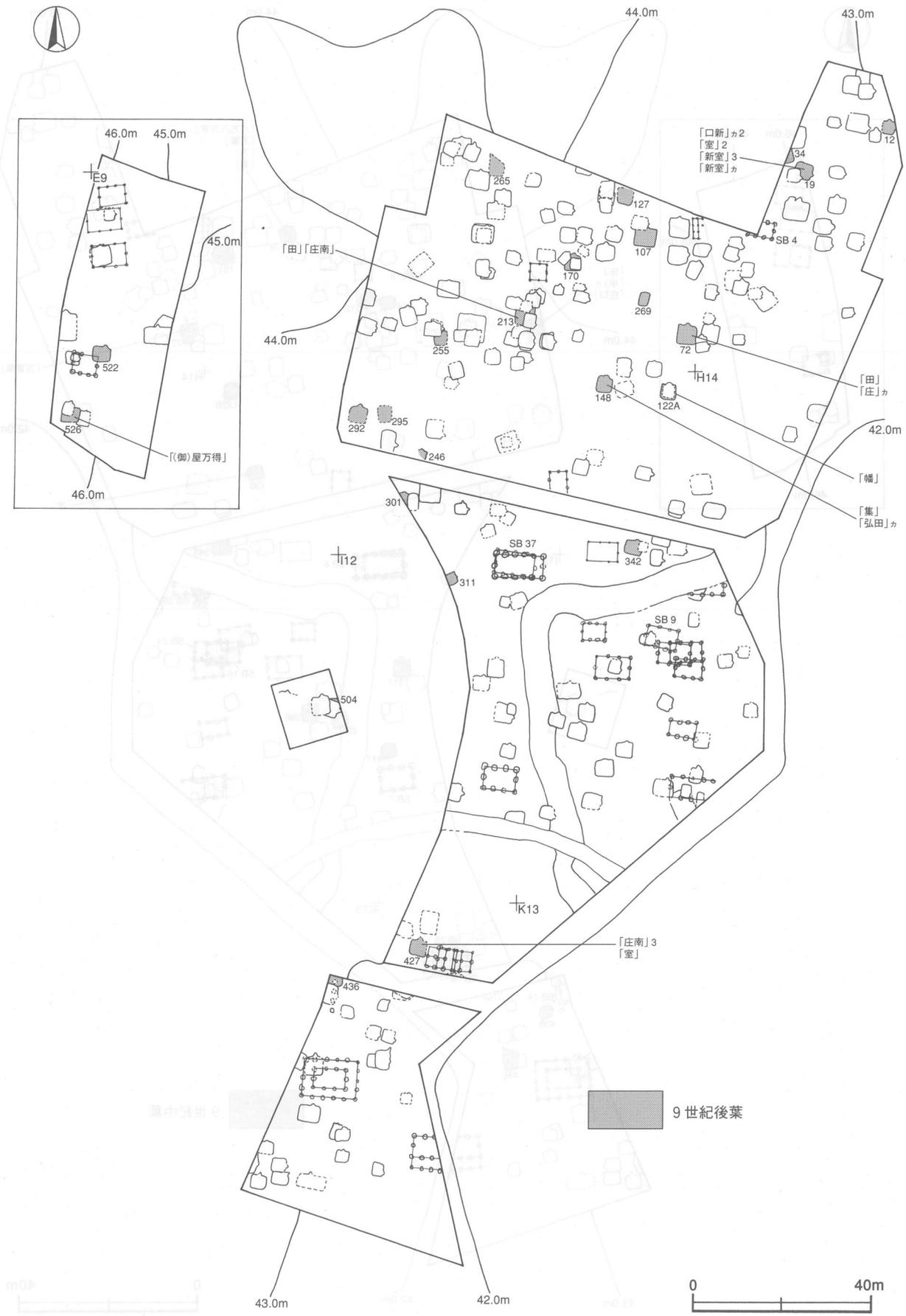
第1024図 辰海道遺跡集落変遷図（第12期）



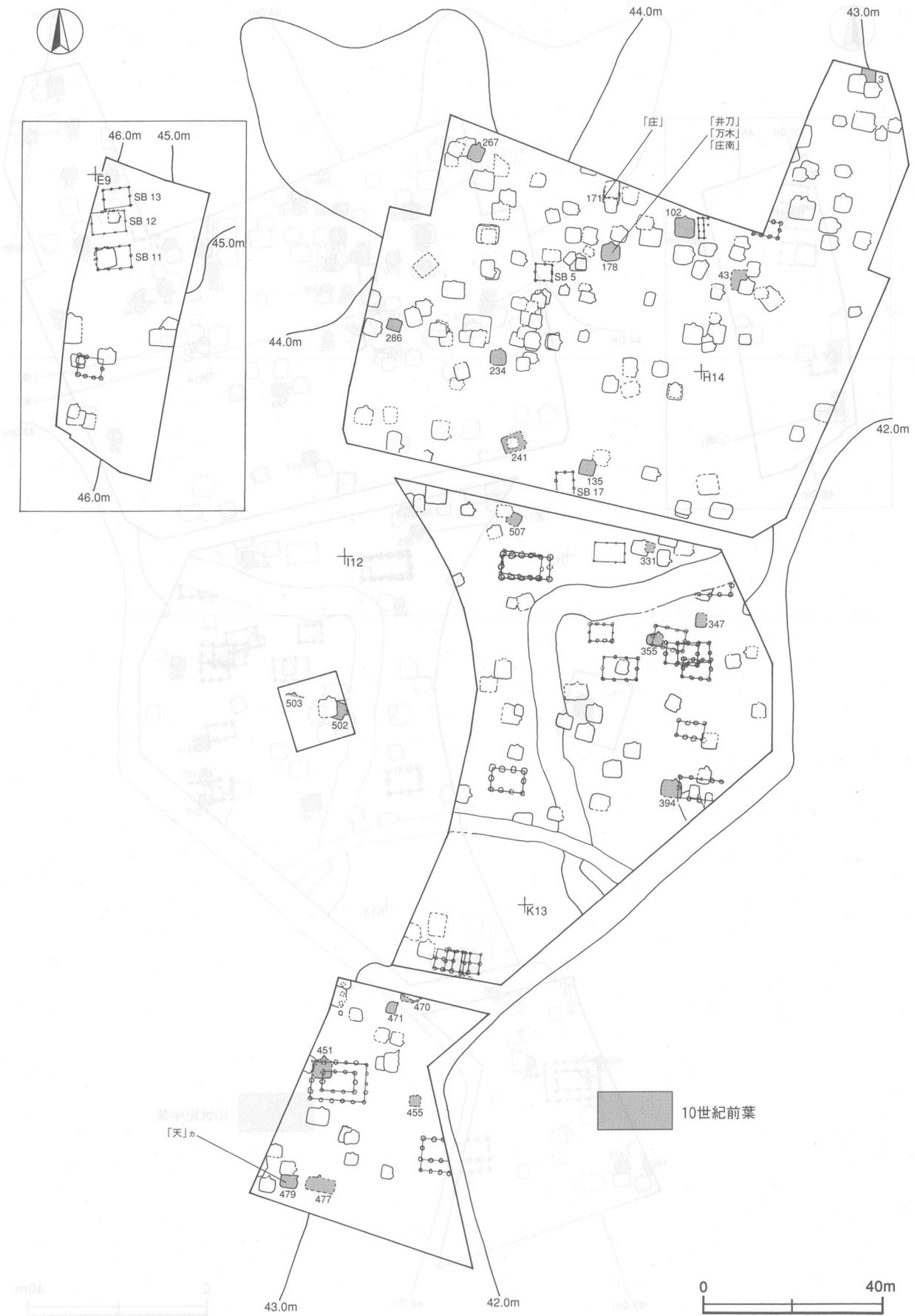
第1025図 辰海道遺跡集落変遷図（第13期）



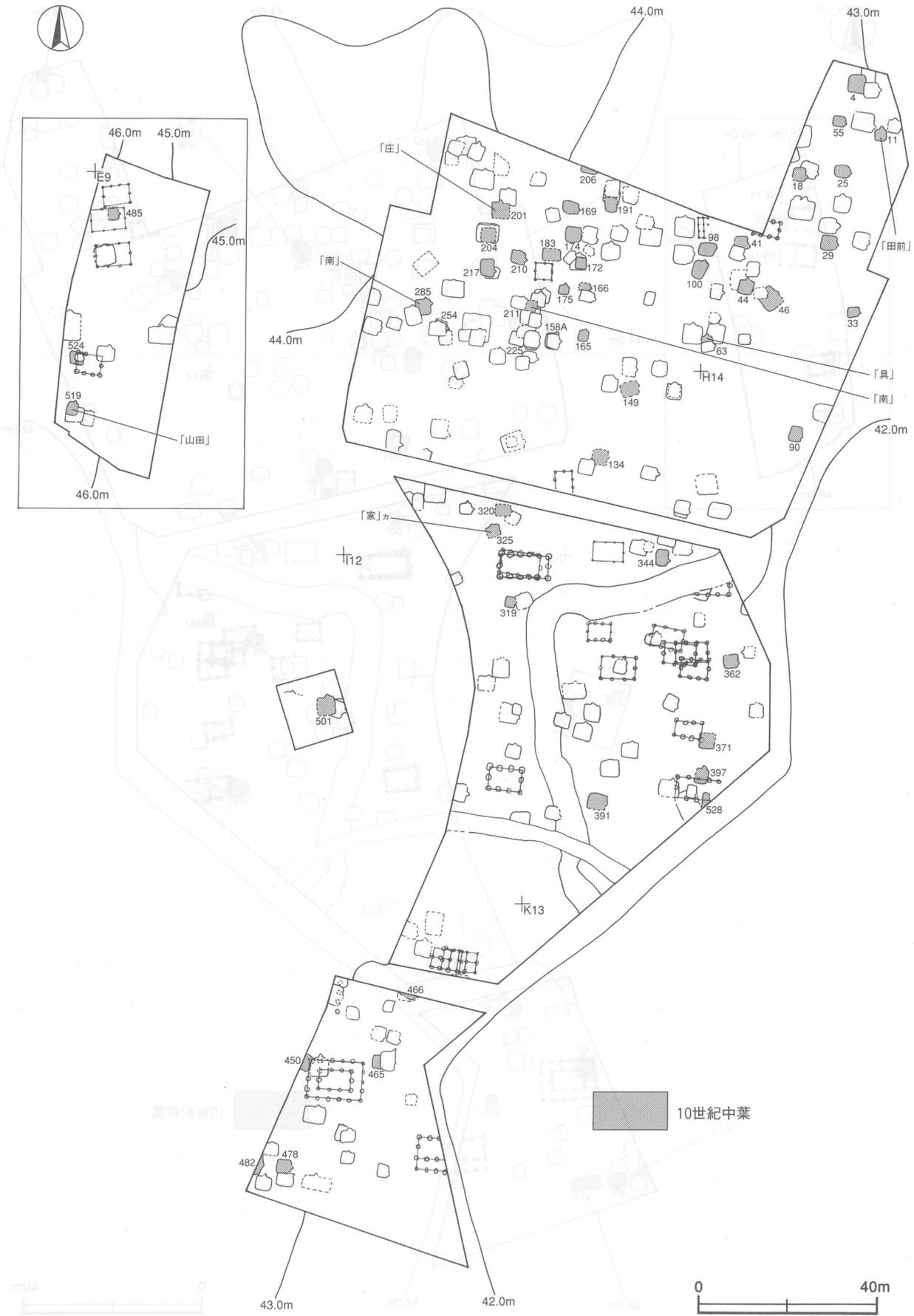
第1026図 辰海道遺跡集落変遷図（第14期）



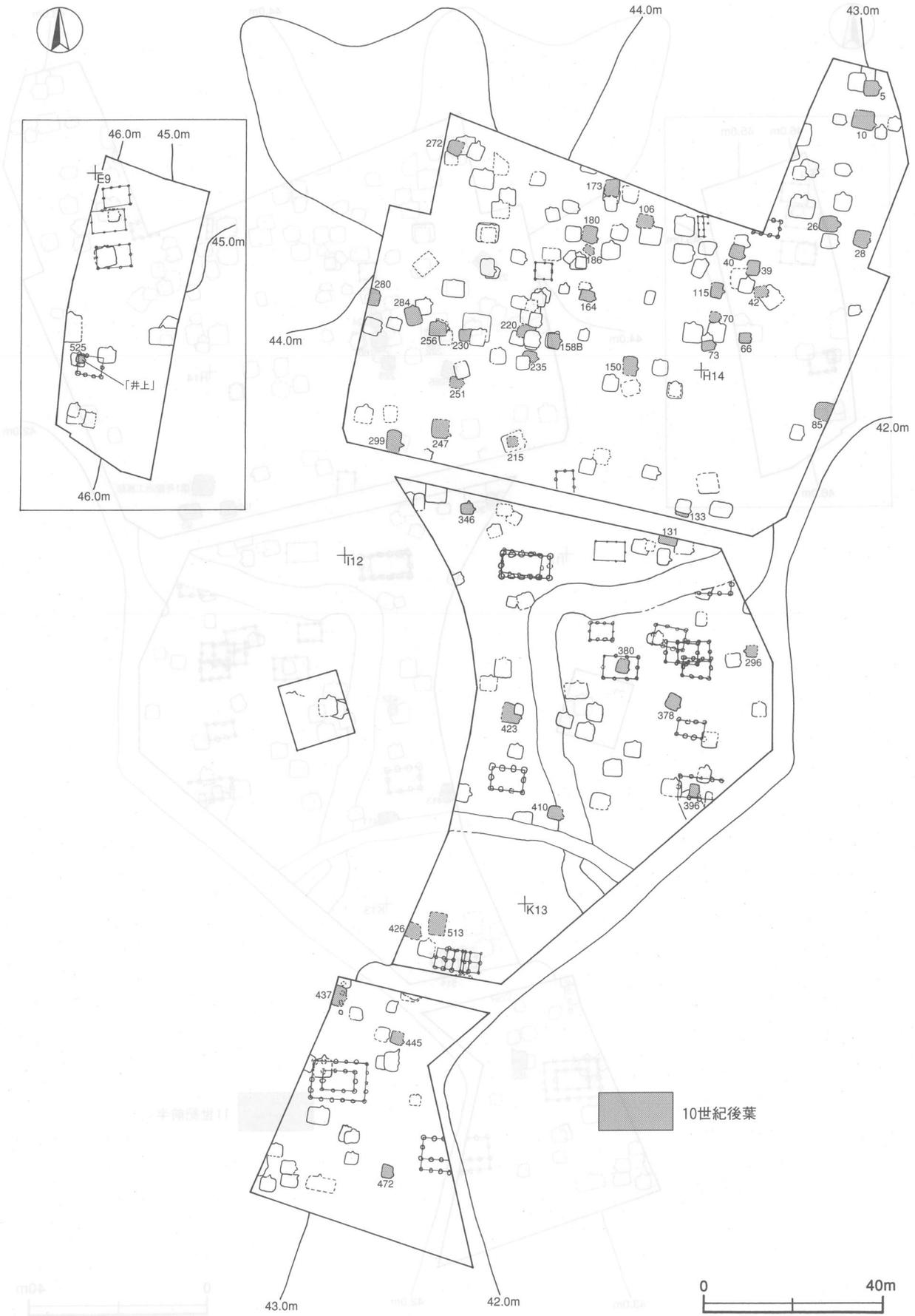
第1027図 辰海道遺跡集落変遷図 (第15期)



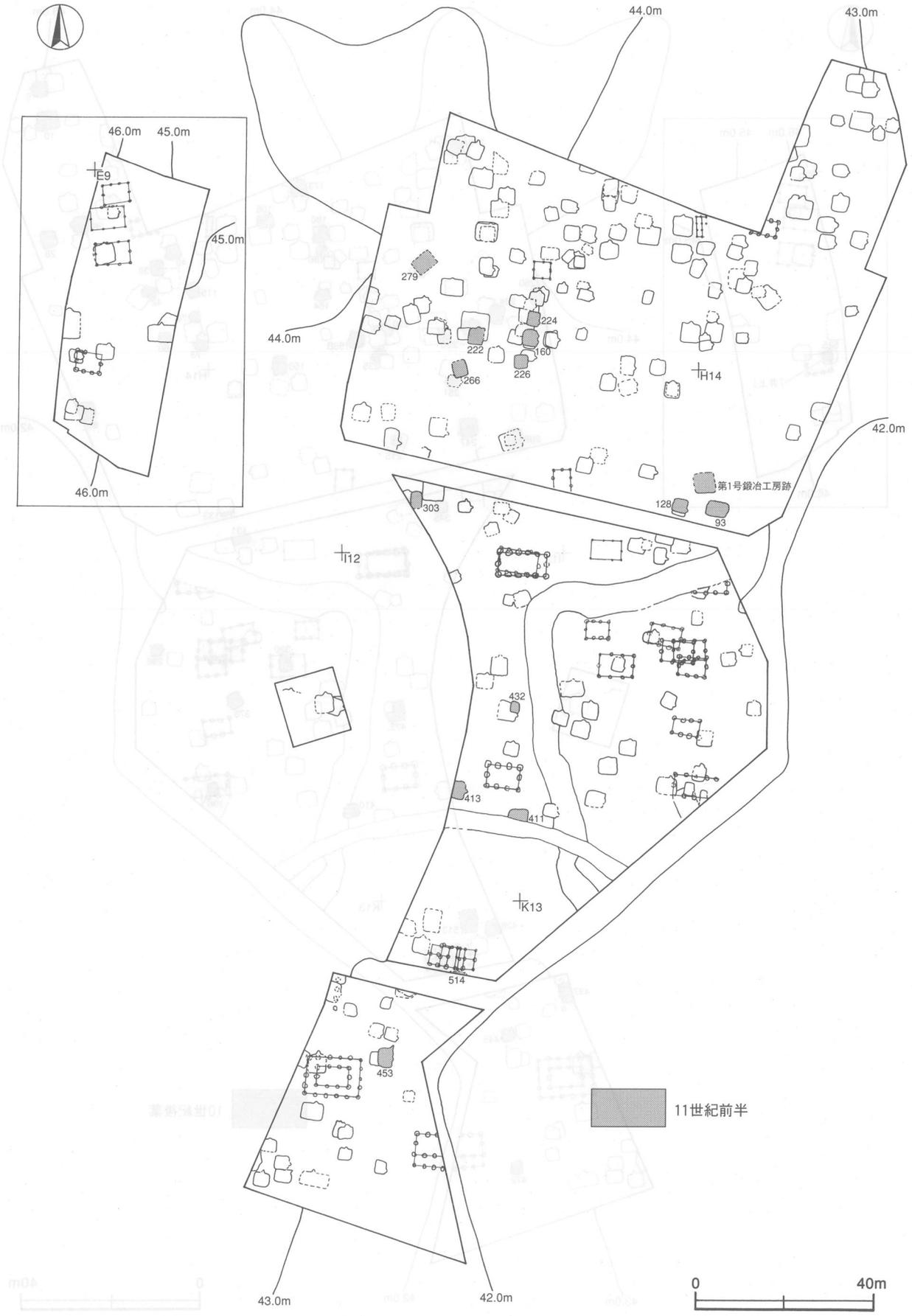
第1028図 辰海道遺跡集落変遷図 (第16期)



第1029図 辰海道遺跡集落変遷図 (第17期)



第1030図 辰海道遺跡集落変遷図 (第18期)



第1031図 辰海道遺跡集落変遷図（第19期）

(2) 緑釉陶器・灰釉陶器

当遺跡からは、緑釉陶器片42点、灰釉陶器片139点が出土している。

緑釉陶器片はほとんどが椀・皿類であり、猿投産の黒笹14・90号窯式が緑釉・灰釉陶器片出土数の全体の95%を占めている。また、緑釉・灰釉陶器片の出土数のうち、緑釉陶器が占める割合は23%であり、県内の出土数では中原遺跡の98点¹⁾に次ぐ量であり、その比率では中原遺跡の緑釉陶器の出土割合の18%を凌いでいる。

灰釉陶器片の器種構成は、椀・皿類が55%、瓶が41%、その他が4%である。産地は、猿投産が全体（産地不明を除く）の94%を占め、東濃産も6%ほど出土している。窯式は、黒笹14・90号窯式併行（光ヶ丘1号窯式5%を含む）が全体（窯式不明を除く）の91%を占めており、県内施釉陶器における黒笹14・90窯式の出土割合の70%²⁾と比べても高い結果であり、窯式の内訳は以下ようになる。

- 井ヶ谷78号窯式・・・2% ○黒笹14号窯式（尾北産の可能性を残す18点を含む）・・・16%
- 黒笹14号窯式～90号窯式（尾北の可能性を残す2点を含む）・・・9%
- 黒笹90号窯式（尾北産の可能性を残す10点、二川産の可能性を残す6点を含む）・・・61%
- 折戸53号窯式（二川産の可能性を残す3点）を含む・・・6%
- 光ヶ丘1号窯式（東濃産）・・・5%
- 大原2号窯式・・・1%

これらの中、東濃産が6%（8点）含まれる点が注目される。東濃産の灰釉陶器は、結城市峯崎遺跡など本県の内陸部の遺跡から比較的多く検出されることから、東山道を陸送され、下野国を經由してもたらされたものと考えられており、当遺跡も下野国と密接に交易していた可能性は非常に高い。

当遺跡の8世紀代の竪穴式住居跡からは、下野国産須恵器（三嶋産）も一定量出土しており、当遺跡は下野国との密接な交易があり、平安期においてもこの密接な交易は続いていたものと想定される。

また、緑釉・灰釉陶器片は、奈良・平安期の竪穴式住居跡224軒中の52軒から出土しており、内訳は8世紀代29軒中6軒、9世紀前葉9軒中2軒、9世紀中葉17軒中1軒、9世紀後葉23軒中6軒、10世紀前葉23軒中9軒、10世紀中葉52軒中14軒、10世紀後葉45軒中9軒、11世紀前半14軒中4軒となっている。緑釉・灰釉陶器片の出土した8・9世紀の竪穴式住居跡は本遺跡に散在して分布しており、10世紀では本遺跡中央部北側から多く分布している。これらはほとんどが覆土中からの出土であるが、9世紀後葉から10世紀後葉にかけての竪穴式住居跡から多く検出されている。

本遺跡と同じように緑釉・灰釉陶器の出土数が多い中原遺跡は、8世紀前葉から10世紀前葉にかけての遺跡であり、河内郡衙と密接な関係を持ちながら農業生産や手工業による経済活動で成長した遺跡である³⁾。これと同様に本遺跡は新治郡衙や新治廃寺に近接した官衙関連遺跡と考えられるが、鉄滓や羽口、砥石など鍛冶関連遺物が大量に検出されているため、鍛冶関連遺跡と考えられる。8世紀代の竪穴式住居跡から鍛冶関連遺物が検出され始め、10世紀中葉になると竪穴式住居跡が急増し、これらの住居跡から鉄滓が多量に検出されている。このことから鍛冶に関する工人が多く居住し、鍛冶工房による手工業が盛んに営まれていたものと考えられ、11世紀前葉代にも鍛冶工房が確認されている。

黒笹14・90窯式期の緑釉・灰釉陶器片の出土数の多さは、この時期の生産量や流通量が増加し、流通機構の変化や発展など一般的要因⁴⁾もあるが、当遺跡の9世紀後半から10世紀代にかけて鍛冶工房を中心として豊かな経済活動が営まれていたことを裏付けるものである。田中広明氏は「鍛冶工房を代表とする手工業生産者が集住する集落で灰釉陶器を多く消費する」という手工業集団型消費⁵⁾を提唱しており、注目される。（鴨志田）

註

- 1) 茨城県教育財団「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第170集 2001年
- 2) 奈良・平安研究班「茨城県域における施釉陶器の検討(5)」『研究ノート』第8号 茨城県教育財団 1999年
- 3) 1)と同じ
- 4) 川井正一「萌葱色の器—施釉陶器の交易と流通について—」『茨城史林』26 茨城地方史研究会 2002年
- 5) 田中広明「関東地方の施釉陶器の流通と古代の社会(1)」『研究紀要』11 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1994年

表17 緑釉陶器・灰釉陶器一覧

番号	遺構	遺構の時期	種類	器種	部位	特徴・出土位置	産地(窯式)	備考
1	SI-3	10世紀前葉	灰釉	長頸瓶	口辺部	北西部覆土中 釉は流し掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	2004
2	SI-3	10世紀前葉	灰釉	短頸壺	体部	北西部覆土中 釉は流し掛け	猿投産(K14~K90)	2005
3	SI-3	10世紀前葉	灰釉	長頸瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
4	SI-7	7世紀後葉	灰釉	大椀	底部	南東コーナー部下層 見込み無釉, 釉は漬け掛け, 三日月高台	猿投産(黒笹90号窯式), 二川産の可能性を残す	146
5	SI-10	10世紀後葉	灰釉	長頸瓶	頸部	竈覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
6	SI-22	7世紀前葉	灰釉	広口瓶	頸部	確認面 釉は流し掛けカ	猿投産(K14~K90)	
7	SI-23	8世紀前葉	灰釉	大椀	体部	確認面 釉は流し掛け	猿投産(窯式不明)	
8	SI-29	10世紀中葉	緑釉	椀	底部	東壁際床面 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹14号窯式)	2091
9	SI-40	10世紀後葉	灰釉	長頸瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(K14~K90)	
10	SI-40	10世紀後葉	緑釉	椀	底部	南部覆土上層 釉は刷毛塗り, 角高台	猿投産(黒笹90号窯式)	2108
11	SI-43	10世紀前葉	灰釉	椀	底部	北部覆土中層 釉は刷毛塗り, 角高台	猿投産(黒笹14号窯式)	2117
12	SI-92	奈良・平安	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹14号窯式)	
13	SI-100	10世紀中葉	灰釉	椀	底部	北東コーナー部覆土中層 内外面施釉 釉は刷毛塗り 角高台	猿投産(黒笹14号窯式), 尾北産の可能性を残す	2747
14	SI-108	7世紀後葉	灰釉	皿	体部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
15	SI-108	7世紀後葉	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛けカ	不明	
16	SI-128	11世紀前半	緑釉	皿	体部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
17	SI-128	11世紀前半	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
18	SI-133	10世紀後葉	灰釉	椀	口辺部	南壁寄り床面 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹14号窯式)	2575
19	SI-135	10世紀中葉	灰釉	不明	体部	竈覆土中	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
20	SI-135	10世紀中葉	灰釉	不明	不明	竈覆土中	猿投産(黒笹90号窯式)	
21	SI-151	5世紀末~6世紀初め	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹14号窯式), 尾北産の可能性を残す	
22	SI-164	10世紀後葉	灰釉	椀	体部	覆土中	猿投産(窯式不明)	
23	SI-168	6世紀中葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
24	SI-168	6世紀中葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
25	SI-169	10世紀中葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
26	SI-170	9世紀後葉	灰釉	皿	底部	覆土中 見込み無釉 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
27	SI-171	10世紀前葉	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
28	SI-175	10世紀中葉	灰釉	輪花皿	口辺部	中央部覆土下層 釉は刷毛塗りで, 色は乳白色	東濃産(光ヶ丘1号窯式)	2634
29	SI-180	10世紀後葉	灰釉	椀	底部	竈前下層 角高台, 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹14号窯式), 尾北産の可能性を残す	2663
30	SI-196	5世紀末~6世紀初め	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(K14~K90)	
31	SI-201	10世紀中葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	

番号	遺構	遺構の時期	種類	器種	部位	特徴・出土位置	産地(窯式)	備考
32	SI-203	8世紀前葉	灰釉	椀	底部	覆土中 見込み無釉 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
33	SI-203	8世紀前葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
34	SI-209	7世紀後半	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹14号窯式), 尾北の可能性を残す	
35	SI-209	7世紀後半	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
36	SI-210	10世紀中葉	灰釉	瓶	体部	覆土中 焼きぶくれにより剥離	猿投産カ(窯式不明)	
37	SI-223	9世紀前葉	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
38	SI-224	11世紀前半	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
39	SI-224	11世紀前半	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
40	SI-234	10世紀前葉	灰釉	皿	ほぼ完形	北東部覆土中層 見込み無釉, 釉は漬け掛け, 三日月高台	猿投産(折戸53号窯式), 二川産の可能性を残す	1331
41	SI-241	10世紀前葉	灰釉	壺	口辺部	覆土中 釉は流し掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
42	SI-257	8世紀中葉	緑釉	段皿	口辺部	北東部上層 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	3523
43	SI-257	8世紀中葉	緑釉	椀	口辺部	覆土上層 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	3774
44	SI-257	8世紀中葉	灰釉	長頸瓶	体部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産カ(窯式不明)	
45	SI-257	8世紀中葉	灰釉	長頸瓶	体部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産カ(窯式不明)	
46	SI-257	8世紀中葉	灰釉	長頸瓶	体部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産カ(窯式不明)	
47	SI-265	9世紀後葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	3833
48	SI-267	10世紀前葉	灰釉	椀	底部から口辺部	竈覆土中 見込み無釉, 釉は漬け掛け, 三日月高台	猿投産(黒笹90号窯式)	1332
49	SI-267	10世紀前葉	灰釉	長頸瓶	口辺部	覆土中 釉は流し掛けカ	猿投産(黒笹14号窯式), 尾北産の可能性を残す	1333
50	SI-267	10世紀前葉	緑釉	椀	底部	竈覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	1334
51	SI-267	10世紀前葉	緑釉	皿	底部	竈覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	1335
52	SI-269	9世紀後半	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
53	SI-270	9世紀前葉	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式カ)	1336
54	SI-270	9世紀前葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中	猿投産(窯式不明)	1015
55	SI-284	10世紀後葉	灰釉	壺	底部	北東部床面 底部高台貼り付け後, ナデ, 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	3932
56	SI-285	10世紀中葉	緑釉	稜椀	体部から口辺部	南西部覆土上層 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	3602
57	SI-288	9世紀中葉	灰釉	長頸瓶	頸部	北部覆土中 頸部の最小径は肩部との接合部に持ち, 口縁部に向かって大きく開く。	猿投産(黒笹90号窯式)	3616
58	SI-303	11世紀前半	緑釉	椀	底部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
59	SI-303	11世紀前半	緑釉	椀	体部	東部覆土上層 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け, ナデ	猿投産(黒笹90号窯式)	3933
60	SI-306	8世紀後葉	緑釉	輪花椀	口辺部	東部覆土上層 口唇部にくびれを有する。	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	3652
61	SI-306	8世紀後葉	緑釉	段皿	底部	南部覆土上層 体部内面に段を持つ。陰刻花文有り。	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	3653
62	SI-310	6世紀前葉	緑釉	椀	体部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
63	SI-312	5世紀前葉	灰釉	長頸瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(窯式不明)	
64	SI-315	6世紀前葉	緑釉	皿	体部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
65	SI-342	9世紀後葉	灰釉	蓋	ほぼ完形	北西壁溝部 釉は刷毛塗りカ	猿投産(黒笹14号窯式)	3689
66	SI-342	9世紀後葉	灰釉	段皿	口辺部	東部覆土上層 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	3690
67	SI-342	9世紀後葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛けて, 色は乳白色	東濃(光ヶ丘1号窯式)	
68	SI-343	時期不明	灰釉	手付瓶	頸部	覆土中 釉は流し掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
69	SI-352	7世紀前葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(折戸53号窯式)	
70	SI-352	7世紀前葉	緑釉	皿	口辺部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	

番号	遺構	遺構の時期	種類	器種	部位	特徴・出土位置	産地(窯式)	備考
71	SI-352	7世紀前葉	緑釉	稜椀	体部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
72	SI-355	10世紀前葉	灰釉	皿	口辺部	東部床面 釉は刷毛塗り	東濃(光ヶ丘1号窯式)	3934
73	SI-355	10世紀前葉	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
74	SI-358	6世紀前葉	緑釉	皿	底部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
75	SI-361	6世紀後半	灰釉	長頸瓶	口辺部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹14号窯式)	
76	SI-361	6世紀後半	緑釉	皿	体部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
77	SI-367	4世紀後半	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
78	SI-368	4世紀中頃	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(折戸53号窯式)	
79	SI-371	10世紀中葉	緑釉	椀・皿類	口辺部	竈覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
80	SI-375	6世紀後葉	灰釉	広口瓶	頸部	覆土中 釉は流し掛け	東濃(光ヶ丘1号窯式)	
81	SI-375	6世紀後葉	灰釉	長頸瓶	頸部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
82	SI-375	6世紀後葉	灰釉	長頸瓶	肩部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
83	SI-380	10世紀後葉	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(K14~K90)	
84	SI-391	10世紀中葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
85	SI-391	10世紀中葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
86	SI-391	10世紀中葉	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
87	SI-394	10世紀前葉	緑釉	椀・皿類	底部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
88	SI-397	10世紀中葉	緑釉	椀	口辺部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
89	SI-399	8世紀初頭	灰釉	広口壺	底部	南東部覆土中 釉は流し掛け	猿投産(折戸53号窯式)	1321
90	SI-407	古墳	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
91	SI-425	古墳	灰釉	長頸瓶	口辺部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
92	SI-427	9世紀後葉	灰釉	蓋	口辺部	北東部覆土下層 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹14号窯式), 尾北産の可能性を残す	3781
93	SI-427	9世紀後葉	灰釉	蓋	天井部から口辺部	北東部覆土下層 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	3974
94	SI-430	6世紀前葉	緑釉	椀	体部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
95	SI-445	10世紀後葉	緑釉	皿	口辺部	覆土中 釉は刷毛塗り, 陰刻花文	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	4925
96	SI-447	古墳	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(K14~K90), 尾北産の可能性を残す	
97	SI-450	10世紀中葉	緑釉	段皿	口辺部	北部覆土下層 内・外面施釉 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	3935
98	SI-453	11世紀前半	緑釉	瓶	体部	覆土中層 釉は刷毛塗り, 印刻花文	猿投産(K14~K90)	4926
99	SI-478	10世紀中葉	灰釉	耳皿	ほぼ完形	中央部下層 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け, 釉は刷毛塗り	東濃(光ヶ丘1号窯式)	3936
100	SI-478	10世紀中葉	灰釉	長頸瓶	頸部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(窯式不明)	
101	SI-492	8世紀初頭	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹14号窯式)	
102	SI-501	10世紀中葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
103	SI-501	10世紀中葉	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
104	SI-501	10世紀中葉	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式), 二川産の可能性を残す	
105	SI-502	10世紀前葉	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
106	SI-513	10世紀後葉	緑釉	椀	底部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	3937
107	SI-522	9世紀後葉	灰釉	皿	完形	確認面 見込み無釉, 釉は漬け掛け, 三日月高台	猿投産(折戸53号窯式)	3938
108	SI-525	9世紀後葉	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	3924
109	SB-9	9世紀後葉	灰釉	椀	口辺部	P2 覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	3992
110	SB-20	9世紀前葉	灰釉	椀	口辺部	P19 覆土中 体部内・外面口ロナデ, 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	4908

番号	遺構	遺構の時期	種類	器種	部位	特徴・出土位置	産地(窯式)	備考
111	SB-20	9世紀前葉	灰釉	椀	体部	P16覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
112	SB-25	9世紀中葉	灰釉	椀	口辺部	P5覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
113	SB-35	9世紀中葉	灰釉	椀	口辺部	P3覆土中 見込み無釉, 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式), 二川産の可能性を残す	4919
114	SK-69	不明	緑釉	椀	体部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
115	SK-75	不明	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
116	SK-87	奈良・平安	灰釉	長頸瓶	頸部	覆土中 釉は流し掛け, 頸部に沈線あり	猿投産(黒笹90号窯式)	4506
117	SK-153	不明	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(折戸53号窯式), 二川産の可能性を残す	
118	SK-186	奈良・平安	灰釉	短頸壺	肩部	覆土中 釉は流し掛けて, 色は乳白色	東濃(光ヶ丘1号窯式)	4514
119	SK-276	不明	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
120	SK-403	奈良・平安	緑釉	段皿	口辺部	覆土中 釉は刷毛塗り, 陰刻花文	尾北産(篠岡4'窯式)	4614
121	SK-413	不明	灰釉	皿	体部	覆土中 釉は漬け掛け	東濃産(大原2号窯式)	
122	SK-504	奈良・平安	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
123	SK-586	不明	緑釉	稜椀	口辺部	覆土中 釉は刷毛塗り 陰刻花文	猿投産(黒笹90号窯式)	4600
124	SK-593	不明	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉薬は刷毛塗り	猿投産(黒笹14号窯式)	
125	SK-773	不明	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(折戸53号窯式), 二川産の可能性を残す	
126	SK-795	不明	緑釉	段皿	体部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
127	SK-821	不明	灰釉	瓶	底部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
128	SK-877	不明	灰釉	椀		覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹14号窯式)	4605
129	SK-1058	奈良・平安	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
130	SK-1120	10世紀前葉	灰釉	皿	底部	覆土中 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け 三日月高台, 見込み無釉	猿投産(黒笹90号窯式)	4571
131	SK-1120	10世紀前葉	灰釉	長頸壺	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹14号窯式)	4572
132	SK-1120	10世紀前葉	緑釉	椀	体部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹14号窯式)	4608
133	SK-1131	奈良・平安	緑釉	皿	口辺部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
134	SK-1134	奈良・平安	灰釉	椀	台部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
135	SK-1142	不明	緑釉	椀	底部	覆土中 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け, 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	4575
136	SK-1185	奈良・平安	灰釉	椀	台部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	4578
137	SK-1242	不明	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(K14~K90), 尾北産の可能性を残す	
138	SK-1328	不明	灰釉	皿	体部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
139	SE-24	奈良・平安	灰釉	短頸壺	底部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産カ(窯式不明)	3981
140	SE-33	不明	灰釉	椀	底部	覆土中 回転糸切り後高台貼り付け, 角高台, 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	3963
141	SE-40	奈良・平安	灰釉	椀	底部	覆土中層 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け, 釉は漬け掛け	猿投産(窯式不明)	3970
142	SE-40	奈良・平安	灰釉	皿	口辺部	覆土上層 釉は刷毛塗りで, 色は乳白色	東濃(光ヶ丘1号窯式)	3931
143	SE-53	不明	緑釉	椀	口辺部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(窯式不明)	3971
144	SD-1	古墳	灰釉	椀	底部	覆土上層 釉は漬け掛け, 三日月高台	猿投産(黒笹90号窯式), 二川産の可能性を残す	4338
145	SD-1	古墳	灰釉	長頸瓶	口辺部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	4347
146	SD-1	古墳	灰釉	瓶	体部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	4344
147	SD-1	古墳	灰釉	瓶	体部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産(K14~K90)	4345
148	SD-1	古墳	灰釉	段皿	体部	覆土上層 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	

番号	遺構	遺構の時期	種類	器種	部位	特徴・出土位置	産地(窯式)	備考
149	SD-1	古墳	灰釉	長頸瓶	体部	北部覆土中層 釉は流し掛け	猿投産(黒笹14号窯式)	4346
150	SD-1	古墳	灰釉	瓶	体部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産(K14~K90)	4342
151	SD-1	古墳	灰釉	長頸瓶	頸部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産(井ヶ谷78号窯式)	
152	SD-1	古墳	灰釉	大椀	底部	覆土上層 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式), 二川産の可能性を残す	4339
153	SD-1	古墳	灰釉	長頸瓶	体部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産(K14~K90)	
154	SD-1	古墳	灰釉	椀	体部	覆土上層 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	4341
155	SD-1	古墳	灰釉	長頸瓶	体部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	4348
156	SD-1	古墳	灰釉	瓶	体部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産(K14~K90)	4343
157	SD-1	古墳	灰釉	長頸瓶	頸部	覆土上層 釉は流し掛けカ	猿投産(井ヶ谷78号窯式)	
158	SD-1	古墳	灰釉	手付瓶	体部	覆土上層 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
159	SD-1	古墳	灰釉	椀	底部	覆土上層, 三日月高台, 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	4340
160	SD-1	古墳	灰釉	不明	体部	覆土上層	猿投産(黒笹90号窯式), 二川産の可能性を残す	
161	SD-1	古墳	緑釉	椀	底部	北西部覆土上層 釉は刷毛塗り, 角高台	猿投産(黒笹90号窯式)	4349
162	SD-1	古墳	緑釉	皿	底部	覆土上層 釉は刷毛塗り 高台部に沈線	猿投産(黒笹90号窯式)	4049
163	SD-1	古墳	緑釉	皿	口辺部	覆土上層 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	4350
164	SD-3	奈良・平安	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹14号窯式)	
165	SD-4A	奈良・平安	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹14号窯式)	
166	SD-4A	奈良・平安	灰釉	椀	体部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
167	SD-4A	奈良・平安	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹14号窯式)	
168	SD-4A	奈良・平安	灰釉	瓶	体部	覆土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹14号窯式)	
169	SD-4A	奈良・平安	灰釉	椀	口辺部	覆土中 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	
170	SD-4B	奈良・平安	灰釉	長頸壺	口辺部	覆土中 釉は流し掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	4469
171	SF-1	16世紀代	灰釉	椀	底部	覆土中 釉は漬け掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
172	P群29	不明	緑釉	椀	体部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
173	確認面(E9j4)		灰釉	長頸瓶	肩部	確認面 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
174	確認面(F12i8)		灰釉	皿	体部	確認面 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
175	確認面(J13b4)		緑釉	椀	体部	確認面 釉は刷毛塗り	猿投産(折戸53号窯式), 二川産の可能性を残す	
176	表土中		灰釉	椀	口辺部	確認面 釉は漬け掛けカ	猿投産(折戸53号窯式)	
177	表土中		灰釉	椀	体部	確認面 釉は漬け掛けカ	猿投産(黒笹90号窯式)	
178	表土中		灰釉	長頸瓶	体部	表土中 釉は流し掛け	猿投産(黒笹90号窯式)	
179	表土中		緑釉	椀・皿類	体部	表土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
180	表土中		緑釉	椀	体部	表土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式)	
181	遺構外		緑釉	皿	底部	覆土中 釉は刷毛塗り	猿投産(黒笹90号窯式), 尾北産の可能性を残す	4735

(3) 鉄生産関連遺物について(第1032~1034図)

今回の調査では、鉄生産に関わる炉跡が確認されていない。しかし、遺跡全体から700点を超える鉄滓類が検出されており、隣接地に鉄生産に関わる遺構の存在が十分に考えられる。鍛錬鍛冶を行った可能性をもち、また除滓のための小割り・選別したことが考えられる第1号鍛冶工房跡(SI-88)が確認され、さらに調査区西部の西側を継続調査しているエリアから鍛冶炉跡が検出されていることから、鉄生産に関わる工人集団が集

落を形成していた可能性が高い。ここでは、時期が明確な住居跡出土の鉄生産に関連する設備にとって欠かさない遺物である砥石・羽口・鉄滓の3点に焦点を絞り、時代・時期区分ごとに集落の様相も織りまぜながらその概要を整理してみたい。なお、弥生時代後期に比定される住居跡からは、砥石・羽口・鉄滓等は検出されず、鉄生産に関連する遺物は古墳時代以降の遺構から確認されている。

4～5世紀代では住居跡が30数軒確認されており、そのうち8軒から砥石9点、3軒から混入した鉄滓5点、羽口片1点が検出されているが、鉄生産との関連は見られない。

6世紀代になると、住居軒数が大幅に増加し、古墳時代を通して集落規模は最大となる。この時期の特徴は、砥石の出土量の増加が著しい点である。砥石には砂岩や凝灰岩質の石材を利用しており、43点が確認されている。5世紀代にも見られたように、砥石に代用した土師器坏や甕の体部外面にも研磨痕が認められる。これに対して、奈良・平安時代まで含めても図示できた鉄製品は全体で100点ほどで、鉄製品の出土点数は少ない。遺存が難しい遺物であるにせよ、鉄製の道具類を別な場所にまとめて保管していた可能性も考えられる。また、羽口や鉄滓類の出土も前代に引き続いて少量である。

7世紀代は、それまで増加を続けていた住居数が一転して減少に転じ、6世紀代と比較すると半減している。しかし、砥石の出土量はそれなりに確認されており、前代と同様に砂岩や凝灰岩質の石材を利用している。

第260号住居跡（7世紀前葉）の覆土中からは、全面に赤錆をおびた椀形滓や多量の鍛冶滓が検出され、併せて鍛造剥片・粒状滓が確認されている。これらは、本跡の埋没過程において、その窪地を利用して一括投棄されたものと考えられる。西壁際に重複する第136号土坑からも同様な遺物が確認されており、隣接地に鍛冶操業施設や設備が確実に存在していたと考えられる。

古墳時代までは搬入された鉄素材を加熱・鍛打して鉄製品を造り上げる操業、あるいは不要になった鉄製品を再加工するための操業であり、いわゆる小鍛冶的な段階と推測される。そのような中で、第260号住居跡から鉄滓がまとまって多量に出土していることは、7世紀以降に規模の拡大した鉄生産が行われ、新治郡衙の影響下にある程度組織化された工人集団の存在した可能性が指摘できる。

7世紀代に減少に転じた住居数は、8世紀代に入ってもその傾向に歯止めはかからなかった(第1032図参照)。調査区南部の第481号住居跡（8世紀後葉）からは、鍛冶滓30点ほどが検出され、同様に調査区西部の第499号住居跡（8世紀前葉）からも13点検出されている。これらの半数以上には着磁性が認められたが、いずれも覆土中の出土のため、埋没過程の段階で混入したものと考えられる。第499号住居跡の西側に隣接する継続調査区域（平成14年度調査）からは鍛冶炉跡が確認されており、そこで不要となった鉄滓類や砥石が本跡に投棄されたものと想定できる。また、調査区南部に位置する第433号住居跡（8世紀中葉）からは投棄された礫片33点がまとまって検出され、その内7点に砥面が確認されている。他にも椀形滓や流動滓が検出され、鍛冶の操作段階以前の製錬（製鉄）によって排出される鉄滓なども混在しており、目的とする鉄製品を造る最終工程だけでなく、近接地に砂鉄などを原料として鉄素材を造り出す作業場の存在を想定しなければならない。この第433号住居跡の西に近接している第460号住居跡（8世紀中葉）からは、廃絶時に遺棄されたと考えられる羽口片が出土している。本跡は東西に長い長方形を呈しており、鉄滓が出土するなど一般的な住居跡とは様相が異なっている。両跡は同時期であり、当該期に鉄生産をおこなっていた集団の存在を裏付けるものといえる。新治郡衙に近接している地域性を考慮すれば、郡衙の造営・維持のために瓦や須恵器の窯が周辺に点在しているのと同様に、当遺跡に郡司層などの関与による鉄生産を担うエリアの存在が考えられ、農工具類も含めた生産が開始されたものと想定できる。

調査区北部に位置する第207号住居跡（8世紀中葉）では、中央部貼り床層の下から炉跡が確認されている。

羽口や鉄滓類は検出されていないが、本跡が構築された早い段階で炉が付設され、貼り床層中からは被熱痕の認められる礫片2点が出土している。これらの礫は炉に伴って使用されたか、あるいは鉄素材を加熱・鍛打する際の台石として使われていたものかと考えられる。本跡の北西4mほどには、前述した第260号住居跡や第136号土坑が立地しており、それらの覆土中からも多量の鍛冶滓（粒状滓や鍛造剥片も含む）や全面が赤褐色に錆化した椀形滓が検出されている。このように、第207号住居跡で鍛冶を行っていたと想定すれば、そこで排出された鉄滓類を窪地となっていた第260号住居跡に捨てた可能性が考えられる。

9世紀代になると、8世紀代に比べて住居数は倍増するが、砥石の出土傾向には目立った変化は見られず、石材はこれまでと同様に砂岩や凝灰岩質を用いている。砥石の出土割合は5軒に1軒ほどであるが、鉄滓類はさらに低くなる（第1033図参照）。このような状況は、古くなった鉄製道具類を再利用する鍛冶を行い、それらを砥石で仕上げるという様相がうかがえる。

調査区北部に位置する第179号住居跡（9世紀中葉）の東壁際下層より、全長20cmほどの鉄鉗が出土しているが、鍛冶工程の際に使用されたものと考えられる。それとともに、刀子2点、「八万八万家」や「万富」と墨書された土師器坏片が出土している。しかし、本跡から炉跡はもちろんのこと、羽口や鉄滓類は一切検出されていないため工房とは考えられない。本跡の南に隣接する第178号住居跡（10世紀前葉）からは、「井刀」とヘラ書きされた須恵器坏片が検出され、当遺跡の北東約5.5kmに位置する間中遺跡からも同様の文字が墨書された須恵器坏片や多くの砥石・羽口・鉄滓が出土しており、両遺跡には密接な関連が想定される。

当遺跡では、鉄生産に関わる遺物が多数確認されている反面、鎌が6点ほど検出されているにすぎず、鋤先や鋤先にいたっては出土していない。鬼頭清明氏が「奈良時代でも鉄製の農具は貴重なものであったが、広く一般にも普及していた。」¹⁾と述べているように、住居数の増加に伴って鉄製道具類の需要も増えているはずである。にもかかわらず、鉄製品の出土量が少ない状況は、鉄製道具類を管理・保管する有力者層の存在や工人集団との関わりが推測される。

当遺跡においてこれまでにない隆盛を極める10世紀代（第1034図参照）では、前代の3倍近くまで住居数が増加する。21軒の住居跡からは30点もの砥石が出土し、その大半に被熱痕が認められ、なかには金床石のように用いられた痕跡を留めるものもある。第169号住居跡（10世紀中葉）出土のものは23×13×16cm、4.9kgほどの大きさで、赤錆た鉄分が付着する部分には細かな凹凸があり、その面全体は砥面のように滑らかである。提げ砥石のように携行目的のものもあるが、当遺跡の特徴としては据え置いて使用する砥石が多量に確認されており、しかも被熱痕が認められる。これらの多くは、鍛冶工程において使用されたものが含まれていると考えられる。また、第128号住居跡（11世紀前葉）や第131号住居跡（10世紀後葉）の覆土中から50点もの鉄滓が出土し、内30点ほどに着磁性が認められた。両跡の北東には第1号鍛冶工房跡が隣接しており、相互に鉄生産へ関連した工人集団と想定できる。

調査区中央部南に位置する第513号住居跡（10世紀後葉）からは、外径8.0cm、内径3.0cm前後の羽口片6点、鉄滓49点、炉壁片6点が出土されている。本跡は遺存状態が悪いために不明な点が多いが、第1号鍛冶工房跡と同様に廃絶時に鉄滓類が多量に投棄されている。本跡が直接的に鉄生産に関わったかどうかは検討の余地があるが、近隣に製錬の操業を行っていた遺構の存在を視野に入れる必要がある。また、本跡からは緑釉陶器片が出土しており、東に近接する第586号土坑からも施釉陶器片6点や鉄滓16点も出土していることから、有機的なつながりが想定される。

調査区南部の第477号住居跡（10世紀前葉）からは、支脚に転用された羽口や着磁性のある鉄滓7点が確認されている。本跡は東西に長い長方形であり、鉄生産に関連する工房としての機能を失った後に、住居跡とし

て再利用されたものと考えられる。また、本跡の西に隣接する第478号住居跡（10世紀中葉）や第479号住居跡（10世紀前葉）からも30点の鉄滓が出土しており、鉄生産との関連性がうかがえる。さらに、第478号住居跡の覆土下層から灰釉陶器耳皿が逆位の状態で検出されており、完形に近いことから埋め戻しの段階で遺棄された可能性があり、優位性を示唆している。

当遺跡では、9世紀後葉から11世紀代にかけて、砥石や羽口、鉄滓などの鉄生産に関連する遺物が検出される住居跡から灰釉陶器片や緑釉陶器片が共伴する例が見られ、特筆される。このような例は混入なども含めると3軒に1軒の割合となるが、この割合がどれほどの意味を持つものなのか現段階では不明といわざるを得ない。少なくとも鉄生産に携わっていた工人集団の中には、一般には入手の難しい灰釉陶器などを持ち得た人々の存在が想定される。また、灰釉陶器などの所有は当地の有力者層とのつながりも示唆しており、田中広明氏の指摘が興味深い。同氏は、関東地方4県の施釉陶器を豊富に出土した国府を除く遺跡の性格と消費の傾向から、消費の形態を4つに類型化し、その中に「市」型消費（河川の渡河点や津・港、あるいは交通路の分岐点に当たり、物資流通の実質的な結節点となる集落）、および手工業集団型消費（鍛冶工房を代表とする手工業生産者が、集住する集落で灰釉陶器を多く消費する）があるとしている²⁾。さらに、中村太一氏は、当遺跡の近辺には、東山道と東海道とを結ぶ連絡駅路や下野国芳賀郡衙から新治郡衙を経由して常陸国府へと通じる伝馬路を想定している³⁾。しかも、当遺跡の東部を流れる桜川が霞ヶ浦へと注いで水運の利用も容易であったことを踏まえると、当遺跡はまさしく交通の要衝に立地していたことになり、施釉陶器や鉄製品などの物資の流通や交易の拠点であったと考えられる。律令体制の衰退にともなって、在地の有力者層が荘園経営を確立する中で、鉄生産を中心として経済的に繁栄していったことがうかがえる。

11世紀前葉に比定される第1号鍛冶工房跡と第279号住居跡は、調査区北部の東西に対峙している。第1号鍛冶工房跡から検出された遺物については、岩手県立博物館の赤沼英男氏に金属考古学的な解析を依頼した。その結果、まず製錬を考えた場合、粒状滓の鉱物組成から始発原料は鉄チタン磁鉄鉱（おそらくは遺跡周辺から採取された砂鉄）が有力視されるという。さらに、「検出された椀形滓とほぼ同じ鉱物組成をとる破碎された剥片状鉄滓も見いだされていることから、鉄塊に固着する鉄滓をはつり取る、または、固着する鉄滓を加熱・鍛打して除去される操作が行われていたものと推定される。」⁴⁾と述べている。第1号鍛冶工房跡からは粒状滓や鍛造剥片も確認されたことから、当初は鍛冶工房として機能し、その機能が消滅した後は除滓のための小割り・選別の作業場となり、最終的には不要になった鉄滓や炉壁片・羽口片の廃棄場所となっていったものと考えられる。また、第279号住居跡では、竈前の床面から51×11cmほどのかまぼこ状の大形の羽口（内径3.4cm）が二つに折れた状態で出土し、また、竈内からは支脚に転用された外径7.5cm、内径3.0cmほどの羽口が出土している。床面が露出した状態で検出されたため不明な点が多いが、鉄生産に関連する施設や設備が近隣に存在していたものと考えたい。

第1034図を見て明らかのように、10世紀半ば過ぎから住居数が急増し、それに呼応したように鉄生産関連遺物の検出例も増える。これは、工房区域は明確でないものの、鉄生産に関わる工人集団が意図的にこの地に集落を形成したことを示唆している。遺跡全体から想定すると、調査区北部の第1号鍛冶工房跡付近の未調査地区に製錬炉が存在し、その周辺に小割り・選別作業を行ったり、不要になった鉄滓や羽口・炉壁片等の投棄場があり、さらに、北西方向に位置する同時期の第279号住居跡付近で鍛冶に関する工程を行ったのではないかと考えられる。また、若干時期は遡るが、調査区南部の第513号住居跡に隣接する西側未調査区にも製錬炉やそれに付随する施設が存在し、さらに南部の第477号住居跡付近においては鍛冶に関連する工程を行っていたとも考えられる。このように、東西に延びる第4号溝跡を境として、北部と南部にそれぞれ製錬から鍛冶まで

一貫した工房エリアの存在が想定される。

9世紀初頭には荘園整理令がすでに制定・施行されており、律令体制の崩壊とともに新治郡衙による管理・経営も衰え、それに伴って工人達も初期荘園体制の中に組み込まれていったものと思われる。9世紀後葉以降の住居跡から「庄南」の墨書土器が多数確認されたことは、初期荘園の存在を示唆するものであり、その荘園経営の基盤が整う10世紀後半以降頃に、在地の有力者が鉄工人集団を掌握して、この地に計画的に工房を配置したものと想定されるのである。(後藤)

註

- 1) 鬼頭清明「古代の村」『古代日本を発掘する』第6巻 岩波書店 1999年
- 2) 田中広明「関東地方の施釉陶器の流通と古代の社会(1)」『研究紀要』第11号(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1994年
- 3) 中村太一「常陸国真壁郡の古代官道」『筑波山陰 真壁周辺の古道』真壁町歴史民俗資料館 1997年
- 4) 本報告書第222集の付章に、赤沼英男氏による金属考古学的調査結果が詳しく掲載してある。

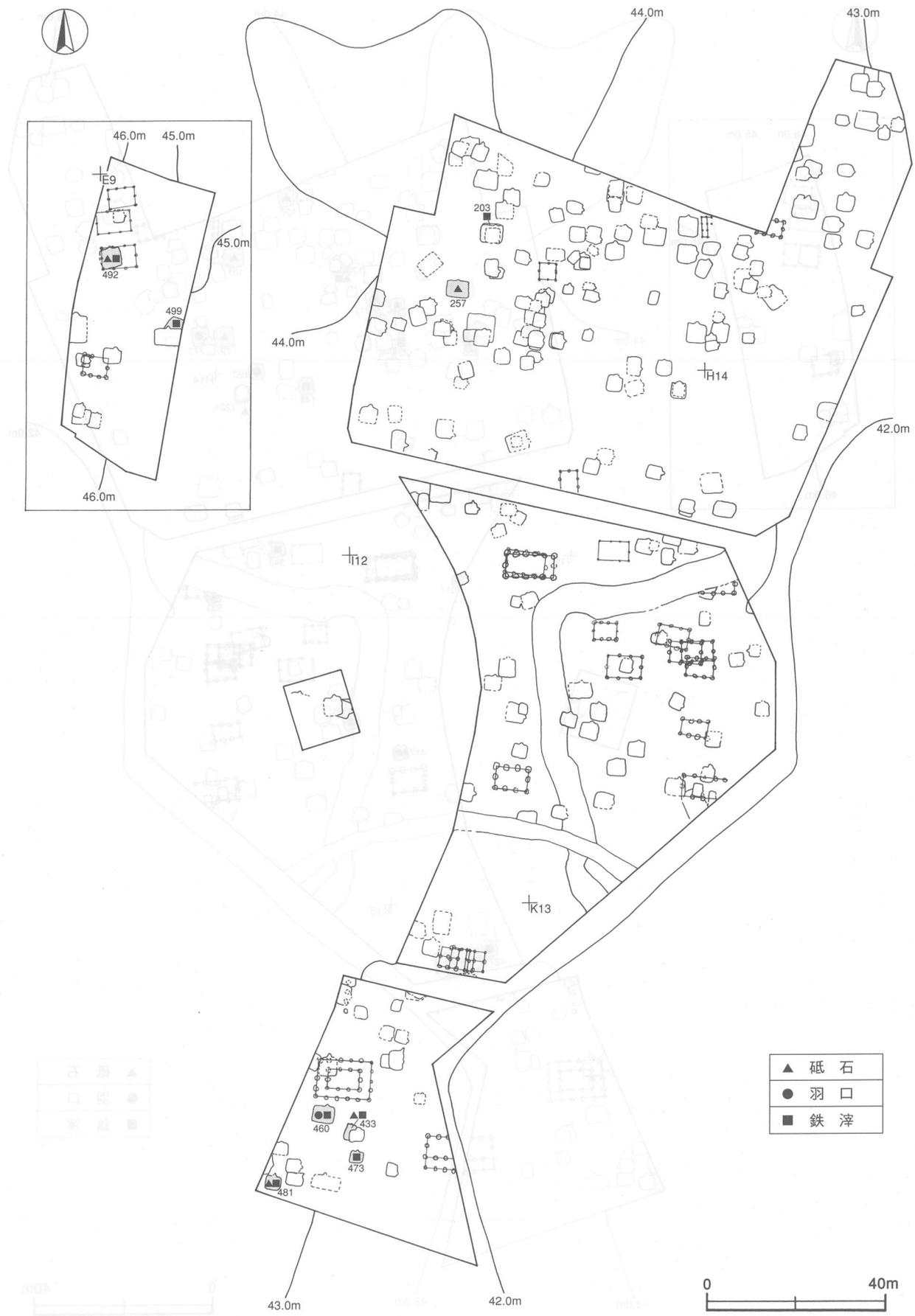
参考文献

- ・岩瀬町史編さん委員会『岩瀬町史 通史編』岩瀬町 1987年
- ・国立歴史民俗博物館『国立歴史民俗博物館研究報告 第59集』1994年
- ・佐々木稔『鉄と銅の生産の歴史-古代から近世初頭にいたる-』雄山閣 2002年
- ・和鋼博物館『和鋼博物館 総合案内』2001年
- ・穴澤義功「鉄の考古学入門」『たたらサミット 資料集』(たたらサミット) 2002年
- ・穴澤義功「鉄生産遺跡調査の現状と課題-鉄関連遺物の整理と分析資料の準備について-」『第10回 鉄の歴史-その技術と文化-フォーラム』(社)日本鉄鋼協会 社会鉄鋼工学部会 2003年
- ・千葉県立房総風土記の丘『シンポジウム「古代製鉄研究の現状」記録集』『千葉県立房総風土記の丘 年報15』1992年
- ・栃木県立なす風土記の丘資料館『第2回企画展図録 古代東国の産業-那須地方の窯業と製鉄業-』1994年
- ・横浜市歴史博物館・(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター『兵の時代-古代末期の東国社会-』1998年
- ・岩上照朗ほか「大境遺跡-一般国道4号(新4号国道)改築に伴う埋蔵文化財発掘調査-」『栃木県埋蔵文化財調査報告第136集』栃木県教育委員会 1993年
- ・岩上照朗ほか「金山遺跡I-一般国道4号(新4号国道)改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」『栃木県埋蔵文化財調査報告第135集』栃木県教育委員会 1993年
- ・安田稔ほか「原町火力発電所関連遺跡調査報告Ⅳ」『福島県文化財調査報告書第297集』福島県教育委員会 1994年
- ・田中広明「古代東国と豪族の家」『研究紀要 第17集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2002年

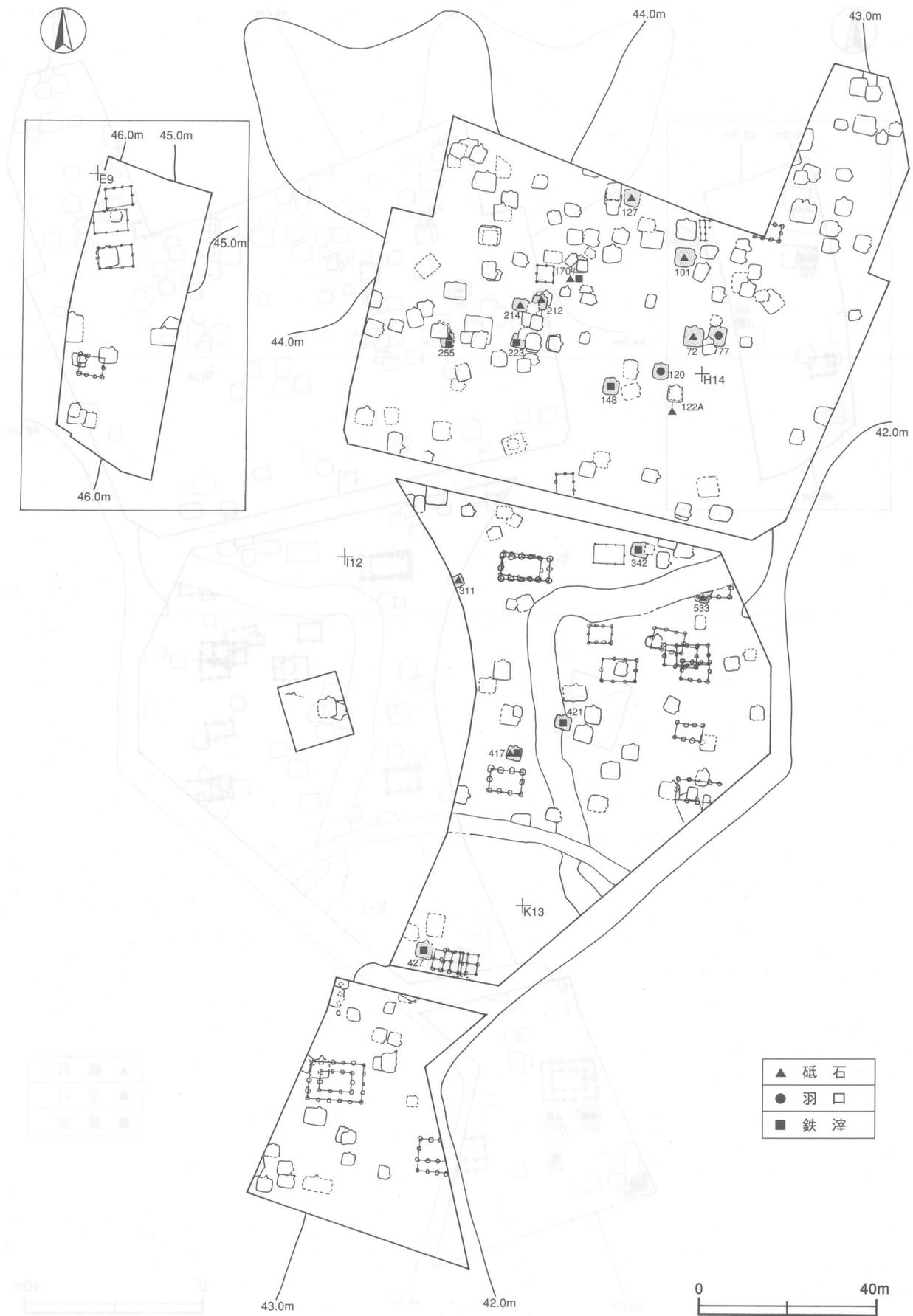
(4) 鉄製品

辰海道遺跡からは106点の金属製品が出土している。うち不明鉄製品を除くと、87点が金属製品として挙げられる。出土遺構別にみると、住居跡からの出土数が71点、住居跡外が16点である。内訳は工具類28点(刀子26・鉄鉗1, 楔1), 武器武具類21点(鏃19・小札1, 石突1), 農具類7点(鎌), 紡錘具11(紡錘車6, 棒状金具5), 装身具4(耳環), 馬具1(鐙), その他14点(釘12, 鈴1, 鏝1)である。この中でも、刀子・鏃の出土が顕著で、両者が出土鉄製品の4割を占めている。このうち、奈良・平安時代の住居跡から出土した鉄製品について述べてみたい。

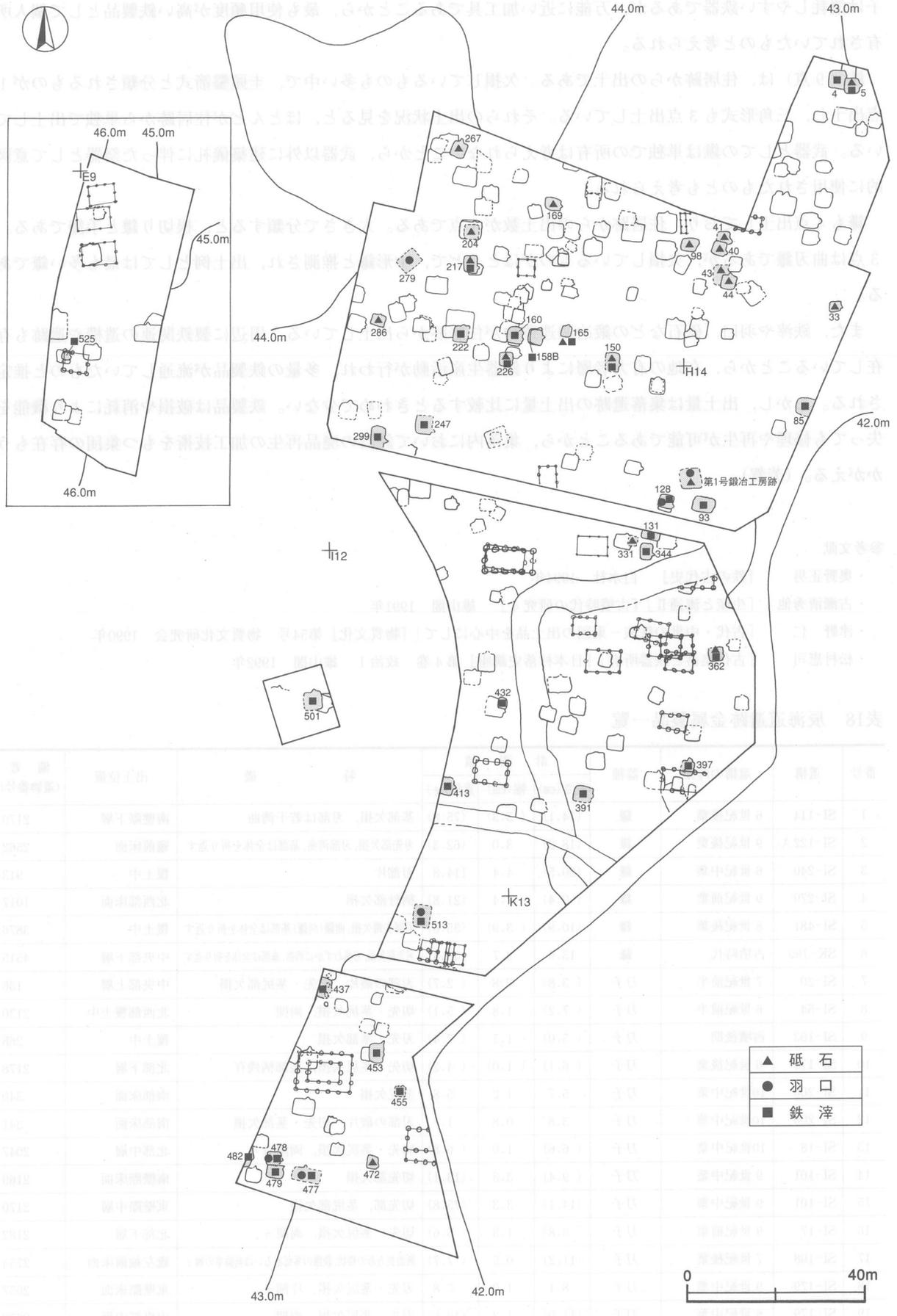
刀子(20点)は、住居跡からの出土数が18点、住居跡外が2点である。そのうち、関部が残存して、造りが判断できるものは10点である。内訳は、両関(もしくは両関と考えられるもの)6点、片関(もしくは片関と考えられるもの)3点、背関1点である。これらは、Ⅲ区北部寄りの住居跡からの出土が顕著で、複数出土した住居も確認でき、刀子を保有していた居住者層が調査区域北部へ延びるものと推測される。このことは、刀



第1032図 鉄生産関連遺物出土分布（8世紀）



第1033図 鉄生産関連遺物出土分布（9世紀）



第1034図 鉄生産関連遺物出土分布 (10世紀~11世紀)

子は消耗しやすい鉄器であるが、万能に近い加工具であることから、最も使用頻度が高い鉄製品として個人所有されていたものと考えられる。

鎌（9点）は、住居跡からの出土である。欠損しているものも多い中で、圭頭鑿箭式と分類されるものが1点出土し、三角形式も3点出土している。それらの出土状況を見ると、ほとんどが住居跡から単独で出土している。武器としての鎌は単独での所有は考えられないことから、武器以外に建築儀礼に伴った祭器として意図的に使用されたものとも考えられる。

鎌も4点出土しており、住居跡からの出土数が4点である。大ききで分類すると、根切り鎌と手鎌である。3点は曲刃鎌であるが、欠損しているものがほとんどで、中形鎌と推測され、出土例としては最も多い鎌である。

また、鉄滓や羽口、砥石などの鍛冶関連遺物が住居跡から出土している。周辺に製鉄関連の遺構や遺跡も存在していることから、在地の有力者層により鉄器生産活動が行われ、多量の鉄製品が流通していたものと推定される。しかし、出土量は集落遺跡の出土量に比較するときわめて少ない。鉄製品は破損や消耗により機能を失っても修理や再生が可能であることから、集落内において鉄器の廃品再生の加工技術をもつ集団の存在もうかがえる。（芳賀）

参考文献

- ・奥野正男 『鉄の古代史』 白水社 1994年
- ・古瀬清秀他 『生産と流通II』『古墳時代の研究4』 雄山閣 1991年
- ・津野 仁 「古代・中世の鉄族-東国の出土品を中心にして」『物質文化』第54号 物質文化研究会 1990年
- ・松村恵司 「古代集落と鉄器所有」『日本村落史講座』第4巻 政治I 雄山閣 1992年

表18 辰海道遺跡金属製品一覧

番号	遺構	遺構の時期	器種	計測値			特徴	出土位置	備考 (遺物番号)
				長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)			
1	SI-114	6世紀後葉	鎌	(14.1)	(3.3)	(75.8)	基部欠損、刃部は若干湾曲	南壁際下層	2179
2	SI-122A	9世紀後葉	鎌	(18.2)	3.0	(62.3)	刃先部欠損、刃部湾曲、基部は全体を折り返す	竈前床面	2562
3	SI-240	6世紀中葉	鎌	(20.5)	4.4	114.8	刃部片	覆土中	913
4	SI-270	9世紀前葉	鎌	(9.4)	2.4	(21.8)	柄付部欠損	北西部床面	1017
5	SI-481	8世紀後葉	鎌	(10.9)	(3.9)	(35.6)	刃部先端欠損、曲鎌(刈鎌)基部は全体を折り返す	覆土中	3876
6	SK-199	古墳時代	鎌	13.6	2.7	30.4	刃先部欠損、刃部わずかに湾曲、基部は全体を折り返す	中央部下層	4515
7	SI-20	7世紀前半	刀子	(3.8)	0.8	(2.7)	刃部の破片、切先・茎尻部欠損	中央部上層	136
8	SI-54	6世紀前半	刀子	(7.2)	1.8	(5.1)	切先・茎尻欠損、両関	北西部覆土中	2130
9	SI-103	古墳後期	刀子	(5.0)	1.5	(7.4)	刃先・茎部欠損	覆土中	268
10	SI-114	6世紀後葉	刀子	(6.1)	(1.0)	(4.2)	切先・茎尻欠損、茎部柄残存	北部下層	2178
11	SI-206	10世紀中葉	刀子	5.7	1.2	5.8	茎尻欠損	南部床面	340
12	SI-206	10世紀中葉	刀子	3.8	0.8	1.7	刃部の破片、切先・茎部欠損	南部床面	341
13	SI-18	10世紀中葉	刀子	(6.6)	1.0	(6.8)	切先・茎尻欠損、両関有り	北部中層	2047
14	SI-101	9世紀中葉	刀子	(9.4)	3.3	(13.1)	切先部欠損	南壁際床面	2169
15	SI-101	9世紀中葉	刀子	(14.1)	3.3	(75.8)	切先部、茎尻部欠損	東壁際中層	2170
16	SI-17	9世紀前葉	刀子	[6.8]	1.3	(6.6)	切先・茎尻欠損、両関カ	北部下層	2182
17	SI-108	7世紀後葉	刀子	(11.2)	0.5	(7.7)	断面長方形の棒状、鉄鎌の基部あるいは紡錘車の軸カ	竈左袖前床面	2754
18	SI-179	9世紀中葉	刀子	8.1	1.0	5.8	刃先・茎尻欠損、片関カ	東壁際床面	2657
19	SI-179	9世紀中葉	刀子	(11.0)	1.2	(10.5)	刃先・茎尻欠損、両関	中央部中層	2658

番号	遺構	遺構の時期	器種	計測値			特徴	出土位置	備考 (遺物番号)
				長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)			
20	SI-200	6世紀後葉	刀子	(3.9)	1.1	(2.8)	両関, 切先部・茎部欠損	覆土中	830
21	SI-202	9世紀後半	刀子	(8.7)	1.7	(15.9)	刃部一部欠損, 茎尻欠損, 両関カ	西壁際下層	2681
22	SI-204	9世紀後半	刀子	14.6	16.4	3.3	切先・茎尻欠損, 両関有り	覆土中	2756
23	SI-264	8世紀前葉	刀子	(5.8)	0.7	(3.7)	刃部	中央部下層	3552
24	SI-267	9世紀後葉	刀子	(6.4)	1.0	(6.7)	切先・茎尻欠損, 背関有り	覆土中	1003
25	SI-306	8世紀後葉	刀子	(10.2)	(1.3)	(11.5)	刃部, 一部欠損	中央部下層	3658
26	SI-317	9世紀前葉	刀子	(11.5)	1.1	(13.2)	刃部, 片関	西壁際床面	3677
27	SI-436	9世紀後葉	刀子	(6.5)	1.2	(6.5)	茎尻欠損	南西部覆土中	3793
28	SI-450	10世紀後半	刀子	(4.3)	1.4	(7.3)	刃部・茎尻欠損	東壁際下層	3817
29	SI-492	8世紀前葉	刀子	(6.2)	1.5	(3.9)	切先・茎尻欠損, 両関カ	北壁際上層	1272
30	SK-83	奈良・平安時代	刀子	[8.3]	1.0	(6.0)	茎部欠損, 切先残存	覆土上層	4505
31	SI-102	9世紀後半	刀子	(5.5)	1.0	(4.0)	切先・茎尻欠損, 片関	北東部覆土中	2175
32	SK-393	奈良・平安時代	刀子	(10.8)	2.3	(31.0)	刃部先端, 茎尻欠損, 両関	覆土中	4537
33	SI-18	10世紀中葉	鉄鏃	(5.2)	0.9	(7.0)	筥被部から茎部にかけての破片, 棘状関有り	北部床面	2046
34	SD-16	中世	鉄鏃	(9.8)	1.7	(27.5)	木質残存, 鏃身三角形, 茎部欠損	覆土中	4463
35	SI-32	6世紀前半	鉄鏃	(11.3)	0.6	(11.6)	鑿箭式長頸鏃カ	南東部中層	179
36	SI-21	8世紀後葉	鉄鏃	10.9	1.0	14.2	三角形鏃, 茎部一部欠損, 台状関有り	南壁際床面	2081
37	SI-49	6世紀後葉	鉄鏃	(8.8)	0.6	(11.5)	刃部片, 切先・茎部欠損	東壁際中層	203
38	SI-161	6世紀後半	鉄鏃	(4.4)	0.4	(1.3)	茎部	南部上層	678
39	SI-22	7世紀前葉	鉄鏃	(6.3)	(1.0)	(4.6)	鏃部・茎部欠損	東部下層	150
40	SI-22	7世紀前葉	鉄鏃	4.0	0.6	(2.2)	刃部片, 刃先部欠損	中央部上層	151
41	SI-77	9世紀後半	鉄鏃	(6.3)	(3.6)	(10.6)	鏃身部は雁股	竈火床部	2514
42	SI-127	9世紀後葉	鉄鏃	(5.9)	2.6	(9.2)	三角形, 腸快有り	南東壁際下層	2567
43	SI-178	10世紀前葉	鉄鏃	14.0	4.8	30.5	長三角形, 腸快有り	西壁際下層	2645
44	SI-200	6世紀後葉	鉄鏃	(13.4)	1.1	(10.8)	鏃身欠損	中央部床面	831
45	SI-219	9世紀前葉	鉄鏃	(8.7)	0.8	(7.1)	断面方形の棒状, 筥被部の破片, 棘状関有り	西部上層	2757
46	SI-234	10世紀前葉	鉄鏃	(11.9)	1.4	(13.0)	三角形, 腸快有り	南西部下層	874
47	SI-270	9世紀前葉	鉄鏃	(6.7)	0.9	(4.6)	茎部欠損, 圭頭鑿箭式	竈左袖部脇下層	1016
48	SI-310	6世紀前葉	鉄鏃	(5.3)	(1.2)	(6.6)	両関, 鏃身長2.7cm	南部覆土中	3661
49	SI-375	6世紀後葉	鉄鏃	(17.1)	0.8	(30.1)	先端は断面凸レンズ状, 下位は断面長方形	北壁際下層	1202
50	SI-386	9世紀中葉	鉄鏃	(5.4)	(2.6)	(2.1)	両関, 一部欠損, 鏃身長3.3cm	東部下層	3731
51	SI-425	6世紀後葉	鉄鏃	(5.4)	4.0	(14.7)	鏃身部は雁股式	南西部上層	1240
52	SI-6	6世紀後半	鏃	(6.1)	(5.7)	(20.0)	断面方形	北東部覆土中	108
53	SI-200	6世紀後葉	棒状金具	(15.8)	0.8	(23.3)	断面は円形	覆土中	827
54	SI-200	6世紀後葉	棒状金具	(5.2)	0.5	(3.5)	断面は円形	覆土中	828
55	SI-200	6世紀後葉	棒状金具	(4.3)	0.6	(2.8)	断面は円形	覆土中	829
56	SI-234	10世紀前葉	棒状金具	(14.5)	0.6	(13.2)	断面は方形	北東部下層	873
57	SI-234	10世紀前葉	棒状金具	(3.9)	0.3	(1.2)	断面は方形	南西部下層	875
58	SI-45	6世紀中葉	釘	10.0	0.6	19.9	脚部先端欠損, 頭部屈損	南部床面	191
59	SI-183	10世紀中葉	釘	(5.8)	0.9	(12.5)	断面四角形, 両端部欠損	北部床面	763
60	SI-270	9世紀前葉	釘	(4.2)	1.2	(8.5)	頭部は薄く叩き伸ばされ, 屈曲する	北西部床面	1018
61	SI-292	9世紀後葉	釘	(12.0)	(0.5)	(14.3)	断面四角形, 木質遺存	西部中層	3625
62	SB-16	9世紀中葉	釘	(4.9)	(0.7)	(3.2)	両側欠損, 断面方形の棒状	南部上層	3999
63	SK-724	不明	釘	(4.5)	2.2	(8.0)	脚部先端部欠損, 頭部は叩かれ潰れている	中央部底面	4552
64	SK-910	不明	釘	(5.9)	0.6	(16.0)	両端部欠損, 断面方形の棒状	覆土中	4558
65	SK-979	不明	釘	(6.7)	0.7	(15.0)	両端部欠損, 断面方形の棒状	覆土中	4561

番号	遺構	遺構の時期	器種	計測値			特徴	出土位置	備考 (遺物番号)
				長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)			
66	SK-1114	不明	釘	(6.1)	0.6	(11.7)	頭部欠損, 断面方形の棒状, 脚部上部に木質付着	東部底面	4566
67	SE-33	奈良・平安時代	釘	(4.8)	0.6	(4.7)	東部欠損, 断面方形の棒状	覆土中	3964
68	SI-114	6世紀後葉	釘カ	(5.0)	0.4	(3.5)	脚部先端欠損, 脚部は断面方形	北部中層	2180
69	SD-13	奈良・平安時代	釘カ	4.6	0.3	2.6	脚部曲, 頭部は叩かれ潰れている	中央部中層	4472
70	SI-22	7世紀前葉	耳環	1.7	0.7	5.8	表面は緑錆のため緑青色, 銅製	中央部上層	152
71	SI-31	6世紀後半	耳環	1.7	1.5	4.3	表面は緑錆のため緑青色, 銅製	東部下層	176
72	SI-19	9世紀後葉	耳環	1.7	1.6	5.3	環状, 銅芯に鍍金, 銅製	北部床面	2067
73	SI-238A	7世紀中葉	耳環	2.0	1.8	5.5	断面楕円形, 鍍金, 銅製	北西部床面	899
74	SI-19	9世紀後葉	紡錘車	5.5	5.5	32.0	紡錘欠損, 木質付着	北部下層	2068
75	SI-106	10世紀後半	紡錘車	(15.3)	3.1	(12.0)	円盤状の紡輪部, 断面方形の棒状軸	南東部下層	2537
76	SI-478	10世紀中葉	紡錘車	-	3.7	4.2	円盤状の紡輪部, 軸部の孔径は約3mm	P1覆土下層	3867
77	SK-514	不明	紡錘車	(6.2)	0.5	(3.0)	両端部欠損, 断面方形の棒状, 紡錘車の軸カ	南部上層	4542
78	SK-563	不明	紡錘車	(19.1)	0.5	(14.9)	両端部欠損, 断面方形の棒状, 紡錘車の軸カ	覆土中	4593
79	SK-563	不明	紡錘車	(14.8)	0.3	(15.1)	両端部欠損, 断面方形の棒状, 紡錘車の軸カ	覆土中	4564
80	SI-19	9世紀後葉	手鎌	10.7	2.4	15.9	一部欠損, 両側に鋌状の突出部有り	中央部床面	2069
81	SI-179	9世紀中葉	鉄鉗	20.1	2.1	69.5	断面方形で, 柄部の先端は蕨手状に屈曲する	東壁際下層	2659
82	SI-174	10世紀中葉	石突	9.6	2.4	60.4	先端は中実で, 円錐形状に尖る	中央部床面	2631
83	SI-273	7世紀前葉	小札カ	(2.1)	2.1	(2.4)	板状で, 二孔有り	覆土中	1022
84	SI-415	6世紀中葉	楔	(5.8)	1.7	(13.9)	頭部は屈曲し, 断面は長方形, 先端部欠損	東部床面	1233
85	SB-16	9世紀中葉	鈴	(3.5)	(2.7)	(11.3)	下部欠損	P1覆土中層	3998
86	SK-816	中世	古銭	2.4	0.7	3.2	皇宋通寶(北宋・1038年), 篆書体	覆土中	4601
87	SI-178	10世紀前葉	鍔	5.1	4.6	19.8	吊り手は断面方形, 脚部は弓状で, 釘が2本打たれている。	中央部中層	2646

4 中・近世

井戸跡3基, 地下式墳1基, 道路跡2条, 溝跡6条, 北部西側と西部で確認された墓壇と考えられる土坑群の約50基が属する。しかし, 堀立柱建物跡など居住のための遺構は検出されていない。これは集落変遷の第19期でも述べたように平地式建物への転換がさらに進んだためと考えられる。

土坑群は骨粉の含有や遺構の形状から墓壇と考えられ, また, 当該期に属する井戸跡, 道路跡も確認されていることから墓域となっていたものと考えられる。

出土遺物は陶器の5型式(赤羽・中野編年)の常滑の大甕片, 土師質土器の内耳鍋, 古銭の「皇宋通寶」などが出土している。しかし, 当遺跡に比定される坂戸郷が中郡庄に組み入れられた後の当該期に関連する明白な資料などは検出されていない。今後の発掘調査の成果を期待したい。(仲村)

参考文献

- ・中野晴久 「赤羽・中野 生産地における編年について」『全国シンポジウム「常滑焼をおって」資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所 1994年
- ・岩瀬町史編さん委員会 『岩瀬町史 通史編』岩瀬町 1987年

付 章

辰海道遺跡の自然科学分析.....	パリノ・サーヴェイ株式会社	1
辰海道遺跡出土鉄関連遺物の金属考古学的調査結果.....	岩手県立博物館 赤沼英男	11

辰海道遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

辰海道遺跡は、茨城県中部に広がる鶏足山塊南西部を流れる桜川の支流によって形成された段丘上に位置する。付近の地形については、飯田ほか（1994）により地形分類図が作成されている。これに従えば、付近に分布する段丘は、高位面、中位面、低位面に分類されている。本遺跡は、これらの中で桜川の支流右岸の低位面縁辺部に立地する。各地形面の形成年代については、詳細には記載されていないが、中位面は下末吉相当面と考えられていることから、遺跡の位置する低位面は、武蔵野面以下の段丘に対比されると考えられる。

今回の発掘調査では、古墳時代4世紀～7世紀頃の住居跡や濠が検出されており、当時比較的大きな集落が形成していたことが明らかになっている。

今回の自然科学分析調査では、濠の構築埋積年代を推定するためにテフラ分析、濠内の水の状況について検証するために珪藻分析、当時の植生を推定するために花粉分析・種実同定、植物利用について検討するために種実同定を行う。

1. 試料

試料は、古墳時代の濠の埋積土および濠、土坑、住居跡などから出土した種子遺体である。濠（SD1）埋積土は、Cトレンチ、Fトレンチから採取した。Cトレンチでは上位より1層～20層に分層されており、試料は5・6・8・11'・16・17・19層から各層1点、さらに層厚の比較的厚い11層からは上部・下部の2点、合計9点の土壌を採取した。Fトレンチでは、11・17層から各層1点ずつ計2点の土壌を採取した。種実同定試料は土坑から出土した炭化米が含まれるとされる土壌（SK825覆土）1点と濠、土坑、住居跡などの遺構から出土したSD1のFトレンチ出土種子3点、SK100出土種子1点、SI27出土種子1点、SI168出土種子1点、SI203出土種子1点、SI223出土種子1点の計8点である。

この中から、Cトレンチの5・6・11下部・11'・16・17・19層の7点を対象にテフラ分析、11'・17層の2点を対象に珪藻分析と花粉分析を行う。また、種実同定はFトレンチの11・17層の2点とSK825覆土1点の計3点については土壌の洗い出しを行い、含まれる種実遺体を抽出し同定する。さらに、遺構から出土した単体種子8点についても行う。

2. 分析方法

（1）テフラ分析

試料は、適量を蒸発皿に取り、泥水にした状態で超音波洗浄装置により分散、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂を実体顕微鏡下で観察、スコリア・火山ガラス・軽石の特徴や含まれる量の多少を定性的に調べる。なお、後述するように軽石の屈折率測定が必要が生じたため、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法による測定を行った。

（2）珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリユウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、

メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に100個体以上同定・計数する。種の同定は、原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer and Lange-Bertalot(1986, 1988, 1991 a, 1991 b)などを参照する。

同定結果は、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。そして、産出率1%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析は、淡水生種については安藤(1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性についてはAsai and Watanabe(1995)の環境指標種を参考とする。

(3) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛:比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

(4) 種実同定

土壌試料は、湿重秤量した後5%水酸化ナトリウム水溶液(NaOH)に一晩液浸し、試料の泥化を促す。その後、0.5mmの篩を通して水洗し残渣を集め、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実遺体等を抽出する。抽出した種実および種実単体試料は、その形態的特徴や当社所有の現生標本との比較から種類を同定した。同定後の種実遺体等は、種類毎にビンに入れ、乾燥した種実には乾燥剤を入れ、湿った種実にはホウ酸・ホウ砂水溶液による液浸保存をおこなう。

3. 結果

(1) テフラ分析

結果を表1に示す。

火山ガラスは、各試料に無色透明のバブル型火山ガラスが少量～きわめて微量認められる。この火山ガラスは、形態と色調から始良 Tn 火山灰(AT:町田・新井, 1976)に由来すると考えられる。ATは鹿児島県の始良カルデラを給源とし、降灰年代は約2.1~2.5万年前(町田・新井, 1992)と考えられている。本地域では、ATは黒ボク土層の下位の褐色火山灰土層(いわゆるローム層)中に降灰層準があるため、今回検出された火山ガラスはローム層中に含まれていたものが二次堆積したと考えられる。

軽石は、5層中に灰褐色を呈し発泡がやや不良なもの、灰白色を呈し発泡が不良なものが微量認められる。量は後者の方がやや多い。また、前者には斜方輝石の斑晶、後者には角閃石の斑晶を包有するものが認められる。これらの軽石はその特徴により前者はA. D. 1108年(天仁元年)に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B:新井, 1979)、後者は榛名火山から6世紀中葉に噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP:町田・新井, 1992)または6世紀初頭に噴出した榛名二ツ岳洪川テフラ(Hr-FA:町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。

また、6層~17層では白色~灰白色を呈し発泡は良好の軽石が中量~きわめて微量含まれる。軽石によっては斜方輝石の斑晶を包有する。この軽石はその特徴から浅間火山を給源とするテフラであると考えられる。Hr-FPの下位に認められることから、完新世の浅間火山のテフラであれば、4世紀中葉に浅間火山から噴出し

表1 テフラ分析結果

層名	スコリア	火山ガラス		軽石			備考	由来するテフラ
	量	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径		
5	-	(+)	cl・bw	+	GW・b>GBr・sb	2.0	灰褐色軽石は輝石包有、 灰白色軽石は角閃石包有	Hr-FP>As-B
6	-	(+)	cl・bw	(+)	W~GW・g	0.8	軽石は輝石包有	As-Sr?
11下	-	+	cl・bw	+	W~GW・g	1.0	軽石は輝石包有	As-Sr?
11'	-	+	cl・bw	+	W~GW・g	1.0	軽石は輝石包有	As-Sr?
16	-	++	cl・bw	++	W~GW・g	1.2	軽石は輝石包有	As-Sr?
17	-	++	cl・bw	+++	W~GW・g~sg	1.5	軽石は輝石包有	As-Sr?
19	-	++	cl・bw	(+)	W・g	3.0	軽石は角閃石包有	Ag-KP

凡例 - :含まれない, (+) :きわめて微量, + :微量, ++ :少量, +++ :中量, ++++ :多量.
 B :黒色, G :灰色, Br :褐色, GB :灰黒色, GBr :灰褐色, GW :灰白色, PGBr :淡灰褐色, R :赤色, W :白色.
 g :良好, sg :やや良好, sb :やや不良, b :不良, 最大粒径はmm.
 cl :無色透明, br :褐色, bw :バブル型, md :中間型, pm :軽石型.

た(石川ほか, 1979) 浅間C軽石(As-C:新井, 1979)に由来する可能性がある。しかし、後述するように濠内にはローム層中に堆積するAg-KPの軽石が流れ込んでいることから、この軽石もローム層中に堆積している更新世に噴出した浅間火山のテフラが流れ込んだものである可能性もある。浅間火山の更新世のテフラでも更新世末に噴出したテフラは保存状態が良い場合は、比較的新鮮であり、外見的な特徴ではAs-Cなどの軽石と良く類似している。ただし、軽石の屈折率において比較的明瞭に区別が可能である。町田・新井(1992)による記載では、完新世のテフラであるAs-CおよびAs-Dの軽石の屈折率は、 $n_{1.513} \sim 1.520$ までに及ぶが、更新世のテフラ例えば浅間板鼻黄色テフラ(As-YP)や浅間白糸テフラ(As-Sr)などでは、それぞれ $n_{1.501} \sim 1.505$, $n_{1.506} \sim 1.510$ という比較的低い値を示す。今回、17層中の軽石の屈折率を測定したところ、 $n_{1.506} \sim 1.510$ の値が得られた。このことから、17層中の軽石は、As-Srに由来する可能性がある。As-Srは、1.5~2.0万年前に現在小浅間山がある付近から噴出したテフラであるとされている。分布軸は東北東で、主に群馬県北部から栃木県西部に分布する(町田・新井, 1992)。ただし、茨城県での確認例はあまり報告されておらず、今後周辺においてAs-Srの産状を確認する必要がある。

さらに最下位の19層では白色を呈し発泡は良好の軽石がきわめて微量含まれる。軽石によっては角閃石の斑晶を包有する。この軽石はその特徴から約3.1~3.2万年前(町田・新井, 1992)に赤城火山から噴出した赤城鹿沼軽石(Ag-KP:新井, 1962)に由来する。本遺構はローム層を掘り込んで構築されており、濠の側壁にはAg-KP層が露出しているため、これが二次堆積したものと考えられる。

(2) 珪藻分析

結果を表2・図1に示す。珪藻化石はいずれの試料からも100個体以上産出する。産出分類群数は、18属64種、完形殻の産出率は約70~80%である。珪藻化石群集の特徴を以下に述べる。

17層は、陸生珪藻が全体の約70%を占めることが特徴である。中でも、陸生珪藻A群(伊藤・堀内, 1991)の*Hantzschia amphioxys*, *Navicula mutica*などが約20~25%産出する。その他には、流水不定性種(止水域にも流水域にも生育する種)・沼沢湿地付着性種(安藤, 1990)の*Cymbella naviculiformis*、好止水性種の*Neidium ampliatum*などの水生珪藻が若干産出する。なお、陸生珪藻とは、多少の湿り気のある乾いた環境に生育する珪藻であり、中でも、乾燥に耐性のある種がA群とされる。

表 2 珪藻分析結果

種 類	生態性			環境 指標種	Cトレンチ	
	塩分	pH	流水		11'	17
Nitzschia palea (Kuetz.)W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	1	-
Rhopalodia gibberula (Ehr.)O.Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		9	-
Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	-	1
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	-
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	1
Caloneis angustivalva Petit	Ogh-unk	unk	unk	RI	1	-
Cymbella amphioxys (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		-	2
Cymbella delicatula Kuetzing	Ogh-ind	al-il	unk	T	-	1
Cymbella gracilis (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	ind	l-ph	T	2	-
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	3
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	1	1
Cymbella subaequalis Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, T	-	1
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		2	-
Eunotia arcus Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph		2	-
Eunotia bilunaris (Ehr.)Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		13	2
Eunotia fallax A.Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	1	-
Eunotia fallax var. gracillima Krasske	Ogh-hob	ac-il	ind	RA	4	-
Eunotia flexuosa (Breb.)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	2	-
Eunotia implicata Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind	O	8	-
Eunotia monodon var. tropica Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	3	-
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	30	1
Eunotia pectinalis var. undulata (Ralfs)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	5	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		3	-
Fragilaria capucina var. gracilis (Oestr.)Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	1
Frustulia rhomboides var. saxonica (Rabh.)De Toni	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	1
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	4	3
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	9	1
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	21	3
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	7	33
Navicula bryophila Boye-Petersen	Ogh-ind	al-il	ind	RI	1	-
Navicula contenta Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	2	1
Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	9	1
Navicula hambergii Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI	1	-
Navicula ignota Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1
Navicula ignota var. palustris (Hust.)Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	3
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	2	26
Navicula nymphaeum Hustedt	Ogh-unk	unk	unk		1	-
Navicula placenta Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	RI	1	-
Neidium alpinum Hustedt	Ogh-unk	unk	ind	RA	4	-
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		4	2
Neidium bisulcatum (Lagerst.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	3	-
Neidium dubium (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind		1	-
Neidium iridis (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	1	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	2	-
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB, U	-	3
Pinnularia appendiculata (Ag.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	RB	1	-
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	1	10
Pinnularia gibba var. dissimilis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind		1	-
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	1
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	3	-
Pinnularia neomajor Krammer	Ogh-ind	ac-il	l-bi		1	1
Pinnularia obscura Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	2	-
Pinnularia schoenfelderi Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	4	4
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph		1	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	17	-
Pinnularia substomatophora Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	-
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	4	-
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		2	-
Sellaphora laevis (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind	ind		1	-
Sellaphora pupula (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	3	-
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	2
Stauroneis anceps var. siberica Grunow	Ogh-ind	ind	ind		-	1
Stauroneis obtusa Lagerstedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	5
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	-
Tabellaria fenestrata (Lyngb.)Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O, T	2	-
Tabellaria flocculosa (Roth)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	1
海水生種合計					0	0
海水～汽水生種合計					0	0
汽水生種合計					0	0
淡水～汽水生種合計					10	0
淡水生種合計					196	117
珪藻化石総数					206	117

凡例 H.R. : 塩分濃度に対する適応性 pH : 水素イオン濃度に対する適応性 C.R. : 流水に対する適応性
 Ogh-Meh : 淡水-汽水生種 al-bi : 真アルカリ性種 l-bi : 真正水性種
 Ogh-ind : 貧塩不定性種 al-il : 好アルカリ性種 l-ph : 好止水性種
 Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種 ind : pH 不定性種 ind : 流水不定性種
 Ogh-unk : 貧塩不明種 ac-il : 好酸性種 r-ph : 好流水性種
 unk : pH 不明種 ac-bi : 真酸性種 unk : 流水不明種

環境指標種群 K : 中～下流性河川指標種, O : 沼沢湿地付着生種 (以上は安藤, 1990)
 S : 好汚濁性種, U : 広域適応性種, T : 好清水性種 (以上は Asai, K. & Watanabe, T., 1986)
 R : 陸生珪藻 (RA : A群, RB : B群, RI 群、伊藤・堀内, 1991)

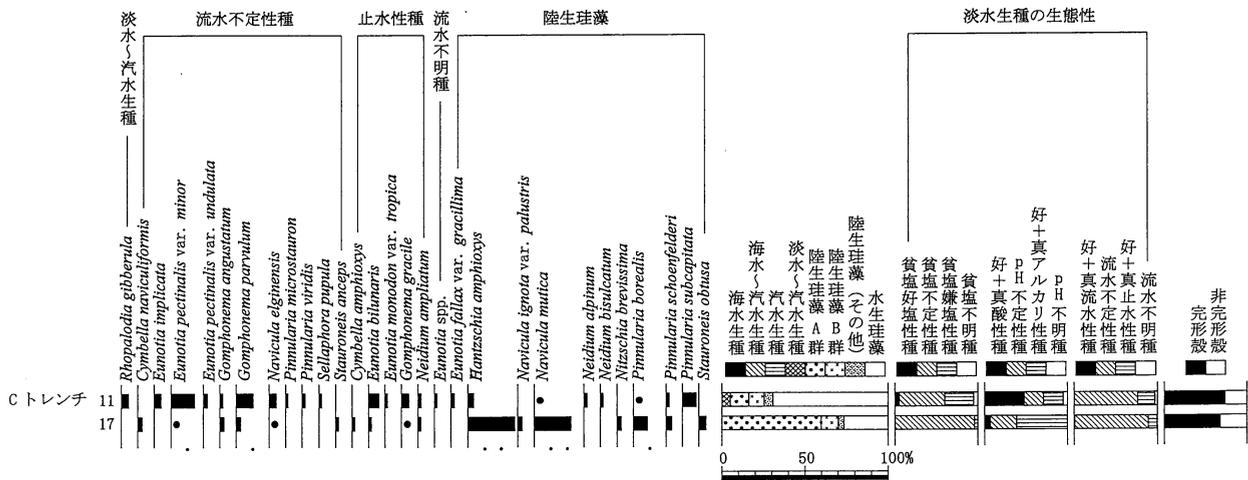


図1 主要珪藻化石群集の層位分析

汽水-淡水生種算出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の比率は淡水生種の合計を基本数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満の試料について検出した種類を示す。

11'層は、pH 適応性に関しては好酸性種が約50%を占める。流水に関する適応性に関しては流水不定性種、止水性種、陸生珪藻など様々な生態性の種が低率で産出する。また、*Eunotia implicata*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Eunotia pectinalis* var. *undulata* などの沼沢湿地付着性種が10%前後産出する。なお、沼沢湿地付着性種とは、沼よりも浅く水深が1m前後で、一面に水生植物が繁茂するような沼沢やさらに水深の浅い湿地に生育する種とされる。

(3) 花粉分析

結果を表3に示す。いずれの試料においても検出される花粉化石数は少なく、定量分析を行うだけの個体数は得られなかった。また、わずかに検出された花粉化石の保存状態は悪く、そのほとんどが、花粉外膜が壊れている状態で産出した。プレパラート内の状況写真を図版に示す。

(4) 種実同定

結果を表4・5に示す。モモ、イネ、カヤツリグサ科、タケニグサの種実が同定された。炭化米が含まれるとされるSK825覆土にはイネの種実が1ヶ認められたのみである。その他に、塊茎（地中において不定形に肥大した地下茎。おそらく後代のものと思われる）、炭化材、不明炭化物（木材の組織を持たない部位・種類不明の炭化物）、不明植物、土器の破片などが検出された。以下に、同定された種実遺体の形態的特徴などを記す。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

炭化した核（内果皮）の完形・半分・破片が検出された。黒色、広楕円形でやや扁平。長さ16mm、幅12mm、厚さ10.5mm程度と、小型で丸みを帯びた個体が多い。基部は丸く大きな臍点があり、先端部はやや尖る。一方の側面にのみ縫合線が顕著に見られ、縫合線に沿って半分に割れやすい。また、縫合線状には、齧歯類（ネズミなど）による食害痕と考えられる欠損部を持つ個体がみられた。内果皮は厚く硬く、外側表面は縦に流れる不規則な線状のくぼみがあり、全体として粗いしわ状に見える。

表3 花粉分析結果

種類	Cトレンチ	
	試料番号	11'層 17層
木本花粉		
モミ属	-	1
スギ属	1	-
トチノキ属	-	1
草本花粉		
イネ科	-	5
シソ科	-	1
ヨモギ属	-	1
キク亜科	-	2
不明花粉	2	6
シダ類胞子		
シダ類胞子	9	3
合計		
木本花粉	1	2
草本花粉	0	9
不明花粉	2	6
シダ類胞子	9	3
総計(不明を除く)	10	14

表4 種実同定結果 (単体)

遺構	地点		同定結果	状態	備考
SD 1	南端部 (Fトレ南) 覆土下層		種	不明(塊茎?)	
SD 1	Fトレンチ X-2		種子	塊茎	
SD 1	Hトレンチ X-2		種子	モモ	半分
SK100	X-1		はすの実	塊茎	
SI27	No. 2		種子	モモ	完形 食害痕あり
SI168	X		種子	モモ	破片
SI203	X-2 2区		種	モモ	完形
SI223	3区 X-1			モモ	完形 食害痕あり

表5 種実同定結果 (洗い出し)

遺構	地点		湿重(g)	イネ	カヤツリグサ科	タケニグサ	不明種実	炭化材	不明炭化物	土器
SD 1	Fトレンチ	11層	304.2	-	1	-	破	破	-	破
SD 1	Fトレンチ	17層	301.9	-	-	-	破	破	-	-
SK825	覆土		72.5	1	-	1	-	破	1	-

注) 破: 細片のため個体数推定が困難である

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。黒色。長楕円形でやや偏平。長さ4mm、幅2.5mm程度。一端に胚が脱落した凹部がある。表面は発泡しており、両面には2~3本の縦溝がある。

・カヤツリグサ科 (Cyperaceae)

果実が検出された。黒褐色、狭倒卵形状のやや明瞭~明瞭な三稜形。先端部は尖り、基部は切形。長さ1.3mm、幅0.5mm程度。果皮は硬く、表面にはごく微小な疣状突起が密布する。カヤツリグサ属 (*Cyperus*) の類と考えられる。

・タケニグサ (*Macleaya coedata* (Willd.) R. Br.) ケシ科タケニグサ属

種子が検出された。淡黄色、狭倒卵形体で基部は尖る。長さ1.5mm、径1mm程度。種子表面は、横長楕円形の深い凹みが縦列し網目模様を成す。

4. 考察

(1) 濠の年代について

今回の分析結果から、最下層の19層中にはAg-KPの流れ込みが認められ、そのすぐ上位の17層にはAs-Srの可能性のある軽石が多く認められた。また、その上位の16層から6層までAs-Srの可能性のある軽石が拡散している。この状況は、濠周囲のローム層上部から黒ボク土層下部付近の土層が継続して流れ込んだ状況を示唆している。この流れ込みの土層中には6世紀の榛名火山のテフラに由来する軽石は混在せず、上位の5層においてHr-FPあるいはHr-FAが検出されることから、濠の構築は6世紀以前であったことは確実で、6世紀以前にすでに濠の埋積はかなり進行していたと考えられる。後述のように、6世紀初頭から中葉頃には濠の掘り込みは残っていたが、空堀のような状態だったかもしれない。また、As-Bが検出されたことにより、As-Cについても本遺跡付近まで降灰が及んでいる可能性がある。この場合、濠の覆土内からAs-Cの軽石が全く検出されないことは、As-C降灰時には濠はなかったすなわちAs-C降灰後に濠は構築されたことを示唆

するとも考えることができる。しかし、周囲からの流れ込みと考えられる覆土中にも、現時点ではAs-Cの軽石は確認できていないことから、本遺跡および周辺地域における自然堆積層中のAs-Cの産状を確認した上で、濠の構築年代とAs-C降灰との前後関係をさらに検討する必要がある。これらの推定は、本遺跡における遺構の変遷や集落の形成とも概ね一致する。

(2) 濠の堆積環境

濠のCトレンチ埋積物は、テフラ分析の結果から、19層および17層は主に濠の周囲の表層土が流れ込んで形成されたと考えられる。珪藻分析の結果では、17層は陸生珪藻が多産し、水生珪藻が若干産出する。この結果も、17層が濠の周囲の表層土からの流れ込みにより形成されたものであることを示唆している。したがって、産出した水生珪藻の種類なども考慮すると、濠内の水量は少なく水の流れはほとんどない後背湿地的な環境下で、周囲の表層からの流れ込みの多い堆積環境であったと考えられる。

11'層で産出する珪藻化石は、流水性種の産出率が低く、沼沢湿地付着性種が数種類産出する。よって、11'層を構成する土壌も、後背湿地的な環境下で形成された堆積物に由来する可能性がある。また、周囲からローム層や黒ボク土層も引き続き流れ込んでいたと考えられる。11・8層についても、層相およびテフラの混入状況により、11'層と概ね類似した堆積物で構成されていると思われる。以上のことから、16層～8層は周辺を流れる河川や地下水の影響で湿潤な環境となっていたと思われる。

一方、6層以上では、層相により遺構周囲の黒ボク土の流れ込みが下位よりもさらに多くなる。したがって、濠内は下位よりも乾いた状態になったことが考えられる。

今後は、濠埋積物と遺構外の自然堆積層との比較検討を行うことなどにより、より詳細な濠の堆積環境の推定が可能になるとと思われる。

(3) 濠周辺の古環境と植物利用

濠のCトレンチ埋積物から採取された試料(11'・17層)からは花粉化石はほとんど検出されず、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。花粉化石・シダ類胞子の産出状況が悪い場合、元々取り込まれる花粉量が少なかった、あるいは、取り込まれた花粉が消失した、という2つの可能性があげられる。今回の場合、粒径的に同等の挙動を示す珪藻化石が産出していることから、取り込まれる花粉量が少なかったとは考えがたい。よって、今回花粉が検出されなかった理由としては、堆積時に取り込まれた花粉・シダ類胞子が、その後の経年変化により分解・消失したためと考えられる。

一方、Fトレンチ埋積物(11・17層)とSK825覆土からは、種実遺体が抽出された。また、発掘調査時にFトレンチ南端部・Fトレンチ(X-2)・Hトレンチ(X-2)・SK100(X-1)・SI27(No.2)・SI168(X)・SI203(X-2)・SI223(X-1)においても種実遺体が確認されている。

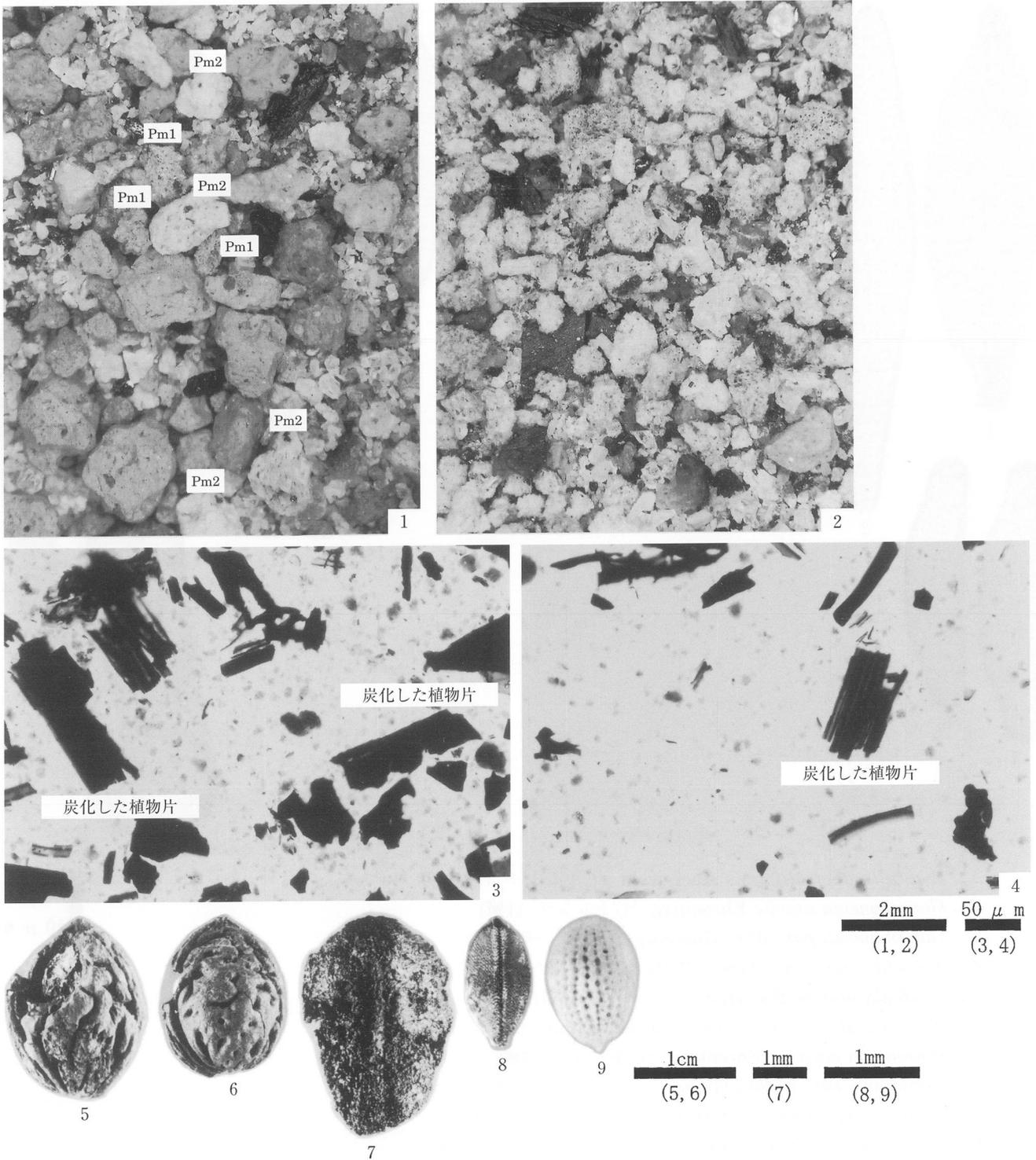
これらの種実遺体のうち、モモ、イネは栽培のために大陸から渡来した種類とされている。これらの栽培植物が完全に炭化した状態で遺構から検出されたことを考慮すると、当時の生活残渣が破棄されたり、あるいは祭祀的なものとして埋められたなど、人為的行為により遺構にもたらされた可能性が高い。モモは食用、観賞用、薬用等に広く利用され、弥生～古墳時代以降の遺跡で多数の報告例がある(南木, 1991、粉川, 1988など)。また、核が小型で丸いものは古い形質を表し、新しいものほど扁平になるとされていた(堀田, 1980など)。しかし、出土例が増えるにしたがって、弥生時代以前の遺跡からも大型で扁平な核が検出されるなど、核の形態に関する時代変遷は混沌としてきたことが指摘されている(南木, 1991)。一方、金原ほか(1992)によると、布留遺跡出土のモモ核を検討した結果、古墳時代～奈良時代には上記のような形質が存在するとされている。辰海道遺跡出土のモモは、先端が丸く小型で丸い形質のものが多く、金原ほか(1992)と調和的である。

また、カヤツリグサ科の一部、タケニグサなどは、開けた明るい草地に生育する、いわゆる「人里植物」であることから、遺跡周辺の開けた明るい場所に生育していたものに由来すると思われる。なお、これらの種実には炭化が認められず、検出個体数も少ないことから、当該期より後代のものが混入した可能性が否定できない。よって、当該期の古植生を反映していない可能性がある。

引用文献

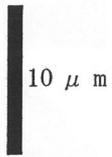
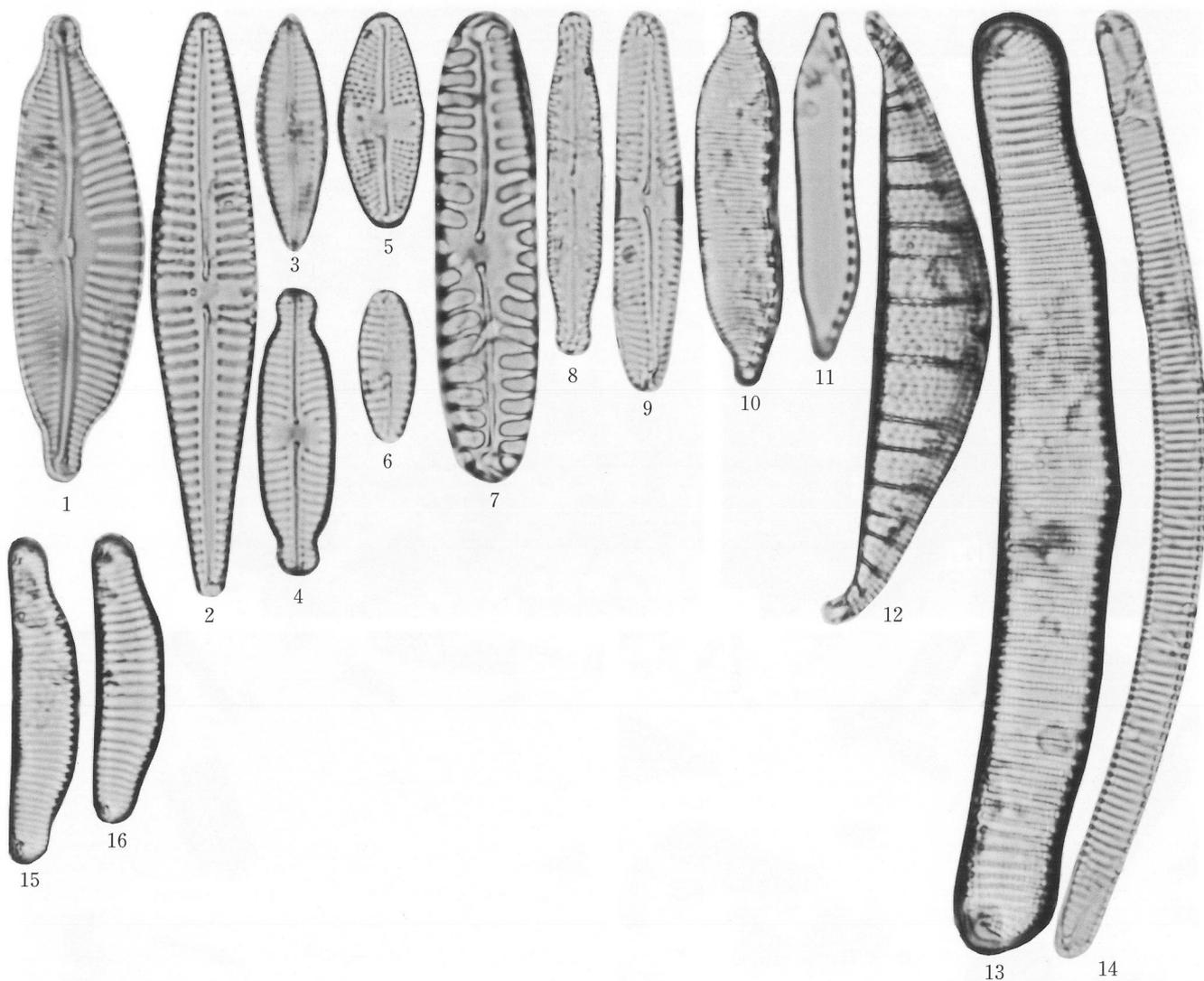
- 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, p.73-88.
- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, 4, p.1-79.
- 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, 179, p.41-52.
- Asai, K. and Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p.35-47.
- 古澤 明 (1995) 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別. 地質学雑誌, 101, p.123-133.
- 原口和夫・三友 清・小林 弘 (1998) 埼玉の藻類 珪藻類. 「埼玉県植物誌」, p.527-600., 埼玉県教育委員会.
- 堀田 満 (1980) モモ. 「植物の生活誌」, p.137-140, 平凡社.
- 飯田貞夫・志村 聡・狩野 徹・青木 孝 (1994) 茨城県岩瀬付近の地形と地下水. 日本地理学会予稿集46, p.142-143.
- 石川正之助・井上唯雄・梅沢重昭・松本浩一 (1979) 火山堆積物と遺跡 I. 考古学ジャーナル, 157, p.3-40.
- 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p.23-45.
- 金原正明・粉川昭平・太田三喜 (1992) モモ核を中心とする古代有用植物の変遷. 日本文化財科学会第9回大会研究発表要旨集, p.76-77.
- 粉川昭平 (1988) 穀物以外の植物食. 「弥生文化の研究 2 生業」, 金関 恕・佐原 真編, p.112-115., 雄山閣.
- 小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, p.1-20.
- Krammer, K. (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA, BAND 26, p.1-353., BERLIN·STUTTGART.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986) Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1988) Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536 p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991a) Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230 p., Gustav Fischer Verlag.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰 - 始良 Tn 火山灰の発見とその意義 -. 科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 276 p., 東京大学出版会.
- 南木陸彦 (1991) 栽培植物. 「古墳時代の研究 生産と流通」, 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編, p.165-174, 雄山閣.

図版1 テフラ・花粉分析プレパラート内の状況・種実遺体



1. As-B・Hr-FPの軽石 (Cトレンチ 5層) Pm1 : As-B. Pm2 : Hr-FP.
2. As-Cの軽石 (Cトレンチ 17層)
3. 花粉分析プレパラート内の状況写真 (Cトレンチ 17層)
4. 花粉分析プレパラート内の状況写真 (Cトレンチ 11'層)
5. モモ (SI203 X-2 2区)
6. モモ (SI27 No. 2)
7. イネ (SK825 覆土)
8. カヤツリグサ科 (Fトレンチ 11層)
9. タケニグサ (SK825 覆土)

図版 2 珪藻化石



1. *Cymbella naviculiformis* Auerswald (Cトレンチ 17層)
2. *Gomphonema gracile* Ehrenberg (Cトレンチ 11層)
3. *Gomphonema parvulum* Kuetzing (Cトレンチ 11層)
4. *Navicula elginensis* (Greg.) Ralfs (Cトレンチ 11層)
5. *Navicula mutica* Kuetzing (Cトレンチ 17層)
6. *Navicula ignota* var. *palustris* (Hust.) Lund (Cトレンチ 17層)
7. *Pinnularia borealis* Ehrenberg (Cトレンチ 17層)
8. *Pinnularia subcapitata* Gregory (Cトレンチ 11層)
9. *Pinnularia schoenfelderi* Krammer (Cトレンチ 17層)
10. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (Cトレンチ 11層)
11. *Nitzschia brevissima* Grunow (Cトレンチ 17層)
12. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) O.Muller (Cトレンチ 11層)
13. *Eunotia pectinalis* var. *undulata* (Ralfs) Rabenhorst (Cトレンチ 11層)
14. *Eunotia bilunaris* (Ehr.) Mills (Cトレンチ 11層)
15. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst (Cトレンチ 11層)
16. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst (Cトレンチ 11層)

掲載不可

茨城県教育財団文化財調査報告第222集

辰海道遺跡 1

(第3分冊)

平成16(2004)年3月24日印刷

平成16(2004)年3月26日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (有)川田プリント
〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53
TEL 029-253-5551